

# 三井化学クロップ&ライフソリューション株式会社 製品要覧 2024 目次

○薬剤名をクリックすると、その項目・薬剤の解説ページにジャンプします。

○薬剤ページのページ番号をクリックすると目次ページにジャンプします。

## 三井化学クロップ&ライフソリューション製品要覧について

- (1) 掲載品目の掲載順序、目次および索引
- (2) 記載事項の見方
- (3) 法律に基づく農薬の情報提供について

<b>殺虫剤</b>	スタークルメイト液剤10
MIC アディオン乳剤	スラゴ
アトラクトン箱粒剤	トルネードエースDF
アニキ乳剤	トレボンEW
三井東圧アルバリン顆粒水溶剤	トレボンMC
三井東圧アルバリン粉剤DL	トレボンエアー
三井東圧アルバリン粒剤	トレボンスカイMC
エミリアフロアブル	トレボンスターフロアブル
キックオフ顆粒水和剤	トレボンスター粉剤DL
コロマイト水和剤	トレボン乳剤
コロマイト乳剤	トレボン粉剤DL
サブリーナフロアブル	トレボン粒剤
サムコルフロアブル10	なげこみトレボン
スクミンベイト3	バイデート™L粒剤
スタークル顆粒水溶剤(JA)	明治ファインセーブフロアブル
スタークルメイト1キロH粒剤	フェルテラスタークル箱粒剤CU

M I C フェルテラチェス箱粒剤

ブロフレア S C

M I C ベネビア O D

マイトクリーン

ミルベノック乳剤

ランネート™ 4 5 D F

ランネート™ 微粒剤 F

リディア N T 箱粒剤

リディア箱粒剤

### 殺菌剤

アグレプト液剤

アグレプト水和剤

アフエットフロアブル

オリゼメート 1 キロ粒剤

オリゼメート 顆粒水和剤

オリゼメート 粒剤

オリゼメート 粒剤 2 0

カッパーシン水和剤

キャプレート水和剤

コサイド 3 0 0 0

サンブラス 1 キロ粒剤

サンブラスパック

サンブラス粒剤

サンブラス粒剤 1 8

サンリット水和剤

シングルキック箱粒剤

タチガレエース M 液剤

タチガレエース M 粉剤

タチガレファイト液剤

タチガレン液剤

タチガレン粉剤

チオノックフロアブル

テーク水和剤

テプロスフロアブル

M I C 銅ストマイ水和剤

D r . オリゼ箱粒剤

トライフロアブル

ネビジン粉剤

ネビリュウ

ハーモメイト水溶剤

ファーストオリゼ箱粒剤

フルーツガード W D G

フルーツセイバー

ベジセイバー

M I C ベフラン液剤 2 5

ベルコート水和剤

ベルコートフロアブル

M I C ペンコゼブ水和剤

M I C ペンコゼブフロアブル

M I C マテリーナ水和剤

モンガリット 1 キロ粒剤



モンガリット粒剤

D r. オリゼスタークル箱粒剤O S

モンセレンフロアブル

D r. オリゼフェルテラグレータム粒剤

D r. オリゼフェルテラ粒剤

### 土壌消毒剤

D r. オリゼプリンズスピノ粒剤6

三井東圧クロールピクリン

D r. オリゼプリンズ粒剤1 0

クロピクテープ

D r. オリゼリディア箱粒剤

三井ソイリーン(JA)

トライトラムフロアブル

ドロクロール

M I Cトライトレボン粉剤D L

トライトレボン粉剤D L

### 殺虫殺菌剤

トリプルキック箱粒剤

オリゼメートリディア箱粒剤

M I Cビルダーフェルテラスタークル箱粒剤

ガッツスター粒剤

ビルダーフェルテラチェスG T粒剤

コラトップトレボン 粒剤

ビルダーフェルテラチェス粒剤

コラトップスタークル1キロ粒剤

ビルダープリンズグレータム粒剤

サンエース箱粒剤

ビルダープリンズ粒剤

サンスパイク箱粒剤

ビルダーリディア箱粒剤

サントリプル箱粒剤

ファーストオリゼフェルテラ粒剤

サンフェスタ箱粒剤(JA)

ファーストオリゼプリンズスピノ粒剤6

C s. オリゼリディアE V箱粒剤

ファーストオリゼプリンズ粒剤1 0

C s. オリゼリディア箱粒剤

ファーストオリゼリディア粒剤

G Pオリゼリディア箱粒剤

リディアE V箱粒剤

側条オリゼメートフェルテラ顆粒水和剤

側条オリゼメートリディア顆粒水和剤

### 除草剤

ツインキック箱粒剤

アールタイプ1キロ粒剤

D r. オリゼアドマイヤー箱粒剤

アールタイプジャンボ

D r. オリゼスタークル箱粒剤

アールタイプフロアブル

アトカラSジャンボMX	クサクリーン液剤
アルファープロ1キロ粒剤51	クサトッタ1キロ粒剤(JA)
アルファープロ1キロ粒剤75	クサトッタ粒剤(JA)
アルファープロHジャンボ	クサトリーBSXジャンボL
アルファープロHフロアブル	クサトリーDXジャンボL
アルファープロH豆つぶ250	MICクサトリーDXジャンボL
アルファープロLフロアブル	クサトリエースLジャンボ
イネキング1キロ粒剤	クサトリエース粒剤17
イネキングジャンボ	クサバルカンジャンボ(JA)
イネキングフロアブル	クサホープD粒剤
ウリホス粒剤10	グランクロスSジャンボ
ウルティモZ1キロ粒剤	グランクロスZ1キロ粒剤
ウルティモZ350FG	ザークD1キロ粒剤51
ウルティモZジャンボ	ザークD粒剤17
ウルティモZフロアブル	ザーク粒剤25
オシオキMX1キロ粒剤	MICザーベックスDX1キロ粒剤
キクンジャーZ1キロ粒剤	MICザーベックスSM粒剤
キクンジャーZジャンボ	ザクサ液剤
キクンジャーZフロアブル	シアゲMF1キロ粒剤
クサウェポン1キロ粒剤	ジェイソウル1キロ粒剤
クサウェポン400FG	ジェイソウルジャンボ
クサウェポンジャンボ	ジェイソウルフロアブル
クサウェポンフロアブル	ジカマック500グラム粒剤
クサオウジ1キロ粒剤75(JA)	ジャスタ1キロ粒剤
クサオウジHジャンボ(JA)	ジャスタ400FG
草枯らしMIC	ジャスタジャンボ

ジャスタフロアブル

シュナイデン 1 キロ粒剤(JA)

シュナイデンジャンボ(JA)

シュナイデンフロアブル(JA)

M I Cシロノック L ジャンボ

シング乳剤

M I Cスラッシャ 1 キロ粒剤

M I Cスラッシャ粒剤

セカンドショット S ジャンボMX (JA)

ソニックブーム S ジャンボ

ソニックブーム Z 1 キロ粒剤

トドメMF 1 キロ粒剤

トドメMF 乳剤

トドメバスMF 液剤

ナイスショットジャンボ(JA)

バイスコープ 1 キロ粒剤

フォローアップ 1 キロ粒剤(JA)

ベアス 1 キロ粒剤

ベアスフロアブル

ベクサー 1 キロ粒剤(JA)

ベクサーフロアブル(JA)

ルナクロス 1 キロ粒剤

ワイドアタック™ S C (JA)

### 植調剤

カヤクカルパー粉粒剤 1 6

MIC ジベレリン液剤

MIC ジベレリン粉末

ジャスモメート液剤

### 展着剤

グラミン

グラミン S

農薬の使用にあたって

農薬は正しく使いましょう

農薬のラベルにおける注意喚起マーク

農薬の安全使用について

農薬全般に関する相談室のご案内

中毒の緊急問い合わせ

## 三井化学クロップ&ライフソリューション製品要覧について

この要覧は、三井化学クロップ&ライフソリューション株式会社が市販している農薬について、その概要を記載しています。

記載内容は令和5年10月1日現在のものを基準としています。登録を含む記載内容が変更になっている場合もありますので、購入・使用される際には必ずラベルをよく読み確認してください。農薬取締法及び関連法案を遵守し、適切な取り扱いをしてください。なお、品質保証期間を示す最終有効年月は製品に記載されています。

また、弊社ホームページでも製品情報を記載しておりますので、更新情報をご覧になりたい方はそちらの方もご利用ください。弊社ホームページのアドレスは下記の通りです。

<https://www.mc-croplifesolutions.com/>

**(1) 掲載品目の掲載順序、目次および索引**

○掲載品目は殺虫剤、殺菌剤、土壌消毒剤、殺虫殺菌剤、除草剤、植調剤、展着剤の順に掲載しました。

○掲載品目を50音順に配列しました。

## (2) 記載事項の見方

タイトル部分は以下に準じて記載しています。

農林水産省登録第〇〇〇〇号

商品名

**殺菌剤** **ネビジン®粉剤**

第 18210号

**特長** ●幅広いあぶらな科作物の根こぶ病に安定した効果を示します。  
●通年の連用により、効果がより一層安定します。

<b>有効成分</b>	フルスルファミド	0.3%
<b>性状</b>	淡黄色粉末	45 μm 以下
<b>毒性</b>	普通物 <sup>※</sup>	
<b>危険物</b>	-	
<b>有効年限</b>	5年	
<b>包装</b>	3kg×8、10kg×1	

ネビジンは三井化学アグロ(株)の登録商標です。

**毒劇物分類**

危険物分類：  
消防法に定める危険物  
例 —：該当せず  
例 2石-Ⅲ：第4類第2石油類・危険物等級Ⅲ

PRTR：化学物質排出把握管理促進法  
1種：第1種指定化学物質の略

- 1) 毒性：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に定める分類  
毒物及び劇物指定令による  
毒物：医薬用外毒物、劇物：医薬用外劇物  
普通物：「毒物及び劇物取締法」に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す
- 2) 危険物：消防法に定める分類  
記載例  
2石-Ⅲ：第4類第2石油類・危険物等級Ⅲ
- (3) 使用時期・使用回数  
農薬残留基準、農薬登録保留基準および使用適期に基づき使用時期、使用回数  
定められています。
- (4) 取扱品目記号について  
系統のみの取扱品目にはJA と表示してあります。

### **(3) 法律に基づく農薬の情報提供について**

「毒物及び劇物取締法」（以下、毒劇法）に基づき、毒物劇物営業者が毒物及び劇物を販売又は授与する際に、譲受人に対し「性状及び取扱いに関する情報」（以下、SDS）を提供することが義務づけられました。

また、「特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律」（以下、PRTR法）に基づき、PRTR法対象化合物を含有する製品を他の事業者の販売又は授与する際に、「性状及び取扱いに関する情報」（以下、SDS）を提供することが義務づけられました。

これらのことから、毒劇法及びPRTR法に基づくSDSの提供が必要な弊社販売農薬に関しましては、本書「三井化学クロップ&ライフソリューション製品要覧」の各農薬の掲載頁にSDSの必要事項を記載しておりますので、ご一読願います。

なお、紙面の都合もあり、「取扱い及び保管上の注意」、「漏出時の措置」、「廃棄上の注意」、「輸送上の注意」及び「火災時の措置」につきましては、本書の「**農薬の安全使用について**」を参照願います。

登録番号 第 22431 号

MIC アディオン<sup>®</sup>乳剤

- 特長：
- 各種野菜類や果樹等の幅広い作物に使用して、カメムシ・アブラムシ・シクイムシ・ハマキムシ等に幅広い殺虫活性を示す合成ピレスロイド系殺虫剤です。
  - 速効的ノックダウン効果を示します。
  - 優れた残効性と特異な忌避作用を示します。

アディオンは住友化学(株)の登録商標です。

有効成分	ペルメトリン (化管法第1種)・・・20.0%	包装	500ml×20
その他化管法該当成分	キシレン (化管法第1種)・・・36% エチルベンゼン (化管法第1種)・・・36%		
性状	淡黄色澄明可乳化油状液体	有効年限	4年
毒性	普通物 <sup>*</sup>	危険物	2 石-III (指定数量 1000L (非水溶性) )

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用害虫及び使用方法】

2023年6月7日付内容

作物名	適用病虫害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ペルメトリンを含む農薬の総使用回数
なし	アブラムシ類 シクイムシ類	2000～3000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
	ハマキムシ類 カメムシ類	2000倍					
もも	カメムシ類	2000倍	200～700 L/10a	収穫7日前まで	6回以内	散布	6回以内
	シクイムシ類 アブラムシ類	2000～3000倍					
	モモハゲリガ	2000～4000倍					
	ハマキムシ類	3000倍					
初刈	カメムシ類	2000倍	200～700 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
	シクイムシ類 アブラムシ類	2000～3000倍					
	モモハゲリガ	2000～4000倍					
うめ	アブラムシ類	3000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
かき	カキハムシガ チャキイロアザミマ カメムシ類	2000～3000倍	200～700 L/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内
	カキタアザミマ	2000倍					



作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ペルメトリンを含む農薬の総使用回数
イチゴ	キイロマイカ	2000～3000倍	200～700 L/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内
	カミシ類	2000倍					
くり	クワバチ	1000～2000倍	200～700 L/10a	羽化脱出期 但し収穫 14日前まで	5回以内	散布	5回以内
	クワゾウムシ	2000倍		収穫14日前まで			
かんきつ	ミハメグサ アブラムシ類	2000～4000倍	200～700 L/10a	収穫14日前まで	6回以内	散布	6回以内
	チャノキアザミウマ	2000～3000倍					
	カミシ類	2000倍					
いちじく	アザミウマ類 アブラムシ類	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
	イチジクトリモチ	3000倍					
はまなす(果実)	シクムシ類	2000倍	200～700 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
さるなし	キイロマイカ	2000倍	200～700 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
アネゴ	シクムシ類	3000倍	200～700 L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
ハスカップ	ハマキムシ類 アブラムシ類	2000～3000倍	200～700 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内
とうもろこし	アヲメカ	2000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	4回以内	散布	4回以内
	アブラムシ類	3000倍					
きゅうり	ハシロコジラミ アブラムシ類 ウリハムシ	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
ズッキーニ	アブラムシ類 フキメカ	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	6回以内 (乳剤は3回以内、 粒剤は3回以内)
にがうり	アブラムシ類 カミシ類 タバコアザミ ヨウムシ類 フキメカ	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
すいか	アブラムシ類	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	5回以内	散布	5回以内
メロン	アブラムシ類	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	5回以内	散布	5回以内
かぼちゃ	アブラムシ類	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	5回以内	散布	5回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ペルメトリンを含む農薬の総使用回数
いちご	アブラムシ類	3000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	5回以内	散布	5回以内
ごぼう	アブラムシ類	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内
	ヨウムシ	2000倍					
葉ごぼう	アブラムシ類	3000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
非結球あぶらな 科葉菜類(こまつな、非結球はくさい、みずな、なばな類を除く)	アムシ	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
非結球はくさい	アムシ	2000～4000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
こまつな	アムシ ハクサイダニ	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
キャベツ	アムシ コガ アブラムシ類 ヨウムシ タマギンウバ	2000倍	100～300 L/10a	収穫3日前まで	5回以内	散布	5回以内 (株元灌注は2回以内)
	ネリムシ類	4000～8000倍	0.5L/m <sup>2</sup>	収穫21日前まで	2回以内	株元灌注	
はくさい	アブラムシ類 アムシ コガ ハクサイダニ ヨウムシ	2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内
だいこん	アムシ コガ ヨウムシ ハマダラメカ ダレコハムシ	2000倍	100～300 L/10a	収穫30日前まで	4回以内	散布	4回以内
	アブラムシ類	2000～3000倍					
かぶ	アムシ	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	4回以内 (散布は2回以内)
茎ブロッコリー	アムシ	2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
ブロッコリー	コガ	2000倍	100～300 L/10a	収穫3日前まで	5回以内	散布	5回以内
	アブラムシ類	2000～3000倍					
カリフラワー	コガ	2000倍	100～300 L/10a	収穫3日前まで	5回以内	散布	5回以内
	アブラムシ類	2000～3000倍					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ペルメトリンを含む農薬の総使用回数
なばな類	アオシ コガ	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
みずな	アブラムシ類 ダイコンハムシ ヤブイモムシ	3000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
	アオシ	2000倍					
レタ	アブラムシ類 ヨトウムシ	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	5回以内	散布	5回以内
非結球レタ	アブラムシ類 ヨトウムシ	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2回以内	散布	4回以内 (乳剤は2回以内、 粒剤は2回以内)
トビス	アブラムシ類	3000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内
たまねぎ	アザミヤカ類 ネコガ ハモシヨトウ	3000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	5回以内	散布	5回以内
ねぎ	アザミヤカ類 ネコガ	3000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内
	シイモシヨトウ	2000倍					
にんにく	アブラムシ類 ネコガ	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2回以内	散布	4回以内 (乳剤は2回以内、 粒剤は2回以内)
	アブラムシ類	32～48倍	1.6L/10a				
アスパラガス	ジユウホシクビガハムシ カミムシ類	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
	ヨトウムシ アブラムシ類	2000倍					
豆類 (未成熟、 ただし、 えだまめ、 さやいんげん、 さやえんどう、 未成熟そらまめ を除く)	アザミヤカ類 アブラムシ類 ハメグリバエ類 ヨトウムシ類 ウラナシジミ アスキメカガ マシクイガ	3000倍	100～300 L/10a	収穫14日前 まで	3回以内	散布	3回以内
未成熟そらまめ	アザミヤカ類 アブラムシ類 ハメグリバエ類 ヨトウムシ類 ウラナシジミ アスキメカガ マシクイガ	3000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ペルメトリンを含む農薬の総使用回数
えだまめ	アザミヤ類 アブラムシ類 ハダカバエ類 ヨウムシ類 ウチナシジミ アズキノメイガ マシクイガ ウコンノメイガ ツメクサガ フタスジヒメハムシ マハノミヨウ	3000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
さやいんげん	カムシ類 アザミヤ類 アブラムシ類 ハダカバエ類 ヨウムシ類 ウチナシジミ アズキノメイガ マシクイガ	3000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
さやえんどう	ハダカバエ ヨウムシ類 ウチナシジミ	3000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
ほうれんそう	アブラムシ類 ハクサイダニ	3000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
はこべ	オオハコガ	3000倍	100～300 L/10a	収穫21日前まで	1回	散布	1回
だいず	マシクイガ カムシ類 アブラムシ類 フタスジヒメハムシ マハノミヨウ ツメクサガ ウコンノメイガ	3000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
	マシクイガ アブラムシ類	24倍	0.8L/10a			無人航空機による散布	
あずき	アズキノメイガ	2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
	アブラムシ類	3000倍					
そらまめ	アブラムシ類	3000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
しそ	ハセンヨトウ ウリハムシトビキ アブラムシ類 アザミヤ類 コシジラ類	4000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	4回以内 (乳剤は2回以内、 粒剤は2回以内)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ペルメトリンを含む農薬の総使用回数
トマト	ホシツコゾラミ アブラムシ類	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
ミニトマト	ホシツコゾラミ アブラムシ類	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	4回以内 (株元散布は 1回以内、 散布及び噴射は 合計3回以内)
なす	アブラムシ類	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
	ホシツコゾラミ テントウムシダマシ類 カメムシ類	2000倍					
ピーマン	アブラムシ類	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	5回以内	散布	5回以内
	タバコガ カメムシ類	2000倍					
とうがらし類	アブラムシ類	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	2回以内	散布	2回以内
	タバコガ	2000倍					
ばれいしょ	アブラムシ類 テントウムシダマシ類	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫14日前 まで	4回以内	散布	4回以内
やまのいも	アブラムシ類 ヤマトコガ アザミヤカ類	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	5回以内	散布	5回以内
さといも	ハモシトウ	2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	5回以内	散布	5回以内
	アブラムシ類 スズカガ類	3000倍					
さといも (葉柄)	ハモシトウ	2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	2回以内	散布	2回以内
	アブラムシ類	3000倍					
かんしょ	イモコガ	3000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	5回以内	散布	5回以内
オクラ	ハモシトウ アブラムシ類 カメムシ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
つるむらさき	ヨトウムシ	2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	2回以内	散布	2回以内
食用ゆり	アブラムシ類	3000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	5回以内	散布	5回以内
食用亜麻	ヨトウガ	2000倍	100～300 L/10a	収穫14日前 まで	2回以内	散布	2回以内
ごま	アブラムシ類 カメムシ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	3回以内	散布	3回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ペルメトリンを含む農薬の総使用回数
しゅんぎく	アブラムシ類 ハダニ	4000 倍	100～300 L/10a	収穫 21 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
茶	チャノコカクモンハマキ	2000 倍	200～400 L/10a	摘採 14 日前 まで	1 回	散布	1 回
	チャノミドリヒメコバイ チャノカガ チャノキイロアザミウマ	2000～3000 倍					
花き類・観葉植物 (はぼたんを 除く)	アブラムシ類	2000～4000 倍	100～300 L/10a	発生初期	6 回以内	散布	6 回以内
	カミシ類 ハマシ類 ヨウムシ類	2000 倍					
はぼたん	アブラムシ類	2000～4000 倍	100～300 L/10a	発生初期	6 回以内	散布	6 回以内
	カミシ類 ハマシ類 ヨウムシ類 アムシ	2000 倍					
樹木類(くちなし を除く)	ケムシ類 アブラムシ類 シクトリムシ類	4000～8000 倍	200～700 L/10a	発生初期	6 回以内	散布	6 回以内
くちなし	ケムシ類 アブラムシ類 シクトリムシ類	4000～8000 倍	200～700 L/10a	発生初期	6 回以内	散布	6 回以内
	アザミウマ類	2000 倍					

#### 使用上の注意事項

- (1) 水溶性パック入りの製剤を使用する場合には、次の事項に注意すること。
  - 1) 濡れた手でパックに触らないこと。
  - 2) パックは水によく溶けるので、そのまま所定量の水に投入すること
- (2) 本剤のかんきつ、茶での散布は、場合によりハダニ類が増えることがあるので注意すること。
- (3) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - 1) ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - 2) 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
  - 3) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (4) 蚕に長期間毒性があるので、散布された薬剤が飛散し、付近の桑に付着するおそれのある場所では使用しないこと。
- (5) みずかけな（水掛菜）、カラー及び花はすに使用する場合は、ほ場内に水がない状態で使用すること。また、使用后 14 日間は入水しないこと。
- (6) ねぎのシロイチモジヨトウの防除に使用する場合は、食入前の若令幼虫期に散布すること。
- (7) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意を守ること。
  - 1) 散布は各散布機種 of 散布基準に従って実施すること。
  - 2) 散布に当っては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 3) 散布中薬液の漏れないように機体の散布用配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
  - 4) 特定の農薬（混用可能が確認されているもの）を除いて原則として他の農薬との混用は行わないこと。

- 5) 作業終了後は次の項目を守ること。
  - イ. 使用後の空の容器は放置せず、適切に処理すること。
  - ロ. 使用残りの薬液は必ず安全な場所に責任者をきめて保管すること。
  - ハ. 機体散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
- (8) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。  
なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合は吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- (2) 本剤による中毒の治療法としては、動物実験でメトカルバモール製剤の投与が有効であると報告されている。
- (3) 原液は眼に対して刺激性があるので、薬液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (4) 原液は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (5) 使用の際は農薬用マスク、手袋などを着用すること。また薬液を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。
- (6) 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池周辺での使用はさけること。
- (2) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- (4) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきることを。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

危険物第四類第二石油類に属するので火気には十分注意すること。

#### 貯蔵上の注意事項-----

- (1) 火気をさけ、直射日光の当たらない低温な場所に密栓して保管すること。
- (2) 水溶性フィルムで包装した製剤は湿気には十分注意すること。容器からパックを取り出した後は、容器のふたをしっかりと閉めること。
- (3) 子供の手の届かない場所に保管すること。

登録番号 第 23074 号

# アトラクトン®箱粒剤

●有効成分ジノテフランを高含量・溶出制御化した製剤で、初期害虫から斑点米カメムシまで防除できます。  
 特長： ●ドリフトや散布労力などの問題で本田防除が難しい地域に、省力的な防除方法（育苗箱処理）を提供します。  
 ●農林水産省「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」に掲載された農薬です。

アトラクトンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ジノテフラン（化管法第1種）・・・12.0%	包装	1kg×12
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

**【適用害虫及び使用方法】**

2021年10月27日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	かみ類	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)
		高密度には種する場合は1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L) 1箱当り 50~100g)				
	ウカ類 イコ類 イネズガムシ イネノメイシ イネノハエ フタホコガ ニカメハエ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	移植3日前 ~移植当日			
		高密度には種する場合は1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L) 1箱当り 50~100g)				

**使用上の注意事項**

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約 5L) 1 箱当りに乾粒として 200 から 300g 程度を高密度には種する場合は、10a 当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が 1kg/10a までとなるよう、育苗箱 1 箱当りの薬量を 50 から 100g までの範囲で調整すること。
- (3) 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
- (4) 本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水してから田植機にかけて移植すること。育苗箱に高密度には種した場合は、とくに注意して葉に付着した薬剤を払い落とすこと。
- (5) 処理苗の移植後 7 日間は落水、かけ流しはしないこと。
- (6) 葉先枯れなどの薬害を生じることもあるので、散布ムラがないよう均一に散布すること。



- (7) 容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (8) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

**人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法**-----

本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨**-----

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (2) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨**-----

通常の使用方法ではその該当がない。

**貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 22696 号

## アニキ<sup>®</sup>乳剤

●チョウ目害虫に加えて、ハモグリバエ類、コナジラミ類、アザミウマ類などの微小害虫も、まとめて防除することができます。

特長： ●食毒と接触によるダブルの殺虫作用により、速攻的な効果を発揮します。

●ミツバチ、マルハナバチへの安全日数は1日です。

●天敵、微生物農薬に対する影響が小さく、IPMに適しています。

アニキは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	レピメクチン・・・1.0%	包装	100ml×30 250ml×20 500ml×20
性状	淡黄色澄明可乳化油状液体	有効年限	5年
毒性	普通物 <sup>※</sup>	危険物	3 石-III (指定数量 4000L (水溶性))

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用害虫及び使用方法】

2022年11月9日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	レピメクチンを含む農薬の総使用回数
みかん	チャノキイロアザミウマ アゲハ類	1000～4000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	4回以内	散布	4回以内
	ミカンモグリガ	1000～2000倍					
	ミカンサビダニ	2000～4000倍					
	チャノコリダニ	4000倍					
かんきつ (みかんを除く)	チャノキイロアザミウマ アゲハ類	1000～4000倍	200～700 L/10a	収穫3日前 まで	4回以内	散布	4回以内
	ミカンモグリガ	1000～2000倍					
	ミカンサビダニ	2000～4000倍					
	チャノコリダニ	4000倍					
だいず	ハセンヨトウ	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
えだまめ	ハセンヨトウ	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
さといも	ハセンヨトウ	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
かんしょ	ハセンヨトウ カジロシタバ	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	レピメクチンを含む 農薬の総使用回数
豆類 (未成熟、ただし、えだ まめ、さやえんどうを 除く)	ハスモンヨトウ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
さやえんどう	ハスモンヨトウ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	ハゲリハエ類	1000 倍					
メロン	ハゲリハエ類 コジラミ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	4 回以内	散布	4 回以内
すいか	オタバコガ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
アスパラガス	コジラミ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	ハスモンヨトウ	2000 倍					
いちご	ハスモンヨトウ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	オタバコガ	1000～2000 倍					
トマト	オタバコガ ハスモンヨトウ ハゲリハエ類 トマトザビダニ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	コジラミ類 ミカンキイロアザミウマ	1000～2000 倍					
ミニトマト	オタバコガ ハスモンヨトウ ハゲリハエ類 トマトザビダニ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	コジラミ類 ミカンキイロアザミウマ	1000～2000 倍					
なす	ハスモンヨトウ コジラミ類	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	オタバコガ ハゲリハエ類 チャノホリダニ	2000 倍					
ピーマン	コジラミ類	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	ハスモンヨトウ オタバコガ チャノホリダニ	2000 倍					
とうがらし類	コジラミ類	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	ハスモンヨトウ オタバコガ チャノホリダニ	2000 倍					
きゅうり	コジラミ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	ハスモンヨトウ	2000 倍					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	レピメクチンを含む 農薬の総使用回数
ほうれんそう	ハセンヨトウ	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
セリー	ハセンヨトウ	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
カブラー	コガ ハセンヨトウ	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
非結球あぶらな科葉 菜類	コガ ハセンヨトウ キジノミハムシ ハメグリハエ類	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
非結球レタ	オタバコガ ハセンヨトウ	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
レタ	オタバコガ ハセンヨトウ シイモジヨトウ	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
キャベツ	コガ アムシ ハセンヨトウ ハイダラメガ ウバ類 オタバコガ	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	シイモジヨトウ	2000 倍					
はくさい	キジノミハムシ ダイコンハムシ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	コガ アムシ ハセンヨトウ ハイダラメガ オタバコガ カブラハエ類	1000～2000 倍					
ブロッコリー	コガ ハセンヨトウ アムシ シイモジヨトウ	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
茎ブロッコリー	ハセンヨトウ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
ねぎ	シイモジヨトウ ネコガ	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	ネコガ アザミウマ ハメグリハエ類	1000 倍					
たまねぎ	ハセンヨトウ シイモジヨトウ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	レピメクチンを含む 農薬の総使用回数
だいこん	コガ アムシ ハイマダラノメイガ カブラハバチ類	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫3 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
かぶ	コガ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	キジノミムシ	2000 倍					
ヤングコーン	材タバコガ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
未成熟とうもろこし	材タバコガ ツマジロクサヨトウ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	ハモンヨトウ	2000 倍					
食用金魚草	ハモンヨトウ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
食用なでしこ	ハモンヨトウ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
食用プリムラ	ハモンヨトウ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
食用カーネーション	ハモンヨトウ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
食用アザミ	ハモンヨトウ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
食用せんにちこう	ハモンヨトウ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
食用トリア	ハモンヨトウ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
食用パンジー	ハモンヨトウ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
しそ科葉菜類 (しそを除く)	ハモンヨトウ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
しそ (花穂)	ハモンヨトウ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
しそ	ハモンヨトウ シサビダニ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
食用ぎく	材タバコガ ハモンヨトウ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
きく(葉)	材タバコガ ハモンヨトウ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫3 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
茶	チャノコカクモンハマキ	1000～2000 倍	200～400 L/10a	摘採7 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	レピメクチンを含む農薬の総使用回数
きく	オタハコガ ハスモントウ	1000～2000倍	100～300 L/10a	発生 初期	6回以内	散布	6回以内
	ママモグリハエ	1000倍					
カーネーション	オタハコガ	1000～2000倍	100～300 L/10a	発生 初期	6回以内	散布	6回以内
ストック	コガ	1000～2000倍	100～300 L/10a	発生 初期	6回以内	散布	6回以内
りんどう	リンドウハハチ	2000倍	100～300 L/10a	発生 初期	6回以内	散布	6回以内

#### 使用上の注意事項

- (1) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (2) ミツバチ、マルハナバチに影響を与える場合があるので、ミツバチ等の巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
- (3) 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節すること。
- (4) 本剤は自動車や壁などの塗装面に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないように注意すること。
- (5) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (6) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。使用後は洗眼すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないよう調製を行い、使い切ることを。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

危険物第四類第三石油類に属するので火気には十分注意すること。

#### 貯蔵上の注意事項

火気をさけ、直射日光の当たらない低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 20961 号

## 三井東圧アルバリン®顆粒水溶剤

- 野菜、果樹、花に多彩な使用方法がある殺虫剤。  
 特長： ●植物体内に浸透移行し速やかに効果を発揮。  
 ●野菜のコナジラミ類、果樹のコナカイガラムシ、カメムシ類に高い効果を示します。

アルバリンはアグロカネショウ(株)の登録商標です。

有効成分	ジノテフラン（化管法第1種）・・・20.0%	包装	100g×50
その他化管法該当成分	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩（アルキル基C=10～14及びその混合物）（化管法第1種）・・・1.8%		250g×40 500g×20
性状	淡青緑色水溶性細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用害虫及び使用方法】

2021年12月22日付内容

作物名	適用場所	適用病虫害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	-	カメムシ類	2000倍	60～150 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)
		ウカ類 ツマグロヨコバイ	3000倍					
水田作物、畑作物（休耕田）	豆、ササ、スズ、セイウカ、ワヂウカ等の多年生雑草が優占している休耕田	カメムシ類	2000倍	60～150 L/10a	-	3回以内	散布	3回以内
とうもろこし（子実）	-	ムギクビレアブラムシ カメムシ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
未成熟とうもろこし	-	アブラムシ類 カメムシ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
もも	-	モモチョッキリゾウムシ アブラムシ類 モモハモグリガ シクシムシ類 カメムシ類	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
ネクトリン	-	モモチョッキリゾウムシ アブラムシ類 モモハモグリガ シクイムシ類 カミムシ類	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
おうとう	-	オウトウショウゾウハエ カミムシ類	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
かき	-	カミムシ類 コカハムシ類 キハタムシガ アザシマ類	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (塗布は1回以内、 散布は3回以内)
マンゴー	-	チャキイアザシマ	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
小粒核果類	-	アブラムシ類 カミムシ類 シクイムシ類	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
ぶどう	-	カミムシ類 ブドウカミキリ	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内 (塗布は1回以内)
		フテンヒメコハエ	3000倍					
		チャキイアザシマ コカハムシ類	1000～ 2000倍					
あけび (果実)	-	カミムシ類	2000倍	200～700 L/10a	収穫14日 前まで	2回以内	散布	2回以内
キウフルーツ	-	カミムシ類	1000～ 2000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
びわ	-	カミムシ類 ビワシジラミ	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
りんご	-	アブラムシ類 キモノホカ シクイムシ類 ギンモノモグリガ コカハムシ類 カミムシ類	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
なし	-	アブラムシ類 シクイムシ類 カミムシ類 ケムシ類 コカハムシ類 チュウゴクナシシジラミ	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
かんきつ (苗木)	-	シシホモグリガ	50倍	100 mL/株	育苗期	5回以内	株元 灌注	5回以内



作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
かんきつ	-	チャノキイロアザミマコカバラムシ類	1000～2000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
		ゴマダラカミキリ	1000倍					
		アブラムシ類 シロハモグリガ カミシ類 コアカサムグリ ケキスイ類 ミカンハエ アカマルカバラムシ ヤノコバラムシ サンホセカバラムシ ミカンジラミ コジラミ類 チャノミドリヒメヨコバイ アバハコロモ	2000倍					
オリーブ	-	カミシ類	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
ばれいしよ	-	ワタアブラムシ	2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
かんしよ	-	アブラムシ類 コジラミ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫3日前まで	1回	散布	1回
トマト	-	カミシ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	5回以内 (培土混和及び灌注は合計1回以内、育苗期の株元散布は1回以内、定植時の土壌混和は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)
		コジラミ類	2000～3000倍					
		コジラミ類	100倍	セル成型育苗 トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (30×60cm・ 使用土壌約 1.5～4.0L) 当り0.5L	鉢上時 又は定植時	1回	灌注	
ミニトマト	-	カミシ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	5回以内 (培土混和及び灌注は合計1回以内、育苗期の株元散布は1回以内、定植時の土壌混和は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)
		コジラミ類	2000～3000倍					
				コジラミ類	100倍	セル成型育苗 トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (30×60cm・ 使用土壌約 1.5～4.0L) 当り0.5L	鉢上時 又は定植時	1回

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
ブロッコリー	-	アブラムシ類 コガ	100倍	セル成型育苗 トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (30×60cm・ 使用土壌約 1.5～4.0L) 当り0.5L	定植時	1回	灌注	3回以内 (定植時の土壌混和 及び灌注は 合計1回以内、 散布及び 無人航空機散布は 合計2回以内)
		アブラムシ類	2000～ 3000倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	2回 以内	散布	
はくさい	-	アブラムシ類	2000～ 3000倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	2回 以内	散布	3回以内 (定植時の 土壌混和及び灌注は 合計1回以内、 散布は2回以内)
		キジノミムシ ダイコンムシ	2000倍					
ピーマン	-	コジラミ類	2000～ 3000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2回 以内	散布	3回以内 (育苗期の株元散布 及び定植時の 土壌混和は 合計1回以内、 散布及び定植後の 株元散布は 合計2回以内)
		アブラムシ類	3000倍					
		アザミヤカ類 カミムシ類	2000倍					
なす	-	コジラミ類	2000～ 3000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2回 以内	散布	3回以内 (育苗期の株元散布 及び定植時の 土壌混和は 合計1回以内、 散布及び定植後の 株元散布は 合計2回以内)
		アブラムシ類	3000倍					
		アザミヤカ類 カミムシ類	2000倍					
すいか	-	アブラムシ類	2000～ 3000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	2回 以内	散布	4回以内 (育苗期の株元散布 及び定植時の 土壌混和は 合計1回以内、 定植後の株元散布は 1回以内、 散布は2回以内)
とうがらし類	-	コジラミ類	2000～ 3000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2回 以内	散布	4回以内 (育苗期の株元散布 及び定植時の 土壌混和は 合計1回以内、 定植後の株元散布は 1回以内、 散布は2回以内)
		アブラムシ類	3000倍					
		アザミヤカ類 ナスバエ	2000倍					

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
とうがらし(葉)	-	コジラミ類	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	3回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、 散布は2回以内)
		アブラムシ類	3000倍					
		アザミヤカ類	2000倍					
かぼちゃ	-	アブラムシ類 コジラミ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (定植時の土壌混和及び育苗トレイへの 灌注は合計1回以内、 散布は2回以内)
		アブラムシ類	100倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (30×60cm・ 使用土壌約1.5～4.0L) 当り0.5L	定植前日～ 定植時	1回	灌注	
にがうり	-	コジラミ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、 散布は2回以内)
セリ	-	アブラムシ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	3回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、 散布は2回以内)
うり類(漬物用)	-	コジラミ類 アザミヤカ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、 散布は2回以内)
		アブラムシ類	2000～3000倍					
ズッキーニ	-	アブラムシ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	4回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、 定植後の株元散布は1回以内、 散布は2回以内)
きゅうり	-	コジラミ類 アブラムシ類	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	4回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の 土壌混和は合計1回以内、 定植後の株元散布は1回以内、 散布は2回以内)
		アザミヤカ類 ウハシカムシ類	2000倍					
まくわうり	-	アブラムシ類	3000倍	100～300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
メロン	-	コジラミ類	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	3回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)
		アザミヤカ類	2000倍					
		アブラムシ類	3000倍					
キャベツ	-	アブラムシ類 コガ アオムシ ハマダラカメカ	50～100倍	セル成型育苗 トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (30×60cm・使用土壌約3L)当り 0.5L	定植前日～定植時	1回	灌注	3回以内 (育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び灌注は合計1回以内、散布及び無人航空機散布は合計2回以内)
		アブラムシ類	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	
だいこん	-	アブラムシ類	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	5回以内 (は種時の播溝土壌混和は1回以内、は種時の全面土壌混和は1回以内、粒剤の散布は1回以内、水溶剤の散布、液剤の散布及び無人航空機散布は合計2回以内)
		ダコノハムシ	2000倍					
		キジノハムシ	1000倍					
わさび	-	アブラムシ類 ナベハムシ	2000倍	100～300 L/10a	畑育苗期	3回以内	散布	3回以内
畑わさび	-	アブラムシ類 ナベハムシ	2000倍	100～300 L/10a	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内
クレン	-	アブラムシ類	3000倍	100～300 L/10a	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内
レタス	-	アブラムシ類	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	4回以内 (は種前の培土混和は1回以内、育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び育苗トレイへの灌注は合計1回以内、散布は2回以内)
		ハモンヨトウ	50倍	セル成型育苗 トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (30×60cm・使用土壌約1.5～4.0L)当り 0.5L	定植前日～定植時	1回	灌注	
		アブラムシ類 ナメグリバエ	50～100倍					

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
非結球タス	-	アブラムシ類	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	4回以内 (は種前の培土混和は1回以内、育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び育苗トレイへの灌注は合計1回以内、散布は2回以内)
		ハモンヨトウ	50倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (30×60cm・使用土壌約1.5～4.0L) 当り0.5L	定植前日～定植時	1回	灌注	
		アブラムシ類 ナメグリバエ	50～100倍					
ねぎ	-	アザミウマ類 ハメグリバエ類 シロイモジヨトウ タネバエ ネギコガ	50倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (30×60cm・使用土壌約1.5～4.0L) 当り0.5L	定植前日～定植時	1回	灌注	4回以内 (は種時の土壌混和、育苗トレイへの灌注及び定植時の株元散布は合計1回以内、生育期の株元灌注は1回以内、散布、無人航空機散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)
		アザミウマ類	2000倍	100～300 L/10a				
		アザミウマ類 ハメグリバエ類 トビイロヒョウタンゾウムシ	400倍	0.4L/m <sup>2</sup>	生育期 但し 収穫14日前まで	1回	株元灌注	
		クボネコバエ類 アザミウマ類	1000倍	1L/m <sup>2</sup>				
わけぎ	-	アザミウマ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	4回以内 (定植後の株元散布は1回以内、生育期の株元灌注は1回以内、散布は2回以内)
		アザミウマ類 ハメグリバエ類	400倍	0.4L/m <sup>2</sup>	生育期 但し 収穫14日前まで	1回	株元灌注	
にんじん	-	アブラムシ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	4回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、生育期の株元灌注は1回以内、散布は2回以内)
		トビイロヒョウタンゾウムシ クボネコバエ類	400倍	0.4L/m <sup>2</sup>	生育期 但し 収穫21日前まで	1回	株元灌注	
しゅんぎく	-	アブラムシ類	3000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (は種時及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
チゲンソイ	-	キズノミムシ	2000倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	2回 以内	散布	3回以内 (は種時及び定植時の 土壌混和は 合計1回以内、 散布は2回以内)
		アブラムシ類	3000倍					
ほうれんそ う	-	アブラムシ類 ウラムシトドキ	3000倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	2回以内	散布	3回以内 (は種時の土壌混和は 1回以内、 散布は2回以内)
非結球あぶ らな科葉菜 類 (チゲンソ イ、畑わさ びを除く)	-	アブラムシ類	3000倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	2回以内	散布	3回以内(は種時の 土壌混和は1回以内、 散布は2回以内)
		キズノミムシ	2000倍					
かぶ	-	アブラムシ類	3000倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	2回以内	散布	3回以内 (は種時の土壌混和は 1回以内、 散布は2回以内)
		キズノミムシ	2000倍					
だいず	-	カムシ類 ダイズサヤマバエ	2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	2回 以内	散布	3回以内 (は種時の土壌混和は 1回以内、 散布、無人航空機散 布は合計2回以内)
		フタスジヒメムシ	3000倍					
あずき	-	アブラムシ類	3000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	3回 以内	散布	3回以内
豆類 (未成熟、 ただし、え だまめ、さ やいんげ ん、さやえ んどう、実 えんどう、 未成熟ささ げ、未成熟 そらまめを 除く)	-	アブラムシ類 ハモグリバエ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	2回 以内	散布	2回以内
えだまめ	-	カムシ類 アブラムシ類 ハモグリバエ類 ダイズサヤマバエ	2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	2回 以内	散布	3回以内 (は種時の土壌混和 は1回以内、 散布、空中散布、 無人航空機散布は 合計2回)
		フタスジヒメムシ	3000倍					
未成熟そら まめ	-	アブラムシ類 ハモグリバエ類 カムシ類	2000倍	100～300L /10a	収穫7日前 まで	2回 以内	散布	2回 以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
未成熟ささげ	-	アブラムシ類 ハダカバエ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
実えんどう	-	アブラムシ類 ハダカバエ類 ウナシジミ カミシ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (株元散布は1回以内、 散布は2回以内)
さやえんどう	-	アブラムシ類 ハダカバエ類 ウナシジミ カミシ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (株元散布は1回以内、 散布は2回以内)
さやいんげん	-	コジラミ類 アブラムシ類 ハダカバエ類 カミシ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (株元散布は1回以内、 散布は2回以内)
モロヘイヤ	-	アザミヤカ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
カラ	-	アブラムシ類 フタテンミドリヒメコバエ	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (株元散布は1回以内、 散布は2回以内)
しょうが	-	クハバネコバエ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (株元散布は1回以内、 散布は2回以内)
らっきょう	-	アザミヤカ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
にら	-	クハバネコバエ類	1000倍	1L/m <sup>2</sup>	生育期 但し 収穫14日前 まで	1回	株元 灌注	3回以内 (生育期の株元灌注は 1回以内、 散布は2回以内)
		ネアザミヤカ	400倍	0.4L/m <sup>2</sup>				
		ネアザミヤカ アブラムシ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	
アスパラガス	-	アザミヤカ類 ジユウホクバカバハシ コジラミ類 カミシ類	2000倍	100～800 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
きゅうり (葉)	-	コジラミ類 アブラムシ類	3000倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	2回以内	散布	2回以内
きゅうり (花)	-	コジラミ類 アブラムシ類	3000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
てんさい	-	アブラムシ類 テナサレグアリハバエ	2000～ 3000 倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	2回 以内	散布	3回以内 (灌注は1回以内、散 布は2回以内)
		カメノコハムシ	1000～ 2000 倍					
		カメノコハムシ テナサレグアリハバエ テナサトビハムシ	100～ 200 倍	5L/ヘーパーポ ット6冊 (2.5L/m <sup>2</sup> )	移植前	1回	灌注	
		アブラムシ類 テナサレグアリハバエ テナサトビハムシ	100～ 240 倍					
バジル	-	コジラミ類 アブラムシ類	3000 倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	2回 以内	散布	2回以内
しそ科葉菜 類(しそ、バ ジルを除く)	-	アブラムシ類	3000 倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	2回 以内	散布	2回以内
しそ (花穂)	-	アブラムシ類	3000 倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	2回 以内	散布	2回以内
しよくよう ほおずき	-	アブラムシ類 コジラミ類	3000 倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	2回 以内	散布	2回以内
食用ミコバラ	-	アブラムシ類 コジラミ類	3000 倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	2回 以内	散布	2回以内
食用カーネー ション	-	アブラムシ類 コジラミ類	3000 倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	2回 以内	散布	2回以内
食用金魚草	-	アブラムシ類 コジラミ類	3000 倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	2回 以内	散布	2回以内
食用パンジー	-	アブラムシ類 コジラミ類	3000 倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	2回 以内	散布	2回以内
食用トニア	-	アブラムシ類 コジラミ類	3000 倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	2回 以内	散布	2回以内
食用なでし こ	-	アブラムシ類 コジラミ類	3000 倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	2回 以内	散布	2回以内
食用アリムラ	-	アブラムシ類 コジラミ類	3000 倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	2回 以内	散布	2回以内
食用エサカ	-	アブラムシ類 コジラミ類	3000 倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	2回 以内	散布	2回以内
食用せんに ちこう	-	アブラムシ類 コジラミ類	3000 倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	2回 以内	散布	2回以内
食用コスモ	-	アブラムシ類 コジラミ類	3000 倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	2回 以内	散布	2回以内



作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
食用ぎく	-	アブラムシ類 ヨジラミ類	3000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	2回 以内	散布	3回以内 (定植時の土壌混和は 1回以内、 散布は2回以内)
しそ	-	アブラムシ類 ウハムシトドキ	3000倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	2回 以内	散布	3回以内 (定植時の土壌混和は 1回以内、 散布は2回以内)
なんてん (葉)	-	アブラムシ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	2回 以内	散布	2回以内
すいぜんじ な	-	アブラムシ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	2回 以内	散布	2回以内
アマランス (茎葉)	-	アブラムシ類	3000倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	2回 以内	散布	2回以内
ふき	-	ヨジラミ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	2回 以内	散布	3回以内 (土壌表面散布は 1回以内、 散布は2回以内)
せり	水田	アブラムシ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	3回 以内	散布	3回以内
せり (水耕栽培)	ガラス室等 の施設	アブラムシ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	3回 以内	散布	3回以内
オーブ (葉)	-	カメムシ類	2000倍	200～700 L/10a	収穫14日 前まで	2回 以内	散布	2回以内
茶	-	チャノボガ チャノミドリヒメコバイ チャノキイロアザシマ ツマグロアオカスシメ コムギアブラムシ	2000倍	200～400 L/10a	摘採7日前 まで	2回 以内	散布	2回以内
さとうきび	-	アブラムシ類 カンシコバネガカメムシ サウキビヒメアザシマ	2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	3回 以内	散布	5回以内 (粒剤は2回以内、 液剤、水溶剤及び 水和剤は 合計3回以内)
いね科牧草	-	アブラムシ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	3回 以内	散布	3回以内
花き類・観 葉植物 (さくを除 く)	-	アブラムシ類 ヨジラミ類	2000～ 3000倍	100～300 L/10a	発生初期	5回 以内	散布	5回以内 (土壌混和は 1回以内)
		ハモグリハエ類	1000倍	1L/m <sup>2</sup>			灌注	

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
きく	-	アブラムシ類 コナジラミ類	2000～ 3000 倍	100～300 L/10a	発生初期	5 回 以内	散布	5 回以内 (土壌混和は 1 回以内)
		カミシ類	2000 倍					
		ハモグリバエ類	1000～ 2000 倍	1L/m <sup>2</sup>			灌注	
樹木類 (つつじ類、 つばき類を 除く)	-	ケムシ類	2000 倍	100～700 L/10a	発生初期	5 回 以内	散布	5 回以内
つつじ類	-	ツツジゲンハイ ケムシ類	2000 倍	100～300 L/10a	発生初期	5 回 以内	散布	5 回以内
つばき類	-	ケムシ類	2000 倍	100～700 L/10a	発生初期	5 回 以内	散布	5 回以内 (株元灌注は 2 回以内)
		チャドカス	100 倍	0.5～2L/樹 (但し、220 L/10a まで)		2 回以内	株元 灌注	
いぐさ	-	イグサシロムシ	1000 倍	100～150 L/10a	発生初期	2 回 以内	散布	2 回以内

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
かき	コカカゲラムシ類	20～40g/樹	発芽前～ 発芽期	1 回	本剤 1g 当り水 1mL の割合で混合し、主幹から主枝の粗皮を環状に剥いた部分に塗布する。	4 回以内 (塗布は 1 回以内、 散布は 3 回以内)
ぶどう	コカカゲラムシ類	20～40g/樹	幼果期まで 但し、収穫 30 日前ま で	1 回	本剤 1g 当り水 1mL の割合で混合し、主幹から主枝の粗皮を環状に剥いた部分に塗布する。	3 回以内 (塗布は 1 回以内)
	クワアサカシバ	40g/樹				

#### 使用上の注意事項

- (1) 使用量にあわせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) ぶどうの幼果期から果粒肥大期の散布は果粉の溶脱のおそれがあるので使用をさけること。
- (3) つまみ菜・間引き菜には使用しないこと。
- (4) 本剤をセル苗に使用する際は、調製液をセル成型育苗トレイまたはペーパーポット上方から灌注すること。また、本剤が土壌に十分に吸収されないおそれがあるので処理直前や直後の灌水はさけること。なお、高温時など極度に土壌が乾燥している場合には、葉縁が退色するなど薬害を生じるおそれがあるので、本剤を処理する予定の苗は、適切な水分および温度管理に努めること。
- (5) かんきつの苗木に用いる場合は、今期に収穫見込のない苗木に対して使用すること。なお、本剤を処理してから効果を発揮するまでにある程度の期間を要するため、対象害虫の発生前に予防的に処理すること。
- (6) 本剤を使用したわさびの苗を畑地からわさび田に移植する場合には、使用した農薬がわさび田の水系に持ち込まれないよう、わさびの苗に付着した土を十分に洗い落とすこと。
- (7) 水耕栽培に使用する場合、本剤を使用した施設からの廃液をかんがい水路、排水路、河川等には絶対に流さず、適切に処理すること。

- (8) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (9) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - 1) ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - 2) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供しミツバチの危害防止に努めること。
- (10) 空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (11) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。とくに適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。使用後は洗眼すること。
- (2) 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のないものが使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 20962 号

三井東圧アルバリン<sup>®</sup>粉剤 DL

●斑点米カメムシ、ウンカ、ヨコバイ防除の切り札。  
 特長： ●カメムシ類には吸汁阻害で効率的に斑点米被害を抑えます。  
 ●だいち、えだまめの害虫防除にも使えます。

アルバリンはアグロカネシヨウ(株)の登録商標です。

有効成分	ジノテフラン・・・0.5%	包装	3kg×8
性状	類白色粉末 45 μm 以下、浮遊性指数 20 以下	有効年限	5 年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用害虫及び使用方法】

2021年12月22日付内容

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	-	ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類 付コ類 イトトモイシ ニカメイト フタヒコヤガ	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)
だいち	-	カメムシ類 フタジヒカメシ ダイスヤタハエ	3kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、散布、空中散布、無人航空機散布は合計2回以内)
えだまめ	-	カメムシ類 フタジヒカメシ ダイスヤタハエ	3kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、散布、空中散布、無人航空機散布は合計2回以内)
水田作物、畑作物 (休耕田)	ヨシ、ササ、スサキ、セイタカアワダチソウ等の多年生雑草が優占している休耕田	カメムシ類	3kg/10a	-	3回以内	散布	3回以内

## 使用上の注意事項

- 本剤はできるだけ飛散を少なくするように製剤されており、一般の粉剤に比べ見かけ比重がやや大きく流動性が良いので、散布の際は散粉機の開度を1目盛程度しぼって散布すること。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。

- (3) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
- 1) ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - 2) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (4) 空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (5) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

**人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法**-----

- (1) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (2) 散布の際は農業用マスクなどを着用すること。作業後はうがいをすること。

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨**-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨**-----

通常の使用方法ではその該当がない。

**貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 20959 号

## 三井東圧アルバリン®粒剤

- 作物登録が広く、コナジラミ、ハモグリバエなどの重要害虫防除に使用できます。  
 特長： ●浸透移行性が高く、育苗期や生育期の処理もできます。  
 ●水稲のカメムシ防除にも使えます。

アルバリンはアグロカネショウ(株)の登録商標です。

有効成分	ジノテフラン（化管法第1種）・・・1.0%	包装	1kg×12 3kg×6
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用害虫及び使用方法】

2021年12月22日付内容

作物名	適用病虫害名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	ウカ類 ツマグロヨコバイ コメチユウ イネトヨイムシ カメムシ類 イネズグウムシ	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)
きゅうり	ハモグリバエ類	2g/株	育苗期	1回	株元散布	4回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布は2回以内)
	コナジラミ類	1~2g/株				
	アブラムシ類	1g/株				
きゅうり	ハモグリバエ類 アザミヤカ類	2g/株	定植時	1回	植穴 土壌混和	
	アブラムシ類 コナジラミ類	1~2g/株	生育期 但し、収穫開始 14日前まで			
うり類 (漬物用)	アザミヤカ類	2g/株	定植時	1回	植穴 土壌混和	
	アブラムシ類 コナジラミ類	1~2g/株				
にがうり	コナジラミ類	2g/株	定植時	1回	植穴 土壌混和	3回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
メロン	ハモグリバエ類	2g/株	育苗期	1回	株元散布	3回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)
	コジラミ類	1~2g/株				
	アブラムシ類	1g/株				
	ハモグリバエ類 アザミヤカ類	2g/株	定植時		植穴 土壌混和	
	コジラミ類	1~2g/株				
	アブラムシ類	1g/株				
すいか	ワタアブラムシ	2g/株	育苗期	1回	株元散布	4回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布は2回以内)
			定植時		植穴 土壌混和	
			生育期 但し、収穫 21日前まで		株元散布	
かぼちゃ	アブラムシ類 コジラミ類	2g/株	定植時	1回	植穴 土壌混和	3回以内 (定植時の土壌混和及び育苗トレイへの灌注は合計1回以内、散布は2回以内)
ズッキーニ	アブラムシ類 コジラミ類	2g/株	定植時	1回	植穴 土壌混和	4回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布は2回以内)
	アブラムシ類	1g/株	生育期 但し、収穫開始 14日前まで		株元散布	
トマト	コジラミ類	培土 1㎡当たり 10g	は種前	1回	培土混和	5回以内 (培土混和及び灌注は合計1回以内、育苗期の株元散布は1回以内、定植時の土壌混和は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)
	ハモグリバエ類 コジラミ類	1~2g/株	育苗期		株元散布	
	アブラムシ類	1g/株	定植時		植穴 土壌混和	
	コジラミ類 アブラムシ類		生育期 但し、 収穫前日まで	2回以内	株元散布	
ミニトマト	コジラミ類	培土 1㎡当たり 10g	は種前	1回	培土混和	5回以内 (培土混和及び灌注は合計1回以内、育苗期の株元散布は1回以内、定植時の土壌混和は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)
	ハモグリバエ類 コジラミ類	1~2g/株	育苗期		株元散布	
	アブラムシ類	1g/株	定植時		植穴 土壌混和	
	コジラミ類 アブラムシ類		生育期 但し、 収穫前日まで	2回以内	株元散布	

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
とうがらし類	アブラムシ類 コジラミ類	1g/株	育苗期	1回	株元散布	4回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布は2回以内)
	アザミヤカ類	1~2g/株	定植時		植穴 土壌混和	
	アブラムシ類	1g/株	生育期 但し、収穫開始 14日前まで		株元散布	
とうがらし (葉)	アザミヤカ類 アブラムシ類	1g/株	定植時 但し、収穫 30日前まで	1回	植穴 土壌混和	3回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
なす	ハダカリハエ類	2g/株	育苗期	1回	株元散布	3回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)
	コジラミ類	1~2g/株				
	アブラムシ類	1g/株				
	ハダカリハエ類 アザミヤカ類 コジラミ類	1~2g/株	定植時	植穴 土壌混和		
	アブラムシ類	1g/株	生育期 但し、 収穫前日まで	2回以内	株元散布	
ピーマン	アブラムシ類 コジラミ類	1g/株	育苗期	1回	株元散布	3回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)
	アザミヤカ類	1~2g/株	定植時		植穴 土壌混和	
	アブラムシ類	1g/株	生育期 但し、 収穫前日まで	2回以内	株元散布	
キャベツ	アブラムシ類	2g/株	育苗期	1回	株元散布	3回以内 (育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び灌注は合計1回以内、散布及び無人航空機散布は合計2回以内)
	アオムシ コガ	2~3g/株	定植時		植穴 土壌混和	
	アブラムシ類	2g/株				
	ハマダラカメカ	3g/株				
はくさい	アオムシ コガ	2~3g/株	定植時	1回	植穴 土壌混和	3回以内 (定植時の土壌混和及び灌注は合計1回以内、散布は2回以内)
	アブラムシ類	2g/株				
	ハマダラカメカ	3g/株				



作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
ブロッコリー	アブラムシ類 コガネ	2g/株	定植時	1回	植穴 土壌混和	3回以内 (定植時の土壌混和及び 灌注は合計1回以内、 散布及び無人航空機散布は 合計2回以内)
だいこん	アブラムシ類	6kg/10a	は種時	1回	播溝 土壌混和	5回以内 (は種時の播溝土壌混和は 1回以内、 は種時の全面土壌混和は 1回以内、 粒剤の散布は1回以内、 水溶剤の散布、液剤の散布 及び無人航空機散布は 合計2回以内)
	キジノミハムシ	4~6kg/10a			全面 土壌混和	
	キジノミハムシ タネバエ	9~12kg/10a	6kg/10a		生育期 但し、収穫 30日前まで	
チンゲンサイ	キジノミハムシ	6kg/10a	定植時	1回	土壌混和	3回以内 (は種時及び定植時の 土壌混和は合計1回以内、 散布は2回以内)
	アブラムシ類 キジノミハムシ		は種時		播溝 土壌混和	
非結球あぶら な科葉菜類(チ ンゲンサイを除 く)	アブラムシ類 キジノミハムシ	6kg/10a	は種時	1回	播溝 土壌混和	3回以内 (は種時の土壌混和は 1回以内、 散布は2回以内)
かぶ	アブラムシ類 キジノミハムシ	6kg/10a	は種時	1回	播溝 土壌混和	3回以内 (は種時の土壌混和は 1回以内、 散布は2回以内)
レタス	モグリバエ	培土 1㎡当たり 15g	は種前	1回	培土混和	4回以内 (は種前の培土混和は 1回以内、 育苗期の株元散布、 定植時の土壌混和及び 育苗トレイへの灌注は 合計1回以内、 散布は2回以内)
		1g/株	育苗期後半		株元散布	
	アブラムシ類 モグリバエ	2g/株	定植時		植穴 土壌混和	
非結球レタス	モグリバエ	培土 1㎡当たり 15g	は種前	1回	培土混和	4回以内 (は種前の培土混和は 1回以内、 育苗期の株元散布、 定植時の土壌混和及び 育苗トレイへの灌注は 合計1回以内、 散布は2回以内)
		1g/株	育苗期後半		株元散布	
	アブラムシ類 モグリバエ	2g/株	定植時		植穴 土壌混和	

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
ねぎ	アザミヤ類 ハモグリバエ類	6kg/10a	は種時	1回	播溝 土壌混和	4回以内 (は種時の土壌混和、 育苗トレイへの灌注及び 定植時の株元散布は 合計1回以内、 生育期の株元灌注は 1回以内、 散布、無人航空機散布及び 定植後の株元散布は 合計2回以内)
	定植時					
	アザミヤ類 クハネコバエ類	6~9kg/10a	生育期 但し、収穫 3日前まで	2回以内	株元散布	
ハモグリバエ類						
わけぎ	アザミヤ類 ハモグリバエ類	6kg/10a	生育期 但し、収穫 21日前まで	1回	株元散布	4回以内 (定植後の株元散布は 1回以内、 生育期の株元灌注は 1回以内、 散布は2回以内)
にんじん	ハモグリバエ類	9kg/10a	は種時	1回	播溝 土壌混和	4回以内 (は種時の土壌混和は 1回以内、 生育期の株元灌注は 1回以内、 散布は2回以内)
ほうれんそう	アブラムシ類	6kg/10a	は種時	1回	播溝 土壌混和	3回以内 (は種時の土壌混和は 1回以内、散布は2回以内)
セリ	アブラムシ類	2g/株	定植時	1回	植穴 土壌混和	3回以内 (定植時の土壌混和は 1回以内、散布は2回以内)
いちご	ワタアブラムシ	0.5~1g/株	定植時	1回	植穴 土壌混和	1回
くわい	アブラムシ類	3kg/10a	収穫 30日前まで	3回以内	散布	3回以内
らっきょう	アザミヤ類	6kg/10a	生育期 但し、収穫 前日まで	3回以内	散布	3回以内
オクラ	アブラムシ類	9kg/10a	生育期 但し、収穫開始 14日前まで	1回	株元散布	3回以内 (株元散布は1回以内、 散布は2回以内)
しょうが	クハネコバエ類	9kg/10a	生育期 但し、収穫 14日前まで	1回	株元散布	3回以内 (株元散布は1回以内、 散布は2回以内)
実えんどう	ハモグリバエ類	9kg/10a	生育期 但し、収穫開始 14日前まで	1回	株元散布	3回以内 (株元散布は1回以内、 散布は2回以内)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
さやえんどう	ハモグリバエ類	9kg/10a	生育期 但し、収穫開始 14日前まで	1回	株元散布	3回以内 (株元散布は1回以内、 散布は2回以内)
さやいんげん	アブラムシ類	9kg/10a	生育期 但し、収穫開始 14日前まで	1回	株元散布	3回以内 (株元散布は1回以内、 散布は2回以内)
だいず	フタスジヒメハムシ	6kg/10a	は種時	1回	播溝 土壌混和	3回以内 (は種時の土壌混和は 1回以内、 散布、空中散布、 無人航空機散布は 合計2回以内)
えだまめ	フタスジヒメハムシ	6kg/10a	は種時	1回	播溝 土壌混和	3回以内 (は種時の土壌混和は 1回以内 、散布、空中散布、 無人航空機散布は 合計2回以内)
しそ	マデイロコカケラムシ	2g/株 (但し、10a 当り 25kg まで)	定植時	1回	植穴 土壌混和	3回以内 (定植時の土壌混和は 1回以内、 散布は2回以内)
食用ぎく	アブラムシ類	1g/株 (但し、10a 当り 30kg まで)	定植時	1回	植穴 土壌混和	3回以内 (定植時の土壌混和は 1回以内、 散布は2回以内)
	マハモグリバエ	2g/株 (但し、10a 当り 30kg まで)				
しゅんぎく	ハモグリバエ類	9kg/10a	は種時	1回	播溝 土壌混和	3回以内 (は種時及び定植時の 土壌混和は合計1回以内、 散布は2回以内)
			定植時		植溝 土壌混和	
ふき	アブラムシ類	20kg/10a	定植後～生育期 (草丈20cm頃 まで)但し、 収穫45日前まで	1回	土壌表面 散布	3回以内 (土壌表面散布は1回以内、 散布は2回以内)
葉ごぼう	アブラムシ類	6kg/10a	は種時	1回	全面 土壌混和	2回以内 (は種時の全面土壌混和は 1回以内、 生育期の株元散布は 1回以内)
			生育期 但し、収穫 21日前まで		株元散布	
茶	クワシカケラムシ	12kg/10a	摘採7日前まで	2回以内	株元 土壌混和	2回以内

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
さとうきび	カンジャコバネガカムシ	6～9kg/10a	生育期 但し、収穫 45 日前まで	2 回以内	散布	5 回以内 (粒剤は 2 回以内、液剤、 水溶剤及び水和剤は 合計 3 回以内)
	メイトウ類	9kg/10a				
かんきつ(苗木)	シハモグリガ	20g/株	育苗期	5 回以内	株元散布	5 回以内
なし(苗木)	アブラムシ類	20g/株 (但し、10a 当り 110kg まで)	育苗期	1 回	株元散布	1 回
きく	マハモグリバエ	2g/株 (但し、10a 当り 30kg まで)	定植時	1 回	植穴 土壌混和	5 回以内 (土壌混和は 1 回以内)
	コジラミ類 アブラムシ類	1g/株 (但し、10a 当り 30kg まで)				
	アブラムシ類	20kg/10a	生育期	5 回以内	株元散布	
がーべら	マハモグリバエ	2g/株 (但し、10a 当り 30kg まで)	定植時	1 回	植穴 土壌混和	5 回以内 (土壌混和は 1 回以内)
	コジラミ類 アブラムシ類	1g/株 (但し、10a 当り 30kg まで)				
	アブラムシ類	20kg/10a	生育期	5 回以内	株元散布	
花き類・観葉植物 (きく、がーべら を除く)	コジラミ類 アブラムシ類	1g/株 (但し、10a 当り 30kg まで)	定植時	1 回	植穴 土壌混和	5 回以内 (土壌混和は 1 回以内)
	アブラムシ類	20kg/10a	生育期	5 回以内	株元散布	
つつじ類	ツツジゲンハイ	6kg/10a	発生初期	5 回 以内	株元散布	5 回以内
いぐさ	イグサシムシガ	3～6kg/10a	発生初期	2 回 以内	散布	2 回以内

#### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 本剤を水稻及びいぐさに使用する場合には、湛水状態（3cm 程度）で田面に均一に散布し、45 日間は湛水状態を保ち、散布後 7 日間は落水やかけ流しをしないこと。
- (3) 本剤をくわいに使用する場合には、田面に均一に散布し散布後 45 日間は湛水状態を保ち、散布後 7 日間は落水やかけ流しをしないこと。
- (4) つまみ菜・間引き菜には使用しないこと。
- (5) 本剤の株元散布を行う際は、処理直後に灌水すること。
- (6) かんきつ及びびなしに用いる場合は、今期に収穫見込のない苗木に対して株元散布し、処理後は軽く散水すること。なお、本剤を散布してから効果を発揮するまでにある程度の期間を要するため、対象害虫の発生前に予防的に散布すること。
- (7) ふきに使用する場合には、葉に付着した薬剤は払い落とすこと。
- (8) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。

- (9) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
- 1) ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - 2) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (10) 容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (11) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。とくに適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

**人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法**-----

街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用后（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨**-----

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨**-----

通常の使用方法ではその該当がない。

**貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 24240 号

## エミリア®フロアブル

- 特長：
- 新規有効成分の「フルピリミン」が、既存剤に抵抗性を持った害虫にも効果を発揮します。
  - ウンカ類、ツマグロヨコバイ、カメムシ類に高い効果を発揮します。速効的かつ持続的に作用し、カメムシ類による斑点米の被害を減らします。
  - ミツバチを始め、ウズキコモリグモ、ヤゴなどの有用昆虫に影響はほとんどありません。

エミリアは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	フルピリミン・・・10.0%	包装	500ml×20 5L×4
性状	褐色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルピリミンを含む 農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類 イネノメイシ	1000倍	60～150 L/10a	収穫7日前 まで	2回以内	散布	3回以内 (直播での場合は種時 又は移植時までの処理は 1回以内、 本田では2回以内)
		250倍	25L/10a				
		8倍	0.8L/10a			無人航空機による 散布	

### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 使用の際は容器をよく振って均一な状態にして使用すること。
- (3) 散布液調製後はそのまま放置せずできるだけ速やかに散布すること。
- (4) 本剤を無人航空機による散布で使用する場合には次の注意事項を守ること。
  - 1) 散布液の飛散によって他の動植物等への危被害あるいは自動車の塗装などへ被害を与えるおそれがあるなど、各分野に影響があるので、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
  - 2) 微量散布装置以外の散布器具は使用しないこと。
  - 3) 各散布機種種の散布基準に従って実施すること。
  - 4) 散布中薬液の漏れないように機体の散布用配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
  - 5) 散布終了後は次の項目を守ること。
    - a) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使い切ること。
    - b) 機体の散布装置は十分洗浄し、薬剤タンクの洗浄廃液は、河川等に流さないこと。
- (5) 本田の水稻に対して希釈倍数250倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を用いること。
- (6) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (7) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。  
作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきることを。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 22725 号

## キックオフ®顆粒水和剤

- 2種類の有効成分で幅広い害虫に効果を発揮します。  
 特長： ●速攻的な殺虫・被害抑制効果に加えて、長い残効があります。  
 ●育苗トレイに灌注することもできるため、均一かつ省力的な処理も可能です。

キックオフは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	クロラントラニリプロール（化管法第1種）・・・4.0% ジノテフラン（化管法第1種）・・・15.0%	包装	250g×40
性状	類白色水和性細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用害虫及び使用方法】

2022年10月12日付内容

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用回 数	使用 方法	クロラントラ ニリプロール を含む農薬の 総使用回数	ジノテフランを 含む農薬の 総使用回数
なし	カミシ類	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回 以内	散布	3回以内	3回以内
もも	シクムシ類 カミシ類 ハマキムシ類 モモハグサ	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	2回 以内	散布	2回以内	3回以内
初刈り	シクムシ類 カミシ類 ハマキムシ類 モモハグサ	2000倍	200～700 L/10a	収穫3日 前まで	2回 以内	散布	2回以内	3回以内
うめ	カミシ類 カミシ類	2000倍	200～700 L/10a	収穫14 日前まで	3回 以内	散布	3回以内	3回以内
かき	コカガラムシ類 カキハナムガ カミシ類 アザミヤ類 カミシ類	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回 以内	散布	3回以内	4回以内 (塗布は1回以内、 散布は3回以内)
キャベツ	アブラムシ類 コカガ アオムシ ヨトウムシ ハモンヨトウ ハマダラメカイ アザミヤ類	100倍	セル成型育苗トレイ 1箱または ペーパーポット1冊 (30×60cm・ 使用土壌 約1.5～4.0L) 当り0.5L	定植前日 ～定植時	1回	灌注	4回以内 (定植時までの 処理は 1回以内、 定植後の 処理は 3回以内)	3回以内 (育苗期の株元散布、 定植時の土壌混和 及び灌注は 合計1回以内、 散布及び無人航空機 散布は合計2回以内)



作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
はくさい	アブラムシ類 コガ アムシ ヨウムシ ハイマダラメカイ	100倍	セル成型育苗トレイ 1箱または ペーパーポット1冊 (30×60cm・ 使用土壌 約1.5～4.0L) 当り0.5L	定植前日 ～定植時	1回	灌注	4回以内 (定植時までの 処理は 1回以内、 定植後の 処理は 3回以内)	3回以内 (定植時の土壌混和 及び灌注は 合計1回以内、 散布は2回以内)
ブロッコリー	アブラムシ類 コガ アムシ ハモンヨウ ヒメダクイソバエ	100倍	セル成型育苗トレイ 1箱または ペーパーポット1冊 (30×60cm・ 使用土壌 約1.5～4.0L) 当り0.5L	定植前日 ～定植時	1回	灌注	4回以内 (定植時までの 処理は 1回以内、 定植後の処理 は3回以内)	3回以内 (定植時の土壌混和 及び灌注は 合計1回以内、 散布及び無人航空機 散布は合計2回以内)
レタス	アブラムシ類 オタバコガ カブラヤカ ナメコリバエ ハモンヨウ	100倍	セル成型育苗トレイ 1箱または ペーパーポット1冊 (30×60cm・ 使用土壌 約1.5～4.0L) 当り0.5L	定植前日 ～定植時	1回	灌注	4回以内 (定植時までの 処理は 1回以内、 定植後の処理 は3回以内)	4回以内 (は種前の培土混和は 1回以内、 育苗期の株元散布、 定植時の土壌混和 及び育苗トレイへの 灌注は合計1回以内、 散布は2回以内)
非結球 レタス	アブラムシ類 オタバコガ カブラヤカ ナメコリバエ ハモンヨウ	100倍	セル成型育苗トレイ 1箱または ペーパーポット1冊 (30×60cm・ 使用土壌 約1.5～4.0L) 当り0.5L	定植前日 ～定植時	1回	灌注	4回以内 (定植時までの 処理は 1回以内、 定植後の処理 は3回以内)	4回以内 (は種前の培土混和は 1回以内、 育苗期の株元散布、 定植時の土壌混和 及び育苗トレイへの 灌注は合計1回以内、 散布は2回以内)
ねぎ	ナメコリバエ類 アザミヤカ類 シイロシヨウ クハネノコバエ類	100倍	セル成型育苗トレイ 1箱または ペーパーポット1冊 (30×60cm・ 使用土壌 約1.5～4.0L) 当り0.5L	定植前日 ～定植時	1回	灌注	4回以内 (灌注は 1回以内、 定植後の処理 は3回以内)	4回以内 (は種時の土壌混和、 育苗トレイへの灌注及び 定植時の株元散布は 合計1回以内、 生育期の株元 灌注は1回以内、 散布、無人航空機散 布及び定植後の株元 散布は合計2回以内)
さとうき び	カンシヤコバネガカミシ サウキヒビヒアザミヤ アヲヨウ ツコ類 アブラムシ類 メイトウ類 ツマジロクサヨウ	2000倍	100～300 L/10a	収穫30 日前まで	3回 以内	散布	4回以内 (粒剤は 1回以内、 水和剤は 3回以内)	5回以内 (粒剤は2回以内、 液剤、水溶剤及び 水和剤は 合計3回以内)

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量にあわせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 本剤をセル苗に使用する際は、調製液をセル成型育苗トレイまたはペーパーポット上方から灌注すること。また、本剤が土壤に十分に吸収されないおそれがあるので処理直前や直後の灌水はさけること。
- (3) はくさいに使用する場合は、軟弱徒長苗、高温乾燥時、あるいは過剰使用により、葉縁が退色するなど薬害を生ずる恐れがあるので、健苗を用意して、適切な温度管理につとめ、所定の使用液量、濃度、使用時期を厳守して使用すること。
- (4) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (5) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - 1) ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - 2) 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
  - 3) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (6) 空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (7) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (8) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。使用後は洗眼すること。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

## 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

# コロマイト®水和剤

**特長：**

- 土中の放線菌が生産する天然物から見出された原体であるため、有機JASに適合した農業でも利用可能な薬剤です。<sup>\*</sup>
- ハダニ類・サビダニ類・チャノホコリダニなどを広範にカバーします。
- 優れた即効性を有し、ハダニの卵から成虫まで全ステージへ効果を示します。

<sup>\*</sup>：ただし、地方自治体が独自に定める農薬使用基準ではカウントされる場合がありますので、必ず地方自治体の関係機関に確認して下さい。

コロマイトは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ミルベメクチン・・・2.0%	包装	100g×100 500g×20
性状	類白色水和性粉末 45μm以下	有効年限	5年
毒性	普通物 <sup>*</sup>	危険物	-

<sup>\*</sup>普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

**【適用害虫及び使用方法】**

2021年7月7日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ミルベメクチンを含む農薬の総使用回数
かんきつ	ハダニ類 チャノホコリダニ ミカンキジラミ	2000倍	500～700 L/10a	収穫7日前 まで	2回以内	散布	2回以内
	シロシバダニ	2000～3000倍					
りんご	ハダニ類	2000倍	400～700 L/10a	収穫前日 まで	1回	散布	1回
なし	ハダニ類 ニセシロシバダニ	2000倍	400～700 L/10a	収穫前日 まで	1回	散布	1回
いちじく	ハダニ類	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	1回	散布	1回
ぶどう	ハダニ類	2000倍	200～700 L/10a	収穫7日前 まで	2回以内	散布	2回以内
すいか	ハダニ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	2回以内	散布	2回以内
メロン	ハダニ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2回以内	散布	2回以内
きゅうり	ハダニ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2回以内	散布	2回以内
なす	ハダニ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2回以内	散布	2回以内
いちご	ハダニ類 シクラメンホコリダニ	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2回以内	散布	2回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ミルベメクチンを含む農薬の総使用回数
ふき	ハダニ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
食用ぎく	ハダニ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	1回	散布	1回
きく	ハダニ類	2000倍	100～300 L/10a	発生初期	2回以内	散布	2回以内
げっきつ	シカヅラ	2000倍	100～300 L/10a	発生初期	2回以内	散布	2回以内
ばら	ハダニ類	2000倍	100～200 L/10a	発生初期	2回以内	散布	2回以内
りんどう	ハダニ類	2000倍	100～500 L/10a	発生初期	2回以内	散布	2回以内

●温室、ガラス室等密閉できる場所

作物名	適用病害虫名	使用量	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ミルベメクチンを含む農薬の総使用回数
大粒種ぶどう	ハダニ類	150g/10a	15L/10a	収穫7日前まで	2回以内	常温 煙霧	2回以内
みかん	ハダニ類	200g/10a	20L/10a	収穫7日前まで	2回以内	常温 煙霧	2回以内

使用上の注意事項

- (1) ハウスなどの常温煙霧用として使用する場合は下記の注意事項を守ること。
  - 1) 煙霧用として使用する場合は、専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧すること。
  - 2) 作業はできるだけ夕刻行い、作業終了後6時間以上密閉すること。
- (2) 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節すること。
- (3) ハダニ類は繁殖が早く、密度が高くなると防除が困難になるので、発生初期に散布むらのないようについていねいに散布すること。
- (4) 本剤の連続散布は、ハダニ類の本剤に対する抵抗性を増加させるおそれがあるので、できるだけ年1回の散布とし、他の殺ダニ剤との輪番で使用する。
- (5) 高温、乾燥時の散布は薬害のおそれがあるのでさけること。
- (6) 洋なし（ル・レクチェ）に使用する場合は、薬害のおそれがあるので袋かけ後に散布すること。
- (7) なすに使用する場合は、効果を落さず薬害をさけるために、炎天下をさけなるべく夕方に散布すること。
- (8) ぶどうに使用する場合は、果実に汚れが生じるおそれがあるので注意すること。
- (9) 蚕に長期間毒性があるので、桑葉にかからないように注意すること。
- (10) ミツバチに対して軽度の影響があるので、以下のことに注意すること。
  - 1) ミツバチの巣箱に直接かからないようにすること。
  - 2) 関係機関（都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (11) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (12) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 粉末は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 常温煙霧中はハウス内へ入らないこと。また、常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室すること。
- (3) 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 18406 号

コロマイト<sup>®</sup>乳剤

- 土中の放線菌が生産する天然物から見出された原体であるため、有機 JAS に適合した農業でも利用可能な薬剤です\*。
- ハダニ類・サビダニ類・チャノホコリダニなどを広範にカバーするとともに、ダニ以外でもハモグリバエ類やコナジラミ類の幼虫、野菜害虫にも優れた効果を発揮します。
- 優れた即効性を有し、ハダニの卵から成虫まで全ステージへ効果を示します。
- ミツバチ、マルハナバチへの安全日数は1日です。
- \*：ただし、地方自治体が独自に定める農薬使用基準ではカウントされる場合がありますので、必ず地方自治体の関係機関に確認して下さい。

コロマイトは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ミルベメクチン・・・1.0%	包装	500ml×20
その他化管法該当成分	トリメチルベンゼン(化管法第1種)・・・11% ポリ(オキシエチレン)=アルキルフェニルエーテル(アルキル基の炭素数が9のものに限る。)(化管法第1種)・・・2.0%		
性状	淡黄色澄明可乳化油状液体	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	2 石-III (指定数量1000L(非水溶性))

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用害虫及び使用方法】

2023年2月8日付内容

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ミルベメクチンを含む農薬の総使用回数
りんご	-	ハダニ類 キモンホガ リンゴサビダニ コナジラミ	1000倍	200~700 L/10a	収穫前日まで	1回	散布	1回
もも	-	ハダニ類 モモサビダニ	1000倍	200~700 L/10a	収穫7日前まで	1回	散布	1回
初刈ン	-	ハダニ類 モモサビダニ	1000倍	200~700 L/10a	収穫7日前まで	1回	散布	1回
小粒核果類	-	ハダニ類	1000倍	200~700 L/10a	収穫前日まで	1回	散布	1回
いちじく	-	ハダニ類	1000倍	200~700 L/10a	収穫前日まで	1回	散布	1回
なし	-	ニセサビダニ	1000倍	200~700 L/10a	収穫前日まで	1回	散布	1回
		ハダニ類	1000~1500倍					
おうとう	-	ハダニ類	1000倍	200~700 L/10a	収穫7日前まで	1回	散布	1回

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ミルベメクチンを含む農薬の総使用回数
パパイヤ	-	ハダニ類	1000倍	200~700 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
あずき	-	ハダニ類	1000~2000倍	100~150 L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
だいず	-	ハダニ類	1500倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
いんげんまめ	-	ハダニ類	1500倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
豆類 (未成熟)	-	ハダニ類	1500倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
いちご (親株床)	-	ハダニ類	1000~1500倍	100~300 L/10a	仮植前まで	2回以内	散布	2回以内
なす	-	ハダニ類 ハモグリバエ類 コジラミ類 チャノホリガニ	1500倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
トマト	-	ハモグリバエ類 トマトヒダニ コジラミ類	1500倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
ミニトマト	-	ハモグリバエ類 トマトヒダニ コジラミ類	1500倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
ピーマン	-	ハダニ類 コジラミ類	1000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
		チャノホリガニ	1000~1500倍					
ししとう	-	コジラミ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	1回	散布	1回
甘長とうがらし	-	コジラミ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	1回	散布	1回
きゅうり	-	ハダニ類 チャノホリガニ コジラミ類	1000~1500倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
		ハモグリバエ類	1000倍					
きゅうり(花)	-	ハダニ類 コジラミ類	1500倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内
きゅうり(葉)	-	ハダニ類 コジラミ類	1500倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ミルベメクチンを含む農薬の総使用回数
食用へちま	-	ハダニ類	1000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
すいか	-	ハダニ類	1000倍	100~300 L/10a	収穫7日まで	2回以内	散布	2回以内
メロン	-	ハダニ類 コジラミ類 ハモグリバエ類	1000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
しそ科葉菜類 (えごま(葉)、しそを除く)	-	ハダニ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	1回	散布	1回
えごま(葉)	-	ハダニ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
しそ	-	サビダニ類 チャノホリダニ ハダニ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
しそ(花穂)	-	ハダニ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	1回	散布	1回
モロヘイヤ	-	ハダニ類	1500倍	300 L/10a	収穫前日まで	1回	散布	1回
エンサイ	-	ハダニ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	1回	散布	1回
ふだんそう	-	ハダニ類	1500倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
アスパラガス	-	ハダニ類	1000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
さんしょう(葉)	-	ハダニ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	1回	散布	1回
なんてん(葉)	-	ハダニ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	1回	散布	1回
せんぶり	-	シラミホリダニ	1000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	1回	散布	1回
せり科葉菜類 (みつば、コリアンダー(葉)、セルリー、せり(水耕栽培、あしたば)を除く)	-	ハダニ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	1回	散布	1回



作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ミルベメクチンを含む農薬の総使用回数
あしたば	-	ハダニ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	1回	散布	1回
みつば	-	ハダニ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで ただし、伏せ込み栽培は伏せ込み前まで	2回以内	散布	2回以内
コリアンダー(葉)	-	ハダニ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	1回	散布	1回
セリ	-	ハダニ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内
せり(水耕栽培)	ガラス室等の施設	ハダニ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
かんしょ	-	ハダニ類	1000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
さといも	-	ハダニ類	1000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
さといも(葉柄)	-	ハダニ類	1000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
はすいも(葉柄)	-	ハダニ類	1000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
やまのいも	-	ハダニ類	1000倍	100~500 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
やまのいも(むかご)	-	ハダニ類	1000倍	100~500 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
みょうが(花穂)	-	ハダニ類	1000倍	100~400 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布、但し花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用する	2回以内
みょうが(茎葉)	-	ハダニ類	1000倍	100~400 L/10a	みょうが(花穂)の収穫前日まで 但し、花穂を収穫しない場合にあつては開花期終了まで	2回以内	散布	2回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ミルベメクチンを含む農薬の総使用回数
食用金魚草	-	ハダニ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
食用なでしこ	-	ハダニ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
しょくようほおずき	-	ハダニ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
食用ニバラ	-	ハダニ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
食用プリムラ	-	ハダニ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	1回	散布	1回
食用カーネーション	-	ハダニ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	1回	散布	1回
食用エゾガム	-	ハダニ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	1回	散布	1回
食用せんにちこう	-	ハダニ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	1回	散布	1回
食用トリア	-	ハダニ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	1回	散布	1回
食用パンジー	-	ハダニ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	1回	散布	1回
きく(葉)	-	ハモグリバエ類 ハダニ類	1500倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
きく	-	ハモグリバエ類 ハダニ類	1500倍	100～300 L/10a	-	2回以内	散布	2回以内
宿根かすみそう	-	ハダニ類	1000～1500倍	100～200 L/10a	-	2回以内	散布	2回以内

#### 使用上の注意事項

- (1) ハダニ類は繁殖が早く、密度が高くなると防除が困難になるので、発生初期に散布むらのないようによく散布すること。
- (2) 本剤の連続散布は、ハダニ類の本剤に対する抵抗性を増加させるおそれがあるので、できるだけ年1回の散布とし、他の殺ダニ剤との輪番で使用する。
- (3) ハモグリバエ防除に使用する場合は、老齢幼虫に対する効果が劣る場合があるので発生初期に時期を失せず、散布すること。
- (4) 高温、乾燥時の散布は葉害のおそれがあるのでさけること。
- (5) 展着剤によっては葉害を生ずるおそれがあるので、展着剤混用の際は事前にその適否を確認してから使用すること。
- (6) りんごに使用する場合は、混用散布すると新しょう基部及び果そう部小葉が黄化する場合があるので注意すること。
- (7) なしに使用する場合は、葉害のおそれがあるので6月以前には使用しないこと。
- (8) 洋なし(ル・レクチュ)に使用する場合は、葉害のおそれがあるので袋かけ後に散布すること。
- (9) なすに使用する場合は、効果を落さず葉害をさけるために、炎天下をさけるべく夕方に散布すること。
- (10) なすの水なす及び加茂なす(大芹川種)には葉害のおそれがあるので、使用しないこと。
- (11) いちごに使用する場合は、親株床以外では葉害を生ずるおそれがあるので、親株床以外では使用しないこと。

- (12) 施設栽培いちじくでは果実や葉に薬害を生じるおそれがあるので、散布した薬液が乾きにくい条件での散布をさけること。特に梅雨時など、日照が少なく果実が着色しにくい時期の使用をさけること。なお、使用に際しては病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (13) せり（水耕栽培）に使用する場合、本剤を使用した施設からの廃液をかんがい水路、排水路、河川等には絶対に流さず、適切に処理すること。
- (14) 蚕に長期間毒性があるので、桑葉にかからないように注意すること。
- (15) ミツバチに対して軽度の影響があるので、以下のことに注意すること。
  - 1) ミツバチの巣箱に直接かからないようにすること。
  - 2) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (16) 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節すること。
- (17) 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないように注意すること。
- (18) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 原液は皮膚に対して刺激性があるので、散布液調製時には手袋を着用して薬剤が皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。また散布液を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

危険物第四類第二石油類に属するので火気には十分注意すること。

#### 貯蔵上の注意事項-----

火気をさけ、直射日光の当たらない低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 21694 号

## サブリーナ®フロアブル

- 使用時に調整しやすいフロアブルのBT剤です。
- 特長： ●JAS（日本農林規格）が定める有機農産物生産にも使用することができます。
- 卵期処理で孵化直後のコナガに効果があります。

サブリーナは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	バチルス・チューリンゲンシス菌の生芽胞および産生結晶毒素（力価として1,000B.m.m 単位/mg）・・・ 10.0%	包装	500ml×10
性状	褐色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	第四類第三石油類

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	BTを含む農薬の総使用回数
野菜類(はくさい、えごま(葉)を除く)	コガ	1000~1500倍	100~300 L/10a	発生初期収穫 前日まで	-	散布	-
	アムシ ヨウムシ	1000倍					
	ハスモンヨトウ	500~750倍					
	オオカ コガ	500倍					
はくさい	コガ	1000~1500倍	100~300 L/10a	発生初期収穫 前日まで	-	散布	-
	アムシ ヨウムシ	1000倍					
えごま(葉)	コガ	1000~1500倍	100~300 L/10a	発生初期収穫 前日まで	-	散布	-
	アムシ ヨウムシ ベニキナメダ	1000倍					
	ハスモンヨトウ	500~750倍					
	オオカ コガ	500倍					
えごま(種子)	ベニキナメダ	1000倍	100~300 L/10a	発生初期収穫 前日まで	-	散布	-
からしな(種子)	アムシ コガ ヨウムシ	1000倍	100~300 L/10a	発生初期収穫 前日まで	-	散布	-
	ハスモンヨトウ	500~750倍					

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用方法	BTを含む農薬 の総使用回数
豆類(種実)	ヨウムシ	1000倍	100~300 L/10a	発生初期収穫 前日まで	-	散布	-
	ハスモンヨトウ	500~750倍					
	材カバコガ	500倍					
いも類	ヨウムシ	1000倍	100~300 L/10a	発生初期収穫 前日まで	-	散布	-
	ハスモンヨトウ	500~750倍					
	材カバコガ	500倍					
雑穀類(ひえを除く)	アワメイガ	1000倍	100~300 L/10a	発生初期収穫 前日まで	-	散布	-
ひえ	アワメイガ イネトウ	1000倍	100~300 L/10a	発生初期収穫 前日まで	-	散布	-
飼料用とうもろこし	アワメイガ	1000倍	100~300 L/10a	発生初期収穫 前日まで	-	散布	-
食用ほおのき(葉)	マメイガ	1000倍	200~700 L/10a	発生初期収穫 前日まで	-	散布	-
食用さくら(葉)	ケムシ類	1000倍	200~700 L/10a	発生初期収穫 前日まで	-	散布	-
食用さくら(花)	ケムシ類	1000倍	200~700 L/10a	発生初期収穫 前日まで	-	散布	-
茶	チャノコカゲンハマキ チャハマキ チャノボガ	1000倍	200~400 L/10a	発生初期摘採 7日前まで	-	散布	-
樹木類	ケムシ類	1000倍	200~700 L/10a	発生初期	-	散布	-

#### 使用上の注意事項

- (1) 使用前によく振ってから使用すること。
- (2) 使用量に合わせて薬液を調製し、使いきること。
- (3) 本剤の所定量を所定量の水にうすめ、十分かきまぜて散布液を調製すること。
- (4) はくさいに対しては薬害を生じるおそれがあるので、所定の希釈倍数を厳守すること。
- (5) たかずに使用する場合、高温期には薬害を生じることがあるので注意して使用すること。
- (6) 展着剤を加用すると薬害を生じる場合があるので、展着剤の加用に当たっては事前にその適否を確認すること。
- (7) 石灰硫黄合剤、ボルドー液などの農薬及びアルカリ性の強い葉面散布施用の肥料とは混用しないこと。
- (8) 散布液調製後はそのまま放置せず、できるだけ速やかに散布すること。
- (9) 本剤は若齢幼虫に効果が高いので、若齢幼虫期に時期を失せず散布すること。
- (10) 蚕に対する毒性があるので、養蚕地帯及び養蚕農家、共同飼育場などの周辺では使用しないこと。また、これら以外の場所でも付近に桑園がある場合、飛散してかからないように、風向きなどに十分注意して散布すること。なお本剤の使用に当たっては散布地域の使用規制に従うこと。
- (11) コレマンアブラバチの活動に影響を及ぼす可能性があるため注意すること。
- (12) ミツバチに対して影響があるので、以下の点に注意すること。
  - 1) ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
  - 2) 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設等では使用をさけること。なお、ミツバチを放飼する場合は散布後、1日以上たってから行うこと。
  - 3) 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。

- (13) 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。
- (14) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

**人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法**-----

- (1) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (2) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (3) かぶれやすい体質の人は、作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- (4) 夏期高温時の使用をさけること。
- (5) 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後少なくとも散布当日に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨**-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨**-----

危険物第4類第3石油類に属するので火気には十分注意すること。

**貯蔵上の注意事項**-----

火気や直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 22469 号

## サムコル®フロアブル 10

- 特長：
- シンクイムシ類やハマキムシ類などのチョウ目害虫に優れた効果のある果樹・茶用殺虫剤です。
  - 適用作物・天敵・訪花昆虫への安全性も兼ね備えています。
  - 直接的な殺虫効果だけでなく、害虫の配偶行動を阻害して、次世代の産卵数を減らし、圃場内の害虫密度を低減する効果も確認されています。

サムコルはFMC Corporation またはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標です

有効成分	クロラントラニプロール(化管法第1種)・・・10.0%	包装	200ml×10×4 500ml×20
性状	淡褐色水性和性粘稠懸濁液体	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用作物及び使用方法】

2023年8月23日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数
りんご	シンクイムシ類 ハマキムシ類 ケムシ類 キンモンホリガ キンモンホリガガ ヒボクトリ モキエダシヤク オオカバコガ	2500～5000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
なし	ケムシ類 シンクイムシ類 ハマキムシ類 ヒボクトリ	2500～5000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
かき	ハマキムシ類 ケムシ類 ヒロヘリアオイラガ カキハタムシガ ハスモントリ フタモンタテメカガ	5000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
ぶどう	ハマキムシ類 ケムシ類 モキクロノメカガ クビアカサシバ	5000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
おうとう	コサシバ ハマキムシ類 ケムシ類	2500～5000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
	オウゴンヨウジヨウバエ	2500倍					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数
うめ	ケムシ類 ノメカガリリガ コスカシバ	2500～5000 倍	200～700 L/10a	収穫 14 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	ハマキムシ類	2500 倍					
すもも	シクイムシ類	2500 倍	200～700 L/10a	収穫 3 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	ケムシ類 ハマキムシ類	2500～5000 倍					
あんず	ケムシ類 ハマキムシ類	2500 倍	200～700 L/10a	収穫 3 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
ふさすぐり	スガリコスカシバ	2500 倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
もも	シクイムシ類 ハマキムシ類 モモハモガリガ コスカシバ	5000 倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
初刈り	シクイムシ類 ハマキムシ類 モモハモガリガ コスカシバ	5000 倍	200～700 L/10a	収穫 3 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
さとうきび	メイトウ類 ツマジロクサヨトウ	5000 倍	100～300 L/10a	収穫 30 日前 まで	3 回以内	散布	4 回以内 (粒剤は 1 回以内、 水和剤は 3 回以内)
		50 倍	2.4 L/10a			無人航 空機に よる散 布	
茶	チャノコカクモンハマキ チャハマキ モギエダシヤク	2000 倍	200～400 L/10a	摘採 3 日前 まで	1 回	散布	1 回
	チャノボリガ ハスモンヨトウ	2000～4000 倍					

#### 使用上の注意事項

- (1) 使用前によく振ってから使用すること。
- (2) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (3) 散布液調製後はできるだけ速やかに散布すること。
- (4) 使用液量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせて調節すること。
- (5) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意事項を守ること。
  - 1) 散布は散布機種種の散布基準に従って実施すること。
  - 2) 散布に当っては散布機種種に適合した散布装置を使用すること。
  - 3) 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
- (6) 過度の連用をさけ、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせ使用すること。
- (7) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかかからないようにすること。
- (8) 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理すること。洗浄水はタンクに入れること。



- (9) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (3) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 散布の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して薬剤が皮膚に付着しないよう注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 23398 号

## スクミンベイト®3

●製剤がスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）に好んで食べられることで、稲を食害できなくなり、殺貝へと至る剤です。  
●有機農産物生産に使用が認められた資材ですので、散布回数の制限がありません。

スクミンベイトはドイツ・W. Neudorff 社の登録商標です。

有効成分	磷酸第二鉄水和物・・・3.0%	包装	2kg×8
性状	淡緑色粒状	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用害虫及び使用方法】

2022年7月20日付内容

作物名	適用病虫害名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	磷酸第二鉄を含む農薬の総使用回数
稲	スクミリンゴガイ	2~4 kg/10a	発生時	-	散布	-
					無人航空機による散布	
れんこん	スクミリンゴガイ	4kg/10a	発生時	-	散布	-
					無人航空機による散布	

## 使用上の注意事項

- 本剤は湛水状態で均一に散布すること。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次のことに注意すること。
  - 散布は散布機種 of 散布基準に従って実施すること。
  - 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整し、飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、散布装置のインペラの回転数を調整し、ほ場の端から5m離れた位置からほ場内に散布すること。
  - できるだけ風の弱い時間に散布すること。
  - 散布薬剤の飛散によって他の動植物等へ影響を与えないよう散布区域の選定に注意するとともに、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
  - 薬剤が水源池、飲料用水、養殖池、養魚田などに飛散、流入しないように十分注意すること。
  - 使用後の機体散布装置は十分洗浄し、タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。使用残りの薬剤は必ず安全な場所に責任者を決めて保管すること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

通常の使用方法ではその該当がない。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----  
この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----  
通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----  
直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 20811 号

## スタークル®顆粒水溶剤 (JA)

- 散布、灌注、セルトレイ処理など、多くの作物の様々な使用方法に対応できる、使い勝手の良い殺虫剤です。
- 植物体内に浸透移行して速やかに効果を発揮します。
- 野菜のコナジラミ類、果樹のコナカイガラムシ、カメムシ類に高い効果を示します。

スタークルは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ジノテフラン (化管法第1種)・・・20.0%	包装	100g×50 500g×20
その他化管法該当成分	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩 (アルキル基C=10~14及びその混合物) (化管法第1種)・・・1.8%		
性状	淡青緑色水溶性細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用害虫及び使用方法】

2021年12月22日付内容

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	-	カメムシ類	2000倍	60~150 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)
		ウカ類 ツマグロヨコバイ	3000倍					
水田作物、畑作物 (休耕地)	珙、柁、スズ、セウカ、ワチウ等 の多年生雑草が優占している休耕地	カメムシ類	2000倍	60~150 L/10a	-	3回以内	散布	3回以内
とうもろこし (子実)	-	ムギクビレアブラムシ カメムシ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
未成熟とうもろこし	-	アブラムシ類 カメムシ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
もも	-	モモツヨキリゾウムシ アブラムシ類 モモクワガタ シクイムシ類 カメムシ類	2000倍	200~700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
ネクタン	-	モトヨウキリゾウムシ アブラムシ類 モモハゲリガ シクイムシ類 カメムシ類	2000倍	200~700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
おうとう	-	オトウシヨウジヨウバエ カメムシ類	2000倍	200~700 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
かき	-	カメムシ類 コカカゲラムシ類 カキハナムカ アザミヤカ類	2000倍	200~700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (塗布は1回以内、 散布は3回以内)
マンゴー	-	チャノイロアザミヤカ	2000倍	200~700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
小粒核果類	-	アブラムシ類 カメムシ類 シクイムシ類	2000倍	200~700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
ぶどう	-	カメムシ類 ブドウハカミキリ	2000倍	200~700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内 (塗布は1回以内)
		フデヒメコバエ	3000倍					
		チャノイロアザミヤカ コカカゲラムシ類	1000~ 2000倍					
あけび (果実)	-	カメムシ類	2000倍	200~700 L/10a	収穫14日前 まで	2回以内	散布	2回以内
キウフルーツ	-	カメムシ類	1000~ 2000倍	200~700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
びわ	-	カメムシ類 ヒメジラミ	2000倍	200~700 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
りんご	-	アブラムシ類 キンモノガ シクイムシ類 キンモノハゲリガ コカカゲラムシ類 カメムシ類	2000倍	200~700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
なし	-	アブラムシ類 シクイムシ類 カメムシ類 ケムシ類 コカカゲラムシ類 チュウゴクハシジラミ	2000倍	200~700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
かんきつ (苗木)	-	シノモノガリガ	50倍	100 mL/株	育苗期	5回以内	株元 灌漑	5回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
かんきつ	-	チャクイロアザミウマ コカイトラムシ類	1000～ 2000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回 以内	散布	3回以内
		ゴマダラキリ	1000倍					
		アブラムシ類 ミカンモグリガ カメシ類 コアオナムグリ ケキスイ類 シバエ アカマカイトラムシ ヤノコイトラムシ サンホセカイイトラムシ ミカンキジラミ コジラミ類 チャノトリヒメヨコバイ アオバノゴロモ	2000倍					
オリーブ	-	カメシ類	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	2回 以内	散布	2回以内
ばれいしょ	-	ワタアブラムシ	2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	2回 以内	散布	2回以内
かんしょ	-	アブラムシ類 コジラミ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	1回	散布	1回
トマト	-	カメシ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2回 以内	散布	5回以内 (培土混和及び灌注は 合計1回以内、 育苗期の株元散布は 1回以内、 定植時の土壌混和は 1回以内、 散布及び定植後の 株元散布は 合計2回以内)
		コジラミ類	2000～ 3000倍					
		コジラミ類	100倍	セル成型育苗 トレイ1箱 またはパ ーポット1 冊 (30×60cm・ 使用土壌約 1.5～4.0L) 当り0.5L	鉢上時 又は定植時	1回	灌注	
ミニトマト	-	カメシ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2回 以内	散布	5回以内 (培土混和及び灌注は 合計1回以内、 育苗期の株元散布は 1回以内、 定植時の土壌混和は 1回以内、 散布及び定植後の 株元散布は 合計2回以内)
		コジラミ類	2000～ 3000倍					
		コジラミ類	100倍	セル成型育苗 トレイ1箱 またはパ ーポット1 冊(30× 60cm・使用 土壌約1.5 ～4.0L)当 り0.5L	鉢上時 又は定植時	1回	灌注	

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
ブロッコリー	-	アブラムシ類 コガネ	100倍	セル成型育苗 トレイ1箱 またはパー ポット1 冊(30× 60cm・使用 土壌約1.5 ～4.0L)当 り0.5L	定植時	1回	灌注	3回以内 (定植時の土壌混和 及び灌注は 合計1回以内、 散布及び 無人航空機散布は 合計2回以内)
		アブラムシ類	2000～ 3000倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	2回 以内	散布	
はくさい	-	アブラムシ類	2000～ 3000倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	2回 以内	散布	3回以内 (定植時の土壌混和 及び灌注は 合計1回以内、 散布は2回以内)
		キジナミハムシ ダイコンハムシ	2000倍					
ピーマン	-	コジラミ類	2000～ 3000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2回 以内	散布	3回以内 (育苗期の株元散布 及び定植時の 土壌混和は 合計1回以内、 散布及び定植後の 株元散布は 合計2回以内)
		アブラムシ類	3000倍					
		アザミヤカミ類	2000倍					
なす	-	コジラミ類	2000～ 3000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2回 以内	散布	3回以内 (育苗期の株元散布 及び定植時の 土壌混和は 合計1回以内、 散布及び定植後の 株元散布は 合計2回以内)
		アブラムシ類	3000倍					
		アザミヤカミ類	2000倍					
すいか	-	アブラムシ類	2000～ 3000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	2回 以内	散布	4回以内 (育苗期の株元散布 及び定植時の 土壌混和は 合計1回以内、 定植後の株元散布は 1回以内、 散布は2回以内)
とうがらし 類	-	コジラミ類	2000～ 3000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2回 以内	散布	4回以内 (育苗期の株元散布 及び定植時の 土壌混和は 合計1回以内、 定植後の株元散布は 1回以内、 散布は2回以内)
		アブラムシ類	3000倍					
		アザミヤカミ類 ナスバエ	2000倍					

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
とうがらし(葉)	-	コジラミ類	2000～3000倍	100～300L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	3回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、 散布は2回以内)
		アブラムシ類	3000倍					
		アザミヤカ類	2000倍					
かぼちゃ	-	アブラムシ類 コジラミ類	2000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (定植時の土壌混和及び育苗トレイへの 灌注は合計1回以内、 散布は2回以内)
		アブラムシ類	100倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはパーパーポット1冊(30×60cm・使用土壌約1.5～4.0L)当り0.5L	定植前日～定植時	1回	灌注	
にがうり	-	コジラミ類	2000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、 散布は2回以内)
セリ	-	アブラムシ類	2000倍	100～300L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	3回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、 散布は2回以内)
うり類(漬物用)	-	コジラミ類 アザミヤカ類	2000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、 散布は2回以内)
		アブラムシ類	2000～3000倍					
ズッキーニ	-	アブラムシ類	2000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	4回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、 定植後の株元散布は1回以内、 散布は2回以内)
きゅうり	-	コジラミ類 アブラムシ類	2000～3000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	4回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の 土壌混和は合計1回以内、 定植後の株元散布は1回以内、 散布は2回以内)
		アザミヤカ類 ウリムシ カムシ類	2000倍					
まくわうり	-	アブラムシ類	3000倍	100～300L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内



作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
メロン	-	コジラミ類	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	3回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)
		アザミヤカ類	2000倍					
		アブラムシ類	3000倍					
キャベツ	-	アブラムシ類 コガ アオムシ ハイダマシ/ナメカ	50～100倍	セル成型育苗トレイ1箱またはパーポット1冊(30×60cm・使用土壌約3L)当り0.5L	定植前日～定植時	1回	灌注	3回以内 (育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び灌注は合計1回以内、散布及び無人航空機散布は合計2回以内)
		アブラムシ類	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	
だいこん	-	アブラムシ類	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	5回以内 (は種時の播溝土壌混和は1回以内、は種時の全面土壌混和は1回以内、粒剤の散布は1回以内、水溶剤の散布、液剤の散布及び無人航空機散布は合計2回以内)
		ダイコンハムシ	2000倍					
		キヌダノミハムシ	1000倍					
わさび	-	アブラムシ類 ナメコハムシ	2000倍	100～300 L/10a	畑育苗期	3回以内	散布	3回以内
畑わさび	-	アブラムシ類 ナメコハムシ	2000倍	100～300 L/10a	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内
クレソン	-	アブラムシ類	3000倍	100～300 L/10a	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内
レタス	-	アブラムシ類	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	4回以内 (は種前の培土混和は1回以内、育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び育苗トレイへの灌注は合計1回以内、散布は2回以内)
		ハスモンヨトウ	50倍	セル成型育苗トレイ1箱またはパーポット1冊(30×60cm・使用土壌約1.5～4.0L)当り0.5L	定植前日～定植時	1回	灌注	
		アブラムシ類 ナメコハムシ	50～100倍					

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
非結球ナス	-	アブラムシ類	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	4回以内 (は種前の培土混和は1回以内、 育苗期の株元散布、 定植時の土壌混和 及び育苗トレイへの 灌注は合計1回以内、 散布は2回以内)
		ハスモンヨトウ	50倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはパーパポット1冊(30×60cm・使用土壌約1.5～4.0L)当り0.5L	定植前日～定植時	1回	灌注	
		アブラムシ類 ナメグリハエ	50～100倍					
ねぎ	-	アザミヤカ類 ハメグリハエ類 シロイモシヨトウ タネハエ ネギカ	50倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはパーパポット1冊(30×60cm・使用土壌約1.5～4.0L)当り0.5L	定植前日～定植時	1回	灌注	4回以内 (は種時の土壌混和、 育苗トレイへの灌注 及び定植時の 株元散布は 合計1回以内、 生育期の株元灌注は 1回以内、 散布、無人航空機 散布及び定植後の 株元散布は 合計2回以内)
		アザミヤカ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	
		アザミヤカ類 ハメグリハエ類 トビイロヒョウタンゾウムシ	400倍	0.4L/m <sup>2</sup>	生育期 但し 収穫14日前まで	1回	株元 灌注	
		クロバネキノコハエ類 アザミヤカ類	1000倍	1L/m <sup>2</sup>				
わけぎ	-	アザミヤカ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	4回以内 (定植後の株元散布は 1回以内、 生育期の株元灌注は 1回以内、 散布は2回以内)
		アザミヤカ類 ハメグリハエ類	400倍	0.4L/m <sup>2</sup>	生育期 但し 収穫14日前まで	1回	株元 灌注	
にんじん	-	アブラムシ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	4回以内 (は種時の土壌混和は 1回以内、 生育期の株元灌注は 1回以内、 散布は2回以内)
		トビイロヒョウタンゾウムシ クロバネキノコハエ類	400倍	0.4L/m <sup>2</sup>	生育期 但し 収穫21日前まで	1回	株元 灌注	
しゅんぎく	-	アブラムシ類	3000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (は種時及び定植時の 土壌混和は 合計1回以内、 散布は2回以内)

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
チゲンサイ	-	キジノシムシ	2000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	3回以内 (は種時及び定植時の 土壌混和は 合計1回以内、 散布は2回以内)
		アブラムシ類	3000倍					
ほうれんそう	-	アブラムシ類	3000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	3回以内 (は種時の土壌混和は 1回以内、 散布は2回以内)
		ウラムシトキ						
非結球あぶらな科葉菜類 (チゲンサイ、畑わさびを除く)	-	アブラムシ類	3000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	3回以内(は種時の 土壌混和は1回以内、 散布は2回以内)
		キジノシムシ	2000倍					
かぶ	-	アブラムシ類	3000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	3回以内 (は種時の土壌混和は 1回以内、 散布は2回以内)
		キジノシムシ	2000倍					
だいず	-	カムシ類 ダイズサヤマハエ	2000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	3回以内 (は種時の土壌混和は 1回以内、 散布、無人航空機 散布は合計2回以内)
		フタジヒメムシ	3000倍					
あずき	-	アブラムシ類	3000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
豆類 (未成熟、ただし、えだまめ、さやいんげん、さやえんどう、実えんどう、未成熟さげ、未成熟そらまめを除く)	-	アブラムシ類 ハメガリバエ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
えだまめ	-	カムシ類 アブラムシ類 ハメガリバエ類 ダイズサヤマハエ	2000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	3回以内 (は種時の土壌混和は 1回以内、 散布、空中散布、 無人航空機散布は 合計2回)
		フタジヒメムシ	3000倍					
未成熟そらまめ	-	アブラムシ類 ハメガリバエ類 カムシ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
未成熟ささげ	-	アブラムシ類 ハモグリバエ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
実えんどう	-	アブラムシ類 ハモグリバエ類 ウナミジミ カミシ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (株元散布は1回以内、 散布は2回以内)
さやえんどう	-	アブラムシ類 ハモグリバエ類 ウナミジミ カミシ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (株元散布は1回以内、 散布は2回以内)
さやいんげん	-	コジラミ類 アブラムシ類 ハモグリバエ類 カミシ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (株元散布は1回以内、 散布は2回以内)
モヘヤ	-	アザミマ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
オクラ	-	アブラムシ類 フタテンノトリヒメコバエ	2000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (株元散布は1回以内、 散布は2回以内)
しょうが	-	クハバネノコバエ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (株元散布は1回以内、 散布は2回以内)
らっきょう	-	アザミマ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
にら	-	クハバネノコバエ類	1000倍	1L/m <sup>2</sup>	生育期 但し 収穫14日前 まで	1回	株元 灌注	3回以内 (生育期の株元灌注は1回以内、 散布は2回以内)
		ネアザミマ	400倍	0.4L/m <sup>2</sup>				
		ネアザミマ アブラムシ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	
アスパラガス	-	アザミマ類 ジュウホシクビガハムシ コジラミ類 カミシ類	2000倍	100~800 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
てんさい	-	アブラムシ類 テンサイトリハサバエ	2000~ 3000倍	100~300 L/10a	収穫7日前 まで	2回 以内	散布	3回以内 (灌注は1回以内、 散布は2回以内)
		カメコハムシ	1000~ 2000倍					
		カメコハムシ テンサイトリハサバエ テンサイヒメハムシ	100~ 200倍	5L/ペーパー ポット6冊 (2.5L/m <sup>2</sup> )	移植前	1回	灌注	
		アブラムシ類 テンサイトリハサバエ テンサイヒメハムシ	100~ 240倍	6L/ペーパー ポット6冊 (3L/m <sup>2</sup> )				

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
きゅうり(葉)	-	コジラミ類 アブラムシ類	3000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内
きゅうり(花)	-	コジラミ類 アブラムシ類	3000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
バジル	-	コジラミ類 アブラムシ類	3000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内
しそ科葉菜類(しそ、バジルを除く)	-	アブラムシ類	3000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内
しそ(花穂)	-	アブラムシ類	3000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内
しょくようほおずき	-	アブラムシ類 コジラミ類	3000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内
食用ニハバラ	-	アブラムシ類 コジラミ類	3000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内
食用カーネーション	-	アブラムシ類 コジラミ類	3000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内
食用金魚草	-	アブラムシ類 コジラミ類	3000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内
食用パンジー	-	アブラムシ類 コジラミ類	3000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内
食用トリア	-	アブラムシ類 コジラミ類	3000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内
食用なでしこ	-	アブラムシ類 コジラミ類	3000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内
食用プリムラ	-	アブラムシ類 コジラミ類	3000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内
食用エサカバ	-	アブラムシ類 コジラミ類	3000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内
食用せんいちこう	-	アブラムシ類 コジラミ類	3000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内
食用コスモス	-	アブラムシ類 コジラミ類	3000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
食用ぎく	-	アブラムシ類 コジラミ類	3000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	3回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、 散布は2回以内)
しそ	-	アブラムシ類 ウレシトビキ	3000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	3回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、 散布は2回以内)

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
なんてん(葉)	-	アブラムシ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
すいぜんじな	-	アブラムシ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内
アマランス(茎葉)	-	アブラムシ類	3000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内
ふき	-	コジラミ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	3回以内 (土壌表面散布は1回以内、 散布は2回以内)
せり	水田	アブラムシ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
せり(水耕栽培)	ガラス室等の施設	アブラムシ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内
ホトトギス(葉)	-	カメシロ類	2000倍	200~700 L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
茶	-	チャノボカ チャノミドリヒメコバエ チャノキイロアザミウマ ツマグロアザミウマ コメカブアブラムシ	2000倍	200~400 L/10a	摘採7日前まで	2回以内	散布	2回以内
さとうきび	-	アブラムシ類 カシヤコハネカメシロ サトウキビアザミウマ	2000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	5回以内 (粒剤は2回以内、 液剤、水溶剤及び水和剤は 合計3回以内)
いね科牧草	-	アブラムシ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
花き類・観葉植物(きくを除く)	-	アブラムシ類 コジラミ類	2000~3000倍	100~300 L/10a	発生初期	5回以内	散布	5回以内 (土壌混和は1回以内)
		ハモグリバエ類	1000倍	1L/m <sup>2</sup>			灌漑	
きく	-	アブラムシ類 コジラミ類	2000~3000倍	100~300 L/10a	発生初期	5回以内	散布	5回以内 (土壌混和は1回以内)
		カメシロ類	2000倍					
		ハモグリバエ類	1000~2000倍	1L/m <sup>2</sup>			灌漑	
樹木類(つつじ類、つばき類を除く)	-	カメシロ類	2000倍	100~700 L/10a	発生初期	5回以内	散布	5回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
つつじ類	-	ツツジゲンハイケムシ類	2000倍	100~300 L/10a	発生初期	5回以内	散布	5回以内
つばき類	-	ケムシ類	2000倍	100~700 L/10a	発生初期	5回以内	株元灌注	5回以内 (株元灌注は2回以内)
		チャドカス	100倍	0.5~2L/樹 (但し、220 L/10a まで)		2回以内		
いぐさ	-	イグサノムシガ	1000倍	100~150 L/10a	発生初期	2回以内	散布	2回以内

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
かき	コカガラムシ類	20~40g/樹	発芽前~ 発芽期	1回	本剤1g 当り水1mLの割合で混合し、主幹から主枝の粗皮を環状に剥いた部分に塗布する。	4回以内 (塗布は1回以内、 散布は3回以内)
ぶどう	コカガラムシ類	20~40g/樹	幼果期まで 但し、 収穫30日前まで	1回	本剤1g 当り水1mLの割合で混合し、主幹から主枝の粗皮を環状に剥いた部分に塗布する。	3回以内 (塗布は1回以内)
	クビアカサバ	40g/樹				

#### 使用上の注意事項

- (1) 使用量にあわせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) ぶどうの幼果期から果粒肥大期の散布は果粉の溶脱のおそれがあるので使用をさけること。
- (3) つまみ菜・間引き菜には使用しないこと。
- (4) 本剤をセル苗に使用する際は、調製液をセル成型育苗トレイまたはペーパーポット上方から灌注すること。また、本剤が土壌に十分に吸収されないおそれがあるので処理直前や直後の灌水はさけること。なお、高温時など極度に土壌が乾燥している場合には、葉縁が退色するなど薬害を生じるおそれがあるので、本剤を処理する予定の苗は、適切な水分および温度管理に努めること。
- (5) かんきつの苗木に用いる場合は、今期に収穫見込のない苗木に対して使用すること。なお、本剤を処理してから効果を発揮するまでにある程度の期間を要するため、対象害虫の発生前に予防的に処理すること。
- (6) 本剤を使用したわさびの苗を畑地からわさび田に移植する場合には、使用した農薬がわさび田の水系に持ち込まれないよう、わさびの苗に付着した土を十分に洗い落とすこと。
- (7) 水耕栽培に使用する場合、本剤を使用した施設からの廃液をかんがい水路、排水路、河川等には絶対に流さず、適切に処理すること。
- (8) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (9) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - 1) ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - 2) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供しミツバチの危害防止に努めること。
- (10) 空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (11) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。とくに適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

**人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法**-----

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。使用後は洗眼すること。
- (2) 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のないものが使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨**-----

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨**-----

通常の使用方法ではその該当がない。

**貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。



登録番号 第 21277 号

## スタークルメイト®1 キロH粒剤

- 特長：
- 粒剤の水面施用で水稻の主要害虫を防除します。
  - 散布量が少なく省力的です。
  - 隣接地へ飛散するおそれが少ない製剤です。
  - 無人航空機での散布にも使用できます。

スタークルメイトは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ジノテフラン（化管法第1種）・・・3.0%	包装	1kg×12
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用害虫及び使用方法】

2021年6月23日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	ウカ類 ツマグロヨコバイ カミシ類 イネズミゾウムシ ニカメイト	1kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布 無人航空機による散布	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせて秤量し、使いきること。
- (2) 本剤を使用する場合には、湛水状態（3cm程度）で田面に均一に散布し、4～5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水やかけ流しをしないこと。
- (3) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整し、飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m離れた位置から圃場内に散布すること。
  - 2) 散布薬剤の飛散によって他の動植物等へ影響を与えないよう散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
  - 3) 薬剤が水源池、飲料用水、養殖池、養魚田などに飛散、流入しないように十分注意すること。
  - 4) 使用後の機体散布装置は十分洗浄し、タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
  - 5) 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に責任者を決めて保管すること。
- (4) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (5) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - 1) ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - 2) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (6) 空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (7) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

**人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法**-----

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 使用に際しては、保護眼鏡、マスク、手袋、長ズボン、長袖の作業衣などを着用し、作業後は顔、手足などの皮膚の露出部を石けんでよく洗い、洗眼・うがいをすること。

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨**-----

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨**-----

通常の使用方法ではその該当がない。

**貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 21260 号

スタークルメイト<sup>®</sup>液剤 10

- 特長：
- 水稻のカメムシ類・ウンカ類・ヨコバイ類に優れた防除効果を示します。
  - 斑点米抑制効果に優れる薬剤です。
  - 無人航空機・空中散布にも使用できます。
  - だいず・えだまめの害虫防除にも使用できます。

スタークルメイトは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ジノテフラン (化管法第1種)・・・10.0%	包装	500ml×20 10L×2
性状	淡黄色澄明水溶性液体	有効年限	4年
毒性	普通物 <sup>※</sup>	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用害虫及び使用方法】

2021年12月22日付内容

作物名	適用場所	適用病虫害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	-	ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類	1000倍	60~150 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)
		ウンカ類 カメムシ類	300倍	25L/10a				
		ウンカ類 カメムシ類	8倍	0.8L/10a			無人航空機による散布	
		ウンカ類 ツマグロヨコバイ	16倍	1.6L/10a				
		ウンカ類	30倍	3L/10a			空中散布	
		カメムシ類	8倍	0.8L/10a				
		ウンカ類 カメムシ類	30倍	3L/10a				
だいこん	-	アブラムシ類	8~16倍	1.6L/10a	収穫7日前まで	2回以内	無人航空機による散布	5回以内 (は種時の播溝土壌混和は1回以内、は種時の全面土壌混和は1回以内、粒剤の散布は1回以内、水溶性の散布、液剤の散布及び無人航空機散布は合計2回以内)

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
キャベツ	—	アブラムシ類	8～16 倍	1.6L/10a	収穫 3 日前まで	2 回以内	無人航空機による散布	3 回以内 (育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び灌注は合計 1 回以内、散布及び無人航空機散布は合計 2 回以内)
ブロッコリー	—	アブラムシ類	8～16 倍	1.6L/10a	収穫 3 日前まで	2 回以内	無人航空機による散布	3 回以内 (定植時の土壌混和及び灌注は合計 1 回以内、散布及び無人航空機散布は合計 2 回以内)
ねぎ	—	アザミウマ類	10～16 倍	1.6L/10a	収穫 3 日前まで	2 回以内	無人航空機による散布	4 回以内 (は種時の土壌混和、育苗トレイへの灌注及び定植時の株元散布は合計 1 回以内、生育期の株元灌注は 1 回以内、散布、無人航空機散布及び定植後の株元散布は合計 2 回以内)
さとうきび	—	カンショコバネカガミシ付コ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	5 回以内 (粒剤は 2 回以内、液剤、水溶剤及び水和剤は合計 3 回以内)
		カンショコバネカガミシ付コ類	14 倍	2.4L/10a			無人航空機による散布	
だいず	—	カミシ類 フタズビヒメムシ ダズサヤマバエ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	2 回以内	散布	3 回以内 (は種時の土壌混和は 1 回以内、散布、空中散布、無人航空機散布は合計 2 回以内)
		カミシ類 ダズサヤマバエ フタズビヒメムシ	8 倍	0.8L/10a			無人航空機による散布	
		カミシ類 ダズサヤマバエ フタズビヒメムシ					空中散布	
えだまめ	—	カミシ類 フタズビヒメムシ ダズサヤマバエ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	2 回以内	散布	3 回以内 (は種時の土壌混和は 1 回以内、散布、空中散布、無人航空機散布は合計 2 回以内)
		カミシ類 ダズサヤマバエ フタズビヒメムシ	8 倍	0.8L/10a			無人航空機による散布	
		カミシ類 ダズサヤマバエ フタズビヒメムシ					空中散布	

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
らっきょう	-	アザミヤ類 ハダカリハエ類	8 倍	1.6L/10a	収穫前日まで	3 回以内	無人航空機による散布	3 回以内
いね科牧草	-	アブラムシ類	1000 倍	100~300 L/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
水田作物、畑作物(休耕田)	シ、ギ、ス、ス、セトカア、カチツ等 の多年生雑草が優占している休耕田	かみ類	1000 倍	60~150 L/10a	-	3 回以内	散布	3 回以内

#### 使用上の注意事項

- (1) 使用量にあわせ薬液を調製し、使いきる。空容器はほ場などに放置せず、3 回以上水洗し適切に処理すること。洗浄水はタンクに入れること。
- (2) 本剤を空中散布及び無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 散布は各散布機種種の散布基準に従って実施すること。
  - 2) 散布にあつては、散布機種種に適合した散布装置を使用すること。
  - 3) 散布中、薬液が漏れないように機体の散布用配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
  - 4) 散布薬液の飛散によって動植物及び自動車やカーポートの塗装等へ影響を与えないよう、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
  - 5) 作業終了後は次の事項を守ること。
    - (a) 使用後の空の容器は放置せず、適切に処理すること。
    - (b) 機体散布装置は十分洗浄し薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
- (3) 本剤を希釈倍数 300 倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用すること。
- (4) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (5) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - 1) ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - 2) 関係機関（都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (6) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 空中散布又は無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----  
通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----  
直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 21929 号

# スラゴ®

●有機 JAS 規格適合資材ですので、特別栽培農産物でも使用し易い薬剤です。  
 ●ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ、ヒメリンゴマイマイが加害する農作物に使用できます。  
 特長：●有効成分である**リン酸第二鉄**は天然に存在する成分です。  
 ●本剤を食べたナメクジ・カタツムリは内臓器官に生理的変化を起こし、作物が食べられなくなって数日で死亡します。

スラゴはドイツ・W. Neudorff 社の登録商標です。

有効成分	リン酸第二鉄水和物・・・0.98%	包装	450g×20 1kg×12 2kg×8
性状	淡緑色粒状	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用害虫及び使用方法】

2012年9月26日付内容

作物名	適用場所	適用病虫害名	使用量	使用時期	使用方法
ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ、ヒメリンゴマイマイが加害する農作物等	温室、ハウス、圃場、花壇	ナメクジ類 カタツムリ類	1～5g/m <sup>2</sup>	発生時	ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ及びヒメリンゴマイマイの発生あるいは加害を受けた場所又は株元に配置
		アフリカマイマイ	3～5g/m <sup>2</sup>		
		ヒメリンゴマイマイ	5g/m <sup>2</sup>		

-----  
**使用上の注意事項**

- (1) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (2) 作物体上に本剤がかからないように作物周囲あるいは株元の土壌表面に処理すること。

-----  
**人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法**

本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。

-----  
**水産動植物に有毒な農薬については、その旨**

この登録に係る使用方法では該当がない。

-----  
**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨**

通常の使用方法ではその該当がない。

-----  
**貯蔵上の注意事項**

直射日光をさげ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 22766 号

## トルネードエース®DF

- 特長：
- 独自の作用機構【殺虫剤分類：22A】であるため、既存剤に抵抗性を獲得した害虫にも優れた効果を示し、薬剤ローテーションにも組み入れやすいです。
  - 大型チョウ目害虫の中齢や老齢幼虫にも優れた効果を示します。
  - 作物への薬害が少ないことから、多くの農業生産者から支持されています。

トルネードエースはFMC Corporation またはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標です。

有効成分	インドキサカルブ（化管法第1種）・・・5.0%	包装	250g×40 500g×20
性状	淡褐色水和性細粒	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用害虫及び使用方法】

2023年9月27日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	インドキサカルブ及び インドキサカルブMP を含む農薬の総使用回数
キャベツ	コガ アムシ	1000～ 2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	2回以内	散布	2回以内
	ヨウムシ ハモンヨトウ ウバ類 ハイマダラメイト シロイモジヨトウ	2000倍	100～300 L/10a				
	ヨウムシ ハモンヨトウ ウバ類 ハイマダラメイト シロイモジヨトウ コガ アムシ	10倍	1～2 L/10a			無人航空機 による散布	
だいこん	コガ アムシ ヨウムシ ハイマダラメイト カブラハバチ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫21日前 まで	2回以内	散布	2回以内
ブロッコリー	コガ アムシ ハモンヨトウ シロイモジヨトウ	2000倍	100～300 L/10a	収穫14日前 まで	2回以内	散布	2回以内
		20倍	1～2 L/10a			無人航空機 による散布	



作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	インドキサカルブ及び インドキサカルブMP を含む農薬の総使用回数
はくさい	コカ アムシ	1000～ 2000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
	ヨウムシ ハマダラメカ カブラハチ類 シイモジヨウ ウバ類	2000 倍	100～300 L/10a				
	ヨウムシ ハマダラメカ カブラハチ類 コカ アムシ シイモジヨウ ウバ類	10 倍	1～2 L/10a			無人航空機 による散布	
ねぎ	シイモジヨウ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
		10 倍	1～2 L/10a			無人航空機 による散布	
いちご	ハセンヨウ 材カコ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
なす	ハセンヨウ 材カコ テトウムシダマシ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
トマト	ハセンヨウ 材カコ トトキバカ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
ピーマン	材カコ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
レタ	ハセンヨウ 材カコ ヨウムシ ウバ類 シイモジヨウ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
		20 倍	1～2L/10a			無人航空機 による散布	
非結球レタ	ハセンヨウ 材カコ ヨウムシ ウバ類 シイモジヨウ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
		20 倍	1～2L/10a			無人航空機 による散布	
えだまめ	ハセンヨウ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
だいず	ハセンヨウ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
		8～16 倍	800mL/10a			無人航空機 による散布	

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	インドキサカルブ及び インドキサカルブMP を含む農薬の総使用回数
かんしょ	ハズレヨトウ カガロシガ	2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	2回以内	散布	2回以内
		20倍	1～2 L/10a			無人航空機 による散布	
さといも	ハズレヨトウ	2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	2回以内	散布	2回以内
		20倍	1～2 L/10a			無人航空機 による散布	
しょうが	ハズレヨトウ アワメガ	2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内
		20倍	1～2 L/10a			無人航空機 による散布	
きく	ハズレヨトウ オタバコガ シイモジヨトウ	2000倍	100～300 L/10a	発生初期	4回以内	散布	4回以内
たばこ	タバコアホシ ヨウムシ	2000倍	100～180 L/10a	収穫10日前 まで	1回	散布	1回
樹木類 (さくらを 除く)	クムシ類	4000倍	200～700 L/10a	発生初期	4回以内	散布	4回以内
さくら	クムシ類	4000倍	200～700 L/10a	発生初期	4回以内	散布	4回以内
	クビアカツバキリ	1000倍	200～500 L/10a	成虫 発生初期			

#### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 害虫は同一剤の連続使用により抵抗性害虫が出現し、効果の劣った例がある。使用に当っては、関係機関の指導を受けること。また、過度の連用をさけ、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせ使用すること。
- (3) ねぎのシロイチモジヨトウを防除する場合は、食入前の若令幼虫期に散布すること。
- (4) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (5) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - 1) ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - 2) 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
  - 3) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
  - 4) 散布直後から1日後まではミツバチを移動させるか、巣門を閉じること。
- (6) マルハナバチに対して影響を与えるおそれがあるので、散布の際はマルハナバチ及び巣箱にかからないようにすること。また、散布直後から6日後まではマルハナバチを移動させるか、巣門を閉じること。
- (7) つまみ菜、間引き菜には使用しないこと。
- (8) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意事項を守ること。
  - 1) 散布は散布機種別の散布基準に従って実施すること。
  - 2) 散布に当っては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 3) 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。

- (9) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (10) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

**人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法**-----

- (1) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。 眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (2) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- (3) 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨**-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨**-----

通常の使用方法ではその該当がない。

**貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 18270 号

## トレボン®EW

特長： ●水稲、野菜、花き、樹木類など、多くの作物の害虫防除に使用できます。  
●水をベースにした製剤で、有機溶剤の臭いが少ない薬剤です。

トレボンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	エトフェンプロックス（化管法第1種）・・・10.0%	包装	500ml×20
性状	類白色粘稠乳濁液体	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用害虫及び使用方法】

2023年5月24日付内容

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	-	ウカ類 ツマグロヨコバイ イナゴ類 イナゴ カメシロ類 イナゴ コメノメイガ	1000倍	60~150 L/10a	収穫14日前 まで	3回 以内	散布	3回以内
		ウカ類 ツマグロヨコバイ	300倍	25 L/10a				
麦類	-	アブラムシ類	1000倍	60~150 L/10a	収穫14日前 まで	2回 以内	散布	2回以内
とうもろ こし	-	ツマグロヨコバイ	1000倍	100~300 L/10a	収穫7日前 まで	4回 以内	散布	4回 以内
飼料用 とうもろ こし (子実)	-	ツマグロヨコバイ	1000倍	100~300 L/10a	収穫7日前 まで	4回 以内	散布	4回 以内
ばいりし よ	-	アブラムシ類	1000倍	100~300 L/10a	収穫7日前 まで	3回 以内	散布	3回以内
やまのい も	-	アブラムシ類	1000倍	100~300 L/10a	収穫14日前 まで	3回 以内	散布	3回以内
だいず	-	マメシロガ ハスモンヨトウ カメシロ類 ツメアカ	1000倍	100~300 L/10a	収穫14日前 まで	2回 以内	散布	2回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	エトフェンプロ ックスを含む農薬の 総使用回数
えだまめ	-	マシクイガ ハスエトウ カミシ類 ツメクサ	1000 倍	100~300 L/10a	収穫 14 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内
さやえん どう	-	ウナシジミ シイモシヨウ	1000 倍	100~300 L/10a	収穫前日 まで	2 回 以内	散布	2 回以内
実えん どう	-	ウナシジミ シイモシヨウ	1000 倍	100~300 L/10a	収穫前日 まで	2 回 以内	散布	2 回以内
すいか	-	アブラムシ類	1000 倍	100~300 L/10a	収穫 3 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
メロン	-	アブラムシ類	1000 倍	100~300 L/10a	収穫 3 日前 まで	4 回 以内	散布	4 回以内
きゅうり	-	コジラミ類 アブラムシ類	1000 倍	100~300 L/10a	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
なす	-	コジラミ類 アブラムシ類	1000 倍	100~300 L/10a	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
ブロッコリー	-	アオムシ	1000 倍	100~300 L/10a	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
トマト	-	コジラミ類	1000 倍	100~300 L/10a	収穫前日 まで	2 回 以内	散布	2 回以内
キャベツ	-	アブラムシ類 ヨウムシ アオムシ	1000 倍	100~300 L/10a	収穫 3 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
はくさい	-	アブラムシ類 ヨウムシ アオムシ	1000 倍	100~300 L/10a	収穫 7 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
だいこん	-	アブラムシ類 ヨウムシ アオムシ	1000 倍	100~300 L/10a	収穫 21 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
ねぎ	-	シイモシヨウ	1000 倍	100~300 L/10a	収穫 21 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内
レタス	-	アブラムシ類	1000 倍	100~300 L/10a	収穫 14 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
エンダイ	-	イモガ	1000 倍	100~300 L/10a	収穫 14 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内
てんさい	-	ヨウムシ	1000 倍	100~300 L/10a	収穫 14 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	エトフェンプロ ックスを含む農薬の 総使用回数
うど	-	アブラムシ類	1000 倍	100~300 L/10a	根株養成期 但し、収穫 45 日前まで	2 回 以内	散布	2 回以内
きく	-	アブラムシ類	1000 倍	100~300 L/10a	-	6 回 以内	散布	6 回以内
宿根かす みそう	-	シロイモシヨトウ	1000 倍	100~300 L/10a	-	6 回 以内	散布	6 回以内
たदैあい	-	アブラムシ類 ハスモンヨトウ	1000 倍	100~300 L/10a	-	6 回 以内	散布	6 回以内
樹木類 (つつじ 類、いぬま きを除く)	-	ケムシ類	2000 倍	100~700 L/10a	発生初期	6 回 以内	散布	6 回以内
つつじ類	-	ケムシ類	2000 倍	100~700 L/10a	発生初期	6 回 以内	散布	6 回以内
		ツツジゲンバイ	1000 倍					
いぬまき	-	モンアジトゾウムシ	1000 倍	100~700 L/10a	発生初期	6 回 以内	散布	6 回以内
		ケバカカキ ケムシ類	2000 倍					
水田作物、 畑作物(休 耕田)	豆、材、スサキ、セ イカアワガチ等 の多年生雑草 が優占してい る休耕田	カメムシ類	1000 倍	60~150 L/10a	-	3 回以内	散布	3 回以内

#### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 使用前によく振ってから使用すること。
- (3) ねぎのシロイモシヨトウの防除に使用する場合は、食入前の若令幼虫期に散布すること。
- (4) 本剤を本田の水稲に対して希釈倍数 300 倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用すること。
- (5) 蚕に対して長期間毒性があるので、近くに桑園がある場合には絶対に桑葉にかからないようにすること。
- (6) 散布器具、作業衣などは桑用と必ず区別すること。
- (7) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - 1) ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - 2) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (8) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。とくに適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。使用後は洗眼すること。

- (2) 誤飲などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- (3) 散布の際は、農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。また、散布液を吸い込んだり浴びたりしないように注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。
- (4) 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（甲殻類、冷水魚）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池等周辺での使用は避けること。なお、比較的低濃度でも魚が平衡失調を起こす恐れがあるので十分注意すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法では、その該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 19355 号

トレボン<sup>®</sup>MC

- 特長：
- マイクロカプセル製剤ですので、殺虫効果が比較的長い薬剤です。
  - 水稻のウンカ類、ツマグロヨコバイ、カメムシ類、コブノメイガ、イナゴ類ほかに効果を発揮します。
  - 水稻、野菜のほか樹木類や休耕田のカメムシ類にも使用できます。
  - 稲発酵粗飼料（WCS）用稲にも使用できます。

トレボンは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	エトフェンプロックス（化管法第1種）・・・20.0%	包装	500ml×20
性状	白色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用害虫及び使用方法】

2014年12月17日付内容

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	-	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	1000～ 2000倍	60～150 L/10a	収穫14日前 まで	3回以内	散布	3回以内
		カメムシ類 イトヨリス	2000倍					
		イナゴ類 コブノメイガ	1000倍					
		ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類	600倍	25 L/10a				
ばれい しよ	-	アブラムシ類	1000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内
だいず	-	カメムシ類 ハスモンヨトウ マシクガ	1000倍	100～300 L/10a	収穫14日前 まで	2回以内	散布	2回以内
えだま め	-	カメムシ類 ハスモンヨトウ マシクガ	1000倍	100～300 L/10a	収穫14日前 まで	2回以内	散布	2回以内
きゅう り	-	アブラムシ類 ウナギ	1000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
なす	-	アブラムシ類	1000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
キャベツ	-	ハマダラカ アオムシ ヨトウムシ	1000倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	3回以内	散布	3回以内



作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
はくさい	-	アブラムシ類 ヨトウムシ	1000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内
だいこん	-	アブラムシ類 ヨトウムシ	1000倍	100～300 L/10a	収穫21日前 まで	3回以内	散布	3回以内
てんさい	-	ヨトウムシ	1000倍	100～300 L/10a	収穫14日前 まで	3回以内	散布	3回以内
樹木類 (つつじ類、 いぬまきを 除く)	-	カメムシ類	2000～ 4000倍	100～700 L/10a	-	6回以内	散布	6回以内
つつじ 類	-	カメムシ類	2000～ 4000倍	100～700 L/10a	-	6回以内	散布	6回以内
		ツツジゲンハイ	1000倍					
いぬま き	-	カメムシ類	2000～ 4000倍	100～700 L/10a	-	6回以内	散布	6回以内
		ケブカカミキリ	2000倍					
水田作 物、畑 作物 (休耕 田)	ヨシ、ササ、 スズメ、セウ カワガサチ リ等の多 年生雑 草が優 占して いる休 耕田	カメムシ類	2000倍	60～150 L/10a	-	3回以内	散布	3回以内

#### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 使用前によく振ってから使用すること。
- (3) 本剤を本田の水稲に対して希釈倍数 600 倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用すること。
- (4) 蚕に対して長期間強い毒性があるので、薬液の飛散により桑の茎葉を汚染することのないように桑園のある地帯では使用しないこと。
- (5) 散布器具、作業衣などは桑用と必ず区別すること。
- (6) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - 1) ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - 2) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (7) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。とくに適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。
- (2) 使用の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。使用後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをする。
- (3) 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（甲殻類、冷水魚）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池等周辺での使用はさけること。なお、比較的低濃度でも魚が平衡失調を起こすおそれがあるので十分注意すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法では、その該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 17541 号

## トレボン®エアー

- 特長：
- 空中散布や無人航空機で散布できる製剤です。
  - 水稻、小麦、だいず等の主要害虫に効果があります。
  - 水をベースにした製剤ですので、有機溶剤の臭いが少ないのが特長です。
  - 稲発酵粗飼料（WCS）用稲にも使用できます。

トレボンは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	エトフェンプロックス（化管法第1種）・・・10.0%	包装	10L×2 20L×1
性状	類白色粘稠乳濁液体	有効年限	3年
毒性	普通物 <sup>※</sup>	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用害虫及び使用方法】

2023年2月8日付内容

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	コブノメガ 付コノ類 ウカ類 カムシ類 ツマグロヨコバイ	30倍	3L/10a	収穫14日前まで	3回以内	空中散布	3回以内
	付コノ類 ウカ類 カムシ類 ツマグロヨコバイ	8倍	0.8L/10a			無人航空機による散布	
	コブノメガ 付コノ類 ウカ類 カムシ類 ツマグロヨコバイ フタヒコヤガ						
麦類	ヒトヒウカ	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内	無人航空機による散布	2回以内
ばれいしょ	アブラムシ類	8倍	1.6 L /10a	収穫前日まで	3回以内	無人航空機による散布	3回以内
ブロッコリー	アオムシ	8倍	1.6 L /10a	収穫前日まで	3回以内	無人航空機による散布	3回以内
キャベツ	アブラムシ類 ヨトウムシ アオムシ	8倍	1.6 L /10a	収穫3日前まで	3回以内	無人航空機による散布	3回以内

作物名	適用 病害虫名	希釈倍 数	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	エトフェンプロ ックスを含む農 薬の総使用回数
はくさい	アブラムシ類 ヨトウムシ アオムシ	8倍	1.6 L /10a	収穫7日前 まで	3回以内	無人航空機 による散布	3回以内
だいこん	アブラムシ類 ヨトウムシ アオムシ	8倍	1.6 L /10a	収穫21日前 まで	3回以内	無人航空機 による散布	3回以内
レタス	アブラムシ類	8倍	1.6 L /10a	収穫14日前 まで	3回以内	無人航空機 による散布	3回以内
ねぎ	シロイモシヨトウ	8倍	1.6 L /10a	収穫21日前 まで	2回以内	無人航空機 による散布	2回以内
だいず	ハスモンヨトウ カミムシ類 マメシクガ ツメクサガ	8倍	0.8L/10a	収穫14日前 まで	2回以内	無人航空機 による散布	2回以内
えだまめ	ハスモンヨトウ カミムシ類 マメシクガ ツメクサガ	8倍	0.8L/10a	収穫14日前 まで	2回以内	無人航空機 による散布	2回以内
あずき	アズキノメイガ	8倍	1.6L/10a	収穫14日前 まで	2回以内	無人航空機 による散布	2回以内
しょうが	アヲメカガ	8倍	1.6L/10a	収穫7日前 まで	3回以内	無人航空機 による散布	3回以内
やまのいも	ヤマノイモカガ アブラムシ類	8倍	3.2L/10a	収穫14日前 まで	3回以内	無人航空機 による散布	3回以内

#### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 散布は各散布機種の散布基準に従って実施すること。
- (3) 少量散布の際には、微量散布装置以外の散布器具は使用しないこと。
- (4) 無人航空機による散布にあつては、散布機種に適合した散布装置を使用すること。
- (5) 散布中、薬液が漏れないように機体の散布用配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
- (6) 散布薬液の飛散によって動植物及び自動車やカートを塗装等へ影響を与えないよう、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
- (7) 蚕に対して長期間強い毒性があるので、薬液の飛散により桑の茎葉を汚染することのないように桑園のある地帯では使用しないこと。なお、実施にあたっては、事前に養蚕関係者と安全対策について十分協議すること。
- (8) 散布器具、作業衣などは桑用と必ず区別すること。
- (9) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - 1) ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - 2) 関係機関（都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (10) 作業終了後は次の事項を守ること。
  - 1) 使用後の空の容器は放置せず、適切に処理すること。
  - 2) 機体散布装置は十分洗浄し薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。

- (11) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、病虫害防除所等関係機関の指導を受けること。特に適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 無人航空機の操作の際は、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。また散布液を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがい・洗眼すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（甲殻類、冷水魚）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池等周辺での使用はさけること。なお、比較的低濃度でも魚が平衡失調を起こすおそれがあるので十分注意すること。
- (2) 空中散布又は無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法では、その該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 19670 号

# トレボンスカイ<sup>®</sup>MC

- 特長：
- 空中散布や無人航空機で散布できる製剤です。
  - 水稻、小麦、だいち等の主要害虫に有効です。
  - マイクロカプセル製剤ですので、殺虫効果が比較的長い薬剤です。
  - 稲発酵粗飼料（WCS）用稲にも使用できます。

トレボンスカイは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	エトフェンプロックス（化管法第1種）・・・20.0%	包装	1L×12 5L×4 20L×1
性状	白色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用害虫及び使用方法】

2014年12月17日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	ウカ類 カメシ類 ツマグロヨコバイ	60倍	3L/10a	収穫14日前まで	3回以内	空中散布	3回以内
	ウカ類 カメシ類 ツマグロヨコバイ 付コ類	16倍	0.8L/10a				
	ヒトヒビウカ カメシ類						
小麦	アブラムシ類	16倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内	無人ヘリコプターによる散布	2回以内
だいち	ハスモンヨトウ カメシ類	8～16倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内	無人ヘリコプターによる散布	2回以内
	マシクイガ	8倍					
		16倍	1.6L/10a				
てんさい	ヨウガ	16倍	1.6L/10a	収穫14日前まで	3回以内	無人ヘリコプターによる散布	3回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 使用前によく振ってから使用すること。
- (3) 散布は各散布機種種の散布基準に従って実施すること。
- (4) 少量散布の際には、微量散布装置以外の散布器具は使用しないこと。

- (5) 無人ヘリコプターによる散布にあつては、散布機種に適合した散布装置を使用すること。
- (6) 散布中、薬液が漏れないように機体の散布用配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
- (7) 散布薬液の飛散によって他の動植物及び自動車やカラートタンの塗装等へ影響を与えないよう散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
- (8) 蚕に対して長期間強い毒性があるので、薬液の飛散により桑の茎葉を汚染することのないように桑園のある地帯では使用しないこと。なお、実施にあたっては、事前に蚕業関係者と安全対策について十分協議すること。
- (9) 散布器具、作業衣等は桑用と必ず区別すること。
- (10) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - 1) ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - 2) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (11) 作業終了後は次の事項を守ること。
  - 1) 使用後の空の容器は放置せず、適切に処理すること。
  - 2) 機体散布装置は十分洗浄し薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
- (12) 散布液が水槽、池、河川などに入らないように注意すること。
- (13) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、病害虫防除所等関係機関の指導を受けること。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。
- (2) 作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをする。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（甲殻類、冷水魚）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池等周辺での使用はさけること。なお、比較的濃度でも魚が平衡失調を起こすおそれがあるので十分注意すること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法では、その該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 22037 号

## トレボンスター®フロアブル

- 特長：
- 作用の異なる2成分（エトフェンプロックスとジノテフラン）のフロアブル剤です。
  - 稲のカメムシ類、ウンカ類への防除効果に優れます。
  - 殺虫効果に加えてカメムシ類への吸汁阻害効果が期待できます。
  - 無人航空機散布にも使用できます。

トレボンスターは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	エトフェンプロックス（化管法第1種）・・・7.0% ジノテフラン（化管法第1種）・・・3.0%	包装	500ml×20 10L×2
その他化管法該当成分	ジメチル(1-フェニルエチル)ベンゼン(化管法第1種)・・・5.3%		
性状	類白色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用害虫及び使用方法】

2021年12月22日付内容

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用方法	エトフェンプロ ックスを含む農 薬の総使用回数	ジノテフランを含む農 薬の総使用回数
稲	ウンカ類 カメムシ類 ツマグロヨコバイ ゴブノメカイ フタホシコヤカ	1000倍	60～150 L/10a	収穫 14日前 まで	3回 以内	散布	3回以内	4回以内 (育苗箱への処理 及び側条施用は 合計1回以内、 本田での散布、 空中散布、 無人航空機散布は 合計3回以内)
	カメムシ類	300倍	25L/10a					
	ウンカ類 カメムシ類 ツマグロヨコバイ ゴブノメカイ	8倍	0.8 L/10a			無人航空機 による散布		
だいたいず	カメムシ類	8倍	0.8 L/10a	収穫 14日前 まで	2回 以内	無人航空機 による散布	2回以内	3回以内 (は種時の 土壌混和は1回以内、 散布、空中散布、 無人航空機散布は 合計2回以内)

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 使用前によく振ってから使用すること。
- (3) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 散布は各散布機種種の散布基準に従って実施すること。
  - 2) 散布にあつては、散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 3) 散布中、薬液が漏れないように機体の散布用配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。



- 4) 散布薬液の飛散によって動植物及び自動車やカラータンの塗装等へ影響を与えないよう散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
- (4) 本剤を本田の水稻に対して希釈倍数 300 倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用すること。
- (5) 蚕に対して長期間強い毒性があるので、薬液の飛散により桑の茎葉を汚染することのないように桑園のある地帯では使用しないこと。なお、実施にあたっては、事前に蚕業関係者と安全対策について十分協議すること。
- (6) 散布器具、作業衣などは桑用と必ず区別すること。
- (7) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - 1) ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合は使用しないこと。
  - 2) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (8) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

本剤は皮膚に対して刺激性があるので、散布の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣を着用して薬剤が皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（甲殻類、冷水魚）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養魚田及び養殖池等周辺での使用は避けること。
- (2) 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきることを。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 21975 号

## トレボンスター®粉剤 DL

- 特長：
- 作用の異なる2成分（エトフェンプロックスとジノテフラン）の混合剤です。
  - 稲のカメムシ類、ウンカ類への防除効果に優れます。
  - 殺虫効果に加えてカメムシ類への吸汁阻害効果が期待できます。
  - だいたいの害虫防除にも使用できます。

トレボンスターは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	エトフェンプロックス・・・0.40% ジノテフラン・・・0.20%	包装	3kg×8
性状	類白色粉末 45μm以下、浮遊性指数 20以下	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用害虫及び使用方法】

2021年12月22日付内容

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	エトフェンプロ ックスを含む農 薬の総使用回数	ジノテフランを含む農薬の 総使用回数
稲	ウンカ類 カメムシ類 ツマグロヨコバイ	3~4kg/10a	収穫7日前 まで	3回 以内	散布	3回以内	4回以内 (育苗箱への処理及び 側条施用は合計1回以内、 本田での散布、空中散布、 無人航空機散布は 合計3回以内)
	コメイチユ コブノメイガ フタホシコヤガ	4kg/10a					
だいた	カメムシ類 フタホシヒメハシ	3~4kg/10a	収穫14日前 まで	2回 以内	散布	2回以内	3回以内 (は種時の土壌混和は 1回以内、 散布、空中散布、 無人航空機散布は 合計2回以内)

## 使用上の注意事項

- (1) 本剤はできるだけ飛散を少なくするように製剤されており、一般の粉剤に比べ見かけ比重がやや大きく流動性が良いので、散布の際は散粉機の開度を1目盛程度しぼって散布すること。
- (2) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (3) 散布器具、作業衣などは桑用と必ず区別すること。
- (4) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - 1) ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - 2) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (5) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

**人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法**-----

- (1) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (2) 散布の際は農薬用マスクなどを着用すること。作業後はうがいをすること。

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨**-----

- (1) 水産動植物（甲殻類、冷水魚）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。また、養魚田及び養殖池等周辺での使用は避けること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨**-----

通常の使用方法ではその該当がない。

**貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

## トレボン®乳剤

●水稲、野菜、花き類、樹木類など幅広い作物で使用できます。

特長： ●チョウ目幼虫、コナジラミ、アブラムシなどのカメムシ目、コウチュウ目など、様々な害虫に効果があります。

トレボンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	エトフェンプロックス（化管法第1種）・・・20.0%	包装	100ml×60
その他化管法 該当成分	キシレン（化管法第1種）・・・33% エチルベンゼン（化管法第1種）・・・45%		500ml×20
性状	淡黄色澄明可乳化油状液体	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	2 石-III (指定数量1000L（非水溶性）)

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用害虫及び使用方法】

2023年5月24日付内容

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	エトフェンプロックスを 含む農薬の総使用回数
稲	-	コブメガ	1000倍	60～150 L/10a	収穫14日前 まで	3回 以内	散布	3回以内
		ツマグロヨコバイ ウカ類 イトヨトビ イナガ類	1000～ 2000倍					
		カミシ類 イトズグムシ	2000倍					
		ウカ類	300～ 600倍	25L/10a				
		ツマグロヨコバイ イトズグムシ イトヨトビ	300倍					
		カミシ類	600倍					
麦類	-	ヒメトビウカ アブラムシ類	2000倍	60～150 L/10a	収穫14日前 まで	2回 以内	散布	2回以内
きび	-	アサギカシカメ	1000倍	100～300 L/10a	収穫14日前 まで	3回 以内	散布	3回以内
あわ	-	アヲトウ アヲメガ	1000倍	100～300 L/10a	収穫14日前 まで	3回 以内	散布	3回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
とうき	-	キゲハ	1000倍	100~300 L/10a	幼虫発生期	6回以内	散布	6回以内
とうもろこし	-	アノメカ アヨトウ ツマジロサヨトウ	1000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内
飼料用とうもろこし(子実)	-	アノメカ アヨトウ ツマジロサヨトウ	1000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内
かんきつ	-	コアサメグリ ケキスイ類	1000倍	200~700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
		シシホメグリガ	1000~2000倍					
		チャキイアサシマ	2000倍					
マンゴー	-	チャキイアサシマ	1000倍	200~700 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
ブロッコリー	-	アムシ	1000~2000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
キャベツ	-	アムシ コガ ヨウムシ アブラムシ類	1000~2000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内
はくさい	-	アムシ コガ ヨウムシ アブラムシ類	1000~2000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
だいこん	-	アムシ コガ ヨウムシ アブラムシ類	1000~2000倍	100~300 L/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	3回以内
ねぎ	-	シイモジヨトウ	1000倍	100~300 L/10a	収穫21日前まで	2回以内	散布	2回以内
レタ	-	アブラムシ類	1000倍	100~300 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
すいか	-	アブラムシ類 コジラミ類 ハモンヨトウ ヨウムシ	1000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内
きゅうり	-	アブラムシ類 コジラミ類	1000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
メロン	-	アブラムシ類 コジラミ類	1000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	4回以内	散布	4回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
にがうり	-	アブラムシ類 コジラミ類 ヨウムシ類 カムシ類 ウリノメイガ	1000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
かぼちゃ	-	コジラミ類 ウリハシ	1000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
なす	-	アブラムシ類	1000~ 2000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
		コジラミ類	1000倍					
トマト	-	コジラミ類	1000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
ピーマン	-	アブラムシ類	1000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
okra	-	アブラムシ類 カムシ類	1000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
さやえんどう	-	シイモジヨトウ ヨウムシ ウナギジミ	1000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
実えんどう	-	シイモジヨトウ ヨウムシ ウナギジミ	1000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
さやいんげん	-	ワタアブラムシ ウナギジミ マメノメイガ	1000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
えだまめ	-	マシクカガ シイモジマダラメイガ ダイズサヤマハエ カムシ類 フタスジヒメハシ ウソノメイガ ツメカガ	1000倍	100~300 L/10a	収穫14日前 まで	2回 以内	散布	2回以内
		ハスモンヨトウ	1000~ 2000倍					
未成熟さ さげ	-	アブラムシ類	1000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
ばれいし よ	-	アブラムシ類	1000倍	100~300 L/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内
かんしょ	-	カジロシカバ アブラムシ類 ハスモンヨトウ	1000倍	100~300 L/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
さといも	-	ハモンヨトウ	1000倍	100~300 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
さといも(葉柄)	-	ハモンヨトウ	1000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
やまのいも	-	アブラムシ類 ヤマトコガ ハモンヨトウ	1000倍	100~300 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
やまのいも(むかご)	-	アブラムシ類 ヤマトコガ ハモンヨトウ	1000倍	100~300 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
豆類(種実、ただし、だいず、あずきを除く)	-	マシクカガ アブラムシ類 シロイモジマダラメカガ ダイズサヤマハエ カムシ類 フタスジヒメハムシ ハモンヨトウ ウラナシジミ アズキノメカガ	1000倍	100~300 L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
だいず	-	マシクカガ アブラムシ類 シロイモジマダラメカガ ダイズサヤマハエ カムシ類 フタスジヒメハムシ ハモンヨトウ ウラナシジミ アズキノメカガ ウコンノメカガ ツメクサガ	1000倍	100~300 L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
あずき	-	マシクカガ アブラムシ類 シロイモジマダラメカガ ダイズサヤマハエ カムシ類 フタスジヒメハムシ ハモンヨトウ ウラナシジミ ノメカガ類	1000倍	100~300 L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
ほうきぎ	-	ホシキリツツシカガ	1000倍	100~300 L/10a	収穫30日前まで	2回以内	散布	2回以内
しょうが	-	ハモンヨトウ	1000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
葉しょうが	-	ハモンヨトウ	1000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
てんさい	-	ヨウムシ	1000～2000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
せんきゅう	-	ウラムシトキ	1000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
モロヘイヤ	-	アザミヤカ類	1000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	1回	散布	1回
あしたば	-	アブラムシ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
ふき	-	コジラミ類 アザミヤカ ヨウムシ	1000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
うど	-	アブラムシ類	1000倍	100～300 L/10a	根株養成期 但し、収穫 45日前まで	2回以内	散布	2回以内
みつば	-	アブラムシ類	1000倍	100～300 L/10a	収穫21日前 まで 但し、伏せ込 み栽培は伏せ 込み前まで	2回以内	散布	2回以内
食用ぎく	-	アブラムシ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	2回以内	散布	2回以内
せり	水田	アブラムシ類	1000倍	100～150 L/10a	収穫30日前 まで	2回以内	散布	2回以内
せり (水耕栽培)	ガラス室等 の施設	アブラムシ類	1000倍	100～150 L/10a	収穫30日前 まで	2回以内	散布	2回以内
みずいも	水田	アザミヤカトキ	1000倍	100～150 L/10a	収穫14日前 まで	3回以内	散布	3回以内
茶	-	チャノコガ チャノトリヒメコハ チャノキイロアザミヤカ	2000倍	200～400 L/10a	摘採21日前 まで	2回以内	散布	2回以内
たばこ	-	タバコガ ヨウムシ	2000倍	25～180 L/10a	収穫10日前 まで	2回以内	散布	2回以内
		アブラムシ類 タバコノミムシ	1000～2000倍					
採種用とうき	-	キアゲハ	1000倍	100～300 L/10a	幼虫発生期	6回以内	散布	6回以内
樹木類(つ つじ類、ポ インセツ、サツ を除く)	-	ケムシ類 シヤクトリムシ類	4000倍	100～700 L/10a	幼虫発生期	6回以内	散布	6回以内
		カゲハ	2000倍					



作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
つつじ類	-	ケムシ類 シャクトリムシ類	4000倍	100~700 L/10a	幼虫発生期	6回 以内	散布	6回以内
		蛾ガハ	2000倍		-			
		ツツジゲンハイ						
ポインセチア	-	ケムシ類 シャクトリムシ類	4000倍	100~700 L/10a	幼虫発生期	6回 以内	散布	6回以内
		蛾ガハ	2000倍		-			
		コナジラミ類	1000倍					
ツツ	-	ケムシ類 シャクトリムシ類	4000倍	100~700 L/10a	幼虫発生期	6回 以内	散布	6回以内
		蛾ガハ	2000倍					
		クロマダラツツジミ	2000~ 4000倍					
宿根かすみそう	-	シイモシヨトウ	1000倍	100~300 L/10a	-	6回 以内	散布	6回以内
		ヨトウムシ	2000倍					
りんどう	-	ヒラズハナアザミマ	2000倍	100~300 L/10a	-	6回 以内	散布	6回以内
きく	-	アブラムシ類	2000倍	100~300 L/10a	発生初期	6回 以内	散布	6回以内
カーネーション	-	アブラムシ類	2000倍	100~300 L/10a	発生初期	6回 以内	散布	6回以内
ゆり	-	アブラムシ類	2000倍	100~300 L/10a	-	6回 以内	散布	6回以内
トルコギキョウ	-	ハスモンヨトウ	1000倍	100~300 L/10a	-	6回 以内	散布	6回以内
水田作物、畑作物(休耕田)	ヨシ、ササ、ススキ、セイタカアワダチソウ等の多年生雑草が優占している休耕田	カメムシ類	2000倍	60~150 L/10a	-	3回 以内	散布	3回以内

#### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 蚕に対して長期間毒性があるので、近くに桑園がある場合には絶対に桑葉にかからないようにすること。
- (3) 散布器具、作業衣等は桑用と必ず区別すること。

- (4) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - 1) ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - 2) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (5) 本剤のかんきつ、茶での散布は、場合によりハダニ類がふえることがあるので注意すること。
- (6) ねぎのシロイチモジヨトウの防除に使用する場合は、食入前の若令幼虫期に散布すること。
- (7) きくのアブラムシ類への使用にあたっては、一部地域のワタアブラムシでは効果が劣ることがあるので使用をさけること。
- (8) 採種用とうきに使用する場合は、根部及び葉を収穫せず、種子の収穫に限ること。
- (9) 水耕栽培に使用する場合は、本剤を使用した施設からの廃液をかんがい水路、排水路、河川等には絶対に流さず、適切に処理すること。
- (10) 本剤を本田の水稻に対して希釈倍数 300～600 倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型速度連動式地上液剤少量散布装置を使用すること。
- (11) 本剤は自動車等の塗装面に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意すること。
- (12) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。とくに適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- (2) 本剤は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 原液は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
- (5) 作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをすること。
- (6) 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（甲殻類、冷水魚）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池等周辺での使用はさけること。なお、比較的低濃度でも魚が平衡失調を起こすおそれがあるので、十分注意すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきることを。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

危険物第四類第二石油類に属するので、火気には十分注意すること。

#### 貯蔵上の注意事項

火気をさけ、直射日光が当たらない低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 16753 号

## トレボン®粉剤DL

- 特長：
- 水稲のウンカ類・ツマグロヨコバイ、コブノメイガ、カメムシ類ほか幅広い害虫に有効です。
  - 害虫に速効的に作用します。
  - 大豆などの豆類や野菜などでも使用できる粉剤タイプの薬剤です。
  - 稲発酵粗飼料（WCS）用稲にも使用できます。

トレボンは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	エトフェンプロックス・・・0.50%	包装	3kg×8
性状	類白色粉末 45μm以下、浮遊性指数 20以下	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用害虫及び使用方法】

2023年5月24日付内容

作物名	適用場所	適用病虫害名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	-	イナムシ	4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
		カメムシ類 イナムシ成虫 ツマグロヨコバイ ウンカ類 コブノメイガ アザミヤカ類 イナガ類 イナガムシ コメテウ	3~4kg/10a				
		イナガムシ フタバチ	3kg/10a				
小麦	-	ヒメヒゲムシ アブラムシ類	4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
豆類(種実)	-	ハスモンヨトウ マメシクガ シロイモシマダラメイガ カメムシ類 フタバチヒメムシ ダイズサヤマハエ アブラムシ類 アズキノメイガ	4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
やまのいも	-	シロイモシヨトウ	4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
さといも	-	ハスモンヨトウ	4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
えだまめ	-	ハモンヨトウ	3~4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
		マシクガ シロイモジマダラメカ カミシ類 フタジヒメハシ ダイズサヤマバエ	4kg/10a				
ばれいしよ	-	テントウムシダマシ類	4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
かんしょ	-	ハモンヨトウ カシロシカバ	4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
とうもろこし	-	アノメカ	4kg/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内
飼料用とうもろこし(子実)	-	アノメカ	4kg/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内
トマト	-	コジラシ類	4kg/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
きゅうり	-	ウリハシ	3~4kg/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
		アブラムシ類	4kg/10a	収穫前日まで			
なす	-	テントウムシダマシ類	4kg/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
okra	-	アブラムシ類	4kg/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
すいか	-	ハモンヨトウ ウリハシ	4kg/10a	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内
かぼちゃ	-	コジラシ類	4kg/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
キャベツ	-	ハモンヨトウ アブラムシ類 アオムシ	3~4kg/10a	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内
はくさい	-	アオムシ	3~4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
		コガ	4kg/10a				
だいこん	-	アオムシ	3~4kg/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	3回以内
		ダイコンハシ	4kg/10a				
れんこん	-	マコガネ	4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
水田作物、畑作物(休耕田)	珙、柁、スサ、セイカアザチ等 の多年生雑草が優占している休耕田	カミシ類	3~4kg/10a	-	3回以内	散布	3回以内

#### 使用上の注意事項

- (1) 本剤は飛散を少なくするように製剤されており、一般の粉剤に比べ見かけ比重がやや大きく、流動性が良いので、散布の際は散粉機の開度を1目盛程度しぼって散布すること。
- (2) 蚕に対して長期間毒性があるので、近くに桑園がある場合には絶対に桑葉にかからないようにすること。
- (3) 散布器具、作業衣などは桑用と必ず区別すること。
- (4) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - 1) ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - 2) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (5) イネミズゾウムシ成虫に使用する場合、移動範囲が広いのでなるべく広域でいっせいに防除し、畦畔などの周辺雑草にも散布すること。
- (6) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。とくに適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤食などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないように注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
- (4) 作業後は手足、顔等を石けんでよく洗い、洗眼・うがいをする。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（甲殻類、冷水魚）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池等周辺での使用はさけること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法では、その該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 16759 号

トレボン<sup>®</sup>粒剤

●水面施用でイネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ウンカ類、ツマグロヨコバイなど水稻の重要害虫に効果を発揮します。

特長： ●いぐさ・れんこん・さとうきび・畑わさび・わさびにもご使用になれます。

●粒剤ですので、周辺へ飛散しにくい薬剤です。

●稲発酵粗飼料（WCS）用稲にも使用できます。

トレボンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	エトフェンプロックス（化管法第1種）・・・1.5%	包装	2kg×10
性状	褐色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物 <sup>*</sup>	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用害虫及び使用方法】

2021年4月21日付内容

作物名	適用病虫害名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	イネミズゾウムシ イネドロオイムシ イネゾウムシ イネカメムシ イネコバエ イネコバエ類 ウンカ類 ツマグロヨコバイ	2～3 kg/10a	収穫21日前 まで	3回以内	散布	3回以内
	ニカメムシ第1世代	3kg/10a				
さとうきび	ハガキムシ類	9kg/10a	植付時	1回	植溝土壌混和	1回
れんこん	イネコバエ	3kg/10a	収穫14日前 まで	3回以内	散布	3回以内
いぐさ	イグサシロカ	2kg/10a	-	3回以内	散布	3回以内
畑わさび	ナトビハムシ	3kg/10a	植付時	1回	植溝土壌混和	2回以内 (植付時の土壌混和は1回 以内、散布は1回以内)
	ナトビハムシ ワサビハムシ		収穫14日前 まで		散布	
わさび	ナトビハムシ	3kg/10a	畑育苗期 ただし、植付時	1回	植溝土壌混和	2回以内 (植付時の土壌混和は1回 以内、散布は1回以内)
			畑育苗期		散布	

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきることを。
- (2) 本剤を本田で使用する場合、湛水状態（湛水深3～5cm）でまきむらのないよう均一に散布し、散布後少なくとも3～4日間はそのまま湛水状態を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意し、また、散布後7日間には落水、かけ流しはしないこと。

- (3) 本剤を使用したわさびの苗を畑地からわさび田に移植する場合には、使用した農薬がわさび田の水系に持ち込まれないよう、わさびの苗に付着した土を十分に洗い落とすこと。
- (4) 蚕に対して長期間毒性があるので、近くに桑園がある場合には絶対に桑葉にかからないようにすること。
- (5) 散布器具、作業衣などは桑用と必ず区別すること。
- (6) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - 1) ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - 2) 関係機関（都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (7) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤食などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 散布の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣等を着用すること。作業後は手足、顔等を石けんでよく洗い、洗眼・うがいをする。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 水産動植物（甲殻類、冷水魚）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池等周辺での使用はさけること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 18793 号

## なげこみトレボン®

特長：  
 ●水溶性容器を水田に投げ込む殺虫剤です。  
 ●処理の簡便さが好評です。

なげこみトレボンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	エトフェンブロックス（化管法第1種）・・・4.0%	包装	(50ml×6) ×20
性状	淡黄色澄明油状液体水溶性容器入り 1個 50ml	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	4石-III (指定数量6000L)

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用害虫及び使用方法】

2021年7月7日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンブロックスを含む農薬の総使用回数
稲	イネズゾウムシ イネトオムシ	水溶性容器4～6個 (200～300mL)/10a	5葉期以降 収穫21日前 まで	3回以内	本田に水溶性容器 のまま投げ入れる	3回以内
	ウカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ第1世代	水溶性容器10個 (500mL)/10a				
	イナゴ類 イネコカメシ	水溶性容器6～10個 (300～500mL)/10a				
いぐさ	イゲザシムシガ	水溶性容器6個 (300mL)/10a	-	3回以内	本田に水溶性容器 のまま投げ入れる	3回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使い切ること。
- (2) 水溶性容器を使用しているためぬれた手で作業しないこと。
- (3) 容器の破損を防ぐため取扱いは慎重に行うこと。
- (4) 薬効に関する事項
  - 1) 本剤の使用に際しては、所定個数を水溶性容器のまま圃場全体に均等に投げ込むこと。
  - 2) 本剤は湛水状態で、土壌にめり込ませないよう畦畔から軽く投げ入れること。
  - 3) 本剤処理後、少なくとも3～4日間はそのまま湛水状態を保ち、田面を露出させたり水を切らせたりしないように注意し、また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。
- (5) 薬害に関する事項
  - 1) 強風下では、薬液が風下に吹き寄せられ薬害を生じることがあるので、使用をさけること。
  - 2) 内容液が、稲、いぐさの茎葉に直接付着すると薬害を生じるので、水溶性容器のまま田水面に投げ込むこと。
  - 3) 藻、ウキクサ等が多数浮遊している水田等及び稲、いぐさが活着不良または軟弱徒長の場合には薬害を生じることがあるので、使用をさけること。
- (6) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。



**人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法**-----

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は水溶性容器に封入されているため、使用の際は濡れた手で触らないこと。
- (3) 使用の際は手袋などを着用すること。使用後は手足、顔などを石けんでよく洗うこと。
- (4) 水溶性容器が破損した場合は以下の点に注意すること。
  - 1) 眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
  - 2) 皮膚に対して刺激性があるので、付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨**-----

- (1) 水産動植物（甲殻類、冷水魚）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう注意して使用すること。養殖池等周辺での使用はさけること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨**-----

危険物第4類第4石油類に属するので火気には十分注意すること。

**貯蔵上の注意事項**-----

- (1) 吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を堅く閉じて保管すること。
- (2) 火気をさけ、直射日光が当たらないなるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 19456 号

## バイデート™ 粒剤

●ネグサレセンチュウ・ネコブセンチュウ・シストセンチュウなどセンチュウの種類を問わず、高い効果を示します。  
 特長： す。  
 ●優れた侵入阻止作用、制センチュウ作用があります。

バイデートはコルテバ・アグリサイエンスならびにその関連会社の商標です。

有効成分	オキサミル・・・0.80%	包装	3kg×6 5kg×4 15kg×1
性状	淡褐色細粒	有効年限	5年
毒性	劇物	危険物	-

## 【適用害虫及び使用方法】

2023年8月23日付 容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	オキサミルを含む農薬の総使用回数
ばれいしょ	ジャガイモシストセンチュウ ジャガイモシストセンチュウ	30kg/10a	植付前	1回	全面土壌混和	1回
	ネコブセンチュウ	20kg/10a			植溝処理土壌混和	
	アブラムシ類					
ピーマン	アブラムシ類	1.5～2.5g/株	育苗期	1回	株元処理	2回以内 (育苗期の株元処理は1回以内、 定植前の土壌混和は1回以内)
	ミキイロアザミウマ	1～2.5g/株				
	ネコブセンチュウ	50kg/10a	定植前		全面土壌混和	
メロン(地床)	ミキイロアザミウマ	1～2.5g/株	育苗期	1回	株元処理	2回以内 (育苗期の株元処理は1回以内、 定植前の土壌混和は1回以内)
メロン(揚床)	ミキイロアザミウマ	1g/株	育苗期	1回	株元処理	2回以内 (育苗期の株元処理は1回以内、 定植前の土壌混和は1回以内)
メロン	ネコブセンチュウ	40～50kg/10a	定植前	1回	全面土壌混和	2回以内 (育苗期の株元処理は1回以内、 定植前の土壌混和は1回以内)
にがうり	ネコブセンチュウ	40kg/10a	定植前	1回	全面土壌混和	1回

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	オキサミルを含む農薬の総使用回数
きゅうり	ネブセンチュウ ネグサレセンチュウ	25～50kg/10a	は種前 又は定植前	1回	全面土壌混和	1回
	アブラムシ類		定植前			
	アブラムシ類 汁キイロアザミウマ	1～2.5g/株	育苗期		株元処理	
すいか	ネブセンチュウ ネグサレセンチュウ	25～35kg/10a	は種前 又は定植前	1回	全面土壌混和	1回
	アブラムシ類	1.5～2.5g/株	育苗期			
	汁キイロアザミウマ	1～2.5g/株				
レタス	ネブセンチュウ ネグサレセンチュウ	40～50kg/10a	定植前	1回	全面土壌混和	1回
リーフレタス	ネブセンチュウ ネグサレセンチュウ	40kg/10a	定植前 但し、収穫 75日前まで	1回	全面土壌混和	1回
トマト	ネブセンチュウ ネグサレセンチュウ	25～50kg/10a	定植前	1回	全面土壌混和	1回
ミニトマト	ネブセンチュウ ネグサレセンチュウ	25～50kg/10a	定植前	1回	全面土壌混和	1回
だいこん	ネブセンチュウ アブラムシ類	25～50kg/10a	は種前	1回	全面土壌混和	1回
	ネグサレセンチュウ	20～50kg/10a				
にんじん	ネブセンチュウ ネグサレセンチュウ	20～50kg/10a	は種前	1回	全面土壌混和	1回
ごぼう	ネブセンチュウ ネグサレセンチュウ	20～37kg/10a	は種前	1回	播溝土壌混和	1回
もりあざみ	キタネグサレセンチュウ	40～50kg/10a	は種前	1回	全面土壌混和	1回
かんしょ	ネブセンチュウ	40～50kg/10a	植付前 (挿苗前)	1回	全面土壌混和	1回
		30～40kg/10a			作条土壌混和	
やまのいも	ネブセンチュウ	40～50kg/10a	植付前	1回	全面土壌混和	1回
だいず	ダイズシストセンチュウ	6kg/10a	は種前 又は定植前	1回	作条土壌混和	1回
		30kg/10a	は種前		全面土壌混和	
あずき	ダイズシストセンチュウ	6kg/10a	は種前	1回	作条土壌混和	1回
		30kg/10a			全面土壌混和	
えだまめ	ダイズシストセンチュウ	6kg/10a	は種前 又は定植前	1回	作条土壌混和	1回
		30kg/10a			全面土壌混和	
にんにく	任ネグサレセンチュウ	30～50kg/10a	植付前	1回	全面土壌混和	1回
たばこ	ネブセンチュウ ネグサレセンチュウ	37kg/10a	定植前	1回	作条土壌混和	1回

## 使用上の注意事項

- (1) 石灰など、アルカリ性肥料との同時施用はさけること。
- (2) 水源池、飲料用水、養魚池、養魚田等に本剤が飛散流入しないように十分注意すること。
- (3) ばれいしょの全面土壌混和に使用する場合次の事項に注意すること。
  - 1) 圃場全面に均一に散布し、20～25cmの深さに土壌と十分混和すること。散布や混和が不均一な場合には薬効不足や初期生育の遅延などの薬害を生じることがあるので注意すること。
  - 2) 一時に広範囲に使用する場合には散布中粉末を吸い込んだり、皮膚につけたりしないため、散布機は飛散が少なく、均一に散布できる乗用トラクター装着粒剤施用機（単純な重力落下方式）を用いること。手播、人力散粒機、乗用型以外の動力散粒機などによる散粒は行わないこと。
- (4) なす、ピーマン、メロン、きゅうり及びびすいかの育苗鉢に使用する場合、次の事項に注意すること。
  - 1) 本剤が葉に付着しないように育苗鉢の土壌表面に均一に散布すること。
  - 2) 表土が乾燥している場合は、効力が劣ることがあるので、処理後軽く散水すること。
  - 3) 育苗初期には薬害を生じることがあるので、所定範囲の低薬量で処理すること。
- (5) 本剤をセンチュウ防除に使用する場合、各適用作物の使用時期に応じて植付直前、は種直前又は定植直前に処理することが望ましい。さらに散布ムラや不均一な土壌混和は薬効不足や薬害を生じることがあるので、作物の根のまわりに均等に分布するよう土壌とよく混和すること。
- (6) 本剤を使用した大根のつまみ菜、まびき菜は食用に供さないこと。
- (7) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (8) ミツバチに対して影響があるので、ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
- (9) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 医薬用外劇物。取扱いには十分に注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- (2) 動物実験では、本剤による中毒の治療法として硫酸アトロピン製剤の投与は有効であるがPAM製剤の投与は無効であると報告されている。
- (3) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので、皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。また粉末を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (5) 過労時には散布作業に従事しないこと。また同一人が長時間継続して散布作業を行わないこと。
- (6) 散布にあたっては子供や散布に関係のない者などが作業現場に近づかないようにすること。
- (7) 使用後の空袋や空容器は圃場などに放置せず、必ず安全な場所に処理すること。
- (8) 本剤は毒性が強いため、取扱いには特に注意して危害防止に努め、決められた使用条件を厳守し、また絶対に所定の適用以外に使用されることのないよう管理すること。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用法ではその該当がない。

## 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、鍵のかかるなるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 24069 号

## 明治ファインセーブ®フロアブル

- 特長：
- アザミウマ類に特効的・サビダニ類にも高い効果があります。併せて、タバココナジラミ類、小型のチョウ目害虫にも有効です。
  - 新規作用機作で既存剤に感受性の低下した害虫に有効です。ミトコンドリア電子伝達系複合体III Qi を阻害します。
  - ミツバチ・マルハナバチ・カブリダニ類等に対して影響が小さいです。
  - 極めて高い速効性・優れた残効性があります。

有効成分	フロメトキン・・・10.0%	包装	500ml×20
性状	類白色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	4年
毒性	医薬用外劇物	危険物	-

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年04月01日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フロメトキンを含む農薬の総使用回数
かんきつ	アザミウマ類 ミカサビダニ チャノホリダニ	2000～4000倍	200～700 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
マンゴー	アザミウマ類	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
なす	タバココナジラミ類 (シルバーリーフコ ジラミを含む)	1000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	アザミウマ類	1000～2000倍					
しょくようほおずき	アザミウマ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
トマト	アザミウマ類 タバココナジラミ類 (シルバーリーフコ ジラミを含む)	1000～2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	トマトサビダニ	1000～4000倍					
ミトマ	アザミウマ類 タバココナジラミ類 (シルバーリーフコ ジラミを含む)	1000～2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	トマトサビダニ	1000～4000倍					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フロメトキンを含む農薬の総使用回数
ししとう	タバコナジラミ類 (シルバーリーフナジラミ含む)	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
	アザミヤ類	1000～2000 倍					
ピーマン	タバコナジラミ類 (シルバーリーフナジラミ含む)	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
	アザミヤ類	1000～2000 倍					
すいか	アザミヤ類	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
いちご	アザミヤ類	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
はくさい	アムシ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
	コガ	1000～2000 倍					
キャベツ	コガ アザミヤ類	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
	アムシ	1000 倍					
きく(葉)	アザミヤ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
しそ	アザミヤ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
しそ(花穂)	アザミヤ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
みょうが (花穂)	アザミヤ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布、但し花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用する。	3 回以内
みょうが (茎葉)	アザミヤ類	1000 倍	100～300 L/10a	みょうが(花穂)の収穫前日まで 但し、花穂を収穫しない場合にあつては開花期終了まで	3 回以内	散布	3 回以内
バジル	アザミヤ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
ブロッコリー	アムシ アザミヤ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
	コガ	1000～2000 倍					
カリフラワー	アムシ アザミヤ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
	コガ	1000～2000 倍					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フロメトキンを含む農薬の総使用回数
だいこん	コガ	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
ねぎ	アザミヤ類	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
	ネハモグリハエ	2000 倍					
わけぎ	アザミヤ類 ネハモグリハエ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
あさつき	アザミヤ類 ネハモグリハエ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
にら	アザミヤ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
たまねぎ	アザミヤ類	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
にんにく	アザミヤ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
ほうれん そう	アザミヤ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
食用ぎく	アザミヤ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
アスパカス	アザミヤ類 タバコナジラミ類 (シルバリーフコ ジラミを含む)	2000 倍	100～800 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
茶	チャホガ	2000～4000 倍	200～400 L/10a	摘採 14 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
	チャノキイアザミヤ	1000～4000 倍					
きく	アザミヤ類	2000 倍	100～300 L/10a	発生初期	2 回以内	散布	2 回以内

#### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 使用直前に、容器をよく振ること。
- (3) 本剤は植物体への浸透移行性がないので、かけむらのないように葉の表裏に十分散布すること。
- (4) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (5) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 医薬用外劇物。取扱いには十分注意すること。  
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。  
本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- (2) 散布の際は防護マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。  
作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

(5) 施設内で使用する場合、窓等を開放し十分に換気してから施設内に立ち入ること。

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----**

- (1) 水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池周辺での使用はさけること。
- (2) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使い切ること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----**

通常の使用方法ではその該当がない。

**貯蔵上の注意事項-----**

直射日光をさけ、食品と区別して、鍵のかかるなるべく低温な場所に密栓して保管すること。



登録番号 第 23365 号

## フェルテラ®スタークル®箱粒剤 CU

- 作用性の異なる2つの殺虫成分の組み合わせにより、初期害虫・コブノメイガ・ウンカ類を長期間防除できます。
- 特長： ●有効成分ジノテフランを高含量・溶出制御化した製剤で、イネクロカメムシやイナゴ類も防除できます。  
●播種時から移植当日まで幅広く使えるので、栽培計画に合わせた処理が可能です。  
●農林水産省「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」に掲載された農薬です。

フェルテラはFMC Corporation またはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標です。スタークルは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ジノテフラン（化管法第1種）・・・6.0% クロラントラニリプロール・・・0.75%	包装	1kg×12 3kg×6 10kg×1（JA）
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

\*普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用害虫及び使用方法】

2021年12月22日付内容

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	クロラントラニ プロールを含む農 薬の総使用回数	ジノテフランを 含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	ウンカ類 イネヌズバウム イネトモイシ コメチユ コブノメイガ アカヒゲコヤガ イネトムシ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5㍓) 1箱当り 50g	は種前 は種時覆土前 ～移植当日	1回	育苗箱の床 土又は覆土 に均一に混 和する	1回	4回以内 (育苗箱への 処理及び 側条施用は 合計1回以内、 本田での散布、 空中散布、 無人航空機散布は 合計3回以内)
		高密度に は種する場合は 1kg/10a (育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50～100g)	は種前 は種時覆土前 ～移植当日				
	ツマグロヨコバイ イネカメムシ イナゴ類	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5㍓) 1箱当り 50g	移植3日前～ 移植当日		育苗箱の上 から均一に 散布する。		
		高密度に は種する場合は 1kg/10a (育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50～100g)					

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきることを。
- (2) 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約 5L）1 箱当りに乾粒として 200 から 300g 程度を高密度には種する場合は、10a 当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が 1kg/10a までとなるよう、育苗箱 1 箱当りの薬量を 50 から 100g までの範囲で調整すること。
- (3) 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
- (4) 本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水してから田植機にかけて移植すること。育苗箱に高密度には種した場合は、とくに注意して葉に付着した薬剤を払い落とすこと。
- (5) 本剤を床土又は覆土に混和処理する場合、処理後速やかに使用すること。また本剤を処理した床土又は覆土を放置しないこと。
- (6) 葉先枯れなどの薬害を生じることもあるので、散布ムラがないよう均一に散布すること。
- (7) 容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (8) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (2) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

## 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 24680 号

## MIC フェルテラ®チェス®箱粒剤

●フェルテラ（クロラントラニプロール）は、コブノメイガ、フタオビコヤガ、イネツトムシなどのチョウ目害虫と、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、ツマグロヨコバイに対して高い効果を発揮します。

●チェス（ピメトロジン）は、ウンカ類に対して高い効果を発揮します。特にウンカ類の吸汁阻害と産卵抑制作用により、次世代の密度を抑制することで長期間効果を持続します。

フェルテラはFMC Corporation またはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標、  
チェスはシンジェンタ社の登録商標です。

有効成分	クロラントラニプロール・・・0.75% ピメトロジン・・・3.0%	包装	1kg×12
性状	類白色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数	ピメトロジンを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	ウンカ類 ツマグロヨコバイ コメテウ コブノメイガ イネドロオイムシ イネミズゾウムシ フタオビコヤガ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	は種時(覆土前)～移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	1回	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、 本田では2回以内)
	イネツトムシ						
	ウンカ類 ツマグロヨコバイ コメテウ コブノメイガ イネドロオイムシ イネミズゾウムシ フタオビコヤガ イネツトムシ	高密度には種する場合は 1kg/10a (育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50～100g)	移植3日前～移植当日				

## 使用上の注意事項

- 育苗箱の上から均一に散布し、軽く灌水してから移植すること。
- 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
- 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当りに乾糶として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。
- 本剤処理後に急激な乾燥が起りやすい場所や温度変化が大きい場所で育苗した場合、薬害が生じるおそれがあるので、注意すること。

- (5) 本剤処理後の低温で薬害を生じるおそれがあるので温度管理に注意し、適切な育苗に努めること。
- (6) 本剤処理後に移植適期を過ぎると薬害を助長させるおそれがあるので、適期の移植に努めること。
- (7) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法  
農薬使用者に係る注意事項

- ① 誤食などのないように注意すること。  
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- ② 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ③ 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。  
作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。

- (2) 使用に際して講ずべき被害防止方法  
該当なし

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (2) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 24422 号

# プロフレア®SC

- 特長：
- 新規作用機構【殺虫剤分類 30】であるため、既存剤に抵抗性を獲得した害虫にも優れた効果を示します。
  - チョウ目・ハムシ類の専門剤です。
  - 速攻的な殺虫効果と、3週間程度の長い残効性があります。
  - 耐雨性に優れ、突然の降雨があっても効果の持続性に変わりありません。

プロフレアは三井化学クロップ&ライフソリューション（株）の登録商標です。

有効成分	プロフラニリド・・・5.0%	包装	250ml×20 500ml×20
性状	黄色水性和性粘稠懸濁液体	有効年限	5年
毒性	普通物※	危険物	—

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用害虫及び使用方法】

2022年9月28日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	プロフラニリドを含む農薬の総使用回数
キャベツ	コガ アオムシ ハスモンヨトウ ヨウムシ オオタバコガ ウバ類 ハイマダラノメカ シロイチモンヨトウ	2000～4000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
はくさい	コガ アオムシ ハスモンヨトウ ヨウムシ オオタバコガ ハイマダラノメカ カブラハチ類 キスジノミハムシ ダイコンハムシ シロイチモンヨトウ	2000～4000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
だいこん	コガ ヨウムシ ハイマダラノメカ キスジノミハムシ カブラハチ類 アオムシ ダイコンハムシ	2000～4000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	プロフラニリドを含む農薬の総使用回数
かぶ	コガ キジノミムシ ハイダラノメカ アオムシ ハスモントウ ダイコンムシ	2000～4000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
はなやさい類	コガ アオムシ ハスモントウ ヨウムシ オタバコガ ウバ類 ハイダラノメカ シロイモシヨウ	2000～4000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
非結球 あぶらな科 葉菜類	コガ アオムシ キジノミムシ	2000～4000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
レタ	ハスモントウ ヨウムシ オタバコガ ウバ類 シロイモシヨウ	2000～4000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
非結球レタ	ハスモントウ ヨウムシ オタバコガ ウバ類 シロイモシヨウ	2000～4000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
ねぎ	ネギコガ シロイモシヨウ ネギハモグリバエ	2000～4000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
えだまめ	ハスモントウ オタバコガ ダイズサヤマバエ フタスジヒメムシ マシクイガ	2000～4000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
		16～32倍	0.8～1.6 L/10a			無人航空機 による散布	
かんしょ	ハスモントウ ナガシロタバ ヨツモンカメノコムシ	2000～4000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
		16～32倍	0.8～1.6 L/10a			無人航空機 による散布	
きく	ハスモントウ オタバコガ	2000～4000倍	100～300 L/10a	発生初期	3回以内	散布	3回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 使用前によく振ってから使用すること。
- (2) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (3) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 散布は各散布機種<sup>1)</sup>の散布基準に従って実施すること。
  - 2) 散布にあたっては、散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 3) 散布中、薬液が漏れないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
  - 4) 散布薬液の飛散によって動植物及び自動車やカラートタンの塗装等へ影響を与えないよう散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
- (4) 使用液量は対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせて調節すること。
- (5) みずかけな（水掛菜）に使用する場合は、ほ場内に水がない状態で使用すること。また、使用后 14 日間は入水しないこと。
- (6) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (7) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - 1) ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。無人航空機による散布でそれらに飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - 2) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (8) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

通常の使用方法ではその該当がない。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

## 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 23752 号

# MIC ベネビア®OD

- 特長：**
- チョウ目害虫に加えて、ハモグリバエ類、コナジラミ類、アザミウマ類、アブラムシ類などの微小害虫も、まとめて防除することができます。
  - 害虫によるトマト黄化葉巻病、きゅうり黄化えそ病のウイルス媒介を抑制する効果があります。
  - ミツバチ、マルハナバチへの安全日数は1日です。
  - 天敵、微生物農薬に対する影響が小さく、IPMに適しています。
  - 独自のオイル製剤で優れた浸達性と局所的な移行性、耐雨性があります。

ベネビアはFMC Corporation またはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標です。

有効成分	シアントラニリプロール(化管法第2種)・・・10.3%	包装	500ml×20 250ml×20×2
性状	類白色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

**【適用害虫及び使用方法】**

2023年6月21日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
キャベツ	コガ アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ ハマダラメカガ ウバ類 オタバコガ シロイチモシヨトウ	2000~4000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時までの処理は 1回以内、 定植後の処理は 3回以内)
	コガ アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ ハマダラメカガ ウバ類 オタバコガ アザミヤ類 アブラムシ類 シロイチモシヨトウ	20倍	1~2 L/10a			無人航空機による散布	
	アザミヤ類 アブラムシ類	2000倍	100~300 L/10a			散布	



作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
はくさい	コガ アオムシ ヨウムシ ハスモンヨトウ ハイタダノメガ ウバ類	2000～4000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時までの処理は 1回以内、 定植後の散布は 3回以内)
	アブラムシ類 キスジノミハムシ	2000倍					
だいこん	コガ アオムシ ハイタダノメガ カブラハバチ類 ダイコンハムシ	2000～4000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	4回以内 (は種時までの処理は 1回以内、 は種後の処理は 3回以内)
	アブラムシ類 ハモグリバエ類 キスジノミハムシ	2000倍				散布	
	ヨウムシ	4000倍	散布				
	コガ アオムシ ハイタダノメガ カブラハバチ類 ダイコンハムシ アブラムシ類 ハモグリバエ類 キスジノミハムシ ヨウムシ	20倍	1～2 L/10a			無人航空機 による散布	
ブロッコリー	コガ アオムシ ハスモンヨトウ シロイモシヨトウ	2000～4000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時までの処理は 1回以内、 定植後の処理は 3回以内)
	アザミサマ類 アブラムシ類	2000倍					
	コガ アオムシ ハスモンヨトウ シロイモシヨトウ アザミサマ類 アブラムシ類	20倍	1～2 L/10a			無人航空機 による散布	
トマト	オオタバコガ	2000～4000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時までの処理及び 定植直後の株元灌注は 合計1回以内、 定植後の散布は3回以内)
	ハモグリバエ類 コナジラミ類 アザミサマ類 アブラムシ類 トマトキバガ	2000倍					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数
ミニトマト	オオタバコガ	2000～4000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の散布は3回以内)
	ハメグリバエ類 コジラミ類 アザミヤメ類 アブラムシ類 トモキバガ	2000倍					
きゅうり	アブラムシ類 コジラミ類 アザミヤメ類 ハメグリバエ類 ウリムシガ	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の散布は3回以内)
レタス	オオタバコガ ハスモンヨトウ ヨウムシ ウバ類	2000～4000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は3回以内)
	ハメグリバエ類 アブラムシ類	2000倍					
非結球レタス	オオタバコガ ハスモンヨトウ ヨウムシ ウバ類	2000～4000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は3回以内)
	ハメグリバエ類 アブラムシ類	2000倍					
ピーマン	オオタバコガ	2000～4000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は3回以内)
	アザミヤメ類 アブラムシ類 コジラミ類	2000倍					
ししとう	オオタバコガ	2000～4000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (灌注は1回以内、散布は3回以内)
	アザミヤメ類 アブラムシ類 コジラミ類	2000倍					
いちご	アザミヤメ類 アブラムシ類 コジラミ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (灌注は1回以内、散布は3回以内)
	ハスモンヨトウ	2000～4000倍					
アスパラガス	ハスモンヨトウ	4000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	アザミヤメ類	2000倍					
オクラ	アブラムシ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫開始 3日前まで	3回以内	散布	3回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数
えだまめ	ハスモンヨトウ マメシクイガ	2000～4000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	4 回以内 (は種前の処理は 1 回以内、 は種後の処理は 3 回以内)
	アブラムシ類	2000 倍					
	ハスモンヨトウ マメシクイガ	32 倍	0.8～2.4 L/10a			無人航空機 による散布	
	アブラムシ類		1.6～2.4 L/10a				
だいず	ハスモンヨトウ マメシクイガ	2000～4000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	3 回以内	散布	4 回以内 (は種前の処理は 1 回以内、 は種後の処理は 3 回以内)
	アブラムシ類	2000 倍	100～300 L/10a				
	ハスモンヨトウ マメシクイガ	32 倍	0.8～2.4 L/10a			無人航空機 による散布	
	アブラムシ類		1.6～2.4 L/10a				
さやいんげ ん	ハスモンヨトウ	4000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	ハモグリバエ類	2000 倍					
かぼちゃ	ハスモンヨトウ	4000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	ハモグリバエ類	2000 倍	100～300 L/10a				
	ハスモンヨトウ ハモグリバエ類	20 倍	1～2 L/10a			無人航空機 による散布	
ねぎ	シロイモジヨトウ アザミマ類 ハモグリバエ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	4 回以内 (定植時までの処理は 1 回以内、 定植後の処理は 3 回以内 (但し、株元灌注は 1 回以内) )
		20 倍	1～2 L/10a			無人航空機 による散布	
たまねぎ	シロイモジヨトウ ハスモンヨトウ ハモグリバエ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	アザミマ類	2000～4000 倍	100～300 L/10a				
	シロイモジヨトウ ハスモンヨトウ ハモグリバエ類 アザミマ類	20 倍	1～2 L/10a			無人航空機 による散布	
にんにく	アザミマ類 ネギカ アブラムシ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
		20 倍	1～2 L/10a			無人航空機 による散布	

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数
やまのいも	カビイロカ ハモンヨトウ アブラムシ類	4000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内
		40倍	1～3 L/10a			無人航空機 による散布	
かんしょ	ハモンヨトウ ナガシロタバ アリモトキブウムシ イモゾウムシ ヨツモンカメノコハムシ ヒルカオハモグリガ	4000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内
		40倍	1～2 L/10a			無人航空機 による散布	
ばれいしよ	ハモンヨトウ	4000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内
	アブラムシ類	2000倍					
	ハモンヨトウ アブラムシ類	40倍	2～3.2 L/10a			無人航空機 による散布	
にんじん	アブラムシ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
	ヨトウムシ ハモンヨトウ キアゲハ	4000倍					
未成熟とう もろこし	ムギクビレアブラムシ	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
	アリノメイト オタバコガ ツマジロクサヨトウ	2000～4000倍					
	アリノメイト オタバコガ ツマジロクサヨトウ ムギクビレアブラムシ	40倍	2～3.2 L/10a			無人航空機 による散布	
たばこ	ヨトウムシ タバコミハムシ	4000倍	100～180 L/10a	収穫10日前 まで	2回以内	散布	2回以内

#### 使用上の注意事項

- (1) 使用前によく振ってから使用すること。
- (2) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (3) 散布液調製後はできるだけ速やかに散布すること。
- (4) アルカリ性の農薬や肥料との混用はさけること。
- (5) やむを得ず、他の薬剤と混用する場合には、事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。
- (6) アスパラガスに使用する場合、銅剤との混用は薬害を生じるおそれがあるので、混用はしないこと。
- (7) きゅうりに使用する場合、TPNを含む農薬との混用は薬害を生じるおそれがあるので、混用はしないこと。
- (8) トマト及びミニトマトに使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので、以下のことに注意すること。
  - 1) アゾキシストロピンを含む農薬との混用はしないこと。
  - 2) アゾキシストロピンを含む農薬を散布した場合には、散布後2週間以上間隔をあけて本剤を使用すること。
- (9) はくさいに使用する場合、展着剤を加用すると薬害を生じる場合があるので、加用に当っては事前にその適否を確認すること。
- (10) 使用液量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせて調節すること。

- (11) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意事項を守ること。
  - 1) 散布は散布機種別の散布基準に従って実施すること。
  - 2) 散布に当っては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 3) 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
- (12) 過度の連用をさげ、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせ使用すること。
- (13) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (14) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - 1) ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
  - 2) 無人航空機による散布で巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - 3) 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさげること。また、地上散布では散布直後から1日後まではミツバチの巣箱を移動させるか、巣門を閉じること。
  - 4) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (15) つまみ菜・間引き菜には使用しないこと。
- (16) 空容器はほ場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理すること。洗浄水はタンクに入れること。
- (17) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (5) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (6) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきることを。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさげ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 18997 号

## マイトクリーン®

- 広範囲のハダニ類に効果があります。  
 特長：●成虫・若虫・幼虫・卵のいずれにも活性があります。  
 ●サビダニ、ホコリダニ、コナガ対象にも使えます。

マイトクリーンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ピリミジフェン・・・4.0%	包装	500ml×20
性状	淡褐色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用害虫及び使用方法】

2020年3月25日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ピリミジフェンを含む農薬の総使用回数
かんきつ	ハダニ類 ミカンサビダニ	2000～ 3000倍	200～700 L/10a	収穫14日前 まで	1回	散布	1回
	カンキヅラミ チャノコリダニ	2000倍					
りんご	ハダニ類	1000～ 2000倍	200～700 L/10a	収穫21日前 まで	1回	散布	1回
なし	ハダニ類	1500～ 2000倍	200～700 L/10a	収穫14日前 まで	1回	散布	1回
もも	ハダニ類	2000倍	200～700 L/10a	収穫14日前 まで	2回以内	散布	2回以内
キャベツ	コガ	1000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	4回以内	散布	4回以内
はくさい	コガ	1000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	2回以内	散布	2回以内
いちご	ハダニ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	1回	散布	1回
茶	カンザワハダニ チャノカ サビダニ類 チャノコリダニ	2000倍	200～400 L/10a	摘採14日前 まで	1回	散布	1回
げっきつ	カンキヅラミ	2000倍	100～300 L/10a	発生初期	1回	散布	1回

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 本剤は長期間貯蔵しておくとは分離するので、使用の際は容器をよく振って均一な状態にもどしてから所定量を取り出すこと。なお、希釈する場合は、所定量の水に加えてから十分攪拌すること。
- (3) ハウス栽培のみかんには使用しないこと。
- (4) 高冷地夏穫りキャベツは品種により葉にアントシアンを強く生じるおそれがあるので、結球後は使用しないこと。
- (5) ハダニ類は繁殖が早く、密度が高くなると防除が困難になるので、発生初期に散布むらのないようにていねいに散布すること。
- (6) 本剤の連続散布は、ハダニ類の本剤に対する抵抗性を増加させる恐れがあるので、できるだけ年1回の散布とし、他の殺ダニ剤との輪番で使用すること。
- (7) 薬剤抵抗性のハダニ類に効果が劣る場合があるので注意すること。
- (8) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (9) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - 1) ミツバチ等の巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
  - 2) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (10) 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節すること。
- (11) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (12) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- (5) 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池周辺での使用はさけること。
- (2) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

## 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 17722 号

## ミルベノック<sup>®</sup>乳剤

- 特長：
- 土中の放線菌が生産する天然物から見出された原体であるため、有機JASに適合した農業でも利用可能な薬剤です\*。
  - ハダニ類・サビダニ類・チャノホコリダニなどを広範にカバーします。
  - 優れた即効性を有し、ハダニの卵から成虫まで全ステージへ効果を示します。
- \*：ただし、地方自治体が独自に定める農薬使用基準ではカウントされる場合がありますので、必ず地方自治体の関係機関に確認して下さい。

ミルベノックは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ミルベメクチン・・・1.0%		
その他化管法該当成分	ポリ(オキシエチレン)=アルキルエーテル(化管法第1種)・・・5.3% アルファ-アルキル-オメガ-ヒドロキシポリ(オキシエタン-1,2-ジイル)及びアルファ-アルケニル-オメガ-ヒドロキシポリ(オキシエタン-1,2-ジイル)並びにこれらの混合物(化管法第1種)・・・4.8%	包装	500ml×20
性状	淡黄色澄明可乳化油状液体	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	2石-III (指定数量1000L(非水溶性))

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用害虫及び使用方法】

2018年5月30日付内容

作物名	適用病虫害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ミルベメクチンを含む農薬の総使用回数
茶	カンザワハダニ チャノホコリダニ チャノカサビダニ チャノホガ チャトゲコサジラミ コムカシアブラムシ	1000倍	200~400 L/10a	摘採7日前 まで	1回	散布	1回

### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること
- (2) ハダニ類は繁殖が早く、密度が高くなると防除が困難になるので、発生初期に散布むらのないようにていねいに散布すること。
- (3) 本剤の連続散布は、ハダニ類の本剤に対する抵抗性を増加させるおそれがあるので、できるだけ年1回の散布とし、他の殺ダニ剤との輪番で使用する。
- (4) 蚕に長期間毒性があるので、桑葉にかからないように注意すること。
- (5) ミツバチに対して軽度の影響があるので、以下のことに注意すること。
  - 1) ミツバチの巣箱に直接かからないようにすること。
  - 2) 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (6) 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節すること。



- (7) 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意すること。
- (8) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- (2) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (3) 原液は皮膚に対して刺激性があるので、散布液調製時には手袋を着用して薬剤が皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。また散布液を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきることを。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

危険物第四類第二石油類に属するので火気には十分注意すること。

#### 貯蔵上の注意事項

火気をさけ、直射日光の当たらない低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 20863 号

## ランネート™45DF

特長： ●幅広い害虫に速効的に作用する殺虫剤です。  
●卵から成虫まで、効果を発揮します。

ランネートはコルテバ・アグリサイエンスならびにその関連会社の商標です。

有効成分	メソミル（化管法第1種）・・・45.0%	包装	100g×120 500g×24
性状	青色水和性微粒及び細粒	有効年限	4年
毒性	劇物	危険物	-

## 【適用害虫及び使用方法】

2019年8月28日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メソミルを含む農薬の総使用回数
かぼちゃ	ワアブラムシ	1000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
いちご	イチゴメチユウ イチゴセチユウ	1000倍	100～300 L/10a	育苗期 定植後 生育初期	4回以内	散布	4回以内
	イチゴネグサセチユウ	1000～ 2000倍	1～2L/m <sup>2</sup>	移植活着後 (育苗期)			
	コガムシ類幼虫		2～3L/m <sup>2</sup>				
ピーマン(露地栽培)	タバコガ ハスモンヨトウ	1000～ 2000倍	100～300 L/10a	収穫開始 14日前まで	4回以内	散布	4回以内
キャベツ	アオムシ コガ ヨトウムシ ハスモンヨトウ アブラムシ類 タマキシンワバ	1000～ 2000倍	100～300 L/10a	収穫14日前 まで	3回以内	散布	3回以内
はくさい	アオムシ コガ ヨトウムシ アブラムシ類	1000～ 2000倍	100～300 L/10a	収穫14日前 まで	2回以内	散布	2回以内 (は種時の土壌混 和は1回以内)
だいこん	アオムシ コガ アブラムシ類 ハイダラメカ	1000～ 2000倍	100～300 L/10a	収穫21日前 まで	2回以内	散布	2回以内 (は種時の土壌混 和は1回以内)
こまつな	アブラムシ類	1000倍	100～300 L/10a	収穫14日前 まで	3回以内	散布	3回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メソミルを含む農薬の総使用回数
チゲンサイ	アブラムシ類	1000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
かぶ	アオムシ アブラムシ類	1000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
カブアワ	ヨウムシ アブラムシ類	1000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
ブロッコリー	ヨウムシ	1000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
	アブラムシ類	1000～2000倍					
ナス	ヨウムシ アブラムシ類	1000～2000倍	100～300 L/10a	収穫21日前まで	2回以内	散布	2回以内 (植付時の土壌混和は1回以内)
	オオバコガ ナメジ類	1000倍					
サトウ菜	ヨウムシ アブラムシ類	1000～2000倍	100～300 L/10a	収穫21日前まで	2回以内	散布	2回以内
	オオバコガ	1000倍					
ほうれんそう	ヨウムシ シキイロアザシマ	1000～2000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	4回以内	散布	4回以内
	アブラムシ類	1000倍					
ねぎ	シロイモジヨウ	1000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内
	クロバネコバエ類 ネギアザシマ	1000～2000倍					
たまねぎ	ネギアザシマ	1000～2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内
しょうが	ハスモンヨウ	1000～2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内
ばれいしょ	ジヤガイガ ナストビハムシ ニジュウヤホシテントウ	1000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内
	アブラムシ類	1000～2000倍					
かんしょ	ハスモンヨウ カシロシバ	1000～2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内
だいず	ハスモンヨウ シロイモジマダラメカ マシクカ カムシ類 ツメカガ	1000～2000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	4回以内	散布	4回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メソミルを含む農薬の総使用回数
えだまめ	ハスモンヨトウ シロイモジ <sup>ダ</sup> ラメ <sup>カ</sup> マシク <sup>カ</sup> カ <sup>カ</sup> シ <sup>カ</sup> 類 ツメ <sup>カ</sup>	1000～ 2000 倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内
てんさい	ヨウモシ トビ <sup>ハ</sup> シ	1000～ 2000 倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	5回以内	散布	5回以内
にんじん	ヨウモシ ハスモンヨトウ アブラ <sup>シ</sup> 類 クハ <sup>シ</sup> ノコ <sup>ハ</sup> エ <sup>シ</sup> 類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2回以内	散布	2回以内 (は種前の土壌混 和は1回以内)
セリー	ヨウモシ ハスモンヨトウ アブラ <sup>シ</sup> 類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫30日前 まで	2回以内	散布	2回以内
パセリ	アブラ <sup>シ</sup> 類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫30日前 まで	1回	散布	1回
ごぼう	アブラ <sup>シ</sup> 類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	2回以内	散布	2回以内
アスパラガス	ネ <sup>ガ</sup> ア <sup>サ</sup> ミ <sup>マ</sup>	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	1回	散布	2回以内 (散布は1回以内、 灌注は1回以内)
	ネ <sup>ガ</sup> ア <sup>サ</sup> ミ <sup>マ</sup> ナ <sup>メ</sup> ダ <sup>シ</sup> 類		1～3L/m <sup>2</sup>	収穫3日前 まで		灌注	
にら	ネ <sup>ガ</sup> ア <sup>サ</sup> ミ <sup>マ</sup> ネ <sup>ガ</sup> ニ <sup>シ</sup> 類 クハ <sup>シ</sup> ノコ <sup>ハ</sup> エ <sup>シ</sup> 類	1000 倍	1L/m <sup>2</sup>	収穫21日前 まで	2回以内	灌注	2回以内
らっきょう	ネ <sup>ガ</sup> ニ <sup>シ</sup> 類	1000 倍	1L/m <sup>2</sup>	収穫21日前 まで	2回以内	灌注	2回以内
食用ゆり	クハ <sup>シ</sup> ノコ <sup>ハ</sup> エ <sup>シ</sup> 類	500 倍	-	植付前	1回	30分間 種球浸漬	1回
茶	ハスモンヨトウ チャ <sup>ク</sup> ゲ <sup>ク</sup> コ <sup>シ</sup> ラ <sup>ミ</sup>	1000 倍	200～400 L/10a	摘採21日前 まで	2回以内	散布	2回以内
	コ <sup>ク</sup> モ <sup>シ</sup> ハ <sup>キ</sup> チャ <sup>ハ</sup> キ チャ <sup>ノ</sup> ホ <sup>カ</sup> ミ <sup>ト</sup> リ <sup>ヒ</sup> メ <sup>ヨ</sup> バ <sup>イ</sup>	1000～ 1500 倍					
	チャ <sup>キ</sup> イ <sup>ア</sup> サ <sup>ミ</sup> マ ツ <sup>マ</sup> グ <sup>ロ</sup> カ <sup>ス</sup> カ <sup>メ</sup>	1000～ 2000 倍					
たばこ	タバ <sup>コ</sup> ヨウモシ ハスモンヨトウ	1000～ 2000 倍	25～180 L/10a	収穫10日前 まで	2回以内	散布	2回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 本剤を使用した場合には、アラニカルブを含む剤は使用しないこと。
- (2) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (3) 石灰硫黄合剤、ボルドー液等アルカリ性薬剤との混用はさけること。
- (4) はくさいに使用する場合は、定植後 20 日以内では薬害のおそれがあるので使用しないこと。又、定植後 20 日頃に使用する場合は、低濃度（2000 倍）で使用する。
- (5) ジャガイモガに対しては、潜葉幼虫を対象に使用すること。
- (6) イチゴネグサレセンチュウ防除の場合、苗の移植活着後（育苗期）に 7～10 日間隔で 2～3 回ジョロ等で灌注すること。
- (7) ミナミキイロアザミウマの防除に使用する場合は、生息密度が高まると効果が劣るので、初発生をみたら直ちに散布すること。なお、ミナミキイロアザミウマは繁殖が早いので、散布はかけ残しのないようていねいに行うこと。
- (8) ねぎのシロイチモジヨトウの防除に使用する場合は、食入前の若齢幼虫期に散布すること。
- (9) 散布液の漂流飛散による危害を防止するため、特に水田転換作の大豆などに散布する場合は、フォームスプレー（泡散布）することが望ましい。
- (10) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (11) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - 1) ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
  - 2) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (12) 本剤の使用に当たっては、危害防止のため使用条件などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 医薬外用劇物。取扱いには十分注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- (2) 作業中に、粉末や噴霧を吸い込んだ場合は、薬剤にさらされない場所に移り、安静にすること。薬液を多量に浴びたときには、衣服を脱ぎ、皮膚・眼をよく洗うこと。また、身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- (3) 本剤による中毒に対しては、硫酸アトロピン製剤の投与が有効であると報告されている。呼吸が困難な場合は気道を確保すること。口移し人工呼吸は行わないこと。
- (4) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (5) 薬液調製時及び使用の際は、防護マスク、保護眼鏡、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼するとともにうがいをする。
- (6) 本剤の散布に当たっては危害防止のため、胸の高さ以下の作物に対して下に向けて散布することとし、作物が胸の高さを超える場合は絶対に散布しないこと。特にたばこでは、草丈が腰の高さの時までに散布すること。
- (7) 施設内において灌注処理を行う場合は、出入り口、天窗、側窓等を開け、適宜、通気を確保して作業を行うこと。
- (8) 本剤の灌注処理に当たってはハス口状ノズルを使用すること。また、危害防止のためハス口状ノズルを腰より下にして地面に向けて灌注すること。
- (9) 被覆中の茶園や施設内など、噴霧のこもりやすい場所での散布は行わないこと。
- (10) 高温多湿時の長時間作業及び疲労時の使用はさけること。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、鍵のかかるなるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 22599 号

## ランネート™ 微粒剤 F

- 特長：
- 水がいらないので手軽に散布できます。
  - 周囲への飛散が少ない剤型です。
  - 老令幼虫に対しても速効的で、発生を見てからの散布が可能です。

ランネートはコルテバ・アグリサイエンスならびにその関連会社の商標です。

有効成分	メソミル（化管法第1種）・・・1.5%	包装	3kg×8
性状	類白色微粒および粗粉 63～212 μm	有効年限	4年
毒性	劇物	危険物	-

## 【適用害虫及び使用方法】

2022年7月21日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メソミルを含む農薬の総使用回数
キャベツ	アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ	3～5kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
	コカガ タマギンソウハバ アブラムシ類	4～6kg/10a				
だいこん	アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ	3～5kg/10a	収穫21日前まで	2回以内	散布	2回以内 (は種時の土壌混和は1回以内)
	コカガ タマギンソウハバ アブラムシ類	4～6kg/10a				
かんしょ	ハスモンヨトウ エビガラスメ イモコガ ナカジロシタバ	3～5kg/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内
	コカガ類幼虫	6kg/10a				
ばれいしょ	ヨトウムシ	3～5kg/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内
	アブラムシ類	4～6kg/10a				
はくさい	ネキリ類	6kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	地表面散布	2回以内 (は種時の土壌混和は1回以内)
だいず	ハスモンヨトウ シロイモジマダラメイガ カミシ類	4～5kg/10a	収穫14日前まで	4回以内	散布	4回以内
にんじん (北海道に限る)	キタネブセンチュウ	20～30kg/10a	は種前	1回	全面土壌混和	2回以内 (は種前の土壌混和は1回以内)

## 使用上の注意事項

- (1) 本剤を使用した場合には、アラニカルブを含む剤は使用しないこと。
- (2) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (3) 本剤の散布は、地上 1.5m の位置における風速が 3m/秒をこえるときは行わない。
- (4) 地上散布では散粒用多口ホース噴頭付き動力散粒機で散布すること。
- (5) 小面積の野菜畑等で使用する場合はランネット微粒剤 F 専用の散布筒で散布し、手まきは絶対にしないこと。
- (6) はくさいに使用する場合、作物にかかると薬害を生ずるおそれがあるので、作物にかからないように注意して株元の地表面に散布すること。なお、散布後土壌との混和はしないこと。
- (7) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (8) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - 1) ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
  - 2) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 医薬用外劇物。取扱いには十分注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- (2) 作業中に、粉末等を吸い込んだ場合は、薬剤にさらされない場所に移し、安静にすること。薬剤を多量に浴びたときには、衣服を脱ぎ、皮膚・眼をよく洗うこと。また、身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- (3) 本剤による中毒に対しては、硫酸アトロピン製剤の投与が有効であると報告されている。呼吸が困難な場合は気道を確保すること。口移し人工呼吸は行わないこと。
- (4) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (5) 散布の際は防護マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼するとともにうがいをすること。
- (6) 本剤の散布に当たっては危害防止のため、散布対象作物が人の胸の高さ以上の場合は使用を避け、下に向けて散布すること。
- (7) ハウス内など遮閉された場所での使用はさけること。
- (8) 高温多湿時の長時間作業及び疲労時の散布はさけること。
- (9) 犬、猫、鳥などペット類、家畜が食べないようにすること。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

## 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、鍵のかかるなるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。



登録番号 第 24504 号

リディア<sup>®</sup>NT 箱粒剤

●は種前（床土混和）・は種時から移植時まで使用できます。処理時期が幅広く、ご都合の良いタイミングで散布ができます。

特長： ●新規有効成分「フルピリミン」が、初期害虫、ウンカ類、ニカメイチュウなどに高い殺虫効果を示します。既存剤に抵抗性を持った害虫にも効果を発揮します。

●ミツバチのほか、クモ、ヤゴなどの多くの有用昆虫や天敵昆虫に対して影響はほとんどありません。

リディアは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	フルピリミン・・・2.0%	包装	1kg×12 12 kg×1
その他化管法該当成分	トリメチル(オクタデシル)アンモニウムの塩（化管法1種）・・・8.9%		
性状	淡褐色～褐色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物 <sup>※</sup>	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルピリミンを含む農薬の総使用回数
稲	イネトオムシ イネズグウムシ コメチュウ	1kg/10a	移植時	1回	側条施用	3回以内 (直播での場合は種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
稲(箱育苗)	ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネトオムシ イネズグウムシ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	は種前	1回	育苗箱の床土に均一に混和する。	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
	コメチュウ フタヒコガ イコ類 イネヒメガ リバエ イネトラハエ		は種時覆土前～移植当日			
	ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネトオムシ イネズグウムシ コメチュウ フタヒコガ イコ類 イネヒメガ リバエ イネトラハエ	高密度には種する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50～100g)	移植3日前～ 移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。	

## 使用上の注意事項

- (1) 移植時に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
  - 1) 専用の移植同時施肥機を用い、側条施用すること。
  - 2) 移植後は湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
  - 3) 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- (2) 本剤を育苗床土に混和する場合には薬害を生じる場合があるので、下記の注意事項を遵守すること。
  - 1) 山土、畑土などを使用する場合は、十分に乾燥させてから使用すること。
  - 2) 粒剤を混和した床土は高温多湿での保管をさけ、すみやかに使用すること。
  - 3) 粒剤が破碎されるような過度な混和はさけること。
- (3) 育苗箱へ処理する場合は、次の注意事項を守ること。
  - 1) 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落とし、十分灌水すること。
  - 2) 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生じる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
  - 3) 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などでは薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
  - 4) 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
  - 5) 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
  - 6) 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
  - 7) 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
  - 8) 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当りに乾糶として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。
- (4) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合には使用をさけること。
- (5) 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化・褐点を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- (6) 容器・空袋はほ場などに放置せず、適切に処理すること。
- (7) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法  
農薬使用者に係る注意事項
  - ① 誤食などのないよう注意すること。  
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
  - ② 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
  - ③ 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。  
作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。
- (2) 使用に際して講ずべき被害防止方法  
該当なし

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (2) 器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。  
また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

## リディア®箱粒剤

●殺虫成分「フルピリミン」は、昆虫の神経伝達系に作用し、麻痺を引き起こして殺虫効果を発揮します。既存の殺虫剤とは作用が異なります。

特長： ●初期害虫、ウンカ類、ニカメイチュウなどに高い殺虫効果を示します。有効成分が速効的かつ持続的に作用し、ウンカ類が媒介するウイルス病の抑止効果も期待できます。

●ミツバチのほか、クモ、ヤゴなどの多くの有用昆虫や天敵昆虫に対して影響はほとんどありません。

リディアは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	フルピリミン・・・2.0%	包装	1kg×12 3kg×8
性状	類白色細粒	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルピリミンを含む農薬の総使用回数
稲	イネトオムシ イネズミムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ	1kg/10a	移植時	1回	側条施用	3回以内 (直播での場合は種時又は移植時 までの処理は 1回以内、本田では 2回以内)
稲(箱育苗)	イネトオムシ イネズミムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ 付コ類 フタヒコガ イネトラハエ イネカモガリハエ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50g  高密度には種する 場合は1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50~100g)	移植3日前~ 移植当日	1回	育苗箱の上 から均一に 散布する。	3回以内 (移植時までの処理は 1回以内、本田では 2回以内)

## 使用上の注意事項

- 移植時に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
  - 専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
  - 移植後は湛水状態(湛水深3~5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
  - 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- 育苗箱へ処理する場合は、次の注意事項を守ること。
  - 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落とす後、十分灌水すること。
  - 軟弱徒長苗、むれ苗などでは薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
  - 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。

- 4) 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
  - 5) 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
  - 6) 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
  - 7) 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当りに乾粒として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。
- (3) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合には使用をさけること。
  - (4) 容器・空袋はほ場などに放置せず、適切に処理すること。
  - (5) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤食などのないよう注意すること。
- (2) 使用の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- (5) 夏期高温時の使用をさけること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。また、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
- (2) 使用後は水管理に注意すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 13823 号

## アグレプト®液剤

特長： ●ストレプトマイシン剤で野菜、果樹などの細菌性病害に優れた効果を発揮します。

アグレプトは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション㈱の登録商標です。

有効成分	ストレプトマイシン硫酸塩・・・25.0% (ストレプトマイシンとして・・・20.0%)	包装	100ml×50 500ml×20 1L×10 5L×3
性状	黒褐色粘稠水溶性液体	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ストレプトマイシンを含む農薬の総使用回数
もも	せん孔細菌病	1000～2000倍	200～700 L/10a	収穫60日前まで	2回以内	散布	2回以内
キウフルーツ	かいよう病	1000倍 (200ppm)	-	収穫後から 落葉前まで	1回	樹幹注入	4回以内 (樹幹注入は 1回以内)
キャベツ	黒腐病	2000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
レタス	腐敗病	2000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
はくさい	軟腐病	1000～2000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
たまねぎ	軟腐病	1000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内
こんにゃく	腐敗病	1000倍	100～300 L/10a	収穫30日前まで	6回以内	散布	6回以内 (種いもへの処理は1回以内)
ばれいしょ	軟腐病	1000～2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内 (種いもへの処理は1回以内)
	そうか病	10倍	200～300 ml/種いも 100kg	植付前	1回	種いも散布	
		60～100倍	-			5～10秒間 種いも浸漬	
			2.5～3 L/種いも 100kg			種いも散布	
	黒あし病	10倍	300 ml/種いも 100kg			種いも散布	
		60～100倍	-			5～10秒間 種いも浸漬	
3L/種いも 100kg			種いも散布				

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ストレプトマイシンを含む農薬の総使用回数
ぶどう	無種子化	1000 倍 (200ppm)	200～700L/10a	満開予定日 の 14 日前 ～開花始期	1 回	散布	1 回
			30～100L/10a			花房散布	
			-	満開予定日 の 14 日前 ～満開期		花房浸漬	
						花房浸漬(第 1 回目 ジベレリン処理と併用)	

### 使用上の注意事項

#### (1) 一般的注意事項

- 1) 石灰硫黄合剤、ボルドー液及び石灰、タルク、ベントナイトなどの吸着性増量剤を含有する薬剤との混用は避けること。
- 2) 収穫物には使用しないこと。
- 3) 医薬として用いないこと。

#### (2) 殺菌剤として散布して使用する場合

- 1) 本剤の散布によりクロロシス(黄化現象)を生じることがあるので注意すること。特にはくさい、キャベツについては以下の事項について厳守すること。  
イ. はくさいについては高温時又は幼苗期の連続散布はさけること。  
ロ. キャベツについては高温時の連続散布はさけること。
- 2) 本剤の連続使用によって薬剤耐性菌が出現し、効果の劣った事例があるので、過度の連用をさけ、なるべく作用性の異なる薬剤と組み合わせて輪番で使用する。

#### (3) キウイフルーツのかいよう病に対して樹幹注入する場合

- 1) 本法による防除を初めて実施する場合は、必ず病害虫防除所等関係機関の指導を受けること。
- 2) 主幹が棚下で分岐している樹では効果が不安定であり、また、激しい薬害を生ずるので使用を避けること。なお、1本仕立ての主幹の樹であっても薬害を生ずる場合があるので留意すること。
- 3) 本処理を行う場合、主幹の途中から分岐している小枝は夏季せん定時に切除しておくこと。
- 4) 使用量は棚上の樹冠面積 10m<sup>2</sup> に対し 3L の注入量を基本に樹冠面積が 10m<sup>2</sup> 増すごとに 1L の割合で注入量を増加すること。

#### 5) 処理方法

- イ. 主幹の地際から高さ 10～30cm 程度の部位に、ドリルを用いて直径 5mm の注入孔を水平にあける。孔は幹の中心部を貫通させ、深さはなるべく反対側の皮層部の際までとする。
- ロ. 孔内の木屑をかきだして除き、注入孔の入口をゴム栓で密封する。
- ハ. 本剤の所定量を注入器具セットの薬液容器に入れ、棚面に吊し、薬液容器の下部にあるゴム栓に通気針を刺す。
- ニ. 薬液が細管の先端に連結している注射針の先に達したら、細管内の気泡を抜き、幹の注入孔を封じているゴム栓に針を刺し込む。針はゴム栓の下方から上方へ上向きに刺し、細管の針に連結する部分をやや弛ませて気泡が抜けやすくする。
- ホ. 薬液の注入に要する時間は、通常 2L 当り 2 時間 30 分前後である。  
但し、夕方になると急速に薬液を吸入する力が低下するので、早朝から処理を開始し、その日の内に所定量の薬液を吸引させる。
- ヘ. 注入が終了したら器具は回収する。
- ト. 注入孔を密封しているゴム栓は梅雨明け後にははずす。できれば塗布剤を塗りカサの発達を促して注入孔をふさぐ。
- チ. 新たな感染などにより再処理が必要な場合には、前年の注入孔をさけ、高さや位置を変えること。

#### (4) ばれいしょの種いも消毒に使用する場合は下記の事項に注意すること。

- 1) 萌芽後や種いも切断後の処理は薬害を生ずるのでさけ、必ず萌芽前に種いもを切断せずに処理すること。特に植付後の地温の上昇が遅れた場合には萌芽や生育遅延が助長されるので春先の気温が低い地域では注意すること。
- 2) 浸漬処理が長くなったり、高濃度液に浸漬すると薬害が生じやすいので所定の浸漬時間及び希釈倍数を厳守すること。
- 3) 散布の場合は、種いもを床等に十分に広げ、種いも全体が均一にぬれるようにていねいに散布すること。
- 4) 10 倍希釈で散布する場合には少量散布に適したノズルを使用し、薬液が種いもに均一に付着するようにていねいに

散布すること。

- 5) 薬剤処理した種いもは長時間ぬれたままにしておくで発芽遅延等の薬害を生ずるので、風通しのよい場所ですみやかに乾燥させること。
  - 6) 種いもを切断する場合は処理した薬液が十分乾いてから行うこと。
  - 7) 薬剤処理した種いもは食料又は飼料には使用しないこと。
- (5) ぶどう（ジベレリン液に添加）に使用する場合
- 1) 第1回目ジベレリン処理時にジベレリン液に添加して花房浸漬処理し、第2回目ジベレリン処理（単用）を必ず行うこと。
  - 2) 展着剤は加用しないこと。
  - 3) 薬液は使用の都度調製し、なるべく調製当日に使用すること。また、調製液はなるべく日陰におくこと。
  - 4) 必ず処理適期に使用し、所定濃度を厳守すること。
  - 5) 使用に当っては、ジベレリンの使用上の注意事項を厳守すること。
  - 6) 本剤の使用に当っては、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (6) 新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬効・薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 誤飲などのないように注意すること。
- (2) 使用の際は防護マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
- (3) 作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをする。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。  
散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。  
また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。



## アグレプト®水和剤

特長： ●ストレプトマイシン剤で野菜、果樹などの細菌性病害に優れた効果を発揮します。

アグレプトは三井化学クロップ&ライフソリューション㈱の登録商標です。

有効成分	ストレプトマイシン硫酸塩・・・25.0% (ストレプトマイシンとして・・・20.0%)	包装	100g×100 500g×20
性状	類白色水和性粉末	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ストレプトマイシンを含む農薬の総使用回数
りんご	枝枯細菌病	2000倍	収穫60日前まで	3回以内	散布	3回以内
なし	枝枯細菌病	2000倍	収穫75日前まで	3回以内	散布	3回以内
もも	せん孔細菌病	1000～2000倍	収穫60日前まで	2回以内	散布	2回以内
すもも	黒斑病 かいよう病	1000倍	収穫30日前まで	2回以内	散布	2回以内
うめ	かいよう病	1000～2000倍	収穫90日前まで	2回以内	散布	2回以内
キウフルーツ	かいよう病 花腐細菌病	1000倍	収穫90日前まで	4回以内	散布	4回以内 (樹幹注入は1回以内)
さるなし	花腐細菌病	1000倍	開花前	2回以内	散布	2回以内
キャベツ	黒腐病	2000倍	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
はくさい	軟腐病	1000～2000倍	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
レタ	腐敗病	2000倍	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
こんにゃく	腐敗病	1000～2000倍	収穫30日前まで	6回以内	散布	6回以内 (種いもへの処理は1回以内)
たまねぎ	軟腐病	1000倍	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内
ばれいしょ	疫病	1000～1500倍	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内 (種いもへの処理は1回以内)
	軟腐病	1000倍				
	そうか病 黒あし病	60～100倍	植付前	1回	5～10秒間種いも浸漬	
たばこ	立枯病	1000倍	収穫3日前まで	2回以内	散布又は株元灌注	2回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 石灰硫黄合剤との混用はさけ、また、ボルドー液を混用する場合は使用直前に混合すること。
- (2) 本剤の使用により葉害としてクロロシス（黄化現象）を生じることがある。  
特に高温多湿時には葉害を生じやすいので留意の上散布すること。
- (3) 本剤の連続使用によって薬剤耐性菌が出現し、効果の劣った事例があるので、過度の連用をさけ、なるべく作用性の異なる薬剤を組合せて輪番で使用すること。
- (4) ばれいしょの種いも消毒に使用する場合は下記の事項に注意すること。
  - 1) 萌芽後や種いも切断後の処理は葉害を生じるのでさけ、必ず萌芽前に種いもを切断せずに処理すること。特に植付後の地温の上昇が遅れた場合には萌芽や生育遅延が助長されるので春先の気温が低い地域では注意すること。
  - 2) 浸漬処理が長くなったり、高濃度液に浸漬すると葉害が生じやすいので所定の浸漬時間及び希釈倍数を厳守すること。
  - 3) 薬剤処理した種いもは長時間ぬれたままにしておくると発芽遅延等の葉害を生じるので、風通しのよい場所ですみやかに乾燥させること。
  - 4) 種いもを切断する場合は処理した薬液が十分乾いてから行うこと。
  - 5) 薬剤処理した種いもは食料又は飼料には使用しないこと。
- (5) はくさいにおいては、高温時又は幼苗期には葉害の影響が大きいため、この時期の使用はさけること。
- (6) キウイフルーツの花腐細菌病に使用する場合は、出蕾後～開花期までが散布適期であるので、時期を失しないよう散布すること。
- (7) レタス及びキャベツに対しては、葉害を生じやすいので、高温条件下での連続散布はさけること。
- (8) なし及びりんごに対しては、重複散布や多量散布は葉害を生じる場合があるので、所定濃度を厳守すること。
- (9) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。  
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 使用の際は防護マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。  
作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗淨水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

## 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 22209 号

## アフエット®フロアブル

- うどんこ病、灰色かび病、菌核病など、幅広い病害に優れた効果を示します。  
 特長： ●既存の薬剤耐性菌にも有効で、優れた予防効果があります。  
 ●収穫前日数の短さ、作物への薬害が少ないことから、多くの農業生産者から支持されています。

アフエットは三井化学クロップ&ライフソリューション（株）の登録商標です。

有効成分	ペンチオピラド（化管法第1種）・・・20.0%	包装	100ml×60 500ml×20
性状	類白色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	3年（100ml×60は4年）
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害及び使用方法】

2023年2月22日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ペンチオピラドを含む農薬の総使用回数
小粒核果類	灰星病 黒星病	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
未成熟 とうもろこし	紋枯病	2000倍	100～ 300L/10a	収穫7日前 まで	2回以内	散布	2回以内
もも	灰星病 黒星病	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
初刈	灰星病 黒星病	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
おうとう	灰星病 幼果菌核病	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
なし	黒星病 赤星病 うどんこ病	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
りんご	黒星病 赤星病 うどんこ病 斑点落葉病 褐斑病 モリ病 黒点病 すす点病 すす斑病	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
かんきつ	灰色かび病 そうか病	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
かき	落葉病	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ペンチオピラドを含む農薬の総使用回数
ぶどう	灰色かび病 晩腐病 黒とう病 うどんこ病 褐斑病 さび病	2000 倍	200～700 L/10a	収穫7日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
キャベツ	菌核病 株腐病 根朽病 灰色かび病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
はくさい	黒斑病 白斑病 菌核病 尻腐病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
はなやさい類	菌核病 黒すす病 根朽病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
にら	白斑葉枯病 さび病 黒腐菌核病 白絹病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
	白絹病	1000～2000 倍	0.5～1L/m <sup>2</sup>		株元灌注		
にら (花茎)	白斑葉枯病 さび病 白絹病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
エンダイブ	すす枯病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
しそ	灰色かび病 斑点病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
しそ (花穂)	灰色かび病 斑点病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
つるな	菌核病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
セリ	斑点病 菌核病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
しょうが	白星病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
にんじん	黒葉枯病 白絹病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
アスパラガス	茎枯病 褐斑病 斑点病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	4 回以内	散布	4 回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ペンチオピラドを含む農薬の総使用回数
にんにく	さび病 葉枯病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内 (種球塗沫は 1 回以内、 散布は 3 回以内)
	黒腐菌核病	原液	種球重量の 0.5～1.0%	植付前	1 回	種球塗沫	
きゅうり	灰色かび病 菌核病 うどんこ病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
メロン	つる枯病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	うどんこ病	2000～4000 倍					
すいか	菌核病 つる枯病 うどんこ病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
かぼちゃ	うどんこ病 つる枯病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
ズッキーニ	うどんこ病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
にがうり	うどんこ病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
ししとう	灰色かび病 うどんこ病 黒枯病 斑点病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
いちご	灰色かび病 うどんこ病 輪斑病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
オクラ	灰色かび病 うどんこ病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
トマト	灰色かび病 菌核病 葉かび病 すすかび病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	うどんこ病	2000～4000 倍					
ミニトマト	灰色かび病 菌核病 斑点病 葉かび病 すすかび病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	うどんこ病	2000～4000 倍					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ペンチオピラドを含む農薬の総使用回数
ピーマン	灰色かび病 黒枯病 斑点病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	白絹病		1L/株			株元 灌注	
	うどんこ病	2000～4000 倍	100～300 L/10a			散布	
なす	灰色かび病 菌核病 うどんこ病 すすかび病 褐色斑点病 褐色円星病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
ねぎ	白絹病 黒腐菌核病	1000～2000 倍	1L/m <sup>2</sup>	生育期但し、収 穫 14 日前まで	2 回以内	株元 灌注	4 回以内 (株元灌注は 2 回以内、 散布及び 無人航空機散布は 合計 2 回以内)
	さび病 黒斑病 小菌核腐敗病 白絹病 葉枯病 小菌核病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	
たまねぎ	灰色かび病 灰色腐敗病 小菌核病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	4 回以内	散布	4 回以内
レタ	灰色かび病 菌核病 すす枯病 白絹病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
非結球レタ	灰色かび病 菌核病 すす枯病 白絹病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
パセリ	うどんこ病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
食用さくら (葉)	うどんこ病 せん孔褐斑病	2000 倍	200～700 L/10a	収穫 7 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
食用ぎく	灰色かび病 うどんこ病 白さび病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
豆類 (種実、ただし、 だいず、らっかせ いを除く)	灰色かび病 菌核病 さび病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ペンチオピラドを含む農薬の総使用回数
豆類 (未成熟、ただし、えだまめを除く)	灰色かび病 菌核病 さび病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
だいず	灰色かび病 菌核病 さび病 うどんこ病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
えだまめ	灰色かび病 菌核病 さび病 うどんこ病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
らっかせい	白絹病 灰色かび病 菌核病 さび病 褐斑病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
小麦	赤さび病	2000 倍	60～150 L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
てんさい	根腐病	200～400 倍	ペーパーポット 1 冊当り 1L (3L/m <sup>2</sup> )	移植前	1 回	苗床 灌注	4 回以内 (苗床灌注は 1 回以内、 散布は 3 回以内)
	根腐病 葉腐病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	3 回以内	散布	
とうき	苗立枯病	500～1000 倍	セル成型育苗ト レイ 1 箱 またはペーパ ーポット 1 冊 (30×60cm・ 使用土壌約 1.5～4.0L) 当り 0.2L	育苗期	5 回以内	灌注	5 回以内
とりかぶと (薬用)	白絹病	1000 倍	1L/m <sup>2</sup>	生育期	3 回以内	株元 灌注	3 回以内
たばこ	菌核病	2000 倍	100～180 L/10a	収穫 10 日前ま で	2 回以内	散布	2 回以内
花き類・観葉植物 (きく、ゆり、チ ューリップ、りんどう を除く)	灰色かび病 うどんこ病	2000 倍	100～300 L/10a	発病初期	3 回以内	散布	3 回以内
チューリップ	灰色かび病 うどんこ病 褐色斑点病	2000 倍	100～300 L/10a	発病初期	3 回以内	散布	3 回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ペンチオピラドを含む農薬の総使用回数
りんどう	灰色かび病 うどんこ病 花腐菌核病 褐斑病 黒斑病	2000 倍	100～300 L/10a	発病初期	3 回以内	散布	3 回以内
きく	灰色かび病 うどんこ病 白さび病	2000 倍	100～300 L/10a	発病初期	3 回以内	散布	3 回以内
ゆり	灰色かび病 うどんこ病 葉枯病	2000 倍	100～300 L/10a	発病初期	3 回以内	散布	3 回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ペンチオピラドを含む農薬の総使用回数
きゅうり	温室、ガラス室、ビニールハウス等の密閉できる場所	うどんこ病	150g/10a	10L/10a	収穫前日まで	3 回以内	常温煙霧	3 回以内
なす	温室、ガラス室、ビニールハウス等の密閉できる場所	すすかび病	150g/10a	10L/10a	収穫前日まで	3 回以内	常温煙霧	3 回以内

#### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 使用前によく振ってから使用すること。
- (3) 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、本剤の過度の連用はさけ、なるべく作用性の異なる薬剤との輪番で使用すること。
- (4) 空容器は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (5) ぶどうの幼果期（小豆大）以降の散布は、果粉が溶脱するおそれがあるので使用をさけること。
- (6) にんにくの種球に塗抹する場合は、処理後、風乾した後に植付けを行うこと。
- (7) ハウス等で常温煙霧に使用する場合は以下の注意事項を守ること。
  - 1) 常温煙霧中は室内へ入らないこと。
  - 2) 専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧すること。特に常温煙霧装置の選定及び使用にあたっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けること。
  - 3) 作業はできるだけ夕刻行い、作業終了後6時間以上密閉すること。できれば翌朝までそのままとし、開放後十分換気してから入室すること。
- (8) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。とくに適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (2) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (3) 常温煙霧中はハウス内へ入らないこと。また、常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室すること。
- (4) 塗抹の際は不浸透性手袋などを着用すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨



水産動植物（魚類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----  
通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----  
直射日光をさげ、食品と区別して、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 19541 号

## オリゼメート®1キログラム剤

特長： ●10a 当たり 1kg 散布で、いもち病、もみ枯細菌病、白葉枯病に優れた効果を発揮します。

オリゼメートは三井化学クロップ&ライフソリューション㈱の登録商標です。

有効成分	プロベナゾール（化管法第1種）・・・24.0%	包装	1kg×12
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	プロベナゾールを含む 農薬の総使用回数
稲	いもち病 もみ枯細菌病 白葉枯病	1～1.3kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)

## 使用上の注意事項

- 使用量に合わせて秤量し、使い切ること。
- 本剤は湛水状態（湛水深3～5cm）でまきむらのないよう均一に散布し、散布後少なくとも4～5日間はそのまま湛水状態を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意し、また散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。
- 砂質土など漏水の多い水田での使用はさけること。
- 養魚田での使用はさけること。
- 本剤は予防的に散布した場合に有効である。葉いもち防除の使用適期は、初発の7～10日前であるので、発生予察情報に注意して時期を失しないように散布すること。穂いもち防除の使用適期は、出穂の3～4週間前である。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- 夏期高温時の使用をさけること。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- 散布後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 23909 号

## オリゼメート®顆粒水和剤

●水稲のいもち病、キャベツの黒腐病、黒斑細菌病、はくさいの軟腐病、黒斑細菌病、ブロッコリーの黒腐病、  
 特長： 黒斑細菌病に対して有効で、安定した効果が長く続きます。  
 ●植物の病害抵抗性を誘導して、高い防除効果を現すユニークな作用性の殺菌剤です。

オリゼメートは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	プロベナゾール (化管法第1種)・・・48.0%	包装	500g×20
性状	淡褐色水和性細粒	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病	500g/10a	移植時	1回	ペースト肥料に混合し側条施肥田植機で施用する。	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)
		500g/10a	湛水直播時			

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
ブロッコリー	黒腐病 黒斑細菌病	100倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (約30×60cm、使用土壌約1.5~4L)当り0.5L	定植時	1回	灌注	1回
はくさい	軟腐病 黒斑細菌病	100倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (約30×60cm、使用土壌約1.5~4L)当り0.5L	定植時	1回	灌注	1回
キャベツ	黒腐病 黒斑細菌病	100倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (約30×60cm、使用土壌約1.5~4L)当り0.5L	定植時	1回	灌注	1回

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせて秤量し、使いきること。
- (2) 本剤をペースト肥料に混合し側条施用する場合は、次の事項に注意すること。
  - 1) 予め本剤を同重量の水に混ぜ、これをペースト肥料に加えて均一に混合し、側条施肥田植機または側条施肥は種機で本田に施用する。
  - 2) 本剤と混合したペースト肥料は、その日のうちに使用すること。
  - 3) 同一の病害を防除対象とする育苗施用薬剤とは併用しないこと。
  - 4) 移植後は湛水状態(湛水深3~5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。

- 5) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合には使用をさけること。
- (3) 本剤をセル成型育苗トレイまたはペーパーポットに灌注する際は、調製液をセル成型育苗トレイまたはペーパーポット上方から灌注すること。また、本剤が土壌に十分に吸収されないおそれがあるので処理直前や直後の灌水はさけること。
- (4) 定植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合は使用をさけること。
- (5) 空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (6) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 誤飲、誤食などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意すること。  
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。  
作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (5) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- (6) 夏期高温時の使用をさけること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 散布後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 13243 号

## オリゼメート®粒剤

●世界初の植物防御機構活性化剤 (Plant Defence Activator) です。植物の病害抵抗性を誘導して高い効果を示す、ユニークな作用性をもつ殺菌剤です。

- 特長：
- いもち病・白葉枯病・もみ枯細菌病・穂枯れに優れた効果を発揮します。
  - きゅうり・レタス・キャベツ・ブロッコリー・はくさい・ねぎ等の細菌性病害に有効です。
  - 効果の持続性に優れ、強い効果が長く続きます。

オリゼメートは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	プロベナゾール (化管法第1種)・・・8.0%	包装	3kg×8 10kg×1
性状	類白色細粒	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病	3kg/10a	移植時	1回	側条施用	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)
	いもち病	3~4kg/10a	葉いもちには 初発の10日前~初発時 穂いもちには 出穂3~4週間前 収穫14日前まで	2回以内	散布	
	白葉枯病 もみ枯細菌病	3~4kg/10a	移植活着後及び 出穂3~4週間前 収穫14日前まで			
	穂枯れ(ごま 葉枯病菌)	3~4kg/10a	出穂3~4週間前 収穫14日前まで			
稲(箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り20~30g	移植3日前~移植前日	1回	育苗箱の苗の上から均一に 散布する。	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)
きゅうり	斑点細菌病	6~7.5kg/10a (5g/株)	定植時	1回	植穴土壌混和	1回
レタス	腐敗病 斑点細菌病	6~9kg/10a	定植時	1回	土壌混和	1回
非結球レタス	腐敗病 斑点細菌病	6~9kg/10a	定植時	1回	土壌混和	1回

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
キャベツ	黒腐病	6～9kg/10a	定植時	1回	全面土壌混和 又は作条土壌混和	1回
ひろしまな	軟腐病	6～9kg/10a	定植時	1回	全面土壌混和	1回
はくさい	軟腐病	6～9kg/10a	は種時又は定植時	1回	全面土壌混和	1回
ピーマン	斑点病 うどんこ病	5～10g/株	定植時	1回	植穴土壌混和	1回
とうがらし類	斑点病 うどんこ病	5～10g/株	定植時	1回	植穴土壌混和	1回
ブロッコリー	黒腐病	6～9kg/10a	定植時	1回	全面土壌混和	1回
ねぎ	軟腐病	6kg/10a	土寄せ時 但し、収穫30日前まで	2回以内	株元散布	2回以内
わけぎ	軟腐病	6kg/10a	生育期 但し、収穫35日前まで	1回	株元散布	1回
あさつき	軟腐病	6～9kg/10a	土寄せ時 但し、収穫30日前まで	1回	株元散布	1回
カブ	軟腐病	6～9kg/10a	定植時	1回	全面土壌混和	1回

## 使用上の注意事項

### (1) 育苗箱施用の場合

- イ. 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は、払い落したのち、十分灌水すること。
- ロ. 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生ずる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
- ハ. 軟弱徒長苗、むれ苗などでは薬害を生ずるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
- ニ. 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
- ホ. 処理苗を本田に移植した後は、そのまま湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
- ヘ. 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合は使用をさけること。
- ト. 移植後は、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- チ. 本剤は処理を誤ると、生育初期の葉の黄化や生育遅延などの薬害を生ずるので、所定の使用時期、使用方法を守ること。

### (2) 本田施用の場合

- イ. 本剤は湛水状態（湛水深3～5cm）で播きむらのないよう均一に散布し、散布後少なくとも4～5日間はそのまま湛水状態をたもち、田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意し、また散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。
- ロ. 砂質土などの漏水の多い水田での使用はさけること。
- ハ. 養魚田での使用はさけること。
- ニ. 本剤は予防的に散布した場合に有効である。葉もち防除の使用適期は、初発の7～10日前であるので、発生予察情報に注意して時期を失ないように散布すること。穂もち防除の使用適期は、出穂の3～4週間前である。また、白葉枯病に対しては、移植後なるべく早い時期に使用の方が有効であるので、移植活着後（移植後7～10日）なるべく早く使用すること。  
なお、出穂以降の白葉枯病、もみ枯細菌病、穂枯れ（ごま葉枯病菌）に対する使用適期は、出穂3～4週間前である。

- ホ. 側条施用をする場合は、粒剤が均一に散布できる施用装置を装着した田植機を使用すること。
- (3) きゅうり、ピーマンに使用する場合は次の事項を守ること。
    - イ. 健苗に使用し、幼苗、軟弱徒長苗には使用しないこと。
    - ロ. 本剤を処理する場合は植穴の土壌と十分混和すること。
    - ハ. 本剤処理後、葉縁の黄化（退色）、葉の矮化、又活着遅延にともなう初期生育抑制等の薬害を生ずるおそれがあるので注意すること。
  - (4) レタスに使用する場合、使用方法を誤ると葉が黄化したり、生育が遅延することがあるので、注意すること。
  - (5) 野菜類の細菌病、特にはくさいの軟腐病の防除に使用する場合、多発のおそれがある圃場では所定範囲の高薬量を用いること。
  - (6) ねぎの軟腐病に使用する場合、土寄せ2日前～直前、所定量の薬剤を株元散布した後土寄せを行うこと。
  - (7) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病害虫防除所職員等、農業技術者の指導を受けることが望ましい。
  - (8) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 誤食などのないよう注意すること。
- (2) 使用の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。  
作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- (5) 夏期高温時の使用をさけること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。  
本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
- (2) 散布後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。



登録番号 第 16018 号

# オリゼメート<sup>®</sup>粒剤20

●有人ヘリコプター及び無人ヘリコプター散布用として開発された専用剤です。  
 特長： ●10a 当たり 1kg 散布で優れた効果を発揮します。  
 ●本田散布だけでなく、移植時側条施用、湛水直播水稻では種時土中施用もできます。

オリゼメートは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	プロベナゾール（化管法第1種）・・・20.0%	包装	20 kg×1
性状	淡褐色細粒	有効年限	4年
毒性	普通物 <sup>*</sup>	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

**【適用病害虫及び使用方法】**

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
湛水直播水稻	いもち病	1kg/10a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	2回以内 (は種時までの処理は1回以内)
稲	いもち病	1kg/10a	移植時	1回	側条施用	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)
			収穫 14日前まで	2回以内	空中散布	
					無人航空機による散布	
					散布	

**使用上の注意事項**

- (1) 使用量を合わせて秤量し、使いきること。
- (2) は種時に使用する場合は、直播栽培に使用し、専用のは種同時施薬機を用いること。
- (3) 移植時に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
  - 2) 移植後は湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
  - 3) 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予想される場合には使用をさけること。
- (4) 空中散布及び無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 散布は散布機種種の散布基準に従って実施すること。
  - 2) 無人ヘリコプターによる散布に当っては散布機種種に適合した散布装置を使用すること。
  - 3) 無人ヘリコプターによる散布に当っては事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整すること。
  - 4) 本剤は湛水状態（湛水深3～5cm）でまきむらのないよう均一に散布し、散布後少なくとも4～5日間はそのまま湛水状態を保ち、田面を露出させたり水を切らせたりしないように注意し、また散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。
- 5) 散布薬剤の飛散によって他の動植物等へ影響を与えないよう、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
- 6) 水源池、飲料水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
- 7) 散布終了後は次の項目を守ること。
  - a) 使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄すること。
  - b) 機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。

- 8) 本剤は予防的に散布した場合に有効である。葉いもち防除の使用適期日は、初発の7～10日前であるので、発生予察情報に注意して時期を失しないように散布すること。穂いもち防除の使用適期は、出穂の3～4週間前である。
- (5) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合は使用をさけること。
- (6) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 誤食などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。  
付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。  
作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (5) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- (6) 夏期高温時の使用をさけること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 空中散布または無人ヘリコプターによる散布で使用する場合は、河川、養殖池等に飛散しないよう特に注意すること。
- (3) 散布後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 15744 号

## カッパーシン®水和剤

特長： ●塩基性塩化銅とカスガマイシンの混合剤で安定した効果が期待できます。  
●2つの有効成分の働きにより、糸状菌および細菌による多くの病害に対して優れた効果を示します。

カッパーシンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	カスガマイシン一塩酸塩・・・5.7% (カスガマイシンとして・・・5.0%) 塩基性塩化銅・・・75.6% (銅として・・・45.0%)	包装	100g×100 500g×20 1.25kg×10
その他化管法該当成分	ポリ(ギシエチレン)＝アルキルフェニルエーテル(アルキル基の炭素数が9のものに限る。) (化管法第1種)・・・1.5%		
性状	淡緑色水和性粉末	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	－

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	カスガマイシンを含む農薬の総使用回数	銅を含む農薬の総使用回数
かんきつ (みかんを除く)	かいよう病	1000倍	200～700 L/10a	収穫45日前まで	5回以内	散布	5回以内	－
みかん	かいよう病	1000倍	200～700 L/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内	－
なし	黒星病	1000倍	200～700 L/10a	収穫後(10月～11月)	2回以内	散布	2回以内	－
もも	せん孔細菌病 縮葉病	500倍	200～700 L/10a	開花前まで	3回以内	散布	3回以内	－
びわ	灰斑病 がんしゅ病	1000倍	200～700 L/10a	幼果期まで	3回以内	散布	3回以内	－
キウフルーツ	かいよう病 花腐細菌病	500倍	200～700 L/10a	休眠期	4回以内	散布	4回以内 (樹幹注入は1回以内)	－
	かいよう病 花腐細菌病	1000倍		発芽後叢生期(新梢長約10cm)まで				
いんげんまめ	かさ枯病	1000倍	100～300 L/10a	収穫30日前まで	3回以内	散布	3回以内 (種子粉衣は1回以内)	－
あずき	褐斑細菌病 茎腐細菌病	1000倍	100～300 L/10a	収穫30日前まで	3回以内	散布	3回以内 (種子粉衣は1回以内)	－
きゅうり	斑点細菌病 うどんこ病 べと病	1000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	5回以内	散布	5回以内	－

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	カスガマイシンを含む農薬の総使用回数	銅を含む農薬の総使用回数
すいか	うどんこ病 褐斑細菌病 果実汚斑細菌病	1000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	5回以内	散布	5回以内	-
メロン	うどんこ病 斑点細菌病 果実汚斑細菌病	1000倍	100～300 L/10a	収穫3日前まで	5回以内	散布	5回以内	-
トマト	葉かび病 輪紋病 疫病 斑点細菌病 かいよう病 軟腐病	1000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	5回以内	散布	5回以内	-
ミニトマト	葉かび病 輪紋病 疫病 斑点細菌病 かいよう病 軟腐病	1000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	5回以内	散布	5回以内	-
ピーマン	うどんこ病 斑点細菌病 斑点病	1000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	5回以内	散布	5回以内	-
とうがらし類	うどんこ病 斑点細菌病 斑点病	1000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	5回以内	散布	5回以内	-
キャベツ	黒腐病 軟腐病 黒斑細菌病	1000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内	-
セルリー	軟腐病 斑点病	1000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	-
ブロッコリー	黒腐病	1000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内	-
だいこん	軟腐病 黒斑細菌病 ワッカ症	1000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内	-
ねぎ	軟腐病	1000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内	-
たまねぎ	軟腐病	1000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	5回以内	散布	5回以内	-
ごぼう	黒斑細菌病	1000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内	-
レタス	腐敗病 斑点細菌病	1000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内	-

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	カスガマイシンを含む農薬の総使用回数	銅を含む農薬の総使用回数
非結球ナス	腐敗病 斑点細菌病	1000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	4回以内	散布	4回以内	-
なばな類	黒腐病	1000倍	100～300 L/10a	収穫14日前 まで	3回以内	散布	3回以内	-
にんにく	春腐病	1000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	5回以内	散布	5回以内	-
ばれいしょ	軟腐病	500～800 倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	4回以内 (種いも浸漬は1回以 内、植付後は3回以内)	-
	疫病	800倍						
てんさい	褐斑病	800～1000 倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	5回以内	散布	5回以内	-
	褐斑病	200倍	25L/10a					
	斑点病 斑点細菌病	800倍	100～300 L/10a					
にんじん	黒葉枯病 軟腐病 斑点細菌病	1000倍	100～300 L/10a	収穫14日前 まで	2回以内	散布	2回以内	-
オクラ	葉枯細菌病	1000倍	100～300 L/10a	収穫開始 7日前まで	3回以内	散布	3回以内	-
キャベツ	黒腐病	1000倍	100～300 L/10a	収穫21日前 まで	3回以内	散布	3回以内	-
茶	輪斑病 赤焼病	500～1000 倍	200～400 L/10a	摘採14日前 まで	2回以内	散布	2回以内	-
	新梢枯死症 (輪斑病菌によ る) 褐色円星病 炭疽病	1000倍						
ばら	うどんこ病	1000倍	100～300 L/10a	発病初期	6回以内	散布	6回以内	-
ほおずき	軟腐病 斑点細菌病	1000倍	100～300 L/10a	発病初期	6回以内	散布	6回以内	-
ゆり	軟腐病	1000倍	100～300 L/10a	発病初期	6回以内	散布	6回以内	-
たばこ	疫病	1000倍	100～180 L/10a	収穫10日前 まで	2回以内	散布	2回以内	-

#### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 散布液調製後はそのまま放置せず、できるだけ速やかに散布すること。
- (3) 石灰硫黄合剤などアルカリ性薬剤、チオファネートメチル剤との混用はさけること。

- (4) 本剤は無機の銅を含むため、うり類、レタス、非結球レタス、だいこんに対して薬害を生じるおそれがあるので、下記の事項に十分注意すること。
  - 1) 幼苗期又は生育の初期は特に発生しやすいので、中期以降の散布にすること。
  - 2) 高温時の散布は症状が激しくなることがあるのでさけること。
  - 3) 連続散布すると葉の周辺が黄化したりすることがあるので過度の連用をさけること。
  - 4) 炭酸カルシウム剤の所定量の添加は、薬害軽減に有効であるが、収穫間際には収穫物に汚れを生じるので留意すること。
- (5) てんさいに使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので所定の希釈倍数を厳守すること。特に高温時には薬害を生じやすいので朝夕の涼しい時に所定範囲の低濃度で使用すること。
- (6) ばらに使用する場合、葉に散布液の汚れが残ることがあるので注意すること。
- (7) かんきつに使用する場合、薬害（スタメラノーズ）の発生を防止するために、炭酸カルシウム水和剤を加用すること。特に果実の着生期の使用では厳守すること。
- (8) ピーマンのうどんこ病防除に使用する場合、発病後の散布は効果が劣るので、初発生をみたら直ちに散布すること。
- (9) 核果類（ももを除く）、れんこん、白菜等には薬害を生じるおそれがあるのでかからないように注意して散布すること。
- (10) キャベツに使用する場合、品種、作型により薬害を生じるおそれがあるので、炭酸カルシウム水和剤を加用すること。
- (11) いんげんめめ及びあずきに使用する場合、高温時の散布は薬害を生じるおそれがあるのでさけること。
- (12) 本剤を発芽後のキウイフルーツに使用する場合、葉に軽い薬害を生じることがあるが、実用上の問題はない。但し、使用時期が遅くなると葉や果梗に実害を生じるので使用時期を厳守すること。
- (13) びわに使用する場合、果実に薬害を生じるおそれがあるので、幼果期（果実の横径約1cm）以降の散布はさけること。
- (14) ももに使用する場合、開花前までに使用すること。開花期以降は銅による薬害が生じることがあるので散布しないこと。
- (15) ブロッコリーに使用する場合、生育抑制や葉縁の黄白化等の薬害を生じるおそれがあるので、所定の希釈倍数を厳守すること。
- (16) にんにくに使用する場合、葉に薬害を生じることがあるので、高温時（6月以降）の多数回散布はさけること。
- (17) みずかけな（水掛菜）に使用する場合、散布後少なくとも7日間は落水、かけ流しはしないこと。
- (18) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (19) てんさいに対して希釈倍数200倍（使用液量25L/10a）で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤散布装置を使用すること。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤飲、誤食などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合は直ちに十分洗浄し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 漏出時は、保護具を着用し掃き取り回収すること。
- (4) 移送取扱いはていねいに行うこと。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（魚類、甲殻類、藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 13778 号

## キャプレート®水和剤

特長：  
 ● 予防・治療効果があり、効果の持続性にも優れています。  
 ● 体系防除に組み入れる事で、耐性菌の回避が期待できます。

キャプレートは住友化学(株)の登録商標です。

有効成分	キャプタン (化管法第1種)・・・60.0% ベノミル (化管法第1種)・・・10.0%	包装	500g×20
その他化管法該当成分	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩 (アルキル基C=10~14 及びその混合物) (化管法第1種)・・・2.4%		
性状	類白色水和性粉末 45μm以下	有効年限	5年
毒性	普通物 <sup>※</sup>	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用病害及び使用方法】

2021年11月10日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	キャプタンを含む農薬の総使用回数	ベノミルを含む農薬の総使用回数
なし	輪紋病	500~600倍	200~700 L/10a	収穫7日前 まで	4回以内	散布	9回以内	6回以内 (塗布は2回以内、 散布は4回以内)
	黒星病	600~800倍						
おうとう	灰星病 炭疽病	600~800倍	200~700 L/10a	収穫14日前 まで	2回以内	散布	5回以内	2回以内
きゅうり	炭疽病	600~800倍	100~300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	5回以内 (種子粉衣は 1回以内)	4回以内 (種子への処理は 1回以内、 は種後は3回以内)
	灰色かび病	500~600倍						
なす	灰色かび病	500~600倍	100~300 L/10a	収穫開始 3日前まで	1回	散布	5回以内 (種子粉衣は 1回以内)	4回以内 (種子粉衣は1回以内、 は種後は3回以内)
トマト	灰色かび病 葉かび病	600倍	100~300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	5回以内 (種子粉衣は 1回以内)	6回以内 (種子への処理は 1回以内、 灌注は2回以内、 散布及び常温煙霧は 合計5回以内)

### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) なしに使用する場合、開花初めから落花後20日頃までの散布は新葉に薬害を生じるおそれがあるので使用をさけ、6月中旬以降に使用すること。
- (3) ボルドー液、石灰硫黄合剤等のアルカリ性薬剤及びマシン油乳剤との混用はさけること。
- (4) 本剤の連続使用によって一部の病害に耐性菌を生じ、効果の劣った事例があるので、過度の連用をさけ、性質の異なる他の防除薬剤と組み合わせて輪番で使用すること。

- (5) ベノミル剤、チオファネートメチル剤耐性菌に対しては効果が劣るので、そのような地帯では使用をさけること。
- (6) 収穫間際の散布では、収穫物に汚れを生ずることがあるので留意すること。
- (7) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (5) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- (6) 夏期高温時の使用をさけること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきることを。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。



登録番号 第 22533 号

コサイド<sup>®</sup>3000

- 特長：
- 薬液調製時に計りやすく、溶かしやすい銅殺菌剤です。
  - 有効成分から放出される銅イオンが糸状菌由来の病害だけでなく、細菌性病害にも優れた予防効果を示します。
  - 有効成分が作物表面にムラなく均一に広がるため、散布液の跡が残りにくいドライフロアブル剤です。
  - 有機 JAS 規格適用資材です。

有効成分	水酸化第二銅・・・46.1%（銅として・・・30.0%）	包装	500g×20
性状	暗青緑色水和性微粒及び粗粉	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害及び使用方法】

2018年4月11日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	銅を含む農薬の総使用回数
びわ(葉)	がんしゅ病	1000倍	200～700 L/10a	-	-	散布	-
びわ	がんしゅ病	1000倍	200～700 L/10a	-	-	散布	-
かんきつ	かいよう病 黒点病 褐色腐敗病	1000倍	200～700 L/10a	発芽前	-	散布	-
		2000倍		生育期			
ぶどう	べと病 さび病	2000倍	200～700 L/10a	-	-	散布	-
おうとう	褐色せん孔病	2000倍	200～700 L/10a	収穫後	-	散布	-
もも	せん孔細菌病	2000倍	200～700 L/10a	収穫後から 落葉まで	-	散布	-
		1000倍		開花前まで			
初刈ン	せん孔細菌病	2000倍	200～700 L/10a	収穫後から 落葉まで	-	散布	-
		1000倍		開花前まで			
りんご	斑点落葉病 すす点病 すす斑病 輪紋病 褐斑病	2000倍	200～700 L/10a	-	-	散布	-

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	銅を含む農薬の総使用回数
うめ	かいよう病	2000 倍	200～700 L/10a	硬核期まで	-	散布	-
キウイフルーツ	花腐細菌病	2000 倍	200～700 L/10a	休眠期～叢生期 (新梢長約 10cm)	-	散布	-
	かいよう病			収穫後 ～果実肥大期			
パパイヤ	軟腐病	1000 倍	200～700 L/10a	-	-	散布	-
いちじく	疫病	1000 倍	200～700 L/10a	-	-	散布	-
野菜類	軟腐病 黒腐病 斑点細菌病 褐斑細菌病	2000 倍	100～300 L/10a	-	-	散布	-
アスパラガス	茎枯病 斑点病 褐斑病	2000 倍	100～300 L/10a	-	-	散布	-
にんにく	春腐病	2000 倍	100～300 L/10a	-	-	散布	-
やまのいも	葉渋病	2000 倍	100～300 L/10a	-	-	散布	-
しよくようほおずき	斑点細菌病	2000 倍	100～300 L/10a	-	-	散布	-
くわい	ひぶくれ病	2000 倍	100～300 L/10a	-	-	散布	-
かぼちゃ	果実斑点細菌病	2000 倍	100～300 L/10a	-	-	散布	-
ホップ	べと病	2000 倍	200～700 L/10a	-	-	散布	-
だいこん	白さび病	1000 倍	100～300 L/10a	-	-	散布	-
ブロッコリー	花蕾腐敗病	1000 倍	100～300 L/10a	-	-	散布	-
トマト	疫病	1000 倍	100～300 L/10a	-	-	散布	-
ミニトマト	疫病	1000 倍	100～300 L/10a	-	-	散布	-
ばれいしょ	疫病 軟腐病	1000 倍	100～300 L/10a	-	-	散布	-
	そうか病	100 倍	-	植付前		種いも 瞬間浸漬	

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	銅を含む農薬の総使用回数
こんにゃく	葉枯病	1000 倍	100～300 L/10a	-	-	散布	-
にんじん	黒葉枯病	500～1000 倍	100～300 L/10a	-	-	散布	-
ほうれんそう	べと病 白斑病	1000 倍	100～300 L/10a	-	-	散布	-
いちご	炭疽病 角斑細菌病	1000 倍	100～300 L/10a	-	-	散布	-
あずき	褐斑細菌病	1000 倍	100～300 L/10a	-	-	散布	-
いんげんまめ	かさ枯病	1000 倍	100～300 L/10a	-	-	散布	-
だいず	斑点細菌病	1000 倍	100～300 L/10a	-	-	散布	-
たまねぎ	りん片腐敗病	1000 倍	100～300 L/10a	-	-	散布	-
	軟腐病	1000～2000 倍					
てんさい	褐斑病	1000 倍	100～300 L/10a	-	-	散布	-
茶	赤焼病 もち病 炭疽病 網もち病 褐色円星病 新梢枯死症 (輪斑病菌による)	1000 倍	200～400 L/10a	摘採 14 日前まで	-	散布	-

#### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。
- (2) かんきつに使用する場合は次の事項に注意すること。
  - 1) 薬害が発生するおそれがあるので、炭酸カルシウム水和剤を加用すること。特に、果実の着生時期の散布ではスターメラノーズを生じるおそれがあるので厳守すること。
  - 2) 寒害などによる葉の落葉を本剤が助長することがあるので、樹勢の弱い木への散布や異常低温の予想される場合の散布はさけること。なお、散布はなるべく温暖な日を選んで行い、散布液が夕方までには乾くようにすること。
- (3) ぶどうに使用する場合、次の事項に十分注意すること。
  - 1) 薬害を生じるおそれがあるので必ず炭酸カルシウム水和剤を加用すること。
  - 2) 後期（果実肥大期以降）の散布は果房の汚れを生じるので、有袋栽培では袋がけ前の散布はさけること。また、無袋栽培ではこの時期以降収穫まで使用しないこと。
- (4) おうとう、いちじくに使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので、必ず炭酸カルシウム水和剤を加用すること。
- (5) もも、ネクタリンに使用する場合、収穫後から落葉までは 2000 倍で散布し、開花前には 1000 倍で散布すること。なお、収穫後の散布では薬害を生じるおそれがあるので、必ず炭酸カルシウム水和剤を加用すること。
- (6) キウイフルーツに使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので、次の事項に十分注意すること。
  - 1) 発芽期以降は炭酸カルシウム水和剤を加用すること。果実に汚れを生じるおそれがあるので留意すること。
  - 2) 過度の連用をさけること。
  - 3) 品種によっては薬害を生じることがあるので、事前に確認する等、注意して使用すること。

- (7) りんごに使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので必ず炭酸カルシウム水和剤を加用すること。また、本剤の散布により、サビ果が多くなるおそれがあるので落花直後から落花後 30 日頃までは使用しないこと。
- (8) いんげんまめに使用する場合、幼苗期及び高温時の散布は薬害を生じるおそれがあるのでさけること。
- (9) きゅうり、はくさい、キャベツおよびだいこんに対しては薬害を生じやすいので、次の事項に十分注意すること。
  - 1) 高温時は症状が強くなるため散布はさけること。
  - 2) はくさい、キャベツおよびだいこんに使用する場合は、薬害軽減のために炭酸カルシウム水和剤を加用する。収穫間際には汚れを生じるので留意すること。
- (10) カリフラワー、にんにくおよびくわいに使用する場合は薬害を生じるおそれがあるので、炭酸カルシウム水和剤を加用すること。また、くわいに使用する場合、高温時の散布は薬害を生じるおそれがあるのでさけること。
- (11) ばれいしょの種いも浸漬は無萌芽種いもを対象とすること。萌芽種いもには薬害を生じるので使用しないこと。
- (12) ほうれんそうに使用する場合、葉の汚れを生じるので収穫間際の散布はさけること。また、雨よけ栽培の場合も収穫までの期間を十分取ること。
- (13) ほうれんそうに使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので、次の事項に十分注意すること。
  - 1) 高温時は症状が強くなるため散布はさけること。
  - 2) 連用により葉の周辺が黄化するおそれがあるので、過度の連用をさけること。
  - 3) 品種によっては薬害を生じることがあるので、事前に確認する等、注意して使用すること。
- (14) うめに使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので、次の事項に十分注意すること。
  - 1) 発芽期以降は必ず炭酸カルシウム水和剤を加用すること。果実に汚れを生じるおそれがあるので留意すること。
  - 2) 過度の連用をさけること。
- (15) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (16) 木酢液等は混ぜないこと。
- (17) くわいに使用する場合、散布後 7 日間は落水、かけ流しをしないこと。
- (18) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (19) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分に確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

**人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法**-----

- (1) 誤飲、誤食などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 散布の際は農薬用マスクなどを着用すること。種いも浸漬の際は、不浸透性手袋などを着用すること。作業後はうがいをするとともに洗眼すること。

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨**-----

- (1) 水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池周辺での使用はさけること。
- (2) 水産動植物（甲殻類、藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨**-----

通常の使用方法ではその該当がない。

**貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 23971 号

## サンブラス®1 キロ粒剤

- 特長：
- 1成分で2つの作用性（メラニン生合成阻害 MBI-P と病害抵抗性修道）を持つ有効成分トルプロカルブを配合し、いもち病菌を強力にブロックします。
  - 残効性に優れています。
  - 黒ボク土壌でも防除効果が安定しています。
  - 地上散布と無人航空機散布の両方に対応した1キロ製剤です。
  - 農林水産省「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」に掲載された農薬です。

サンブラスは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	トルプロカルブ・・・9.0%	包装	1kg×12
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用病害及び使用方法】

2023年2月22日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	トルプロカルブを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 白葉枯病	1kg/10a	出穂5日前まで 但し、 収穫30日前まで	1回	湛水散布 無人航空機による散布	2回以内 (移植時までの処理は1回以内、 本田での湛水散布、無人航空機 散布、投げ入れは合計1回以内)

### 使用上の注意事項

- 散布に当っては、湛水状態（水深3cm程度）で重複をさけ均一に散布し、散布後少なくとも4~5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水及びかけ流しをしないこと。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 散布は散布機種 of 散布基準に従って実施すること。
  - 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整し、飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m離れた位置から圃場内に散布すること。
  - できるだけ風の弱い時間に散布を行うこと。
  - 散布薬剤の飛散によって他の動植物等への影響を与えないよう散布区域の選定に注意するとともに、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
  - 薬剤が水源池、飲料用水、養殖池、養魚田などに飛散、流入しないように十分注意すること。
  - 使用後の機体散布装置は十分洗浄し、タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。使用残りの薬剤は必ず安全な場所に責任者を決めて保管すること。
- 空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。とくに本剤を初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----  
この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----  
通常的使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----  
直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温な場所に密封して保管すること。

登録番号 第 24107 号

## サンブラス®パック

- 特長：
- 1成分で2つの作用性（メラニン生合成阻害 MBI-P と病害抵抗性修道）を持つ有効成分トルプロカルブを配合し、いもち病菌を強力にブロックします。
  - 残効性に優れています。
  - 黒ボク土壌でも防除効果が安定しています。
  - 散布器具が要らない省力的な、投げ込み製剤です。
  - 農林水産省「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」に掲載された農薬です。

サンブラスは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	トルプロカルブ・・・20.0%	包装	(45g×10)×10
性状	褐色細粒 水溶性パック入り 1パック45g	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用病害及び使用方法】

2023年2月22日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	トルプロカルブを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 白葉枯病	小包装 (パック) 10個 (450g)/10a	出穂5日前 まで、但し、 収穫30日前 まで	1回	水田に小包装(パック) のまま投げ入れる。	2回以内 (移植時までの処理は1回以内、 本田での湛水散布、無人航空機 散布、投げ入れは合計1回以内)

### 使用上の注意事項

- (1) 小包装（パック）に使用しているフィルムは水溶性のため、濡れた手で作業したり、降雨等で破袋しないように注意すること。
- (2) 本剤の使用に当たっては、湛水深を3cm以上にし、水田に投げ入れた後は少なくとも4～5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水及びかけ流しをしないこと。
- (3) 本剤は小包装（パック）のまま10アール当り10個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- (4) 藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり効果が劣る可能性があるため使用をさけること。
- (5) 空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (6) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。とくに本剤を初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は水溶性フィルムで小包装化されているため、通常の使用方法ではその該当がない。ただし、濡れた手で触らないこと。
- (2) 水溶性フィルム包装が破袋した場合は以下の点に注意すること。
  - 1) 眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
  - 2) 皮膚に対して刺激性があるので、皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常的使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。水溶性フィルムは吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を固く閉じて保管すること。また、強く加圧されると水溶性フィルムが劣化するおそれがあるので下積みにならないようにすること。



登録番号 第 23703 号

## サンブラス®粒剤

●1成分で2つの作用性（メラニン生成阻害 MBI-P と病害抵抗性修道）を持つ有効成分トルプロカルブを配合し、いもち病菌を強力にブロックします。

特長： ●残効性に優れています。  
●黒ボク土壌でも防除効果が安定しています。  
●農林水産省「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」に掲載された農薬です。

サンブラスは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	トルプロカルブ・・・3.0%	包装	3kg×6
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用病害及び使用方法】

2021年6月23日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	トルプロカルブを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病	3~4kg/10a	出穂5日前まで 但し、収穫30日前まで	1回	湛水散布	2回以内 (移植時までの処理は1回以内、 本田での湛水散布、無人航空機散布、 投げ入れは合計1回以内)
	もみ枯細菌病 内穎褐変病					

### 使用上の注意事項

- 散布に当っては、湛水状態（水深3cm程度）で重複をさけ均一に散布し、散布後少なくとも4~5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水及びかけ流しをしないこと。
- 空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。とくに本剤を初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

通常的使用方法ではその該当がない。

### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常的使用方法ではその該当がない。

### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさげ、食品と区別して、なるべく低温な場所に密封して保管すること。

登録番号 第 23973 号

## サンブラス®粒剤 18

- 特長：
- 1成分で2つの作用性（メラニン生合成阻害 MBI-P と病害抵抗性修道）を持つ有効成分トルプロカルブを配合し、いもち病菌を強力にブロックします。
  - 残効性に優れています。
  - 黒ボク土壌でも防除効果が安定しています。
  - 無人航空機専用で、10アールあたりの散布量が500gの省力製剤です。
  - 農林水産省「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」に掲載された農薬です。

サンブラスは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	トルプロカルブ・・・18.0%	包装	10kg×1
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用病害及び使用方法】

2023年2月22日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	トルプロカルブを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 白葉枯病	500g/10a	出穂5日前まで 但し、 収穫30日前まで	1回	無人航空機 による散布	2回以内 (移植時までの処理は1回以内、 本田での湛水散布、無人航空機散 布、投げ入れは合計1回以内)

### 使用上の注意事項

- 散布に当っては、湛水状態（水深3cm程度）で重複をさけ均一に散布し、散布後少なくとも4～5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水及びかけ流しをしないこと。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 散布は散布機種の散布基準に従って実施すること。
  - 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整し、飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m離れた位置から圃場内に散布すること。
  - できるだけ風の弱い時間に散布を行うこと。
  - 散布薬剤の飛散によって他の動植物等への影響を与えないよう散布区域の選定に注意するとともに、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
  - 薬剤が水源池、飲料用水、養殖池、養魚田などに飛散、流入しないように十分注意すること。
  - 使用後の機体散布装置は十分洗浄し、タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。使用残りの薬剤は必ず安全な場所に責任者を決めて保管すること。
- 空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。とくに本剤を初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温な場所に密封して保管すること。

登録番号 第 20980 号

## サンリット®水和剤

特長： ●浸透移行性に優れたシメコナゾールを有効成分とした果樹・茶用殺菌剤です。  
●多くの病害に優れた効果があり、リンゴモニリア病にも有効で、上方移行性にも優れています。

サンリットは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	シメコナゾール・・・20.0%	包装	(125g×2) ×40
その他化管法該当成分	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩（アルキル基C=10～14及びその混合物）（化管法第1種）・・・1.2%		
性状	類白色水和性粉末 45μm以下	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害及び使用方法】

2021年12月22日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シメコナゾールを含む農薬の総使用回数
りんご	褐斑病 黒星病 赤星病 うどんこ病 モリア病 斑点落葉病	2000～4000倍	200～700 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
なし	黒星病	2000～4000倍	200～700 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
	赤星病 うどんこ病	4000倍					
初刈り	灰星病	2000～4000倍	200～700 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
もも	灰星病	2000～4000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
小粒核果類	灰星病	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
おうとう	灰星病	2000～4000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	幼果菌核病	2000倍					
いちご	炭疽病	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	うどんこ病	2000～4000倍					
だいず	紫斑病	1000～2000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
しょうが	白星病	1000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内
		24倍	3.2 L/10a			無人航空機による散布	

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シメコナゾールを含む農薬の総使用回数
しそ	さび病	5000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
茶	炭疽病 もち病	2000～4000 倍	200～400 L/10a	摘採 7 日前 まで	1 回	散布	1 回
さくら	幼果菌核病	2000 倍	200～700 L/10a	展葉始期 ～展葉期	3 回以内	散布	3 回以内

#### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 水溶性パック入りの製剤を使用する場合には、次の事項に注意すること。
  - 1) 濡れた手でパックに触らないこと。
  - 2) 外袋の開封後は一度に使い切ることが望ましい。やむを得ず保管する場合でも、出来るだけ速やかに使い切ること。
  - 3) 薬液の調製は容器内に所定量の水の3分の1程度を入れた後、必要量の内袋を開封せずにそのまま容器内に投入する。その後、よく攪拌しながら容器内に水を定量まで加える。
- (3) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 散布は各散布機種 of 散布基準に従って実施すること。
  - 2) 散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 3) 散布中、薬液が漏れないように機体の散布用配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
  - 4) 散布薬液の飛散によって動植物及び自動車やカラートタンの塗装等へ影響を与えないよう散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
- (4) りんごに使用する場合は、次の事項に注意すること。
  - 1) モニリア病に対しては、葉腐れの初発後すぐに散布すること。
  - 2) 斑点落葉病に対しては、落花後 20 日頃までの初期防除剤として使用すること。
- (5) いちごの炭疽病に対して使用する場合は、育苗期から本圃定植時まで散布することが望ましい。
- (6) さくらの幼果菌核病に使用する場合は、品種・栽培条件などによって薬害を生じるおそれがあるので、使用者の責任においてあらかじめ薬害がないことを確かめてから使用すること。
- (7) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (8) 使用液量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせて調節すること。
- (9) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (10) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 散布の際は防護マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをする。
- (3) 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

- (1) 直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。
- (2) 水溶性フィルムで包装した製剤は、吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を堅く閉じて保管すること。

登録番号 第 24441 号

## シングルキック®箱粒剤

●1成分で2つの作用性(メラニン生合成阻害 MBI-P と病害抵抗性修道)を持つトルプロカルブを配合し、いもち病菌を強力にブロックします。  
●農林水産省「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」に掲載された農薬です。

シングルキックは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分・・・(%)	トルプロカルブ・・・6.0%	危険物	—
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	包装	1kg×12

\*普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害及び使用方法】

2023年7月19日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	トルプロカルブを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	いもち病 内穎褐変病 白葉枯病 穂枯れ (ごま葉枯病菌) もみ枯細菌病	育苗箱(30×60×3cm 使用土壌約5L) 1箱当り50g	移植3日前 ～移植当日	1回	育苗箱の上から 均一に散布する。	2回以内 (移植時までの処理は 1回以内、本田での湛 水散布、無人航空機散 布、投げ入れは合計 1回以内)
		高密度に は種する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50～100g)				
稲	いもち病	1kg/10a	移植時	1回	側条施用	

## 使用上の注意事項

- 本剤を育苗箱に処理する場合は、次の注意事項を守ること。
  - 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当りに乾粒として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。
  - 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
  - 本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水してから田植機にかけて移植すること。育苗箱に高密度には種した場合は、とくに注意して葉に付着した薬剤を払い落とすこと。
  - 葉先枯れなどの薬害を生じることもあるので、散布ムラがないよう均一に散布すること。
- 本剤を移植時に使用する場合は、専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
- 容器・空袋はほ場などに放置せず、適切に処理すること。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。とくに初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----  
通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----  
直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温な場所に密封して保管すること。



登録番号 第 22774 号

## タチガレース<sup>®</sup>M 液剤

特長： ●苗立枯病を的確に防ぎ、特にムレ苗防止効果に優れています。  
●根の生育促進効果で、健苗が得られるため、水ストレス、除草剤による薬害の影響を受けにくくなります。

タチガレースは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ヒドロキシイソキサゾール・・・30.0% メタラキシルM・・・2.0%	包装	100ml×60 500ml×20
その他化管法該当成分	N-メチル-2-ピロリドン(化管法第1種)・・・7.5%		
性状	黄色澄明水溶性液体	有効年限	4年
毒性	普通物 <sup>*</sup>	危険物	3石-III (指定数量4000L(水溶性))

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用病害及び使用方法】

2019年10月9日付内容

作物名	適用病虫害名/ 使用目的	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	ヒドロキシイソ キサゾールを含 む農薬の総使用 回数	メタラキシル及 びメタラキシル Mを含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	苗立枯病 (フザリウム菌) 苗立枯病 (ビシウム菌) ムレ苗防止 根の生育促進 移植時の活着促進	500～ 1000倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌 約5L) 1箱当り 500mL	は種時又 は発芽後	1回	土壌 灌注	3回以内 (移植前の土壌混 和は1回以内、移 植前の土壌灌注 は2回以内)	4回以内 (移植前の土壌混 和は1回以内、育 苗箱への灌注は 1回以内、本田で は2回以内)
		1000倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌 約5L) 1箱当り 1L	は種時				
稲 (湛水直 播)	苗腐病 (ビシウム菌)	2.5～5 倍	乾燥種籾 1kg 当り 30mL	は種前	1回	鉄コーティ ング種子に 吹き付け 処理	1回	3回以内 (種もみへの処理 は1回以内、本田 では2回以内)

### 使用上の注意事項

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- 本剤を稲の苗立枯病に使用する場合、ビシウム菌、フザリウム菌には有効であるがリゾプス菌その他による苗立枯病には効果が劣るので注意すること。
- ムレ苗防止に使用する場合、吸水と蒸散の不均衡によって起こるムレ苗に対して有効であるので、このようなムレ苗の発生する地域で使用すること。
- 苗腐病に使用する場合、乾燥種籾に鉄コーティング処理をした後、は種2日前～は種当日に所定量を噴霧器で均一に付着するよう吹き付けること。吹き付け処理した種籾はビニール袋等で密閉して保管し、速やかに使用すること。
- 本剤を使用する場合、使用量が多すぎると初期生育が一時抑制される場合があるので、使用量を誤らないように注意すること。

- (6) 本剤を使用した場合、草丈の高い品種や、は種量の多い条件では生育後期に苗が伸びすぎることがあるので育苗管理に注意すること。
- (7) 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないよう注意すること。
- (8) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

**人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法**-----

- (1) 原液は眼に対して強い刺激性があるので、薬液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨**-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨**-----

危険物第四類第三石油類に属するので火気には十分注意すること。

**貯蔵上の注意事項**-----

火気をさけ、直射日光が当たらない低温な場所に密栓して保管すること。

## タチガレエース<sup>®</sup>M 粉剤

特長： ● 苗立枯病を的確に防ぎ、特にムレ苗防止効果に優れています。  
● 根の生育促進効果で、健苗が得られるため、水ストレス、除草剤による薬害の影響を受けにくくなります。

タチガレエースは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ヒドロキシイソキサズール・・・4.0% メタラキシルM・・・0.25%	包装	1kg×12 3kg×8 10kg×1 (JA)
性状	類白色粉末 45μm以下	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用病害及び使用方法】

2019年10月9日付内容

作物名	適用病害虫名/ 使用目的	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ヒドロキシイソキサズールを含む農薬の 総使用回数	メタラキシル及びメタラキシルMを含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	苗立枯病 (ピシウム菌) 苗立枯病 (フザリウム菌) ムレ苗防止 根の生育促進	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌 約5%) 1箱当り6~8g	は種前	1回	育苗箱土壌に 均一に混和	3回以内 (移植前の土壌 混和は1回以 内、移植前の土 壌灌注は2回 以内)	4回以内 (移植前の土壌混和は 1回以内、 育苗箱への灌注は 1回以内、 本田では2回以内)
稲 (湛水 直播)	根の生育促進に よる苗立の安定	乾粒重量の3%	は種前	1回	過酸化カルシウム 剤に添加して 種籾に粉衣す る。	1回	3回以内 (種もみへの処理は 1回以内、 本田では2回以内)
さとうき び	根腐病	5kg/10a	植付時	1回	植溝土壌混和	1回	1回

### 使用上の注意事項

- 本剤を稲の苗立枯病に使用する場合、ピシウム菌、フザリウム菌には有効であるがリゾプス菌その他による苗立枯病には効果が劣るので注意すること。
- ムレ苗防止に使用する場合、吸水と蒸散の不均衡によって起こるムレ苗に対して有効であるので、このようなムレ苗の発生する地域で使用する。
- 本剤を稲に使用する場合、使用量が多すぎると初期生育が一時抑制される場合があるので、使用量を誤らないように注意すること。
- 本剤を育苗箱土壌に混和する場合はなるべく播種直前に行うこと。
- 本剤を稲に使用した場合、草丈の高い品種や、播種量の多い条件では生育後期に苗が伸びすぎることがあるので育苗管理に注意すること。
- 過酸化カルシウム剤に添加して使用する場合は十分混合して種籾に湿粉衣すること。又、過酸化カルシウム剤の使用上の注意事項を厳守すること。

(7) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

**人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法**-----

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋などを着用すること。作業後はうがいをするとともに洗眼すること。
- (3) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨**-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨**-----

通常の使用方法ではその該当がない。

**貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 23677 号

## タチガレファイト<sup>®</sup>液剤

- 1成分で苗木枯病、ムレ苗を的確に防ぎます。  
 特長： ●根の生育促進効果で、健苗が得られるため、水ストレス、除草剤による薬害の影響を受けにくくなります。  
 ●複合肥料を配合(登録番号 生第101120号)。

タチガレファイトは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ヒドロキシイソキサゾール・・・16.5%	包装	500ml×20
性状	黄赤色澄明水溶性液体	有効年限	5年
毒性	普通物 <sup>※</sup>	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用病害及び使用方法】

2022年11月9日付内容

作物名	適用病害虫名/ 使用目的	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ヒドロキシイソキサゾールを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	根の生育促進 移植時の発根及び活着促進	500~600倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り500~1000mL	は種時 及び 発芽後	2回以内	土壌 灌注	3回以内 (移植前の土壌混和は1回以内、 移植前の土壌灌注は2回以内)
		300倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り500mL				
	苗木枯病 (フザリウム菌) 苗木枯病 (ピシウム菌) ムレ苗防止	250~300倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り500mL				
		500~600倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り500~1000mL				
	ごま葉枯病	250倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り500mL	は種時	1回		
キャベツ	ピシウム腐敗病	1000倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはパポット1冊 (30×60cm、使用土壌 約3.0~4.0L) 当り0.5L	出芽時 ~育苗期	3回以内	土壌 灌注	3回以内
きゅうり	苗木枯病 (ピシウム菌)	500倍	3L/m <sup>2</sup>	は種直後	3回以内	土壌 灌注	3回以内
メロン	苗木枯病 (ピシウム菌)	500倍	3L/m <sup>2</sup>	は種時	1回	全面土 壌灌注	1回

作物名	適用病害虫名/ 使用目的	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ヒドロキシイソキサゾールを含む農薬の総使用回数
すいか	苗立枯病	500 倍	3L/m <sup>2</sup>	は種直後	1 回	苗床 灌注	2 回以内 (育苗土壌への混和は1回以内、 苗床への灌注は 1回以内)
オクラ	苗立枯病 (ピシム菌)	300～1000 倍	50mL/株	は種時 ～発芽初期	2 回以内	植穴又 は株元 灌注	2 回以内
てんさい	苗立枯病	500 倍	ペーパーポット 1 冊当たり 1L	は種時 ～生育初期 但し、収穫 120 日前まで	3 回以内	灌注	5 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、 育苗土壌への 混和は1回以内、 灌注は3回以内)
			3L/m <sup>2</sup>				

#### 使用上の注意事項

- (1) 使用前によく振ってから使用すること。
- (2) 使用量が多すぎたり濃度が高すぎた時、場合によっては初期生育が一時抑制されることがあるので、濃度や使用量を誤らないように注意すること。
- (3) ムレ苗防止に使用する場合、本剤は育苗中の低温による根の吸水低下や高温による蒸散増加など、吸水と蒸散の不均衡によって起こるムレ苗（生理的な急性萎凋障害）に対して有効であるので、このようなムレ苗の発生する地域で使用すること。
- (4) 本剤をオクラに使用する場合は、希釈液を乾燥した土壌に灌注すると葉害（生育抑制）を生じるおそれがあるので、は種前には十分な灌水を行うこと。
- (5) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 有毒ガスが発生するので、石灰硫黄合剤との混合は絶対にしないこと。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。使用後は洗眼すること。
- (3) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 10331 号

# タチガレン®液剤

特長：  
 ●1成分で苗立枯病、ムレ苗を的確に防ぎます。  
 ●根の生育促進効果で、健苗が得られるため、水ストレス、除草剤による薬害の影響を受けにくくなります。

タチガレンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ヒドロキシイソキサゾール・・・30.0%	包装	100ml×60 500ml×20
性状	黄褐色液体	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

2023年2月22日付内容

作物名	適用病虫害名/ 使用目的	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ヒドロキシイソキサ ゾールを含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	苗立枯病(フザリウム菌) 苗立枯病(ヒシム菌) 根の生育促進 移植時の発根及び活着促進 ムレ苗防止	500～ 1000倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌 約5L) 1箱当り 500mL	は種時 又は 発芽後	2回 以内	土壌 灌注 又は 灌注	3回以内 (移植前の 土壌混和は 1回以内、 移植前の土壌灌注 及び灌注は 合計2回以内)
	砂壤土、高温、低温又は高 密度は種苗における水稻用 除草剤起因の生育抑制軽減	500倍		移植5日前～ 移植前日	1回	灌注	
	ごま葉枯病		は種時		土壌 灌注		
	苗立枯病(フザリウム菌) 苗立枯病(ヒシム菌) 根の生育促進 移植時の発根及び活着促進 ムレ苗防止	1000倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌 約5L) 1箱当り 1L	は種時 又は 発芽後	2回 以内	土壌 灌注 又は 灌注	
ごま葉枯病		は種時		1回	土壌 灌注		
稲(折衷 苗代)	苗立枯病(フザリウム菌) 苗立枯病(ヒシム菌)	500倍	1L/m <sup>2</sup>	は種直後 又は 発芽後	2回 以内	土壌 灌注 又は 灌注	
稲(畑苗 代)	苗立枯病(フザリウム菌) 苗立枯病(ヒシム菌)	1000倍	3L/m <sup>2</sup>	は種直後 又は 発芽後	2回 以内	土壌 灌注 又は 灌注	
	根の生育促進 移植時の発根及び活着促進			は種 直後	1回	土壌 灌注	

作物名	適用病害虫名/ 使用目的	希釈倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ヒドロキシイソキサ ゾールを含む農薬の 総使用回数
キャベツ	ビシム腐敗病	1000 倍	セル成型育苗トレイ 1 箱または ペーパーポット1 冊 (30×60cm・ 使用土壌 約3.0～4.0L) 当り0.5L	出芽時 ～育苗期	3 回 以内	土壌 灌注	3 回以内
ナス	バクテリア萎凋病	1000 倍	250mL/株	定植時	1 回	株元 灌注	1 回
すいか	苗立枯病	500～ 1000 倍	3L/m <sup>2</sup>	は種 直後	1 回	苗床 灌注	2 回以内 (育苗土壌への混和 は1回以内、苗床へ の灌注は1回以内)
きゅうり	苗立枯病(ファリウム菌) 苗立枯病(ビシム菌)	500～ 1000 倍	3L/m <sup>2</sup>	は種 直後	3 回 以内	土壌 灌注	3 回以内
メロン	苗立枯病(ビシム菌)	500 倍	3L/m <sup>2</sup>	は種時	1 回	全面土 壌灌注	1 回
ほうれん そう	立枯病	500～ 1000 倍	3L/m <sup>2</sup>	は種時	1 回	土壌 灌注	1 回
		1500～ 3000 倍	9L/m <sup>2</sup>				
		50～100 倍	300mL/m <sup>2</sup>	は種前		全面散 布後土 壌混和	
okra	苗立枯病(ビシム菌)	500～ 1000 倍	50～200mL/株	は種時～ 発芽初期	2 回 以内	植穴又 は株元 灌注	2 回以内
さやいん げん	白絹病	500 倍	1L/m <sup>2</sup>	収穫14日前 まで	3 回 以内	土壌 灌注	3 回以内
さやえん どう	根腐病	500～ 1000 倍	3L/m <sup>2</sup>	は種後及び生 育期 但し、は種後 1～2 か月後 まで	3 回 以内	は種穴 又は株 元に土 壌灌注	3 回以内
実えん どう	立枯病	500 倍	200mL/株	は種後及び生 育期 但し、は種後 1～2 か月後 まで	3 回 以内	は種穴 又は株 元に土 壌灌注	3 回以内



作物名	適用病害虫名/ 使用目的	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ヒドロキシイソキサ ゾールを含む農薬の 総使用回数
未成熟そ らまめ	立枯病	500 倍	200mL/株	は種後及び生 育期 但し、収穫 30 日前まで	3 回 以内	は種穴 又は株 元に土 壌灌注	3 回以内
てんさい	苗立枯病	500～ 1000 倍	ペーパーポット 1 冊当り 1L	は種時～生育 初期 但し、収穫 120 日前まで	3 回 以内	灌注	5 回以内 (種子粉衣は 1 回以 内、育苗土壌への混 和は 1 回以内、灌注 は 3 回以内)
			3L/m <sup>2</sup>				
みずな	立枯病	500 倍	3L/m <sup>2</sup>	は種時	1 回	土壌 灌注	1 回
みぶな	立枯病	1000 倍	3L/m <sup>2</sup>	は種時	1 回	土壌 灌注	1 回
みつば	根腐病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前 まで ただし、 伏せ込み栽培 は伏せ込み前 まで	1 回	散布	1 回
いちご	苗の発根促進 活着促進	1000 倍	-	挿し芽 採取時	1 回	30 分 間挿し 芽浸漬	2 回以内 (挿し芽採取時の浸 漬処理は 1 回以内、 挿し芽時の土壌灌注 は 1 回以内)
			1.5L/育苗培養 土 5L	挿し芽時		土壌 灌注	
たばこ	舞病	1000 倍	100mL/株	移植時 及び 大土寄時	2 回 以内	株元 灌注	2 回以内
カーネーション	立枯病	500 倍	3L/m <sup>2</sup>	定植時 及び 活着後	3 回 以内	土壌 灌注	3 回以内
アリス	白絹病	1000～ 2000 倍	3L/m <sup>2</sup>	定植時 及び 生育期	6 回 以内	土壌 灌注	6 回以内
きく	発根促進	1000 倍	5～10L/m <sup>2</sup>	挿し芽直後	1 回	土壌 灌注	1 回
林木 (苗木)	立枯病	500～ 1000 倍	3L/m <sup>2</sup>	は種覆土 直後	1 回	苗床全 面灌注	1 回
西洋芝 (バントグ ラス)	赤焼病	500～ 1000 倍	2L/m <sup>2</sup>	発病 初期	4 回 以内	散布	6 回以内
	ピシム病	250～ 500 倍	0.5L/m <sup>2</sup>				

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量が多すぎたり濃度が高すぎた時、場合によっては初期生育が一時抑制されることがあるので、濃度や使用量を誤らないように注意すること。
- (2) 稲に使用する場合は次の事項に注意すること。
  - 1) 育苗中の苗立枯病のまん延防止には発芽期以降に追加灌注すること。
  - 2) ムレ苗防止に使用する場合、本剤は育苗中の低温による根の吸水低下や高温による蒸散増加など、吸水と蒸散の不均衡によって起こるムレ苗（生理的な急性萎凋障害）に対して有効であるので、このようなムレ苗の発生する地域で使用すること。
  - 3) 砂壌土、高温（最高気温 30℃以上）、低温（日平均 15℃以下）又は高密度は種苗における水稲用除草剤起因の生育抑制軽減は、除草剤分類（RAC コード）2 又は 15 の有効成分を含む水稲用除草剤で効果を確認している。
- (3) 本剤をキャベツに使用する場合は、使用量が多すぎたり濃度が高すぎると薬害（生育抑制）を生じやすいので、所定の使用液量、濃度を必ず守ること。
- (4) 本剤をオクラに使用する場合は、希釈液を乾燥した土壤に灌注すると薬害（生育抑制）を生じるおそれがあるので、は種前には十分な灌水を行うこと。
- (5) 本剤をカーネーション立枯病防除に使用する場合は、定植時に所定希釈液を 1 m<sup>2</sup>当り 3L の割合でジョロなどで均一に土壤灌注すること。さらに活着後、発生状況に応じて適宜灌注処理を行なうこと。
- (6) アイリスの白絹病防除に使用する場合は定植時に所定濃度の希釈液を 1 m<sup>2</sup>当り 3L の割合でジョロなどで均一に土壤灌注し、その後 20～30 日間隔で 1～2 回灌注処理すること。
- (7) さやえんどうの根ぐされ病防除に使用する場合は、発生後の灌注は効果がないので、予防的には播種後 1 週間以内に所定希釈液を 1 m<sup>2</sup>当り 3L 灌注し、更に 1～2 か月後にかけて 1～2 回株元灌注処理すること。
- (8) 空容器はほ場などに放置せず、適切に処理すること。
- (9) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので、薬液調製時及び使用の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して、薬剤が皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (3) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- (4) 公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

## 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 10760 号

## タチガレン<sup>®</sup>粉剤

特長：  
 ●1成分で苗木枯病、ムレ苗を的確に防ぎます。  
 ●根の生育促進効果で、健苗が得られるため、水ストレス、除草剤による薬害の影響を受けにくくなります。

タチガレンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ヒドロキシイソキサゾール・・・4.0%	包装	1kg×12 3kg×8
性状	類白色粉末 45μm以下	有効年限	5年
毒性	普通物 <sup>※</sup>	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用病害及び使用方法】

2019年10月9日付内容

作物名	適用病害虫名/ 使用目的	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ヒドロキシイソキサゾールを 含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	根の生育促進 移植時の発根及び活着促進 ムレ苗防止	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5 <sup>㍉</sup> ㍉) 1箱当り 4～8g	は種前	1回	育苗箱土壌 に均一に混 和する。	3回以内 (移植前の土壌混和は 1回以内、 移植前の土壌灌注は 2回以内)
	苗木枯病(フザリウム菌) 苗木枯病(ビシウム菌)	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5 <sup>㍉</sup> ㍉) 1箱当り 3～6g				
稲 (畑苗代)	根の生育促進 移植時の発根及び活着促進 苗木枯病(フザリウム菌) 苗木枯病(ビシウム菌)	50～100g/m <sup>2</sup>	は種前	1回	深さ5～ 10cmの苗代 土壌に均一 に混和する。	3回以内 (移植前の土壌混和は 1回以内、 移植前の土壌灌注は 2回以内)
稲 (折衷苗 代)	苗木枯病(フザリウム菌) 苗木枯病(ビシウム菌)	50～100g/m <sup>2</sup>	は種前	1回	深さ5～ 10cmの苗代 土壌に均一 に混和する。	3回以内 (移植前の土壌混和は 1回以内、 移植前の土壌灌注は 2回以内)
稲 (湛水直 播)	根の生育促進による 苗木の安定	乾粒重量の3%	は種前	1回	過酸化カルシウム 剤に添加し て種子に湿 粉衣する。	1回
てんさい	苗木枯病	250～500g/10a 分の床土 (約400kg)	は種前	1回	土壌混和	5回以内 (種子粉衣は1回以内、 育苗土壌への混和は 1回以内、 灌注は3回以内)

作物名	適用病害虫名/ 使用目的	使用量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用方法	ヒドロキシイソキサゾールを 含む農薬の総使用回数
すいか	苗立枯病	50～75g/床土 50 <sup>リットル</sup>	は種時	1回	育苗用土壌 に均一に混 和する。	2回以内 (育苗土壌への混和は 1回以内、 苗床への灌注は1回以内)
ほうれん そう	立枯病 根腐病	40kg/10a	は種3 日前～ 直前	1回	全面土壌混 和	1回
たばこ	舞病	5kg/10a	移植前	-	畦土壌表面 処理	-

#### 使用上の注意事項

- (1) 本剤を土壌混和する場合はなるべく播種直前に行うこと。
- (2) 稲に使用する場合は次の事項に注意すること。
  - 1) 苗立枯病防除及び根の生育、発根促進に使用する場合、使用量が多すぎると逆に初期生育が一時抑制される場合があるので、使用量を誤らないように注意すること。
  - 2) 本剤の種もみ播種時の施用は苗立枯病の防除と同時に苗の根の生育を促進し、間接的に健全な苗の育成を目的として使用する。また移植時期の温度が低い場合等には発根、活着促進に効果がある。
  - 3) ムレ苗防止に使用する場合、本剤は育苗中の低温による根の吸水低下や高温による蒸散増加など、吸水と蒸散の不均衡によって起こるムレ苗（生理的な急性萎凋障害）に対して有効であるので、このようなムレ苗の発生する地域で使用する。
  - 4) 育苗期間が長くなると（たとえば中苗育苗）効果が低下するので、この場合には移植前に処理する活着促進に有効な薬剤との組み合わせで使用する。
  - 5) 過酸化カルシウム剤に添加して使用する場合は、十分混合して種籾に湿粉衣すること。また、過酸化カルシウム剤の使用上の注意事項を厳守すること。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので、眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (2) 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋などを着用すること。作業後はうがいをすること。
- (3) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 21525 号

## チオノック®フロアブル

- 優れた予防効果を示す保護殺菌剤です。  
 ●多くの病原菌に抗菌作用を持つので、沢山の病害の同時防除が可能です。  
 ●耐性菌の発生リスクの心配が少ない薬剤です。

チオノックは大内新興化学工業(株)の登録商標です。

有効成分	チウラム（化管法第1種）・・・40.0%	包装	1L×12 2L×6
性状	類白色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害及び使用方法】

2020年9月30日付内容

作物名	適用病虫害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チウラムを含む 農薬の総使用回数
りんご	斑点落葉病 黒星病 黒点病 褐斑病 すす点病 すす斑病 赤星病 炭疽病 輪紋病	500倍	200～700 L/10a	収穫30日前 まで	5回以内	散布	5回以内
なし	黒斑病 黒星病 赤星病 心腐れ症(胴枯病菌) 炭疽病 褐色斑点病	500倍	200～700 L/10a	収穫30日前 まで	5回以内	散布	5回以内 (休眠期は 1回以内)
もも	黒星病 灰星病 縮葉病 せん孔細菌病	500倍	200～700 L/10a	収穫7日前 まで	5回以内	散布	5回以内
初刈ン	黒星病 灰星病 縮葉病 せん孔細菌病	500倍	200～700 L/10a	収穫30日前 まで	5回以内	散布	5回以内
かき	落葉病 炭疽病 うどんこ病	500倍	200～700 L/10a	収穫30日前 まで	2回以内	散布	2回以内 (休眠期は1回以内)
すもも	ふくろみ病 炭疽病	500倍	200～700 L/10a	収穫14日前 まで	3回以内	散布	3回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チウラムを含む農薬の総使用回数
あんず	かいよう病	500 倍	200～700 L/10a	収穫 21 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
うめ	黒星病	500 倍	200～700 L/10a	収穫 21 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
おうとう	褐色せん孔病 炭疽病 灰星病 幼果菌核病	500 倍	200～700 L/10a	収穫 21 日前 まで	5 回以内	散布	5 回以内 (萌芽後は 2 回以内)
ぶどう	晩腐病 べと病 灰色かび病 褐斑病 黒とう病	1000 倍	200～700 L/10a	収穫 60 日前 まで	2 回以内	散布	3 回以内 (休眠期は 1 回以内、 生育期は 2 回以内)
いちご	炭疽病	500 倍	100～300 L/10a	育苗期	5 回以内	散布	7 回以内 (育苗期は 5 回以内、 生育期は 2 回以内)
				生育期 但し 収穫開始 21 日前まで	2 回以内		
りんどう	褐斑病 葉枯病 炭疽病 灰色かび病	500 倍	100～500 L/10a	発病初期	6 回以内	散布	6 回以内
花き類・観 葉植物(り んどうを 除く)	灰色かび病 炭疽病	500 倍	100～500 L/10a	発病初期	6 回以内	散布	6 回以内

#### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 本剤は貯蔵中に分離することがあるので、使用に際しては容器をよく振ること。
- (3) 石灰硫黄合剤、ボルドー液との混用はさけること。
- (4) 銅剤との近接散布は葉の汚れを生じるので注意すること。
- (5) 蚕に対して毒性があるので、桑葉にかからないように注意して散布すること。
- (6) あんずに使用する場合、果実に汚れを生じるおそれがあるので、落花 30 日後以降の散布はさけること。
- (7) ぶどうに使用する場合、幼果期～袋掛けまでの散布は、果房の汚れや果粉溶脱を生じるおそれがあるので十分注意すること。
- (8) シクラメンに使用する場合、花卉に葉害を生じるおそれがあるので、花柄伸長期以降は使用しないこと。
- (9) いちごの開花期以後の散布は、果実の汚れを生じるおそれがあるので十分注意すること。
- (10) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (11) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当てを受けること。
- (2) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池周辺での使用はさけること。
- (2) 水産動植物（甲殻類、藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使い切ること。散布器具及び容器の洗浄水は河川等に流さないこと。また空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当はない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 20990 号

## テーク®水和剤

●多くの植物病原菌による病害に治療効果をもつ殺菌剤シメコナゾールと、汎用性の高い保護殺菌剤マンゼブとの混合剤です。

特長： ●多くの植物病原に効果を持つので果樹・野菜場面で使いやすい製品です。

●EBI とマンゼブとの相乗作用により高く安定した効果を発揮します。

●耐性菌の出現抑制、上方移行性に優れています。

テークは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	シメコナゾール・・・2.4% マンゼブ（化管法第1種）・・・65.0%	包装	250g×40 WSB（417g×2）×10
その他化管法該当成分	ヘキサメチレンテトラミン（化管法第1種）・・・1.6%		
性状	淡黄色水和性粉末 45μm以下	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害及び使用方法】

2016年12月14日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シメコナゾールを含む農薬の総使用回数	マンゼブを含む農薬の総使用回数
りんご	うどんこ病 モリブ病 すす点病 すす斑病 褐斑病 黒星病 赤星病 斑点落葉病 黒点病	600～800倍	200～700 L/10a	収穫30日前まで	3回以内	散布	3回以内	3回以内
なし	褐色斑点病	600倍	200～700 L/10a	収穫30日前まで	3回以内	散布	3回以内	5回以内
かき	うどんこ病 落葉病 炭疽病	600倍	200～700 L/10a	収穫45日前まで	2回以内	散布	2回以内	2回以内
みかん	そうか病 黒点病 灰色かび病	500～600倍	200～700 L/10a	収穫30日前まで	3回以内	散布	3回以内	4回以内
かんきつ (みかんを除く)	そうか病 黒点病 灰色かび病	600倍	200～700 L/10a	収穫90日前まで	3回以内	散布	3回以内	4回以内



作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	シメコナゾールを含む農薬 の総使用回数	マンゼブを含む農薬の総使 用回数
ぶどう	べと病 黒とう病 晩腐病 うどんこ病 灰色かび病	1000 倍	200～700 L/10a	収穫 45 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内	2 回以内
すいか	炭疽病 うどんこ病 つる枯病	600～800 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	5 回 以内	散布	5 回以内	7 回以内
メロン	べと病 うどんこ病 つる枯病	600～800 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	5 回 以内	散布	5 回以内	5 回以内
かぼちゃ	べと病 うどんこ病 疫病	600～800 倍	100～300 L/10a	収穫 21 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内	2 回以内
きゅうり	べと病 うどんこ病 炭疽病 灰色かび病 褐斑病	600～800 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	3 回以内	3 回以内
トマト	疫病 葉かび病 うどんこ病	800 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2 回 以内	散布	2 回以内	2 回以内
ねぎ	さび病 べと病 黒斑病 葉枯病	600 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内 (は種時は 1 回以内)	3 回以内
にんにく	さび病 葉枯病 白斑葉枯病	600～800 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	3 回 以内	散布	6 回以内 (植付前は 1 回以内、 植付後の株元 散布は 2 回以内、 散布は 3 回以内)	5 回以内

#### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 水溶性パック入りの製剤を使用する場合には、次の事項に注意すること。
  - 1) 濡れた手でパックに触らないこと。
  - 2) 外袋の開封後は一度に使い切ることが望ましい。やむを得ず保管する場合でも、出来るだけ速やかに使い切ること。
  - 3) 薬液の調製は容器内に所定量の水の 3 分の 1 程度を入れた後、必要量の内袋を開封せずにそのまま容器内に投入する。その後、よく攪拌しながら容器内に水を定量まで加える。
- (3) りんごに使用する場合は、次の事項に注意すること。
  - 1) モニリア病に対しては、葉腐れの初発後すぐに散布すること。
  - 2) 斑点落葉病に対しては、落花後 20 日頃までの初期防除剤として使用すること。
- (4) 石灰硫黄合剤、ボルドー液との混用はさけること。

- (5) ボルドー液との7日以内の近接散布は薬害を生じるおそれがあるのでさけること。
- (6) 極端な高温多湿条件下では、軟弱幼苗に薬害のおそれがあるので注意すること。
- (7) 散布量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせて調節すること。
- (8) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (9) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 粉末は眼に対して刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 散布の際は防護マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

- (1) 直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。
- (2) 水溶性フィルムで包装した製剤は、吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を強く閉じて保管すること。

登録番号 第 23630 号

## テプロス®フロアブル

- 有効成分テブフロキンは既存の農薬とは異なる新規系統の化合物です。テブフロキンはミトコンドリア電子伝達系の特異的な部分に作用していると考えられており、QoI 剤とも交差耐性を示さない新規作用を有します。
- 茶の輪斑病や新梢枯死症に高い防除効果を示します。
- 摘採3日後までの散布がおすすめです。現場では作業手順や労力の面から、すぐに散布できない場合もあります。そのような状況下でもテプロスフロアブルは、摘採3日後の散布でも一定の効果を示すことが確認されています。

テプロスは三井化学クロップ&ライフソリューション㈱の登録商標です。

有効成分	テブフロキン・・・20.0%	包装	500×20
性状	類白色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	テブフロキンを含む農薬の総使用回数
茶	輪斑病	1000～2000倍	200～400L/10a	摘採14日前まで	2回以内	散布	2回以内
	新梢枯死症	1000倍					

## 使用上の注意事項

- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- 散布液調製後はそのまま放置せずできるだけ速やかに散布すること。
- 周辺の作物にかかると薬害を生じるおそれがあるので、かからないように十分注意して散布すること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- 誤飲などのないよう注意すること。誤って飲みこんだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。  
作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密栓して保管すること。

## MIC 銅ストマイ水和剤

特長： ●塩基性塩化銅とストレプトマイシンの混合剤で、細菌性病害に対して優れた効果を示します。

有効成分	塩基性塩化銅・・・58.8% (銅として・・・35.0%) ストレプトマイシン硫酸塩・・・12.5% (ストレプトマイシンとして・・・10.0%)	包装	1kg×10
性状	うす青緑色水和性粉末	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	銅を含む農薬の総使用回数	ストレプトマイシンを含む農薬の総使用回数
こんにゃく	腐敗病 葉枯病	600～800倍	100～300 L/10a	収穫30日前まで	6回以内	散布	-	6回以内 (種いもへの処理は1回以内)
たまねぎ	軟腐病	600～800倍	100～300 L/10	収穫7日前まで	5回以内	散布	-	5回以内
ばれいしよ	疫病 軟腐病	600～800倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布	-	5回以内 (種いもへの処理は1回以内)
	そうか病 黒あし病	100倍	—	植付前	1回	瞬間～10分 間種いも浸漬	-	
キウフルーツ	花腐細菌病 かいよう病	600～800倍	200～700 L/10a	休眠期～ 蕾出現前	4回以内	散布	-	4回以内 (樹幹注入は1回以内)

## 使用上の注意事項

- (1) 石灰硫黄合剤などの強アルカリ性薬剤、マシン油乳剤、チオファネートメチル剤及びタルク、ベントナイトのような吸着性を有する物質を含む薬剤との混用はさけること。
- (2) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (3) こんにゃくに使用する場合、日中高温時の散布は薬害を生じるおそれがあるので、日中の散布はさけ、朝夕の涼しい時に散布すること。
- (4) もも、うめ、すももなどの核果類及びはくさいなどの葉菜類には薬害を生じるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布すること。
- (5) 調製した散布液はそのまま放置せず、できるだけ速やかに散布すること。
- (6) 高濃度で使用すると、作物に対してクロロシス（黄化現象）を生じることがある。これは作物の種類や環境条件によって差があり、特に高温多湿時におこりやすいが、通常1週間程度で消失し、作物に対する実用上の影響は認められていない。

- (7) 本剤をキウイフルーツに使用する場合、新梢が 10cm 以上に伸長したのちの散布は薬害を生じるので、使用時期に注意すること。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法  
農薬使用者に係る注意事項
- ①誤飲、誤食などのないよう注意すること。
  - ②本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。  
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。  
使用後は洗眼すること。
  - ③使用の際は保護眼鏡、防護マスク、不浸透性手袋を着用すること。
- (2) 使用に際して講ずべき被害防止方法  
該当なし

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（甲殻類、藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、使用残液及び容器の洗浄水等は河川等に流さず適切に処理すること。
- (2) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。  
また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

## Dr. オリゼ®箱粒剤

●世界初の植物防御機構活性化剤 (Plant Defence Activator) で、植物の病害抵抗性を誘導して高い効果を示す、ユニークな作用性の殺菌剤です。  
●育苗箱当り 50g 施用で、長期間にわたって高い効果を示すので、省力的、経済的です。

Dr. オリゼは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	プロベナゾール (化管法第1種)・・・24.0%	包装	1 kg×12 10kg×1
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	緑化期～ 移植当日	1回	育苗箱の 苗の上から 均一に散布 する。	2回以内 (移植時までの処理は 1回以内)
	穂枯れ(ごま葉枯病菌)		移植当日			
	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病	高密度に は種する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50～100g)	移植 3日前～移 植当日	1回	育苗箱の 苗の上から 均一に散布 する。	2回以内 (移植時までの処理は 1回以内)
	穂枯れ(ごま葉枯病菌)		移植当日			

## 使用上の注意事項

- 使用量に合わせて秤量し、使いきること。
- 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落としのち、十分灌水すること。
- 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生じる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
- 軟弱徒長苗、むれ苗などでは薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
- 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
- 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態(湛水深3～5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
- 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合には使用をさけること。
- 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

**人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法**-----

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。  
作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- (5) 夏期高温時の使用をさけること。

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨**-----

水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨**-----

通常の使用方法ではその該当がない。

**貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。



登録番号 第 23263 号

# トライ®フロアブル

●いもち病に対して直接抗菌力を示し、感染を阻害するだけでなく、病斑形成や伸長、病斑上の孢子形成を強く阻害し、いもち病のまん延を防ぎます。  
●既存剤とは全く異なる新規化合物「テブフロキン」を有効成分とするいもち病防除剤です。既存剤と交差耐性を示しません。

トライは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	テブフロキン・・・15.0%	包装	500ml×20 10L×1
性状	類白色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	テブフロキンを含む農薬の総使用回数
だいず	紫斑病	1000倍	100～300L/10a	収穫 14日前まで	2回以内	散布	2回以内
		8倍	0.8L/10a			無人航空機 による散布	
		16倍	1.6L/10a				
稲	いもち病 稲こうじ病 穂枯れ（ごま葉枯病菌）	1000倍	60～150L/10a	収穫 14日前まで	2回以内	散布	2回以内
		250倍	25L/10a			無人航空機 による散布	
		8倍	0.8L/10a				

## 使用上の注意事項

- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合には次の注意事項を守ること。
  - 散布液の飛散によって他の動植物等への危被害あるいは自動車の塗装などへ被害を与えるおそれがあるなど、各分野に影響があるので、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
  - 微量散布装置以外の散布器具は使用しないこと。
  - 各散布機種種の散布基準に従って実施すること。
  - 散布中薬液の漏れないように機体の散布用配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
  - 散布終了後は次の項目を守ること。
    - 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使い切ること。
    - 機体の散布装置は十分洗浄し、薬剤タンクの洗浄廃液は、河川等に流さないこと。
- 本田の水稻に対して希釈倍数250倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を用いること。
- 周辺の作物にかかると薬害を生じるおそれがあるので、かからないように十分注意して散布すること。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- 散布液調製後はそのまま放置せずできるだけ速やかに散布すること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 無人航空機による散布で使用する場合は、河川、養殖池等に飛散しないよう特に注意すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密栓して保管すること。

登録番号第 18210 号

ネビジン<sup>®</sup>粉剤

特長： ●幅広いあぶらな科作物の根こぶ病に安定した効果を示します。  
●薬剤の連用処理により、効果がより一層安定します。

ネビジンは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	フルスルファミド・・・0.30%	包装	3kg×8 10kg×1
性状	淡黄色粉末 45 μm 以下	有効年限	5年
毒性	普通物 <sup>*</sup>	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害及び使用方法】

2023年4月5日現在の内容です。

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	フルスルファミド を含む農薬の総使 用回数
キャベツ	菌核病	30kg/10a	定植前	2回以内	全面土壌混和	2回以内
	根こぶ病	20～30kg/10a	は種又は定植前		作条土壌混和	
		20kg/10a				
レタ	菌核病	20～30kg/10a	定植前	1回	全面土壌混和	1回
はくさい	根こぶ病	20～30kg/10a	は種又は定植前	1回	全面土壌混和	1回
		20kg/10a			作条土壌混和	
ブロッコリー	根こぶ病	20～30kg/10a	は種又は定植前	1回	全面土壌混和	1回
		20kg/10a			作条土壌混和	
カリフラワー	根こぶ病	20～30kg/10a	は種又は定植前	1回	全面土壌混和	1回
		20kg/10a			作条土壌混和	
なばな類	根こぶ病	20～30kg/10a	は種又は定植前	1回	全面土壌混和	1回
			は種前		作条土壌混和	
		20kg/10a	定植前			
非結球あぶら な科葉菜類(な ばな類を除く)	根こぶ病	20～30kg/10a	は種又は定植前	1回	全面土壌混和	1回
		20kg/10a			作条土壌混和	
かぶ	根こぶ病	30kg/10a	は種又は定植前	1回	全面土壌混和	1回
		20kg/10a			作条土壌混和	

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	フルスルファミド を含む農薬の総使 用回数
だいこん	根こぶ病	30kg/10a	は種前	1回	全面土壌混和	1回
ばれいしょ	そうか病	30kg/10a	植付時	1回	作条土壌混和	2回以内(種いも浸 漬は1回以内、土壌 混和は1回以内)
		60kg/10a			全面土壌混和	
	60kg/10a	植付時	1回	全面土壌混和		

#### 使用上の注意事項

- (1) 本剤の所定量を作条又は全面に散布し、土壌とよく混和した後、は種、定植又は植付けすること。
- (2) 本剤の作条土壌混和を行う際は、本剤の所定量を畦上全面に散布し、土壌中に均一に分布するようによく混和すること。
- (3) つまみ菜・間引き菜には使用しないこと。
- (4) ばれいしょのそうか病に対しては、多発性条件では効果が劣る場合があるので注意すること。
- (5) みずかけなみに使用する場合、水掛け開始は薬剤処理後2ヵ月以降を厳守すること。
- (6) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。特に適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤食などのないように注意すること。
- (2) 本剤による中毒（痙攣）の治療法としては動物実験でメトカルバモール製剤の投与が有効であると報告されている。
- (3) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (4) 散布の際は防護マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法では、その該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号第 22478 号

## ネビリュウ®

特長： ●幅広いあぶらな科作物の根こぶ病に安定した効果を示します。  
●粉粒剤なので粉剤に比べて粉立ちが大幅に抑制されています。

ネビリュウは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	フルスルファミド・・・0.30%	包装	3kg×8 10kg×1
性状	黄色細粒及び微粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

\*普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害及び使用方法】

2022年2月9日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルスルファミドを含む農薬の総使用回数
キャベツ	根こぶ病	20～30kg/10a	は種又は定植前	2回以内	全面土壌混和	2回以内
		20kg/10a	定植前		作条土壌混和	
はくさい	根こぶ病	20～30kg/10a	は種又は定植前	1回	全面土壌混和	1回
		20kg/10a	定植前		作条土壌混和	
ブロッコリー	根こぶ病	20～30kg/10a	は種又は定植前	1回	全面土壌混和	1回
		20kg/10a			作条土壌混和	
カリフラワー	根こぶ病	20～30kg/10a	定植前	1回	全面土壌混和	1回
		20kg/10a			作条土壌混和	
かぶ	根こぶ病	30kg/10a	は種前	1回	全面土壌混和	1回
		20kg/10a			作条土壌混和	
非結球あぶらな科葉菜類 (チンゲンサイを除く)	根こぶ病	30kg/10a	は種前	1回	全面土壌混和	1回
		20kg/10a			作条土壌混和	
チンゲンサイ	根こぶ病	20～30kg/10a	は種前	1回	全面土壌混和	1回
		20kg/10a			作条土壌混和	

## 使用上の注意事項

- (1) 本剤の所定量を作条又は全面に散布し、土壌とよく混和した後、は種又は定植すること。
- (2) 本剤の作条土壌混和を行う際は、本剤の所定量を畦上全面に散布し、土壌中に均一に分布するようによく混和すること。
- (3) みずかけな使用する場合、水掛け開始は薬剤処理後2ヵ月以降を厳守すること。
- (4) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。とくに適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

**人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法**-----

- (1) 誤食などのないよう注意すること。
- (2) 本剤による中毒（痙攣）に対しては動物実験でメトカルバモール製剤の投与が有効であると報告されている。
- (3) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (4) 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨**-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨**-----

通常の使用方法ではその該当がない。

**貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 18788 号

## ハーモメイト®水溶剤

- 有効成分は炭酸水素ナトリウム（重曹）で古くから食品や医薬品等に利用されており、安全性の高い成分です。  
 ●JAS（日本農林規格）が定める有機農産物生産に使用することができます。

ハーモメイトは片倉工業株式の登録商標です。

有効成分	炭酸水素ナトリウム・・・80.0%	包装	250g×40 500g×20
性状	類白色水溶性粉末	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	炭酸水素ナトリウムを含む農薬の総使用回数
野菜類	灰色かび病 さび病	800倍	150～300L/10a	収穫前日まで	-	散布	-
	うどんこ病	800～1000倍					
ホップ	灰色かび病 うどんこ病	800倍	200～500L/10a	収穫前日まで	-	散布	-
ばら	うどんこ病 灰色かび病	800倍	150～300L/10a	収穫前日まで	-	散布	-

## 使用上の注意事項

- 薬剤は少量の水に溶かしてから所定量の水を加え、ゆるやかに攪拌すること。
- 散布液調製後は、長時間放置せずに散布すること。
- 本剤は、病害の発生初期より定期的な予防的散布をすること。多発生が予想される場合は効果が劣ることがあるので注意すること。
- 本剤を誤って高濃度で使用すると薬害を生じるおそれがあるので、所定の希釈倍数を厳守すること。
- 散布量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせて調節すること。
- にがうりに使用する場合、品種により薬害を生じるので注意すること。なお、えらぶ、か交5号、チャンピオン、久留米百成2号、吉田系の品種では薬害を生じた事例があるので使用をさけること。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。  
 眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。

- (2) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。  
付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (3) 散布の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。  
作業後は洗眼すること。

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨**-----

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。  
また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨**-----

通常の使用方法ではその該当がない。

**貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。  
なお、開封した薬剤は使いきることが望ましい。



登録番号 第 22543 号

## ファーストオリゼ®箱粒剤

● 「は種前（床土混和）」または「は種時」処理により水稻の主要病害であるいもち病、白葉枯病、もみ枯細菌病を防除できます。

● 「は種前（床土混和）」または「は種時」処理で長期間にわたって高い効果を示すので、省力的、経済的です。

ファーストオリゼは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	プロベナゾール（化管法第1種）・・・20.0%	包装	10 kg×1
性状	淡褐色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	いもち病	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	は種前	1回	育苗箱の床土に均一に混和する。	2回以内 (移植時までの処理は 1回以内)
	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	は種時 (覆土前)	1回	育苗箱の床土に均一に散布する。	

## 使用上の注意事項

- 使用量を合わせて秤量し、使いきること。
- 本剤を育苗床土に混和する場合には薬害を生じる場合があるので、下記の注意事項を遵守すること。
  - 山土、畑土などを使用する場合は、十分に乾燥させてから使用すること。
  - 粒剤を混和した床土は高温多湿での保管を避け、すみやかに使用すること。
  - 粒剤が破壊されるような過度の混和は避けること。
- 本剤処理後の低温で生育抑制を生じる恐れがあるので温度管理に注意し、適切な育苗につとめること。
- 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはいねいに行い、移植後に田面が露出したりしないよう水管理に注意すること。
- 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合は使用をさけること。
- 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合は使用をさけること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

**人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法**-----

- (1) 誤食などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (5) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触を避けること。
- (6) 夏期高温時の使用を避けること。

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨**-----

水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨**-----

通常の使用方法ではその該当がない。

**貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 24191 号

## フルーツガード<sup>®</sup>WDG

- 2種類の有効成分で幅広い病害に優れた効果を示す果樹用殺菌剤です。
- 特長： ●作用機構の異なった薬剤との混合剤で、耐性菌の発生を抑えます。
- 水和剤と比べて作物への汚れが少ない製剤です。

フルーツガードは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ペンチオピラド（化管法第1種）・・・7.5% キャプタン（化管法第1種）・・・70.0%	包装	500g×20
性状	淡褐色水和性細粒	有効年限	4年
毒性	普通物 <sup>※</sup>	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害及び使用方法】

2022年7月26日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	キャプタンを含む農薬の総使用回数	ペンチオピラドを含む農薬の総使用回数
なし	黒星病 輪紋病 炭疽病 うどんこ病 褐色斑点病 赤星病	1000倍	200～700 L/10a	収穫3日前 まで	3回以内	散布	9回以内	3回以内
りんご	灰色かび病 斑点落葉病 黒点病 褐斑病 炭疽病 輪紋病 うどんこ病 黒星病 モリア病 すす点病 すす斑病 赤星病	1000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	6回以内	3回以内
ぶどう	灰色かび病 褐斑病 晩腐病 黒とう病 さび病 べと病	800倍	200～700 L/10a	収穫30日 前まで	3回以内	散布	3回以内	3回以内
かき	うどんこ病 灰色かび病 落葉病 炭疽病 すす点病	1000倍	200～700 L/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	5回以内	3回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) ボルドー液、石灰硫黄合剤等のアルカリ性薬剤及びマシン油乳剤との混用はさけること。
- (3) 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、本剤の過度の連用はさけ、なるべく作用性の異なる薬剤との輪番で使用するこ
- (4) なしに使用する場合は、開花初めから落花後 20 日頃までの散布は新葉に葉害を生じるおそれがあるので使用をさけ、6 月中旬以降に使用すること。
- (5) ぶどうの幼果期（小豆大）以降の散布は、果粉が溶脱するおそれがあるので使用をさけること。
- (6) 雨よけ栽培のぶどうに使用する場合は、ビニール被覆の除去後に葉焼けを生じるおそれがあるので注意すること。
- (7) 高樹齢のかきに使用の際、樹勢が弱い場合には、葉脈の黒変と葉に赤黄化を伴う落葉を生じるおそれがあるので注意すること。
- (8) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (9) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (5) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- (6) 夏期高温時の使用をさけること。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使い切るこ

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

## 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 23006 号

## フルーツセイバー®

- モニリア病、うどんこ病、灰色かび病、黒星病など幅広い病害に優れた効果を示す果樹用殺菌剤です。
- 特長： ● 既存の薬剤耐性菌にも有効で、優れた予防効果があります。
- 収穫前日数の短さ、作物への薬害が少ないことから、多くの農業生産者から支持されています。

フルーツセイバーは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ペンチオピラド（化管法第1種）・・・15.0%	包装	334ml×20 250ml×20
性状	類白色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用病害及び使用方法】

2023年7月19日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ペンチオピラドを含む農薬の総使用回数
おうとう	灰星病 幼果菌核病 炭疽病 褐色せん孔病	1500倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
なし	黒星病 赤星病 うどんこ病	1500～3000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
	黒斑病	1500倍					
	褐色斑点病	1500～2000倍					
ぶどう	灰色かび病 黒とう病 晩腐病 さび病 うどんこ病 褐斑病	1500倍	200～700 L/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内
小粒核果類	灰星病 環紋葉枯病 すす斑病（うめ） すす点病（すもも）	1500倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
	黒星病	1500～2000倍					
もも	黒星病 灰星病 果実赤点病 うどんこ病	1500～2000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ペンチオピラドを含む農薬の総使用回数
初刈り	黒星病 灰星病 うどんこ病	1500～2000 倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
りんご	赤星病 うどんこ病 黒星病 モリア病 すす点病 すす斑病	1500～3000 倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	斑点落葉病 黒点病 褐斑病 灰色かび病	1500～2000 倍					
かんきつ	黒点病 灰色かび病 そうか病	1500～2000 倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
かき	うどんこ病 灰色かび病 落葉病 炭疽病 すす点病	1500～2000 倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
いちじく	さび病	1500 倍	200～700 L/10a	収穫前日ま で	3 回以内	散布	3 回以内

#### 使用上の注意事項

- (1) 使用前によく振ってから使用すること。
- (2) 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、本剤の過度の連用はさけ、なるべく作用性の異なる薬剤との輪番で使用すること。
- (3) ぶどうの幼果期（小豆大）以降の散布は、果粉が溶脱するおそれがあるので使用をさけること。
- (4) りんごに使用する場合は、開花期までの散布で果そう葉に褐変または黄変を伴う落葉を生じるおそれがあるので注意すること。
- (5) 空容器は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (6) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (7) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 23646 号

## ベジセイバー®

- 特長：
- 2種類の有効成分で幅広い病害に効果を発揮します。
  - 発病初期の病斑が以ていて見分けがつきにくい病害も同時防除が可能です。
  - 作用機構の異なった薬剤との混合剤で、耐性菌の発生を抑えます。
  - 作物への汚れが少ない製剤です。

ベジセイバーは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ペンチオピラド (化管法第1種)・・・6.4% クロロタロニル (化管法第1種)・・・40.0%	包装	500ml×20
性状	類白色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

2023年2月14日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ペンチオピラドを含む農薬の総使用回数	TPNを含む農薬の総使用回数
キャベツ	べと病 株腐病 菌核病	1000倍	100~300 L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	3回以内	3回以内 (は種又は定植前の土壌混和は1回以内、 散布、無人航空機散布 及びエアゾル剤の 噴射は合計2回以内)
		16倍	1.6L/10a			無人航空機による散布		
はくさい	黒斑病 白斑病 白さび病 べと病 菌核病	1000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	3回以内	3回以内 (は種又は定植前の土壌混和は1回以内、 散布は2回以内)
ブロッコリー	菌核病 べと病 黒すす病	1000倍	100~300 L/10a	出蕾前但し、 収穫21日前まで	2回以内	散布	3回以内	3回以内 (土壌灌注は1回以内、 散布及び無人航空機散布は合計2回以内)
		16倍	1.6L/10a			無人航空機による散布		
すいか	うどんこ病 つる枯病 炭疽病 菌核病	1000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内	5回以内
メロン	べと病 うどんこ病 つる枯病	1000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内	5回以内



作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ペンチオピラ ドを含む農薬 の総使用回数	TPN を含む農薬の 総使用回数
きゅうり	べと病 うどんこ病 灰色かび病 褐斑病 炭疽病 黒星病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	3 回以内	14 回以内 (土壌灌注は2回以内、 散布、常温煙霧、 くん煙及びエアゾル剤の 噴射は合計 12 回以内)
にがうり	うどんこ病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	3 回以内	4 回以内
かぼちゃ	うどんこ病 つる枯病 べと病 白斑病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内	3 回以内
		16 倍	1.6L/10a			無人航空 機による 散布		
トマト	疫病 うどんこ病 灰色かび病 葉かび病 すすかび病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	3 回以内	6 回以内 (土壌灌注は2回以内、 散布、常温煙霧、 くん煙及び エアゾル剤の噴射は 合計 4 回以内)
ミニトマト	疫病 うどんこ病 灰色かび病 葉かび病 すすかび病 斑点病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2 回 以内	散布	3 回以内	2 回以内
なす	うどんこ病 灰色かび病 すすかび病 菌核病 黒枯病 褐色斑点病 褐色円星病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	3 回以内	4 回以内
ピーマン	うどんこ病 灰色かび病 炭疽病 黒枯病 斑点病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	3 回以内	3 回以内
たまねぎ	べと病 灰色かび病 灰色腐敗病 小菌核病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	4 回 以内	散布	4 回以内	6 回以内
		16 倍	1.6L/10a			無人航空 機による 散布		

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ペンチオピラ ドを含む農薬 の総使用回数	TPN を含む農薬の 総使用回数
にんにく	さび病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	3 回以内	散布	4 回以内 (種球塗沫は 1 回以内、 散布は 3 回以内)	6 回以内
ねぎ	べと病 さび病 白絹病 葉枯病 黒斑病 小菌核腐敗 病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前 まで	2 回 以内	散布	4 回以内 (株元灌注は 2 回以内、散布 及び無人航空 機散布は合計 は 2 回以内)	4 回以内 (土壌灌注は 1 回以内、 散布及び無人航空機散 布は合計は 3 回以内)
	16 倍	1.6L/10a	無人航空 機による 散布					
レタス	べと病 菌核病 すそ枯病 灰色かび病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内	5 回以内 (土壌灌注は 2 回以内、 散布は 3 回以内)
リーフレタス	べと病 菌核病 すそ枯病 灰色かび病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 21 日前 まで	2 回 以内	散布	3 回以内	2 回以内
アスパラガス	茎枯病 斑点病 褐斑病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	4 回 以内	散布	4 回以内	4 回以内
きく	白さび病	1000 倍	100～300 L/10a	発病前 ～発病初期	3 回 以内	散布	3 回以内	6 回以内

#### 使用上の注意事項

- (1) 使用前によく振ってから使用すること。
- (2) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (3) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 散布は各散布機種 of 散布基準に従って実施すること。
  - 2) 散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 3) 散布中、薬液が漏れないように機体の散布用配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
  - 4) 散布薬液の飛散によって動植物及び自動車やカラートタンの塗装等へ影響を与えないよう散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
- (4) ストレプトマイシン剤およびホセチル剤と混用する場合、必ず本剤を先に所定の濃度に希釈してからそれぞれの剤を加えること。
- (5) 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、本剤の過度の連用はさけ、なるべく作用性の異なる薬剤との輪番で使用すること。
- (6) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (7) 空容器はほ場などに放置せず、適切に処理すること。
- (8) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して強い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 散布液調製時及び散布の際は保護眼鏡、農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (5) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (6) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- (7) 夏期高温時の使用をさけること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使い切ることを。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号第 22541 号

MIC ベフラン<sup>®</sup>液剤 25

- 特長：
- 多くの病原菌への抗菌作用と優れた予防効果があります。
  - 病原菌の細胞膜に作用します。胞子発芽・発芽管伸長・付着器形成・侵入菌糸形成などを阻止し、病原菌の活動を強力に阻害します。
  - 液体なので収穫物の汚れが少なく、種子消毒の作業性にも優れます。

ベフランは日本曹達(株)の登録商標です。

有効成分	イミノクタジン酢酸塩（化管法第1種）・・・25.0%	包装	500ml×20
その他化管法該当成分	ポリ（オキシエチレン）＝アルキルエーテル（アルキル基C=12～15及びその混合物）（化管法第1種）・・・5.0%		
性状	淡黄色澄明水溶性液体	有効年限	5年
毒性	劇物	危険物	－

## 【適用病害及び使用方法】

2020年6月18日現在付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミノクタジンを含む農薬の総使用回数
麦類 (小麦を除く)	雪腐大粒菌核病 紅色雪腐病	1000倍	60～150 L/10a	根雪前	2回以内	散布	3回以内 (種子への処理は 1回以内、 散布は2回以内、 出穂期以降は 1回以内)
	紅色雪腐病	10倍	乾燥種子 1kg当り 30～50mL	は種前	1回	塗沫処理	
		5倍	乾燥種子 1kg当り 15～25mL				
	紅色雪腐病 条斑病 斑葉病 網斑病 ふ枯病 なまぐさ黒穂病	原液	乾燥種子 1kg当り 3～5mL			種子吹き付け処理又は 塗沫処理	
	斑葉病	250～ 500倍	－			10～30分間 種子浸漬	
	なまぐさ黒穂病	1000～ 2000倍	－				

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	イミノクタジンを含む農薬の総使用回数
小麦	紅色雪腐病	250 倍	25L/10a	根雪前	3 回以内 (但し、出穂 期以降は 1 回以内)	散布	4 回以内 (種子への処理は 1 回以内、 散布及び無人航空機 散布は 合計 3 回以内、 出穂期以降は 1 回以内)
	雪腐大粒菌核病 紅色雪腐病	1000 倍	60～150 L/10a				
	うどんこ病 葉枯症						
	赤かび病	1000～ 2000 倍	は種前	1 回	塗沫処理		
	紅色雪腐病	10 倍				乾燥種子 1kg 当り 30～50mL	
		5 倍				乾燥種子 1kg 当り 15～25mL	
	紅色雪腐病 条斑病 ふ枯病 なまぐさ黒穂病	原液				乾燥種子 1kg 当り 3～5mL	
なまぐさ黒穂病	1000～ 2000 倍	-	10～30 分間 種子浸漬				
りんご	腐らん病	500～ 1000 倍	200～700 L/10a	休眠期	6 回以内 (但し、開 花期以降散 布は 3 回以 内)	散布	8 回以内 (液剤及び水和剤は 合計 6 回以内 (開花期以降は 3 回以内)、 塗布剤は 2 回以内)
	モリア病 腐らん病 黒星病 うどんこ病	1000 倍		展葉期			
	黒星病	1500 倍		収穫前日 まで			
	斑点落葉病 褐斑病 輪紋病 すす点病 すす斑病	1500～ 2000 倍					
	紫紋羽病	250 倍	-	苗木植付前	-	根部浸漬	
ぶどう	晩腐病	250～500 倍	200～700 L/10a	休眠期	1 回	散布	
	褐斑病 黒とう病 つる割病	250 倍		収穫 60 日前 まで	2 回以内		
	黒とう病 枝腫病	1000 倍					
なし	黒斑病	250 倍	200～700 L/10a	休眠期	1 回	散布	5 回以内 (塗布剤は 2 回以内、 液剤は 1 回以内)
	黒星病	1000 倍		収穫後 ～休眠期			
もも	縮葉病	250～ 500 倍	200～700 L/10a	休眠期	1 回	散布	3 回以内 (休眠期は 1 回以内)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	イミノクタジンを含む農薬の総使用回数
みかん	貯蔵病害(青かび病) 貯蔵病害(緑かび病)	2000～ 3000 倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	貯蔵病害(黒腐病) 貯蔵病害(白かび病) 貯蔵病害(すす斑病)	2000 倍					
かんきつ (みかん、ゆ ずを除く)	貯蔵病害(青かび病) 貯蔵病害(緑かび病)	2000～ 3000 倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
	貯蔵病害(黒腐病) 貯蔵病害(白かび病) 貯蔵病害(すす斑病)	2000 倍					
ゆず	貯蔵病害(青かび病) 貯蔵病害(緑かび病)	2000～ 3000 倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
	貯蔵病害(黒腐病) 貯蔵病害(白かび病) 貯蔵病害(すす斑病) 幹腐病	2000 倍					
マルメロ	腐らん病	1500 倍	200～700 L/10a	展葉期	4 回以内 (但し、開 花期以降散 布は3回以 内)	散布	4 回以内 (開花期以 降は3回以 内)
かりん	腐らん病	1500 倍	200～700 L/10a	展葉期	4 回以内 (但し、開 花期以降散 布は3回以 内)	散布	4 回以内 (開花期以 降は3回以 内)
アスパラガス	茎枯病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫終了後 (冬期まで)	5 回以内	散布	5 回以内
りんどう	花腐菌核病 葉枯病 黒斑病	1500 倍	100～700 L/10a	-	8 回以内	散布	8 回以内

#### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 本剤はイミノクタジンを含む農薬であるので、他のイミノクタジンを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲内で使用すること。
- (3) ボルドー液とは沈殿を生じるので混用しないこと。
- (4) 麦類の種子消毒の場合、吹き付け処理は、専用の種子消毒機を使用し、薬液が種子に均一に付着するようにすること。また、塗沫処理の場合は適当な容器内で種子をかき混ぜながら薬液を滴下するなどして、種子に均一に薬液を付着させること。
- (5) 本剤を小麦に対して希釈倍数 250 倍で使用する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤散布装置を用いて均一に散布すること。
- (6) りんごに使用する場合以下のことに注意する。
  - 1) 芽出し 2 週間すぎから落花後 40 日頃までは、さび果、花そうでの軽微な不整葉を生じることがあるので、この時期の散布はさけること。
  - 2) 展葉期に使用する場合、この時期の西洋なしには薬害を生じるおそれがあるので、近接している場合にはかからないように注意すること。

- 3) 紫紋羽病防除に使用する場合、苗木発芽後の処理では展葉を阻害する傾向があるので発芽後の処理はさけること。  
また、苗木根部に付着した土壌をできるだけ除去したのちに処理すること。
- (7) アスパラガスに使用する場合次のことに留意すること。
- 1) 若茎に薬液が付着すると茎が曲がることがあるので留意すること。なお、このことによる株養成への影響はみられていない。
  - 2) 夏期高温時の散布では針葉（擬葉）が白化することがあるので使用濃度を守り、朝夕に散布すること。
- (8) 日本なし、もも、うめ等の果樹、いね、きゅうり、あぶらな科作物、まめ類には、葉に薬害を生じることがあるのでかからないように注意して散布すること。
- (9) かんきつの施設栽培で果実の着色終了前に使用する場合、果実に着色むらを生じるおそれがあるので、降雨時等の極端な多湿条件下での散布はさけること。
- (10) ぶどう晩腐病（休眠期散布）の防除の際、500倍では効果が劣ることがあるので、多発が予想される場合には250倍で使用すること。また、ハウス栽培（特に加温ハウス栽培）では、果実に薬斑を生じるおそれがあるので散布はさけること。
- (11) 蚕に対して毒性があるので桑にはかからないように注意して散布すること。
- (12) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、農業改良普及センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (13) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、農業改良普及センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 医薬用外劇物。取扱いには十分注意すること。誤って飲みこんだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- (2) 本剤は眼に対して強い刺激性があるので、薬液調製時及び種子消毒の際には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 使用の際は保護眼鏡、防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣、ゴム長靴などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (5) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (6) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、鍵のかかるなるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 18821 号

## ベルコート®水和剤

- 多くの病害に対して優れた予防効果を示します。  
 特長： ●適用作物が多く、使いやすい薬剤です。  
 ●従来の薬剤と異なる作用性を有するため、各種薬剤耐性菌に対しても有効です。

ベルコートは日本曹達(株)の登録商標です。

有効成分	イミノクタジナルベシル酸塩(化管法第1種)・・・40.0%	包装	100g×100
その他化管法該当成分	ドデシル硫酸ナトリウム(化管法第1種)・・・3.0%		500g×20
性状	類白色水和性粉末 45μm以下	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害及び使用方法】

2022年10月26日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミノクタジンを含む農薬の総使用回数
りんご	黒星病 斑点落葉病	1000～2000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	6回以内 (但し、開花期以降散布 は3回以内)	散布	8回以内 (液剤及び水和剤は 合計6回以内 (開花期以降は 3回以内)、 塗布剤は2回以内)
	輪紋病 褐斑病 すす点病 すす斑病 黒点病	1000倍					
なし	黒斑病 黒星病 輪紋病 うどんこ病	1000～1500倍	200～700 L/10a	収穫14日前 まで	5回以内	散布	5回以内 (塗布剤は2回以内、 液剤は1回以内)
もも	黒星病	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内 (休眠期は1回以内)
	灰星病 ホトブシ腐敗病 うどんこ病 すすかび病 果実赤点病	1000～2000倍					
おうとう	灰星病	1000倍	200～700 L/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内
みかん	灰色かび病	1000～2000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
	そうか病	1000倍					
かんきつ (みかんを 除く)	灰色かび病	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	2回以内	散布	2回以内



作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミノクタジンを含む農薬の総使用回数
かき	炭疽病 落葉病 うどんこ病 灰色かび病 すす点病 黒星病	1000～1500倍	200～700 L/10a	収穫14日前 まで	3回以内	散布	3回以内
キウイフルーツ	果実軟腐病 灰色かび病 貯蔵病害 (灰色かび病)	1000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	5回以内	散布	5回以内
小粒核果 類 (うめ、す ももを除 く)	黒星病 灰星病 灰色かび病 環紋葉枯病 すす斑病	2000倍	200～700 L/10a	収穫30日前 まで	3回以内	散布	3回以内
うめ	黒星病 灰星病 灰色かび病 環紋葉枯病 すす斑病 枝枯病	2000倍	200～700 L/10a	収穫30日前 まで	3回以内	散布	3回以内
びわ	灰斑病 灰色かび病	1000倍	200～700 L/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内
すもも	灰星病	1000～2000倍	200～700 L/10a	収穫3日前 まで	3回以内	散布	3回以内
マンゴー	炭疽病	1000倍	200～700 L/10a	収穫14日前 まで	2回以内	散布	2回以内
あけび (果実)	うどんこ病	3000倍	200～700 L/10a	収穫14日前 まで	2回以内	散布	2回以内
すいか	うどんこ病 つる枯病 菌核病 炭疽病	1000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	4回以内	散布	4回以内
メロン	うどんこ病 つる枯病	1000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	5回以内	散布	5回以内
かぼちゃ	うどんこ病	1000～2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	4回以内	散布	4回以内
ズッキーニ	うどんこ病	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	7回以内	散布	7回以内
きゅうり	褐斑病	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	7回以内	散布	7回以内
	うどんこ病 灰色かび病 炭疽病	2000～4000倍					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミノクタジンを含む農薬の総使用回数	
うり類 (漬物用)	うどんこ病 つる枯病 炭疽病	2000～4000 倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	5回以内	散布	5回以内	
なす	すすかび病 灰色かび病 うどんこ病	3000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内	
アスパラガス	茎枯病 斑点病 褐斑病	1000 倍	100～500 L/10a	収穫7日前 まで	5回以内	散布	5回以内	
たまねぎ	灰色かび病 灰色腐敗病 小菌核病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	5回以内	散布	5回以内	
ねぎ	葉枯病 さび病 黒斑病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫30日前 まで	3回以内	散布	3回以内	
にんにく	葉枯病	1000～1500 倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	3回以内	散布	3回以内	
にんじん	菌核病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫14日前 まで	5回以内	散布	5回以内 (種子粉衣は1回以内、 無人航空機散布は 2回以内)	
	黒葉枯病	500～1000 倍						
		-	乾燥種子 重量の0. 5%	は種前	1回	種子粉衣		
トマト	葉かび病 灰色かび病	3000～6000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布		3回以内
ミニトマト	葉かび病 灰色かび病	6000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2回以内	散布		2回以内
レタス	灰色かび病 菌核病	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫14日前 まで	3回以内	散布	3回以内	
キャベツ	菌核病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫14日前 まで	3回以内	散布	3回以内	
いちご	炭疽病 うどんこ病	1000 倍	100～300 L/10a	育苗期 (定植前)	5回以内	散布	10回以内 (育苗期は5回以内、 本圃では5回以内)	
	うどんこ病	4000 倍		収穫前日 まで(生育期)				
豆類 (種実、た だし、だい ずを除く)	うどんこ病 炭疽病 褐斑病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布		3回以内
やまのい も	葉渋病	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	5回以内	散布		5回以内 (種いもへの処理は 1回以内、 無人航空機散布は 3回以内)
	青かび病	-	種いも 重量の1%	植付前	1回	種いも 粉衣		

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミノクタジンを含む農薬の総使用回数
ばれいしょ	夏疫病	500 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	5 回以内	散布	5 回以内
茶	炭疽病 輪斑病 新梢枯死症 (輪斑病菌による)	1000 倍	200～400 L/10a	摘採 7 日 前まで	2 回以内	散布	2 回以内
たばこ	赤星病 うどんこ病 灰色かび病	1000～2000 倍	100～180 L/10a	収穫 10 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
樹木類	炭疽病	1000 倍	200～700 L/10a	発病初期	3 回以内	散布	3 回以内

### 使用上の注意事項

- (1) 本剤はイミノクタジンを含む農薬であるので、他のイミノクタジンを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲内で使用すること。
- (2) 水溶性フィルム包装の場合、内袋はぬれた手で触れないこと。内袋はそのまま所定量の水に投入すること。外袋の開封後は使い切ることが望ましい。やむを得ず保管する場合には、できるだけ速やかに使い切ること。
- (3) りんごに使用する場合、芽出し 2 週間すぎから落花後 25 日ごろまではさび果を生じるおそれがあるので、この時期の散布はさけること。
- (4) なしに使用する場合、西洋なし品種レ レクチュエはさび果を生じるので使用しないこと。
- (5) ももに使用する場合、缶桃 14 号等の缶詰用品種では葉に葉斑を生じるので使用しないこと。
- (6) 本剤をおうとうに使用する場合は、着色始期から中期の散布では薬害（着色障害）が生じるおそれがあるので使用しないこと。
- (7) かきに使用する場合、西村早生では葉に葉斑を生じるので使用しないこと。
- (8) メロンに使用する場合、交配 2～3 日前から交配 2 週間後までの幼果の時期には、薬害を生じるおそれがあるので、この時期の散布はさけること。また、若葉への散布や高温時の散布では、薬害を生じることがあるので注意すること。
- (9) キャベツに使用する場合、浸透性を高める効果のある一部の展着剤を混用すると薬害を生じる場合があるので、展着剤混用にあたっては事前にその適否を確認すること。
- (10) ばらに対して薬害を生じるので、かからないように注意して散布すること。
- (11) 蚕に対して毒性があるので、桑にかからないように注意して散布すること。
- (12) 散布量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節すること。
- (13) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (14) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (15) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤飲、誤食などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 薬液調製時及び使用の際は保護眼鏡、農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (5) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (6) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

- (7) 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨**-----

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。  
(2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。  
また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨**-----

通常の使用方法ではその該当がない。

**貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。水溶性包装の場合、吸湿性があるので、湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を固く閉じて保管すること。

登録番号 第 19884 号

## ベルコート®フロアブル

- 特長：
- 多くの病害に対して優れた予防効果を示します。
  - 病原菌の細胞膜に作用し、孢子発芽・発芽管伸長・付着器形成・侵入菌糸形成などを阻止することで病原菌の活動を強力に阻害します。
  - フロアブル剤のため粉立ちも少なく、薬剤の計量が簡単です。また作物の汚れも軽減されています。

ベルコートは日本曹達(株)の登録商標です。

有効成分	イミノクタジンアルベシル酸塩（化管法第1種）・・・30.0%	包装	500ml×20
その他化管法該当成分	1-ドデカノール（化管法第1種）・・・3.7%		
性状	白色水性和性粘稠懸濁液体	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害及び使用方法】

2022年10月26日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミノクタジンを含む農薬の総使用回数
りんご	斑点落葉病 黒星病 輪紋病 褐斑病 すす点病 すす斑病	1000～1500倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	6回以内 (但し、開花期以降散布は3回以内)	散布	8回以内 (液剤及び水和剤は合計6回以内 (開花期以降は3回以内)、 塗布剤は2回以内)
	黒点病	1000倍					
なし	黒斑病 黒星病 輪紋病 うどんこ病	1500倍	200～700 L/10a	収穫14日前 まで	5回以内	散布	5回以内 (塗布剤は2回以内、 液剤は1回以内)
すもも	灰星病	2000倍	200～700 L/10a	収穫3日前 まで	3回以内	散布	3回以内
うめ	黒星病 灰色かび病 すす斑病	2000倍	200～700 L/10a	収穫30日前 まで	3回以内	散布	3回以内
小粒核果類 (うめ、すももを除く)	灰星病	2000倍	200～700 L/10a	収穫30日前 まで	3回以内	散布	3回以内
おうとう	灰星病	1000～2000倍	200～700 L/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内
もも	灰星病 ホヱシ腐敗病 黒星病	1000～2000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内 (休眠期は1回以内)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミノクタジンを含む農薬の総使用回数
ネクリン	灰星病 ホブシ腐敗病 黒星病	1500～2000 倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
みかん	そうか病 貯蔵病害 (軸腐病)	1000 倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	灰色かび病 貯蔵病害 (青かび病) 貯蔵病害 (緑かび病) 貯蔵病害 (黒腐病)	1000～2000 倍					
	灰色かび病	10 倍	4L/10a	収穫 3 日前 まで		無人航空機 による散布	
		20 倍	8L/10a				
	貯蔵病害 (青かび病) 貯蔵病害 (緑かび病)	10 倍	5L/10a				
20 倍		10L/10a					
かんきつ(み かんを除く)	そうか病 貯蔵病害 (軸腐病) 幹腐病	1000 倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
	灰色かび病 貯蔵病害 (青かび病) 貯蔵病害 (緑かび病) 貯蔵病害 (黒腐病)	1000～2000 倍					
くり	実炭疽病	1000 倍	200～700 L/10a	収穫 14 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
キャベツ	菌核病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 28 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
にんじん	黒葉枯病 うどんこ病 斑点病 菌核病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前 まで	5 回以内	散布	5 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、 無人航空機散布は 2 回以内)
	斑点病	8 倍	2L/10a		2 回以内	無人航空機 による散布	
らっきょう	灰色かび病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	5 回以内	散布	5 回以内
たまねぎ	灰色かび病 灰色腐敗病 小菌核病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	5 回以内	散布	5 回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミノクタジンを含む農薬の総使用回数
メロン	うどんこ病 菌核病 つる枯病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	5 回以内	散布	5 回以内
すいか	炭疽病 うどんこ病 菌核病 つる枯病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	4 回以内	散布	4 回以内
かぼちゃ	うどんこ病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	4 回以内	散布	4 回以内
きゅうり	灰色かび病 うどんこ病 褐斑病 炭疽病 菌核病 黒星病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	7 回以内	散布	7 回以内
にがうり	うどんこ病	4000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
なす	灰色かび病 うどんこ病 すすかび病 黒枯病 褐紋病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
トマト	灰色かび病 葉かび病 うどんこ病 すすかび病	2000～4000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
ミニトマト	灰色かび病 葉かび病 うどんこ病 すすかび病 斑点病	4000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
いちご	炭疽病 うどんこ病 輪斑病	1000 倍	100～300 L/10a	育苗期 (定植前)	5 回以内	散布	10 回以内 (育苗期は 5 回以内、本圃では 5 回以内)
	うどんこ病	2000～4000 倍		収穫前日 まで (生育期)			
	灰色かび病 炭疽病 黒斑病	2000 倍					
アスパラガス	褐斑病 斑点病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫開始 7 日前まで	5 回以内	散布	5 回以内
	斑点病	8 倍	1.6L/10a			無人航空機 による散布	
やまのいも (むかご)	青かび病	200 倍	-	植付前	1 回	1～10 分間 種いも浸漬	1 回

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミノクタジンを含む農薬の総使用回数
やまのいも	炭疽病 葉渋病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	5 回以内	散布	5 回以内 (種いもへの処理は 1 回以内、 無人航空機散布は 3 回以内)
	葉渋病	12 倍	3L/10a		3 回以内	無人航空機 による散布	
	青かび病	200 倍	-	植付前	1 回	1～10 分間 種いも浸漬	
茶	炭疽病 新梢枯死症 輪斑病	1500～2000 倍	200～400 L/10a	摘採 7 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
アリス	青かび病	100 倍	-	植付前	1 回	10 分間球根 浸漬	8 回以内
		200 倍				30 分間球根 浸漬	
チュリップ	褐色斑点病	1000 倍	100～300 L/10a	発生初期	8 回以内	散布	8 回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミノクタジンを含む農薬の総使用回数
きゅうり	温室、 ガラス室、 ビニールハウス 等密閉で きる場所	灰色かび病 うどんこ病 褐斑病 炭疽病 菌核病 黒星病	150ml/10a	10L/10a	収穫前日 まで	7 回以内	常温煙霧	7 回以内
なす	温室、 ガラス室、 ビニールハウス 等密閉で きる場所	灰色かび病 うどんこ病 すすかび病 黒枯病 褐紋病	150ml/10a	10L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	常温煙霧	3 回以内

#### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 本剤はイミノクタジンを含む農薬であるので、他のイミノクタジンを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲で使用する。
- (3) 5℃以下では増粘あるいは固化により、容器から取り出しにくくなるがあるので、50℃以上の湯に容器の肩まで浸し、1時間以上経過した後、室温まで放置し、よく振ってから使用すること。
- (4) 本剤をおうとうに使用する場合、着色期の散布では葉害（着色障害）が生じるおそれがあるので使用しないこと。
- (5) りんごの落花直後から落花後 25 日ごろまではさび果を生じるおそれがあるので、かからないように注意すること。
- (6) 西洋なしの品種レ レクチエではさび果を生じるので使用しないこと。
- (7) 缶桃 14 号等の缶詰用品種のももでは葉に葉斑を生じるので、かからないように注意すること。
- (8) かきの品種西村早生では葉に葉斑を生じるおそれがあるので、かからないように注意すること。
- (9) 幼果期のメロン、ばらに対して葉害を生じるおそれがあるので、かからないように注意すること。
- (10) キャベツに使用する場合、浸透性を高める効果のある一部の展着剤を混用すると葉害を生じる場合があるので、展着剤混用にあたっては事前にその適否を確認すること。



- (11) やまのいも（むかご）に使用する場合、種いも（やまのいも）を浸漬処理すること。
- (12) 本剤をチューリップに使用する場合、花卉に葉害が生じるおそれがあるので、出蕾期以前に使用すること。
- (13) 蚕に対して毒性があるので、桑にかからないように注意すること。
- (14) 散布量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節すること。
- (15) 無人航空機による散布を行う場合には、次の注意事項を遵守すること。
  - 1) 散布機種 of 散布基準に従って行うこと。
  - 2) 散布機種に適合した散布置置を使用すること。
  - 3) 散布中に薬液の漏洩がないよう、事前に機体の散布配管その他散布置置の十分な点検を行うこと。
  - 4) 散布薬剤の飛散によって他の動植物等に影響を与えないよう、散布区域の選定に注意するとともに、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
- (16) 常温煙霧処理する場合には、次の事項に注意すること。
  - 1) 専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧すること。特に常温煙霧装置の選定及び使用に当たっては病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
  - 2) 作業はできるだけ夕刻行い、作業終了後6時間以上密閉すること。
- (17) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (18) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 薬液調製時及び使用の際は保護眼鏡、農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (5) 常温煙霧中はハウス内に入らないこと。また、常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入出すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（甲殻類、藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当が無い。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

## MIC ペンコゼブ®水和剤

- 特長：
- 適用作物が多く、多くの病害に優れた予防効果を示します。
  - かんきつのサビダニをはじめチャノキイロアザミウマにも有効です。

ペンコゼブはセレクサグリ・ビー・ヴィの登録商標です。

有効成分	マンゼブ（化管法第1種）・・・80.0%	包装	500g×20
その他化管法該当成分	ヘキサメチレンテトラミン（化管法第1種）・・・1.8%		1kg×20
性状	淡黄色水和性粉末 45μm以下	有効年限	5年（10kg袋：3年）、
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害及び使用方法】

2023年2月8日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	マンゼブを含む 農薬の総使用回数
みかん	黒点病	400～800倍	200～700 L/10a	収穫30日前 まで	4回以内	散布	4回以内
	小黒点病	600～800倍					
	そうか病	400倍					
	チャノキイロアザミウマ そばかす病 褐色腐敗病	400～600倍					
	ミカンサビダニ	1000倍					
	炭疽病	600倍					
かんきつ(みかんを除く)	チャノキイロアザミウマ 炭疽病 褐色腐敗病 そばかす病 汚れ果症	600倍	200～700 L/10a	収穫90日前 まで	4回以内	散布	4回以内
	黒点病 小黒点病	600～800倍					
	ミカンサビダニ	1000倍					
かき	炭疽病 落葉病	400～800倍	200～700 L/10a	収穫45日前 まで	2回以内	散布	2回以内
	うどんこ病	400倍					
なし	黒星病 赤星病	400～600倍	200～700 L/10a	収穫30日前 まで	5回以内	散布	5回以内
	黒斑病 輪紋病	600倍					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	マンゼブを含む 農薬の総使用回数
りんご	黒星病 赤星病 黒点病 斑点落葉病 褐斑病 炭疽病 すす点病 すす斑病	500～600 倍	200～700 L/10a	収穫 30 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	輪紋病	500 倍					
もも	黒星病 果実赤点病 せん孔細菌病	600 倍	200～700 L/10a	収穫 21 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
ぶどう	黒とう病 べと病 晩腐病 褐斑病 さび病	1000 倍	200～700 L/10a	収穫 45 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
おうとう	灰星病	600 倍	200～700 L/10a	収穫 21 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
柿	炭疽病	600 倍	200～700 L/10a	収穫 90 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
びわ	たてぼや病	600 倍	200～700 L/10a	落弁期 まで	2 回以内	散布	2 回以内
マンゴー	炭疽病	800 倍	200～700 L/10a	収穫 45 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
すいか	炭疽病 つる枯病	400～600 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	7 回以内	散布	7 回以内
	褐色腐敗病	600 倍					
メロン	つる枯病 べと病	400～600 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	5 回以内	散布	5 回以内
きゅうり	炭疽病 褐斑病 黒星病	600 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	べと病	600～800 倍					
キャベツ	べと病	400～600 倍	100～300 L/10a	収穫 30 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
はくさい	べと病 黒斑病 白斑病	600 倍	100～300 L/10a	収穫 30 日前 まで	1 回	散布	1 回
ねぎ	べと病 黒斑病 さび病	600 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	マンゼブを含む農薬の総使用回数
たまねぎ	べと病 黒斑病 灰色かび病	400～600 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前 まで	5 回以内	散布	5 回以内
ばれいしょ	夏疫病 疫病	400～600 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	10 回以内	散布	10 回以内 (無人航空機散布は 3 回以内)
	疫病	100 倍	25L/10a				
さといも	疫病	500 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
てんさい	褐斑病	400～600 倍	100～300 L/10a	収穫 21 日前 まで	5 回以内	散布	5 回以内
		125 倍	25L/10a				
だいず	べと病 紫斑病	400 倍	100～300 L/10a	収穫 45 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
にんにく	葉枯病	400～600 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	5 回以内	散布	5 回以内
さんしょう (果実)	さび病	600 倍	200～700 L/10a	最終収穫後か ら落葉期まで	3 回以内	散布	3 回以内
いちご	炭疽病	600 倍	100～300 L/10a	仮植栽培期 但し収穫 76 日前まで	6 回以内	散布	6 回以内
アスパカス(露 地栽培)	褐斑病	600 倍	100～300 L/10a	収穫終了後 但し、 秋期まで	6 回以内	散布	6 回以内
	斑点病 茎枯病	500 倍					
かぼちゃ	べと病 疫病	600 倍	100～300 L/10a	収穫 21 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
やまのいも	炭疽病 葉疫病	400～600 倍	100～300 L/10a	収穫 21 日前 まで	4 回以内	散布	4 回以内
トマト	疫病 葉かび病	800 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
樹木類	炭疽病 斑点症(シュートサ コスボ <sup>®</sup> 菌)	600 倍	200～700 L/10a	発病初期	4 回以内	散布	4 回以内
	枝枯細菌病			新梢伸長期 ～発病初期			

#### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) てんさいに対して希釈倍数 125 倍、ばれいしょに対して希釈倍数 100 倍で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤散布装置を使用すること。

- (3) 水溶性内袋入りの製剤を使用する場合には、次の事項に注意すること。
  - 1) 内袋は、ぬれた手で触れないこと。
  - 2) 外袋の開封後は一度に使いきることが望ましい。やむを得ず保管する場合でも、できるだけ速やかに使いきること。
  - 3) 薬液の調製は容器内に所定量の水の3分の1を入れた後、必要量の内袋を開封せずにそのまま容器内に投入すること。その後、よく攪拌しながら容器内に水を定量まで加えること。
- (4) 石灰硫黄合剤、ボルドー液との混用はさけること。
- (5) マンゴーに使用する場合、果実に汚れを生じるおそれがあるので着色期以降の散布はさけること。
- (6) おうとうに使用する場合、果実肥大期以降の散布は果実に汚れを生じるおそれがあるので注意すること。
- (7) ボルドー液との7日以内の近接散布は薬害を生じるおそれがあるのでさけること。
- (8) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (9) 極端な高温多湿条件下では、軟弱幼苗に薬害のでるおそれがあるので注意すること。
- (10) 散布量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせて調節すること。
- (11) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (5) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- (6) 夏期高温時の使用をさけること。
- (7) 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

- (1) 高温下及び湿気を吸うと分解して効力が低下するので、直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。
- (2) 水溶性フィルムで包装した製剤は、吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を堅く閉じて保管すること。

登録番号 第 22435 号

## MIC ペンコゼブ®フロアブル

特長： ●多くの病害に対して優れた予防効果を示します。  
●薬液調製時に粉立ちがなく、散布後の果面の汚れが目立ちません。

ペンコゼブはセレクサグリ・ビー・ヴィの登録商標です。

有効成分	マンゼブ (化管法第1種)・・・28.0%	包装	500ml×20
その他化管法該当成分	ヘキサメチレンテトラミン (化管法第1種)・・・1.2%		
性状	黄色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害及び使用方法】

2020年12月9日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	マンゼブを含む 農薬の総使用回数
ぶどう	べと病 黒とう病 晩腐病 褐斑病	1000倍	200～700 L/10a	収穫45日前 まで	2回以内	散布	2回以内
うめ	黒星病 かみよう病 すす斑病	1000倍	200～700 L/10a	収穫21日前 まで	3回以内	散布	3回以内
きゅうり	べと病 炭疽病	500～1000倍	150～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
	褐斑病	500倍					
トマト	疫病 葉かび病 輪紋病 すすかび病	1000倍	150～300 L/10a	収穫前日 まで	2回以内	散布	2回以内
ミニトマト	疫病 葉かび病 輪紋病 すすかび病	1000倍	150～300 L/10a	収穫前日 まで	2回以内	散布	2回以内
メロン	べと病	500～600倍	150～300 L/10a	収穫7日前 まで	5回以内	散布	5回以内
	つる枯病	500倍					
すいか	つる枯病 炭疽病	600倍	150～300 L/10a	収穫7日前 まで	7回以内	散布	7回以内
キャベツ	べと病	500～600倍	150～300 L/10a	収穫30日前 まで	3回以内	散布	3回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	マンゼブを含む農薬の総使用回数
ねぎ	黒斑病 さび病 べと病	500～600 倍	150～300 L/10a	収穫 14 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
さやえんどう	褐紋病 褐斑病	500 倍	100～300 L/10a	収穫開始 30 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
実えんどう	褐紋病 褐斑病	500 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
きく	白さび病	800 倍	100～300 L/10a	発病前 ～発病初期	8 回以内	散布	8 回以内

#### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 薬液調製時にはボトルを良く振ること。
- (3) 石灰硫黄合剤、ボルドー液との混用はさけること。
- (4) ボルドー液との7日以内の近接散布は薬害を生じるおそれがあるのでさけること。
- (5) 極端な高温多湿条件下では、軟弱幼苗に薬害のおそれがあるので注意すること。
- (6) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (7) 散布量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせて調節すること。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- (5) 夏期高温時の使用をさけること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使い切ること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 24707 号

## MIC マテリーナ®水和剤

特長： ●オキシリニック酸とストレプトマイシン、2つの有効成分の働きにより難防除病害といわれる軟腐病に優れた効果を示します。

マテリーナは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	オキシリニック酸・・・10.0% ストレプトマイシン硫酸塩・・・12.5% (ストレプトマイシンとして・・・10.0%)	包装	500g×20
その他化管法該当成分	ポリ(オキシエチレン)ニルフェニルエーテル(化管法1種)・・・1.5%		
性状	類白色水和性粉末	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	オキシリニック酸を含む農薬の総使用回数	ストレプトマイシンを含む農薬の総使用回数
だいこん	軟腐病	1000倍	100~300 L/10a	収穫30日前まで	2回以内	散布	5回以内	2回以内
はくさい	軟腐病	1000倍	100~300 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内	3回以内
たまねぎ	軟腐病	1000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内	5回以内
こんにゃく	腐敗病	1000倍	100~300 L/10a	収穫30日前まで	5回以内	散布	6回以内 (種いもへの吹き付けは1回以内、植付後は5回以内)	6回以内 (種いもへの処理は1回以内)
ばれいしょ	軟腐病	1000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	5回以内(種いも浸漬は1回以内)	5回以内 (種いもへの処理は1回以内)
ほおずき	斑点細菌病	1000倍	100~300 L/10a	-	4回以内	散布	4回以内	4回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬剤を調製し、使いきること。
- (2) ボルドー液及び石灰、タルク、ベントナイトなどの吸着性増量剤を含有する薬剤との混用はさけること。
- (3) はくさいに使用する場合、幼苗期、高温時には薬害(クロロシス)を生じるおそれがあるので注意すること。
- (4) だいこんに使用する場合、高温時には薬害(クロロシス)を生じるおそれがあるので注意すること。
- (5) 本剤の連続使用によって薬剤耐性菌が出現し、効果の劣った事例があるので、過度の連用をさけ、なるべく作用性のことなる薬剤と組合わせて輪番で使用すること。



- (6) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法  
農薬使用者に係る注意事項

- ① 誤飲、誤食などのないように注意すること。

誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。

本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。

- ② 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。

眼に入った場合には直ちに水洗すること。

- ③ 散布の際は防護マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。

また散布液を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。

- (2) 使用に際して講ずべき被害防止方法  
該当なし

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

使用残りの薬液が生じないように調整を行い、使い切ること。

散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 21782 号

## モンガリット®1 キロ粒剤

- 特長：
- 紋枯病と稲こうじ病を同時防除できます。
  - 根からすばやく吸収され、速効性に優れます。
  - 使用適期は出穂2～3週間前です。

モンガリットは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	シメコナゾール・・・4.5%	包装	1kg×12
性状	類白色細粒	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害及び使用方法】

2020年8月26日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シメコナゾールを含む農薬の総使用回数
稲	紋枯病 稲こうじ病	1～1.3kg/10a	収穫45日前まで	2回以内	湛水散布	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)
	墨黒穂病	1kg/10a			無人航空機による散布	
	紋枯病 稲こうじ病 墨黒穂病					

## 使用上の注意事項

- 散布に当たっては、湛水状態（水深3cm程度）で重複をさけ均一に散布し、散布後は少なくとも3～4日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。なお漏水の激しい水田では使用をさけること。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 散布は散布機種種の散布基準に従って実施すること。
  - 散布に当たっては散布機種種に適合した散布装置を使用すること。
  - 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整し、飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m離れた位置から圃場内に散布すること。
  - できるだけ風の弱い時間に散布を行うこと。
  - 散布薬剤の飛散によって他の動植物等への影響を与えないよう散布区域の選定に注意するとともに、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
  - 薬剤が水源地、飲料用水、養殖池、養魚田などに飛散、流入しないように十分注意すること。
  - 使用後の機体散布装置は十分洗浄し、タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。使用残りの薬剤は必ず安全な場所に責任者を決めて保管すること。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受ける事が望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

散布の際は防護マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----  
この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----  
通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----  
直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 20979 号

## モンガリット®粒剤

- 特長：
- 稲の紋枯病・疑似紋枯症・稲こうじ病・墨黒穂病・穂枯れ、ねぎの黒腐菌核病・小菌核腐敗病・黒穂病・白絹病などに有効です。
  - 根からすばやく吸収され速効性に優れます。
  - 稲での使用適期は出穂2～3週間前です。

モンガリットは三井化学アグロ(株)の登録商標です。

有効成分	シメコナゾール・・・1.5%	包装	3kg×8
性状	類白色細粒	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害及び使用方法】

2022年11月9日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シメコナゾールを含む農薬の総使用回数
稲	紋枯病 疑似紋枯症(褐色紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色菌核病菌) 疑似紋枯症(灰色菌核病菌) 疑似紋枯症(褐色菌核病菌) 稲こうじ病 墨黒穂病	3～4 kg/10a	収穫45日前 まで	2回 以内	湛水散布	2回以内 (移植時までの 処理は1回以内)
	穂枯れ(ごま葉枯病菌) 穂枯れ(すじ葉枯病菌)	4kg/10a				
未成熟とうも ろこし	紋枯病	6kg/10a	収穫7日前 まで	2回 以内	株元散布	2回以内
レタス	すそ枯病	9～12 kg/10a	定植前	1回	全面土壌混和	1回
	ビクバイン病	12kg/10a				
非結球レタス	すそ枯病	9～12 kg/10a	定植前	1回	全面土壌混和	1回
キャベツ	株腐病	6kg/10a	定植前	1回	全面土壌混和	1回
にら	白絹病	6kg/10a	定植前	1回	作条土壌混和	1回
ねぎ	黒腐菌核病	6kg/10a	生育期 但し、 収穫14日前まで	3回 以内	株元散布	3回以内 (は種時は1回以内)
	小菌核腐敗病	4～6 kg/10a				
	白絹病 小菌核病		は種時	1回	土壌表面散布	
	黒穂病					

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シメコナゾールを含む農薬の総使用回数
ほうれんそう	苗立枯病(リゾクトニア菌)	4~6 kg/10a	は種時	1回	播溝土壌混和	1回
ごぼう	黒あざ病	9~18 kg/10a	は種時	1回	播溝土壌混和	1回
にんにく	黒腐菌核病	18kg/10a	植付前	1回	全面土壌混和	6回以内 (植付前は1回以内、 植付後の株元散布は 2回以内、 散布は3回以内)
	白絹病	6kg/10a	土寄せ時 但し、収穫 75日前まで (茎葉展開期)	2回 以内	株元散布	
こんにゃく	白絹病	4~6 kg/10a	培土時 但し、収穫 120日前まで	3回 以内	株元散布 (散布後土寄せ)	3回以内
とりかぶと (薬用)	白絹病	9kg/10a	培土時	3回 以内	株元散布 (散布後土寄せ)	3回以内

#### 使用上の注意事項

- (1) 稲に使用する場合、散布に当たっては、湛水状態（水深3cm程度）で重複をさけ均一に散布し、散布後は少なくとも3~4日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。なお漏水の激しい水田では使用をさけること。
- (2) ねぎの定植後に使用する場合、冬季に定植する作型では生育が抑制されるおそれがあるので使用をさけること。
- (3) ねぎ及びにんにくの白絹病に使用する場合、土寄せ前~土寄せ後に本剤を株元散布すること。
- (4) 本剤が不均一に混和された場合、薬害（生育抑制）を生じるおそれがあるので、十分に混和すること。
- (5) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 使用の際は防護マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法ではその該当がない。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 16137 号

## モンセレン®フロアブル

- 既存の紋枯病防除剤とは異なる作用機構（FRACコード20）の尿素系の接触型殺菌剤です。  
 ●紋枯病に対し、優れた菌糸侵入阻止力、病斑の上位・水平進展阻止力があります。  
 特長： ●残効が長く耐雨性にも優れるので防除適期幅が広く、地上散布だけでなく無人航空機散布でも安定した効果が期待できます。  
 ●蚕およびミツバチに対する影響が小さい薬剤です。

モンセレンはゴーワン クロップ プロテクション社の登録商標です。

有効成分	ペンシクロン：20.0%	包装	500ml×20
性状	白色水性和性粘稠懸濁液体	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

\*普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2020年1月1日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ペンシクロンを含む農薬の総使用回数
稲	紋枯病	1500倍	-	収穫 21日前まで	4回以内	散布	4回以内
		500倍	25L/10a				
		30~40倍	3L/10a			空中散布	
		原液	100~120 mL/10a				
		8~10倍	0.8L/10a				

## 使用上の注意事項

- 使用前によく振ってから使用すること。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- 本剤を本田の水稻に対して希釈倍数 500 倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用すること。
- 本剤を空中散布及び無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は次の注意事項を守ること。
  - 散布は散布機種別の散布基準に従って実施すること。
  - 無人ヘリコプターによる散布にあつては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
  - 散布薬液の飛散によって動植物の被害や自動車の塗装等に被害を与えるおそれがあるなど、各分野に影響があるので、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
  - 水源池、飲料用水等に本剤が飛散・流入しないように十分注意すること。
  - 散布終了後は次の項目を守ること。
    - ① 使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄すること。
    - ② 機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

通常の使用方法ではその該当がない。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 9795 号

## 三井東圧クロールピクリン

- 特長：
- 土壌中の病原菌、害虫、センチュウ類、一年生雑草を同時に防除します。
  - 土壌中でガス化して、圃場のすみずみまで行き渡ります。
  - 被覆を必ずしてください。環境安全性と防除効果が高まります。
  - 高濃度クロールピクリンです。

有効成分	クロールピクリン（化管法第1種）・・・99.5%	包装	16.5kg×1
性状	刺激臭ある無色透明揮発性液体比重1.6～1.7（20℃）	有効年限	5年
毒性	劇物	危険物	-

## 【適用病害虫と適用雑草の範囲及び使用方法】

2016年4月6日付内容

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	クロールピクリンを含む 農薬の総使用回数
りんご	紋羽病	1穴当り 5～10mL	1回	土壌くん蒸	1回
あぶらな科野菜 (キャベツ、こまつなを除く)	萎黄病 センチュウ類 ハガハシ類 ネギ類 クワ 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1穴当り 3～5mL 〈圃場〉 1穴当り 2～3mL	1回	土壌くん蒸	1回
こまつな	萎黄病 センチュウ類 ハガハシ類 ネギ類 クワ 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1穴当り 3～5mL 〈圃場〉 1穴当り 2～3mL	1回	土壌くん蒸	2回以内 (床土1回以内)
だいこん	亀裂褐変症	〈床土・堆肥〉 1穴当り 3～5mL 〈圃場〉 1穴当り 2～3mL	1回	土壌くん蒸	1回
はくさい	黄化病 軟腐病 根くびれ病	〈床土・堆肥〉 1穴当り 3～5mL 〈圃場〉 1穴当り 2～3mL	1回	土壌くん蒸	1回
かぶ	根こぶ病	〈床土・堆肥〉 1穴当り 3～5mL 〈圃場〉 1穴当り 2～3mL	1回	土壌くん蒸	1回



作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む 農薬の総使用回数
キャベツ	萎黄病 根こぶ病 センチュウ類 ハガネシジメ類 ネキリムシ類 クワ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3~5mL <圃場> 1穴当り 2~3mL	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)
レタス	ビッグベイン病	<圃場> 1穴当り 3mL	1回	土壌くん蒸	1回
	根腐病 センチュウ類 ハガネシジメ類 ネキリムシ類 クワ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3~5mL <圃場> 1穴当り 2~3mL			
非結球レタス (サラダ菜を除く)	ビッグベイン病	<圃場> 1穴当り 3mL	1回	土壌くん蒸	1回
	根腐病 センチュウ類 ハガネシジメ類 ネキリムシ類 クワ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3~5mL <圃場> 1穴当り 2~3mL			
サラダ菜	ビッグベイン病	<圃場> 1穴当り 3mL	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)
	根腐病 センチュウ類 ハガネシジメ類 ネキリムシ類 クワ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3~5mL <圃場> 1穴当り 2~3mL			
くきちしゃ	ビッグベイン病	<圃場> 1穴当り 3mL	1回	土壌くん蒸	1回
	根腐病 センチュウ類 ハガネシジメ類 ネキリムシ類 クワ 一年生雑草	<圃場> 1穴当り 2~3mL			

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む 農薬の総使用回数
ほうれんそう	萎凋病 株腐病 立枯病 苗立枯病 根腐病 ホウソウカガコダニ セチュウ類 ハガネシ類 ネリシ類 ケ 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1 穴当り 3～5mL 〈圃場〉 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	2 回以内 (床土 1 回以内)
うり科野菜 (すいか、きゅう うり、メロン、にが うり、うり類 (漬物用)を除 く)	疫病 つる割病 白絹病 セチュウ類 ハガネシ類 ネリシ類 ケ 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1 穴当り 3～5mL 〈圃場〉 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	1 回
漬物用メロン	疫病 つる割病 白絹病 セチュウ類 ハガネシ類 ネリシ類 ケ 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1 穴当り 3～5mL 〈圃場〉 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)
にがうり	疫病 つる割病 白絹病 セチュウ類 ハガネシ類 ネリシ類 ケ 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1 穴当り 3～5mL 〈圃場〉 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	2 回以内 (床土 1 回以内)
うり類 (漬物用、ただ し、漬物用メ ロンを除く)	疫病 つる割病 白絹病 セチュウ類 ハガネシ類 ネリシ類 ケ 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1 穴当り 3～5mL 〈圃場〉 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	3 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 2 回以内)

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む 農薬の総使用回数
きゅうり	疫病 つる割病 白絹病 苗立枯病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 クワ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3～5mL <圃場> 1穴当り 2～3mL	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
	ホトアオイ根腐病	<圃場> 1穴当り 3mL			
メロン	疫病 つる割病 白絹病 苗立枯病 黒点根腐病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 クワ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3～5mL <圃場> 1穴当り 2～3mL	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)
かぼちゃ (かぼちゃ台を 含む)	フザリウム立枯病	<床土・堆肥> 1穴当り 3～6mL	1回	土壌くん蒸	1回
	フザリウム立枯病 一年生雑草	<圃場> 1穴当り 3～4mL			
すいか	疫病 苗立枯病 つる割病 白絹病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 クワ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3～5mL <圃場> 1穴当り 2～3mL	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
ピーマン	青枯病 萎凋病 疫病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 クワ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3～5mL <圃場> 1穴当り 2～3mL	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む 農薬の総使用回数
とうがらし類	青枯病 萎凋病 疫病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 クワ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3~5mL <圃場> 1穴当り 2~3mL	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
トマト	青枯病 萎凋病 疫病 苗立枯病 半身萎凋病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 クワ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3~5mL <圃場> 1穴当り 2~3mL	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
ミニトマト	青枯病 萎凋病 疫病 苗立枯病 半身萎凋病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 クワ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3~5mL <圃場> 1穴当り 2~3mL	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
なす	青枯病 疫病 苗立枯病 半身萎凋病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 クワ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3~5mL <圃場> 1穴当り 2~3mL	1回	土壌くん蒸	2回以内 (床土1回以内)
いちご	萎黄病 炭疽病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 クワ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3~5mL <圃場> 1穴当り 2~3mL	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む 農薬の総使用回数
アスパラガス	立枯病 紋羽病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 クワ 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1穴当り 3～5mL 〈圃場〉 1穴当り 2～3mL	1回	土壌くん蒸	2回以内 (床土1回以内)
セリ	萎黄病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 クワ 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1穴当り 3～5mL 〈圃場〉 1穴当り 2～3mL	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
しょうが	根茎腐敗病 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1穴当り 3～5mL 〈圃場〉1 穴当り 2～3mL	1回	土壌くん蒸	2回以内 (床土1回以内)
うど	萎凋病 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1穴当り 3～5mL 〈圃場〉 1穴当り 2～3mL	1回	土壌くん蒸	1回
にんじん	こぶ病 しみ腐病 紋羽病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 クワ 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1穴当り 3～5mL 〈圃場〉 1穴当り 2～3mL	1回	土壌くん蒸	1回
ごぼう	黒あざ病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 クワ 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1穴当り 3～5mL 〈圃場〉 1穴当り 2～3mL	1回	土壌くん蒸	2回以内 (床土1回以内)
かんしょ	立枯病 つる割病 紋羽病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 クワ 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1穴当り 3～5mL 〈圃場〉 1穴当り 2～3mL	1回	土壌くん蒸	1回

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む 農薬の総使用回数
さといも	疫病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 クワ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3～5mL <圃場> 1穴当り 2～3mL	1回	土壌くん蒸	1回
やまのいも	褐色腐敗病 根腐病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 クワ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3～5mL <圃場> 1穴当り 2～3mL	1回	土壌くん蒸	1回
やまのいも (むかご)	褐色腐敗病 根腐病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 クワ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3mL <圃場> 1穴当り 2～3mL	1回	土壌くん蒸	1回
ばれいしょ	青枯病 亀の甲症 そうか病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 クワ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3～5mL <圃場> 1穴当り 2～3mL	1回	土壌くん蒸	1回
ねぎ	萎凋病 白絹病 苗立枯病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 クワ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3～5mL <圃場> 1穴当り 2～3mL	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
あさつき	萎凋病 白絹病 苗立枯病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 クワ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3～5mL <圃場> 1穴当り 2～3mL	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む 農薬の総使用回数
わけぎ	萎凋病 白絹病 苗立枯病 セチュウ類 ハガネシ類 ネリシ類 ケ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3~5mL <圃場> 1穴当り 2~3mL	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)
たまねぎ	疫病 苗立枯病 セチュウ類 ハガネシ類 ネリシ類 ケ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3~5mL <圃場> 1穴当り 2~3mL	1回	土壌くん蒸	1回
こんにゃく	乾腐病 白絹病 根腐病 紋羽病 セチュウ類 ハガネシ類 ネリシ類 ケ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3~5mL <圃場> 1穴当り 2~3mL	1回	土壌くん蒸	1回
パセリ	立枯病 一年生雑草	<圃場> 1穴当り 3mL	1回	土壌くん蒸	1回
にんにく	任ガサセチュウ 一年生雑草	<圃場> 1穴当り 3mL	1回	土壌くん蒸	1回
薬用にんじん	根腐病 一年生雑草	<圃場> 1穴当り 3mL	1回	土壌くん蒸	1回
豆類 (種実、ただし、 いんげんまめ、 えんどうまめ を除く)	立枯病 白絹病 セチュウ類 ハガネシ類 ネリシ類 ケ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3~5mL <圃場> 1穴当り 2~3mL	1回	土壌くん蒸	1回
豆類 (未成熟、ただ し、さやいんげ ん、未成熟そら まめ、さやえん どう、実えん どうを除く)	立枯病 白絹病 セチュウ類 ハガネシ類 ネリシ類 ケ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3~5mL <圃場> 1穴当り 2~3mL	1回	土壌くん蒸	1回

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む 農薬の総使用回数
えんどうまめ	苗立枯病 根腐病 萎凋病 立枯病 白絹病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 クワ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3～5mL <圃場> 1穴当り 2～3mL	1回	土壌くん蒸	1回
さやえんどう	苗立枯病 根腐病 萎凋病 立枯病 白絹病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 クワ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3～5mL <圃場> 1穴当り 2～3mL	1回	土壌くん蒸	2回以内 (床土1回以内)
実えんどう	苗立枯病 根腐病 萎凋病 立枯病 白絹病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 クワ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3～5mL <圃場> 1穴当り 2～3mL	1回	土壌くん蒸	2回以内 (床土1回以内)
いんげんまめ	立枯病 根腐病 白絹病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 クワ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3～5mL <圃場> 1穴当り 2～3mL	1回	土壌くん蒸	2回以内 (床土1回以内)
さやいんげん	立枯病 根腐病 白絹病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 クワ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3～5mL <圃場> 1穴当り 2～3mL	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)



作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む 農薬の総使用回数
未成熟そらまめ	立枯病 白絹病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネリムシ類 クワ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3～5mL <圃場> 1穴当り 2～3mL	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)
てんさい	黒根病 苗立枯病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネリムシ類 クワ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3～5mL <圃場> 1穴当り 2～3mL	1回	土壌くん蒸	1回
あま	立枯病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネリムシ類 クワ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3～5mL <圃場> 1穴当り 2～3mL	1回	土壌くん蒸	1回
麦類	立枯病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネリムシ類 クワ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3～5mL <圃場> 1穴当り 2～3mL	1回	土壌くん蒸	1回
とうもろこし	白絹病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネリムシ類 クワ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3～5mL <圃場> 1穴当り 2～3mL	1回	土壌くん蒸	1回
陸稲	センチュウ類 ハガネシジミ類 ネリムシ類 クワ 一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り 3～5mL <圃場> 1穴当り 2～3mL	1回	土壌くん蒸	1回
にら	紅色根腐病	<圃場> 1穴当り 3mL	1回	土壌くん蒸	2回以内 (床土1回以内)
みょうが (花穂)	根茎腐敗病	<圃場> 1穴当り 3mL	1回	土壌くん蒸	2回以内 (床土1回以内)
みょうが (茎葉)	根茎腐敗病	<圃場> 1穴当り 3mL	1回	土壌くん蒸	2回以内 (床土1回以内)
オクラ	半身萎凋病	<圃場> 1穴当り 3mL	1回	土壌くん蒸	1回

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む 農薬の総使用回数
ふき	半身萎凋病	〈圃場〉 1穴当り 3mL	1回	土壌くん蒸	1回
花き類・ 観葉植物	青枯病 半身萎凋病 萎凋病(フザリウム菌) 萎黄病(フザリウム菌) 株枯病(フザリウム菌) 乾腐病(フザリウム菌) 球根腐敗病(フザリウム菌) 立枯病(フザリウム菌) 葉枯病(フザリウム菌) 腐敗病(フザリウム菌) センチュウ類 ハガネムシ類 ネムシ類 クワ 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1穴当り 3~5mL 〈圃場〉 1穴当り 2~3mL	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
きく	白絹病 立枯病	〈床土・堆肥〉 1穴当り 3~5mL 〈圃場〉 1穴当り 2~3mL	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
カーネーション	萎凋細菌病 立枯病	〈床土・堆肥〉 1穴当り 3~5mL 〈圃場〉 1穴当り 2~3mL	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
りんどう	褐色根腐病	〈床土・堆肥〉 1穴当り 3~5mL 〈圃場〉 1穴当り 2~3mL	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
しゃくやく	根黒斑病	〈床土・堆肥〉 1穴当り 3~5mL 〈圃場〉 1穴当り 2~3mL	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
ぼたん	根黒斑病	〈床土・堆肥〉 1穴当り 3~5mL 〈圃場〉 1穴当り 2~3mL	2回以内 (床土1回以内、圃 場1回以内)	土壌くん蒸	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
百日草	苗立枯病	〈床土・堆肥〉 1穴当り 3~5mL 〈圃場〉 1穴当り 2~3mL	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
宿根かすみそ う	立枯病	〈床土・堆肥〉 1穴当り 3~5mL 〈圃場〉 1穴当り 2~3mL	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む 農薬の総使用回数
トルギキョウ	根腐病	〈床土・堆肥〉 1 穴当り 3～5mL 〈圃場〉 1 穴当り 2～3mL	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)	土壌くん蒸	3 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 2 回以内)
かんきつ (苗木)	温州萎縮病	〈圃場〉 1 穴当り 5mL (40 ㎡/10a)	1 回	土壌くん蒸	1 回
いちじく (苗木)	白絹病 センチュウ類	〈圃場〉 1 穴当り 3mL	1 回	土壌くん蒸	1 回
桑	紋羽病	1 穴当り 5～10mL	1 回	土壌くん蒸	1 回
たばこ	疫病 黒根病 白絹病 立枯病 わい化病 センチュウ類 ハガネ類 ネリ類 ケ 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1 穴当り 3～5mL 〈圃場〉 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	1 回
	立枯病	〈圃場〉 1 穴当り 2mL		深層 土壌くん蒸	

#### 使用上の注意事項

- (1) 温度が低いと本剤のガス化が悪く、十分な効果が得られないこともあるので、なるべく地温が7℃以上の時使用すること。
- (2) 本剤を処理する場合、液漏れ、液だれがなく正確に注入量を調節できる土壌消毒機を使用すること。本剤を床土・堆肥に処理する場合は、床土・堆肥を30cmの高さに積み、30×30cmごとの深さ約15cmの位置に所定量を注入し、直ちに覆土する。更に30cmの高さに積み上げ、これをくり返し、最後にポリエチレン、ビニール等で被覆し、7日以上おくこと。本剤を圃場に処理する場合は、耕起、整地後、全面処理の場合は、30×30cmごとの深さ約15cmの位置に所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆すること。播種溝処理、植穴処理、うね処理の場合も全面処理に準じて処理すること。処理後10日以上経過してから播種または移植すること。りんご、桑に使用する場合は、あらかじめ病株、病根等を除去した後、約60cmの深さに耕起、整地し、全面処理の場合は、30×30cmごとの深さ30～40cmの位置に所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆すること。処理後20日以上経過してから植付ける。植穴処理の場合も全面処理に準じて処理すること。
- (3) 本剤をたばこの立枯病に対して深層土壌くん蒸(深度30cm処理)する場合は、深層土壌くん蒸に適した深層土壌消毒機を用い、40×40cmごとの深さ30cmの位置に所定量を注入し、直ちに覆土、鎮圧する。この場合、クロルピクリンのガスは土中で徐々に拡散し、地表面からの急激なガス揮散がないので、ポリエチレン、ビニール等による被覆は特に必要としない。但し、砂質土壌や土塊の残る圃場等においては被覆を行うこと。薬剤の注入位置が深いため、ガス抜けに時間がかかるので、くん蒸処理後からうね立までの期間を1ヶ月以上とること。窒素吸収量が増加するので、土壌に応じた減肥をすること。使用に当たっては、関係機関の技術者の指導を受けること。
- (4) 本剤をかんきつ(苗木)に使用する場合は、あらかじめ病株を伐採、伐根した後開墾し、50cm×50cmごとの深さ30cmおよび50cmの位置のそれぞれに所定量1穴当り5mLを注入する。注入後直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。処理後20日以上経過してから植付ける。
- (5) 本剤の処理に当たっては、ガスが土中で十分拡散するよう耕起、砕土を十分に行い、丁寧に整地してから処理すること。但し、耕起直後ではガスが抜けやすいので、耕起後しばらくたって土壌がおちついてから処理することが望ましい。また、土中でのガスの拡散は土の湿り気のある時、すなわち土を握って放すと割れ目ができる程度の時に注入するのが最適である。注入部位を直ちに覆土し、地表面をポリエチレン、ビニール等で被覆すること。

- (6) 地温が15℃以上の時は処理後10日位、また、地温が低い時は処理後20～30日経過するとガスは大体抜けるが、念のためくわを入れ、土質、気温等により、なお臭気が残っている時は、よく切り返し、完全にガス抜きを行ってから、播種あるいは移植すること。うり類は本剤のガスに弱いので、ガス抜きは特に丁寧に行うよう注意すること。
- (7) 本剤でくん蒸した本圃に豆科植物を栽培するときは、根りゅう菌が死滅しているおそれがあるので、根りゅう菌を接種して、播種すること。
- (8) 作物の生育中には薬害を生じるので使用しないこと。隣接地に生育中の作物がある場合には、揮散ガスによる薬害に注意すること。特に、生育中の作物があるハウス内では使用しないこと。
- (9) りんご、桑等の跡地消毒の場合、隣接株より50cm以上離して処理すること。また、ガスの抜けを確認してから植付けすること。
- (10) ミツバチの巣箱周辺での使用はさけること。
- (11) 消石灰などのアルカリ性肥料の施用直後に本剤を処理すると作物に有害な物質を作り、薬害の発生するおそれがあるので、このような肥料はガス抜き後に施用するか、または本剤処理の10日以上前に施用すること。
- (12) 他剤と混用しないこと。特にカーバム剤およびカーバムナトリウム剤とは化学反応により、発熱し危険であるので、カーバム剤及びカーバムナトリウム剤使用後の散布器具等はよく洗浄してから用いること。
- (13) 金属腐食性があるので、使用後の注入器具その他は灯油でよく洗うこと。
- (14) 薬液の入っている製品缶に水が混入すると缶が腐食するおそれがあるので、製品缶には水を入れないこと。
- (15) 土壤消毒機の薬液タンク（ポリタンク等）に移した薬液は水分を含んでいる可能性があり、製品缶を腐食するおそれがあるので、残存薬液は製品缶に戻さず、使い切ること。
- (16) 処理後の放置期間と効果・薬害との関係は、土壤の種類、腐植土の多少、温度、土壤水分、作物の種類によって様ではないので、本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意すること。特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 医薬用外劇物。取扱いには十分注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤は窒息性有毒ガスを発生するので、揮散したガスを吸い込まないように注意すること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、通風の良好な場所で顔を横に向け、体を暖めながら直ちに医師の手当を受けること。場合によっては、酸素吸入又は人工呼吸を行い、強心剤等を投与する。
- (2) 本剤は催涙性の刺激を有し、眼、のど、鼻を刺激するので注意すること。ガスが眼に入りひどく痛む時は、多量の水でよく洗い速やかに眼科医の手当を受けること。
- (3) 本剤は皮膚に対して強い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 本剤の投薬作業の際は吸収缶（活性炭入り）付き防護マスク、保護眼鏡、不浸透性手袋、ゴム長靴、不浸透性防除衣などを着用すること。ガス抜き作業の際も同様の防護マスク、保護眼鏡を着用すること。作業の際はガスを吸い込まないように風向き等を十分考慮すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼すること。
- (5) 本剤が衣服等に付いた場合には、脱衣して他のものとは分けてよく洗濯し、本剤の臭気が抜けるまで身につけないこと。
- (6) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- (7) 作業中及びくん蒸中の圃場へ小児等作業に関係のないものや家畜、家禽が立ち入らないよう十分注意すること。
- (8) 揮散ガスによる危被害を防止するため、本剤の処理は朝夕の気温の低い時間帯に行うこと。処理後は直ちに、必ずビニール等で被覆を行うこと。但し、たばこに対して深さ30cmに注入処理する深層土壤くん蒸の場合は、クロルピクリンのガスは土中で徐々に拡散し、地表面からの急激なガス揮散がなく周辺環境への影響も少ないので、ビニール等による被覆は特に必要としない。この場合は被覆を行わないため、その使用方法を厳守すること。なお、乾燥した砂質土壤や土塊の残る圃場等において、深層土壤くん蒸の覆土、鎮圧効果が期待できない場合は被覆を行うこと。
- (9) 住宅、畜舎、鶏舎周辺での使用に当たっては、以下の事項に留意し、ガスによる危被害の発生防止に十分配慮すること。
  - 1) 高温期の処理をさげ、気温の低い季節に処理するのが望ましい。
  - 2) 住宅、畜舎、鶏舎が風下になる場合、処理を控えること。
  - 3) 被覆資材は厚めのもの（0.03mm以上）を使用すること。
  - 4) 風の強さや向きが変わり、危被害を及ぼすおそれがある場合は、ガス抜き作業を中断すること。
- (10) 本剤をビニールハウス等の施設内で使用する場合、出入口、天窗、側窓等を開け通気をよくして作業を行うこと。作業後は直ちに密閉し、臭気が残っている期間にはハウス内へ入らないこと。くん蒸後はハウスを開放し、十分換気した後に入室すること。
- (11) 本剤を使用する場合、注入処理と同時に被覆する機能を備えた土壤消毒機を使用することが望ましい。

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨**-----

- (1) 本剤は水産動植物（魚類、甲殻類、藻類）に強い影響を及ぼすので、河川、湖沼、海域及び養殖池に本剤が飛散、流入するおそれのある場所では使用しないこと。
- (2) 散布器具・容器の洗浄水及び残りの薬液は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨**-----

本剤は皮膚に対して強い刺激性がある。

**貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、鍵のかかるなるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号第 20207 号

## クロピク®テープ

- 土壌水分で溶けるテープの中に15cm間隔で、クロルピクリン3mLを封入しました。
- テープ状なので処理に専用の装置は必要ありません。

特長： ●土壌中でテープが溶け、中のクロルピクリンがガス化し、圃場のすみずみまで行き渡り、病原菌、害虫、センチュウ類を防除します。

- 被覆を必ずしてください。環境安全性と防除効果が高まります。

クロピクは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	クロルピクリン（化管法第1種）・・・55.0%	包装	28m×8
性状	類白色粉末水溶性袋入り（9g/包）	有効年限	2年
毒性	劇物	危険物	-

## 【適用病害虫及び使用方法】

2016年4月6日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	本剤の使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む 農薬の総使用回数
きゅうり	苗立枯病(リゾクトニア菌) 苗立枯病(ピシム菌)	<床土・堆肥> 2.2m/m <sup>2</sup>	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
	つる割病 ホモシ根腐病 ネブセンチュウ	<圃場> 110m/100 m <sup>2</sup>			
すいか	つる割病 ネブセンチュウ	<圃場> 110m/100 m <sup>2</sup>	1回	土壌くん蒸	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
メロン	苗立枯病(リゾクトニア菌) 苗立枯病(ピシム菌)	<床土・堆肥> 2.2m/m <sup>2</sup>	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)
	黒点根腐病 ネブセンチュウ	<圃場> 110m/100 m <sup>2</sup>			
かぼちゃ	立枯病	<圃場> 110m/100 m <sup>2</sup>	1回	土壌くん蒸	1回
ねぎ	白絹病	<圃場> 110m/100 m <sup>2</sup>	1回	土壌くん蒸	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
わけぎ	白絹病	<圃場> 110m/100 m <sup>2</sup>	1回	土壌くん蒸	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)
あさつき	白絹病	<圃場> 110m/100 m <sup>2</sup>	1回	土壌くん蒸	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)
にら	紅色根腐病	<圃場> 110m/100 m <sup>2</sup>	1回	土壌くん蒸	2回以内 (床土1回以内)

作物名	適用病害虫名	使用量	本剤の使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む農薬の総使用回数
しょうが	根茎腐敗病	〈圃場〉 110m/100 m <sup>2</sup>	1回	土壌くん蒸	2回以内 (床土1回以内)
いちご	萎黄病 疫病 ネグセチユ	〈圃場〉 110m/100 m <sup>2</sup>	1回	土壌くん蒸	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
ほうれんそう	萎凋病	〈圃場〉 110m/100 m <sup>2</sup>	1回	土壌くん蒸	2回以内 (床土1回以内)
かんしょ	ネグセチユ	〈圃場〉 110m/100 m <sup>2</sup>	1回	土壌くん蒸	1回
ナス	ビッグベイン病	〈圃場〉 110m/100 m <sup>2</sup>	1回	土壌くん蒸	1回
非結球ナス (サダ菜を除く)	ビッグベイン病	〈圃場〉 110m/100 m <sup>2</sup>	1回	土壌くん蒸	1回
サダ菜	ビッグベイン病	〈圃場〉 110m/100 m <sup>2</sup>	1回	土壌くん蒸	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)
さやえんどう	根腐病 萎凋病	〈圃場〉 110m/100 m <sup>2</sup>	1回	土壌くん蒸	2回以内 (床土1回以内)
なす	苗立枯病(リグクニア菌)	〈床土・堆肥〉 2.2m/m <sup>2</sup>	1回	土壌くん蒸	2回以内 (床土1回以内)
	青枯病 半身萎凋病	〈圃場〉 110m/100 m <sup>2</sup>			
ピーマン	苗立枯病(リグクニア菌)	〈床土・堆肥〉 2.2m/m <sup>2</sup>	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
	青枯病 疫病	〈圃場〉 110m/100 m <sup>2</sup>			
とうがらし類	苗立枯病(リグクニア菌)	〈床土・堆肥〉 2.2m/m <sup>2</sup>	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
	青枯病 疫病	〈圃場〉 110m/100 m <sup>2</sup>			
トマト	萎凋病 褐色根腐病 ネグセチユ	〈圃場〉 110m/100 m <sup>2</sup>	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
	苗立枯病(リグクニア菌) 苗立枯病(ビシム菌)	〈床土・堆肥〉 2.2m/m <sup>2</sup>			
ミニトマト	萎凋病 褐色根腐病 ネグセチユ	〈圃場〉 110m/100 m <sup>2</sup>	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
	苗立枯病(リグクニア菌) 苗立枯病(ビシム菌)	〈床土・堆肥〉 2.2m/m <sup>2</sup>			



作物名	適用病害虫名	使用量	本剤の使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む農薬の総使用回数
キャベツ	苗立枯病(リゾクトニア菌)	<床土・堆肥> 2.2m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup>	1回	土壌くん蒸	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)
トルコギョウ	立枯病 根腐病	<圃場> 110m <sup>3</sup> /100 m <sup>2</sup>	1回	土壌くん蒸	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
りんどう	褐色根腐病	<圃場> 110m <sup>3</sup> /100 m <sup>2</sup>	1回	土壌くん蒸	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
きく	半身萎凋病 立枯病	<圃場> 110m <sup>3</sup> /100 m <sup>2</sup>	1回	土壌くん蒸	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
カーネーション	萎凋細菌病	<圃場> 110m <sup>3</sup> /100 m <sup>2</sup>	1回	土壌くん蒸	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
チュウリップ	根腐病	<圃場> 110m <sup>3</sup> /100 m <sup>2</sup>	1回	土壌くん蒸	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)

#### 使用上の注意事項

- (1) 必要量を購入し、外袋の開封後は直ちに処理し、使いきる。やむをえず使い残す場合又は外袋が破損した場合には、直ちに住宅地から離れた安全な場所に埋めること。
- (2) 本剤は水溶性フィルムの内袋に入っているため、内袋を濡れた手で触れたり、内袋に水分が付着しないように注意すること。
- (3) 温度が低いと本剤のガス化が悪く、十分な効果が得られないこともあるので、なるべく地温が7℃以上の時使用すること。
- (4) 本剤を圃場に処理する場合は、ガスが土中で十分拡散するよう耕起、砕土を十分に行い、丁寧に整地し、90cm 間隔の深さ約15cmの溝に1本施用後直ちに覆土すること。覆土後は直ちにポリエチレン、ビニールなどで地表面を被覆し、10日以上経過してから播種又は移植すること。土中でのガスの拡散は土の湿り気のある時、すなわち土を握って放すと割れ目ができる程度の時に処理するのが最適である。
- (5) 本剤を床土・堆肥に処理する場合は、床土・堆肥を30cmの高さに積み、45cm間隔ごとに約15cmの深さに本剤を1本施用する。更に30cmの高さに積み上げ、これをくり返し、最後にポリエチレン、ビニール等で被覆し、7日以上おくこと。
- (6) 地温が15℃以上の時は処理後10日位、また、地温が低い時は処理後20～30日経過するとガスは大体抜けるが、念のためくわを入れ、土質、気温などによりなお臭が残っている時はよく切り返し、完全にガス抜きを行ってから播種あるいは移植すること。うり類は本剤のガスに弱いので、ガス抜きは、丁寧に行うよう注意すること。なお、ガス抜きの際、水溶性フィルムの一部が土壌中に残っている場合には、土壌中にすき込むこと。
- (7) ミツバチの巣箱周辺での使用はさけること。
- (8) 消石灰などのアルカリ性肥料の施用直後に本剤を処理すると作物に有害な物質を作り、薬害の発生するおそれがあるので、このような肥料はガス抜き後に施用するか、又は本剤処理の10日以上前に施用すること。
- (9) 他剤と混用しないこと。特にカーバム剤及びカーバムナトリウム剤とは化学反応により、発熱し危険であるので、本剤を使用する直前又は直後のカーバム剤及びカーバムナトリウム剤の使用はさけること。
- (10) 処理後の放置期間と効果・薬害との関係は、土壌の種類、腐植土の多少、温度、土壌水分、作物の種類によって様ではないので、本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないよう注意すること。特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。



## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 医薬用外劇物。取扱いには十分注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤は窒息性有毒ガスを発生するので、揮散したガスを吸い込まないように注意すること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、通風の良好な場所で顔を横に向け、体を暖めながら直ちに医師の手当を受けること。場合によっては、酸素吸入又は人工呼吸を行い、強心剤等を投与する。
- (2) 本剤に使用している包装フィルムは水溶性のため、濡れた手で作業しないこと。
- (3) クロロピクリンは催涙性の刺激を有し、眼、のど、鼻を刺激するので注意すること。ガスが眼に入りひどく痛む時は、多量の水でよく洗い速やかに眼科医の手当を受けること。
- (4) クロロピクリンは皮膚に対して強い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (5) 本剤の外包装の開封及び投薬作業の際は吸収缶（活性炭入り）付き防護マスク、保護眼鏡、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。外包装の開封はクロロピクリンガスがこもっている場合があるので屋外にて風下に向かって行うこと。ガス抜き作業の際も同様の防護マスク、保護眼鏡を着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼すること。
- (6) クロロピクリンが衣服等に付いた場合には、脱衣して他のものとは分けてよく洗濯し、本剤の臭気が抜けるまで身につけないこと。
- (7) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- (8) 作業中及びくん蒸中の圃場へ小児等作業に関係のないものや家畜、家禽が立ち入らないよう十分注意すること。
- (9) 揮散ガスによる危被害を防止するため、本剤の処理は朝夕の気温の低い時間帯に行うこと。処理後は直ちに、必ずビニール等で被覆を行うこと。
- (10) 住宅、畜舎、鶏舎周辺での使用に当たっては、以下の事項に留意し、ガスによる危被害の発生防止に十分配慮すること。
  - 1) 高温期の処理をさげ、気温の低い季節に処理するのが望ましい。
  - 2) 住宅、畜舎、鶏舎が風下になる場合、処理を控えること。
  - 3) 被覆資材は厚めのもの（0.03mm以上）を使用すること。
  - 4) 風の強さや向きが変わり、危被害を及ぼすおそれがある場合は、ガス抜き作業を中断すること。
- (11) 本剤をビニールハウス等の施設内で使用する場合、出入口、天窓、側窓等を開け通気をよくして作業を行うこと。作業後は直ちに密閉し、臭気が残っている期間にはハウス内へ入らないこと。くん蒸後はハウスを開放し、十分換気した後に入室すること。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 本剤は水産動植物（魚類、甲殻類、藻類）に強い影響を及ぼすので、河川、湖沼、海域及び養殖池に本剤が飛散、流入するおそれのある場所では使用しないこと。
- (2) 空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

クロロピクリンは皮膚に対して強い刺激性がある。

## 貯蔵上の注意事項

直射日光をさげ、鍵のかかるなるべく低温で乾燥した場所に保管すること。盗難、紛失の際は、警察に届け出ること。

登録番号 第 22163 号

## 三井ソイリーン® (JA)

- 土壌病原菌と一年生雑草の防除に定評があるクロルピクリンと、センチュウ類の防除の定番D-Dを、当社独自の最適な割合で混合しました。
- 土壌中でガス化して、圃場のすみずみまで行き渡ります。
- 被覆を必ずしてください。環境安全性と防除効果が高まります。

ソイリーンは(株)エス・ディー・エスパイオテックの登録商標です。

有効成分	クロルピクリン (化管法第1種)・・・41.5% 1, 3-ジクロロプロペン (D-D) (化管法第1種)・・・54.5%	包装	15L×1
性状	淡黄色澄明液体	有効年限	3年
毒性	劇物	危険物	2石-III (指定数量1000L (非水溶性液体))

## 【適用病害虫と適用雑草の範囲及び使用方法】

2020年2月12日付内容

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む農薬の総使用回数	D-Dを含む農薬の総使用回数
にんじん	しみ腐病	30L/10a (1穴当り3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm間隔の フタリ状に深さ約15cmに 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	1回	1回
	ネグサセンチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)					
ごぼう	黒あざ病	30L/10a (1穴当り3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm間隔の フタリ状に深さ約15cmに 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	2回以内 (床土1回以 内)	1回
	ネグサセンチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)					
すいか	つる害病 黒点根腐病	30L/10a (1穴当り3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm間隔の フタリ状に深さ約15cmに 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	3回以内 (床土1回以 内、圃場2回以 内)	1回
	ネグサセンチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)					
さやいんげん	ネグサセンチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm間隔の フタリ状に深さ約15cmに 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	3回以内 (床土1回以 内、圃場2回以 内)	1回

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用方法	クロルピクリンを含む農薬 の総使用回数	D-Dを含む 農薬の総使 用回数
メロン	黒点根腐病 えそ斑点病 つる割病	30L/10a (1穴当り 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔の フドリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	2回以内 (床土1回以 内、圃場1回以 内)	1回
	ネグサレセンチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)					
だいこん	バーティシウム黒点 病	30L/10a (1穴当り 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔の フドリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	1回	1回
	ネグサレセンチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)					
はくさい	黄化病 根くびれ病	30L/10a (1穴当り 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔の フドリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	1回	1回
	ネグサレセンチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)					
キャベツ	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	30L/10a (1穴当り 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔の フドリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	2回以内 (床土1回以 内、圃場1回以 内)	1回
	ネグサレセンチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)					
未成熟そら まめ	ネグサレセンチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔の フドリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	2回以内 (床土1回以 内、圃場1回以 内)	1回
なす	青枯病	30L/10a (1穴当り 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔の フドリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	2回以内 (床土1回以 内)	1回
	ネグサレセンチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)					
トマト	青枯病	30L/10a (1穴当り 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔の フドリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	3回以内 (床土1回以 内、圃場2回以 内)	1回
	萎凋病 ネグサレセンチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)					
ミニトマト	青枯病	30L/10a (1穴当り 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔の フドリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	3回以内 (床土1回以 内、圃場2回以 内)	1回
	萎凋病 ネグサレセンチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)					

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用方法	クロルピクリンを含む農薬の総使用回数	D-Dを含む農薬の総使用回数
きゅうり	つる割病 ホモジス根腐病	30L/10a (1穴当り 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔の フドリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	3回以内 (床土1回以 内、圃場2回以 内)	1回
	ネグサセチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)					
ピーマン	青枯病	30L/10a (1穴当り 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔の フドリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	3回以内 (床土1回以 内、圃場2回以 内)	1回
	ネグサセチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)					
とうがらし 類	青枯病	30L/10a (1穴当り 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔の フドリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	3回以内 (床土1回以 内、圃場2回以 内)	1回
	ネグサセチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)					
かぼちや	立枯病	30L/10a (1穴当り 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔の フドリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	1回	1回
	ネグサセチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)					
こまつな	ネグサセチュウ ネブセンチュウ	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔の フドリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	2回以内 (床土1回以 内)	1回
レタス	ネグサセチュウ ネブセンチュウ	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔の フドリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	1回	1回
かぶ	ネグサセチュウ ネブセンチュウ	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔の フドリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	1回	1回
豆類 (未成熟、た だし、さや いんげん、 未成熟そら まめ、さや えんどう、 実えんどう を除く)	ネグサセチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔の フドリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	1回	1回

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用方法	クロルピクリンを含む農薬の総使用回数	D-Dを含む農薬の総使用回数
ほうれんそう	萎凋病 ネグサセンチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm間隔の フタリ状に深さ約15cmに 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	2回以内 (床土1回以 内)	1回
しょうが	根茎腐敗病	30L/10a (1穴当り3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm間隔の フタリ状に深さ約15cmに 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	2回以内 (床土1回以 内)	1回
	ネグサセンチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)					
ばれいしょ	そうか病 青枯病	30L/10a (1穴当り3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm間隔の フタリ状に深さ約15cmに 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	1回	1回
	ネグサセンチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)					
かんしょ	立枯病	30L/10a (1穴当り3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm間隔の フタリ状に深さ約15cmに 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	1回	1回
	ネグサセンチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)					
さといも	ネグサセンチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm間隔の フタリ状に深さ約15cmに 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	1回	1回
やまのいも	根腐病 褐色腐敗病	30L/10a (1穴当り3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm間隔の フタリ状に深さ約15cmに 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	1回	1回
	ネグサセンチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)					
いちご	炭疽病	30L/10a (1穴当り3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm間隔の フタリ状に深さ約15cmに 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	3回以内 (床土1回以 内、圃場2回以 内)	1回
	萎黄病 ネグサセンチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)					
こんにやく	根腐病	30L/10a (1穴当り3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm間隔の フタリ状に深さ約15cmに 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	1回	1回
	ネグサセンチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)					

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用方法	クロルピクリンを含む農薬 の総使用回数	D-Dを含む 農薬の総使 用回数
ねぎ	白絹病	30L/10a (1 穴当り 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1 回	耕起整地後、30cm 間隔の フタリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	3 回以内 (床土 1 回以 内、圃場 2 回以 内)	1 回
	ネグサセチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1 穴当り 2～3mL)					
さやえんどう	ネグサセチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1 穴当り 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1 回	耕起整地後、30cm 間隔の フタリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	2 回以内 (床土 1 回以 内)	1 回
実えんどう	ネグサセチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1 穴当り 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1 回	耕起整地後、30cm 間隔の フタリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	2 回以内 (床土 1 回以 内)	1 回
みょうが (花穂)	ネグサセチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1 穴当り 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1 回	耕起整地後、30cm 間隔の フタリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	2 回以内 (床土 1 回以 内)	1 回
みょうが (茎葉)	ネグサセチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1 穴当り 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1 回	耕起整地後、30cm 間隔の フタリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	2 回以内 (床土 1 回以 内)	1 回
にがうり	ネグサセチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1 穴当り 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1 回	耕起整地後、30cm 間隔の フタリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	2 回以内 (床土 1 回以 内)	1 回
葉しょうが	ネグサセチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1 穴当り 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1 回	耕起整地後、30cm 間隔の フタリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	2 回以内 (床土 1 回以 内)	1 回
かぼ	苗立枯病	30L/10a (1 穴当り 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1 回	耕起整地後、30cm 間隔の フタリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	1 回	1 回
	ネグサセチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1 穴当り 2～3mL)					
パセリ	立枯病	30L/10a (1 穴当り 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1 回	耕起整地後、30cm 間隔の フタリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	1 回	1 回
	ネグサセチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1 穴当り 2～3mL)					



作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用方法	クロルピクリンを含む農薬 の総使用回数	D-Dを含む 農薬の総使 用回数
セリ	萎黄病	30L/10a (1穴当り 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔の フドリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	3回以内 (床土1回以 内、圃場2回以 内)	1回
	ネグサセンチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)					
きく	半身萎凋病	30L/10a (1穴当り 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔の フドリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	3回以内 (床土1回以 内、圃場2回以 内)	1回
	ネグサセンチュウ ネブセンチュウ	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)					
ストック	萎凋病	30L/10a (1穴当り 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔の フドリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	3回以内 (床土1回以 内、圃場2回以 内)	1回
	ネグサセンチュウ ネブセンチュウ	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)					
チューリップ	球根腐敗病	30L/10a (1穴当り 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔の フドリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	3回以内 (床土1回以 内、圃場2回以 内)	1回
	ネグサセンチュウ ネブセンチュウ	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)					
カーネーション	萎凋細菌病	30L/10a (1穴当り 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔の フドリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	3回以内 (床土1回以 内、圃場2回以 内)	1回
	ネグサセンチュウ ネブセンチュウ	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)					
トルコギキョウ	根腐病 立枯病	30L/10a (1穴当り 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔の フドリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	3回以内 (床土1回以 内、圃場2回以 内)	1回
	ネグサセンチュウ ネブセンチュウ	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)					
花き類・観 葉植物 (ストック、チューリ ップ、きく、カ ーネーション、トル コギキョウを除 く)	ネグサセンチュウ ネブセンチュウ	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔の フドリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	3回以内 (床土1回以 内、圃場2回以 内)	1回
花き類・観 葉植物	一年生雑草	20～30L/10a (1穴当り 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔の フドリ状に深さ約 15cm に 所定量を注入し、直ちに 覆土し、ポリエチレン、ビニール 等で被覆する。	3回以内 (床土1回以 内、圃場2回以 内)	1回

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む農薬の総使用回数	D-Dを含む農薬の総使用回数
たばこ	ネブセンチュウ 立枯病	(畦内土壌注入) 1穴当たり 2~3mL	作付の 30日前 まで	1回	(畦内土壌注入)畦立後、畦中央の頂上から、30cm間隔で、35cmの深さに所定量を注入し、直ちに注入口をふさぎ、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	1回	1回

#### 使用上の注意事項

- (1) 生育中の作物には薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
- (2) 温度が低いと本剤のガス化が悪く、十分な効果が得られないこともあるので、なるべく地温が7℃以上の時使用すること。
- (3) 本剤の処理に当たっては、ガスが土中で十分拡散するよう耕起、砕土を十分行い、丁寧に整地してから処理すること。但し、耕起直後ではガスが抜けやすいので、耕起後しばらくたって土壌がおちついてから処理することが望ましい。また、土中でのガスの拡散は土の湿り気のある時、すなわち土を握って放すと割れ目ができる程度の時に注入するのが最適である。注入後は直ちに穴をふさぎ、地表面をポリエチレン、ビニール等で被覆すること。
- (4) 処理は原則として作付の10~15日前に行ない、作付の1~2日前に畑を耕起して十分にガス抜きをすること。ガス抜きが不十分な場合には、薬害を生じるおそれがあるので注意すること。うり類は薬害を生じやすい傾向にあるので、ガス抜きを特に念入りに行うこと。
- (5) 処理後、大雨があったり、土壌が重粘土質で通気の悪い所では、ガス抜きを特に念入りに行うこと。
- (6) 処理後、未消毒の土がなるべく混入しないよう注意すること。
- (7) ミツバチの巣箱周辺での使用はさけること。
- (8) 消石灰などのアルカリ性肥料の施用直後に本剤を処理すると作物に有害な物質を作り、薬害の発生するおそれがあるので、このような肥料はガス抜き後に施用するか、または本剤処理の10日以上前に施用すること。
- (9) 他剤と混用しないこと。特にカーバム剤及びカーバムナトリウム剤とは化学反応により、発熱し危険であるので、カーバム剤及びカーバムナトリウム剤使用後の散布器具等はよく洗浄してから用いること。
- (10) 金属腐食性があるので、使用後の注入器具その他は灯油でよく洗うこと。
- (11) 薬液の入っている製品缶に水が混入すると缶が腐食するおそれがあるので、製品缶には水を入れないこと。
- (12) 土壌消毒機の薬液タンク（ポリタンク等）に移した薬液は水分を含んでいる可能性があり、製品缶を腐食するおそれがあるので、残存薬液は製品缶に戻さず、使い切ること。
- (13) 処理後の放置期間と効果、薬害との関係は、土壌の種類、腐植土の多少、温度、土壌水分、作物の種類によって様ではないので、本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意すること。特に、初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (14) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 医薬用外劇物。取扱いには十分注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤は窒息性有毒ガスを発生するので、揮散したガスを吸い込まないように注意すること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、通風の良好な場所で顔を横に向け、体を暖め、頭部を冷やしながら安静にし、直ちに医師の手当を受けること。場合によっては、酸素吸入又は人工呼吸を行い、強心剤等を投与する。
- (2) 本剤は催涙性の刺激を有し、眼、のど、鼻を刺激するので注意すること。ガスが眼に入りひどく痛む時は、多量の水でよく洗い速やかに眼科医の手当を受けること。
- (3) 本剤は皮膚に対して強い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 本剤の投薬作業の際は吸収缶（活性炭入り）付き防護マスク、保護眼鏡、不浸透性手袋、ゴム長靴、不浸透性防除衣などを着用すること。ガス抜き作業の際も同様の防護マスク、保護眼鏡を着用すること。作業の際はガスを吸い込まないように風向き等を十分考慮すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。



- (5) 本剤が衣服等に付いた場合には、脱衣して他のものとは分けてよく洗濯し、本剤の臭気が抜けるまで身に付けないこと。
- (6) かぶれやすい体質の人は取り扱いに十分注意すること。
- (7) 作業中及びくん蒸中の圃場へ小児等作業に関係のないものや家畜、家禽が立ち入らないよう十分に注意すること。
- (8) 揮散ガスによる危被害を防止するため、本剤の処理は朝夕の気温の低い時間帯に行うこと。処理後は直ちに、必ずビニール等で被覆を行うこと。
- (9) 住宅、畜舎、鶏舎周辺での使用に当たっては、以下の事項に留意し、ガスによる危被害の発生防止に十分配慮すること。
  - 1) 高温期の処理をさげ、気温の低い季節に処理するのが望ましい。
  - 2) 住宅、畜舎、鶏舎が風下になる場合、処理を控えること。
  - 3) 被覆資材は厚めのもの（0.03mm以上）を使用すること。
  - 4) 風の強さや向きが変わり、危被害を及ぼすおそれがある場合は、ガス抜き作業を中断すること。
- (10) 本剤をビニールハウス等の施設内で使用する場合、出入口、天窗、側窓等を開け通気をよくして作業を行うこと。作業後は直ちに密閉し、臭気が残っている期間にはハウス内へ入らないこと。くん蒸後はハウスを開放し、十分換気した後に入室すること。
- (11) 本剤を使用する場合、注入処理と同時に被覆する機能を備えた土壌消毒機を使用することが望ましい。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 本剤は水産動植物（魚類、甲殻類、藻類）に強い影響を及ぼすので、河川、湖沼、海域及び養殖池に本剤が飛散、流入するおそれのある場所では使用しないこと。
- (2) 散布器具、容器の洗浄水及び残りの薬液は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

- (1) 危険物第四類第二石油類に属するので火気には十分注意すること。
- (2) 本剤は皮膚に対して強い刺激性がある。

#### 貯蔵上の注意事項-----

火気をさげ、直射日光が当たらない鍵のかかる低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 5250 号

## ドクロール®

- 特長：
- 土壌中の病原菌、害虫、センチュウ類、一年生雑草を同時に防除します。
  - 土壌中でガス化して、圃場のすみずみまで行き渡ります。
  - 被覆を必ずしてください。環境安全性と防除効果が高まります。
  - クロルピクリンを80%含む製剤です。

ドクロールは日本農薬(株)の登録商標です。

有効成分	クロルピクリン (化管法第1種)・・・80.0%	包装	20L×1
性状	強い刺激臭と催涙性を有した揮発性の淡黄色透明液体	有効年限	5年
毒性	劇物	危険物	指定可燃物 (可燃性液体類 2m <sup>3</sup> )

## 【適用病害虫と適用雑草の範囲及び使用方法】

2020年3月31日付内容

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む 農薬の総使用回数
りんご	紋羽病	1穴当り 6～12mL	1回	土壌くん蒸	1回
いちじく (苗木)	白絹病 センチュウ類	〈圃場〉 1穴当り 3mL	1回	土壌くん蒸	1回
あぶらな科野菜 (キャベツ、こまつな を除く)	萎黄病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1穴当り 3～6mL 〈圃場〉 1穴当り 2～3mL	1回	土壌くん蒸	1回
こまつな	萎黄病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1穴当り 3～6mL 〈圃場〉 1穴当り 2～3mL	1回	土壌くん蒸	2回以内 (床土1回以内)
だいこん	亀裂褐変症	〈床土・堆肥〉 1穴当り 3～6mL 〈圃場〉 1穴当り 2～3mL	1回	土壌くん蒸	1回
はくさい	黄化病 軟腐病 根くびれ病	〈床土・堆肥〉 1穴当り 3～6mL 〈圃場〉 1穴当り 2～3mL	1回	土壌くん蒸	1回
キャベツ	萎黄病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1穴当り 3～6mL 〈圃場〉 1穴当り 2～3mL	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)	土壌くん蒸	2回以内 (床土1回以内、 圃場1回以内)

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む 農薬の総使用回数
レタス	ビッグベイン病	<圃場> 1 穴当り 3mL	1 回	土壌くん蒸	1 回
	根腐病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 一年生雑草	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL			
非結球レタス (サグ菜を除く)	ビッグベイン病	<圃場> 1 穴当り 3mL	1 回	土壌くん蒸	1 回
	根腐病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 一年生雑草	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL			
サグ菜	ビッグベイン病	<圃場> 1 穴当り 3mL	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)	土壌くん蒸	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)
	根腐病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 一年生雑草	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL			
くきちしゃ	ビッグベイン病	<圃場> 1 穴当り 3mL	1 回	土壌くん蒸	1 回
	根腐病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 一年生雑草	<圃場> 1 穴当り 2～3mL			
ほうれんそう	萎凋病 立枯病 苗立枯病 ホソコウネモリ センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 一年生雑草	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	2 回以内 (床土 1 回以内)
ピーマン	萎凋病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 一年生雑草	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)	土壌くん蒸	3 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 2 回以内)
とうがらし類	萎凋病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 一年生雑草	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)	土壌くん蒸	3 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 2 回以内)

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む 農薬の総使用回数
トマト	青枯病 萎凋病 半身萎凋病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 一年生雑草	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)	土壌くん蒸	3 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 2 回以内)
ミニトマト	青枯病 萎凋病 半身萎凋病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 一年生雑草	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL L<圃場> 1 穴当り 2～3mL	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)	土壌くん蒸	3 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 2 回以内)
なす	青枯病 半身萎凋病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 一年生雑草	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	2 回以内 (床土 1 回以内)
うり科野菜 (すいか、きゅう り、メロン、にがうり、 うり類 (漬物用) を除く)	つる割病 白絹病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 一年生雑草	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	1 回
漬物用メロン	つる割病 白絹病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 一年生雑草	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)
メロン	つる割病 白絹病 黒点根腐病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 一年生雑草	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)	土壌くん蒸	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)
にがうり	疫病 つる割病 白絹病 苗立枯病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 一年生雑草	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	2 回以内 (床土 1 回以内)

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	クロロピクリンを含む 農薬の総使用回数
うり類 (漬物用、ただし、 漬物用ものを除く)	疫病 つる割病 白絹病 苗立枯病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネギシジミ類 一年生雑草	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	3 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 2 回以内)
きゅうり	疫病 つる割病 白絹病 苗立枯病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネギシジミ類 一年生雑草	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)	土壌くん蒸	3 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 2 回以内)
かぼちゃ (かぼちゃ台を含 む)	フザリウム立枯病	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL	1 回	土壌くん蒸	1 回
	フザリウム立枯病 一年生雑草	<圃場> 1 穴当り 3～4mL			
すいか	つる割病 白絹病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネギシジミ類 一年生雑草	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)	土壌くん蒸	3 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 2 回以内)
	ホトケシシ根腐病	<圃場> 1 穴当り 3mL			
いちご	萎黄病 炭疽病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネギシジミ類 一年生雑草	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)	土壌くん蒸	3 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 2 回以内)
アスパラガス	立枯病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネギシジミ類 一年生雑草	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	2 回以内 (床土 1 回以内)
セリ	萎黄病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネギシジミ類 一年生雑草	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)	土壌くん蒸	3 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 2 回以内)

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む 農薬の総使用回数
しょうが	根茎腐敗病 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1 穴当り 3～6mL 〈圃場〉 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	2 回以内 (床土 1 回以内)
葉しょうが	根茎腐敗病 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1 穴当り 3mL 〈圃場〉 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	2 回以内 (床土 1 回以内)
うど	萎凋病 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1 穴当り 3～6mL 〈圃場〉 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	1 回
にんじん	センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1 穴当り 3～6mL 〈圃場〉 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	1 回
ごぼう	黒あざ病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1 穴当り 3～6mL 〈圃場〉 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	2 回以内 (床土 1 回以内)
かんしょ	立枯病 つる割病 紋羽病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1 穴当り 3～6mL 〈圃場〉 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	1 回
さといも	疫病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1 穴当り 3～6mL 〈圃場〉 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	1 回
やまのいも	褐色腐敗病 根腐病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1 穴当り 3～6mL 〈圃場〉 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	1 回
やまのいも (むかご)	褐色腐敗病 根腐病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネキリムシ類 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1 穴当り 3mL 〈圃場〉 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	1 回

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	クロロピクリンを含む 農薬の総使用回数
ばれいしょ	そうか病	<圃場> 1 穴当り 3mL	1 回	土壌くん蒸	1 回
	青枯病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネコノコ類 一年生雑草	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL			
ねぎ	白絹病 一年生雑草	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)	土壌くん蒸	3 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 2 回以内)
あさつき	白絹病 一年生雑草	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)	土壌くん蒸	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)
わけぎ	白絹病 一年生雑草	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)	土壌くん蒸	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)
たまねぎ	苗立枯病 一年生雑草	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	1 回
せり科葉菜類 (セリを除く)	センチュウ類 ハガネシジミ類 ネコノコ類 立枯病 (パセリ) 一年生雑草	<圃場> 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	1 回
にんにく	根腐病 一年生雑草	<圃場> 1 穴当り 3mL	1 回	土壌くん蒸	1 回
薬用ニンジン	根腐病 一年生雑草	<圃場> 1 穴当り 3mL	1 回	土壌くん蒸	1 回
こんにゃく	乾腐病 白絹病 根腐病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネコノコ類 一年生雑草	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	1 回
豆類 (種実、ただし、い んげんまめを除 く)	立枯病 白絹病 センチュウ類 ハガネシジミ類 ネコノコ類 一年生雑草	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	1 回

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む 農薬の総使用回数
豆類 (未成熟、ただし、 さやいんげん、未成 熟そらまめ、さやえ んどう、実えんどう を除く)	立枯病 白絹病 センチュウ類 ハガネシジメ類 ネギシジメ類 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1 穴当り 3～6mL 〈圃場〉 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	1 回
さやえんどう	立枯病 白絹病 センチュウ類 ハガネシジメ類 ネギシジメ類 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1 穴当り 3～6mL 〈圃場〉 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	2 回以内 (床土 1 回以内)
実えんどう	立枯病 白絹病 センチュウ類 ハガネシジメ類 ネギシジメ類 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1 穴当り 3～6mL 〈圃場〉 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	2 回以内 (床土 1 回以内)
いんげんまめ	立枯病 白絹病 センチュウ類 ハガネシジメ類 ネギシジメ類 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1 穴当り 3～6mL 〈圃場〉 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	2 回以内 (床土 1 回以内)
さやいんげん	立枯病 白絹病 センチュウ類 ハガネシジメ類 ネギシジメ類 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1 穴当り 3～6mL 〈圃場〉 1 穴当り 2～3mL	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)	土壌くん蒸	3 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 2 回以内)
未成熟そらまめ	立枯病 白絹病 センチュウ類 ハガネシジメ類 ネギシジメ類 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1 穴当り 3～6mL 〈圃場〉 1 穴当り 2～3mL	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)	土壌くん蒸	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)
ふき	半身萎凋病	〈圃場〉 1 穴当り 3mL	1 回	土壌くん蒸	1 回
ふき (ふきのとう)	半身萎凋病	〈圃場〉 1 穴当り 3mL	1 回	土壌くん蒸	1 回
らっきょう	白絹病	〈圃場〉 1 穴当り 3mL	1 回	土壌くん蒸	1 回
みつば	立枯病	〈圃場〉 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	1 回



作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む 農薬の総使用回数
てんさい	黒根病 苗立枯病 センチュウ類 ハガネムシ類 ネムシ類 一年生雑草	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	1 回
あま	立枯病 センチュウ類 ハガネムシ類 ネムシ類 一年生雑草	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	1 回
麦類	立枯病 センチュウ類 ハガネムシ類 ネムシ類 一年生雑草	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	1 回
とうもろこし	白絹病 センチュウ類 ハガネムシ類 ネムシ類 一年生雑草	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	1 回
陸稲	センチュウ類 ハガネムシ類 ネムシ類 一年生雑草	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	1 回
花き類・観葉植物	青枯病 半身萎凋病 萎凋病 (フザリウム菌) 萎黄病 (フザリウム菌) 株枯病 (フザリウム菌) 乾腐病 (フザリウム菌) 球根腐敗病 (フザリウム菌) 立枯病 (フザリウム菌) 葉枯病 (フザリウム菌) 腐敗病 (フザリウム菌) センチュウ類 ハガネムシ類 ネムシ類 一年生雑草	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)	土壌くん蒸	3 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 2 回以内)
きく	白絹病 立枯病	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)	土壌くん蒸	3 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 2 回以内)
カーネーション	立枯病	<床土・堆肥> 1 穴当り 3～6mL <圃場> 1 穴当り 2～3mL	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)	土壌くん蒸	3 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 2 回以内)

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む 農薬の総使用回数
りんどう	褐色根腐病	〈床土・堆肥〉 1 穴当り 3～6mL 〈圃場〉 1 穴当り 2～3mL	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)	土壌くん蒸	3 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 2 回以内)
ストク	苗立枯病	〈床土・堆肥〉 1 穴当り 3～6mL 〈圃場〉 1 穴当り 2～3mL	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)	土壌くん蒸	3 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 2 回以内)
デルフィニウム	立枯病	〈床土・堆肥〉 1 穴当り 3～6mL 〈圃場〉 1 穴当り 2～3mL	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)	土壌くん蒸	3 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 2 回以内)
スターチス	萎凋細菌病	〈床土・堆肥〉 1 穴当り 3～6mL 〈圃場〉 1 穴当り 2～3mL	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)	土壌くん蒸	3 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 2 回以内)
ゆり	萎凋細菌病	〈床土・堆肥〉 1 穴当り 3～6mL 〈圃場〉 1 穴当り 2～3mL	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)	土壌くん蒸	3 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 2 回以内)
ほおずき	軟腐病	〈床土・堆肥〉 1 穴当り 3～6mL 〈圃場〉 1 穴当り 2～3mL	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)	土壌くん蒸	3 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 2 回以内)
トルコギキョウ	株腐病 苗立枯病	〈床土・堆肥〉 1 穴当り 3～6mL 〈圃場〉 1 穴当り 2～3mL	2 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 1 回以内)	土壌くん蒸	3 回以内 (床土 1 回以内、 圃場 2 回以内)
桑	紋羽病	1 穴当り 6～ 12mL	1 回	土壌くん蒸	1 回
たばこ	白絹病 立枯病 セチム類 ハリガネシ類 ネリムシ類 一年生雑草	〈床土・堆肥〉 1 穴当り 3～6mL 〈圃場〉 1 穴当り 2～3mL	1 回	土壌くん蒸	1 回

## 使用上の注意事項

- (1) 温度が低いと本剤のガス化が悪く、十分な効果が得られないこともあるので、なるべく地温が7℃以上の時使用すること。
- (2) 本剤を処理する場合、液漏れ、液だれがなく正確に注入量を調節できる土壤消毒機を使用すること。本剤を床土・堆肥に処理する場合は、床土・堆肥を30cmの高さに積み、30×30cmごとの深さ約15cmの位置に所定量を注入し、直ちに覆土する。更に30cmの高さに積み上げ、これをくり返し、最後にポリエチレン、ビニール等で被覆し、7日以上おくこと。本剤を圃場に処理する場合は、耕起、整地後、全面処理の場合は、30×30cmごとの深さ約15cmの位置に所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆すること。播種溝処理、植穴処理、うね処理の場合も全面処理に準じて処理すること。処理後10日以上経過してから播種または移植すること。りんご、桑に使用する場合は、あらかじめ病株、病根等を除去した後、約60cmの深さに耕起、整地し、全面処理の場合は、30×30cmごとの深さ30～40cmの位置に所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆すること。処理後20日以上経過してから植付ける。植穴処理の場合も全面処理に準じて処理すること。
- (3) 本剤の処理に当たっては、ガスが土中で十分拡散するよう耕起、砕土を十分に行い、丁寧に整地してから処理すること。但し、耕起直後ではガスが抜けやすいので、耕起後しばらくたって土壌がおちついてから処理することが望ましい。また、土中でのガスの拡散は土の湿り気のある時、すなわち土を握って放すと割れ目ができる程度の時に注入するのが最適である。注入部位を直ちに覆土し、地表面をポリエチレン、ビニール等で被覆すること。
- (4) 地温が15℃以上の時は処理後10日位、また、地温が低い時は処理後20～30日経過するとガスは大体抜けるが、念のためくわを入れ、土質、気温等により、なお臭気が残っている時は、よく切り返し、完全にガス抜きを行ってから、播種あるいは移植すること。うり類は本剤のガスに弱いので、ガス抜きは特に丁寧に行うよう注意すること。
- (5) 本剤でくん蒸した本圃に豆科植物を栽培するときは、根りゅう菌が死滅しているおそれがあるので、根りゅう菌を接種して、播種すること。
- (6) 作物の生育中には薬害を生ずるので使用しないこと。隣接地に生育中の作物がある場合には、揮散ガスによる薬害に注意すること。特に、生育中の作物があるハウス内では使用しないこと。
- (7) りんご、桑等の跡地消毒の場合、隣接株より50cm以上離して処理すること。また、ガスの抜けを確認してから植付けること。
- (8) ミツバチの巣箱周辺での使用はさけること。
- (9) 消石灰などのアルカリ性肥料の施用直後に本剤を処理すると作物に有害な物質を作り、薬害の発生するおそれがあるので、このような肥料はガス抜き後に施用するか、または本剤処理の10日以上前に施用すること。
- (10) 他剤と混用しないこと。特にカーバム剤およびカーバムナトリウム剤とは化学反応により、発熱し危険であるので、カーバム剤及びカーバムナトリウム剤使用後の散布器具等はよく洗浄してから用いること。
- (11) 金属腐食性があるので、使用後の注入器具その他は灯油でよく洗うこと。
- (12) 薬液の入っている製品缶に水が混入すると缶が腐食するおそれがあるので、製品缶には水を入れないこと。
- (13) 土壤消毒機の薬液タンク（ポリタンク等）に移した薬液は水分を含んでいる可能性があり、製品缶を腐食するおそれがあるので、残存薬液は製品缶に戻さず、使い切ること。
- (14) 処理後の放置期間と効果・薬害との関係は、土壌の種類、腐植土の多少、温度、土壌水分、作物の種類によって様ではないので、本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意すること。特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 医薬外用劇物。取扱いには十分注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤は窒息性有毒ガスを発生するので、揮散したガスを吸い込まないように注意すること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、通風の良好な場所で顔を横に向け、体を暖めながら直ちに医師の手当を受けること。場合によっては、酸素吸入又は人工呼吸を行い、強心剤等を投与する。
- (2) 本剤は催涙性の刺激を有し、眼、のど、鼻を刺激するので注意すること。ガスが眼に入りひどく痛む時は、多量の水でよく洗い速やかに眼科医の手当を受けること。
- (3) 本剤は皮膚に対して強い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 本剤の投薬作業の際は吸収缶（活性炭入り）付き防護マスク、保護眼鏡、不浸透性手袋、ゴム長靴、不浸透性防除衣などを着用すること。ガス抜き作業の際も同様の防護マスク、保護眼鏡を着用すること。作業の際はガスを吸い込まないように風向き等を十分考慮すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするともに洗眼すること。
- (5) 本剤が衣服等に付いた場合には、脱衣して他のものとは分けてよく洗濯し、本剤の臭気が抜けるまで身につけないこと。

- (6) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- (7) 作業中及びくん蒸中の圃場へ小児等作業に関係のないものや家畜、家禽が立ち入らないよう十分注意すること。
- (8) 揮散ガスによる危被害を防止するため、本剤の処理は朝夕の気温の低い時間帯に行うこと。処理後は直ちに、必ずビニール等で被覆を行うこと。
- (9) 住宅、畜舎、鶏舎周辺での使用に当っては、以下の事項に留意し、ガスによる危被害の発生防止に十分配慮すること。
  - 1) 高温期の処理を避け、気温の低い季節に処理するのが望ましい。
  - 2) 住宅、畜舎、鶏舎が風下になる場合、処理を控えること。
  - 3) 被覆資材は厚めのもの (0.03mm 以上) を使用すること。
  - 4) 風の強さや向きが変わり、危被害を及ぼす恐れがある場合は、ガス抜き作業を中断すること。
- (10) 本剤をビニールハウス等の施設内で使用する場合、出入口、天窗、側窓等を開け通気をよくして作業を行うこと。作業後は直ちに密閉し、臭気が残っている期間にはハウス内へ入らないこと。くん蒸後はハウスを開放し、十分換気した後に入室すること。
- (11) 本剤を使用する場合、注入処理と同時に被覆する機能を備えた土壌消毒機を使用することが望ましい。

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨**-----

- (1) 本剤は水産動植物（魚類、甲殻類、藻類）に強い影響を及ぼすので、河川、湖沼、海域及び養殖池に本剤が飛散、流入する恐れのある場所では使用しないこと。
- (2) 散布器具、容器の洗浄水及び残りの薬液は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨**-----

本剤は皮膚に対して強い刺激性がある。

**貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、鍵のかかるなるべく低温な場所に密栓して保管すること。

## オリゼメート®リディア®箱粒剤

- 特長：
- 水稲の重要病害虫である、いもち病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガに優れた効果を発揮します。新規殺虫成分フルピリミンは既存殺虫剤への感受性が低下した害虫に対しても殺虫活性を示します。
  - ミツバチを始め、ウズキコモリグモ、ヤゴなどの有用昆虫に影響はほとんどありません。

オリゼメート、リディアは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	フルピリミン・・・2.0% プロベナゾール(化管法第1種)・・・3.2%	包装	1kg×12
性状	類白色～淡褐色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルピリミンを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲(育苗箱)	いもち病 イネミズゾウムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ フタオビコヤガ イゴ類	育苗箱 (30×60×3cm 使用土壌約5L) 1箱当り50g  高密度に は種する場合は 1kg/10a (育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50～100g)	移植 3日前～ 移植当日  移植 3日前～ 移植当日	1回  1回	育苗箱の 苗の上か ら均一に 散布する。  育苗箱の 苗の上か ら均一に 散布する。	3回以内 (移植時までの処理 は1回以内、本田で は2回以内)	2回以内 (移植時までの処理 は1回以内)

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきることを。
- (2) 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植すること。
- (3) 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
- (4) 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当りに乾粒として200～300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50～100gまでの範囲で調整すること。
- (5) 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などでは薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
- (6) 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生じる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
- (7) 処理苗を移植する本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出しないよう注意すること。
- (8) 処理苗を本田に移植した後は、そのまま湛水状態(湛水深3～5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
- (9) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田での使用はさけること。

- (10) 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予想される場合には使用をさけること。
- (11) 本剤は処理を誤ると、生育初期の葉の黄化や生育遅延などの薬害を生じるので、所定の使用時期、使用方法を守ること。
- (12) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

**人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法**-----

- (1) 剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。  
作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- (5) 夏期高温時の使用をさけること。

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨**-----

水産動植物(魚類) に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨**-----

通常の使用方法ではその該当がない。

**貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 23706 号

## ガッツスター®粒剤

●1成分で2つの作用性（メラニン生合成阻害 MBI-P と病害抵抗性修道）を持つ有効成分トルプロカルブを配合し、いもち病菌を強力にブロックします。

特長： ●いもち病に加えて、紋枯病、稲こうじ病、墨黒穂病、ウンカ類、斑点米カメムシ類などに効果のある本田処理粒剤です。

●殺虫効果と吸汁阻害効果で、カメムシによる斑点米被害を効率的に防ぎます。

ガッツスターは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ジノテフラン（化管法第1種）・・・1.67% シメコナゾール・・・1.5% トルプロカルブ・・・3.0%	包装	3kg×6
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

\*普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用病害虫及び使用方法】

2020年8月26日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数	シメコナゾールを含む農薬の総使用回数	トルプロカルブを含む農薬の総使用回数
稲	カメムシ類 ウンカ類 ツマグロヨコバイ フタホシコガ いもち病 紋枯病 稲こうじ病 もみ枯細菌病 穂枯れ (ごま葉枯病菌) 墨黒穂病	3kg/10a	出穂5日前まで 但し、収穫 45日前まで	1回	湛水 散布	4回以内 (育苗箱への 処理及び 側条施用は 合計1回以 内、 本田での散 布、空中散 布、無人航 空機散布は 合計3回以 内)	2回以内 (移植時ま での処理は 1回以内)	2回以内 (移植時ま での処 理は1回以 内、 本田での 湛水散布、 無人航空機 散布、 投げ入れは 合計1回以 内)

### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきることを。
- (2) 散布に当たっては、湛水状態（水深3cm程度）で重複をさけ均一に散布し、散布後少なくとも4～5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水及びかけ流しをしないこと。なお漏水の激しい水田では使用をさけること。
- (3) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (4) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - 1) ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - 2) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (5) 空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。

- (6) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。とくに本剤をはじめて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (3) 散布の際は防護マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光を避け、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。



登録番号 第 17764 号

## コラトップ®トレボン®粒剤

特長： ●いもち病・ウンカ類・ニカメイチュウ等を同時防除できる本田処理粒剤です。

コラトップはシンジェンタ社の登録商標 トレボンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	エトフェンプロックス（化管法第1種）・・・1.0% ピロキロン・・・5.0%	包装	3kg×8
性状	灰色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用病害虫及び使用方法】

2018年9月26日付内容。

作物名	適用病害虫名	使用量	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数	ピロキロンを含む農薬の総使用回数
稲	コメイチュウ第1世代 付コ類	4kg/10a	散布	出穂5日前 まで	2回 以内	3回以内	3回以内 (直播では種時 又は移植時までの 処理は1回以内、 本田では2回以内)
	いもち病 ツマグロヨコバイ ウカ類	3~4 kg/10a					

### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 本剤は湛水状態（湛水深3~5cm）でまきむらのないように均一に散布し、散布後少なくとも3~4日間はそのまま湛水状態を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないように注意し、また散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。なお漏水の激しい水田では使用をさけること。
- (3) 本剤はいもち病防除を主体とするので、いもち病に対する使用適期を基準として使用すること。葉いもち防除は初発10日前~初発時に、また穂いもち防除は、出穂30日前~5日前に時期を失しないように散布すること。
- (4) 蚕に対して長期間毒性があるので、絶対に桑葉にかからないようにすること。
- (5) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - 1) ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - 2) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (6) イナゴ類に使用する場合には、本剤の散布適期は幼虫の本田侵入最盛期であることから遅れないように散布すること。
- (7) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤食などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けさせること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。また粉末を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、使用後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----**

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----**

通常の使用方法ではその該当がない。

**貯蔵上の注意事項-----**

直射日光を避け、食品と区別してなるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 21871 号

## コラトップ®スタークル®1 キロ粒剤

- いもち病・ウンカ類・斑点米カメムシ類を同時防除できる本田処理粒剤です。  
 特長： ●地上散布と無人航空機散布の両方に対応した1キロ製剤です。  
 ●殺虫効果と吸汁阻害効果で、カメムシによる斑点米被害を効率的に防ぎます。

コラトップはシンジェンタ社の登録商標 スタークルは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ジノテフラン（化管法第1種）・・・5.0% ピロキロン・・・15.0%	包装	1kg×12
性状	淡褐色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用病害虫及び使用方法】

2018年9月26日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数	ピロキロンを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 ウンカ類 カメムシ類 ツマグロヨコバイ	1kg/10a	出穂5日前まで	2回以内	散布 無人航空機による散布	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内 (直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)

### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきることを。
- (2) 散布に当っては、湛水状態（水深3cm程度）で重複をさけ均一に散布し、散布後少なくとも4～5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水及びかけ流しをしないこと。
- (3) 本剤を散布した水田の田面水を他作物の灌水に用いないこと。
- (4) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整し、飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m離れた位置から圃場内に散布すること。
  - 2) 豆、野菜類には薬害を生ずるおそれがあるので、付近にある場合には、かからないように注意して散布すること。
  - 3) 散布薬剤の飛散によって他の動植物等へ影響を与えないよう散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
  - 4) 散布薬剤の飛散によって、自動車、壁などの塗装面が変色する恐れがあるので、散布薬剤が付着しないよう注意すること。
  - 5) 薬剤が水源池、飲料用水、養殖池、養魚田などに飛散、流入しないように十分注意すること。
  - 6) 使用後の機体散布装置は十分洗浄し、タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
  - 7) 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に責任者を決めて保管すること。
- (5) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (6) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - 1) ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - 2) 関係機関（都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。

- (7) 容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (8) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

**人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法**-----

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。使用後は洗眼すること。
- (2) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分に注意すること。

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨**-----

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨**-----

通常の使用方法ではその該当がない。

**貯蔵上の注意事項**-----

直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 24125 号

# サンエース®箱粒剤

**特長：**

- 1成分で2つの作用性（メラニン生合成阻害 MBI-P と病害抵抗性修道）を持つ有効成分トルプロカルブを配合し、いもち病菌を強力にブロックします。
- 有効成分シメコナゾール配合で、紋枯病・稲こうじ病にも効果があります。
- 有効成分ピラキサルト配合で、ウンカ類を長期間防除できます。
- 有効成分クロラントラニプロール配合で、初期害虫・チョウ目害虫等を長期間防除できます。
- 側条施用でも使用できます。

サンエースは三井化学アグロ(株)の登録商標です。

有効成分	クロラントラニプロール・・・0.75% トリフルメゾピリム・・・0.75% シメコナゾール・・・4.5% トルプロカルブ・・・4.0%	包装	1kg×12
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

**【適用病害虫及び使用方法】**

2023年3月8日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 稲こうじ病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 白葉枯病 穂枯れ（ごま葉枯病菌） ウンカ類	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	移植3日前～ 移植当日	1回	育苗箱の 上から均一に 散布する。
	ツマグロヨコバイ イトヨモトシ イネズミザウムシ コブメガ ニカメテウ フタヒコガ イトムシ	高密度には種する場合は 1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50～100g)			
稲	いもち病 イトヨモトシ イネズミザウムシ ウンカ類	1kg/10a	移植時	1回	側条施用

クロラントラニプロールを含む 農薬の総使用回数	トリフルメゾピリムを含む 農薬の総使用回数	シメコナゾールを含む 農薬の総使用回数	トルプロカルブを含む 農薬の総使用回数
1回	1回	2回以内 (移植時までの処理は 1回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内、 本田での湛水散布、 無人航空機散布、 投げ入れは合計1回以内)

#### 使用上の注意事項

- (1) 本剤を育苗箱に処理する場合は、次の注意事項を守ること。
  - 1) 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約 5L）1箱当りに乾粒として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。
  - 2) 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
  - 3) 本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水してから田植機にかけて移植すること。育苗箱に高密度には種した場合は、とくに注意して葉に付着した薬剤を払い落とすこと。
  - 4) 葉先枯れなどの薬害を生じることもあるので、散布ムラがないよう均一に散布すること。(2) 本剤を移植時に使用する場合は、専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
- (2) 本剤を移植時に使用する場合は、専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
- (3) 容器・空袋はほ場などに放置せず、適切に処理すること。
- (4) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 散布の際は防護マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (2) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 24124 号

# サンスパイク®箱粒剤

**特長：**

- 1成分で2つの作用性（メラニン生合成阻害 MBI-P と病害抵抗性修道）を持つ有効成分トリプロカルブを配合し、いもち病菌を強力にブロックします。
- 有効成分ピラキサルト配合で、ウンカ類を長期間防除できます。
- 有効成分クロラントラニプロール配合で、初期害虫・チョウ目害虫等を長期間防除できます。
- 側条施用でも使用できます。
- 農林水産省「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」に掲載された農薬です。

サンスパイクは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	クロラントラニプロール・・・0.75% トリフルメゾピリム・・・0.75% トリプロカルブ・・・4.0%	包装	1kg×12 3kg×6
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

**【適用病害虫及び使用方法】**

2022年2月24日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数	トリフルメゾピリムを含む農薬の総使用回数	トリプロカルブを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 白葉枯病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネトヨイトムシ イネズミゾウムシ コメメイガ コメテムシ アザヒコバ イネトムシ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	移植 3日前 ～ 移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	1回	1回	2回以内 (移植時までの処理は 1回以内、 本田での 湛水散布、 無人航空機 散布、 投げ入れは 合計1回以内)
		高密度に は種する場合は 1kg/10a (育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50～100g)						
稲	いもち病 ウンカ類 イネトヨイトムシ イネズミゾウムシ	1kg/10a	移植時	1回	側条施用	1回	1回	2回以内 (移植時までの処理は 1回以内、 本田での 湛水散布、 無人航空機 散布、 投げ入れは 合計1回以内)

## 使用上の注意事項

- (1) 本剤を育苗箱に処理する場合は、次の注意事項を守ること。
  - 1) 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約 5L）1箱当りに乾粒として200 から300g 程度を高密度には種する場合は、10a 当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10a までとなるよう、育苗箱 1 箱当りの薬量を50 から100g までの範囲で調整すること。
  - 2) 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
  - 3) 本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水してから田植機にかけて移植すること。育苗箱に高密度には種した場合は、とくに注意して葉に付着した薬剤を払い落とすこと。
  - 4) 葉先枯れなどの薬害を生じることもあるので、散布ムラがないよう均一に散布すること。
- (2) 本剤を移植時に使用する場合は、専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
- (3) 容器・空袋はほ場などに放置せず、適切に処理すること。
- (4) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

通常の使用方法ではその該当がない。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (2) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

## 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。



登録番号 第 23708 号

## サントリプル®箱粒剤

- 特長：
- 1成分で2つの作用性（メラニン生合成阻害 MBI-P と病害抵抗性修道）を持つ有効成分トルプロカルブを配合し、いもち病菌を強力にブロックします。
  - 作用性の異なる2つの殺虫成分の組み合わせにより、初期害虫・コブノメイガ・ウンカ類を長期間防除できます。
  - ジノテフランを高含量・溶出制御化した製剤で、イネクロカメムシやイナゴ類も防除できます。
  - 農林水産省「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」に掲載された農薬です。

サントリプルは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	クロラントラニプロール・・・0.75% ジノテフラン（化管法第1種）・・・6.0% トルプロカルブ・・・4.0%	包装	1kg×12
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

\*普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2021年10月27日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数	ジノテフランを含む農薬の総使用回数	トルプロカルブを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	ウカ類 ツマグロヨコバイ イトヨリス イネズミ コブノメイガ カメムシ イトヨリス フタトゲカヤクサ イナゴ類 イネカメムシ いもち病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 白葉枯病	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌 約5L) 1箱当り 50g  高密度に は種する場合は 1kg/10a (育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50～100 g)	移植 3日前～ 移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	1回	4回以内 (育苗箱への 処理及び 側条施用は 合計1回以内、 本田での散布、 空中散布、 無人航空機 散布は 合計3回以内)	2回以内 (移植時までの 処理は 1回以内、 本田での湛水 散布、 無人航空機 散布、 投げ入れは 合計1回以内)
稲	いもち病 イトヨリス イネズミ	1kg/10a	移植時	1回	側条施用			

#### 使用上の注意事項

- (1) 本剤を育苗箱に処理する場合は、次の注意事項を守ること。
  - 1) 育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約 5L) 1 箱当りに乾粒として 200 から 300g 程度を高密度には種する場合は、10a 当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が 1kg/10a までとなるよう、育苗箱 1 箱当りの薬量を 50 から 100g までの範囲で調整すること。
  - 2) 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
  - 3) 本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水してから田植機にかけて移植すること。育苗箱に高密度には種した場合は、とくに注意して葉に付着した薬剤を払い落とすこと。
  - 4) 葉先枯れなどの薬害を生じることもあるので、散布ムラがないよう均一に散布すること。
- (2) 本剤を移植時に使用する場合は、専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
- (3) 容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (4) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物 (甲殻類) に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (2) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常的使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 23840 号

## サンフェスタ®箱粒剤 (JA)

●1成分で2つの作用性（メラニン生成阻害 MBI-P と病害抵抗性修道）を持つ有効成分トルプロカルブを配合し、いもち病菌を強力にブロックします。

- 特長： ●作用性の異なる2つの殺虫成分の組み合わせにより、初期害虫・コブノメイガ・ウンカ類を長期間防除できます。  
●ジノテフランを高含量・溶出制御化した製剤で、イネクロカメムシやイナゴ類も防除できます。  
●農林水産省「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」に掲載された農薬です。

サンフェスタは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	クロラントラニプロール・・・0.75% ジノテフラン（化管法第1種）・・・6.0% トルプロカルブ・・・4.0%	包装	1kg×12 3kg×6
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

\*普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2021年10月27日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数	ジノテフランを含む農薬の総使用回数	トルプロカルブを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	ウカ類 ツマグロヨコバイ イトヨトビ イネズミ コブノメイガ コメイト イトミ フタホシ イコ類 イネカミシ いもち病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 白葉枯病	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌 約5L) 1箱当り 50g  高密度には種 する場合は 1kg/10a（育 苗箱(30×60× 3cm、使用土壌 約5L) 1箱当 り 50～100g)	移植 3日前～ 移植当日	1回	育苗箱 の上から均一 に散布する。	1回	4回以内 (育苗箱への 処理及び 側条施用は 合計1回以内、 本田での散布、 空中散布、 無人航空機 散布は 合計3回以内)	2回以内 (移植時までの 処理は1回以内、 本田での 湛水散布、 無人航空機散 布、 投げ入れは 合計1回以内)
稲	いもち病 イトヨトビ イネズミ	1kg/10a	移植時	1回	側条施 用	1回	4回以内 (育苗箱への処理 及び側条施用は合 計1回以内、本田 での散布、空中散布、 無人航空機散布は 合計3回以内)	2回以内 (移植時までの 処理は1回以内、 本田での湛水散 布、無人航空機 散布、投げ入れ は合計 回以内)

## 使用上の注意事項

- (1) 本剤を育苗箱に処理する場合は、次の注意事項を守ること。
  - 1) 育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約 5L) 1 箱当りに乾粒として 200 から 300g 程度を高密度には種する場合は、10a 当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が 1kg/10a までとなるよう、育苗箱 1 箱当りの薬量を 50 から 100g までの範囲で調整すること。
  - 2) 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
  - 3) 本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水してから田植機にかけて移植すること。育苗箱に高密度には種した場合は、とくに注意して葉に付着した薬剤を払い落とすこと。
  - 4) 葉先枯れなどの薬害を生じることもあるので、散布ムラがないよう均一に散布すること。
- (2) 本剤を移植時に使用する場合は、専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
- (3) 容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (4) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物 (甲殻類) に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (2) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

## 貯蔵上の注意事項

直射日光を避け、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 24485 号

## Cs. オリゼ®リディア®EV 箱粒剤

- 特長：
- 本剤は育苗箱処理、移植時側条施用、は種時土中施用（湛水直播水稻）と様々な施用方法で使用できます。
  - 水稻の重要病害虫である、いもち病、紋枯病、イネミズゾウムシ、イネドロオウムシなどに優れた効果を発揮します。新規殺虫成分フルピリミンは既存殺虫剤への感受性が低下した害虫に対しても殺虫活性を示します。
  - ミツバチへの影響はほとんどありません。

Cs. オリゼ、リディアは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	フルピリミン・・・2.0% プロベナゾール（化管法第1種）・・・16.0% ペンフルフェン（化管法第1種）・・・2.0%	包装	1kg×12 9kg×1
性状	褐色細粒	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルピリミンを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数	ペンフルフェンを含む農薬の総使用回数
湛水直播水稻	いもち病 イネミズゾウムシ	1kg/10a	は種時	1回	は種同時 施薬機を 用いて土 中施用す る。	3回以内 (は種時までの処理 は1回以内、本田で は2回以内)	2回以内 (は種時まで の処理は1回 以内)	1回
稲	いもち病 紋枯病 イネドロオウムシ イネミズゾウムシ	1kg/10a	移植時	1回	側条施用	3回以内 (直播ではは種時又 は移植時までの処理 は1回以内、本田で は2回以内)	2回以内 (移植時まで の処理は1回 以内)	1回
稲(箱育苗)	カメムシ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50g	移植3日 前～移植 当日	1回	育苗箱の 上から均 一に散布 する。	3回以内 (移植時までの処理 は1回以内、本田で は2回以内)	2回以内 (移植時まで の処理は1回 以内)	1回
	いもち病 紋枯病 イネドロオウムシ イネミズゾウムシ ウカ類		移植7日 前～移植 当日					
	いもち病 紋枯病 イネドロオウムシ イネミズゾウムシ ウカ類 カメムシ	高密度に は種する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50～100g)	移植3日 前～移植 当日	1回	育苗箱の 上から均 一に散布 する。	3回以内(移植時ま での処理は1回以 内、本田では2回以 内)	2回以内 (移植時まで の処理は1回 以内)	

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせて秤量し、使い切ること。
- (2) は種時に使用する場合は、直播栽培に使用し、専用のは種同時施薬機を用いること。
- (3) 移植時に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
  - 1) 専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
  - 2) 移植後は湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
  - 3) 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予想される場合には使用をさけること。
- (4) 育苗箱に処理する場合は、次の注意事項を守ること。
  - 1) 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落とした後、十分灌水すること。
  - 2) 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生じる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
  - 3) 軟弱徒長苗、むれ苗などでは薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
  - 4) 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
  - 5) 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
  - 6) 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
  - 7) 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
  - 8) 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
  - 9) 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当りに乾糶として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。
- (5) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合には使用をさけること。
- (6) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤食などのないよう注意すること。
- (2) 使用の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- (5) 夏期高温時の使用をさけること。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。  
また、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
- (2) 使用後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

## 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

## Cs. オリゼ®リディア®箱粒剤

- 特長：
- 本剤は育苗箱処理、移植時側条施用と様々な施用方法で使用できます。
  - 水稲の重要病害虫である、いもち病、イネミズゾウムシ、イネドロオウムシなどに優れた効果を発揮します。新規殺虫成分フルピリミンは既存殺虫剤への感受性が低下した害虫に対しても殺虫活性を示します。
  - ミツバチを始め、ウズキコモリグモ、ヤゴなどの有用昆虫に影響はほとんどありません。

Cs. オリゼ、リディアは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	フルピリミン・・・2.0% プロベナゾール（化管法第1種）・・・16.0%	包装	1kg×12 9kg×1
性状	淡褐色～褐色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルピリミンを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 イネドロオウムシ イネミズゾウムシ	1kg/10a	移植時	1回	側条施用	3回以内 (直播での場合は種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)
稲(箱育苗)	いもち病 ウカ類	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	移植3日前～移植当日	1回	育苗箱の苗の上から均一に散布する。	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)
	ツマグロヨコバイ ニカメイト イネドロオウムシ イネミズゾウムシ	高密度には種する場合は 1kg/10a (育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50～100g)	移植3日前～移植当日	1回	育苗箱の苗の上から均一に散布する。		

## 使用上の注意事項

- 移植時に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
  - 専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
  - 移植後は湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
- 育苗箱に処理する場合は、次の注意事項を守ること。
  - 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落としたのち、十分灌水すること。
  - 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生じる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
  - 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などでは薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
  - 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。

- 5) 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
  - 6) 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化・褐点を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
  - 7) 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
  - 8) 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当りに乾粒として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。
- (3) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合は使用をさけること。  
(4) 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。  
(5) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

##### (1) 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

###### 農薬使用者に係る注意事項

- ① 誤食などのないよう注意すること。  
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- ② 使用の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。  
作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ③ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ④ かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- ⑤ 夏期高温時の使用をさけること。

##### (2) 使用に際して講ずべき被害防止方法

該当なし

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。  
また、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。



登録番号 第 24506 号

## GP オリゼ®リディア®箱粒剤

特長：

- 田植えの忙しい時期を避けて、緑化期～移植当日までの都合の良い時に使用できます。
- 殺菌成分の「プロベナゾール」が植物体の防御機構を活性化し、いもち病に対して高い防除効果を示し、新規殺虫成分「フルピリミン」が、昆虫の神経伝達系に作用し、麻痺を引き起こして殺虫効果を発揮します。
- ミツバチを始め、ウズキコモリグモ、ヤゴなどの有用昆虫に影響はほとんどありません

GP オリゼ、リディアは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	フルピリミン・・・2.0% プロベナゾール（化管法第1種）・・・20.0%	包装	1 kg×12
性状	淡褐色～褐色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルピリミンを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	いもち病 イネノオシムシ イネズゾウムシ ウカ類 ツマグロヨコバイ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	緑化期～ 移植当日	1回	育苗箱の苗の上から均一に散布する。	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)
	もみ枯細菌病 内穎褐変病 白葉枯病 穂枯れ(ごま葉枯病) ニカメイト イナコ類 イナコバエ イネノモグリバエ フタホシコバエ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	移植3日前～移植当日	1回	育苗箱の苗の上から均一に散布する。		
	いもち病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 白葉枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) ウカ類 ツマグロヨコバイ イネノオシムシ イネズゾウムシ ニカメイト イナコ類 イナコバエ イネノモグリバエ フタホシコバエ	高密度には種する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50～100g)	移植3日前～移植当日	1回	育苗箱の苗の上から均一に散布する。	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルピリミンを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 イネグゾウムシ イネトコバネ	1kg/10a	移植時	1回	側条施用	3回以内 (直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)
湛水直播水稻	いもち病	1kg/10a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	3回以内 (は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (は種時までの処理は1回以内)

### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) は種時に使用する場合は、直播栽培に使用し、専用のは種同時施薬機を用いること。
- (3) 移植時に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
  - 1) 専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
  - 2) 移植後は湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
  - 3) 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- (4) 育苗箱へ処理する場合は、次の注意事項を守ること。
  - 1) 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落としした後、十分灌水すること。
  - 2) 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生じる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
  - 3) 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などでは薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
  - 4) 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
  - 5) 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態（湛水深3～5 cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
  - 6) 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
  - 7) 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
  - 8) 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当りに乾粒として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。
- (5) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合には使用をさけること。
- (6) 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化・褐点を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- (7) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

#### 農薬使用者に係る注意事項

- ① 誤食などのないよう注意すること。  
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- ② 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。  
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ③ 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。  
作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ④ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。

- ⑤ かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
  - ⑥ 期高温時の使用をさけること。
- (2) 使用に際して講ずべき被害防止方法  
該当なし

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨**-----

水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。  
また、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨**-----

通常の使用方法ではその該当がない。

**貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 23229 号

## 側条オリゼメート®フェルテラ®顆粒水和剤

- 特長：
- 側条施用でいもち病と水稲初期害虫の同時防除が可能です。
  - 田植・施肥・薬剤施用を同時におこなうことができ、極めて省力的です。

オリゼメートは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標、フェルテラはFMC Corporation またはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標です。

有効成分	クロラントラニプロール（化管法第1種）・・・1.5% プロベナゾール（化管法第1種）・・・48.0%	包装	500g×20
性状	淡褐色水和性細粒	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 イネノメイシ イネズグムシ	500g/10a	移植時	1回	ペースト肥料に混合し側条施肥 田植機で施用する。	1回	2回以内 (移植時までの 処理は1回以内)

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせて秤量し、使い切ること。
- (2) 予め本剤を同重量の水に混ぜ、これをペースト肥料に加えて均一に混合し、側条施肥田植機で本田に施用する。
- (3) 本剤と混合したペースト肥料は、その日のうちに使用すること。
- (4) 同一の病害虫を防除対象とする育苗施用薬剤とは併用しないこと。
- (5) 移植後は湛水状態(湛水深3~5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
- (6) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合には使用をさけること。
- (7) 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合は使用をさけること。
- (8) 容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (9) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤飲、誤食などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して強い刺激性があるので、薬剤の調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。  
眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 使用の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。  
作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (5) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触を避けること。
- (6) 夏期高温時の使用を避けること。

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----**

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないように注意して使用すること。
- (3) 使用後は水管理に注意すること。
- (4) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----**

通常の使用方法ではその該当がない。

**貯蔵上の注意事項-----**

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 24595 号

## 側条オリゼメート®リディア®顆粒水和剤

- 特長：
- 側条施用でいもち病と水稻初期害虫の同時防除が可能です。
  - 田植・施肥・薬剤施用を同時におこなうことができ、極めて省力的です。

オリゼメート、リディアは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	フルピリミン・・・4.0% プロベナゾール(化管法第1種)・・・48.0%	包装	500g×20
性状	淡褐色水和性細粒	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルピリミンを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 いもち病	500g/10a	移植時	1回	ペースト肥料に混合し側条施肥田植機で施用する。	3回以内 (直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせて秤量し、使いきること。
- (2) 予め本剤を同重量の水に混ぜ、これをペースト肥料に加えて均一に混合し、側条施肥田植機で本田に施用する。
- (3) 本剤と混合したペースト肥料は、その日のうちに使用すること。
- (4) 同一の病害虫を防除対象とする育苗施用薬剤とは併用しないこと。
- (5) 移植後は湛水状態(湛水深3~5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
- (6) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合には使用をさけること。
- (7) 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合は使用をさけること。
- (8) 容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (9) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法  
農薬使用者に係る注意事項
  - ① 誤飲、誤食などのないよう注意すること。
  - ② 使用の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。  
作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
  - ③ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
  - ④ かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
  - ⑤ 夏期高温時の使用をさけること。
- (2) 使用に際して講ずべき被害防止方法  
該当なし

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 使用後は河川、養殖池等に流入しないよう、水管理に注意すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

## ツインキック®箱粒剤

●1成分で2つの作用性（メラニン生合成阻害 MBI-P と病害抵抗性修道）を持つ有効成分トルプロカルブを配合し、いもち病菌を強力にブロックします。

特長： ●有効成分シアントラニプロール配合で、初期害虫・チョウ目害虫・イナゴ類等を長期間防除できます。

●側条施用でも使用できます。

●農林水産省「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」に掲載された農薬です。

ツインキックは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	シアントラニプロール・・・0.75% トルプロカルブ・・・9.0%	包装	1kg×12 3kg×6 10kg×1 (JA) 20kg×2 (JA)
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2022年2月9日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数	トルプロカルブを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 白葉枯病 いもち病 いもち病 いもち病 いもち病 いもち病	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	移植 3日前～ 移植当日	1回	育苗箱の上 から均一に 散布する。	1回	2回以内 (移植時までの 処理は1回以内、 本田での 湛水散布、 無人航空機散布、 投げ入れは 合計1回以内)
		高密度に は種する場合は 1kg/10a (育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50～100g)					
	イナゴ類 いもち病	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	移植当日				
		高密度に は種する場合は 1kg/10a (育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50～100g)					



作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニリブ ロールを含む農薬 の総使用回数	トルプロカルブ を含む農薬の総 使用回数
稲	いもち病 イネノメイムシ イネズグムシ	1kg/10a	移植時	1回	側条施用	1回	2回以内 (移植時までの 処理は1回以内、 本田での 湛水散布、 無人航空機散布、 投げ入れは 合計1回以内)

#### 使用上の注意事項

- (1) 本剤を育苗箱に処理する場合は、次の注意事項を守ること。
  - 1) 育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約 5L) 1箱当りに乾粒として 200 から 300g 程度を高密度には種する場合は、10a 当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が 1kg/10a までとなるよう、育苗箱 1箱当りの薬量を 50 から 100g までの範囲で調整すること。
  - 2) 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
  - 3) 本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水してから田植機にかけて移植すること。育苗箱に高密度には種した場合は、とくに注意して葉に付着した薬剤を払い落とすこと。
  - 4) 葉先枯れなどの薬害を生じることもあるので、散布ムラがないよう均一に散布すること。
- (2) 本剤を移植時に使用する場合は、専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
- (3) 容器・空袋はほ場などに放置せず、適切に処理すること。
- (4) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 21482 号

## Dr. オリゼ®アドマイヤー®箱粒剤

- 育苗箱施用で、水稻初期・中期の主要病害虫であるいもち病、白葉枯病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ツマグロヨコバイ、ウンカ類等を同時防除できます。
- 育苗箱当り 50 g 施用で、長期間にわたって高い効果を示すので、省力的、経済的です。
- 育苗箱施用だけでなく、移植時側条施用、湛水直播水稻では種時土中施用もできます。

Dr. オリゼは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標、アドマイヤーはバイエルクロップサイエンス(株)の登録商標です。

有効成分	イミダクロプリド (化管法第1種)・・・2.0% プロベナゾール (化管法第1種)・・・24.0%	包装	1kg×12 9kg×1
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
湛水直播水稻	いもち病 イネミズゾウムシ	1kg/10a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	3回以内 (は種時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	2回以内 (は種時までの処理は1回以内)
稲	いもち病 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ ツマグロヨコバイ ウンカ類	1kg/10a	移植時		側条施用	3回以内 (は種時(直播)又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)
稲(箱育苗)	いもち病 白葉枯病 イネドロオイムシ イネミズゾウムシ ツマグロヨコバイ ウンカ類	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50g 高密度には種する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50~100g)	移植2日前~移植当日	1回	育苗箱の苗の上から均一に散布する。	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせて秤量し、使いきること。
- (2) は種時に使用する場合は、直播栽培に使用し、専用のは種同時施薬機を用いること。

- (3) 移植時に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
  - 1) 専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
  - 2) 移植後は湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
  - 3) 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予想される場合には使用をさけること。
- (4) 育苗箱に処理する場合は、次の注意事項を守ること。
  - 1) 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落とし、そのまま田植機にかけて移植すること。
  - 2) 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
  - 3) 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
  - 4) 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
  - 5) 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
  - 6) 誤って過剰に使用したり、本剤使用後3日以上移植せずに育苗箱中におくと葉枯れなどの薬害を生じることもあるので、所定の使用量、使用時期、使用方法を厳守すること。
  - 7) 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
  - 8) 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当りに乾粒として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。
- (5) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田は使用をさけること。
- (6) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- (5) 夏期高温時の使用をさけること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 使用後は水管理に注意すること。
- (3) 器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 22416 号

## Dr. オリゼ®スタークル®箱粒剤

- 特長：
- 病害抵抗性誘導で耐性菌リスクの小さいプロベナゾールと幅広い殺虫活性を示すジノテフランを混合した箱処理剤です。
  - 処理時期が緑化期～移植当日と幅広く、栽培計画に合わせた処理が可能です。
  - 農林水産省「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」に掲載された農薬です。

Dr. オリゼ、スタークルは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ジノテフラン（化管法第1種）・・・2.0% プロベナゾール（化管法第1種）・・・25.0%	包装	1kg×12 3kg×6 10kg×1（JA）
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2016年7月6日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 ウカ類 イネズグウムシ イネトオムシ ツマガロコバエ コメテウモリ イネカマムシ もみ枯細菌病 白葉枯病	育苗箱 (30×60×3cm) 使用土壌 約5L) 1箱当り 50g	緑化期～ 移植当日	1回	育苗箱の 苗の上から均一に 散布する。	4回以内 (育苗箱への処理 及び側条施用は 合計1回以内、 本田での散布、 空中散布、 無人機散布は 合計3回以内)	2回以内 (移植時までの処理 は1回以内)
	フタヒレコバエ		移植3日前 ～移植当日				

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきることを。
- (2) 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落とした後、十分灌水すること。
- (3) 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生じる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
- (4) 軟弱徒長苗、むれ苗などでは薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
- (5) 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
- (6) 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
- (7) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合には使用をさけること。
- (8) 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- (9) 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- (10) 容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。

- (11) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- (5) 夏期高温時の使用をさけること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
- (2) 移植後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (3) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 23076 号

Dr. オリゼ<sup>®</sup>スタークル<sup>®</sup>箱粒剤 OS

●病害抵抗性誘導で耐性菌リスクの小さいプロベナゾールと幅広い殺虫活性を示すジノテフランを混合した箱処理剤です。

特長： ●ジノテフランを高含量・溶出制御化した製剤で、初期害虫から斑点米カメムシまで防除できます。

●ドリフトや散布労力などの問題で本田防除が難しい地域に、省力的な防除方法（育苗箱処理）を提供します。

●農林水産省「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」に掲載された農薬です。

Dr. オリゼ、スタークルは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ジノテフラン（化管法第1種）・・・12.0% プロベナゾール（化管法第1種）・・・24.0%	包装	1kg×12
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2018年2月14日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	かみ類	育苗箱 (30×60×3cm) 使用土壌 約5L) 1箱当り 50g	移植当日	1回	育苗箱の 苗の上から均一に 散布する。	4回以内 (育苗箱への処理 及び側条施用は 合計1回以内、 本田での散布、 空中散布、 無人ヘリ散布は 合計3回以内)	2回以内 (移植時までの処理は 1回以内)
	ウカ類 イヌズヅウム イトモイム ツガロコバイ フカヒコガ イナハエ 付ゴ類 いもち病		移植3日前 ～ 移植当日				

## 使用上の注意事項

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落とした後、十分灌水すること。
- 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生じる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
- 軟弱徒長苗、むれ苗などでは薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
- 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
- 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意し、移植後7日間は落水、かけ流しはしないこと。
- 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合には使用をさけること。
- 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- 容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- (5) 夏期高温時の使用をさけること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
- (2) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 23202 号

## Dr. オリゼ®フェルテラ®グレータム®粒剤

- 特長：
- 育苗箱施用で、水稻初期・中期の主要病害虫であるいもち病、紋枯病、もみ枯細菌病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ツマグロヨコバイ等を同時防除できます。
  - 育苗箱当たり 50g 施用で、長期間にわたって高い効果を示すので、省力的、経済的です。
  - 育苗箱施用だけでなく、側条施用、直播同時土中施用もできます。

Dr. オリゼは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標、フェルテラはFMC Corporation またはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標、グレータムは日産化学(株)の登録商標です。の登録商標です。

有効成分	クロラントラニプロール・・・0.75% チフルザミド（化管法第1種）・・・3.0% プロベナゾール（化管法第1種）・・・24.0%	包装	1 kg×12 9kg×1
性状	淡褐色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数	チフルザミドを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
湛水直播水稻	いもち病 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ	1kg/10a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回	3回以内 (は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (は種時までの処理は1回以内)
稲	いもち病 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ	1kg/10a	移植時	1回	側条施用	1回	3回以内 (直播での場合は種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)
稲(箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 紋枯病 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ ツマグロヨコバイ フタバネヨコバイ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当たり50g	移植3日前～ 移植当日	1回	育苗箱の苗の上から均一に散布する。	1回	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)
		高密度には種する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L)1箱 当たり50～100g)	移植3日前～ 移植当日	1回	育苗箱の苗の上から均一に散布する。			



## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせて秤量し、使いきること。
- (2) 育苗箱に処理する場合は、次の注意事項を守ること。
  - 1) 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落とし、十分灌水すること。
  - 2) 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生ずる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
  - 3) 軟弱徒長苗、むれ苗などでは薬害を生ずるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
  - 4) 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
  - 5) 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
  - 6) 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- (3) 移植時に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
  - 1) 専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
  - 2) 移植後は湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
- (4) は種時に使用する場合は、直播栽培に使用し、専用のは種同時施薬機を用いること。
- (5) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合は使用をさけること。
- (6) 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- (7) 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
- (8) 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当りに乾糶として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。
- (9) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤食などのないよう注意すること。

誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。

作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (5) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触を避けること。
- (6) 夏期高温時の使用を避けること。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。

また、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
- (2) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (3) 使用後は水管理に注意すること。
- (4) 器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。

また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう、適切に処理すること。

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

## 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

## Dr. オリゼ®フェルテラ®粒剤

- 育苗箱施用で、水稻初期・中期の主要病害虫であるいもち病、もみ枯細菌病、白葉枯病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、イネツトムシ、フタオビコヤガ、コブノメイガ、ツマグロヨコバイ等を同時防除できます。
- 育苗箱当り 50g 施用で、長期間にわたって高い効果を示すので、省力的、経済的です。
- 育苗箱施用だけでなく、移植時側条施用、湛水直播水稻では種時土中施用もできます。

Dr. オリゼは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標、フェルテラはFMC Corporation またはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標です。

有効成分	クロラントラニプロール・・・0.75% プロベナゾール（化管法第1種）・・・24.0%	包装	1 kg×12 9kg×1
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

\*普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 イネドロオイムシ イネミズゾウムシ	1kg/10a	移植時	1回	側条施用	1回	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)
稲(箱育苗)	コブノメイガ	育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り 50g	移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	1回	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)
		高密度には種する場合は 1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り 50~100g)	移植当日	1回			
	もみ枯細菌病 白葉枯病 内穎褐変病 イネカモグリハエ	育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り 50g	移植3日前~移植当日	1回			
	いもち病 ツマグロヨコバイ フタオビコヤガ イネドロオイムシ イネミズゾウムシ ニカメイチュウ イネツトムシ	育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り 50g	緑化期~移植当日	1回			

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用方法	クロラントラニリ プロールを含む農 薬の総使用回数	プロベナゾール を含む農薬の総 使用回数
湛水直 播水稻	いもち病 イネノオコシ イネズゾウムシ	1kg/10a	は種時	1回	は種同時施 薬機を用い て土中施用 する。	1回	2回以内 (は種時までの処 理は1回以内)
稲(箱育 苗)	いもち病 もみ枯細菌病 白葉枯病 内穎褐変病 イネノオコシ イネズゾウムシ イネノコバエ ツグロコバエ フタホコバエ イネノオコシ イネズゾウムシ ニカメテウ イネノオコシ	高密度には種する場合は 1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50~100g)	移植3日 前~移植 当日	1回	育苗箱の上 から均一に 散布する。	1回	2回以内 (移植時までの処 理は1回以内)

#### 使用上の注意事項

- (1) は種時に使用する場合は、直播栽培に使用し、専用のは種同時施薬機を用いること。
- (2) 移植時に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
  - 1) 専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
  - 2) 移植後は湛水状態(湛水深3~5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
  - 3) 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予想される場合には使用をさけること。
- (3) 育苗箱に処理する場合は、次の注意事項を守ること。
  - 1) 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落としたのち、十分灌水すること。
  - 2) 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生じる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
  - 3) 軟弱徒長苗、むれ苗などでは薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
  - 4) 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
  - 5) 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態(湛水深3~5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
  - 6) 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
  - 7) 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- (4) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合は使用をさけること。
- (5) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤食などのないように注意すること。  
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。  
作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (5) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- (6) 夏期高温時の使用をさけること。

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----**

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (2) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----**

通常の使用方法ではその該当がない。

**貯蔵上の注意事項-----**

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 23596 号

## Dr. オリゼ®プリンス®スピノ粒剤6

●育苗箱施用で、水稻初期・中期の主要病害虫であるいもち病、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、フタオビコヤガ、ニカメイチュウ、イナゴ類等を同時防除できます。

●殺虫メカニズムの異なるスピノサドとフィプロニルが組み合わせられることでユニークな相乗効果が発揮されます。

Dr. オリゼは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標、プリンスはBASF社の登録商標、スピノはザ・ダウ・ケミカル・カンパニーまたはその関連会社商標です。

有効成分	スピノサド・・・0.75% フィプロニル・・・0.60% プロベナゾール（化管法第1種）・・・24.0%	包装	1kg×12 9kg×1
性状	類白色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

\*普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	スピノサドを含む農薬の総使用回数	フィプロニルを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	いもち病 イネドロオイムシ イネミズゾウムシ ニカメイチュウ イナゴ類 ウカ類	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当たり50g	移植3日前～移植当日	1回	育苗箱の苗の上から均一に散布する。	1回	1回	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)
	フタオビコヤガ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当たり50g	緑化期～移植当日					

## 使用上の注意事項

- 使用量に合わせて秤量し、使いきること。
- 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植すること。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などでは薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
- 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生じる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
- 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
- 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当りに乾粒として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。
- 処理苗を移植する本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出しないよう注意すること。
- 処理苗を本田に移植した後は、そのまま湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。

- (9) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田での使用はさけること。
- (10) 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- (11) 本剤は処理を誤ると、生育初期の葉の黄化や生育遅延などの薬害を生じるので、所定の使用時期、使用方法を守ること。
- (12) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤食などのないよう注意すること。  
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- (2) フィプロニルによる中毒に対しては、動物実験でフェノバルビタール製剤の投与が有効であると報告されている。
- (3) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (4) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。  
作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (5) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (6) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- (7) 夏期高温時の使用をさけること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
- (2) 移植後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (3) 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 20007 号

## Dr. オリゼ®プリンス®粒剤 10

- 特長：
- 育苗箱施用で、水稻初期・中期の主要病害虫であるいもち病、白葉枯病、もみ枯細菌病、内類褐変病、イネアザミウマ、イネミズゴケムシ、イネドロオイムシ、コブノメイガ、イナゴ類、ニカメイチュウ、イネツトムシ、穂枯れ（ごま葉枯病菌）、ウンカ類等を同時防除できます。
  - 育苗箱当り 50 g 施用で、長期間にわたって高い効果を示すので、省力的、経済的です。

Dr. オリゼは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標、プリンスはBASF社の登録商標です。

有効成分	フィプロニル（化管法第1種）・・・1.0% プロベナゾール（化管法第1種）・・・24.0%	包装	1kg×12 3kg ×8 9kg×1
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フィプロニルを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	いもち病 もみ枯細菌病 白葉枯病 イネミズゴケムシ イネドロオイムシ ニカメイチュウ コブノメイガ ウンカ類 イネツトムシ イナゴ類	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	緑化期～移植当日	1回	育苗箱の苗の上から均一に散布する。	1回	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)
	内類褐変病 イネアザミウマ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	移植3日前～移植当日	1回	育苗箱の苗の上から均一に散布する。	1回	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)
	穂枯れ（ごま葉枯病菌）		移植当日	1回			
	いもち病 イネミズゴケムシ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 30g	移植3日前～移植当日	1回	育苗箱の苗の上から均一に散布する。	1回	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきることを。
- (2) 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植すること。
- (3) 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などでは薬害を生ずるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
- (4) 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生ずる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。

- (5) 処理苗を移植する本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはいねいに行い、移植後に田面が露出しないよう注意すること。
- (6) 処理苗を本田に移植した後は、そのまま湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
- (7) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田での使用はさけること。
- (8) 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- (9) 本剤は処理を誤ると、生育初期の葉の黄化や生育遅延などの薬害を生ずるので、所定の使用時期、使用方法を守ること。
- (10) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) フィプロニルによる中毒に対しては、動物実験でフェノバルビタール製剤の投与が有効であると報告されている。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。  
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。  
作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (5) かぶれやすい体質の人は、作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触を避けること。
- (6) 夏期高温時の使用を避けること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
- (2) 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。



登録番号 第 24239 号

## Dr. オリゼ®リディア®箱粒剤

特長：

- 殺菌成分の「プロベナゾール」が植物体の防御機構を活性化し、いもち病に対して高い防除効果を示します。
- 殺虫成分「フルピリミン」は、昆虫の神経伝達系に作用し、麻痺を引き起こして殺虫効果を発揮します。既存の殺虫剤とは作用が異なります。
- ミツバチを始め、ウズキコモリグモ、ヤゴなどの有用昆虫に影響はほとんどありません。

オリゼメート、リディアは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	フルピリミン・・・2.0% プロベナゾール（化管法第1種）・・・24.0%	包装	1 kg×12、3 kg×8、9 kg×1
性状	類白色細粒	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

**【適用病害虫及び使用方法】**

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルピリミンを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
湛水直播 水稻	いもち病 イネノロイムシ イネズグウムシ	1kg/10a	は種時	1回	は種同時施 薬機を用い て土中施用 する。	3回以内 (は種時までの処理 は1回以内、本田で は2回以内)	2回以内 (は種時までの処理 は1回以内)
稲(箱育 苗)	いもち病 白葉枯病 イネノロイムシ イネズグウムシ ウカ類 ツマグロヨコバイ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	移植7日 前～移植 当日	1回 1回 1回	育苗箱の上 から均一に 散布する。	3回以内 (移植時までの処理 は1回以内、本田で は2回以内)	2回以内 (移植時までの処理 は1回以内)
	コメテユ イネノメグリバエ イネノハエ フタバネコガ 付コ類 イネノムシ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g					
	いもち病 白葉枯病 イネノロイムシ イネズグウムシ ウカ類 ツマグロヨコバイ コメテユ イネノメグリバエ イネノハエ フタバネコガ 付コ類 イネノムシ	高密度には種 する場合は 1kg/10a( 育苗箱( 30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50～100g)	移植3日 前～移植 当日 移植3日 前～移植 当日				

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルピリミンを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 イネノオシ イネズグウム ウカ類 ツマグロヨコバイ	1kg/10a	移植時	1回	側条施用	3回以内 (直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)

#### 使用上の注意事項

- (1) は種時に使用する場合は、直播栽培に使用し、専用のは種同時施薬機を用いること。
- (2) 移植時に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
  - 1) 専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
  - 2) 移植後は湛水状態（湛水深3～5 cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
  - 3) 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- (3) 育苗箱へ処理する場合は、次の注意事項を守ること。
  - 1) 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落とした後、十分灌水すること。
  - 2) 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生じる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
  - 3) 軟弱徒長苗、むれ苗などでは薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
  - 4) 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
  - 5) 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態（湛水深3～5 cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
  - 6) 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
  - 7) 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
  - 8) 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
  - 9) 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当りに乾粒として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。
- (4) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合には使用をさけること。
- (5) 容器・空袋はほ場などに放置せず、適切に処理すること。
- (6) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤食などのないよう注意すること。
- (2) 使用の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- (5) 夏期高温時の使用をさけること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。また、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
- (2) 使用後は水管理に注意すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 23907 号

# トライ®トラム®フロアブル

●既存剤とは全く異なる作用性を示す新規化合物「テブフロキン」を有効成分とするいもち病防除剤で、既存剤と交差耐性を示しません。1成分で予防と治療のWの効果を発揮し、いもち病に対して直接抗菌力を示し、感染を阻害するだけでなく、病斑形成や伸長、病斑上の胞子形成を強く阻害し、いもち病のまん延を防ぎます。

●「エチプロール」を配合し、斑点米の原因となるカメムシ類に対して優れた効果を発揮します。また、ウンカ類にも高い活性を示します。

トライ、トラムは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	エチプロール・・・5.0% テブフロキン・・・15.0%	包装	500ml×20 10L×1
性状	類白色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エチプロールを含む 農薬の総使用回数	テブフロキンを含む 農薬の総使用回数
稲	いもち病 稲こうじ病 カメムシ類 ウンカ類	1000倍	60～150 L/10a	収穫14日 前まで	2回以内	散布	2回以内 (は種時(直播)又は 移植時までの処理は 1回以内)	2回以内
		250倍	25L/10a	収穫14日 前まで	2回以内	散布		
		8倍	0.8L/10a	収穫14日 前まで	2回以内	無人航空機 による散布		

使用上の注意事項

- (1) 使用の際は容器をよく振って均一な状態にして使用すること。また、希釈する場合は、所定量の水に加えてから十分攪拌すること。
- (2) 散布液調製後はそのまま放置せずできるだけ速やかに散布すること。
- (3) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合には次の注意事項を守ること。
  - 1) 散布液の飛散によって他の動植物等への危被害あるいは自動車の塗装などへ被害を与えるおそれがあるなど、各分野に影響があるので、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
  - 2) 微量散布装置以外の散布器具は使用しないこと。
  - 3) 各散布機種 of 散布基準に従って実施すること。
  - 4) 散布中薬液の漏れのないように機体の散布用配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
  - 5) 散布終了後は次の項目を守ること。
    - a) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使い切ること。
    - b) 機体の散布装置は十分洗浄し、薬剤タンクの洗浄廃液は、河川等に流さないこと。
- (4) 本田の水稻に対して希釈倍数250倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を用いること。
- (5) 周辺の作物にかかる薬害を生じるおそれがあるので、かからないように十分注意して散布すること。
- (6) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - 1) ツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。無人航空機による散布でそれらに飛散するおそれがある場合には使用しないこと。

- 2) 関係機関（都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (7) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (8) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 誤食などのないように注意すること。  
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。  
作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (5) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触を避けること。
- (6) 夏期高温時の使用を避けること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
- (2) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 23404 号

## MIC トライ®トレボン®粉剤 DL

●稲、だいの殺虫殺菌剤です。  
 特長：●トライは、稲のいもち病、だいの紫斑病に効果が高いです。  
 ●同時にトレボンで、害虫を防除することができます。

トライ、トレボンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	エトフェプロックス・・・0.50% テブフロキン・・・1.0%	包装	3kg×8
性状	類白色粉末 45 μm 以下 浮遊性指数 20 以下	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2021年11月10日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェプロックスを含む農薬の総使用回数	テブフロキンを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 ウカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類	3~4 kg/10a	収穫14日前 まで	2回以内	散布	3回以内	2回以内
だいず	紫斑病 フタジビハムシ カメムシ類 マシクイガ ハスモンヨトウ ダイズサヤマバエ	3~4 kg/10a	収穫14日前 まで	2回以内	散布	2回以内	2回以内

## 使用上の注意事項

- 本剤はできるだけ飛散を少なくするように製剤されており、一般の粉剤に比べ、見かけ比重がやや大きく流動性が良いので、散布の際は散粉機の開度を1目盛程度しぼって散布すること。
- だいに使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので、新葉にかからないように注意して散布すること。
- 周辺の作物にかかるおそれがあるので、かからないように十分注意して散布すること。
- 蚕に対して長期間毒性があるので、近くに桑園がある場合には絶対に桑葉にかからないようにすること。
- 散布器具、作業衣などは桑用と必ず区別すること。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 誤食などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けん  
でよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (5) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 水産動植物（甲殻類、冷水魚）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切  
に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 23403 号

## トライ®トレボン®粉剤 DL

●水稲の主要病害虫であるいもち病、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、斑点米カメムシ類の防除が可能です。  
 ●いもち病に対して直接抗菌力を示し、感染を阻害するだけでなく、病斑形成や伸長、病斑上の孢子形成を強く阻害し、いもち病のまん延を防ぎます。1成分で予防と治療のWの効果が期待できます。

トライ、トレボンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	エトフェンプロックス・・・0.50% テブフロキン・・・1.0%	包装	3kg×8
性状	類白色粉末 45 μm 以下 浮遊性指数 20 以下	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数	テブフロキンを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類	3~4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	3回以内	2回以内
だ이지	紫斑病 フタジヒメムシ カメムシ類 マシクイガ ハスモンヨウ ダ イズ サヤタバエ	3~4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内	2回以内

### 使用上の注意事項

- 本剤はできるだけ飛散を少なくするように製剤されており、一般の粉剤に比べ、見かけ比重がやや大きく流動性が良いので、散布の際は散粉機の開度を1目盛程度しぼって散布すること。
- だ이지に使用する場合、葉害を生じるおそれがあるので、新葉にかからないように注意して散布すること。
- 周辺の作物にかかると葉害を生じるおそれがあるので、かからないように十分注意して散布すること。
- 蚕に対して長期間毒性があるので、近くに桑園がある場合には絶対に桑葉にかからないようにすること。
- 散布器具、作業衣などは桑用と必ず区別すること。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
- ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
- 関係機関（都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を徹底し、ミツバチの危害防止に努めること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。



#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 誤食などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (5) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
- (2) 移植後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (3) 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 23886 号

## トリプルキック®箱粒剤

●1成分で2つの作用性（メラニン生合成阻害 MBI-P と病害抵抗性修道）を持つ有効成分トルプロカルブを配合し、いもち病菌を強力にブロックします。

特長： ●シメコナゾール配合で、紋枯病・稲こうじ病・墨黒穂病・穂枯れ（ごま葉枯病菌）にも効果があります。

●シアントラニプロール配合で、初期害虫・チョウ目害虫・イナゴ類等を長期間防除できます。

●側条施用でも使用できます。

トリプルキックは三井化学アグロ(株)の登録商標です。

有効成分	シアントラニプロール・・・0.75% シメコナゾール・・・4.5% トルプロカルブ・・・9.0%	包装	1kg×12 3kg×6 10kg×1 (JA)
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害虫及び使用方法】

2023年3月8日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
稲 (箱育苗)	イネトイムシ イネズグウムシ コメイト フタバトコガ イネトムシ いもち病 紋枯病 稲こうじ病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 穂枯れ (ごま葉枯病菌) 墨黒穂病 白葉枯病	育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約5L) 1箱当り 50g	移植3日前～ 移植当日	1回	育苗箱の上から 均一に散布する。
		高密度には種する場合は1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50～100g)			
	イナゴ類 イネカメグサガハエ	育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約5L) 1箱当り 50g	移植当日		
		高密度には種する場合は1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50～100g)			
稲	イネトイムシ イネズグウムシ いもち病 紋枯病	1kg/10a	移植時	1回	側条施用

シアントラニプロールを含む農薬の 総使用回数	シメコナゾールを含む農薬の 総使用回数	トルプロカルブを含む農薬の 総使用回数
1回	2回以内 (移植前は 1回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内、 本田での湛水散布、無人航空機散布、 投げ入れは合計1回以内)

#### 使用上の注意事項

- (1) 本剤を育苗箱に処理する場合は、次の注意事項を守ること。
  - 1) 育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約 5L) 1 箱当りに乾糶として 200 から 300g 程度を高密度には種する場合は、10a 当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が 1kg/10a までとなるよう、育苗箱 1 箱当りの薬量を 50 から 100g までの範囲で調整すること。
  - 2) 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
  - 3) 本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水してから田植機にかけて移植すること。育苗箱に高密度には種した場合は、とくに注意して葉に付着した薬剤を払い落とすこと。
  - 4) 葉先枯れなどの薬害を生じることもあるので、散布ムラがないよう均一に散布すること。(2) 本剤を移植時に使用する場合は、専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
- (2) 本剤を移植時に使用する場合は、専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
- (3) 容器・空袋はほ場などに放置せず、適切に処理すること。
- (4) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

散布の際は防護マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 22660 号

## MIC ビルダー®フェルテラ®スタークル®箱粒剤

- 特長：
- 病害抵抗性誘導で耐性菌リスクの小さいプロベナゾールを配合した箱処理剤です。
  - 作用性の異なる2つの殺虫成分の組み合わせにより、初期害虫・イネクロカメムシ・コブノメイガ・ウンカ類等の幅広い害虫を防除できます。
  - 農林水産省「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」に掲載された農薬です。

ビルダーは北興化学工業(株)の登録商標、フェルテラはFMC Corporation 又はその関連会社の商標、又は登録商標です。スタークルは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	クロラントラニプロロール・・・0.75% ジノテフラン（化管法第1種）・・・2.0% プロベナゾール（化管法第1種）・・・10.0%	包装	1kg×12
性状	類白色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

\*普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

2016年7月6日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロロールを含む農薬の総使用回数	ジノテフランを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	白葉枯病 もみ枯細菌病 イネスズムシ イネトヨイシ コメイチユ フタビコガ イネトムシ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌 約5L)	移植3日前～ 移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	1回	4回以内 (育苗箱への処理及び 側条施用は 合計1回以内、 本田での散布、 空中散布、 無人ヘリ散布は 合計3回以内)	2回以内 (移植時までの 処理は 1回以内)
	いもち病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ コブノメイガ	1箱当たり 50g	緑化期～ 移植当日					

### 使用上の注意事項

- (1) 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落としたのち、十分灌水すること。
- (2) 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生ずる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
- (3) 軟弱徒長苗、むれ苗などでは薬害を生ずるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
- (4) 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
- (5) 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
- (6) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合は使用をさけること。
- (7) 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- (8) 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。

- (9) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 誤食などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触を避けること。
- (5) 夏期高温時の使用を避けること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (2) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光を避け、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 23849 号

## ビルダー®フェルテラ®チェス®GT 粒剤

- 育苗箱施用で、水稻初期・中期の主要病害虫であるいもち病、紋枯病、ウンカ類、コブノメイガ等を同時防除  
 特長： できます。  
 ●育苗箱当り 50 g 施用で、長期間にわたって高い効果を示すので、省力的、経済的です。

ビルダーは北興化学工業株式の登録商標、  
 フェルテラはFMC Corporation またはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標、  
 チェスはシンジェンタ社の登録商標です。

有効成分	クロラントラニプロロール・・・0.75% ピメトロジン・・・3.0% チフルザミド（化管法第1種）・・・3.0% プロベナゾール（化管法第1種）・・・10.0%	包装	1kg×12 9kg×1
性状	類白色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
稲(箱育苗)	いもち病 紋枯病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ コブノメイガ	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L) 1箱当り 50g	緑化期～ 移植当日	1回	育苗箱の苗の上から 均一に散布する。
	イネズミゾウムシ	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L) 1箱当り 50g	移植3日前～ 移植当日	1回	育苗箱の苗の上から 均一に散布する。
	いもち病 紋枯病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ コブノメイガ イネズミゾウムシ	高密度には種する場合は1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L) 1箱当り 50～100g)	移植3日前～ 移植当日	1回	育苗箱の苗の上から 均一に散布する。

クロラントラニプロロールを含む農薬の総使用回数	ピメトロジンを含む農薬の総使用回数	チフルザミドを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
1回	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)

## 使用上の注意事項

- 使用量に合わせて秤量し、使いきること。
- 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落とすのち、十分灌水すること。

- (3) 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生ずる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
- (4) 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などでは薬害を生ずるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
- (5) 本剤処理後の苗を急激な乾燥が起こりやすい場所や温度変化が大きい場所で育苗した場合、薬害が生じるおそれがあるので、注意すること。
- (6) 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
- (7) 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
- (8) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合は使用をさけること。
- (9) 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- (10) 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- (11) 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
- (12) 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当りに乾粒として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。
- (13) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤食などのないように注意すること。  
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。  
作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (5) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触を避けること。
- (6) 夏期高温時の使用を避けること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
- (2) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 22906 号

## ビルダー®フェルテラ®チェス®粒剤

- 特長：
- 育苗箱施用で、水稻初期、中期の主要病害虫である、いもち病、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、ウンカ類、コブノメイガ、フタオビコヤガ、ニカメイチュウ等を同時防除できます。
  - 育苗箱当り 50g 施用で、長期間にわたって高い効果を示すので、省力的、経済的です。
  - 育苗箱施用だけでなく、側条施用もできます。

ビルダーは北興化学工業㈱の登録商標、フェルテラはFMC Corporation またはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標、チェスはシンジェンタ社の登録商標です。

有効成分	クロラントラニプロール・・・0.75% ピメトロジン・・・3.0% プロベナゾール（化管法第1種）・・・10.0%	包装	1kg×12 3kg×8 9kg×1
性状	類白色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

\*普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数	ピメトロジンを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	いもち病 ウンカ類 コブノメイガ ツマグロヨコバイ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	緑化期～ 移植当日	1回	育苗箱の苗の上から均一に散布する。	1回 1回 1回	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)
	白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 イネドオイムシ イネミズゾウムシ フタオビコヤガ ニカメイチュウ イネトムシ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	移植3日前～ 移植当日	1回	育苗箱の苗の上から均一に散布する。			
	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ コブノメイガ イネドオイムシ イネミズゾウムシ フタオビコヤガ ニカメイチュウ イネトムシ	高密度には種する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L)1 箱当り 50～ 100g)	移植3日前～ 移植当日	1回	育苗箱の苗の上から均一に散布する。			



作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数	ピメトロジンを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 ウカ類 ツマグロヨコバイ イネトヨイムシ イネミスゾウムシ コブノメイガ	1kg/10a	移植時	1回	側条施用	1回	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)

#### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 育苗箱に処理する場合は、次の注意事項を守ること。
  - 1) 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落とすのち、十分灌水すること。
  - 2) 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生じる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
  - 3) 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などでは薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
  - 4) 本剤処理後の苗を急激な乾燥が起こりやすい場所や温度変化が大きい場所で育苗した場合、薬害が生じるおそれがあるので、注意すること。
  - 5) 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
  - 6) 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当りに乾糞として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が
  - 7) 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
  - 8) 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
  - 9) 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- (3) 移植時に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
  - ① 専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
  - ② 移植後は湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
- (4) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合は使用をさけること。
- (5) 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- (6) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤食などのないように注意すること。  
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。  
作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等はほかのものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- (5) 夏期高温時の使用をさけること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 使用後は水管理に注意すること。
- (3) 器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----  
通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----  
直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 21017 号

## ビルダー®プリンス®グレータム®粒剤

- 育苗箱施用で、水稻初期・中期の主要病害虫であるいもち病、紋枯病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、コブノメイガ、ニカメイチュウ、ウンカ類等を同時防除できます。
- 育苗箱当り 50g 施用で、長期間にわたって高い効果を示すので、省力的、経済的です。

ビルダーは北興化学工業株の登録商標、プリンスはBASF社の登録商標、グレータムは日産化学株の登録商標です。

有効成分	フィプロニル（化管法第1種）・・・1.0% チフルザミド（化管法第1種）・・・3.0% プロベナゾール（化管法第1種）・・・10.0%	包装	1kg×12 3kg ×8 9kg×1
性状	類白色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
稲(箱育苗)	いもち病 紋枯病 ウンカ類 コブノメイガ ニカメイチュウ イネトムシ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	緑化期～ 移植当日	1回	育苗箱の苗の上から 均一に散布する。
	白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 穂枯れ（ごま葉枯病菌） イネドロオイムシ イネミズゾウムシ イネヒメガキリバエ イネカハムシ イネザミマ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	移植3日前 ～移植当日	1回	育苗箱の苗の上から 均一に散布する。
	いもち病 紋枯病 白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 穂枯れ（ごま葉枯病菌） ウンカ類 イネトムシ イネドロオイムシ イネミズゾウムシ イネヒメガキリバエ イネカハムシ イネザミマ コブノメイガ ニカメイチュウ	高密度には種する場合は 1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50～100g)	移植3日前 ～移植当日	1回	育苗箱の苗の上から 均一に散布する。

フィプロニルを含む農薬の総使用回数	チフルザミドを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
1回	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、 本田では2回以内)	2回以内(移植時までの処理は1回以内)

#### 使用上の注意事項

- (1) 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植すること。
- (2) 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害が生じる場合があるので、散布直前の灌水はさけること。
- (3) 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などでは薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
- (4) 処理苗を移植する本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出したりしないよう注意すること。
- (5) 処理苗を本田に移植した後は、そのまま湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
- (6) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田での使用はさけること。
- (7) 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- (8) 本剤は処理を誤ると、生育初期の葉の黄化や生育遅延などの薬害を生じるので、所定の使用時期、使用方法を守ること。
- (9) 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
- (10) 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当りに乾籾として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。
- (11) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (12) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) フィプロニルによる中毒に対しては、動物実験でフェノバルビタール製剤の投与が有効であると報告されている。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (5) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- (6) 夏期高温時の使用をさけること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
- (2) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

## ビルダー®プリンス®粒剤

- 特長：
- 育苗箱施用で、水稻初期・中期の主要病害虫であるいもち病、白葉枯病、もみ枯細菌病、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、コブノメイガ、ニカメイチュウ、イネツトムシ、イネクロカメムシ、ウンカ類等を同時に防除できます。
  - 育苗箱当り 50g 施用で、長期間にわたって高い効果を示すので、省力的、経済的です。

ビルダーは北興化学工業㈱の登録商標、プリンスはBASF社の登録商標です。

有効成分	フィプロニル（化管法第1種）・・・1.0% プロベナゾール（化管法第1種）・・・10.0%	包装	1kg×12 3kg ×8 9kg×1
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フィプロニルを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	いもち病 ウンカ類 コブノメイガ イネドロオイムシ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	緑化期～ 移植当日	1回	育苗箱の 苗の上から均一に 散布する。	1回	2回以内 (移植時までの 処理は1回以内)
	白葉枯病 もみ枯細菌病 ニカメイチュウ イネミズゾウムシ イネツトムシ イネクロカメムシ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	移植3日 前～移植 当日	1回	育苗箱の 苗の上から均一に 散布する。		

## 使用上の注意事項

- (1) 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植すること。
- (2) 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害が生ずる場合があるので、散布直前の灌水はさけること。
- (3) 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などでは薬害を生ずるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
- (4) 処理苗を移植する本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出したりしないよう注意すること。
- (5) 処理苗を本田に移植した後は、そのまま湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
- (6) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田での使用はさけること。
- (7) 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- (8) 本剤は処理を誤ると、生育初期の葉の黄化や生育遅延などの薬害を生ずるので、所定の使用時期、使用方法を守ること。
- (9) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (10) 使用量に合わせ秤量し、使いきることを。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

### (1) 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

#### ア 農薬使用者に係る注意事項

##### ① 毒性情報

- 1) 吸入すると生命に危険。
- 2) アレルギー性皮膚反応を起こすおそれがある。

##### ② 解毒方法

本剤の解毒剤としては動物実験でフェノバルビタール製剤の経口投与が有効であると報告されている。

##### ③ 安全上の注意

- 1) 粉じんを吸入しないこと。
- 2) 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
- 3) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- 4) 汚染された衣服は脱ぐこと。
- 5) 作業後は身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- 6) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。

##### ④ 応急処置

- 1) 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- 2) 皮膚に付着した場合、よく洗い落とすこと。皮膚刺激または発疹が生じた場合、医師の手当を受けること。

##### ⑤ 保管

- 1) 鍵のかかる場所に保管すること。
- 2) 換気の良いところで保管すること。容器を密閉しておくこと。

### (2) 使用に際して講ずべき被害防止方法

#### ア 農薬使用者に係る注意事項

##### ① 防護装備

[薬剤調製者]

農薬マスク、不浸透性手袋

[散布者]

農薬用マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣

##### ② その他の被害防止方法

該当なし

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
- (2) 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

## 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 24483 号

## ビルダー®リディア®箱粒剤

- 特長：
- 水稲の重要病害虫である、いもち病、イネミズゾウムシ、ウンカ類、ツマグロヨコバイなどに優れた効果を発揮します。新規殺虫成分フルピリミンは既存殺虫剤への感受性が低下した害虫に対しても殺虫活性を示します。
  - 育苗箱処理、移植時側条施用と様々な施用方法で使用できます。
  - ミツバチを始め、ウズキコモリグモ、ヤゴなどの有用昆虫に影響はほとんどありません。

ビルダーは北興化学工業(株)、リディアは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	フルピリミン・・・2.0% プロベナゾール(化管法第1種)・・・10.0%	包装	1kg×12、3kg×8
性状	類白色細粒	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルピリミンを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 イネミズゾウムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ	1kg/10a	移植時	1回	側条施用	3回以内 (直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)
稲(箱育苗)	いもち病 イネミズゾウムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当たり50g	移植7日前～移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)
	白葉枯病 もみ枯細菌病 付コ類	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当たり50g	移植3日前～移植当日				
	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 イネミズゾウムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ 付コ類	高密度には種する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当たり50～100g)	移植3日前～移植当日				

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせて秤量し、使いきること。
- (2) 移植時に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
  - 1) 専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
  - 2) 移植後は湛水状態(湛水深3～5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。

- 3) 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予想される場合には使用をさけること。
- (3) 育苗箱に処理する場合は、次の注意事項を守ること。
  - 1) 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落とした後、十分灌水すること。
  - 2) 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して葉害を生じる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
  - 3) 軟弱徒長苗、むれ苗などでは葉害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
  - 4) 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は葉害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
  - 5) 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態（湛水深3～5 cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
  - 6) 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
  - 7) 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
  - 8) 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
  - 9) 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当りに乾粒として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。
- (4) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合には使用をさけること。
- (5) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 誤食などのないよう注意すること。
- (2) 使用の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- (5) 夏期高温時の使用をさけること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。  
また、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。



登録番号 第 22824 号

## ファーストオリゼ®フェルテラ®粒剤

- 特長：
- 「は種前」または「は種時」処理により水稻の主要病害虫であるいもち病、白葉枯病、もみ枯細菌病、イネミズゾウムシ、イネドロオウムシ、フタオビコヤガ、ニカメイチュウ、ツマグロヨコバイ、イネツトムシ等を同時に防除できます。
  - 「は種前」または「は種時」処理で長期間にわたって高い効果を示すので、省力的、経済的です。

ファーストオリゼは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標、フェルテラはFMC Corporation またはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標です。

有効成分	クロラントラニプロール・・・0.75% プロベナゾール（化管法第1種）・・・20.0%	包装	3kg×8 10kg×1
性状	淡褐色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	いもち病 イネドロオウムシ	育苗箱 (30×60×3cm、使用 土壌約5L) 1箱当り 50g	は種前	1回	育苗培土に 均一に混和 する。	1回	2回以内 (移植時までの処理 は1回以内)
	いもち病 イネミズゾウムシ イネドロオウムシ イネツトムシ フタオビコヤガ ニカメイチュウ ツマグロヨコバイ イネツトムシ				育苗箱の床 土に均一に 混和する。		
	いもち病 イネミズゾウムシ イネドロオウムシ フタオビコヤガ ニカメイチュウ ツマグロヨコバイ イネツトムシ もみ枯細菌病 白葉枯病 イネハモグリバエ		は種時(覆 土前)				

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用方法	クロラントラニ プロールを含む農 薬の総使用回数	プロベナゾールを含 む農薬の総使用回数
稲(箱育 苗)	いもち病 イネズグムシ イネトモイシ フタバコヤガ コメイチュ ツマグロヨコバイ イネトムシ もみ枯細菌病 白葉枯病 イネカモグリハエ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	は種時(覆 土前)	1回	育苗箱の床 土に均一に 散布する。	1回	2回以内 (移植時までの処理 は1回以内)
		高密度には種する 場合は 1kg/10a (育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50~100g)					

### 使用上の注意事項

- 本剤を育苗箱の床土混和又は、育苗培土に混和して使用する場合は、薬害が生ずることがあるので、下記の注意事項を遵守すること。
  - 山土、畑土等を使用する場合は、十分に乾燥させてから使用すること。
  - 粒剤を混和した育苗培土、床土は高温多湿での保管をさけ、すみやかに使用すること。
  - 粒剤が破砕されるような過度な混和はさけること。
- 育苗培土に混和する場合は、覆土及び床土として使用すること。
- 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
- 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当りに乾籾として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。
- 本剤処理後の低温で生育抑制を生じる恐れがあるので温度管理に注意し、適切な育苗につとめること。
- 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出したりしないよう水管理に注意すること。
- 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合は使用をさけること。
- 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合は使用をさけること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- 誤食などのないよう注意すること。  
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。  
作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触を避けること。
- 夏期高温時の使用を避けること。

### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----  
通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----  
直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

## ファーストオリゼ®プリンス®スピノ粒剤 6

- 「は種前」または「は種時」処理により水稻の主要病害虫であるいもち病、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、フタオビコヤガを同時に防除できます。
- 特長： ● 「は種前」または「は種時」処理で、長期間にわたって高い効果を示すので、省力的、経済的です。
- 異なる殺虫メカニズムのプリンス（フィプロニル）とスピノ（スピノサド）が組み合わさることでユニークな相乗効果が発揮され、優れた効果を示します。

ファーストオリゼは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標、  
プリンスはBASF社の登録商標、スピノ TMはザ・ダウ・ケミカル・カンパニーまたはその関連会社商標です。

有効成分	スピノサド・・・0.75% フィプロニル・・・0.60% プロベナゾール（化管法第1種）・・・20.0%	包装	10kg×1
性状	淡褐色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	スピノサドを含む農薬の総使用回数	フィプロニルを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	いもち病 イネドロオイムシ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	は種前	1回	育苗箱の床土に均一に混和する。	1回	1回	2回以内 (移植時までの 処理は 1回以内)
	いもち病 イネミズゾウムシ フタオビコヤガ イゴ類	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	は種時 (覆土前)	1回	育苗箱の床土に均一に散布する。			

### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 本剤を育苗床土に混和する場合には薬害を生じる場合があるので、下記の注意事項を遵守すること。
  - 1) 土、畑土等を使用する場合は、十分に乾燥させてから使用すること。
  - 2) 粒剤を混和した床土は高温多湿での保管をさけ、すみやかに使用すること。
  - 3) 粒剤が破砕されるような過度な混和はさけること。
- (3) 本剤処理後の低温で生育抑制を生じるおそれがあるので温度管理に注意し、適切な育苗につとめること。
- (4) 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- (5) 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出したりしないよう水管理に注意すること。
- (6) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合は使用をさけること。
- (7) 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合は使用をさけること。

- (8) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 誤食などのないように注意すること。  
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- (2) フィプロニルによる中毒に対しては、動物実験でフェノバルビタール製剤の投与が有効であると報告されている。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。  
作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (5) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- (6) 夏期高温時の使用をさけること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
- (2) 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

## ファーストオリゼ®プリンス®粒剤 10

- 「は種時」処理により水稻の主要病害虫であるいもち病、イネミズゾウムシ、ウンカ類、ニカメイチュウ、コブノメイガ等を同時に防除できます。
- 「は種時」処理で長期間にわたって高い効果を示すので、省力的、経済的です。

ファーストオリゼは三井化学クロップ&ライフソリューション㈱の登録商標、プリンスはBASF社の登録商標です。

有効成分	フィプロニル（化管法第1種）・・・1.0% プロベナゾール（化管法第1種）・・・20.0%	包装	3kg×8 10kg×1
性状	淡褐色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フィプロニルを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 穂枯れ（ごま葉枯病菌） イネミズゾウムシ ウンカ類 ニカメイチュウ コブノメイガ イネトシ イネトシ イネトシ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	は種時 (覆土前)	1回	育苗箱の床土に均一に散布する。	1回	2回以内(移植時までの処理は1回以内)

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきることを。
- (2) 本剤処理後の低温で生育抑制を生じる恐れがあるので温度管理に注意し、適切な育苗につとめること。
- (3) 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- (4) 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはいぬいに行い、移植後に田面が露出したりしないよう水管理に注意すること。
- (5) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合は使用をさけること。
- (6) 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合は使用をさけること。
- (7) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 誤食などのないよう注意すること。  
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- (2) フィプロニルによる中毒に対しては、動物実験でフェノバルビタール製剤の投与が有効であると報告されている。
- (3) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (4) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。  
作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (5) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (6) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触を避けること。
- (7) 夏期高温時の使用を避けること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
- (2) 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖地等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 24301 号

## ファーストオリゼ®リディア®粒剤

- 「は種前」または「は種時」処理により水稻の主要病害虫であるいもち病、イネドロオウムシ、イネミズゾウムシ、ウンカ類、ツマグロヨコバイを同時に防除できます。
- 特長： ● 殺菌成分の「プロベナゾール」が植物体の防御機構を活性化し、いもち病に対して高い防除効果を示し、新規殺虫成分「フルピリミン」が、昆虫の神経伝達系に作用し、麻痺を引き起こして殺虫効果を発揮します。
- ミツバチを始め、ウズキコモリグモ、ヤゴなどの有用昆虫に影響はほとんどありません。

ファーストオリゼ、リディアは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	フルピリミン・・・2.0% プロベナゾール（化管法第1種）・・・20.0%	包装	10 kg×1
性状	淡褐色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルピリミンを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	いもち病 イネミズゾウムシ イネドロオウムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ イナゴ類 フタホシコメヤシ コメイチュウ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50g	は種前	1回	育苗箱の床土に均一に混和する。 育苗箱の床土に均一に散布する。	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)
			は種時 (覆土前)	1回			

## 使用上の注意事項

- 本剤を育苗床土に混和する場合には薬害を生じる場合があるので、下記の注意事項を遵守すること。
  - 山土、畑土などを使用する場合は、十分に乾燥させてから使用すること。
  - 粒剤を混和した床土は高温多湿での保管をさけ、すみやかに使用すること。
  - 粒剤が破碎されるような過度な混和はさけること。
- 本剤処理後の低温で生育抑制を生じるおそれがあるので温度管理に注意し、適切な育苗につとめること。
- 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出したりしないよう水管理に注意すること。
- 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合は使用をさけること。
- 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合は使用をさけること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。



人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 誤食などのないよう注意すること。  
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- (2) 使用の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。  
作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) ぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- (5) 夏期高温時の使用をさけること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 24746 号

## リディア®EV 箱粒剤

- 特長：
- 水稲の初期害虫（イネミズゾウムシ、イネドロオウムシ）、ウンカ類、紋枯病に高い効果を発揮します。殺虫成分フルピリミンは既存殺虫剤への感受性が低下した害虫に対しても殺虫活性を示します。
  - 本剤は、育苗箱処理、移植時側条施用と様々な施用方法が使用できます。
  - 新規殺虫成分「フルピリミン」は、ミツバチへの影響が小さいです。

リディアは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	フルピリミン・・・2.0% ペンフルフェン（化管法1種）・・・2.0%	包装	1kg×12 12kg×1
性状	褐色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月12日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルピリミンを含む農薬の総使用回数	ペンフルフェンを含む農薬の総使用回数
稲	紋枯病 イネミズゾウムシ	1kg/10a	移植時	1回	側条施用	3回以内 (直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	1回
稲(箱育苗)	紋枯病 イネドロオウムシ イネミズゾウムシ ウンカ類	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当たり50g	は種時 (覆土前) ～移植当日  移植3日前～移植当日		育苗箱の苗の上から均一に散布する。	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきることを。
- (2) 移植時に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
  - 1) 専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
  - 2) 移植後は湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
  - 3) 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- (3) 育苗箱へ処理する場合は、次の注意事項を守ること。
  - 1) 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落とした後、十分灌水すること。
  - 2) 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生じる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
  - 3) 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などでは薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
  - 4) 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。

- 5) 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
  - 6) 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態（湛水深3～5 cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
  - 7) 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
- (4) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合には使用をさけること。
  - (5) 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化・褐点を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
  - (6) 容器・空袋はほ場などに放置せず、適切に処理すること。
  - (7) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

##### ア 農薬使用者に係る注意事項

- 1) 誤食などのないよう注意すること。  
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- 2) 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。  
作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。
- 3) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

- (2) 使用に際して講ずべき被害防止方法

該当なし。

#### 生活環境動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。  
また、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
- (2) 使用後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 23510 号

アールタイプ<sup>®</sup>1 キロ粒剤

- 特長：
- 移植時から使用できる水稲用一発除草剤です。
  - 有効成分メタゾスルフロン配合で、クログワイ、ホタルイ等の多年生雑草を根から抑えます。
  - ALS 阻害剤抵抗性雑草（アゼナ、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を発揮します。
  - 畦畔から侵入するイボクサ等にも優れた効果を示します。

アールタイプは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ピラゾレート（化管法第1種）・・・10.0% ベンゾピシクロン（化管法第1種）・・・2.0% メタゾスルフロン・・・0.60%	包装	1kg×12 4kg×4
性状	類白色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2019年11月6日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 多年生広葉雑草	移植時	1kg/10a	1回	田植同時散布機で施用
		移植直後～ルビエ2.5葉期 ただし、移植後30日まで			湛水散布又は無人航空機による散布
直播水稲	一年生雑草 マツバ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ	稲1葉期～ルビエ2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	1kg/10a	1回	湛水散布又は無人航空機による散布

ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	ベンゾピシクロンを含む 農薬の総使用回数	メタゾスルフロンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	3回以内	2回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から発生初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ（直播水稲）、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ（直播水稲）は2葉期まで、ホタルイ（移植水稲）、ミズガヤツリ（移植水稲）、ウリカワ（移植水稲）は3葉期まで、クログワイ、オモダカは発生前～発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前～再生始期まで、ウリカワ（直播水稲）、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまでが本剤の散布適期である。
- (3) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布すること。少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、田面を露出させないように注意すること。散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。

- (4) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
- 1) 散布は使用機種の使用基準に従って実施すること。
  - 2) 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 3) 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整すること。
  - 4) 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m離れた位置から圃場内に散布すること。
  - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
- (5) 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (6) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- (7) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (8) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
- 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (9) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (10) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかかからないようにすること。
- (11) 空袋等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。
- (12) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (13) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (14) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。また、吸湿しやすいので開封後は堅く口を閉じ、長期間の保存はさけること。

登録番号 第 23714 号

# アールタイプ®ジャンボ

●移植後3日から使用できる水稲用一発除草剤です。  
 ●有効成分メタゾスルフロン配合で、クログワイ、ホタルイ等の多年生雑草を根から抑えます。  
 特長： ●ALS阻害剤抵抗性雑草（アゼナ、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を発揮します。  
 ●畦畔から侵入するイボクサ等にも優れた効果を示します。  
 ●畦畔から投げ込むだけの省力型除草剤です。

アールタイプは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ピラゾレート（化管法第1種）・・・25.0% ベンズピシクロン（化管法第1種）・・・5.0% メタゾスルフロン（化管法第1種）・・・1.5%	包装	(40g×10) ×12
その他化管法 該当成分	ナトリウム=アルケンスルホナート及びナトリウム=ヒドロキシアルカ ンスルホナート並びにこれらの混合物(化管法第1種)・・・2.0%		
性状	淡褐色粒状 水溶性パック入り 1パック40g	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

**【適用雑草の範囲及び使用方法】**

2019年11月6日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 多年生広葉雑草	移植後3日～ ルビエ2.5葉期 ただし、 移植後30日まで	小包装(パック) 10個(400g)/10a	1回	水田に小包装(パック) のまま投げ入れる。
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ	稲1葉期～ ルビエ2.5葉期 ただし、 収穫90日前まで	小包装(パック) 10個(400g)/10a	1回	水田に小包装(パック) のまま投げ入れる。

ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	ベンズピシクロンを含む 農薬の総使用回数	メタゾスルフロンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	3回以内	2回以内

**使用上の注意事項**

- (1) 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使いきることを。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレグが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ（移植水稲）、ミズガヤツリ、ウリカワ（移植水稲）は3葉期まで、ホタルイ（直播水稲）、ウリカワ（直播水稲）、ヘラオモダカは2葉期まで、クログワイ、オモダカは発生前～発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前～再生始期まで、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまでが本剤の散布適期である。

- (3) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- (4) 処理に当たっては、水の出入りを止めて水深5～6cmの湛水状態にし、散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (5) 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (6) 稲の根が露出する条件では葉害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (7) 本剤は小包装（パック）のまま10アール当り10個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- (8) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (9) 藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、部分的な葉害や効果不足を生じる可能性があるため使用をさけること。
- (10) パックに使用しているフィルムは水溶性なので、ぬれた手で作業したり、降雨で破袋することのないように注意すること。
- (11) 下記のような条件では葉害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (12) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (13) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (14) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (15) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は水溶性フィルムで小包装化されているため、通常的使用方法ではその該当がない。ただし、濡れた手で触らないこと。
- (2) 水溶性フィルム包装が破袋した場合は以下の点に注意すること。
  - 1) 眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
  - 2) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常的使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。水溶性フィルムは吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を強く閉じて保管すること。また、強く加圧されると水溶性フィルムが劣化するおそれがあるので下積みにならないようにすること。

登録番号 第 23716 号

## アールタイプ®フロアブル

- 特長：
- 移植後3日から使用できる水稲用一発除草剤です。
  - 有効成分メタゾスルフロン配合で、クログワイ、ホタルイ等の多年生雑草を根から抑えます。
  - ALS阻害剤抵抗性雑草（アゼナ、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を発揮します。
  - 畦畔から侵入するイボクサ等にも優れた効果を示します。

アールタイプは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ピラゾレート（化管法第1種）・・・18.2% ベンゾビスクロン（化管法第1種）・・・3.6% メタゾスルフロン（化管法第1種）・・・1.1%	包装	500ml×20 2L×8
性状	類白色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2019年11月6日付内容

作物名	適用雑草名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 多年生広葉雑草	500mL/10a	移植後3日～ビエ2.5葉期 ただし、移植後30日まで	1回	原液湛水散布、 水口施用 又は 無人航空機による滴下
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ	500mL/10a	稲1葉期～ビエ2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	1回	原液湛水散布、 水口施用 又は 無人航空機による滴下

ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	ベンゾビスクロンを含む 農薬の総使用回数	メタゾスルフロンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	3回以内	2回以内

### 使用上の注意事項

- (1) 使用前に容器をよく振ること。
- (2) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (3) 所定の使用量を厳守すること。
- (4) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ミズガヤツリ（移植水稲）、ウリカワ（移植水稲）は3葉期まで、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ（直播水稲）は2葉期まで、クログワイ、オモダカは発生前～発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前～再生始期まで、ウリカワ（直播水稲）、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまでが本剤の散布適期である。



- (5) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- (6) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を水田全面にゆきわたるように散布すること。
- (7) 本剤処理後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意すること。また散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (8) 水口施用の場合は入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させること。処理後田面水が通常の湛水状態（湛水深3～5cm）に達した時に必ず水を止め、田面水があふれ出ないように注意すること。
- (9) 本剤を無人航空機による滴下に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 滴下は使用機種の使用基準に従って実施すること。
  - 2) 滴下に当たっては散布装置のノズルを使用しないこと。
  - 3) 作業中、薬液が漏れないように機体の配管その他装置の十分な点検を行なうこと。
  - 4) 隣接する圃場に水稻以外の作物が栽培されている場合は、無人航空機による本剤の滴下は行なわないこと。
  - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
  - 6) 薬剤滴下に使用した装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
  - 7) 本剤の滴下に使用した無人航空機の散布装置は、水稻以外の作物への薬剤散布には使用しないこと。
- (10) 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (11) 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (12) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (13) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (14) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (15) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (16) 空容器等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。また、処理薬剤は残さずに使い切ることを。
- (17) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (18) 散布器、ホース、ノズル、タンク等の器具は、使用後速やかに十分に水洗し、洗浄液は水田内で処理すること。また、使用した機器等は水稻用薬剤以外に使用しないこと。
- (19) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (20) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (2) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (3) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では問題がない。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさげ、食品と区別して、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 23866 号

# アトカラ<sup>®</sup>S ジャンボ MX

- 特長：
- 移植後 14 日から使用できる水稲用中期除草剤です。
  - 初期または一発除草剤との組み合わせで使用します。
  - 新技術「ソニックスプレッド<sup>®</sup>テクノロジー<sup>\*</sup>」により、投げ込むだけの省力中期除草を実現します。
  - ノビエからクログワイ等の多年生難防除雑草まで幅広く効果を発揮します。
  - 畦畔侵入するキシウスズメノヒエ、イボクサ等にも優れた効果を示します。
- <sup>\*</sup> 拡散性能を飛躍的に向上させた三井化学クロップ&ライフソリューションの独自技術です。

アトカラ、ソニックスプレッドは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	アジムスルフロン・・・0.36% ペノキスラム・・・0.36% メソトリオン・・・2.0%	包装	(25g×20) ×10 (25g×60) ×4
性状	淡褐色細粒 水溶性パック入り 1 パック 25g	有効年限	3 年
毒性	普通物 <sup>*</sup>	危険物	-

<sup>\*</sup>普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

**【適用雑草の範囲及び使用方法】**

2020年5月13日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ハラモダカ ミスガヤツリ ウリカ クログワイ オモダカ ヒルムシロ セリ コウキカガラ キシウスズメノヒエ	移植後 14 日～ ヒエ3.5 葉期 ただし、 収穫 45 日前まで	小包装(パック) 20 個(500g)/10a	1 回	水田に小包装(パック) のまま投げ入れる。
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ ウリカ ヒルムシロ セリ	稲 4 葉期～ ヒエ4 葉期 ただし、 収穫 45 日前まで	小包装(パック) 20 個(500g)/10a	1 回	水田に小包装(パック) のまま投げ入れる。

アジムスルフロンを含む 農薬の総使用回数	ペノキスラムを含む 農薬の総使用回数	メソトリオンを含む 農薬の総使用回数
1 回	2 回以内	2 回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使いきることを。
- (2) 多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ(移植水稻)は草丈10cmまで、ホタルイ(直播水稻)、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ(直播水稻)、ウリカワ(直播水稻)は3葉期まで、ウリカワ(移植水稻)は4葉期まで、ミズガヤツリ(移植水稻)は草丈15cmまで、クログワイは草丈20cmまで、オモダカは矢じり葉3葉期まで、ヒルムシロ(移植水稻)は発生盛期まで、ヒルムシロ(直播水稻)は発生期まで、セリは再生期まで、コウキヤガラは草丈20cmまで、キシユウスズメノヒエは再生茎4葉期までが本剤の散布適期である。
- (3) クログワイ、オモダカは必要に応じて有効な前処理剤と組み合わせて使用すること。また、クログワイ、オモダカに有効な前処理剤と組み合わせて連年施用することにより、さらに効果が向上する。
- (4) 苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (5) 処理に当たっては、水の出入りを止めて水深5~6cmの湛水状態にし、散布後少なくとも3~4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (6) 前処理剤との体系で使用し、雑草の発生状況をよく確認し、時期を失しないように散布すること。
- (7) 本剤は小包装(パック)のまま10アール当たり20個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- (8) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (9) 藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、部分的な薬害や効果不足を生じる可能性があるため使用をさけること。
- (10) パックに使用しているフィルムは水溶性なので、ぬれた手で作業したり、降雨で破袋することのないように注意すること。
- (11) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田(減水深2cm/日以上)
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
  - 4) 稲の根が露出している水田
  - 5) 処理後著しい高温が続く場合
- (12) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (13) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (14) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (15) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は水溶性フィルムで小包装化されているため、通常の使用法ではその該当がない。ただし、濡れた手で触らないこと。
- (2) 水溶性フィルム包装が破袋した場合は以下の点に注意すること。
  - 1) 眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
  - 2) 皮膚に対して弱い刺激性があるので、皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。水溶性フィルムは吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を堅く閉じて保管すること。また、強く加圧されると水溶性フィルムが劣化するおそれがあるので下積みにならないようにすること。

登録番号 第 23532 号

アルファープロ<sup>®</sup>1 キロ粒剤 51

●移植後3日から使用できる水稲用一発除草剤です。

特長：●有効成分フェノキサスルホン配合により、ノビエや一年生雑草（アゼナ、コナギ等）に対して長期残効を示します。

●有効成分プロモプチド配合で、ALS阻害剤抵抗性ホタルイにも優れた効果を示します。

アルファープロは三井化学アグロ(株)の登録商標です。

有効成分	フェノキサスルホン・・・2.0% プロモプチド・・・9.0% ベンスルフロンメチル・・・0.51%	包装	1kg×12
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物 <sup>※</sup>	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2015年08月05日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ オモダカ クログワイ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後3日～ ノビエ2.5葉期 但し、 移植後30日まで	1kg/10a	1回	湛水散布

フェノキサスルホンを含む 農薬の総使用回数	プロモプチドを含む 農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

## 使用上の注意事項

- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに、時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布すること。ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワは2葉期まで、オモダカ、クログワイは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。
- オモダカ、クログワイは発生期間が長く、遅い発生のもものでは十分な効果を示さないので、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。
- 苗の植付けが均一となるように、代かきおよび植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- 散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態のまま田面に均一に散布し、散布後3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、入水は静かにおこなうこと。

- (5) 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
- 1) 砂質土壌の水田および漏水田（減水深が2cm/日以上）
  - 2) 軟弱苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田
  - 4) 植穴の戻りの悪い水田
- (6) 梅雨時期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は、除草効果が低下するおそれがあるので使用をさけること。
- (7) 散布後に低温傾向が続くと予想される時においては、雑草に対する効果が劣ることがある。
- (8) 散布後の数日間に著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (9) 本剤を散布した水田の田面水を他の作物の灌水に使用しないこと。
- (10) 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意すること。
- (11) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (2) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (3) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 23534 号

アルファープロ<sup>®</sup>1 キロ粒剤 75

●移植後3日から使用できる水稲用一発除草剤です。

特長：●有効成分フェノキサスルホン配合により、ノビエや一年生雑草（アゼナ、コナギ等）に対して長期残効を示します。

●有効成分プロモプチド配合で、ALS阻害剤抵抗性ホタルイにも優れた効果を示します。

アルファープロは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	フェノキサスルホン・・・2.0% プロモプチド・・・9.0% ベンスルフロンメチル・・・0.75%	包装	1kg×12
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物 <sup>※</sup>	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2018年9月12日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ オモダカ クログワイ ヒルムシロ セリ	移植後3日～ ノビエ2.5葉期 但し、 移植後30日まで	1kg/10a	1回	湛水散布又は 無人航空機による 散布
直播水稲	水田一年生雑草 ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ	稲1葉期～ ノビエ2.5葉期 但し、 収穫90日前まで	1kg/10a	1回	湛水散布又は 無人航空機による 散布

フェノキサスルホンを含む 農薬の総使用回数	プロモプチドを含む 農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに、時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布すること。ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ、ヘラオモダカは2葉期まで、オモダカ、クログワイは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期までが本剤の散布適期である。

- (2) オモダカ、クログワイは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないので、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。
- (3) 苗の植付けが均一となるように、代かきおよび植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- (4) 散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態のまま田面に均一に散布し、散布後3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、入水は静かにおこなうこと。
- (5) 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 散布後に高温傾向が続くと予想される時。
  - 2) 砂質土壌の水田および漏水田（減水深が2cm/日以上）
  - 3) 軟弱苗を移植した水田
  - 4) 極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田
  - 5) 植穴の戻りの悪い水田
- (6) 直播水稻に使用する場合、以下の点に注意すること。
  - 1) 発芽直後の稲に対して薬害を生じるおそれがあるので、適切な覆土をおこない、稲の1葉期以降に散布すること。
  - 2) 稲の根が露出した条件では薬害を生じるおそれがあるので使用をさけること。
  - 3) 除草効果の低下と生育抑制の薬害が発生するおそれがあるので、入水後水持ちの安定した後に散布すること。
- (7) 梅雨時期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は、除草効果が低下するおそれがあるので使用をさけること。
- (8) 散布後の数日間に著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (9) 無人航空機で散布する際は以下に注意すること。
  - 1) 散布は使用機種の使用基準に従って実施する。
  - 2) 専用の粒剤散布装置によって湛水散布する。
  - 3) 事前に薬剤の物理性に合せて粒剤散布装置のメタリング開度を調整する。
  - 4) 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m以上離して圃場内に散布する。
  - 5) 水源池、飲料水などに飛散、流入しないように十分注意する。
- (10) 本剤を散布した水田の田面水を他の作物の灌水に使用しないこと。
- (11) 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意すること。
- (12) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (2) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (3) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。



貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 23541 号

アルファープロ<sup>®</sup>H ジャンボ

- 移植後3日から使用できる水稲用一発除草剤です。  
 ● 有効成分フェノキサスルホン配合により、ノビエや一年生雑草（アゼナ、コナギ等）に対して長期残効を示します。  
 ● 有効成分プロモブチド配合で、ALS 阻害剤抵抗性ホタルイにも優れた効果を示します。  
 ● 畦畔から投げ込むだけの省力型除草剤です。

アルファープロは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	フェノキサスルホン・・・8.0% プロモブチド・・・36.0% ベンスルフロンメチル（化管法第1種）・・・3.0%	包装	(25g×10) ×20 (25g×30) ×10
性状	類白色粒状 水溶性パック入り 1パック25g	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2015年8月5日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ セリ	移植後3日～ ルビエ2.5葉期 但し、 移植後30日まで	小包装(パック) 10個 (250g)/10a	1回	水田に小包装(パック) のまま投げ入れる

フェノキサスルホンを含む 農薬の総使用回数	プロモブチドを含む 農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

## 使用上の注意事項

- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに、時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布すること。ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ、ヘラオモダカは2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期までが本剤の散布適期である。
- 苗の植付けが均一となるように、代かきおよび植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- 散布の際は、やや深めの湛水状態（水深5～6cm）にして水の出入りを止めること。
- 散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、入水は静かにおこなうこと。
- 本剤は小包装（パック）のまま10アール当たり10個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- 藻類・表層はく離などの水面浮遊物が多い場合は、本剤の拡散が不十分になり、部分的な薬害や効果不足を生じるおそれがあるため、使用はさけること。

- (7) パックに使用しているフィルムは水溶性なので、濡れた手で作業したり、降雨で破袋することがないように注意すること。
- (8) 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 散布後に高温傾向が続くと予想される時
  - 2) 砂質土壌の水田および漏水田（減水深が2cm/日以上）
  - 3) 軟弱苗を移植した水田
  - 4) 極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田
  - 5) 植穴の戻りの悪い水田
- (9) 梅雨時期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は、除草効果が低下するおそれがあるので使用をさけること。
- (10) 散布後の数日間に著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (11) 本剤を散布した水田の田面水を他の作物の灌水に使用しないこと。
- (12) 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意すること。
- (13) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は水溶性フィルムで小包装化されているため、通常の使用方法ではその該当がない。ただし、濡れた手で触らないこと。
- (2) 水溶性フィルム包装が破袋した場合は以下の点に注意すること。
  - 1) 眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
  - 2) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。製剤は吸湿性があるので湿度には十分注意し、使い残りは外袋の口を固く閉じて保管すること。

登録番号 第 23545 号

## アルファープロ<sup>®</sup>Hフロアブル

- 移植後3日から使用できる水稲用一発除草剤です。
- 特長： ●有効成分フェノキサスルホン配合により、ノビエや一年生雑草（アゼナ、コナギ等）に対して長期残効を示します。
- 有効成分プロモブチド配合で、ALS阻害剤抵抗性ホタルイにも優れた効果を示します。

アルファープロは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	フェノキサスルホン・・・3.7% プロモブチド・・・16.5% ベンスルフロンメチル（化管法第1種）・・・1.4%	包装	500ml×20 2L×6
性状	淡褐色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	5年
毒性	普通物 <sup>※</sup>	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2015年8月5日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ セリ	移植後3日～ ノビエ2.5葉期 但し、 移植後30日まで	500mL/10a	1回	原液湛水散布

フェノキサスルホンを含む 農薬の総使用回数	プロモブチドを含む 農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

### 使用上の注意事項

- (1) 本剤の使用に当たっては、使用前に容器をよく振ること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに、時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布すること。ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ、ヘラオモダカは2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期までが本剤の散布適期である。
- (3) 苗の植付けが均一となるように、代かきおよび植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- (4) 散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態のまま田面に均一に散布し、散布後3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、入水は静かにおこなうこと。
- (5) 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 散布後に高温傾向が続くと予想される時
  - 2) 砂質土壌の水田および漏水田（減水深が2cm/日以上）
  - 3) 軟弱苗を移植した水田
  - 4) 極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田
  - 5) 植穴の戻りの悪い水田

- (6) 梅雨時期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は、除草効果が低下するおそれがあるので使用をさけること。
- (7) 散布後の数日間に著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (8) 本剤を散布した水田の田面水を他の作物の灌水に使用しないこと。
- (9) 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意すること。
- (10) 散布器、ホース、ノズル、タンク等の器具は使用後速やかに十分に水洗し、洗浄液は水田内で処理すること。また、使用した機器等は水稲用薬剤以外に使用しないこと。
- (11) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (2) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (3) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 24159 号

アルファープロ<sup>®</sup>H 豆つぶ<sup>®</sup>250

- 移植後3日から使用できる水稲用一発除草剤です。  
 ●有効成分フェノキサスルホン配合により、ノビエや一年生雑草（アゼナ、コナギ等）に対して長期残効を示します。  
 ●有効成分プロモブチド配合で、ALS阻害剤抵抗性ホタルイにも優れた効果を示します。  
 ●軽量で拡散性に優れた豆つぶ製剤です。

アルファープロは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。豆つぶはクミアイ化学工業(株)の登録商標です。

有効成分	フェノキサスルホン・・・8.0% プロモブチド・・・36.0% ベンスルフロンメチル（化管法第1種）・・・3.0%	包装	250g×20 2kg×5
性状	類白色粒状 粒径3～8mm	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2018年11月7日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ セリ	移植後3日～ ルビエ2.5葉期 但し、 移植後30日まで	250g/10a	1回	湛水散布、湛水周縁散布 又は 無人航空機による散布

フェノキサスルホンを含む 農薬の総使用回数	プロモブチドを含む 農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

## 使用上の注意事項

- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに、時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布すること。ホタルイ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカは2葉期まで、ウリカワは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期までが本剤の散布適期である。
- 苗の植付けが均一となるように、代かきおよび植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- 散布の際は、やや深めの湛水状態（水深5～6cm）にして水の出入りを止めること。
- 湛水散布の場合は田面に散布し、また、湛水周縁散布の場合は、水田周縁部に沿って帯状に散布し、散布後3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、入水は静かにおこなうこと。
- 藻類・表層はく離などの水面浮遊物が多い場合は、本剤の拡散が不十分になるおそれがあるため、周縁散布をさけ、本田内で、水田全面に散布すること。

- (6) 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
- 1) 散布後に高温傾向が続くと予想される時
  - 2) 砂質土壌の水田および漏水田（減水深が2cm/日以上）
  - 3) 軟弱苗を移植した水田
  - 4) 極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田
  - 5) 植穴の戻りの悪い水田
- (7) 梅雨時期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は、除草効果が低下するおそれがあるので使用をさけること。
- (8) 散布後の数日間に著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (9) 本剤は吸湿性があるので、散布時に降雨の場合には濡れないように注意して散布すること。濡れた手で扱わないこと。また、開封後は早めに使用すること。
- (10) 無人航空機で散布する際は以下に注意すること。
- 1) 散布は使用機種の使用基準に従って実施する。
  - 2) 専用の粒剤散布装置によって湛水散布する。
  - 3) 事前に薬剤の物理性に合せて粒剤散布装置のメタリング開度を調整する。
  - 4) 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m以上離して圃場内に散布する。
- (11) 本剤を散布した水田の田面水を他の作物の灌水に使用しないこと。
- (12) 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意すること。
- (13) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 23547 号

## アルファープロ<sup>®</sup>Lフロアブル

- 移植後3日から使用できる水稲用一発除草剤です。
- 特長： ●有効成分フェノキサスルホン配合により、ノビエや一年生雑草（アゼナ、コナギ等）に対して長期残効を示します。
- 有効成分プロモプチド配合で、ALS阻害剤抵抗性ホタルイにも優れた効果を示します。

アルファープロは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分・・・ (%)	フェノキサスルホン・・・3.7% プロモプチド・・・16.5% ベンスルフロンメチル・・・0.90%	包装	500ml×20
性状	淡褐色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2015年8月5日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヒルムシロ セリ	移植後3日～ ルビエ2.5葉期 但し、 移植後30日まで	500ml/10a	1回	原液湛水散布

フェノキサスルホンを含む 農薬の総使用回数	プロモプチドを含む 農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

### 使用上の注意事項

- (1) 本剤の使用に当たっては、使用前に容器をよく振ること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに、時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布すること。ホタルイは3葉期まで、ミズガヤツリ、ウリカワは2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期までが本剤の散布適期である。
- (3) 苗の植付けが均一となるように、代かきおよび植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- (4) 散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態のまま田面に均一に散布し、散布後3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、入水は静かにおこなうこと。
- (5) 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田および漏水田（減水深が2cm/日以上）
  - 2) 軟弱苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田
  - 4) 植穴の戻りの悪い水田



- (6) 梅雨時期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は、除草効果が低下するおそれがあるので使用をさけること。
- (7) 散布後に低温傾向が続くと予想される時においては、雑草に対する効果が劣ることがある。
- (8) 散布後の数日間に著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (9) 本剤を散布した水田の田面水を他の作物の灌水に使用しないこと。
- (10) 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意すること。
- (11) 散布器、ホース、ノズル、タンク等の器具は使用後速やかに十分に水洗し、洗浄液は水田内で処理すること。また、使用した機器等は水稲用薬剤以外に使用しないこと。
- (12) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (2) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (3) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 22116 号

# イネキング®1 キロ粒剤

●移植時から使用できる水稲用一発除草剤です。  
 ●有効成分ピラクロニル配合で、効果の発現が早いです。  
 ●ALS 阻害剤抵抗性雑草（アゼナ、コナギ、ホタルイ等）に対しても高い効果を発揮します。  
 ●畦畔から侵入するイボクサ等にも優れた効果を示します。

イネキングは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ピラクロニル・・・2.0% ピラゾレート（化管法第1種）・・・10.0% ベンゾビスクロン（化管法第1種）・・・2.0%	包装	1kg×12 4kg×4 10kg×1（JA）
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

**【適用雑草の範囲及び使用方法】**

2019年11月6日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ ウリカワ クログワイ オモダカ ヒルムシロ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時	1kg/10a	1回	田植同時散布機で施用
		移植直後～ ルビエ2.5葉期 ただし、 移植後30日まで			湛水散布 又は 無人航空機による散布
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ	稲1葉期～ ルビエ2.5葉期 ただし、 収穫90日前まで	1kg/10a	1回	湛水散布 又は 無人航空機による散布

ピラクロニルを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	ベンゾビスクロンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	3回以内

**使用上の注意事項**

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワは2葉期まで、クログワイ、オモダカは発生前～発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、ミズアオイは1葉期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。

- (3) オモダカ、クログワイは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないので、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。また、オモダカ、クログワイに有効な後処理剤と組み合わせて連年施用することにより、さらに効果が向上する。
- (4) 苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (5) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を田面に均一に散布すること。
- (6) 本剤処理後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意すること。また散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (7) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 散布は散布機種 of 散布基準に従って実施すること。
  - 2) 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 3) 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整すること。
  - 4) 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m離れた位置から圃場内に散布すること。
  - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないよう十分注意すること。
- (8) 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (9) 稲の根が露出する条件では、薬害を生じるおそれがあるので使用をさけること。
- (10) 散布後に多量の雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
- (11) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (12) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (13) 移植期が遅く、処理後著しい高温が続く場合には、稲にクロロシスを生じる場合があるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (14) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (15) いぐさを栽培予定の水田では使用しないこと。
- (16) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (17) 空袋等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。
- (18) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (19) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (20) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤食などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (5) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----  
通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----  
直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 22248 号

## イネキング®ジャンボ

- 移植後1日から使用できる水稲用一発除草剤です。
  - 有効成分ピラクロニル配合で、効果の発現が早いです。
- 特長：
- ALS阻害剤抵抗性雑草（アゼナ、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を発揮します。
  - 畦畔から侵入するイボクサ等にも優れた効果を示します。
  - 畦畔から投げ込むだけの省力型除草剤です。

イネキングは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ピラクロニル・・・4.0% ピラゾレート（化管法第1種）・・・20.0% ベンゾビスクロン（化管法第1種）・・・4.0%	包装	(50g×10) ×10
その他化管法 該当成分	ナトリウム=アルケンスルホナート及びナトリウム=ヒドロキシアルカ ンスルホナート並びにこれらの混合物(化管法第1種)・・・2.0%		
性状	淡褐色粒状、水溶性パック入り 1パック50g	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2019年11月6日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラモダカ ミズガヤツリ ウリカ クログワイ モダカ ヒルシロ アオイトロ・藻類による表層はく離	移植後1日～ ルビエ2.5葉期、 ただし 移植後30日まで	小包装(パック) 10個(500g)/10a	1回	水田に小包装 (パック)のまま 投げ入れる。
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカ ヒルシロ	稲1葉期～ ルビエ2.5葉期 ただし、 収穫90日前まで	小包装(パック) 10個(500g)/10a	1回	水田に小包装 (パック)のまま 投げ入れる。

ピラクロニルを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	ベンゾビスクロンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	3回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使いきることを。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワは2葉期まで、クログワイ、オモダカは発生前～発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。
- (3) クログワイ、オモダカは、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。また、クログワイ、オモダカに有効な後処理剤と組み合わせて連年施用することにより、さらに効果が向上する。
- (4) 苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (5) 処理に当たっては、水の出入りを止めて水深5～6cmの湛水状態にし、散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (6) 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (7) 稲の根が露出する条件では、葉害を生じるおそれがあるので使用をさけること。
- (8) 本剤は小包装（パック）のまま10アール当り10個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- (9) 散布後に多量の雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
- (10) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (11) 藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、効果の劣る可能性があるため使用をさけること。
- (12) パックに使用しているフィルムは水溶性なので、ぬれた手で作業したり、降雨で破袋することのないように注意すること。
- (13) 下記のような条件では葉害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (14) 移植期が遅く、処理後著しい高温が続く場合には、稲にクロロシスを生じる場合があるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (15) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (16) いぐさを栽培予定の水田では使用しないこと。
- (17) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (18) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (19) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は水溶性フィルムで小包装化されているため、通常の使用方法ではその該当がない。ただし、濡れた手で触らないこと。
- (2) 水溶性フィルム包装が破袋した場合は以下の点に注意すること。
  - 1) 眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
  - 2) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。水溶性フィルムは吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を堅く閉じて保管すること。また、強く加圧されると水溶性フィルムが劣化するおそれがあるので下積みにならないようにすること。

登録番号 第 22271 号

## イネキング®フロアブル

- 特長：
- 移植時から使用できる水稲用一発除草剤です。
  - 有効成分ピラクロニル配合で、効果の発現が早いです。
  - ALS 阻害剤抵抗性雑草（アゼナ、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を発揮します。
  - 畦畔から侵入するイボクサ等にも優れた効果を示します。

イネキングは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ピラクロニル・・・3.6% ピラゾレート（化管法第1種）・・・20.0% ベンゾビスクロン（化管法第1種）・・・4.0%	包装	500ml×20 2L×8
性状	類白色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2019年11月6日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ハラモダカ ミスガヤツリ ウリカ クログワイ オモダカ ヒルムシロ	移植時	500mL/10a	1回	田植同時散布機で施用
		移植直後～ ルビエ2.5葉期 ただし、 移植後30日まで			原液湛水散布 又は 無人航空機による滴下
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ ウリカ ヒルムシロ	稲1葉期～ ルビエ2.5葉期 ただし、 収穫 90日前まで	500mL/10a	1回	原液湛水散布、水口施用 又は 無人航空機による滴下

ピラクロニルを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	ベンゾビスクロンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	3回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 使用前に容器をよく振ること。
- (2) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (3) 所定の使用量を厳守すること。



- (4) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワ（移植水稻）は2葉期まで、ウリカワ（直播水稻）、クログワイは発生始期まで、オモダカは発生前～発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、ミズアオイは1葉期までが本剤の散布適期である。
- (5) クログワイ、オモダカは、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。また、クログワイ、オモダカに有効な後処理剤と組み合わせて連年施用することにより、さらに効果が向上する。
- (6) 苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (7) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を水田全面にゆきわたるように散布すること。
- (8) 本剤処理後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意すること。また散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (9) 水口施用の場合は入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させること。処理後田面水が通常の湛水状態（湛水深3～5cm）に達した時に必ず水を止め、田面水があふれ出ないように注意すること。
- (10) 本剤を無人航空機による滴下に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 滴下は使用機種の使用基準に従って実施すること。
  - 2) 滴下に当たっては散布装置のノズルを使用しないこと。
  - 3) 作業中、薬液が漏れないように機体の配管その他装置の十分な点検を行なうこと。
  - 4) 隣接する圃場に水稻以外の作物が栽培されている場合は、無人航空機による本剤の滴下は行なわないこと。
  - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
  - 6) 薬剤滴下に使用した装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
  - 7) 本剤の滴下に使用した無人航空機の散布装置は、水稻以外の作物への薬剤散布には使用しないこと。
- (11) 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (12) 稲の根が露出する条件では、薬害を生じるおそれがあるので使用をさけること。
- (13) 散布後に多量の雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
- (14) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (15) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (16) 移植期が遅く、処理後著しい高温が続く場合には、稲にクロロシスを生じる場合があるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (17) 本剤は、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (18) 空容器等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。また、処理薬剤は残さずに使い切ること。
- (19) いぐさを栽培予定の水田では使用しないこと。
- (20) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (21) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (22) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかかからないようにすること。
- (23) 散布器、ホース、ノズル、タンク等の器具は、使用後速やかに十分に水洗し、洗浄液は水田内で処理すること。また、使用した機器等は水稻用薬剤以外に使用しないこと。
- (24) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

**水産動植物に有毒な農薬**については、その旨-----

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 無人航空機による滴下で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬**については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

**貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 18680 号

## ウリホス<sup>®</sup>粒剤10

- 特長：
- 移植後3日から使用できる水稲用一発除草剤です。
  - 4種成分の配合により、ALS阻害剤抵抗性雑草（アゼナ類、コナギ、ホタルイ等）の発生を長期間抑えます。
  - 藻類及び表層はく離に対しても有効です。
  - 3ヶ剤です。

ウリホスは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ジメタメトリン・・・0.20% ピラゾレート（化管法第1種）・・・4.0% プレチラクロール（化管法第1種）・・・1.5% ベンフレセート・・・1.0%	包装	3kg×8
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2010年4月21日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ	移植後3日～ ルビエ2.5葉期 ただし、 移植後30日まで	壤土～ 埴土	3kg/10a	1回	湛水散布	東北、関東・東山・東海 の普通期及び早期栽培地帯
	ヒルムシロ セリ(近畿・中国・四国) アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植後3日～ ルビエ2葉期 ただし、 移植後30日まで					北陸、近畿・中国・ 四国、九州の普通期 及び早期栽培地帯

ジメタメトリンを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数	ベンフレセートを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内	2回以内

### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から発生始期に有効なので、ノビエの2.5葉期（北陸、近畿・中国・四国、九州は2葉期）までに時期を失しないように散布すること。なお、雑草、特に多年生雑草は生育段階によって効果のブレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ミズガヤツリは発生前から発生始期まで、ウリカワ、ヘラオモダカは発生前から2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは発生前から発生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期であるが、できるだけ早く散布することが望ましい。
- (3) 苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は特に代かきをていねいに行うこと。

- (4) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3~4日間は通常の湛水状態（水深3~5cm程度）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (5) 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (6) 下記のような条件では初期生育の抑制やクロロシスが生じるおそれがあるので使用をさけること。特にこれらの条件と梅雨明けなどによる散布時又は散布後数日間の異常高温が重なると、初期生育の抑制が顕著になるので、そのような条件下では使用しないように注意すること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水の大きな水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田
  - 4) 植付精度不良で根が露出する水田
- (7) 活着遅延を生じるような異常低温が予測されるときは、初期生育の抑制などが生じるおそれがあるので、このような条件下での使用に際しては、県の防除指針に基づき、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (8) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 誤食などのないように注意すること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。また、吸湿しやすいので開封後は堅く口を閉じ、長期間の保存はさけること。

# ウルティモ<sup>®</sup>Z 1キロ粒剤

特長：

- 新規有効成分サイラ<sup>®</sup>配合、移植時から使用できる水稲用一発除草剤です。
- クログワイ、オモダカ、シズイ等の多年生難防除雑草への効果に優れます。
- ALS 阻害剤抵抗性雑草（オモダカ、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を発揮します。
- 畦畔から侵入するイボクサ等にも優れた効果を示します。

サイラ、ウルティモは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	サイラ（シクロピリモレート）・・・3.0% ピラゾレート（化管法第1種）・・・6.0% プロピリスルフロン・・・0.90%	包装	1kg×12 4kg×4
性状	類白色細粒	有効年限	4年
毒性	普通物 <sup>*</sup>	危険物	—

\*普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用雑草の範囲及び使用方法】

2019年10月9日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 多年生広葉雑草 エゾノサヤヌカグサ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時	1kg/10a	1回	田植同時散布機で施用
		移植直後～ヒエ3.5葉期 ただし、移植後30日まで			湛水散布又は無人航空機による散布
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ	稲1葉期～ヒエ3.5葉期 ただし、収穫90日前まで			湛水散布又は無人航空機による散布

シクロピリモレートを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	プロピリスルフロンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3.5葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。多年生広葉雑草であるホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワは3葉期まで、ミズガヤツリは草丈10cmまで、クログワイは発生前～発始期まで、オモダカは広線形葉2葉期まで、ヒルムシロは発始期まで、セリは再生前～再生始期まで、コウキヤガラは発始期まで、シズイは草丈3cmまで、また、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが本剤の散布適期である。
- (3) クログワイ、オモダカ、コウキヤガラ、シズイは、必要に応じて有効な前処理剤または後処理剤と組み合わせて使用すること。

- (4) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、田面を露出させないように注意すること。散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (5) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 散布は使用機種の使用基準に従って実施すること。
  - 2) 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 3) 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整すること。
  - 4) 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう注意すること。
  - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
- (6) 移植または播種前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (7) 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (8) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- (9) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (10) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (11) 処理後著しい高温が続く場合には、稲にクロロシスを生じる場合があるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (12) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (13) いぐさを栽培予定の水田では使用しないこと。
- (14) 空袋等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。
- (15) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (16) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正におこなうこと。
- (17) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (5) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。  
また、吸湿しやすいので開封後は口を固く閉じ、長期間の保存はさけること。

登録番号 第 24738 号

## ウルティモ®Z350FG

- 新規有効成分サイラ配合、移植後5日から使用できる水稻用一発除草剤です。  
 ●クログワイ、オモダカ、シズイ等の多年生難防除雑草への効果に優れます。  
 特長： ●ALS阻害剤抵抗性雑草（オモダカ、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を発揮します。  
 ●畦畔から侵入するイボクサ等にも優れた効果を示します。  
 ●ドローン等での散布に適した省力型除草剤です。

サイラ、ウルティモは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	サイラ(シクロピリモレート)…8.6% ピラゾレート(化管法第1種)…17.1% プロピリスルフロン…2.57%	包装	1.05kg×8
性状	褐色細粒	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2023年2月8日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	一年生雑草 多年生広葉雑草 エゾノサヤヌカグサ	移植後5日～ルビエ3葉期 ただし、移植後30日まで	350g/10a	1回	湛水散布、湛水周縁 散布又は無人航空機 による散布
直播水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ	稲1葉期～ルビエ3.5葉期 ただし、収穫90日前まで	350g/10a	1回	湛水散布、湛水周縁 散布又は無人航空機 による散布

シクロピリモレートを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	プロピリスルフロンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

## 農薬の使用上の注意事項

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3葉期（直播水稻はノビエの3.5葉期）までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。多年生広葉雑草であるホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワは3葉期まで、ミズガヤツリは草丈10cmまで、クログワイは発生前～発生始期まで、オモダカは広線形葉2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前～再生始期まで、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、また、エゾノサヤヌカグサは2葉期までが本剤の散布適期である。
- クログワイ、オモダカ、コウキヤガラ、シズイは、必要に応じて有効な前処理剤または後処理剤と組み合わせて使用すること。

- (4) 散布に当たっては、水の出入りを止めて水深5～6cmの湛水状態にする。湛水散布の場合は田面に散布し、また、湛水周縁散布の場合は水田周縁部に沿って帯状に散布し、少なくとも散布後3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、田面を露出させないように注意すること。散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (5) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 散布は使用機種の使用基準に従って実施すること。
  - 2) 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 3) 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整すること。
  - 4) 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう注意すること。
  - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
- (6) 移植またはは種前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (7) 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (8) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植付作業はていねいに行うこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (9) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (10) 藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、部分的な薬害や効果不足を生じる可能性があるため、湛水周縁散布をさけ、本田内で水田全面に散布すること。
- (11) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (12) 処理後著しい高温が続く場合には、稲にクロロシスを生じる場合があるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (13) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (14) いぐさの栽培予定水田では使用しないこと。
- (15) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (16) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (17) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨、使用に際して講ずべき被害防止方法及び解毒方法-----

(1) 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

##### ア 農薬使用者に係る注意事項

- 1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- 2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- 3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- 4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 生活環境動植物に有毒な農薬については、その旨-----

空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。



**農薬の貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。また、吸湿しやすいので開封後は固く口を閉じ、長期間の保存はさけること。

## ウルティモ®Zジャンボ

- 新規有効成分サイラ®配合、移植後5日から使用できる水稲用一発除草剤です。
  - クログワイ、オモダカ、シズイ等の多年生難防除雑草への効果に優れます。
- 特長：
- ALS阻害剤抵抗性雑草（オモダカ、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を発揮します。
  - 畦畔から侵入するイボクサ等にも優れた効果を示します。
  - 畦畔から投げ込むだけの省力型除草剤です。

サイラ、ウルティモは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	サイラ（シクロピリモレート）・・・8.6% ピラゾレート（化管法第1種）・・・17.1% プロピリスルフロン・・・2.57%	包装	(35g×10) ×12
その他化管法 該当成分	ナトリウム=アルケンスルホナート及びナトリウム=ヒドロキシアル カンスルホナート並びにこれらの混合物(化管法第1種)・・・2.0%		
性状	褐色細粒、水溶性パック入り 1パック35g	有効年限	4年
毒性	普通物	危険物	—

\*普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2019年10月9日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の 使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 多年生広葉雑草 エゾノサヤヌカグサ	移植後5日～ノビエ3葉期 ただし、移植後30日まで	小包装(パック) 10個 (350g) /10a	1回	水田に小包装(パック) のまま投げ入れる。
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ	稲1葉期～ノビエ3.5葉期 ただし、収穫90日前まで			

シクロピリモレートを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	プロピリスルフロンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使い切ること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3葉期（直播水稲はノビエの3.5葉期）までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。多年生広葉雑草であるホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワは3葉期まで、ミズガヤツリは丈10cmまで、クログワイは発生前～発始期まで、オモダカは広線形葉2葉期まで、ヒルムシロは発始期まで、セリは再生前～再生始期まで、コウキヤガラは発始期まで、シズイは草丈3cmまで、また、エゾノサヤヌカグサは2葉期までが本剤の散布適期である。
- (3) クログワイ、オモダカ、コウキヤガラ、シズイは、必要に応じて有効な前処理剤または後処理剤と組み合わせて使用すること。

- (4) 処理に当たっては、水の出入りを止めて水深5～6cmの湛水状態にし、散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (5) 移植または播種前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (6) 本剤は小包装（パック）のまま10アール当たり10個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- (7) 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (8) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- (9) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (10) 藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、部分的な薬害や効果不足を生じる可能性があるので使用をさけること。
- (11) パックに使用しているフィルムは水溶性なので、ぬれた手で作業したり、降雨で破袋することのないように注意すること。
- (12) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (13) 処理後著しい高温が続く場合には、稲にクロロシスを生じる場合があるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (14) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (15) いぐさの栽培予定水田では使用しないこと。
- (16) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (17) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正におこなうこと。
- (18) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は水溶性フィルムで小包装化されているため、通常的使用方法ではその該当がない。ただし、濡れた手で触らないこと。
- (2) 水溶性フィルム包装が破袋した場合は以下の点に注意すること。
  - 1) 眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
  - 2) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常的使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。  
水溶性フィルムは吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を固く閉じて保管すること。また、強く加圧されると水溶性フィルムが劣化するおそれがあるので下積みにならないようにすること。

# ウルティモ®Zフロアブル

特長：

- 新規有効成分サイラ®配合、移植後5日から使用できる水稲用一発除草剤です。
- クログワイ、オモダカ、シズイ等の多年生難防除雑草への効果に優れます。
- ALS 阻害剤抵抗性雑草（オモダカ、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を発揮します。
- 畦畔から侵入するイボクサ等にも優れた効果を示します。

サイラ、ウルティモは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	サイラ（シクロピリモレート）・・・5.5% ピラゾレート（化管法第1種）・・・11.0% プロピリスルフロン・・・1.65%	包装	500ml×20 2L×8
性状	類白色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	—

\*普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用雑草の範囲及び使用方法】

2019年10月9日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 多年生広葉雑草 エゾノサヤヌカグサ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後5日～ノビエ3葉期 ただし、移植後30日まで	500ml/10a	1回	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ	稲1葉期～ノビエ3.5葉期 ただし、収穫90日前まで			

シクロピリモレートを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	プロピリスルフロンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

使用上の注意事項

- (1) 使用前に容器をよく振ること。
- (2) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (3) 所定の使用量を厳守すること。
- (4) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3葉期（直播水稲はノビエの3.5葉期）までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。多年生広葉雑草であるホタルイ、ヘラオモダカ（移植水稲）、ウリカワ（移植水稲）は3葉期まで、ミズガヤツリは草丈10cmまで、ヘラオモダカ（直播水稲）、ウリカワ（直播水稲）は2葉期まで、クログワイは発生前～発生始期まで、オモダカは広線形葉2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前～再生始期まで、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、また、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、アオミ

ドロ・藻類による表層はく離は発生前までが本剤の散布適期である。

- (5) クログワイ、オモダカ、コウキヤガラ、シズイは、必要に応じて有効な前処理剤または後処理剤と組み合わせて使用すること。
- (6) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を水田全面にゆきわたるように散布すること。
- (7) 本剤処理後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意すること。また散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (8) 水口施用の場合は入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させること。処理後田面水が通常の水状態（湛水深3～5cm）に達した時に必ず水を止め、田面水があふれ出ないように注意すること。
- (9) 本剤を無人航空機による滴下に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 滴下は使用機種の使用基準に従って実施すること。
  - 2) 滴下に当たっては散布装置のノズルを使用しないこと。
  - 3) 作業中、薬液が漏れないように機体の配管その他装置の十分な点検を行なうこと。
  - 4) 薬液の飛散によって適用作物以外の作物に影響を及ぼすおそれがあるので、周辺作物に薬液がかからないように風の影響等を十分考慮して滴下すること。
  - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
  - 6) 本剤の滴下に使用した無人航空機の散布装置は、水稻以外の作物への薬剤散布には使用しないこと。
- (10) 移植または播種前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (11) 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (12) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- (13) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (14) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (15) 処理後著しい高温が続く場合には、稲にクロロシスを生じる場合があるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (16) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (17) いぐさを栽培予定の水田では使用しないこと。
- (18) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (19) 空容器等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。
- (20) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (21) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正におこなうこと。
- (22) 散布器、ホース、ノズル、タンク等の器具は、使用後速やかに十分に水洗し、洗浄液は水田内で処理すること。また、使用した機器等は水稻用薬剤以外に使用しないこと。
- (23) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----  
通常の使用方法ではその該当がない。

**貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 23124 号

オシオキ<sup>®</sup>MX1 キロ粒剤

- 特長：
- 移植後14日から使用できる水稲用中期除草剤です。
  - 初期または一発除草剤との組み合わせで使用します。
  - ノビエからクログワイ等の多年生難防除雑草まで幅広く効果を発揮します。
  - 畦畔侵入するイボクサ等にも優れた効果を示します。

オシオキは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	アジメスルフロン・・・0.18% ピリフタリド(化管法第1種)・・・1.8% メソトリオン・・・1.0%	包装	1kg×12
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2015年9月30日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ハラホダカ ミスガヤツリ ウリカワ クログワイ ホダカ ヒルムシロ セリ コキヤガラ シズイ	移植後14日～ ルビエ4葉期 ただし、 収穫45日前まで	1kg/10a	1回	湛水散布又は 無人ヘリコプターによる散布
直播水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ	稲3葉期～ ルビエ3.5葉期 ただし、 収穫45日前まで	1kg/10a	1回	湛水散布又は 無人ヘリコプターによる散布

アジメスルフロンを含む 農薬の総使用回数	ピリフタリドを含む 農薬の総使用回数	メソトリオンを含む 農薬の総使用回数
1回	2回以内	2回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 多年生雑草は生育段階によって効果にフレがあるので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイは草丈10cm以下、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワは4葉期まで、クログワイは生育期（草丈30cm以下）まで、オモダカは生育期（矢じり葉3葉期）まで、ヒルムシロは移植水稻では生育期まで、直播水稻では発生期まで、セリは移植水稻では再生前～生育期まで、直播水稻では再生前～再生始期まで、コウキヤガラ、シズイは草丈30cm以下が本剤の散布適期である。
- (3) クログワイ、オモダカ、コウキヤガラ、シズイは必要に応じて有効な前処理剤と組み合わせて使用すること。また、クログワイ、オモダカに有効な前処理剤と組み合わせて連年施用することにより、さらに効果が向上する。
- (4) 苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (5) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布すること。少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、田面を露出させないように注意すること。散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (6) 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (7) 前処理剤との体系で使用し、雑草の発生状況をよく確認し、時期を失ないように散布すること。
- (8) 本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 散布は散布機種の散布基準に従って実施すること。
  - 2) 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 3) 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整すること。
  - 4) 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m離れた位置から圃場内に散布すること。
  - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
- (9) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (10) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (11) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (12) 空袋等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。
- (13) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (14) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (15) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (2) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (3) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。



貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 22984 号

# キクンジャー®Z1 キロ粒剤

●移植時から使用できる水稲用一発除草剤です。  
 特長： ●有効成分プロピリスルフロン配合で、クログワイ、オモダカ、シズイ等の難防除雑草への効果にも優れます。  
 ●畦畔から侵入するイボクサ等にも優れた効果を示します。

キクンジャーは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ピラゾレート（化管法第1種）・・・15.0% プロピリスルフロン・・・0.90%	包装	1kg×12 4kg×4 10kg×1（JA）
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

**【適用雑草の範囲及び使用方法】**

2016年8月24日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ピラゾレートを含む農薬の総使用回数	プロピリスルフロンを含む農薬の総使用回数
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ ウリカワ クログワイ オモダカ ヒルムシロ セリ シズイ コウキヤガラ アオイトロ・藻類による表層はく離	移植時	1kg/10a	1回	田植同時 散布機で 施用	2回以内	2回以内
		移植直後～ ノビエ 3葉期 ただし、 移植後 30日まで			湛水散布 又は 無人ヘリコプター による散布		
直播水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ	稲1葉期 ～ノビエ 3葉期 ただし、 収穫 90日前ま で	1kg/10a	1回	湛水散布 又は 無人ヘリコプター による散布	2回以内	2回以内

**使用上の注意事項**

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきることを。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ（移植水稲）、ウリカワ（移植水稲）は3葉期まで、ウリカワ（直播水稲）、ミズガヤツリ（直播水稲）は2葉期まで、クログワイ、オモダカは発生前～発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前～再生始

期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前まで、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまでが本剤の散布適期である。

- (3) クログワイ、オモダカ、コウキヤガラ、シズイは必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。また、クログワイ、オモダカに有効な後処理剤と組み合わせて連年施用することにより、さらに効果が向上する。
- (4) 苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (5) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布すること。少なくとも3~4日間は通常の湛水状態（水深3~5cm）を保ち、田面を露出させないように注意すること。散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (6) 本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 散布は使用機種の使用基準に従って実施すること。
  - 2) 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 3) 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整すること。
  - 4) 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m離れた位置から圃場内に散布すること。
  - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
- (7) 稲の根が露出する条件では葉害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (8) 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (9) 散布後に多量の雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
- (10) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (11) 下記のような条件では葉害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (12) 移植期が遅く、処理後著しい高温が続く場合には、稲にクロロシスを生じる場合があるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (13) 本剤は、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (14) いぐさを栽培予定の水田では使用しないこと。
- (15) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (16) 空袋等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。
- (17) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (18) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (19) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 23122 号

## キクンジャー®Z ジャンボ

- 特長：
- 移植後5日から使用できる水稲用一発除草剤です。
  - 有効成分プロピリスルフロン配合で、クログワイ、オモダカ、シズイ等の難防除雑草への効果にも優れます。
  - 畦畔から侵入するイボクサ等にも優れた効果を示します。
  - 畦畔から投げ込むだけの省力型除草剤です。

キクンジャーは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ピラズレート(化管法第1種)・・・30.0% プロピリスルフロン・・・1.8%	包装	(50g×10) ×10
その他化管法該当成分	ナトリウム=アルケンスルホナート及びナトリウム=ヒドロキシアルカ ンスルホナート並びにこれらの混合物(化管法第1種)・・・2.0%		
性状	淡褐色粒状、水溶性パック入り 1パック50g	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2015年9月30日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ピラズレートを含む農薬の総使用回数	プロピリスルフロンを含む農薬の総使用回数
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ ウリカワ クログワイ オモダカ ヒルムシロ セリ シズイ コウキヤガラ	移植後5日～ ビエ3葉期 ただし、 移植後30日まで	小包装 (パック) 10個 (500g)/10a	1回	水田に 小包装 (パック) のまま 投げ入れ る。	2回以内	2回以内

### 使用上の注意事項

- (1) 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使いきる。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ヘラオモダカは2葉期まで、ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワは3葉期まで、クログワイ、オモダカは発生前～発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前～再生始期まで、シズイは草丈3cm以下、コウキヤガラは発生始期までが本剤の散布適期である。
- (3) クログワイ、オモダカは、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。また、クログワイ、オモダカに有効な後処理剤と組み合わせて連年施用することにより、さらに効果が向上する。
- (4) 苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。

- (5) 処理に当たっては、水の出入りを止めて水深5～6cmの湛水状態にし、散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (6) 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (7) 本剤は小包装（パック）のまま10アール当り10個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- (8) 散布後に多量の雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
- (9) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (10) 藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、効果の劣る可能性があるため使用をさけること。
- (11) パックに使用しているフィルムは水溶性なので、ぬれた手で作業したり、降雨で破袋することのないように注意すること。
- (12) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
  - 4) 稲の根が露出している水田
- (13) 移植期が遅く、処理後著しい高温が続く場合には、稲にクロロシスを生じる場合があるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (14) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (15) いぐさを栽培予定の水田では使用しないこと。
- (16) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (17) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (18) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は水溶性フィルムで小包装化されているため、通常の使用方法ではその該当がない。ただし、濡れた手で触らないこと。
- (2) 水溶性フィルム包装が破袋した場合は以下の点に注意すること。
  - 1) 眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
  - 2) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。水溶性フィルムは吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を堅く閉じて保管すること。また、強く加圧されると水溶性フィルムが劣化するおそれがあるので下積みにならないようにすること。

登録番号 第 23123 号

キクンジャー<sup>®</sup>Zフロアブル

●移植後5日から使用できる水稲用一発除草剤です。  
 特長： ●有効成分プロピリスルフロン配合で、クログワイ、オモダカ、シズイ等の難防除雑草への効果にも優れます。  
 ●畦畔から侵入するイボクサ等にも優れた効果を示します。

キクンジャーは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ピラゾレート(化管法第1種)・・・27.3% プロピリスルフロン・・・1.6%	包装	500ml×20 2L×8
性状	類白色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2016年8月24日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ピラゾレートを含む農薬の総使用回数	プロピリスルフロンを含む農薬の総使用回数
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ クログワイ オモダカ ヒルムシロ セリ シズイ コウキヤガラ	移植後5日～ ノビエ3葉期 ただし、 移植後30日まで	500mL/10a	1回	原液湛水散布、 水口施用又は 無人ヘリコプター による滴下	2回以内	2回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 使用前に容器をよく振ること。
- (2) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (3) 所定の使用量を厳守すること。
- (4) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3葉期までに時期を失ないように散布すること。ただし、畦畔から散布する場合にはノビエ2.5葉期までに散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワは3葉期まで、クログワイ、オモダカは発生前～発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前～再生始期まで、シズイは草丈3cmまで、コウキヤガラは発生始期までが本剤の散布適期である。
- (5) クログワイ、オモダカ、シズイ、コウキヤガラは、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。また、クログワイ、オモダカに有効な後処理剤と組み合わせて連年施用することにより、さらに効果が向上する。
- (6) 苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (7) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を水田全面にゆきわたるように散布すること。
- (8) 本剤処理後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意すること。また散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。止水期間中の入水は静かに行うこと。

- (9) 水口施用の場合は入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させること。処理後田面水が通常の湛水状態（湛水深3～5cm）に達した時に必ず水を止め、田面水があふれ出ないように注意すること。
- (10) 本剤を無人ヘリコプターによる滴下に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 滴下は使用機種の使用基準に従って実施すること。
  - 2) 滴下に当たっては散布装置のノズルを使用しないこと。
  - 3) 作業中、薬液が漏れないように機体の配管その他装置の十分な点検を行なうこと。
  - 4) 隣接する圃場に水稲以外の作物が栽培されている場合は、無人ヘリコプターによる本剤の滴下は行なわないこと。
  - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
  - 6) 薬液滴下に使用した装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
  - 7) 本剤の滴下に使用した無人ヘリコプターの散布装置は、水稲以外の作物への薬液散布には使用しないこと。
- (11) 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (12) 散布後に多量の雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
- (13) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (14) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
  - 4) 稲の根が露出している水田
- (15) 移植期が遅く、処理後著しい高温が続く場合には、稲にクロロシスを生じる場合があるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (16) 本剤は、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (17) いぐさを栽培予定の水田では使用しないこと。
- (18) 空容器等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。また、処理薬剤は残さずに使い切ることに。
- (19) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (20) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (21) 散布器、ホース、ノズル、タンク等の器具は、使用后速やかに十分に水洗し、洗浄液は水田内で処理すること。また、使用した機器等は水稲用薬剤以外に使用しないこと。
- (22) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (2) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (3) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。



# クサウェポン®1キロ粒剤

●新規有効成分サイラ®配合、移植時から使用できる水稲用一発除草剤です。  
 ●ノビエに対して長期残効を示し、多年生雑草（クログワイ、シズイ等）にも効果を示します。  
 特長： ●ALS 阻害剤抵抗性雑草（オモダカ、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を発揮します。  
 ●畦畔から侵入するキシユウスズメノヒエ、イボクサ等にも優れた効果を示します。  
 ●直播水稲での播種同時処理も可能です。

サイラ、クサウェポンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	サイラ（シクロピリモレート）・・・3.0% ピラゾレート（化管法第1種）・・・6.0% トリアファモン・・・0.50%	包装	1kg×12 4kg×4
性状	類白色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	—

\*普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用雑草の範囲及び使用方法】

2020年11月11日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生及び多年生雑草 アオミドロ・藻類 による表層はく離	移植時	1kg/10a	1回	田植同時散布機で施用
		移植直後～ルビエ3.5葉期 ただし、移植後30日まで			湛水散布又は無人航空機による散布
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ	は種時	1kg/10a	1回	は種同時散布機で施用
		は種直後～ルビエ3.5葉期 ただし、収穫90日前まで			湛水散布又は無人航空機による散布

シクロピリモレートを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	トリアファモンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

**使用上の注意事項**

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3.5葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ウリカワ（直播水稲）は3葉期まで、ヘラオモダカ（移植水稲）は6葉期まで、ヘラオモダカ（直播水稲）は発生前まで、ミズガヤツリは草丈10cmまで、ウリカワ（移植水稲）は4葉期まで、クログワイは発生前～発生始期まで、オモダカは矢じり葉1葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前～再生始期まで、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、キシユウスズメノヒエは再生茎2葉期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが本剤の散布適期である。

- (3) クログワイ、オモダカ、コウキヤガラ、シズイは、必要に応じて有効な前処理剤または後処理剤と組み合わせて使用すること。
- (4) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、田面を露出させないように注意すること。散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (5) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 散布は使用機種の使用基準に従って実施すること。
  - 2) 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 3) 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整すること。
  - 4) 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう注意すること。
  - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
- (6) 移植または播種前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (7) 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (8) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- (9) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (10) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (11) 本剤使用前に、活着遅延を生じるような異常低温が予測されるときは、初期生育の抑制などが生じるおそれがあるので、このような条件下での使用に際しては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (12) 処理後著しい高温や低温が続く場合には、稲にクロロシスや黄化を生じ初期生育が抑制される場合があるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (13) 薬害を生じるおそれがあるので、後作物としてなす、たまねぎ及びさやえんどうを栽培しないこと。
- (14) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (15) 空袋等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。
- (16) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (17) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正におこなうこと。
- (18) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤食などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (5) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (6) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

---

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。  
また、吸湿しやすいので開封後は口を固く閉じ、長期間の保存はさけること。

登録番号 第 24740 号

## クサウェポン®400FG

- 新規有効成分サイラ配合、移植後1日から使用できる水稲用一発除草剤です。  
 ●ノビエに対して長期残効を示し、多年生雑草（クログワイ、シズイ等）にも効果を示します。  
 特長： ●ALS阻害剤抵抗性雑草（オモダカ、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を発揮します。  
 ●畦畔から侵入するキシウスズメノヒエ、イボクサ等にも優れた効果を示します。  
 ●ドローン等での散布に適した省力型除草剤です。

サイラ、クサウェポンは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	サイラ(シクロピリモレート)…7.5% ピラゾレート(化管法第1種)…15.0% トリアファモン…1.2%	包装	1.2kg×8
性状	淡褐色細粒	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2023年2月8日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生及び多年生雑草	移植後1日～ <sup>1</sup> 葉3葉期 ただし、移植後30日まで	400g/10a	1回	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ	稲1葉期～ <sup>1</sup> 葉3.5葉期 ただし、収穫90日前まで	400g/10a	1回	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布

シクロピリモレートを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	トリアファモンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

## 農薬の使用上の注意事項

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3葉期（直播水稲はノビエの3.5葉期）までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワは3葉期まで、ミズガヤツリは草丈10cmまで、クログワイは発生前～発生始期まで、オモダカは矢じり葉1葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前～再生始期まで、コウキヤガラは草丈5cmまで、シズイは草丈3cmまで、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、キシウスズメノヒエは再生茎3葉期までが本剤の散布適期である。
- クログワイ、オモダカ、コウキヤガラ、シズイは、必要に応じて有効な前処理剤または後処理剤と組み合わせて使用すること。

- (4) 散布に当たっては、水の出入りを止めて水深5～6cmの湛水状態にする。湛水散布の場合は田面に散布し、また、湛水周縁散布の場合は水田周縁部に沿って帯状に散布し、少なくとも散布後3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、田面を露出させないように注意すること。散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (5) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 散布は使用機種の使用基準に従って実施すること。
  - 2) 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 3) 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整すること。
  - 4) 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう注意すること。
  - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
- (6) 移植またはは種前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (7) 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (8) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植付作業はていねいに行うこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (9) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (10) 藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、部分的な薬害や効果不足を生じる可能性があるため、湛水周縁散布をさけ、本田内で水田全面に散布すること。
- (11) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (12) 本剤使用前に、活着遅延を生じるような異常低温が予測されるときは、初期生育の抑制などが生じるおそれがあるので、このような条件下での使用に際しては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (13) 処理後著しい高温や低温が続く場合には、稲にクロロシスや黄化を生じ初期生育が抑制される場合があるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (14) 薬害を生じるおそれがあるので、後作物としてなす、たまねぎ及びさやえんどうを栽培しないこと。
- (15) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (16) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (17) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (18) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨、使用に際して講ずべき被害防止方法及び解毒方法-----

##### (1) 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

###### ア 農薬使用者に係る注意事項

- 1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- 2) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- 3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- 4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- 5) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

##### (2) 使用に際して講ずべき被害防止方法

該当なし

#### 生活環境動植物に有毒な農薬については、その旨-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

農薬の貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。また、吸湿しやすいので開封後は固く口を閉じ、長期間の保存はさけること。

## クサウェポン®ジャンボ

- 新規有効成分サイラ®配合、移植後1日から使用できる水稲用一発除草剤です。  
 ●ノビエに対して長期残効を示し、多年生雑草（クログワイ、シズイ等）にも効果を示します。  
 特長： ●ALS阻害剤抵抗性雑草（オモダカ、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を発揮します。  
 ●畦畔から侵入するキシユウスズメノヒエ、イボクサ等にも優れた効果を示します。  
 ●畦畔から投げ込むだけの省力型除草剤です。

サイラ、クサウェポンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	サイラ（シクロピリモレート）・・・7.5% ピラゾレート（化管法第1種）・・・15.0% トリアフェモン・・・1.2%	包装	(40g×10) ×12
その他化管法 該当成分	ナトリウム=アルケンスルホナート及びナトリウム=ヒドロキシアル カンズルホナート並びにこれらの混合物(化管法第1種)・・・2.0%		
性状	淡褐色細粒、水溶性パック入り 1パック40g	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	—

\*普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2020年6月10日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の 使用回数	使用方法
移植水稲	一年生及び多年生雑草	移植後1日～ノビエ3葉期 ただし、移植後30日まで	小包装(パック)10個 (400g)/10a	1回	水田に小包装(パック) のまま投げ入れる。
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ	稲1葉期～ノビエ3.5葉期 ただし、収穫90日前まで			

シクロピリモレートを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	トリアフェモンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

## 使用上の注意事項

- 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使いきること。
- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3葉期（直播水稲はノビエの3.5葉期）までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワは3葉期まで、ミズガヤツリは草丈10cmまで、クログワイは発生前～発始期まで、オモダカは矢じり葉1葉期まで、ヒルムシロは発始期まで、セリは再生前～再生始期まで、コウキヤガラは草丈5cmまで、シズイは草丈3cmまで、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、キシユウスズメノヒエは再生茎3葉期までが本剤の散布適期である。
- クログワイ、オモダカ、コウキヤガラ、シズイは、必要に応じて有効な前処理剤または後処理剤と組み合わせて使用すること。

- (4) 処理に当たっては、水の出入りを止めて水深5～6cmの湛水状態にし、散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (5) 移植または播種前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (6) 本剤は小包装（パック）のまま10アール当たり10個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- (7) 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (8) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- (9) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (10) 藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、部分的な薬害や効果不足を生じる可能性があるので使用をさけること。
- (11) パックに使用しているフィルムは水溶性なので、ぬれた手で作業したり、降雨で破袋することのないように注意すること。
- (12) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (13) 本剤使用前に、活着遅延を生じるような異常低温が予測される場合は、初期生育の抑制などが生じるおそれがあるので、このような条件下での使用に際しては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (14) 処理後著しい高温や低温が続く場合には、稲にクロロシスや黄化を生じ初期生育が抑制される場合があるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (15) 薬害を生じるおそれがあるので、後作物としてなす、たまねぎ及びさやえんどうを栽培しないこと。
- (16) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (17) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (18) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正におこなうこと。
- (19) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は水溶性フィルムで小包装化されているため、通常的使用方法ではその該当がない。ただし、濡れた手で触らないこと。
- (2) 水溶性フィルム包装が破袋した場合は以下の点に注意すること。
  - 1) 眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
  - 2) 皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
  - 3) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常的使用方法ではその該当がない。



**貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。  
水溶性フィルムは吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を固く閉じて保管すること。また、強く加圧されると水溶性フィルムが劣化するおそれがあるので下積みにならないようにすること。

## クサウェポン®フロアブル

- 特長：
- 新規有効成分サイラ®配合、移植時から使用できる水稲用一発除草剤です。
  - ノビエに対して長期残効を示し、多年生雑草（クログワイ、シズイ等）にも効果を示します。
  - ALS 阻害剤抵抗性雑草（オモダカ、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を発揮します。
  - 畦畔から侵入するキシウスズメノヒエ、イボクサ等にも優れた効果を示します。

サイラ、クサウェポンは三井化学クロップ&ライフソリューション㈱の登録商標です。

有効成分	サイラ（シクロピリモレート）・・・5.5% ピラゾレート（化管法第1種）・・・11.0% トリアファモン・・・0.90%	包装	500ml×20 2L×8
性状	類白色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	3年
毒性	普通物 <sup>※</sup>	危険物	—

\*普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2020年11月11日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 多年生雑草 アオミドロ・藻類 による表層はく離	移植時	500ml/10a	1回	田植同時散布機で施用
		移植直後～ルベ3.5葉期 ただし、移植後30日まで			原液湛水散布、水口施用 又は無人航空機による滴下
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ アオミドロ・藻類に よる表層はく離	稲1葉期～ルベ3.5葉期 ただし、収穫90日前まで	500ml/10a	1回	原液湛水散布、水口施用 又は無人航空機による滴下

シクロピリモレートを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	トリアファモンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 使用前に容器をよく振ること。
- (2) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (3) 所定の使用量を厳守すること。
- (4) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3.5葉期までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ウリカワは3葉期まで、ヘラオモダカ（移植水稲）は4葉期まで、ヘラオモダカ（直播水稲）は2葉期まで、ミズガヤツリは草丈10cmまで、クログワイは発生前～発生始期まで、オモダカは矢じり葉1葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前～再生始期まで、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、エゾノサヤスカ

グサは2葉期まで、キシユウスズメノヒエは再生茎3葉期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが本剤の散布適期である。

- (5) クログワイ、オモダカ、コウキヤガラ、シズイは、必要に応じて有効な前処理剤または後処理剤と組み合わせて使用すること。
- (6) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を水田全面にゆきわたるように散布すること。
- (7) 本剤処理後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意すること。また散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (8) 水口施用の場合は入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させること。処理後田面水が通常の湛水状態（湛水深3～5cm）に達した時に必ず水を止め、田面水があふれ出ないように注意すること。
- (9) 本剤を無人航空機による滴下に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 滴下は使用機種の使用基準に従って実施すること。
  - 2) 滴下に当たっては散布装置のノズルを使用しないこと。
  - 3) 作業中、薬液が漏れないように機体の配管その他装置の十分な点検を行なうこと。
  - 4) 薬液の飛散によって適用作物以外の作物に影響を及ぼすおそれがあるので、周辺作物に薬液がかからないように風の影響等を十分考慮して滴下すること。
  - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
  - 6) 本剤の滴下に使用した無人航空機の散布装置は、水稻以外の作物への薬剤散布には使用しないこと。
- (10) 移植または播種前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (11) 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (12) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- (13) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (14) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (15) 本剤使用前に、活着遅延を生じるような異常低温が予測されるときは、初期生育の抑制などが生じるおそれがあるので、このような条件下での使用に際しては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (16) 処理後著しい高温や低温が続く場合には、稲にクロロシスや黄化を生じ初期生育が抑制される場合があるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (17) 薬害を生じるおそれがあるので、後作物としてなす、たまねぎ及びびさやえんどうを栽培しないこと。
- (18) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (19) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (20) 空容器等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。
- (21) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (22) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正におこなうこと。
- (23) 散布器、ホース、ノズル、タンク等の器具は、使用后速やかに十分に水洗し、洗浄液は水田内で処理すること。また、使用した機器等は水稻用薬剤以外に使用しないこと。
- (24) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----  
この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----  
通常の使用法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----  
直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 22198 号

## クサオウジ<sup>®</sup>1 キロ粒剤 75 (JA)

●移植時から使用できる水稲用一発除草剤です。  
 特長： ●ノビエに対して長期残効を示します。  
 ●有効成分プロモブチド配合で、ALS 阻害剤抵抗性ホタルイにも優れた効果を示します。

クサオウジは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	フェントラザミド (化管法第1種)・・・3.0% プロモブチド・・・6.0% ベンスルフロンメチル・・・0.75%	包装	1kg×12 10kg×1
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物 <sup>*</sup>	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

**【適用雑草の範囲及び使用方法】**

2010年6月23日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草 マツバ <sup>イ</sup> ホタルイ ハラモガカ ミズガヤツリ(東北) ウリカ クログワイ(東北) モガカ ヒルムシロ セ シズイ(東北) アオドロ・藻類による 表層はく離	移植時	砂壤土～ 埴土	1kg/10a	1回	田植同時散布機 で施用	北海道、東北
		移植直後～ ルビエ2.5葉期 ただし、 移植後30日まで				湛水散布	
直播水稲	水田一年生雑草 マツバ <sup>イ</sup> ホタルイ ハラモガカ ウリカ	稲1葉期～ ルビエ2.5葉期 ただし、 収穫90日前ま で	壤土～ 埴土	1kg/10a	1回	湛水散布	北海道、東北

フェントラザミドを含む 農薬の総使用回数	プロモブチドを含む 農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む 農薬の総使用回数
1回	2回以内	2回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ヘラオモダカ（北海道）、ミズガヤツリ、ウリカワ（北海道）は2葉期まで、ヘラオモダカ（東北）、ウリカワ（東北）、クログワイ、オモダカは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、シズイは草丈3cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。
- (3) クログワイ、オモダカ、シズイは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないので、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。また、クログワイ、オモダカに有効な後処理剤と組み合わせて連年施用することにより、さらに効果が向上する。
- (4) 苗の植付けが均一となるように代かきを丁寧に行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特に丁寧に行うこと。
- (5) 散布にあたっては、水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を田面に均一に散布すること。
- (6) 本剤処理後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意すること。また散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (7) 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失ないように適期に散布すること。
- (8) 直播水稲栽培では、稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので、注意すること。
- (9) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (10) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
  - 4) 稲の根が露出している水田
- (11) 散布後数日間著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (12) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (13) 空袋等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。
- (14) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (15) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、落水、かけ流しはしないこと。
- (16) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

誤食などのないよう注意すること。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

## 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 22197 号

# クサオウジ<sup>®</sup>H ジャンボ (JA)

特長：

- 移植後3日から使用できる水稲用一発除草剤です。
- ノビエに対して長期残効を示します。
- 有効成分プロモプチド配合で、ALS阻害剤抵抗性ホタルイにも優れた効果を示します。
- 畦畔から投げ込むだけの省力型一発除草剤です。

クサオウジは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	フェントラザミド (化管法第1種)・・・7.50% プロモプチド・・・15.0% ベンスルフロンメチル (化管法第1種)・・・1.87%	包装	(40g×10) ×12
その他化管法該当成分	ナトリウム=アルケンスルホナート及びナトリウム=ヒドロキシアルカンシルホナート並びにこれらの混合物(化管法第1種)・・・2.0%		
性状	淡褐色粒状、水溶性パック入り 1パック 40g	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

**【適用雑草の範囲及び使用方法】**

2010年6月23日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ(東北) ウリカワ クログワイ(東北) オモダカ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後3日～ ビエ2.5葉期 ただし、 移植後30日まで	砂壤土～ 埴土	小包装 (パック) 10個 (400g)/10a	1回	水田に小包装 (パック)のまま 投げ入れる。	北海道、東北

フェントラザミドを含む 農薬の総使用回数	プロモプチドを含む 農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む 農薬の総使用回数
1回	2回以内	2回以内

**使用上の注意事項**

- (1) 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使いきること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ヘラオモダカ(北海道)、ミズガヤツリ、ウリカワ(北海道)は2葉期まで、ヘラオモダカ(東北)、ウリカワ(東北)、クログワイ、オモダカは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく

離は発生前が本剤の散布適期である。また、クログワイ、オモダカは発生期間が長く、遅い発生のもは十分な効果を示さないので、有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。

- (3) 苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (4) 藻類又は表層はく離の発生しやすい水田では有効な剤との組合せで使用すること。
- (5) 処理に当たっては、水の出入りを止めて水深5～6cmの湛水状態にし、散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (6) 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (7) 本剤は小包装（パック）のまま10アール当り10個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- (8) 藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、効果の劣る可能性があるので使用をさけること。
- (9) パックに使用しているフィルムは水溶性なので、ぬれた手で作業したり、降雨で破袋することのないように注意すること。
- (10) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (11) 処理後数日間著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (12) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (13) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (14) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、落水、かけ流しはしないこと。
- (15) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は水溶性フィルムで小包装化されているため、通常的使用方法ではその該当がない。ただし、ぬれた手で触らないこと。
- (2) 水溶性フィルム包装が破袋した場合は以下の点に注意すること。
  - 1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
  - 2) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常的使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。水溶性フィルムは吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を堅く閉じて保管すること。また、強く加圧されると水溶性フィルムが劣化するおそれがあるので下積みにならないようにすること。



登録番号第 22449 号

## 草枯らしMIC®

特長：  
 ●雑草の葉にかけて根まで枯らす非選択性の茎葉処理除草剤です。  
 ●適用作物が多く、様々な場面で使用できます。

MICは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	グリホサートイソプロピルアミン塩（化管法第1種）・・・41.0%	包装	500ml×20 1L×12 2L×6 5L×3 10L×1 20L×1 200L×1
性状	淡黄色澄明水溶性液体	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用雑草の範囲及び使用方法】

2021年10月13日付内容

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量 (薬量)	使用量 (希釈水量)	本剤の 使用 回数	使用 方法	グリホサート を含む農薬の 総使用回数
果樹類 (かんきつ、 パナップを除く)	-	一年生雑草	収穫7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 $\frac{\text{リットル}}{10a}$ 少量散布 25~50 $\frac{\text{リットル}}{10a}$	3回以内	雑草茎葉 散布	3回以内
		多年生雑草		500~1000 mL/10a				
かんきつ	-	一年生雑草	収穫7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 $\frac{\text{リットル}}{10a}$ 少量散布 25~50 $\frac{\text{リットル}}{10a}$	3回以内	雑草茎葉 散布	5回以内
		多年生雑草		500~1000 mL/10a				
豆類 (種実、ただし、 だいず、らっかせいを除く)	-	一年生雑草	は種7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 $\frac{\text{リットル}}{10a}$ 少量散布 25~50 $\frac{\text{リットル}}{10a}$ 、 5~15 $\frac{\text{リットル}}{10a}$	2回以内	雑草茎葉 散布	2回以内
えだまめ	-	一年生雑草	は種7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 $\frac{\text{リットル}}{10a}$ 少量散布 25~50 $\frac{\text{リットル}}{10a}$ 、 5~15 $\frac{\text{リットル}}{10a}$	1回	雑草茎葉 散布	3回以内

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量(薬量)	使用量(希釈水量)	本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
だいず	-	一年生雑草	は種7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 25~50 <sup>リットル</sup> /10a、 5~15 <sup>リットル</sup> /10a	2回以内	雑草茎葉 散布	4回以内
			は種後出芽前まで (雑草生育期)		通常散布 50~100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 25~50 <sup>リットル</sup> /10a			
			畦間処理:雑草生 育期 但し、収穫前 日まで					
小麦	-	多年生 <sup>イネ科</sup> 雑草	耕起前又は は種前まで (雑草生育期)	250~1000 mL/10a	通常散布 50~100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 25~50 <sup>リットル</sup> /10a	3回以内	雑草茎葉 散布	3回以内
		一年生雑草	は種後出芽前 (雑草生育期)	250~500 mL/10a				
		多年生雑草	耕起7日前まで (雑草生育期)	500~1000 mL/10a	通常散布 100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 5~15 <sup>リットル</sup> /10a	1回		
	圃場 内の 周縁 部	一年生雑草	収穫7日前まで (雑草生育期)	250mL/10a	通常散布 50~100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 25~50 <sup>リットル</sup> /10a	3回以内		
麦類 (小麦を除く)	-	一年生雑草	耕起7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 5~15 <sup>リットル</sup> /10a	1回	雑草茎葉 散布	3回以内
			は種後出芽前(雑 草生育期)		通常散布 50~100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 25~50 <sup>リットル</sup> /10a			
かんしょ	-	一年生雑草	耕起又は 挿苗7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 5~15 <sup>リットル</sup> /10a	1回	雑草茎葉 散布	2回以内
だいこん	-	一年生雑草	耕起又はは種7日 前まで(雑草生育 期)	250~500 mL/10a	通常散布 100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 5~15 <sup>リットル</sup> /10a	1回	雑草茎葉 散布	2回以内
はつか だいこん	-	一年生雑草	耕起又は は種7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 5~15 <sup>リットル</sup> /10a	1回	雑草茎葉 散布	1回

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量(薬量)	使用量(希釈水量)	本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
キャベツ	-	一年生雑草	耕起又は定植7日前まで(雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 5~15 <sup>リットル</sup> /10a	1回	雑草茎葉散布	1回
とうがらし類	-	一年生雑草	耕起又は定植7日前まで(雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 25~50 <sup>リットル</sup> /10a、 5~15 <sup>リットル</sup> /10a	1回	雑草茎葉散布	2回以内
にんじん	-	一年生雑草	耕起又は定植7日前まで(雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 25~50 <sup>リットル</sup> /10a、 5~15 <sup>リットル</sup> /10a	1回	雑草茎葉散布	2回以内
ピーマン	-	一年生雑草	耕起又は定植7日前まで(雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 25~50 <sup>リットル</sup> /10a、 5~15 <sup>リットル</sup> /10a	1回	雑草茎葉散布	2回以内
薬用 にんじん	-	一年生雑草	耕起又は定植7日前まで(雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 25~50 <sup>リットル</sup> /10a、 5~15 <sup>リットル</sup> /10a	1回	雑草茎葉散布	10回以内 (1年間に 2回以内)
ねぎ	-	一年生雑草	耕起又は定植7日前まで(雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 25~50 <sup>リットル</sup> /10a、 5~15 <sup>リットル</sup> /10a	3回以内	雑草茎葉散布	3回以内
			定植後畦間処理 但し、 収穫30日前まで (雑草生育期)		通常散布 50~100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 25~50 <sup>リットル</sup> /10a			
たまねぎ	-	一年生雑草	耕起又は定植7日前まで(雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 25~50 <sup>リットル</sup> /10a、 5~15 <sup>リットル</sup> /10a	3回以内	雑草茎葉散布	3回以内
			定植後畦間処理 但し、 収穫30日前まで (雑草生育期)		通常散布 50~100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 25~50 <sup>リットル</sup> /10a			

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量(薬量)	使用量(希釈水量)	本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
アスパラガス	-	一年生雑草	耕起又は定植7日前まで(雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 リットル/10a 少量散布 25~50 リットル/10a、 5~15 リットル/10a	1回	雑草茎葉散布	3回以内
ホーブ(葉)	-	一年生雑草	耕起又は定植7日前まで(雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 リットル/10a 少量散布 25~50 リットル/10a、 5~15 リットル/10a	1回	雑草茎葉散布	3回以内
きゅうり	-	一年生雑草	耕起又は定植7日前まで(雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 リットル/10a 少量散布 25~50 リットル/10a、 5~15 リットル/10a	1回	雑草茎葉散布	3回以内
しゃくやく(薬用)	-	一年生雑草	耕起又は定植7日前まで(雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 リットル/10a 少量散布 25~50 リットル/10a、 5~15 リットル/10a	1回	雑草茎葉散布	3回以内
たらのき	-	一年生雑草	耕起又は定植7日前まで(雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 リットル/10a 少量散布 25~50 リットル/10a、 5~15 リットル/10a	1回	雑草茎葉散布	3回以内
トマト	-	一年生雑草	耕起又は定植7日前まで(雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 リットル/10a 少量散布 25~50 リットル/10a、 5~15 リットル/10a	1回	雑草茎葉散布	3回以内
なす	-	一年生雑草	耕起又は定植7日前まで(雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 リットル/10a 少量散布 25~50 リットル/10a、 5~15 リットル/10a	1回	雑草茎葉散布	3回以内
びわ(葉)	-	一年生雑草	耕起又は定植7日前まで(雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 リットル/10a 少量散布 25~50 リットル/10a、 5~15 リットル/10a	1回	雑草茎葉散布	3回以内
ほうれんそう	-	一年生雑草	耕起又は定植7日前まで(雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 リットル/10a 少量散布 25~50 リットル/10a、 5~15 リットル/10a	1回	雑草茎葉散布	3回以内

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量(薬量)	使用量(希釈水量)	本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
レタス	-	一年生雑草	耕起又は定植7日前まで(雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 リットル/10a 少量散布 25~50 リットル/10a、 5~15 リットル/10a	1回	雑草茎葉散布	3回以内
野菜類 (えだまめ、キャベツ、はつかだいこん、だいこん、とうがらし類、にんじん、ピーマン、ねぎ、たまねぎ、アスパラガス、オリーブ(葉)、きゅうり、たらきのき、トマト、なす、びわ(葉)、ほうれんそう、レタス、薬用にんじん、豆類(種実、ただし、らっかせいを除く)、かんしょを除く)	-	一年生雑草	耕起又は定植7日前まで(雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 リットル/10a 少量散布 25~50 リットル/10a、 5~15 リットル/10a	1回	雑草茎葉散布	1回
水田作物(水稻を除く)	-	一年生雑草	耕起20~10日前(雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 100 リットル/10a 少量散布 5~15 リットル/10a	1回	雑草茎葉散布	2回以内
移植水稻	-	一年生雑草	耕起20~10日前(雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 100 リットル/10a 少量散布 5~15 リットル/10a	1回	雑草茎葉散布	2回以内
		多年生雑草	湛水30~5日前(雑草生育期)(不耕起栽培)	500~1000 mL/10a	50 リットル/10a			
直播水稻	-	一年生雑草	耕起20~10日前(雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 100 リットル/10a 少量散布 5~15 リットル/10a	1回	雑草茎葉散布	2回以内
		多年生雑草	耕起直後~出芽前(雑草生育期)(乾田耕起栽培)	250~1000 mL/10a	少量散布 25~50 リットル/10a			
		一年生雑草	は種30日前~出芽前(雑草生育期)	250~1000 mL/10a	少量散布 25~50 リットル/10a	2回以内		
		多年生雑草	乾田不耕起栽培	500 mL/10a	50 リットル/10a			

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量(薬量)	使用量(希釈水量)	本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
水田作物 (水田刈跡)	水田 刈跡	一年生雑草	雑草生育期	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布	1回	雑草茎葉 散布	1回
		多年生雑草		500~1000 mL/10a	25~50 <sup>リットル</sup> /10a、 5~15 <sup>リットル</sup> /10a			
水田作物 (水田畦畔)	水田 畦畔	一年生雑草	収穫14日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布	2回以内	雑草茎葉 散布	3回以内
		多年生雑草		500~1000 mL/10a	25 <sup>リットル</sup> /10a			
水田作物、畑作物 (休耕地)	休耕地	一年生雑草	雑草生育期	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 25~50 <sup>リットル</sup> /10a、 5~15 <sup>リットル</sup> /10a	2回以内	雑草茎葉 散布	3回以内
さとうきび (春植え)	-	一年生雑草	耕起10日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布	1回	雑草茎葉 散布	6回以内
		多年生雑草		500~1000 mL/10a	25~50 <sup>リットル</sup> /10a、 5~15 <sup>リットル</sup> /10a			
茶	-	一年生雑草	摘採7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	少量散布 25~50 <sup>リットル</sup> /10a	1回	雑草茎葉 散布	2回以内
牧草	牧野、 草地 (更新・ 造成)	一年生雑草	更新・造成の 10日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布	2回以内	雑草茎葉 散布	3回以内
		多年生雑草		500~1000 mL/10a	5~15 <sup>リットル</sup> /10a			
		一年生及び 多年生雑草	は種10日前 ~は種当日 (耕起整地後:雑草 発生揃期)	250~ 500mL/10a	少量散布 25~50 <sup>リットル</sup> /10a			
樹木類	-	一年生雑草	雑草生育期	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 25~50 <sup>リットル</sup> /10a	4回以内	雑草茎葉 散布	4回以内
樹木等	公園、 庭園、 堤とう、駐 車場、 道路、 運動場、 宅地、の り面、 鉄道等	一年生雑草	雑草生育期	500mL/10a	通常散布 100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布	3回以内	植栽地を 除く樹木 等の周辺 地に雑草 茎葉散布	3回以内
		多年生雑草		1000mL/10a	25 <sup>リットル</sup> /10a、 5~15 <sup>リットル</sup> /10a			
	シギナ	生育盛期	2000mL/10a	少量散布 25~50 <sup>リットル</sup> /10a、 5~15 <sup>リットル</sup> /10a				

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量(薬量)	使用量(希釈水量)	本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
林木	造林地(地ごしらえ)	スギ、ササ類、クズ等の多年生雑草	生育盛期以降	1000mL/10a	少量散布 20~30 <sup>リットル</sup> /10a、 5~15 <sup>リットル</sup> /10a	3回以内	雑草木茎葉散布	3回以内
		落葉雑かん木						

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	希釈倍数	使用液量	本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
林木	林地	クズ	春期又は秋期	原液又は2倍液	1~2mL/株	—	株頭注入処理	—
		落葉雑かん木	5~10月		1mL/ヶ所 樹径 ヶ所数 10cm以下 2~3 10~20cm 4~8 20cm以上 10	—	立木注入処理	—
	林地、放置竹林、畑地	竹類	夏~秋期	原液	5~15mL/本	—	竹稈注入処理	—
畑作物	林地、放置竹林、畑地	竹類	夏~秋期	原液	5~15mL/本	—	竹稈注入処理	—
樹木等	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等	落葉雑かん木	5~10月	原液又は2倍液	1mL/ヶ所 樹径 ヶ所数 10cm以下 2~3 10~20cm 4~8 20cm以上 10	—	立木注入処理	—
		雑かん木	伐採直後		切り口全体に十分量を塗布	—	植栽地を除く樹木等の周辺地に切株塗布処理	—

#### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 本剤はグリホサートを含む農薬であるので、他のグリホサートを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲内で使用すること。
- (3) 泥などで濁った水は効果を低下させるので本剤の調製には用いないこと。
- (4) 展着剤の加用の必要はない。
- (5) 本剤は土壌中で速やかに不活性化するので、雑草の発生前処理効果はない。
- (6) 本剤は雑草生育期(草丈30cm以下)に有効なので、時期を失ないように散布すること。
- (7) 本剤は散布時の雑草の草丈や茎葉面積が大きい程、効果が確実となるので、散布前に雑草の地上部を刈り払わないこと。
- (8) 本剤は通常2~14日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要するので、誤って再散布しないこと。
- (9) スギナ防除に際しては、スギナの生育期を過ぎた時期での散布及びスギナが他雑草の中に埋没しているような条件下では効果が劣る事があるので、適期にスギナにかかるように注意して散布すること。
- (10) 処理後6時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を良く見極めてから散布すること。
- (11) 少量散布の場合は、希釈水量に応じた少量散布用ノズルを用いて、雑草の葉面に均一に散布すること。
- (12) 水田への飛散、流入等により水稲に薬害を生じるので、十分注意すること。

- (13) 出芽前に使用する場合は、作物の出芽後に散布すると薬害を生じるおそれがあるので、必ず出芽前に散布すること。
- (14) 注入処理における注意事項
  - 1) クズには株頭にナタなどで傷をつけ、薬液がよくしみ込むように注入処理すること。
  - 2) 落葉雑かん木には、樹幹の回りに等間隔にナタ目を入れ、薬液を注入処理すること。
  - 3) 処理竹から 15m以内に発生したたけのこを食用に供さないこと。また、縄囲いや立て札によりたけのこが採取されないようにすること。
- (15) 雑かん木に塗布処理を行う場合は、伐採後、直ちに切り口全面に直接塗布すること。
- (16) 特に生育期畦間散布に使用する場合には作物にかからないよう十分注意して散布すること。
- (17) 農作物や有用植物に薬液が付着すると、激しい薬害が生じるので、かからないよう十分注意すること。
- (18) 散布液の調製に際しては合成樹脂の内層のない鋼鉄製(ステンレスを除く)の容器類は使用しないこと。なお散布液を調製した容器及び散布器具は、使用后十分に水洗いすること。
- (19) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (20) 土壌が流亡したり、くずれたりするおそれのある所では使用しないこと。
- (21) 公園、堤とう等で使用する場合、特に以下のことに注意すること。
  - 1) 水源池、養殖池等に本剤が飛散、流入しないよう十分に注意すること。
  - 2) 散布器具、容器の洗浄水は河川等に流さず、空容器、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
- (22) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼すること。
- (3) 公園、堤とう等で使用する場合は、使用中及び使用后（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- (4) 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管すること

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養殖池等周辺での使用はさけること。
- (2) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。



登録番号 第 19929 号

クサクリーン<sup>®</sup>液剤

特長： ●雑草の葉にかけて根まで枯らす非選択性の茎葉処理除草剤です。  
●適用作物が多く、様々な場面で使用できます。

クサクリーンは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	グリホサートイソプロピルアミン塩 (化管法第1種)・・・41.0%	包装	500ml×20 1L×12 5L×4 20L×1 200L×1
性状	淡黄色澄明水溶性液体	有効年限	5年
毒性	普通物 <sup>*</sup>	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2021年10月13日付内容

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量 (薬量)	使用量 (希釈水量)	本剤の 使用回数	使用 方法	グリホサート を含む農薬の 総使用回数
果樹類 (かんきつ、パッ プルを除く)	-	一年生雑草	収穫7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 25~50 <sup>リットル</sup> /10a	3回 以内	雑草茎 葉散布	3回以内
		多年生雑草		500~1000 mL/10a				
かんきつ	-	一年生雑草	収穫7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 25~50 <sup>リットル</sup> /10a	3回 以内	雑草茎 葉散布	5回以内
		多年生雑草		500~1000 mL/10a				
野菜類 (えだまめ、キャベツ、 はつかだいこん、 だいこん、とうが らし類、にんじん、 ピーマン、ねぎ、たま ねぎ、アスパラガス、カ ブ(葉)、きゅう り、たらきのき、トマト、 なす、びわ(葉)、ほ うれんそう、ワス、 薬用にんじん、豆 類(種実、ただし、 らっかせいを除 く)、かんしょを 除く)	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布2 5~50 <sup>リットル</sup> /10a、 5~15 <sup>リットル</sup> /10a	1回	雑草茎 葉散布	1回

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量 (薬量)	使用量 (希釈水量)	本剤の 使用回数	使用 方法	グリホサート を含む農薬の 総使用回数
かんしょ	-	一年生雑草	耕起又は 挿苗7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 5~15 <sup>リットル</sup> /10a	1回	雑草茎 葉散布	2回以内
豆類 (種実、ただし、 だいず、らっかせ いを除く)	-	一年生雑草	は種7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 25~50 <sup>リットル</sup> /10a、 5~15 <sup>リットル</sup> /10a	2回 以内	雑草茎 葉散布	2回以内
だいず	-	一年生雑草	は種7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 25~50 <sup>リットル</sup> /10a、 5~15 <sup>リットル</sup> /10a	2回 以内	雑草茎 葉散布	4回以内
			は種後出芽前ま で(雑草生育期)		通常散布 50~100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 25~50 <sup>リットル</sup> /10a			
			畦間処理: 雑草生育期 但し、 収穫前日まで					
えだまめ	-	一年生雑草	は種7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 25~50 <sup>リットル</sup> /10a、 5~15 <sup>リットル</sup> /10a	1回	雑草茎 葉散布	3回以内
とうがらし類	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 25~50 <sup>リットル</sup> /10a、 5~15 <sup>リットル</sup> /10a	1回	雑草茎 葉散布	2回以内
こんじん	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 25~50 <sup>リットル</sup> /10a、 5~15 <sup>リットル</sup> /10a	1回	雑草茎 葉散布	2回以内
ピーマン	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 25~50 <sup>リットル</sup> /10a、 5~15 <sup>リットル</sup> /10a	1回	雑草茎 葉散布	2回以内
アスパラガス	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 25~50 <sup>リットル</sup> /10a、 5~15 <sup>リットル</sup> /10a	1回	雑草茎 葉散布	3回以内

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量 (薬量)	使用量 (希釈水量)	本剤の 使用回数	使用 方法	グリホサート を含む農薬の 総使用回数
カーブ (葉)	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 リットル/10a 少量散布 25~50 リットル/10a、 5~15 リットル/10a	1回	雑草茎 葉散布	3回以内
きゅうり	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 リットル/10a 少量散布 25~50 リットル/10a、 5~15 リットル/10a	1回	雑草茎 葉散布	3回以内
しゃくやく (薬用)	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 リットル/10a 少量散布 25~50 リットル/10a、 5~15 リットル/10a	1回	雑草茎 葉散布	3回以内
たらのき	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 リットル/10a 少量散布 25~50 リットル/10a、 5~15 リットル/10a	1回	雑草茎 葉散布	3回以内
トマト	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 リットル/10a 少量散布 25~50 リットル/10a、 5~15 リットル/10a	1回	雑草茎 葉散布	3回以内
なす	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 リットル/10a 少量散布 25~50 リットル/10a、 5~15 リットル/10a	1回	雑草茎 葉散布	3回以内
びわ(葉)	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 リットル/10a 少量散布 25~50 リットル/10a、 5~15 リットル/10a	1回	雑草茎 葉散布	3回以内
ほうれんそう	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 リットル/10a 少量散布 25~50 リットル/10a、 5~15 リットル/10a	1回	雑草茎 葉散布	3回以内
レタス	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 リットル/10a 少量散布 25~50 リットル/10a、 5~15 リットル/10a	1回	雑草茎 葉散布	3回以内

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量 (薬量)	使用量 (希釈水量)	本剤の 使用回数	使用 方法	グリホサート を含む農薬の 総使用回数
薬用にんじん	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 リットル/10a 少量散布 25~50 リットル/10a、 5~15 リットル/10a	1回	雑草茎 葉散布	10回以内 (1年間に 2回以内)
キャベツ	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 100 リットル/10a 少量散布 5~15 リットル/10a	1回	雑草茎 葉散布	1回
だいこん	-	一年生雑草	耕起又は は種7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 100 リットル/10a 少量散布 5~15 リットル/10a	1回	雑草茎 葉散布	2回以内
はつかだいこん	-	一年生雑草	耕起又は は種7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 100 リットル/10a 少量散布 5~15 リットル/10a	1回	雑草茎 葉散布	1回
たまねぎ	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 リットル/10a 少量散布 25~50 リットル/10a、 5~15 リットル/10a	3回以内	雑草茎 葉散布	3回以内
			定植後畦間処理 但し、 収穫30日前まで (雑草生育期)		通常散布 50~100 リットル/10a 少量散布 25~50 リットル/10a			
ねぎ	-	一年生雑草	耕起又は 定植7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 リットル/10a 少量散布 25~50 リットル/10a、 5~15 リットル/10a	3回以内	雑草茎 葉散布	3回以内
			定植後畦間処理 但し、 収穫30日前まで (雑草生育期)		通常散布 50~100 リットル/10a 少量散布 25~50 リットル/10a			
麦類 (小麦を除く)	-	一年生雑草	耕起7日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 100 リットル/10a 少量散布 5~15 リットル/10a	1回	雑草茎 葉散布	3回以内
			は種後出芽前 (雑草生育期)		通常散布 50~100 リットル/10a 少量散布 25~50 リットル/10a			

作物名	適場所	適用雑草名	使用時期	使用量 (薬量)	使用量 (希釈水量)	本剤の 使用回数	使用 方法	グリホサート を含む農薬の 総使用回数
小麦	-	多年生 イネ科雑草	耕起前 又は は種前まで (雑草生育期)	250~1000 mL/10a	通常散布 50~100 $\frac{\text{リットル}}{10a}$ 少量散布 25~50 $\frac{\text{リットル}}{10a}$	3 回以内	雑草茎 葉散布	3 回以内
		一年生雑草	は種後出芽前 (雑草生育期)	250~500 mL/10a				
			多年生雑草	耕起 7 日前まで (雑草生育期)	500~1000 mL/10a			
	圃場 内の 周縁 部	一年生雑草	収穫 7 日前まで (雑草生育期)	250mL/10a	通常散布 50~100 $\frac{\text{リットル}}{10a}$ 少量散布 25~50 $\frac{\text{リットル}}{10a}$	3 回以内		
さとうきび (春植え)	-	一年生雑草	耕起 10 日前まで (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 50~100 $\frac{\text{リットル}}{10a}$ 少量散布 25~50 $\frac{\text{リットル}}{10a}$ 、 5~15 $\frac{\text{リットル}}{10a}$	1 回	雑草茎 葉散布	6 回以内
多年生雑草	500~1000 mL/10a							
水田作物 (水稻を除く)	-	一年生雑草	耕起 20~10 日前 (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 100 $\frac{\text{リットル}}{10a}$ 少量散布 5~15 $\frac{\text{リットル}}{10a}$	1 回	雑草茎 葉散布	2 回以内
移植水稻	-	一年生雑草	耕起 20~10 日前 (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 100 $\frac{\text{リットル}}{10a}$ 少量散布 5~15 $\frac{\text{リットル}}{10a}$	1 回	雑草茎 葉散布	2 回以内
			湛水 30~5 日前 (雑草生育期) (不耕起栽培)		500~1000 mL/10a			
直播水稻	-	一年生雑草	耕起 20~10 日前 (雑草生育期)	250~500 mL/10a	通常散布 100 $\frac{\text{リットル}}{10a}$ 少量散布 5~15 $\frac{\text{リットル}}{10a}$	1 回	雑草茎 葉散布	2 回以内
			耕起直後~出芽 前 (雑草生育期) (乾田耕起栽培)	250~1000 mL/10a	少量散布 25~50 $\frac{\text{リットル}}{10a}$			
		多年生雑草	(乾田耕起栽培)	500mL/10a	50 $\frac{\text{リットル}}{10a}$	2 回以内		
		一年生雑草	は種 30 日前 ~出芽前 (雑草生育期) (乾田不耕起栽培)	250~1000 mL/10a	少量散布 25~50 $\frac{\text{リットル}}{10a}$			
多年生雑草	(乾田不耕起栽培)	500mL/10a	50 $\frac{\text{リットル}}{10a}$					

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量(薬量)	使用量(希釈水量)	本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
水田作物 (水田刈跡)	水田 刈跡	一年生雑草	雑草生育期	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布	1回	雑草茎 葉散布	1回
		多年生雑草		500～1000 mL/10a	25～50 <sup>リットル</sup> /10a、 5～15 <sup>リットル</sup> /10a			
水田作物 (水田畦畔)	水田 畦畔	一年生雑草	収穫14日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布	2回以内	雑草茎 葉散布	3回以内
		多年生雑草		500～1000 mL/10a	25 <sup>リットル</sup> /10a			
水田作物、 畑作物 (休耕田)	休耕 田	一年生雑草	雑草生育期	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 25～50 <sup>リットル</sup> /10a、 5～15 <sup>リットル</sup> /10a	2回以内	雑草茎 葉散布	3回以内
茶	-	一年生雑草	摘採7日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	少量散布 25～50 <sup>リットル</sup> /10a	1回	雑草茎 葉散布	2回以内
牧草	牧野、 草地 (更 新・ 造成)	一年生雑草	更新・造成の 10日前まで (雑草生育期)	250～500 mL/10a	通常散布 50 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布	2回以内	雑草茎 葉散布	3回以内
		多年生雑草		500～1000 mL/10a	5～15 <sup>リットル</sup> /10a			
		一年生 及び 多年生雑草	は種10日前 ～は種当日 (耕起整地後： 雑草発生前期)	250～500 mL/10a	少量散布 25～50 <sup>リットル</sup> /10a			
樹木類	-	一年生雑草	雑草生育期	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布 25～50 <sup>リットル</sup> /10a	4回以内	雑草茎 葉散布	4回以内
樹木等	公園、 庭園、 堤とう、駐 車場、 道路、 運動場、宅 地、のり 面、鉄道 等	一年生雑草	雑草生育期	500mL/10a	通常散布 100 <sup>リットル</sup> /10a 少量散布	3回以内	植栽地 を除く 樹木等 の周辺 地に雑 草茎葉 散布	3回以内
		多年生雑草		1000 mL/10a	25 <sup>リットル</sup> /10a、 5～15 <sup>リットル</sup> /10a			
		スギナ	生育盛期	2000 mL/10a	少量散布 25～50 <sup>リットル</sup> /10a、 5～15 <sup>リットル</sup> /10a			
林木	造林地(地 ごしらえ)	スギ、ササ類、 クス等の 多年生雑草	生育盛期以降	1000 mL/10a	少量散布 20～30 <sup>リットル</sup> /10a、 5～15 <sup>リットル</sup> /10a	3回以内	雑草木 茎葉散 布	3回以内
		落葉 雑かん木						

●注入処理

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	希釈 倍数	使用液量	本剤の 使用回数	使用方法	グリホサート を含む農薬の 総使用回数
林木	林地	クズ	春期又は 秋期	原液又は 2倍液	1～2mL/株		株頭 注入処理	
		落葉雑かん 木	5～10月		1mL/ヶ所 樹径 ヶ所数 10cm以下 2～3 10～20cm 4～8、 20cm以上 10		立木 注入処理	
	林地、放置竹 林、畑地	竹類	夏～秋期	原液	5～15mL/本		竹稈 注入処理	
畑作物	林地、放置竹 林、畑地	竹類	夏～秋期	原液	5～15mL/本		竹稈 注入処理	
樹木等	公園、庭園、堤 とう、駐車場、 道路、運動場、 宅地、のり面、 鉄道等	落葉雑かん 木	5～10月	原液又は 2倍液	1mL/ヶ所 樹径 ヶ所数 10cm以下 2～3、 10～20cm 4～8、 20cm以上 10		立木 注入処理	
		雑かん木	伐採直後		切り口全体に十分 量を塗布		植栽地を除 く樹木等の 周辺地に切 株塗布処理	

使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 本剤はグリホサートを含む農薬であるので、他のグリホサートを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲内で使用すること。
- (3) 泥などで濁った水は効果を低下させるので本剤の調製には用いないこと。
- (4) 展着剤の加用の必要はない。
- (5) 本剤は土壤中で速やかに不活性化するので、雑草の発生前処理効果はない。
- (6) 本剤は雑草生育期（草丈30cm以下）に有効なので、時期を失しないように散布すること。
- (7) 本剤は散布時の雑草の草丈や茎葉面積が大きい程、効果が確実となるので、散布前に雑草の地上部を刈り払わないこと。
- (8) 本剤は通常2～14日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要するので、誤って再散布しないこと。
- (9) スギナ防除に際しては、スギナの生育期を過ぎた時期での散布及びスギナが他雑草の中に埋没しているような条件下は効果が劣る事があるので、適期にスギナにかかるように注意して散布すること。
- (10) 処理後6時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を良く見極めてから散布すること。
- (11) 少量散布の場合は、希釈水量に応じた少量散布用ノズルを用いて、雑草の葉面に均一に散布すること。
- (12) 水田への飛散、流入等により水稻に薬害を生じるので、十分注意すること。
- (13) 出芽前に使用する場合は、作物の出芽後に散布すると薬害を生じるおそれがあるので、必ず出芽前に散布すること。
- (14) 注入処理における注意事項
  - 1) クズには株頭にナタなどで傷をつけ、薬液がよくしみ込むように注入処理すること。
  - 2) 落葉雑かん木には、樹幹の回りに等間隔にナタ目を入れ、薬液を注入処理すること。
  - 3) 処理竹から15m以内に発生したたけのこを食用に供さないこと。また、縄囲いや立て札によりたけのこが採取されないようにすること。
- (15) 雑かん木に塗布処理を行う場合は、伐採後、直ちに切り口全面に直接塗布すること。
- (16) 特に生育期畦間散布に使用する場合には作物にかからないよう十分注意して散布すること。

- (17) 農作物や有用植物に薬液が付着すると、激しい薬害が生じるので、かかからないように十分注意すること。
- (18) 散布液の調製に際しては合成樹脂の内層のない鋼鉄製(ステンレスを除く)の容器類は使用しないこと。なお散布液を調製した容器及び散布器具は、使用后十分に水洗いすること。
- (19) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (20) 土壌が流亡したり、くずれたりするおそれのある所では使用しないこと。
- (21) 公園、堤とう等で使用する場合、特に以下のことに注意すること。
  - 1) 水源池、養殖池等に本剤が飛散、流入しないよう十分に注意すること。
  - 2) 散布器具、容器の洗浄水は河川等に流さず、空容器、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
- (22) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、普及指導センター、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼すること。
- (3) 公園、堤とう等で使用する場合は、使用中及び使用后（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- (4) 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養殖池等周辺での使用は避けること。
- (2) 養魚田周辺での使用には、特に注意すること。
- (3) 散布後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。



登録番号 第 21299 号

## クサトッタ®1 キロ粒剤 (JA)

- 特長：
- 移植時から使用できる水稲用一発除草剤です。
  - ALS 阻害剤抵抗性雑草（アゼナ類、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を示します。
  - 藻類及び表層はく離に対しても有効です。
  - 低コスト稲作に貢献する経済的な4成分剤です。

クサトッタは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ジメタメトリン・・・0.60% ピラゾレート（化管法第1種）・・・12.0% プレチラクロール（化管法第1種）・・・4.5% プロモブチド・・・6.0%	包装	1kg×12 10kg×1
その他化管法該当成分	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩（アルキル基C=10~14 及びその混合物）（化管法第1種）・・・1.2%		
性状	類白色細粒	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

\*普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

**【適用雑草の範囲及び使用方法】**

2016年12月14日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミズガヤツリ ハラモダカ ヒルムシロ セリ アオビロ・藻類による 表層はく離	移植時	1kg/10a	1回	田植同時散布機で施用
		移植直後～ ルベ2葉期 ただし、 移植後30日まで			湛水散布
直播水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミズガヤツリ ヒルムシロ	稲1.5葉期～ ルベ2葉期 ただし、 収穫90日前まで	1kg/10a	1回	湛水散布

ジメタメトリンを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数	プロモブチドを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内	2回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使い切ること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から発生始期に有効なので、ノビエの2葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、雑草、特に多年生雑草は生育段階によって効果のふれが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリは2葉期まで、ヘラオモダカは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期であるが、できるだけ早く散布することが望ましい。
- (3) 苗の植え付けが均一となるように、代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は特に代かきをていねいに行うこと。
- (4) 直播水稲栽培では、前処理剤との組み合わせで使用すること。
- (5) 散布に当たっては、水の出入りをとめて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3~4日間は通常の湛水状態（水深3~5cm程度）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (6) 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (7) 下記のような条件では初期生育の抑制やクロロシスが生じるおそれがあるので使用をさけること。特にこれらの条件と梅雨明けなどによる散布時又は散布後数日間の異常高温が重なると、初期生育の抑制が顕著になるので、そのような条件下では使用しないように注意すること
  - 1) 砂質土壌の水田、漏水の大きな水田（1日の減水深が2cm/日以上）、極端な深水になった水田
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田
- (8) 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (9) 梅雨期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
- (10) 活着遅延を生じるような異常低温が予測されるときは、初期生育の抑制などが生じるおそれがあるので、このような条件下での使用に際しては、県の防除指針に基づき、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (11) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤食などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、医師の手当を受けること。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (5) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

## 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。また、吸湿しやすいので開封後は堅く口を閉じ、長期間の保存は避けること。

登録番号 第 21300 号

## クサトッタ®粒剤 (JA)

- 移植時から使用できる水稲用一発除草剤です。  
 ● ALS 阻害剤抵抗性雑草（アゼナ類、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を示します。
- 特長： ● 藻類及び表層はく離に対しても有効です。  
 ● 低コスト稲作に貢献する経済的な4成分剤です。  
 ● 3キロ剤です。

クサトッタは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ジメタメトリン・・・0.20% ピラゾレート（化管法第1種）・・・4.0% プレチラクロール（化管法第1種）・・・1.5% プロモプチド・・・2.0%	包装	3kg×8
性状	類白色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2021年6月9日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ	移植時	3kg/10a	1回	田植同時散布機で施用
	ミズガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植直後～ ノビエ2.5葉期 ただし、 移植後30日まで			湛水散布

ジメタメトリンを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数	プロモプチドを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内	2回以内

## 使用上の注意事項

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 本剤は雑草の発生前から発生始期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布すること。なお雑草、特に多年生雑草は生育段階によって効果のふれが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカは2葉期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生始期まで、ヒルムシロは発生期までが本剤の散布適期であるが、できるだけ早く散布することが望ましい。
- 苗の植え付けが均一となるように、代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は特に代かきをていねいに行うこと。
- 散布に当たっては、水の出入りをとめて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm程度)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。

- (5) 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (6) 下記のような条件では初期生育の抑制やクロロシスが生じるおそれがあるので使用をさけること。特に、これらの条件と梅雨明けなどによる散布時又は散布後数日間の異常高温が重なると、初期生育の抑制が顕著になるので、そのような条件下では使用しないように注意すること。
  - 1) 砂質土壌の水田、漏水の大きな水田(1日の減水深が2cm/日以上)、極端な深水になった水田。
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田
- (7) 活着遅延を生ずるような異常低温が予測されるときは、初期生育の抑制などが生じるおそれがあるので、このような条件下での使用に際しては、県の防除指針に基づき、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (8) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。また、吸湿しやすいので開封後は堅く口を閉じ、長期間の保存はさけること。

登録番号 第 23340 号

クサトリ<sup>®</sup>BSX ジャンボL

●移植後1日から使用できる水稲用一発除草剤です。

●ノビエに対して長期残効を示します。

特長： ●ALS阻害剤抵抗性雑草（アゼナ、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を発揮します。

●畦畔から侵入するイボクサ等にも優れた効果を示します。

●畦畔から投げ込むだけの省力型除草剤です。

クサトリ<sup>®</sup>は三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	フェントラザミド（化管法第1種）・・・10.0% ベンスルフロンメチル（化管法第1種）・・・1.7% ベンゾビスクロン（化管法第1種）・・・6.7%	包装	(30g×10) ×20
その他化管法 該当成分	ナトリウム=アルケンスルホナート及びナトリウム=ヒドロキシアルカ ンスルホナート並びにこれらの混合物(化管法第1種)・・・2.0%		
性状	淡褐色粒状、水溶性パック入り 1パック 30g	有効年限	4年
毒性	普通物 <sup>*</sup>	危険物	一

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2019年11月6日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ クダマ オモダカ ヒルムシロ セリ	移植後1日～ ノビエ2.5葉期 ただし、 移植後30日まで	小包装(パック) 10個(300g)/10 a	1回	水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ	稲1葉期～ ノビエ2.5葉期 ただし、 収穫90日前まで	小包装(パック) 10個(300g)/10 a	1回	水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。

フェントラザミドを含む 農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む 農薬の総使用回数	ベンゾビスクロンを含む 農薬の総使用回数
1回	2回以内	3回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使いきることを。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイは3葉期まで、ミズガヤツリ、ウリカワは2葉期まで、オモダカ、クログワイは発生前～発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前～再生始期が本剤の散布適期である。
- (3) 苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (4) 処理に当たっては、水の出入りを止めて水深5～6cmの湛水状態にし、散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (5) 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (6) 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (7) 本剤は小包装（パック）のまま10アール当り10個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- (8) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (9) 散布後に多量の雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
- (10) 藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、効果の劣る可能性があるため使用をさけること。
- (11) パックに使用しているフィルムは水溶性なので、ぬれた手で作業したり、降雨で破袋することのないように注意すること。
- (12) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (13) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (14) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (15) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (16) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合は異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は水溶性フィルムで小包装化されているため、通常的使用方法ではその該当がない。ただし、濡れた手で触らないこと。
- (2) 水溶性フィルム包装が破袋した場合は以下の点に注意すること。眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池に流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常的使用方法ではその該当がない。

## 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。水溶性フィルムは吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を堅く閉じて保管すること。また、強く加圧されると水溶性フィルムが劣化するおそれがあるので下積みにならないようにすること。

登録番号 第 21175 号

## クサトリー®DX ジャンボL

- 特長：
- 移植後3日から使用できる水稲用一発除草剤です。
  - ノビエに対して長期残効を示します。
  - 有効成分プロモブチド配合で、ALS阻害剤抵抗性ホタルイにも優れた効果を示します。
  - 畦畔から投げ込むだけの省力型一発除草剤です。

クサトリーは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	フェントラザミド(化管法第1種)・・・7.5% プロモブチド・・・15.0% ベンスルフロンメチル(化管法第1種)・・・1.27%	包装	(40g×10) ×12
その他化管法該当成分	ナトリウム=アルケンスルホナート及びナトリウム=ヒドロキシアルカンシルホナート並びにこれらの混合物(化管法第1種)・・・2.2%		
性状	淡褐色粒状、水溶性パック入り 1パック40g	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2009年10月21日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後3日～ ノビエ2.5葉期 ただし、 移植後30日まで	砂壤土 ～ 埴土	小包装 (パック) 10個 (400g)/10a	1回	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	全域(北海道、東北を除く)の普通期及び早期栽培地帯

フェントラザミドを含む 農薬の総使用回数	プロモブチドを含む 農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む 農薬の総使用回数
1回	2回以内	2回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使いきる。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にブレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワは2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。
- (3) 苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (4) 藻類又は表層はく離の発生しやすい水田では有効な剤との組合せで使用すること。

- (5) 処理に当たっては、水の出入りを止めて水深 5~6cm の湛水状態にし、散布後少なくとも 3~4 日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させないようにし、散布後 7 日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (6) 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (7) 本剤は小包装（パック）のまま 10 アール当り 10 個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- (8) 藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、効果の劣る可能性があるので使用をさけること。
- (9) 散布後に多量の降雨が予想される場合は、防除効果が低下することがあるので、使用をさけること。
- (10) パックに使用しているフィルムは水溶性なので、ぬれた手で作業したり、降雨で破袋することのないように注意すること。
- (11) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深 2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (12) 処理後数日間著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (13) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (14) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (15) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、落水、かけ流しはしないこと。
- (16) 本剤は、移植前に生育したミズガヤツリには効果が劣るので、物理的防除方法などを用いて移植前に防除してから使用すること。
- (17) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は水溶性フィルムで小包装化されているため、通常の使用方法ではその該当がない。ただし、ぬれた手で触らないこと。
- (2) 水溶性フィルム包装が破袋した場合は以下の点に注意すること。
  - 1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
  - 2) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。水溶性フィルムは吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を堅く閉じて保管すること。また、強く加圧されると水溶性フィルムが劣化するおそれがあるので下積みにならないようにすること。



登録番号 第 22494 号

# MIC クサトリール<sup>®</sup>DX ジャンボL

特長：

- 移植後3日から使用できる水稲用一発除草剤です。
- ノビエに対して長期残効を示します。
- 有効成分プロモブチド配合で、ALS阻害剤抵抗性ホタルイにも優れた効果を示します。
- 畦畔から投げ込むだけの省力型一発除草剤です。

クサトリールは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	フェントラザミド(化管法第1種)・・・7.5% プロモブチド・・・15.0% ベンスルフロンメチル(化管法第1種)・・・1.27%	包装	(40g×10) ×12
その他化管法該当成分	ナトリウム=アルケンスルホナート及びナトリウム=ヒドロキシアルカンシルホナート並びにこれらの混合物(化管法第1種)・・・2.2%		
性状	淡褐色粒状、水溶性パック入り 1パック40g	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用雑草の範囲及び使用方法】

2009年10月21日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後3日～ ノビエ2.5葉期 ただし、 移植後30日まで	砂壤土 ～ 埴土	小包装 (パック) 10個 (400g)/10a	1回	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	全域(北海道、東北を除く)の普通期及び早期栽培地帯

フェントラザミドを含む 農薬の総使用回数	プロモブチドを含む 農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む 農薬の総使用回数
1回	2回以内	2回以内

使用上の注意事項

- (1) 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使いきることを。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にブレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワは2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。
- (3) 苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (4) 藻類又は表層はく離の発生しやすい水田では有効な剤との組合せで使用すること。

- (5) 処理に当たっては、水の出入りを止めて水深 5～6cm の湛水状態にし、散布後少なくとも 3～4 日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させないようにし、散布後 7 日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (6) 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (7) 本剤は小包装（パック）のまま 10 アール当り 10 個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- (8) 藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、効果の劣る可能性があるので使用をさけること。
- (9) 散布後に多量の降雨が予想される場合は、防除効果が低下することがあるので、使用をさけること。
- (10) パックに使用しているフィルムは水溶性なので、ぬれた手で作業したり、降雨で破袋することのないように注意すること。
- (11) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深 2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (12) 処理後数日間著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (13) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (14) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (15) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、落水、かけ流しはしないこと。
- (16) 本剤は、移植前に生育したミズガヤツリには効果が劣るので、物理的防除方法などを用いて移植前に防除してから使用すること。
- (17) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は水溶性フィルムで小包装化されているため、通常の使用方法ではその該当がない。ただし、ぬれた手で触らないこと。
- (2) 水溶性フィルム包装が破袋した場合は以下の点に注意すること。
  - 1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
  - 2) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。水溶性フィルムは吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を堅く閉じて保管すること。また、強く加圧されると水溶性フィルムが劣化するおそれがあるので下積みにならないようにすること。

登録番号 第 19615 号

## クサトリエース®L ジャンボ

- 移植後3日から使用できる水稲用一発除草剤です。  
 特長： ●ノビエに対して長期残効を示します。  
 ●畦畔から投げ込むだけの省力型除草剤です。

クサトリエースは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	カフェンストロール (化管法第1種)・・・7.0% ダイムロン・・・15.0% ベンスルフロンメチル (化管法第1種)・・・1.7%	包装	(30g×10) ×20
その他化管法該当成分	ナトリウム=アルケンスルホナート及びナトリウム=ヒドロキシアルカンスルホナート並びにこれらの混合物(化管法第1種)・・・1.1%		
性状	淡褐色細粒、水溶性パック入り 1パック 30g	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2009年10月21日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヘラホダカ(北陸) クマガイ(北陸を除く) ホダカ ヒルムシ セ コキヤガラ(九州) アオトドロ・藻類による表層はく離(近畿・中国・四国)	移植後3日～ ノビエ2葉期 ただし、 移植後30日まで	砂壤土～ 埴土	小包装 (パック) 10個 (300g)/10a	1回	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	北陸・関東・東山・東海・近畿・中国・四国の普通期及び関東以西の早期栽培地帯
	九州の普通期栽培地帯						

カフェンストロールを含む農薬の総使用回数	ダイムロンを含む農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む農薬の総使用回数
1回	3回以内(育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内)	2回以内

## 使用上の注意事項

- 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使いきる。
- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期まで(但し、九州の普通期栽培地帯以外は2葉期まで)に時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に

散布するように注意すること。ホタルイ、ウリカワ（北陸、近畿・中国・四国、九州の普通期栽培地帯）、ミズガヤツリ（近畿・中国・四国、九州）及びへらオモダカは2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、オモダカ（近畿・中国・四国、九州）、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前まで、それ以外の地域とクログワイは発生始期までが本剤の散布適期である。

- (3) 苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は特にていねいに行うこと。
- (4) コウキヤガラ、オモダカ、クログワイは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないので、有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。
- (5) 処理に当たっては、水の出入りを止めて水深5～6cmの湛水状態にし、散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (6) 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (7) 本剤は小包装（パック）のまま10アール当り10個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- (8) 藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、効果の劣る可能性があるので使用をさけること。
- (9) 散布後に多量の雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
- (10) パックに使用しているフィルムは水溶性なので、ぬれた手で作業したり、降雨で破袋することのないように注意すること。
- (11) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (12) 処理後数日間著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (13) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (14) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (15) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、落水、かけ流しはしないこと。
- (16) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は水溶性フィルムで小包装化されているため、通常の使用方法ではその該当がない。
- (2) 水溶性フィルムの包装が破袋した場合は以下の点に注意すること。眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 誤食などのないように注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- (4) 本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、直ちに医師の手当を受けること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を堅く閉じて保管すること。また、強く加圧されると包装材フィルムが劣化するおそれがあるので下積にならないようにすること。

登録番号 第 21765 号

## クサトリエース®粒剤 17

特長：	●移植後5日から使用できる水稲用一発除草剤です。 ●ノビエに対して長期残効を示します。 ●3キロ剤です。
-----	------------------------------------------------------------

クサトリエースは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	カフェンストロール（化管法第1種）・・・1.0% ダイムロン・・・2.0% ベンスルフロンメチル・・・0.17%	包装	3kg×8
性状	類白色細粒	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2008年1月23日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヒルムシロ(北陸を除く) ヘラオモダカ(北陸) セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後5日～ ノビエ2.5葉期 ただし、 移植後30日まで	砂壤土～ 埴土	3kg/10a	1回	湛水散布	北陸・関東・東山・東海、九州の普通期及び早期栽培地帯
			壤土～埴土				近畿・中国・四国の普通期及び早期栽培地帯

カフェンストロールを含む農薬の総使用回数	ダイムロンを含む農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む農薬の総使用回数
1回	3回以内(育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内)	2回以内

## 使用上の注意事項

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに、時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布すること。ホタルイ、ウリカワ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリは2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生始期までが本剤の散布適期である。
- 苗の植付けが均一となるように代かきを丁寧に行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特に丁寧に行うこと。
- 田植え前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用すること。
- 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。

- (7) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
- 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深が2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植えの水田及び浮き苗の多い水田
- (8) 梅雨期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
- (9) 散布後数日間著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (10) 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (11) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (12) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、落水、かけ流しはしないこと。
- (13) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

**人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法**-----

- (1) 誤食などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- (2) 本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、直ちに医師の手当を受けること。
- (3) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨**-----

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨**-----

通常の使用方法ではその該当がない。

**貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 23681 号

## クサバルカン<sup>®</sup>ジャンボ (JA)

●移植後1日から使用できる水稲用一発除草剤です。  
 ●有効成分ピラクロニル配合で、効果の発現が早いです。  
 特長： ●ALS阻害剤抵抗性雑草（アゼナ、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を発揮します。  
 ●畦畔から侵入するイボクサ等にも優れた効果を示します。  
 ●畦畔から投げ込むだけの省力型除草剤です。

クサバルカンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ピラクロニル・・・4.0% ピラゾレート（化管法第1種）・・・20.0% ベンゾビスクロン（化管法第1種）・・・4.0%	包装	(50g×10) ×10
その他化管法該当成分	ナトリウム=アルケンスルホナート及びナトリウム=ヒドロキシアルカンスルホナート並びにこれらの混合物(化管法第1種)・・・2.0%		
性状	淡褐色粒状 水溶性パック入り 1パック50g	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

\*普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

**【適用雑草の範囲及び使用方法】**

2019年11月6日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラモダカ ミズガヤツリ ウリカ クログワイ モダカ ヒルムシロ アホドク・藻類による表層はく離	移植後1日～ バエ2.5葉期 ただし、 移植後30日まで	小包装(パック)10個 (500g)/10a	1回	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカ ヒルムシロ	稲1葉期～ バエ2.5葉期 ただし、 収穫90日前まで	小包装(パック)10個 (500g)/10a	1回	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。

ピラクロニルを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	ベンゾビスクロンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	3回以内



## 使用上の注意事項

- (1) 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使いきること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワは2葉期まで、クログワイ、オモダカは発生前～発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。
- (3) クログワイ、オモダカは、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。また、クログワイ、オモダカに有効な後処理剤と組み合わせて連年施用することにより、さらに効果が向上する。
- (4) 苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (5) 処理に当たっては、水の出入りを止めて水深5～6cmの湛水状態にし、散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (6) 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (7) 稲の根が露出する条件では、薬害を生じるおそれがあるので使用をさけること。
- (8) 本剤は小包装（パック）のまま10アール当り10個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- (9) 散布後に多量の雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
- (10) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (11) 藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、効果の劣る可能性があるので使用をさけること。
- (12) パックに使用しているフィルムは水溶性なので、ぬれた手で作業したり、降雨で破袋することのないように注意すること。
- (13) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (14) 移植期が遅く、処理後著しい高温が続く場合には、稲にクロロシスを生じる場合があるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (15) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (16) いぐさを栽培予定の水田では使用しないこと。
- (17) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (18) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (19) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は水溶性フィルムで小包装化されているため、通常的使用方法ではその該当がない。ただし、濡れた手で触らないこと。
- (2) 水溶性フィルム包装が破袋した場合は以下の点に注意すること。
  - 1) 眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
  - 2) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----  
通常の使用方法ではその該当がない。

**貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。水溶性フィルムは吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を堅く閉じて保管すること。また、強く加圧されると水溶性フィルムが劣化するおそれがあるので下積みにならないようにすること。

登録番号 第 16664 号

## クサホープ<sup>®</sup>D 粒剤

特長：

- 移植後3日から使用できる水稲用一発除草剤です
- ALS 阻害剤抵抗性雑草（アゼナ類、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を示します。
- 藻類及び表層はく離に対しても有効です。
- 3kg剤です。

クサホープは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ジメタメトリン・・・0.20% ピラゾレート（化管法第1種）・・・6.0% プレチラクロール（化管法第1種）・・・1.5%	包装	3kg×8
性状	類白色細粒	有効年限	4年
毒性	普通物 <sup>*</sup>	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用雑草の範囲及び使用方法】

2008年1月23日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ヘラオモダカ ミズガヤツリ ヒルムシロ アオミドロ・藻類による 表層はく離 オモダカ (東北、北陸、九州) ウキクサ (近畿・中国・四国)	移植後3日～ ルビエ2葉期 ただし、 移植後30日ま で	砂壤土 ～埴土	3kg/10a	1回	湛水散布	全域の普通 期及び早期 栽培地帯

ジメタメトリンを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

使用上の注意事項-----

- (1) 使用量に合わせて秤量し使い切ること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から発生始期に有効なので、ノビエの2葉期（北海道は1.5葉期）までに時期を失しないように散布すること。なお雑草、特に多年生雑草は生育段階によって効果のふれが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ミズガヤツリ、オモダカは発生前から発生始期まで、ウリカワ、ヘラオモダカは発生前から2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、ウキクサ、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期であるが、できるだけ早く散布することが望ましい。
- (3) 苗の植付が均一になるように、代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は特に代かきをていねいに行うこと。

- (4) 散布に当たっては、水の出入りをとめて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも 3~4 日間は通常の湛水状態（水深 3~5cm 程度）を保ち、散布後 7 日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (5) 北海道の泥炭質土壌の水田で使用する場合、ウリカワには効果が劣ることがあるので、ウリカワ多発田では使用しないこと。
- (6) 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (7) 下記のような条件では初期生育の抑制やクロロシスが生じるおそれがあるので使用をさけること。特にこれらの条件と梅雨明けなどによる散布時又は散布後数日間の異常高温が重なると、初期生育の抑制が顕著になるので、そのような条件下では使用しないように注意すること。
  - 1) 砂質土壌の水田および漏水の大きな水田（1 日の減水深が 2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田
- (8) 活着遅延を生じるような異常低温が予測される時は、初期生育の抑制などが生じるおそれがあるので、このような条件下での使用に際しては、県の防除指針に基づき、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (9) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 散布後は水管管理に注意すること。
- (4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。また、吸湿しやすいので開封後は堅く口を閉じ、長期間の保存はさけること。

登録番号 第 24724 号

# グランクロス®Sジャンボ

**特長：**

- 新規有効成分サイラ配合の中・後期除草剤です。
- 4つの有効成分を効果的に配合することで、幅広い草種に高い効果を示します。
- ALS 阻害剤抵抗性雑草（オモダカ、コナギ、ホタルイ等）にも優れた効果を示します。
- 4葉期までのノビエにも有効で、また、クログワイ等の多年生雑草にも高い効果を示します。
- 拡散性能に優れたソニックスプレッド®テクノロジー\*を採用しています。  
\*拡散性能を飛躍的に向上させた三井化学クロップ&ライフソリューションの独自技術です。

サイラ、グランクロスは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	サイラ（シクロピリモレート）…3.0% シメトリン(化管法第1種)…3.0% テフリルトリオン(化管法第1種)…4.0% ペノキスラム…1.0%	包装	(25g×20) ×10
性状	淡褐色細粒及び微粒、水溶性パック入り、1パック25g	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

**【適用雑草の範囲及び使用方法】**

2023年1月25日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ ウリカワ クログワイ オモダカ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後14日(稲4葉期以降) ～ビエ4葉期 ただし、収穫60 日前まで	小包装(パッ ク)20個 (500g)/10a	1回	水田に小包装(パ ック)のまま投げ入 れる。

シクロピリモレートを含む 農薬の総使用回数	シメトリンを含む 農薬の総使用回数	テフリルトリオンを含む 農薬の総使用回数	プロピリスルフロンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内	2回以内

**農薬の使用上の注意事項**

- (1) 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使いきること。
- (2) 多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイは草丈15cmまで、ヘラオモダカ、ウリカワは5葉期まで、ミズガヤツリは草丈25cmまで、クログワイは草丈20cmまで、オモダカは矢じり葉4葉期まで、ヒルムシロは発生盛期まで、セリは増殖期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生始期までが本剤の散布適期である。

- (3) クログワイ、オモダカは、必要に応じて有効な前処理剤と組み合わせて使用すること。
- (4) 処理に当たっては、水の出入りを止めて水深5～6cmの湛水状態にし、散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (5) 前処理剤との体系で使用し、雑草の発生状況をよく確認し、時期を失しないように散布すること。
- (6) 本剤は小包装（パック）のまま10アール当たり20個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- (7) 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (8) 植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植付作業はていねいに行うこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (9) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (10) 藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、部分的な薬害や効果不足を生じる可能性があるので使用をさけること。
- (11) パックに使用しているフィルムは水溶性なので、ぬれた手で作業したり、降雨で破袋することのないように注意すること。
- (12) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (13) 本剤の使用後に低温が続くと予想される場合には、稲に生育抑制などの薬害が発生するおそれがあるので、使用をさけること。
- (14) 処理後著しい高温が続く場合には、稲にクロロシスを生じる場合があるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (15) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (16) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (17) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (18) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨、使用に際して講ずべき被害防止方法及び解毒方法-----

- (1) 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法  
ア農薬使用者に係る注意事項
  - ① 本剤は水溶性フィルムで小包装化されているため、通常の使用方法ではその該当がない。ただし、濡れた手で触らないこと。
  - ② 水溶性フィルム包装が破袋した場合は以下の点に注意すること。
    - 1) 眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
    - 2) 皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
    - 3) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。付着した場合には直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (2) 使用に際して講ずべき被害防止方法  
該当なし

#### 生活環境動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----  
通常の使用方法ではその該当がない。

**農薬の貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。  
水溶性フィルムは吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を固く閉じて保管すること。また、強く加圧されると水溶性フィルムが劣化するおそれがあるので下積みにならないようにすること。

登録番号 第 24722 号

# グランクロス®Z 1キログ粒剤

●新規有効成分サイラ配合の中・後期除草剤です。  
 ●4つの有効成分を効果的に配合することで、幅広い草種に高い効果を示します。  
 特長： ●ALS 阻害剤抵抗性雑草（オモダカ、コナギ、ホタルイ等）にも優れた効果を示します。  
 ●4葉期までのノビエにも有効で、また、クログワイ等の多年生雑草にも高い効果を示します。  
 ●落水せずに湛水状態で散布ができます。

サイラ、グランクロスは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	サイラ (シクロピリモレート) …1.5% シメトリン(化管法第1種)…1.5% テフリルトリオン(化管法第1種)…3.0% プロピリスルフロン粒剤…0.90%	包装	1kg×12
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

**【適用雑草の範囲及び使用方法】**

2023年1月25日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ ウリカワ クログワイ オモダカ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後 14 日 (稲 4 葉期以降) ~ ノビエ 4 葉期 ただし、収穫 60 日前まで	1kg/10a	1 回	湛水散布又は無人航空機による散布

シクロピリモレートを含む 農薬の総使用回数	シメトリンを含む 農薬の総使用回数	テフリルトリオンを含む 農薬の総使用回数	プロピリスルフロンを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内	2 回以内

**農薬の使用上の注意事項**

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、クログワイは草丈 20cm まで、ヘラオモダカ、ウリカワは 5 葉期まで、ミズガヤツリは草丈 25cm まで、オモダカは矢じり葉 4 葉期まで、ヒルムシロは発生盛期まで、セリは増殖期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生始期までが本剤の散布適期である。
- (3) クログワイ、オモダカは、必要に応じて有効な前処理剤と組み合わせて使用すること。



- (4) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、田面を露出させないように注意すること。散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (5) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 散布は使用機種の使用基準に従って実施すること。
  - 2) 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 3) 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整すること。
  - 4) 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう注意すること。
  - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
- (6) 前処理剤との体系で使用し、雑草の発生状況をよく確認し、時期を失しないように散布すること。
- (7) 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (8) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植付作業はていねいに行うこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (9) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (10) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (11) 処理後著しい高温が続く場合には、稲にクロロシスを生じる場合があるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (12) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (13) いぐさを栽培予定の水田では使用しないこと。
- (14) 空袋等はほ場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。
- (15) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (16) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (17) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

**人畜に有毒な農薬については、その旨、使用に際して講ずべき被害防止方法及び解毒方法**-----

(1) 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

ア 農薬使用者に係る注意事項

- 1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- 2) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- 3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- 4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- 5) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

(2) 使用に際して講ずべき被害防止方法

該当なし

**生活環境動植物に有毒な農薬については、その旨**-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨**-----

通常の使用方法ではその該当がない。

**農薬の貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。また、吸湿しやすいので開封後は固く口を閉じ、長期間の保存はさけること。

登録番号 第 18445 号

# ザーク®D1 キロ粒剤 51

●移植後5日から使用できる水稲用一発除草剤です。  
 特長： ●ノビエに対して長期残効を示します。  
 ●1キロ粒剤です。

ザークはバイエルクロップサイエンス(株)とクミアイ化学工業(株)の共有登録商標です。

有効成分	ダイムロン・・・4.5% ベンスルフロンメチル・・・0.51% メフェナセット(化管法第1種)・・・10.0%	包装	1kg×12
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

**【適用雑草の範囲及び使用方法】**

2009年11月4日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	ダイムロンを含む農薬の総使用回数
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ヘラモガカ ミズガヤツリ モダカ クログワイ セリ ヒルムシロ コキヤガラ(九州) アオトビロ・藻類による表層はく離	移植後5日 ～ルビエ2.5葉期 ただし、 移植後30日まで	砂壤土 ～埴土	1kg/10a	1回	湛水 散布	北陸・関東・東 山・東海の普通 期及び早期栽培 地帯	3回以内 (育苗箱散布は 1回以内、本田 では2回以内)
		移植後5日 ～ルビエ3葉期 ただし、 移植後30日まで					近畿・中国・四国 の早期栽培地帯	
直播水稲	水田一年生雑草 マツバイ ミズガヤツリ (近畿・中国・四 国)	稲1葉期～ ルビエ2.5葉期 ただし、 収穫90日前ま で	壤土 ～埴土	1kg/10a	1回	湛水 散布	北陸	
			砂壤土 ～埴土				近畿・中国・四国	
							九州	

ベンスルフロンメチルを含む農薬の総使用回数	メフェナセットを含む農薬の総使用回数
2回以内	2回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、時期を失しないように散布すること。なお、雑草、特に多年生雑草は生育段階によって効果にフレがあるので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ウリカワ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリは2葉期まで、クログワイは発生前まで、オモダカ、ヒルムシロは発生盛期まで、セリは増殖期まで、コウキヤガラ、アオミドロ・藻類による表層は離は発生始期までが散布適期であるが、特にオモダカ、クログワイに対しては所定の使用時期の範囲内でなるべく遅くに散布することが望ましい。
- (3) オモダカ、クログワイは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないので、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。
- (4) 苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (5) 散布に当たっては水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3~4日間は通常の湛水状態（水深3~5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (6) 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (7) 乾田直播では、入水前散布の除草剤との体系で使用することが望ましい。
- (8) 乾田直播の場合は入水後、しばらくは漏水が多く、効果不足や薬害の出るおそれがあるので漏水が少なくなってから散布すること。
- (9) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田および漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田
- (10) 梅雨期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
- (11) 散布後数日間著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (12) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (13) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (14) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、落水、かけ流しはしないこと。
- (15) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤食などのないように注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- (2) 本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、直ちに医師の手当を受けること。
- (3) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

## 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 17262 号

## ザーク®D 粒剤 17

- 移植後5日から使用できる水稲用一発除草剤です。  
 特長： ●ノビエに対して長期残効を示します。  
 ●3キロ剤です。

ザークはバイエルクロップサイエンス(株)とクミアイ化学工業(株)の共有登録商標です。

有効成分	ダイムロン・・・1.5% ベンスルフロンメチル・・・0.17% メフェナセット(化管法第1種)・・・3.5%	包装	3kg×8
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2009年11月4日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ヘラオモダカ ヒルムシロ ミズガヤツリ オモダカ クログワイ セリ コウキヤガラ(九州) アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植後5日 ～ルビエ2.5葉期 ただし、 移植後30日まで	砂壤土 ～埴土	3kg/10a	1回	湛水散布	北陸・関東・東 山・東海の普通 期及び早期栽培 地帯
	移植後5日 ～ルビエ3葉期 ただし、 移植後30日まで	近畿・中国・四 国、九州の普通 期及び早期栽培 地帯					

ダイムロンを含む 農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む 農薬の総使用回数	メフェナセットを含む 農薬の総使用回数
3回以内(育苗箱散布は1回以内、 本田では2回以内)	2回以内	2回以内

## 使用上の注意事項

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、時期を失しないように散布すること。尚、雑草、特に多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ウリカワ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリは2葉期まで、クログワイは発生期まで、オモダカ、ヒルムシロは発生盛期まで、セリは増殖期まで、コウキヤガラ、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生始期までが散布適期であるが、特にオモダカ、クログワイに対しては所定の使用時期の範囲内なるべく遅くに散布することが望ましい。
- クログワイは発生期間が長く、遅い発生のもものでは十分な効果を示さないので、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせ使用すること。

- (4) 苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (5) 散布に当たっては水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (6) 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (7) 下記のような条件では葉害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田および漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田および浮き苗の多い水田
- (8) 梅雨期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
- (9) 散布後数日間著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (10) 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (11) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (12) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、落水、かけ流しはしないこと。
- (13) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 誤食などのないように注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- (2) 本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、直ちに医師の手当を受けること。
- (3) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 16812 号

# ザーク®粒剤 25

●移植後5日から使用できる水稲用一発除草剤です。  
 特長： ●ノビエに対して長期残効を示します。  
 ●3キロ剤です。

ザークはバイエルクロップサイエンス(株)とクミアイ化学工業(株)の共有登録商標です。

有効成分	ベンスルフロンメチル・・・0.25% メフェナセット（化管法第1種）・・・4.0%	包装	3kg×8
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

**【適用雑草の範囲及び使用方法】**

2009年11月4日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ヘラオモダカ ヒルムシロ ミズガヤツリ	移植後 5～20日 (ノビエ2.5葉期まで)	壤土 ～埴土 (減水深 2cm/日 以下)	3kg/10a	1回	湛水散布	北海道
	コウキヤガラ(東北) オモダカ クログワイ シズイ エゾノサヤヌカグサ(北海道) セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後 5～15日 (ノビエ2.5葉期まで)					東北、北陸、関東・東山・東海の普通期及び早期栽培地帯

ベンスルフロンメチルを含む農薬の総使用回数	メフェナセットを含む農薬の総使用回数
2回以内	2回以内

**使用上の注意事項**

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布すること。尚、雑草、特に多年生雑草は生育段階によって効果にブレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ウリカワ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリは2葉期まで、クログワイは発生期まで、オモダカ、ヒルムシロ、コウキヤガラは発生盛期まで、セリは増殖期まで、シズイは草丈3cmまで、エゾノサヤヌカグサは4葉期まで（草丈20cm以下）、アオミドロ、表層はく離は発生始期までが散布適期であるが、特にオモダカ、クログワイ、シズイに対しては所定の使用時期の範囲内であるべく遅くに散布することが望ましい。
- (3) クログワイ、コウキヤガラは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないで、必要に応じて有効な後期剤と組み合わせて使用すること。

- (4) 苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (5) 散布に当たっては水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3~4日間は通常の湛水状態（水深3~5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (6) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田および漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田および浮き苗の多い水田
- (7) 散布後数日間著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (8) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (9) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (10) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、落水、かけ流しはしないこと。
- (11) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 誤食などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- (2) 本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、直ちに医師の手当を受けること。
- (3) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 散布の際はマスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。また粉末を吸い込んだり、浴びたりしないよう注意し、作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (5) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (6) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。



登録番号 第 22422 号

## MIC ザーベックス®DX1 キロ粒剤

- 特長：
- 移植後 20 日から使用できる水稲用中期除草剤です。
  - 初期または一発除草剤との組み合わせで使用します。
  - ノビエからクログワイ等の多年生雑草まで幅広く効果を発揮します。
  - クサネム等の広葉雑草にも有効です。

ザーベックスは北興化学工業(株)の登録商標です。

有効成分	シハロホップブチル（化管法第1種）・・・1.5% シメトリン（化管法第1種）・・・4.5% ベンフレセート・・・6.0% MCPB・・・2.4%	包装	1kg×12
性状	類白色細粒	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用雑草の範囲及び使用方法】

2009年7月22日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラトガカ（北海道、東北、九州の早期） ミズガヤツリ（北海道を除く） ウリカ（東北を除く） クログワイ（東北、関東・東山・東海、近畿・中国・四国） トゲタカ（九州の早期を除く） ヒムシロ（東北、北陸を除く） エゾノヤサカガサ（北海道） シズイ（東北） アオイトロ・藻類による表層はく離（東北、北陸を除く）	移植後 20～30 日 （ノビエ 3.5 葉期まで） [移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用]	砂壤土～ 埴土	1kg/10a	1回	湛水 散布	全域 （九州を除く）の普通 期栽培地帯 及び関東以 西の早期栽 培地帯
直播水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカ ヒムシロ アオイトロ・藻類による表層はく離	稲 5 葉期～ ノビエ 3.5 葉期まで 但し、 収穫 60 日前まで [は種後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用]	砂壤土～ 埴土	1kg/10a	1回	湛水 散布	全域 （九州を除く）

シハロホップブチルを含む 農薬の総使用回数	シメトリンを含む 農薬の総使用回数	ベンフレセートを含む 農薬の総使用回数	MCPB を含む 農薬の総使用回数
3回以内	2回以内	2回以内	2回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使い切ること。
- (2) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～5日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (3) 移植前後又は播種後の初期除草剤による土壌処理との組合せで使用する場合には雑草の発生状況をよく観察し、時期を失わないように適期に散布するように注意すること。
- (4) 梅雨期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
- (5) 散布後の異常高温（急激な温度上昇、梅雨明け前後の高温）が予想される時は使用しないこと。
- (6) 本剤はホルモン作用を持つ除草剤で、処理後低温が続く場合は稲苗の生育抑制などの薬害を生じるおそれがあるので、処理時期の平均気温が15～16℃以下になるような場合には使用をさけること。また、北海道では稲5葉期以下では使用しないこと。
- (7) 多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するよう注意すること。ホタルイ（移植水稻の北海道、関東以西、直播水稻）、ミズガヤツリ（移植水稻の関東以西）、ウリカワ（移植水稻の北海道、関東以西、直播水稻）は3葉期まで、ホタルイ（移植水稻の東北、北陸）、ヘラオモダカ（北海道）、ミズガヤツリ（移植水稻の東北、北陸、直播水稻）、ウリカワ（移植水稻の北陸）、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、シズイは草丈3cmまで、ヒルムシロは発生期まで、ヘラオモダカ（東北、九州）、クログワイ、オモダカ、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生始期が散布適期である。また、オモダカ、クログワイ及びシズイは発生期間が長く、遅い発生のもは十分な効果を示さないので、有効な前処理剤との組合せで使用すること。
- (8) 漏水田（減水深2cm/日以上）では、薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
- (9) 乾田直播では、入水前散布の除草剤との組合せで使用することが望ましい。
- (10) 乾田直播の場合は入水後、しばらくは漏水が多く、効果不足や薬害の出るおそれがあるので漏水が少なくなってから散布すること。
- (11) 本剤は田面水からの揮散により、キュウリなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意すること。
- (12) 本剤はその殺草特性から、とうもろこし、食用びえ、ソルガム等のイネ科作物の生育を阻害するおそれがあるので、散布田の水田水をこれら作物に灌水しないようにすること。
- (13) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

本剤は眼に対して刺激性があるので薬剤が眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。使用後は洗眼すること。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

## 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 22423 号

## MIC ザーベックス<sup>®</sup>SM 粒剤

- 特長：
- 移植後 20 日から使用できる水稲用中期除草剤です。
  - 初期または一発除草剤との組み合わせで使用します。
  - クログワイ等の多年生雑草にも効果を発揮します。
  - クサネム等の広葉雑草にも有効です。

ザーベックスは北興化学工業(株)の登録商標です。

有効成分	シメトリン（化管法第1種）・・・1.5% ベンフレセート・・・2.0% MCPB・・・0.80%	包装	3kg×8
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用雑草の範囲及び使用方法】

2011年5月11日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植 水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ハラモダカ ヒルムシロ エダノサヤカグサ	移植後 20 日～ ルビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30 日まで	砂壤土～ 埴土	3kg/10a	1 回	湛水散布	北海道
	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミズガヤツリ ハラモダカ オモダカ クログワイ シズイ(東北)		壤土～ 埴土				東北、北陸
	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミズガヤツリ オモダカ クログワイ		砂壤土～ 埴土				近畿・中国・四国の普通 期及び早期栽培地帯  関東・東山・東海の普通 期及び早期栽培地帯

シメトリンを含む農薬の総使用回数	ベンフレセートを含む農薬の総使用回数	MCPB を含む農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使い切ること。
- (2) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3~5日間は通常の湛水状態（水深3~5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (3) 梅雨期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は、除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
- (4) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
  - 4) 稲の根が露出している水田
- (5) 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないように適期に散布すること。
- (6) 散布後の異常高温（急激な温度上昇、梅雨明け前後の高温）が予想される時は使用しないこと。
- (7) 本剤はホルモン作用を持つ除草剤で、処理後低温が続く場合は稲苗の生育抑制などの薬害を生じるおそれがあるので、処理時期の平均気温が15~16℃以下になるような場合には使用をさけること。また、北海道、東北、北陸では稲5葉期以下では使用しないこと。
- (8) 多年生雑草は生育段階によって効果にフレがあるので、使用時期に遅れないように散布すること。マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカは2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで（北海道）、エゾノサヤヌカグサは発生始期から2葉期まで、クログワイは発生始期まで、シズイは草丈5cmまで（東北）、オモダカは1葉期まで（東北、北陸）、2葉期まで（関東、東山、東海）及び発生始期まで（近畿、中国、四国）が使用適期であるので、時期を逸しないように散布すること。
- (9) エゾノサヤヌカグサ、クログワイ、シズイ、オモダカは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないもので、有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。
- (10) 本剤は田面水からの揮散により、キュウリなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意すること。
- (11) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けること。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤食などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

## 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 22901 号

## ザクサ®液剤

- 特長：
- 非選択性茎葉処理型の除草剤で、植物の茎葉部（緑色部）に散布すると有効成分は速やかに植物体内へ浸透し、植物を枯殺します。
  - イネ科の雑草に対して優れた効果を示します。
  - 散布液が土壌表面に落下すると、有効成分は速やかに分解されます。

ザクサは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	グルホシネートPナトリウム塩・・・11.5%	包装	500ml×20
その他化管法該当成分	ポリ(オキシエチレン)ドデシルエーテル硫酸エステルナトリウム（化管法第1種）・・・6.5% ドデシル硫酸ナトリウム（化管法第1種）・・・5.2% ポリ(オキシエチレン)＝アルキルエーテル(アルキル基の炭素数が12から15までのもの及びその混合物に限る)（化管法第1種）・・・4.2%		2L×6 6L×3 10L×2 50L×1
性状	青色澄明水溶性液体	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用病害虫及び使用方法】

2023年6月7日付内容

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	薬量	希釈水量	本剤の使用回数	使用方法	グルホシネート及びグルホシネートPを含む農薬の総使用回数
果樹類 (かんきつ、りんご、びわ、いちじょう(種子)、くり、杓イカルツ、食用桑(果実)、さんしょう(果実)を除く)	-	一年生雑草	収穫前日まで (雑草生育期)	300～500 ml/10a	100～150 L/10a	3回以内	雑草茎葉散布	3回以内
		多年生雑草		500～1000 ml/10a				
かんきつ	-	一年生雑草	収穫21日前まで (雑草生育期)	300～500 ml/10a	100～150 L/10a	3回以内	雑草茎葉散布	3回以内
		多年生雑草		500～1000 ml/10a				
りんご	-	一年生雑草	収穫21日前まで (雑草生育期)	300～500 ml/10a	100～150 L/10a	3回以内	雑草茎葉散布	3回以内
		多年生雑草		500～1000 ml/10a				

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	薬量	希釈水量	本剤の使用回数	使用方法	グルホシネート及びグリホシネートPを含む農薬の総使用回数
びわ	-	一年生雑草	収穫21日前まで (雑草生育期)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	3回以内	雑草茎 葉散布	3回以内
		多年生雑草		500~1000 ml/10a				
キウフルーツ	-	一年生雑草	収穫21日前まで (雑草生育期)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	3回以内	雑草茎 葉散布	3回以内
		多年生雑草		500~1000 ml/10a				
くり	-	一年生雑草	収穫30日前まで (雑草生育期)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	3回以内	雑草茎 葉散布	3回以内
		多年生雑草		500~1000 ml/10a				
いちよう (種子)	-	一年生雑草	収穫14日前まで (雑草生育期)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	3回以内	雑草茎 葉散布	3回以内
		多年生雑草		500~1000 ml/10a				
食用桑 (果実)	-	一年生雑草	収穫45日前まで (雑草生育期 春期萌芽前 及び夏切り後萌芽前)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	3回以内	雑草茎 葉散布	3回以内
		多年生雑草		500~1000 ml/10a				
さんしょう (果実)	-	一年生雑草	収穫7日前まで (雑草生育期)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	2回以内	雑草茎 葉散布	2回以内
		多年生雑草		500~1000 ml/10a				
そば	-	一年生雑草	は種前(雑草生育期)	300~ 500ml/10a	100~150 L/10a	3回以内	雑草茎 葉散布	3回以内
豆類(種実、 ただし、ら っかせいを 除く)	-	一年生雑草	収穫28日前まで (雑草生育期 は種・定植 前又は畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	3回以内	雑草茎 葉散布	3回以内
			収穫前日まで (雑草生育期 は種・定植 前又は畦間処理)					
えだまめ	-	一年生雑草	収穫14日前まで (雑草生育期 は種・定植 前又は畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	3回以内	雑草茎 葉散布	3回以内
ばれいしょ	-	一年生雑草	雑草生育期 萌芽前処理	100~200 ml/10a	100~150 L/10a	1回	雑草茎 葉散布	3回以内 (萌芽前は1回以内、 萌芽後は2回以内)
			収穫21日前まで (雑草生育期 畦間処理)	300~500 ml/10a		2回以内		

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	薬量	希釈水量	本剤の使用回数	使用方法	グルホシネート及びビグルホシネートPを含む農薬の総使用回数
さといも	-	一年生雑草	収穫30日前まで (雑草生育期 植付前又は 畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	3回以内	雑草茎 葉散布	3回以内
さといも (葉柄)	-	一年生雑草	収穫7日前まで (雑草生育期 植付前又は 畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	3回以内	雑草茎 葉散布	3回以内
かんしょ	-	一年生雑草	収穫30日前まで (雑草生育期 挿苗前又は 畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	2回以内	雑草茎 葉散布	2回以内
ごぼう	-	一年生雑草	収穫前日まで (雑草生育期 は種前又は 畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	2回以内	雑草茎 葉散布	2回以内
だいこん	-	一年生雑草	収穫45日前まで (雑草生育期畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	2回以内	雑草茎 葉散布	2回以内
やまのいも	-	一年生雑草	収穫30日前まで (雑草生育期 萌芽前又は 畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	3回以内	雑草茎 葉散布	3回以内
ピーマン	-	一年生雑草	収穫前日まで (雑草生育期 定植前又は 畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	3回以内	雑草茎 葉散布	3回以内
なす	-	一年生雑草	収穫前日まで (雑草生育期 定植前又は 畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	3回以内	雑草茎 葉散布	3回以内
トマト	-	一年生雑草	収穫前日まで (雑草生育期 定植前又は 畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	3回以内	雑草茎 葉散布	3回以内
ミニトマト	-	一年生雑草	収穫前日まで (雑草生育期 定植前又は 畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	3回以内	雑草茎 葉散布	3回以内
きゅうり	-	一年生雑草	収穫前日まで (雑草生育期 定植前又は 畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	3回以内	雑草茎 葉散布	3回以内
とうがらし 類	-	一年生雑草	収穫前日まで (雑草生育期 定植前又は 畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	3回以内	雑草茎 葉散布	3回以内
メロン	-	一年生雑草	収穫30日前まで (雑草生育期 定植前又は 畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	2回以内	雑草茎 葉散布	2回以内
ワタ	-	一年生雑草	収穫30日前まで (雑草生育期 定植前又は 畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	2回以内	雑草茎 葉散布	2回以内

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	薬量	希釈水量	本剤の使用回数	使用方法	グルホシネート及びグルホシネートPを含む農薬の総使用回数
非結球ナス	-	一年生雑草	収穫30日前まで (雑草生育期 定植前又は 畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	2回以内	雑草茎 葉散布	2回以内
はくさい	-	一年生雑草	収穫45日前まで (雑草生育期は種・定植 前又は畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	2回以内	雑草茎 葉散布	2回以内
キャベツ	-	一年生雑草	収穫45日前まで (雑草生育期 定植前又は 畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	2回以内	雑草茎 葉散布	2回以内
たまねぎ	-	一年生雑草	収穫7日前まで (雑草生育期 定植前又は 畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	2回以内	雑草茎 葉散布	2回以内
にんにく	-	一年生雑草	収穫前日まで (雑草生育期 萌芽前又は 畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	2回以内	雑草茎 葉散布	2回以内
にら	-	一年生雑草	収穫前日まで (雑草生育期 畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	2回以内	雑草茎 葉散布	3回以内
ねぎ	-	一年生雑草	収穫前日まで (雑草生育期 定植前又は 畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	2回以内	雑草茎 葉散布	2回以内
すいか	-	一年生雑草	収穫前日まで (雑草生育期 定植前又は 畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	2回以内	雑草茎 葉散布	2回以内
ブロッコリー	-	一年生雑草	収穫前日まで (雑草生育期 定植前又は 畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	2回以内	雑草茎 葉散布	2回以内
アスパラガス	-	一年生雑草	萌芽前 (雑草生育期)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	2回以内	雑草茎 葉散布	2回以内
		一年生雑草 及び多年生 広葉雑草	収穫前日まで (雑草生育期 畦間処理)					
にんじん	-	一年生雑草	収穫7日前まで (雑草生育期 は種前又は 畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	3回以内	雑草茎 葉散布	3回以内
ほうれんそう	-	一年生雑草	収穫7日前まで (雑草生育期 は種前又は 畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	2回以内	雑草茎 葉散布	2回以内
とうがん	-	一年生雑草	定植前 (雑草生育期)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	3回以内	雑草茎 葉散布	3回以内
			収穫前日まで (雑草生育期 畦間処理)			2回以内		



作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	薬量	希釈水量	本剤の使用回数	使用方法	グルホシネート及びグリホシネートPを含む農薬の総使用回数
いちご	-	一年生雑草	収穫前日まで (雑草生育期 定植前又は 畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	3回以内	雑草茎 葉散布	3回以内
しそ	-	一年生雑草	収穫14日前まで (雑草生育期 畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	2回以内	雑草茎 葉散布	2回以内
みょうが (花穂)	-	一年生雑草	収穫14日前まで (雑草生育期 萌芽前又は 畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	2回以内	雑草茎 葉散布	2回以内
みょうが (茎葉)	-	一年生雑草	みょうが(花穂)の収穫14 日前まで ただし、花穂を 収穫しない場合にあって は開花期終了まで (雑草生育期 萌芽前又は 畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	2回以内	雑草茎 葉散布	2回以内
ぎぼうし	-	一年生雑草	収穫90日前まで (雑草生育期 畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	3回以内	雑草茎 葉散布	3回以内
かのこそう	-	一年生雑草	収穫14日前まで (雑草生育期 定植前又は 畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	2回以内	雑草茎 葉散布	2回以内
甘草	-	一年生雑草	収穫14日前まで (雑草生育期 定植前又は 畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	9回以内 (1年間に3回 以内)	雑草茎 葉散布	9回以内 (1年間に3回以内)
ホップ	-	一年生雑草	収穫3日前まで (雑草生育期 畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	3回以内	雑草茎 葉散布	3回以内
茶	-	一年生雑草	摘採7日前まで (雑草生育期 畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	2回以内	雑草茎 葉散布	2回以内
茶(幼木)	-	一年生雑草	雑草生育期 畦間・株間処 理	300ml/10a	100L/10a	2回以内	雑草茎 葉散布	2回以内
水田作物	-	一年生雑草	耕起前 (雑草生育期)	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	1回	雑草茎 葉散布	1回
水田作物 (水田刈跡)	水田 刈跡	一年生雑草	雑草生育期	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	1回	雑草茎 葉散布	1回
水田作物 (水田畦畔)	水田 畦畔	一年生雑草 多年生雑草	収穫7日前まで (雑草生育期)	500~1000 ml/10a	100~150 L/10a	2回以内	雑草茎 葉散布	2回以内
たばこ	-	一年生雑草	雑草生育期 大土寄期 畦 面・畦間処理	200~500 ml/10a	100~150 L/10a	1回	雑草茎 葉散布	1回
花き類・観 葉植物	-	一年生雑草	雑草生育期 畦間処理	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	3回以内	雑草茎 葉散布	3回以内
樹木類	-	一年生雑草	雑草生育期	300~500 ml/10a	100~150 L/10a	3回以内	雑草茎 葉散布	3回以内

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	薬量	希釈水量	本剤の使用回数	使用方法	グルホシネート及びビグルホシネートPを含む農薬の総使用回数
樹木等	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等	一年生雑草	雑草生育期	500～1000 ml/10a	100～200 L/10a	3回以内	植栽地を除く樹木等の周辺地に雑草茎葉散布	3回以内
		多年生雑草		1000～2000 ml/10a				

### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 散布直後の降雨は、効果を減ずるので、天候をよく見きわめてから散布すること。
- (3) 本剤は雑草の生育期に有効であるが、雑草が大きくなりすぎると効果が劣るので、草丈 30cm 程度を目安に時期を失しないように、薬液が雑草全体によく付着するようにていねいに散布すること。
- (4) 植物に薬液が付着すると薬害を生じるので散布液が付近の農作物、樹木の茎葉に飛散ないように散布すること。特に野菜類の生育期畦間散布で使用する場合は作物にかからないように十分注意して散布すること。
- (5) 茶（幼木）に使用するときには樹高 30cm 以上、雑草の草丈 20cm 以下で処理すること。処理当年には摘採しないこと。薬液が付着した茶葉には黄化、褐変、落葉などの症状を生じることがあるので、噴口を低くして芽や新葉にかからないように注意して散布すること。
- (6) アスパラガスの立茎栽培で使用する場合は、萌芽している若茎に薬害を生じるおそれがあるので、散布後新たに萌芽した若茎を用いて立茎することが望ましい。
- (7) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (8) 散布液を調製した容器及び散布器具は使用后十分に洗っておくこと。
- (9) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
- (10) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。特に適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 原液は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。  
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。  
付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。  
作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- (5) 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- (6) 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管すること。

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----**

水産動植物（魚類）に影響を及ぼす恐れがあるので、養魚田周辺での使用には注意すること。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----**

通常の使用方法ではその該当がない。

**貯蔵上の注意事項-----**

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 24149 号

シアゲ MF<sup>®</sup>1 キロ粒剤

- 特長；
- 移植後 20 日から使用できる水稲用中・後期除草剤です。
  - 初期または一発除草剤との組み合わせで使用します。
  - 有効成分メタミホップ配合で、ノビエに対して優れた効果を発揮します。
  - クログワイ、シズイ、オモダカ等の多年生難防除雑草にも高い効果を示します。

シアゲ MF は科研製薬(株)の登録商標です。

有効成分	ピリミスルファン・・・0.60% メタミホップ・・・0.90% MCPB・・・2.40%	包装	1kg×12
性状	類白色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2022年6月8日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生 及び 多年生雑草	移植後 20 日～ ルビエ 4.5 葉期 但し、収穫 60 日前まで	1kg/10a	2 回以内	湛水散布又は無人航空機による散布
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ	稲 3.5 葉期～ ルビエ 4.5 葉期 但し、収穫 60 日前まで			湛水散布又は無人航空機による散布

ピリミスルファンを含む 農薬の総使用回数	メタミホップを含む 農薬の総使用回数	MCPB を含む 農薬の総使用回数
2 回以内	3 回以内	2 回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 本剤はノビエの 4.5 葉期まで有効なので、時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は、生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイは花茎 20 cm まで、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワは 4 葉期まで、オモダカは矢じり葉 4 葉期まで、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは草丈 30 cm まで、ヒルムシロは発生盛期まで、セリは増殖期まで、キシウスズメノヒエは再生茎 5 葉期まで、エゾノサヤヌカグサは 4 葉期まで、アゼガヤ（一年生雑草）は草丈 20 cm までが本剤の散布適期である。
- (2) オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイ防除は、必要に応じて有効な前処理剤との組み合わせで使用すること。
- (3) キシウスズメノヒエ防除は展開葉が水面に接する条件で使用すること。
- (4) 田植前後に使用する土壌処理除草剤との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失ないように適期に散布すること。

- (5) 本剤はホルモン作用を持つ除草剤で処理後低温が続く場合には、稲苗の生育抑制などをおこすおそれがあるので、処理後数日間の平均気温が15～16℃以下になると予想される場合には使用をさけること。
- (6) 直播水稲に使用する場合、葉害をさけるため稲の3.5葉期以降に使用すること。
- (7) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 散布は使用機種の使用基準に従って実施すること。
  - 2) 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 3) 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整すること。
  - 4) 散布薬剤の飛散によって他の作物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、散布装置のインペラの回転数を調整し、ほ場の端から5m以上離れた位置からほ場内に散布すること。
  - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
- (8) 苗の植え付けが均一になるように、整地、代かきはていねいに行い、ワラくずなどの浮遊物はできるだけ取り除くこと。また、未熟有機物を施用した場合は特にていねいに行うこと。
- (9) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を田面に均一に散布し、散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm程度）を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないように注意し、また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。
- (10) 以下の水田では葉害を生じるおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱徒長苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植や深植をした水田
- (11) 強風時の散布はさけること。
- (12) いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意すること。
- (13) 本剤散布後の田面水を他作物に灌水しないこと。
- (14) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他の物とは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

## ジェイソウル® 1 キロ粒剤

- 特長：
- 新規有効成分サイラ®配合、移植時から使用できる水稲用一発除草剤です。
  - ノビエに対して長期残効を示します。
  - ALS 阻害剤抵抗性雑草（オモダカ、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を発揮します。
  - 畦畔から侵入するイボクサ等にも優れた効果を示します。

サイラ、ジェイソウルは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	サイラ（シクロピリモレート）・・・3.0% ピラゾレート（化管法第1種）・・・6.0% フェントラザミド（化管法第1種）・・・3.0%	包装	1kg×12 10 kg×1
性状	類白色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	—

\*普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2019年1月9日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ ウリカワ	移植時	1kg/10a	1回	田植同時散布機で施用
	オモダカ ヒルムシロ セリ シズイ エゾノサヤヌカグサ アオミドロ・藻類 による表層はく離	移植直後～ルビエ2.5葉期 ただし、移植後30日まで	1kg/10a	1回	湛水散布又は無人航空機 による散布
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ	稲1葉期～ルビエ2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	1kg/10a	1回	湛水散布又は無人航空機 による散布

シクロピリモレートを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	フェントラザミドを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	1回

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワ、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、オモダカは発生前～発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前～再生始期まで、シズイは草丈3cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが本剤の散布適期である。
- (3) オモダカ、シズイは、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。
- (4) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、田面を露出させないように注意すること。散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (5) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 散布は使用機種の使用基準に従って実施すること。
  - 2) 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 3) 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整すること。
  - 4) 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう注意すること。
  - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
- (6) 移植または播種前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (7) 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (8) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- (9) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (10) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (11) 処理後著しい高温が続く場合には、稲にクロロシスを生じる場合があるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (12) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (13) 空袋等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。
- (14) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (15) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正におこなうこと。
- (16) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- (5) 夏期高温時の使用をさけること。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 無人航空機による散布で使用する場合は、河川、養殖池等に飛散しないよう特に注意すること。
- (4) 散布後は水管理に注意すること。

- (5) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

また、吸湿しやすいので開封後は口を固く閉じ、長期間の保存はさけること。



# ジェイソウル®ジャンボ

●新規有効成分サイラ®配合、移植後1日から使用できる水稲用一発除草剤です。

●ノビエに対して長期残効を示します。

特長： ●ALS阻害剤抵抗性雑草（オモダカ、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を発揮します。

●畦畔から侵入するイボクサ等にも優れた効果を示します。

●畦畔から投げ込むだけの省力型除草剤です。

サイラ、ジェイソウルは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	サイラ（シクロピリモレート）・・・6.7% ピラゾレート（化管法第1種）・・・13.3% フェントラザミド（化管法第1種）・・・6.7%	包装	(45g×10) ×10
その他化管法 該当成分	ナトリウム=アルケンスルホナート及びナトリウム=ヒドロキシアル カンスルホナート並びにこれらの混合物(化管法第1種)・・・2.0%		
性状	淡褐色粒状、水溶性パック入り 1パック45g	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	—

\*普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2021年3月1日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の 使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ ウリカワ オモダカ ヒルムシロ セリ シズイ エゾノサヤヌカグサ アオミドロ・藻類に よる表層はく離	移植後1日～ビエ2.5葉期 ただし、移植後30日まで	小包装(パック)10個 (450g)/10a	1回	水田に小包装(パック) のまま投げ入れる。
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ	稲1葉期～ビエ2.5葉期 ただし、収穫90日前まで			

シクロピリモレートを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	フェントラザミドを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	1回

## 使用上の注意事項

- (1) 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使いきること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ヘラオモダカ(移植水稻)、ミズガヤツリ(移植水稻)は3葉期まで、ホタルイ、ヘラオモダカ(直播水稻)、ミズガヤツリ(直播水稻)、ウリカワ(移植水稻)、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、ウリカワ(直播水稻)は発生始期まで、オモダカは発生前～発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前～再生始期まで、シズイは草丈3cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが本剤の散布適期である。
- (3) オモダカ、シズイは、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。
- (4) 処理に当たっては、水の出入りを止めて水深5～6cmの湛水状態にし、散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (5) 移植または播種前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (6) 本剤は小包装(バック)のまま10アール当たり10個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- (7) 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (8) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- (9) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (10) 藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、部分的な薬害や効果不足を生じる可能性があるので使用をさけること。
- (11) バックに使用しているフィルムは水溶性なので、ぬれた手で作業したり、降雨で破袋することのないように注意すること。
- (12) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田(減水深2cm/日以上)
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (13) 処理後著しい高温が続く場合には、稲にクロロシスを生じる場合があるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (14) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (15) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (16) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正におこなうこと。
- (17) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は水溶性フィルムで小包装化されているため、通常的使用方法ではその該当がない。ただし、濡れた手で触らないこと。
- (2) 水溶性フィルム包装が破袋した場合は以下の点に注意すること。
  - 1) 眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
  - 2) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 水産動植物(藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----  
通常の使用方法ではその該当がない。

**貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。  
水溶性フィルムは吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を固く閉じて保管すること。また、強く加圧されると水溶性フィルムが劣化するおそれがあるので下積みにならないようにすること。

# ジェイソウル®フロアブル

●新規有効成分サイラ®配合、移植時から使用できる水稲用一発除草剤です。  
 ●ノビエに対して長期残効を示します。  
 ●ALS 阻害剤抵抗性雑草（オモダカ、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を発揮します。  
 ●畦畔から侵入するイボクサ等にも優れた効果を示します。

サイラ、ジェイソウルは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分・	サイラ（シクロピリモレート）・・・5.5% ピラゾレート（化管法第1種）・・・11.0% フェントラザミド（化管法第1種）・・・4.5%	包装	500ml×20 2L×8
性状	類白色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	—

\*普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用雑草の範囲及び使用方法】

2019年1月9日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ	移植時	500ml/10a	1回	田植同時散布機で施用
	ミズガヤツリ ウリカワ オモダカ ヒルムシロ セリ シズイ エゾノサヤヌカグサ アオミドロ・藻類 による表層はく離	移植直後～ルビエ2.5葉期 ただし、移植後30日まで	500ml/10a	1回	原液湛水散布、水口施用 又は無人航空機による滴下
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ	稲1葉期～ルビエ2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	500ml/10a	1回	原液湛水散布又は無人航空機 による滴下

シクロピリモレートを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	フェントラザミドを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	1回

## 使用上の注意事項

- (1) 使用前に容器をよく振ること。
- (2) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (3) 所定の使用量を厳守すること。
- (4) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ（移植水稻）、ミズガヤツリ（移植水稻）、ウリカワ（移植水稻）は3葉期まで、ホタルイ（直播水稻）、ミズガヤツリ（直播水稻）、ヘラオモダカ、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、ウリカワ（直播水稻）は発生始期まで、オモダカは発生前～発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前～再生始期まで、シズイは草丈3cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが本剤の散布適期である。
- (5) オモダカ、シズイは、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。
- (6) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を水田全面にゆきわたるように散布すること。
- (7) 本剤処理後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意すること。また散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (8) 水口施用の場合は入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させること。処理後田面水が通常の湛水状態（湛水深3～5cm）に達した時に必ず水を止め、田面水があふれ出ないように注意すること。
- (9) 本剤を無人航空機による滴下に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 滴下は使用機種の使用基準に従って実施すること。
  - 2) 滴下に当たっては散布装置のノズルを使用しないこと。
  - 3) 作業中、薬液が漏れないように機体の配管その他装置の十分な点検を行なうこと。
  - 4) 薬液の飛散によって適用作物以外の作物に影響を及ぼすおそれがあるので、周辺作物に薬液がかかからないように風の影響等を十分考慮して滴下すること。
  - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
  - 6) 本剤の滴下に使用した無人航空機の散布装置は、水稻以外の作物への薬剤散布には使用しないこと。
- (10) 移植または播種前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (11) 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (12) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- (13) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (14) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (15) 処理後著しい高温が続く場合には、稲にクロロシスを生じる場合があるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (16) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (17) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかかからないようにすること。
- (18) 空容器等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。
- (19) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (20) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正におこなうこと。
- (21) 散布器、ホース、ノズル、タンク等の器具は、使用后速やかに十分に水洗し、洗浄液は水田内で処理すること。また、使用した機器等は水稻用薬剤以外に使用しないこと。
- (22) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。

- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨**-----

- (1) 水産動植物(藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 無人航空機による滴下で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨**-----

通常の使用方法ではその該当がない。

**貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 24177 号

## ジカマック®500 グラム粒剤

- 特長：
- 播種同時散布ができる湛水直播水稻専用の初期除草剤です。
  - 体系処理でご使用ください。
  - ALS 阻害剤抵抗性雑草（アゼナ、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を発揮します。
  - 処理量が10 アールあたり 500g なので、作業性に優れます。

ジカマックは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ピラゾレート（化管法第1種）・・・10.0% ベンゾピシクロン（化管法第1種）・・・2.0% メタゾスルフロン・・・0.60%	包装	3kg×8 1kg×12
性状	類白色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2020年5月13日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
直播水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ	は種時	500g/10a	1回	は種同時散布機で施用
		は種直後～ ノビエ1.5葉期 ただし、 収穫90日前まで			湛水散布又は 無人航空機による散布

ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	ベンゾピシクロンを含む 農薬の総使用回数	メタゾスルフロンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	3回以内	2回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から発生初期に有効なので、ノビエの1.5葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイは1葉期まで、ミズガヤツリ、ウリカワ、ヒルムシロ、セリは発生始期までが本剤の散布適期である。
- (3) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布すること。は種時に通常の湛水状態より水を落とすとして散布する場合は、散布後速やかに入水し通常の湛水状態（水深3cm程度）にすること。少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3cm程度）を保ち、田面を露出させないよう注意すること。散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (4) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 散布は使用機種の使用基準に従って実施すること。
  - 2) 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 3) 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整すること。
  - 4) 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m離れた位置から圃場内に散布すること。

- 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
- (5) 後処理剤との体系で使用し、雑草の発生状況をよく確認し、時期を失しないように散布すること。
- (6) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）では、薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
- (7) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (8) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (9) 空袋等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。
- (10) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (11) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (12) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。また、吸湿しやすいので開封後は堅く口を閉じ、長期間の保存はさけること。



# ジャスタ® 1キログラム剤

●新規有効成分サイラ®配合、移植時から使用できる水稲用一発除草剤です。  
 ●ノビエに対して長期残効を示し、多年生雑草（クログワイ、シズイ等）にも効果を示します。  
 特長： ●ALS 阻害剤抵抗性雑草（オモダカ、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を発揮します。  
 ●畦畔から侵入するキシウスズメノヒエ、イボクサ等にも優れた効果を示します。  
 ●直播水稲での播種同時処理も可能です。

サイラ、ジャスタは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	サイラ（シクロピリモレート）・・・3.0% ピラゾレート（化管法第1種）・・・6.0% トリアファモン・・・0.50%	包装	1kg×12 10 kg×1
性状	類白色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	—

\*普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用雑草の範囲及び使用方法】

2020年11月11日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生及び多年生雑草 アオミドロ・藻類 による表層はく離	移植時	1kg/10a	1回	田植同時散布機で施用
		移植直後～ルビエ3.5葉期 ただし、移植後30日まで	1kg/10a	1回	湛水散布又は無人航空機 による散布
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ	は種時	1kg/10a	1回	は種同時散布機で施用
		は種直後～ルビエ3.5葉期 ただし、収穫90日前まで	1kg/10a	1回	湛水散布又は無人航空機 による散布

シクロピリモレートを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	トリアファモンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3.5葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ウリカワ（直播水稲）は3葉期まで、ヘラオモダカ（移植水稲）は6葉期まで、ヘラオモダカ（直播水稲）は発生前まで、ミズガヤツリは草丈10cmまで、ウリカワ（移植水稲）は4葉期まで、クログワイは発生前～発生始期まで、オモダカは矢じり葉1葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前～再生始期まで、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、キシウスズメノヒエは再生茎2葉期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが本剤の散布適期である。
- (3) クログワイ、オモダカ、コウキヤガラ、シズイは、必要に応じて有効な前処理剤または後処理剤と組み合わせて使

用すること。

- (4) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、田面を露出させないように注意すること。散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (5) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 散布は使用機種の使用基準に従って実施すること。
  - 2) 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 3) 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整すること。
  - 4) 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう注意すること。
  - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
- (6) 移植または播種前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (7) 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (8) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- (9) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (10) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (11) 本剤使用前に、活着遅延を生じるような異常低温が予測されるときは、初期生育の抑制などが生じるおそれがあるので、このような条件下での使用に際しては、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (12) 処理後著しい高温や低温が続く場合には、稲にクロロシスや黄化を生じ初期生育が抑制される場合があるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (13) 薬害を生じるおそれがあるので、後作物としてなす、たまねぎ及びさやえんどうを栽培しないこと。
- (14) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (15) 空袋等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。
- (16) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (17) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正におこなうこと。
- (18) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤食などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (5) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (6) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

---

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。  
また、吸湿しやすいので開封後は口を固く閉じ、長期間の保存はさけること。

登録番号 第 24741 号

## ジャスタ®400FG

- 新規有効成分サイラ配合、移植後1日から使用できる水稲用一発除草剤です。  
 ●ノビエに対して長期残効を示し、多年生雑草（クログワイ、シズイ等）にも効果を示します。  
**特長：** ●ALS阻害剤抵抗性雑草（オモダカ、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を発揮します。  
 ●畦畔から侵入するキシウスズメノヒエ、イボクサ等にも優れた効果を示します。  
 ●ドローン等での散布に適した省力型除草剤です。

サイラ、ジャスタは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	サイラ(シクロピリモレート)…7.5% ピラゾレート(化管法第1種)…15.0% トリアファモン…1.2%	包装	1.2kg×8
性状	淡褐色細粒	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2023年2月8日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生及び多年生雑草	移植後1日～ <sup>ノビエ</sup> 3葉期 ただし、移植後30日まで	400g/10a	1回	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ	稲1葉期～ <sup>ノビエ</sup> 3.5葉期 ただし、収穫90日前まで	400g/10a	1回	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布

シクロピリモレートを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	トリアファモンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

### 農薬の使用上の注意事項

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3葉期（直播水稲はノビエの3.5葉期）までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワは3葉期まで、ミズガヤツリは草丈10cmまで、クログワイは発生前～発生始期まで、オモダカは矢じり葉1葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前～再生始期まで、コウキヤガラは草丈5cmまで、シズイは草丈3cmまで、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、キシウスズメノヒエは再生茎3葉期までが本剤の散布適期である。
- クログワイ、オモダカ、コウキヤガラ、シズイは、必要に応じて有効な前処理剤または後処理剤と組み合わせて使用すること。

- (4) 散布に当たっては、水の出入りを止めて水深5～6cmの湛水状態にする。湛水散布の場合は田面に散布し、また、湛水周縁散布の場合は水田周縁部に沿って帯状に散布し、少なくとも散布後3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、田面を露出させないように注意すること。散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (5) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 散布は使用機種の使用基準に従って実施すること。
  - 2) 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 3) 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整すること。
  - 4) 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう注意すること。
  - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
- (6) 移植またはは種前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (7) 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (8) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植付作業はていねいに行うこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (9) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (10) 藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、部分的な薬害や効果不足を生じる可能性があるため、湛水周縁散布をさけ、本田内で水田全面に散布すること。
- (11) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (12) 本剤使用前に、活着遅延を生じるような異常低温が予測されるときは、初期生育の抑制などが生じるおそれがあるので、このような条件下での使用に際しては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (13) 処理後著しい高温や低温が続く場合には、稲にクロロシスや黄化を生じ初期生育が抑制される場合があるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (14) 薬害を生じるおそれがあるので、後作物としてなす、たまねぎ及びさやえんどうを栽培しないこと。
- (15) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (16) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (17) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (18) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨、使用に際して講ずべき被害防止方法及び解毒方法-----

- (1) 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法
  - ア 農薬使用者に係る注意事項
    - 1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
    - 2) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
    - 3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
    - 4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
    - 5) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- (2) 使用に際して講ずべき被害防止方法  
該当なし

#### 生活環境動植物に有毒な農薬については、その旨-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

農薬の貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。また、吸湿しやすいので開封後は固く口を閉じ、長期間の保存はさけること。

# ジャスタ®ジャンボ

- 新規有効成分サイラ®配合、移植後1日から使用できる水稲用一発除草剤です。  
 ●ノビエに対して長期残効を示し、多年生雑草（クログワイ、シズイ等）にも効果を示します。  
 特長： ●ALS阻害剤抵抗性雑草（オモダカ、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を発揮します。  
 ●畦畔から侵入するキシウスズメノヒエ、イボクサ等にも優れた効果を示します。  
 ●畦畔から投げ込むだけの省力型除草剤です。

サイラ、ジャスタは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	サイラ（シクロピリモレート）・・・7.5% ピラズレート（化管法第1種）・・・15.0% トリアファモン・・・1.2%	包装	(40g×10)×12
その他化管法 該当成分	ナトリウム=アルケンスルホナート及びナトリウム=ヒドロキシアルカ ンスルホナート並びにこれらの混合物(化管法第1種)・・・2.0%		
性状	淡褐色細粒、水溶性パック入り 1パック40g	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	—

\*普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2020年6月10日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の 使用回数	使用方法
移植水稲	一年生及び多年 生雑草	移植後1日～ルベ3葉期 ただし、移植後30日まで	小包装(パック)10 個(400g)/10a	1回	水田に小包装(パック) のまま投げ入れる。
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ	稲1葉期～ルベ3.5葉期 ただし、収穫90日前まで	小包装(パック)10 個(400g)/10a	1回	水田に小包装(パック) のまま投げ入れる。

シクロピリモレートを含む 農薬の総使用回数	ピラズレートを含む 農薬の総使用回数	トリアファモンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

## 使用上の注意事項

- 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使いきる。
- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3葉期（直播水稲はノビエの3.5葉期）までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワは3葉期まで、ミズガヤツリは草丈10cmまで、クログワイは発生前～発生始期まで、オモダカは矢じり葉1葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前～再生始期まで、コウキヤガラは草丈5cmまで、シズイは草丈3cmまで、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、キシウスズメノヒエは再生茎3葉期までが本剤の散布適期である。

- (3) クログワイ、オモダカ、コウキヤガラ、シズイは、必要に応じて有効な前処理剤または後処理剤と組み合わせて使用すること。
- (4) 処理に当たっては、水の出入りを止めて水深5～6cmの湛水状態にし、散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (5) 移植または播種前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (6) 本剤は小包装（パック）のまま10アール当たり10個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- (7) 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (8) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- (9) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (10) 藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、部分的な薬害や効果不足を生じる可能性があるので使用をさけること。
- (11) パックに使用しているフィルムは水溶性なので、ぬれた手で作業したり、降雨で破袋することのないように注意すること。
- (12) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (13) 本剤使用前に、活着遅延を生じるような異常低温が予測されるときは、初期生育の抑制などが生じるおそれがあるので、このような条件下での使用に際しては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (14) 処理後著しい高温や低温が続く場合には、稲にクロロシスや黄化を生じ初期生育が抑制される場合があるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (15) 薬害を生じるおそれがあるので、後作物としてなす、たまねぎ及びさやえんどうを栽培しないこと。
- (16) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (17) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (18) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正におこなうこと。
- (19) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は水溶性フィルムで小包装化されているため、通常的使用方法ではその該当がない。ただし、濡れた手で触らないこと。
- (2) 水溶性フィルム包装が破袋した場合は以下の点に注意すること。
  - 1) 眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗い、眼科医の手当を受けること。
  - 2) 皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
  - 3) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動物に有毒な農薬については、その旨-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常的使用方法ではその該当がない。



**貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。  
水溶性フィルムは吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を固く閉じて保管すること。また、強く加圧されると水溶性フィルムが劣化するおそれがあるので下積みにならないようにすること。

# ジャスタ®フロアブル

- 特長：
- 新規有効成分サイラ®配合、移植時から使用できる水稲用一発除草剤です。
  - ノビエに対して長期残効を示し、多年生雑草（クログワイ、シズイ等）にも効果を示します。
  - ALS 阻害剤抵抗性雑草（オモダカ、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を発揮します。
  - 畦畔から侵入するキシウスズメノヒエ、イボクサ等にも優れた効果を示します。

サイラ、ジャスタは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	サイラ（シクロピリモレート）・・・5.5% ピラゾレート（化管法第1種）・・・11.0% トリアファモン・・・0.90%	包装	500ml×20 2L×8
性状	類白色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	—

\*普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2020年11月11日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 多年生雑草 アオミドロ・藻類 による表層はく離	移植時	500ml/10a	1回	田植同時散布機で施用
		移植直後～ルビエ3.5葉期 ただし、移植後30日まで			原液湛水散布、水口施用 又は無人航空機による滴下
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ アオミドロ・藻類 による表層はく離	稲1葉期～ルビエ3.5葉期 ただし、収穫90日前まで	500ml/10a	1回	原液湛水散布、水口施用 又は無人航空機による滴下

シクロピリモレートを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	トリアファモンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 使用前に容器をよく振ること。
- (2) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (3) 所定の使用量を厳守すること。
- (4) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3.5葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ウリカワは3葉期まで、ヘラオモダカ（移植水稲）は4葉期まで、ヘラオモダカ（直播水稲）は2葉期まで、ミズガヤツリは草丈10cmまで、クログワイは発生前～発生始期まで、オモダカは矢じり葉1葉期まで、ヒルムシロは

発生期まで、セリは再生前～再生始期まで、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cm まで、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、キシウスズメノヒエは再生茎3葉期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが本剤の散布適期である。

- (5) クログワイ、オモダカ、コウキヤガラ、シズイは、必要に応じて有効な前処理剤または後処理剤と組み合わせて使用すること。
- (6) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を水田全面にゆきわたるように散布すること。
- (7) 本剤処理後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意すること。また散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (8) 水口施用の場合は入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させること。処理後田面水が通常の湛水状態（湛水深3～5cm）に達した時に必ず水を止め、田面水があふれ出ないように注意すること。
- (9) 本剤を無人航空機による滴下に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 滴下は使用機種の使用基準に従って実施すること。
  - 2) 滴下に当たっては散布装置のノズルを使用しないこと。
  - 3) 作業中、薬液が漏れないように機体の配管その他装置の十分な点検を行なうこと。
  - 4) 薬液の飛散によって適用作物以外の作物に影響を及ぼすおそれがあるので、周辺作物に薬液がかからないように風の影響等を十分考慮して滴下すること。
  - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
  - 6) 本剤の滴下に使用した無人航空機の散布装置は、水稻以外の作物への薬剤散布には使用しないこと。
- (10) 移植または播種前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (11) 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (12) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- (13) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (14) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (15) 本剤使用前に、活着遅延を生じるような異常低温が予測される時は、初期生育の抑制などが生じるおそれがあるので、このような条件下での使用に際しては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (16) 処理後著しい高温や低温が続く場合には、稲にクロロシスや黄化を生じ初期生育が抑制される場合があるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (17) 薬害を生じるおそれがあるので、後作物としてなす、たまねぎ及びさやえんどうを栽培しないこと。
- (18) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (19) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (20) 空容器等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。
- (21) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (22) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正におこなうこと。
- (23) 散布器、ホース、ノズル、タンク等の器具は、使用後速やかに十分に水洗し、洗浄液は水田内で処理すること。また、使用した機器等は水稻用薬剤以外に使用しないこと。
- (24) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 23713 号

## シュナイデン®1 キロ粒剤 (JA)

- 特長：
- 移植時から使用できる水稻用一発除草剤です。
  - 有効成分メタゾスルフロン配合で、クログワイ、ホタルイ等の多年生雑草を根から抑えます。
  - ALS 阻害剤抵抗性雑草（アゼナ、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を発揮します。
  - 畦畔から侵入するイボクサ等にも優れた効果を示します。

シュナイデンは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ピラゾレート（化管法第1種）・・・10.0% ベンゾビスクロン（化管法第1種）・・・2.0% メタゾスルフロン・・・0.60%	包装	1kg×12 4kg×4 10kg×1
性状	類白色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2019年11月6日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	一年生雑草 多年生広葉雑草	移植時	1kg/10a	1回	田植同時散布機で施用
		移植直後～ ノビエ2.5葉期 ただし、 移植後30日まで			湛水散布又は無人航空機による散布
直播水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカ ヒルムシロ セリ	稲1葉期～ ノビエ2.5葉期 ただし、 収穫90日前まで	1kg/10a	1回	湛水散布又は無人航空機による散布

ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	ベンゾビスクロンを含む 農薬の総使用回数	メタゾスルフロンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	3回以内	2回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきることを。
- (2) 本剤は雑草の発生前から発生初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレグが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ（直播水稻）、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ（直播水稻）は2葉期まで、ホタルイ（移植水稻）、ミズガヤツリ（移植水稻）、ウリカワ（移植水稻）は3葉期まで、クログワイ、オモダカは発生前～発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前～再生始期まで、ウリカワ（直播水稻）、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまでが本剤の散布適期である。

- (3) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布すること。少なくとも3~4日間は通常の湛水状態（水深3~5cm）を保ち、田面を露出させないように注意すること。散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (4) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 散布は使用機種の使用基準に従って実施すること。
  - 2) 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 3) 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整すること。
  - 4) 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m離れた位置から圃場内に散布すること。
  - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
- (5) 稲の根が露出する条件では葉害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (6) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- (7) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (8) 下記のような条件では葉害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (9) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (10) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (11) 空袋等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。
- (12) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (13) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (14) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。また、吸湿しやすいので開封後は堅く口を閉じ、長期間の保存はさけること。

登録番号 第 23715 号

## シュナイデン®ジャンボ (JA)

- 移植後3日から使用できる水稲用一発除草剤です。
  - 有効成分メタゾスルフロン配合で、クログワイ、ホタルイ等の多年生雑草を根から抑えます。
- 特長：
- ALS阻害剤抵抗性雑草（アゼナ、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を発揮します。
  - 畦畔から侵入するイボクサ等にも優れた効果を示します。
  - 畦畔から投げ込むだけの省力型除草剤です。

シュナイデンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ピラゾレート（化管法第1種）・・・25.0% ベンゾピシクロン（化管法第1種）・・・5.0% メタゾスルフロン（化管法第1種）・・・1.5%	包装	(40g×10) ×12
その他化管法 該当成分	ナトリウム=アルケンスルホナート及びナトリウム=ヒドロキシアルカン スルホナート並びにこれらの混合物(化管法第1種)・・・2.0%		
性状	淡褐色粒状 水溶性パック入り 1パック40g	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2019年11月6日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 多年生広葉雑草	移植後3日～ルビエ2.5葉期 ただし、移植後30日まで	小包装(パック) 10個(400g)/10a	1回	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ	稲1葉期～ルビエ2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	小包装(パック) 10個(400g)/10a	1回	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。

ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	ベンゾピシクロンを含む 農薬の総使用回数	メタゾスルフロンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	3回以内	2回以内

### 使用上の注意事項

- (1) 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使いきる。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ（移植水稲）、ミズガヤツリ、ウリカワ（移植水稲）は3葉期まで、ホタルイ（直播水稲）、ウリカワ（直播水稲）、ヘラオモダカは2葉期まで、クログワイ、オモダカは発生前～発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前～再生始期まで、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまでが本剤の散布適期である。

- (3) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- (4) 処理に当たっては、水の出入りを止めて水深5～6cmの湛水状態にし、散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (5) 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (6) 稲の根が露出する条件では葉害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (7) 本剤は小包装（パック）のまま10アール当り10個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- (8) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (9) 藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、部分的な葉害や効果不足を生じる可能性があるため使用をさけること。
- (10) パックに使用しているフィルムは水溶性なので、ぬれた手で作業したり、降雨で破袋することのないように注意すること。
- (11) 下記のような条件では葉害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (12) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (13) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (14) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (15) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は水溶性フィルムで小包装化されているため、通常の使用法ではその該当がない。ただし、濡れた手で触らないこと。
- (2) 水溶性フィルム包装が破袋した場合は以下の点に注意すること。
  - 1) 眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
  - 2) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。水溶性フィルムは吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を強く閉じて保管すること。また、強く加圧されると水溶性フィルムが劣化するおそれがあるので下積みにならないようにすること。



登録番号 第 23717 号

## シュナイデン®フロアブル (JA)

- 特長：
- 移植後3日から使用できる水稲用一発除草剤です。
  - 有効成分メタゾスルフロン配合で、クログワイ、ホタルイ等の多年生雑草を根から抑えます。
  - ALS阻害剤抵抗性雑草（アゼナ、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を発揮します。
  - 畦畔から侵入するイボクサ等にも優れた効果を示します。

シュナイデンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ピラゾレート（化管法第1種）・・・18.2% ベンゾピシクロン（化管法第1種）・・・3.6% メタゾスルフロン（化管法第1種）・・・1.1%	包装	500ml×20 2L×8
性状	類白色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2019年11月6日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 多年生広葉雑草	移植後3日～ビエ2.5葉期 ただし、移植後30日まで	500mL/10a	1回	原液湛水散布、水口施用又は 無人航空機による滴下
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ	稲1葉期～ビエ2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	500mL/10a	1回	原液湛水散布、水口施用又は 無人航空機による滴下

ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	ベンゾピシクロンを含む 農薬の総使用回数	メタゾスルフロンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	3回以内	2回以内

### 使用上の注意事項

- (1) 使用前に容器をよく振ること。
- (2) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (3) 所定の使用量を厳守すること。
- (4) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ミズガヤツリ（移植水稲）、ウリカワ（移植水稲）は3葉期まで、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ（直播水稲）は2葉期まで、クログワイ、オモダカは発生前～発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前～再生始期まで、ウリカワ（直播水稲）、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまでが本剤の散布適期である。
- (5) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいにおこなうこと。

- (6) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を水田全面にゆきわたるように散布すること。
- (7) 本剤処理後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意すること。また散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (8) 水口施用の場合は入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させること。処理後田面水が通常の湛水状態（湛水深3～5cm）に達した時に必ず水を止め、田面水があふれ出ないように注意すること。
- (9) 本剤を無人航空機による滴下に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 滴下は使用機種の使用基準に従って実施すること。
  - 2) 滴下に当たっては散布装置のノズルを使用しないこと。
  - 3) 作業中、薬液が漏れないように機体の配管その他装置の十分な点検を行なうこと。
  - 4) 隣接する圃場に水稻以外の作物が栽培されている場合は、無人航空機による本剤の滴下は行なわないこと。
  - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
  - 6) 薬剤滴下に使用した装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
  - 7) 本剤の滴下に使用した無人航空機の散布装置は、水稻以外の作物への薬剤散布には使用しないこと。
- (10) 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (11) 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (12) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (13) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (14) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (15) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかかからないようにすること。
- (16) 空容器等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。また、処理薬剤は残さずに使い切ることに。
- (17) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (18) 散布器、ホース、ノズル、タンク等の器具は、使用后速やかに十分に水洗し、洗浄液は水田内で処理すること。また、使用した機器等は水稻用薬剤以外に使用しないこと。
- (19) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (20) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (2) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (3) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では問題がない。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 22408 号

# MIC シロノック<sup>®</sup>L ジャンボ

- 移植後3日から使用できる水稲用一発除草剤です。
  - ノビエに対して長期残効を示します。
- 特長：
- ALS阻害剤抵抗性雑草（アゼナ、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を発揮します。
  - 畦畔から侵入するイボクサ等にも優れた効果を示します。
  - 畦畔から投げ込むだけの省力型除草剤です。

シロノックは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	カフェンストロール（化管法第1種）・・・7.1% ダイムロン・・・14.3% ベンスルフロンメチル（化管法第1種）・・・1.5% ベンゾピシクロン（化管法第1種）・・・5.7%	包装	(35g×10) ×12
その他化管法 該当成分	ナトリウム=アルケンスルホナート及びナトリウム=ヒドロキシアルカン スルホナート並びにこれらの混合物(化管法第1種)・・・2.0%		
性状	淡褐色粒状、水溶性パック入り 1パック 35g	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用雑草の範囲及び使用方法】

2019年11月6日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	ダイムロンを含む 農薬の総使用回数
移植水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカ ヒルムシロ クダマ トゲカ セリ アオトビ・藻類によ る表層はく離	移植後3日～ ビエ2.5葉期 ただし、 移植後30日ま で	小包装(パック) 10個 (350g)/10a	1回	水田に小包装 (パック)のまま投 げ入れる。	3回以内 (育苗箱散布は 1回以内、 本田では2回以内)
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカ	稲1葉期～ ビエ2.5葉期 ただし、 収穫90日前ま で	小包装(パック) 10個 (350g)/10a	1回	水田に小包装 (パック)のまま投 げ入れる。	2回以内

カフェンストロールを含む 農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む 農薬の総使用回数	ベンゾピシクロンを含む 農薬の総使用回数
1回	2回以内	3回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使いきる。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワは2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、クログワイ、オモダカは発生始期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層は発生前までが本剤の散布適期である。
- (3) オモダカ、クログワイは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないので、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。また、オモダカ、クログワイに有効な後処理剤と組み合わせて連年施用することにより、さらに効果が向上する。
- (4) 苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (5) 処理に当たっては、水の出入りを止めて水深5～6cmの湛水状態にし、散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (6) 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (7) 直播水稲栽培では、稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので、注意すること。
- (8) 本剤は小包装（パック）のまま10アール当り10個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- (9) 処理後に多量の雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
- (10) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (11) 藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、効果の劣る可能性があるため使用をさけること。
- (12) パックに使用しているフィルムは水溶性なので、ぬれた手で作業したり、降雨で破袋することのないように注意すること。
- (13) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
  - 4) 稲の根が露出している水田
- (14) 処理後数日間著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (15) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (16) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (17) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (18) 本剤は、移植前に生育したミズガヤツリには効果が劣るので、物理的防除方法などを用いて移植前に防除してから使用すること。
- (19) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は水溶性フィルムで小包装化されているため、通常の使用方法ではその該当がない。ただし、濡れた手で触らないこと。
- (2) 水溶性フィルム包装が破袋した場合は以下の点に注意すること。
  - 1) 眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
  - 2) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 散布後は水管理に十分注意すること。

(4) 空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。水溶性フィルムは吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を堅く閉じて保管すること。また、強く加圧されると水溶性フィルムが劣化するおそれがあるので下積みにならないようにすること。

登録番号 第 18541 号

## シング®乳剤

- 移植前または移植直後から使用できる初期除草剤です。  
 特長： ●残効性があるのでゆとりのある雑草防除が出来ます。  
 ●移植後処理では少量散布（300ml/10a）が可能です。

シングは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ピリブチカルブ（化管法第1種）・・・12.0% プレチラクロール（化管法第1種）・・・8.0%	包装	500ml×20
その他化管法該当成分	ポリ（オキシエチレン）=アルキルフェニルエーテル（化管法第1種）・・・12% トリメチルベンゼン（化管法第1種）・・・36%		
性状	黄色澄明可乳化油状液体	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	2石-III （指定数量1000L（非水溶性液体））

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2015年10月28日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ハラモダカ	植代後～移植7日前まで	500mL/10a	1回	原液湛水散布
		植代時（移植7日前まで）			植代時に原液のまま散布し混和する
	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ	植代後～移植7日前まで	300mL/10a （少量散布）		原液湛水散布
		移植直後～ルビエ1葉期 ただし、移植後30日まで			

ピリブチカルブを含む農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む農薬の総使用回数
2回以内	2回以内

### 使用上の注意事項

- 使用量に合わせ秤量し、使いきることを。
- 本剤は雑草の発生前から発生始期に有効なので、ノビエの1葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、ホタルイ、ミズガヤツリに対しては発生始期までに使用すること。
- 散布に当たっては、水の出入りを止めて、湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保つこと。また、散布後7日間は落水しないこと。
- 必要に応じて後処理剤との体系で使用し、雑草の発生状況をよく確認し、時期を失ないように散布すること。低温で長期にわたり雑草が発生する場合、代かきから移植までの期間が長い場合は特に注意すること。
- 本剤を移植後に散布する場合は、水稻になるべくかからないようにすること。

- (6) 代かきをていねいに行い、移植後しばらくは苗が水没しないように管理すること。
- (7) 徒長軟弱苗の場合や、極端な漏水田（減水深2cm/日以上）及び著しいガス発生田では使用をさけること。
- (8) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (9) 本剤は自動車の塗装面等に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないように注意すること。また、トラクターの塗装面にかかるると変色するおそれがあるので、機械散布（乳剤専用散布機）には使用しないこと。
- (10) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (11) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 散布の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするともに衣服を交換すること。
- (5) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (6) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 散布後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

危険物第四類第二石油類に属するので火気には十分注意すること。

#### 貯蔵上の注意事項

火気をさけ、直射日光の当たらない低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 22459 号

## MIC スラッシャ®1 キロ粒剤

- 特長：
- 移植時から使用できる水稲用一発除草剤です。
  - ALS 阻害剤抵抗性雑草（アゼナ類、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を示します。
  - 藻類及び表層はく離に対しても有効です。
  - 低コスト稲作に貢献する経済的な4成分剤です。

スラッシャは住友化学(株)の登録商標です。

有効成分	ジメタメトリン・・・0.60% ピラゾレート（化管法第1種）・・・12.0% プレチラクロール（化管法第1種）・・・4.5% ブロモブチド・・・6.0%	包装	1kg×12 4kg×4
その他化管法該当成分	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩（アルキル基C=10～14及びその混合物）（化管法第1種）・・・1.2%		
性状	類白色細粒	有効年限	4年
毒性	普通物※	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2016年12月14日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミズガヤツリ ハラモトガカ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植時	1kg/10a	1回	田植同時散布機で施用
		移植直後～ ルビエ2葉期 ただし、 移植後30日まで			湛水散布
直播水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミズガヤツリ ヒルムシロ	稲1.5葉期～ ルビエ2葉期 ただし、 収穫90日前まで	1kg/10a	1回	湛水散布

ジメタメトリンを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数	ブロモブチドを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内	2回以内



## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使い切ること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から発生始期に有効なので、ノビエの2葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、雑草、特に多年生雑草は生育段階によって効果のふれが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリは2葉期まで、ヘラオモダカは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期であるが、できるだけ早く散布することが望ましい。
- (3) 苗の植え付けが均一となるように、代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は特に代かきをていねいに行うこと。
- (4) 直播水稲栽培では、前処理剤との組み合わせで使用すること。
- (5) 散布に当たっては、水の出入りをとめて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3~4日間は通常の湛水状態（水深3~5cm程度）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (6) 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (7) 下記のような条件では初期生育の抑制やクロロシスが生じるおそれがあるので使用をさけること。特にこれらの条件と梅雨明けなどによる散布時又は散布後数日間の異常高温が重なると、初期生育の抑制が顕著になるので、そのような条件下では使用しないように注意すること。
  - 1) 砂質土壌の水田、漏水の大きな水田（1日の減水深が2cm/日以上）、極端な深水になった水田
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田
- (8) 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (9) 梅雨期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
- (10) 活着遅延を生じるような異常低温が予測されるときは、初期生育の抑制などが生じるおそれがあるので、このような条件下での使用に際しては、県の防除指針に基づき、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (11) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤食などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、医師の手当を受けること。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (5) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

## 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。また、吸湿しやすいので開封後は堅く口を閉じ、長期間の保存はさけること。

登録番号 第 22421 号

## MIC スラッシャ®粒剤

- 移植時から使用できる水稲用一発除草剤です。
  - ALS 阻害剤抵抗性雑草（アゼナ類、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を示します。
- 特長：
- 藻類及び表層はく離に対しても有効です。
  - 低コスト稲作に貢献する経済的な4成分剤です。
  - 3キロ剤です。

スラッシャは住友化学(株)の登録商標です。

有効成分	ジメタメトリン・・・0.20% ピラゾレート（化管法第1種）・・・4.0% プレチラクロール（化管法第1種）・・・1.5% プロモプチド・・・2.0%	包装	3kg×8
その他化管法該当成分	－		
性状	類白色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物 <sup>※</sup>	危険物	－

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2021年6月9日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時	3kg/10a	1回	田植同時 散布機で施用
		移植直後～ノビエ2.5葉期 ただし、移植後30日まで			湛水散布

ジメタメトリンを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数	プロモプチドを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内	2回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から発生始期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布すること。なお雑草、特に多年生雑草は生育段階によって効果のふれが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカは2葉期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生始期まで、ヒルムシロは発生期までが本剤の散布適期であるが、できるだけ早く散布することが望ましい。
- (3) 苗の植え付けが均一となるように、代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は特に代かきをていねいに行うこと。

- (4) 散布に当たっては、水の出入りをとめて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm程度)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (5) 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (6) 下記のような条件では初期生育の抑制やクロロシスが生じるおそれがあるので使用をさけること。特に、これらの条件と梅雨明けなどによる散布時又は散布後数日間の異常高温が重なると、初期生育の抑制が顕著になるので、そのような条件下では使用しないように注意すること。
  - 1) 砂質土壌の水田、漏水の大きな水田(1日の減水深が2cm/日以上)、極端な深水になった水田。
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田
- (7) 活着遅延を生じるような異常低温が予測されるときは、初期生育の抑制などが生じるおそれがあるので、このような条件下での使用に際しては、県の防除指針に基づき、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (8) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 水産動植物(藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。また、吸湿しやすいので開封後は堅く口を閉じ、長期間の保存はさけること。

登録番号 第 23867 号

## セカンドショット®S ジャンボMX (JA)

- 特長：
- 移植後 14 日から使用できる水稲用中期除草剤です。
  - 初期または一発除草剤との組み合わせで使用します。
  - 新技術「ソニックスプレッド®テクノロジー\*」により、投げ込むだけの省力中期除草を実現します。
  - ノビエからクログワイ等の多年生難防除雑草まで幅広く効果を発揮します。
  - 畦畔侵入するキシウスズメノヒエ、イボクサ等にも優れた効果を示します。
- \*拡散性能を飛躍的に向上させた三井化学クロップ&ライフソリューションの独自技術です。

セカンドショット、ソニックスプレッドは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	アジムスルフロン・・・0.36% ペノキスラム・・・0.36% メソトリオン・・・2.0%	包装	(25g×20) ×10 (25g×60) ×4
性状	淡褐色細粒 水溶性パック入り 1パック 25g	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2020年5月13日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ハラオタガカ ミズガヤツリ ウリカ クログワイ オタガカ ヒルムシロ セリ コウキカハラ キシウスズメノヒエ	移植後 14 日～ヒエ 3.5 葉期 ただし、収穫 45 日前まで	小包装(パック) 20 個(500g)/10a	1 回	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカ ヒルムシロ セリ	稲 4 葉期～ヒエ 4 葉期 ただし、収穫 45 日前まで	小包装(パック) 20 個(500g)/10a	1 回	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。

アジムスルフロンを含む 農薬の総使用回数	ペノキスラムを含む 農薬の総使用回数	メソトリオンを含む 農薬の総使用回数
1 回	2 回以内	2 回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使いきる。
- (2) 多年生雑草は生育段階によって効果にフレがあるので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ(移植水稻)は草丈10cmまで、ホタルイ(直播水稻)、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ(直播水稻)、ウリカワ(直播水稻)は3葉期まで、ウリカワ(移植水稻)は4葉期まで、ミズガヤツリ(移植水稻)は草丈15cmまで、クログワイは草丈20cmまで、オモダカは矢じり葉3葉期まで、ヒルムシロ(移植水稻)は発生盛期まで、ヒルムシロ(直播水稻)は発生期まで、セリは再生期まで、コウキヤガラは草丈20cmまで、キシユウスズメノヒエは再生茎4葉期までが本剤の散布適期である。
- (3) クログワイ、オモダカは必要に応じて有効な前処理剤と組み合わせて使用すること。また、クログワイ、オモダカに有効な前処理剤と組み合わせて連年施用することにより、さらに効果が向上する。
- (4) 苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (5) 処理に当たっては、水の出入りを止めて水深5~6cmの湛水状態にし、散布後少なくとも3~4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (6) 前処理剤との体系で使用し、雑草の発生状況をよく確認し、時期を失しないように散布すること。
- (7) 本剤は小包装(パック)のまま10アール当たり20個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- (8) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (9) 藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、部分的な薬害や効果不足を生じる可能性があるため使用をさけること。
- (10) パックに使用しているフィルムは水溶性なので、ぬれた手で作業したり、降雨で破袋することのないように注意すること。
- (11) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田(減水深2cm/日以上)
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
  - 4) 稲の根が露出している水田
  - 5) 処理後著しい高温が続く場合
- (12) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (13) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (14) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (15) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は水溶性フィルムで小包装化されているため、通常の使用法ではその該当がない。ただし、濡れた手で触らないこと。
- (2) 水溶性フィルム包装が破袋した場合は以下の点に注意すること。
  - 1) 眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
  - 2) 皮膚に対して弱い刺激性があるので、皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。水溶性フィルムは吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を堅く閉じて保管すること。また、強く加圧されると水溶性フィルムが劣化するおそれがあるので下積みにならないようにすること。

登録番号 第 24723 号

## ソニックブーム®Sジャンボ

- 特長：
- 新規有効成分サイラ配合の中・後期除草剤です。
  - 4つの有効成分を効果的に配合することで、幅広い草種に高い効果を示します。
  - ALS 阻害剤抵抗性雑草（オモダカ、コナギ、ホタルイ等）にも優れた効果を示します。
  - 4葉期までのノビエにも有効で、また、クログワイ等の多年生雑草にも高い効果を示します。
  - 拡散性能に優れたソニックスプレッド®テクノロジー\*を採用しています。  
\*拡散性能を飛躍的に向上させた三井化学クロップ&ライフソリューションの独自技術です。

サイラ、ソニックブームは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	サイラ（シクロピリモレート）…3.0% シメトリン(化管法第1種)…3.0% テフリルトリオン(化管法第1種)…4.0% ペノキスラム…1.0%	包装	(25g×20) ×10
性状	淡褐色細粒及び微粒、水溶性パック入り、1パック25g	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2023年1月25日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ ウリカワ クログワイ オモダカ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後14日(稲4葉期以降) ～レビエ4葉期 ただし、収穫60 日前まで	小包装(パッ ク)20個 (500g)/10a	1回	水田に小包装(パ ック)のまま投げ入 れる。

シクロピリモレートを含む 農薬の総使用回数	シメトリンを含む 農薬の総使用回数	テフリルトリオンを含む 農薬の総使用回数	プロピリスルフロンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内	2回以内

## 農薬の使用上の注意事項

- (1) 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使いきる。
- (2) 多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイは草丈15cmまで、ヘラオモダカ、ウリカワは5葉期まで、ミズガヤツリは草丈25cmまで、クログワイは草丈20cmまで、オモダカは矢じり葉4葉期まで、ヒルムシロは発生盛期まで、セリは増殖期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生始期までが本剤の散布適期である。
- (3) クログワイ、オモダカは、必要に応じて有効な前処理剤と組み合わせて使用すること。

- (4) 処理に当たっては、水の出入りを止めて水深5～6cmの湛水状態にし、散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (5) 前処理剤との体系で使用し、雑草の発生状況をよく確認し、時期を失しないように散布すること。
- (6) 本剤は小包装(パック)のまま10アール当たり20個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- (7) 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (8) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植付作業はていねいに行うこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (9) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (10) 藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、部分的な薬害や効果不足を生じる可能性があるため使用をさけること。
- (11) パックに使用しているフィルムは水溶性なので、ぬれた手で作業したり、降雨で破袋することのないように注意すること。
- (12) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田(減水深2cm/日以上)
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (13) 本剤の使用後に低温が続くと予想される場合には、稲に生育抑制などの薬害が発生するおそれがあるので、使用をさけること。
- (14) 処理後著しい高温が続く場合には、稲にクロロシスを生じる場合があるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (15) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (16) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (17) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (18) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨、使用に際して講ずべき被害防止方法及び解毒方法-----

- (1) 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法  
ア農薬使用者に係る注意事項
  - ① 本剤は水溶性フィルムで小包装化されているため、通常の使用方法ではその該当がない。ただし、濡れた手で触らないこと。
  - ② 水溶性フィルム包装が破袋した場合は以下の点に注意すること。
    - 1) 眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
    - 2) 皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
    - 3) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。付着した場合には直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (2) 使用に際して講ずべき被害防止方法  
該当なし

#### 生活環境動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物(藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。



引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----  
通常の使用方法ではその該当がない。

**農薬の貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。  
水溶性フィルムは吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を固く閉じて保管すること。また、強く加圧されると水溶性フィルムが劣化するおそれがあるので下積みにならないようにすること。

登録番号 第 24721 号

# ソニックブーム®Z 1キログラム剤

●新規有効成分サイラ配合の中・後期除草剤です。  
 ●4つの有効成分を効果的に配合することで、幅広い草種に高い効果を示します。  
 特長： ●ALS 阻害剤抵抗性雑草（オモダカ、コナギ、ホタルイ等）にも優れた効果を示します。  
 ●4葉期までのノビエにも有効で、また、クログワイ等の多年生雑草にも高い効果を示します。  
 ●落水せずに湛水状態で散布ができます。

サイラ、ソニックブームは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	サイラ (シクロピリモレート) …1.5% シメトリン(化管法第1種)…1.5% テフリルトリオン(化管法第1種)…3.0% プロピリスルフロン粒剤…0.90%	包装	1kg×12
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

**【適用雑草の範囲及び使用方法】**

2023年1月25日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ ウリカワ クログワイ オモダカ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後 14 日 (稲 4 葉期以降) ~ ノビエ 4 葉期 ただし、収穫 60 日前まで	1kg/10a	1 回	湛水散布又は無人航空機による散布

シクロピリモレートを含む 農薬の総使用回数	シメトリンを含む 農薬の総使用回数	テフリルトリオンを含む 農薬の総使用回数	プロピリスルフロンを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内	2 回以内

**農薬の使用上の注意事項**

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、クログワイは草丈 20cm まで、ヘラオモダカ、ウリカワは 5 葉期まで、ミズガヤツリは草丈 25cm まで、オモダカは矢じり葉 4 葉期まで、ヒルムシロは発生盛期まで、セリは増殖期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生始期までが本剤の散布適期である。
- (3) クログワイ、オモダカは、必要に応じて有効な前処理剤と組み合わせて使用すること。

- (4) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、田面を露出させないように注意すること。散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (5) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 散布は使用機種の使用基準に従って実施すること。
  - 2) 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 3) 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整すること。
  - 4) 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう注意すること。
  - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないよう十分注意すること。
- (6) 前処理剤との体系で使用し、雑草の発生状況をよく確認し、時期を失しないように散布すること。
- (7) 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (8) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植付作業はていねいに行うこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (9) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (10) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田(減水深2cm/日以上)
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (11) 処理後著しい高温が続く場合には、稲にクロロシスを生じる場合があるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (12) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (13) いぐさを栽培予定の水田では使用しないこと。
- (14) 空袋等はほ場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。
- (15) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (16) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (17) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

**人畜に有毒な農薬については、その旨、使用に際して講ずべき被害防止方法及び解毒方法**-----

(1) 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

ア 農薬使用者に係る注意事項

- 1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗い、眼科医の手当を受けること。
- 2) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- 3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- 4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- 5) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

(2) 使用に際して講ずべき被害防止方法

該当なし

**生活環境動植物に有毒な農薬については、その旨**-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨**-----

通常の使用方法ではその該当がない。

**農薬の貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。また、吸湿しやすいので開封後は固く口を閉じ、長期間の保存はさけること。

トドメ MF<sup>®</sup>1 キロ粒剤

- 特長：
- 移植後14日から使用できるノビエ専門の水稲用後期除草剤です。
  - 有効成分メタミホップ配合で、高葉齢のノビエ（5葉期まで・移植水稲）の他、キシウスズメノヒエ、アゼガヤにも効果を示します。
  - ノビエに対して2週間程度の残効性を示します。

トドメ MF は科研製薬(株)の登録商標です。

有効成分	メタミホップ・・・1.35%	包装	1kg×12
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2022年3月17日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	メタミホップを含む農薬の総使用回数
移植水稲	ノビエ キシウスズメノヒエ アゼガヤ	移植後14日～ノビエ5葉期まで 但し、収穫50日前まで	1kg/10a	3回以内	湛水散布又は無人航空機による散布	3回以内
直播水稲	ノビエ	稲3.5葉期～ノビエ4葉期まで 但し、収穫50日前まで	1kg/10a	3回以内	湛水散布又は無人航空機による散布	

## 使用上の注意事項

- 本剤はノビエの5葉期まで（ただし、直播水稲は4葉期まで）有効なので、時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は、生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。キシウスズメノヒエは再生茎5葉期まで、アゼガヤ（一年生雑草）は草丈20cmまでが本剤の散布適期である。
- 広葉雑草には効果がないので、広葉雑草が混在する圃場ではそれらに有効な剤と組み合わせて使用すること。
- キシウスズメノヒエ防除には、展開葉が水面に接する条件で使用すること
- 苗の植え付けが均一になるように、整地、代かきはていねいに行い、ワラくずなどの浮遊物はできるだけ取り除くこと。また、未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を田面に均一に散布し、散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm程度）を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないように注意し、また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。
- 直播水稲に使用する場合は、薬害をさけるため稲の3.5葉期以降に使用すること。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 散布は使用機種の使用基準に従って実施すること。
  - 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整すること。
  - 散布薬剤の飛散によって他の作物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、散布装置のインペラの回転数を調整し、ほ場の端から5m以上離れた位置からほ場内に散布すること。
  - 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。

- (8) 以下の水田では初期生育の抑制を生じるおそれがあるので使用をさけること。
- 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱徒長苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植や深植をした水田
- (9) 強風時の散布はさけること。
- (10) 藻類又は表層はく離の発生しやすい水田では、有効な剤と組み合わせて使用すること。
- (11) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (5) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温な場所に密封して保管すること。

登録番号 第 23959 号

# トドメ MF<sup>®</sup>乳剤

●移植後 14 日から使用できるノビエ専門の水稲用後期除草剤です。  
 ●有効成分メタミホップ配合で、高葉齢のノビエ（7 葉期まで・移植水稲）の他、キシユウスズメノヒエ、アゼガヤにも効果を示します。  
 特長： ●展着剤は不要で、耐雨性にも優れます。  
 ●取りこぼしや後発のノビエを防除する、茎葉処理除草剤です。

トドメ MF は科研製薬(株)の登録商標です。

有効成分	メタミホップ・・・4.9%	包装	200ml×30 1L×10
その他化管法該当成分	ナフタレン(化管法第1種)・・・5.0% メチルナフタレン(化管法第1種)・・・12.5% N-メチル-2-ピロリドン(化管法第1種)・・・10.0%		
性状	淡黄赤色澄明可乳化油状液体	有効年限	4年
毒性	普通物 <sup>*</sup>	危険物	3 石-III (指定数量 4000L (水溶性))

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

**【適用雑草の範囲及び使用方法】**

2023年6月7日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量 (薬量)	使用量 (希釈水量)	本剤の 使用回数	使用方法	メタミホップを含む 農薬の総使用回数
移植水稲	ノビエ キシユウスズメノヒエ アゼガヤ	移植後 14 日～ ノビエ 7 葉期まで 但し、 収穫 50 日前まで	200 mL/10a	25～100 L/10a	2 回以内	湛水散布又は 落水散布	3 回以内
直播水稲	ノビエ オオクサキビ	は種後 10 日～ ノビエ 6 葉期まで 但し、 収穫 50 日前まで	200 mL/10a	25～100 L/10a	2 回以内	雑草茎葉散布 又は全面散布	

**使用上の注意事項**

- (1) 本剤はノビエの 7 葉期まで（ただし、直播水稲は 6 葉期まで）有効なので、時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は、生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。本田内に再生するキシユウスズメノヒエは再生茎 6 葉期まで、アゼガヤ（一年生雑草）は草丈 60 cm まで、オオクサキビ（一年生雑草）は 5 葉期までが本剤の散布適期である。
- (2) 散布液は所定の濃度に調製し、使いきること。
- (3) 広葉雑草には効果がないので、広葉雑草が混在する圃場ではそれらに有効な剤と組み合わせて使用すること。
- (4) 雑草茎葉にかかるよう散布すること。
- (5) 散布する際はまきむらのないよう均一に散布すること。
- (6) 湛水条件で散布する場合は、水の出入りを止めて湛水のまま均一に雑草茎葉散布又は全面散布し、少なくとも 3～4 日間は通常の湛水状態（水深 3～5 cm 程度）を保ち、散布後 7 日間は落水、かけ流しはしないこと。
- (7) 直播水稲に使用する場合は、葉害をさけるためには種後 10 日以降に使用すること。

- (8) 以下の水田では初期生育の抑制を生じるおそれがあるので使用をさけること。
- 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱徒長苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植や深植をした水田
- (9) 周辺作物（特にイネ科作物）に対して、葉害を生じるおそれがあるので、飛散しないように注意して散布すること。また、散布田の水田水をこれら作物に灌水しないようにすること。
- (10) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (5) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

危険物第四類第三石油類に属するので火気には十分注意すること。

#### 貯蔵上の注意事項-----

火気や直射日光をさけ、低湿な場所に密栓して保管すること。



登録番号 第 24369 号

トドメバス MF<sup>®</sup>液剤

- 移植後 15 日から使用できる水稲用中・後期除草剤です。  
 ●ノビエに卓効の有効成分メタミホップと、広葉雑草に効果の高い有効成分ベンタゾン配合により、生育の進んだ各種雑草に優れた効果が期待できる、茎葉処理除草剤です。  
 ●ALS 阻害剤抵抗性雑草（オモダカ、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を発揮します。  
 ●残ってしまった雑草に対してのレスキュー剤です。

トドメバスは科研製薬(株)の登録商標です。

有効成分	ベンタゾン・・・18.3% メタミホップ・・・1.2%	包装	500ml×20 5L×4
その他化管法 該当成分	ナフタレン(化管法第1種)・・・1.2% メチルナフタレン(化管法第1種)・・・3.0% 2-(2-ブトキシエトキシ)エタノール(化管法第1種)・・・9.0%		
性状	黄赤色澄明水溶性液体	有効年限	4年
毒性	普通物 <sup>*</sup>	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2022年8月3日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量 (薬量)	使用量 (希釈水量)	本剤の 使用回数	使用 方法	ベンタゾン を含む 農薬の総使 用回数	メタミホップ を含む 農薬の総使 用回数
移植水稲	一年生 及び 多年生雑草	移植後 15 日～ ルビエ6 葉期 但し、 収穫 50 日前まで	1000 mL/10a	70～100 L/10a	2 回以内	落水散布又は ごく浅く湛水 して散布	2 回以内	3 回以内
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオダカ ミズガヤツリ ウリカ	は種後 10 日～ ルビエ6 葉期 但し、 収穫 50 日前まで	1000 mL/10a	70～100 L/10a	2 回以内	乾田・落水状 態で雑草茎葉 散布又は全面 散布		

## 使用上の注意事項

- 散布液は所定の濃度に調製し、使いきること。
- 葉害のおそれがあるので、展着剤は加用しないこと。
- 散布する前に落水状態にして水の出入りを止め、まきむらのないように均一に散布すること。また、水を落とすことができない所では、漏水のない水田に限り、できるだけ浅水状態（雑草が水面上に出る状態）にして、まきむらのないよう均一に散布すること。
- 散布後少なくとも3日間（浅水処理は5日間）はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流しはしないこと。また、散布後7日間は降雨の有無にかかわらず落水、かけ流しはしないこと。
- 処理後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、晴天の持続する時を選んで使用すること。

- (6) 本剤はノビエの6葉期まで有効なので、時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は、生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイは花茎40cmまで、ヘラオモダカ、ウリカワは6葉期まで、ミズガヤツリは8葉期まで、ヒルムシロは発生盛期まで、セリは増殖期まで、クログワイは草丈20cmまで、コウキヤガラは草丈30cmまで、オモダカは矢じり葉3葉期まで、シズイは草丈5cmまで、エゾノサヤヌカグサは4葉期まで、キシウスズメノヒエは再生茎6葉期まで、アゼガヤ（一年生雑草）は草丈60cmまでが本剤の散布適期である。
- (7) オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ防除は、必要に応じて有効な前処理剤との組み合わせで使用すること。
- (8) 重複散布は薬害のおそれがあるのでさけること。
- (9) 高温条件下では、薬害が生じやすいので異常高温下での散布はさけること。
- (10) 直播水稻に使用する場合は、薬害をさけるためには種後10日以降に使用すること。
- (11) 苗の植え付けが均一になるように、整地、代かきはていねいに行い、ワラくずなどの浮遊物はできるだけ取り除くこと。また、未熟有機物を施用した場合は特にていねいに行うこと。
- (12) 以下の水田では薬害を生じるおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱徒長苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植や深植をした水田
- (13) 薬害を生じるおそれがあるので、周辺作物にかからないよう十分注意すること。
- (14) 本剤散布後の田面水を他作物に灌水しないこと。
- (15) 乾田直播水稻に使用する場合は、以下の点に特に注意すること。
  - 1) 重複散布をさけること。
  - 2) 軟弱徒長苗での使用はさけること。
  - 3) 高温期または高温が予想されるときは使用をさけること。
- (16) 乾燥が続いた条件では除草効果が低下する場合があるので注意すること。特に乾田直播水稻に使用する場合は注意すること。
- (17) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (3) 散布液調製時及び散布の際は保護眼鏡、農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (5) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 散布後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

指定可燃物（可燃性液体類）に属するので火気には十分注意すること。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温な場所に密栓して保管する。

登録番号 第 20048 号

## ナイスショット®ジャンボ (JA)

- 移植後3日から使用できる水稲用一発除草剤です。
- 特長：●ノビエはもちろん、ALS阻害剤抵抗性雑草（アゼナ類、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果があります。
- 畦畔から投げ込むだけの省力型除草剤です。

ナイスショットは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	カフェンストロール（化管法第1種）・・・4.2% ピラズレート（化管法第1種）・・・18.0% プロモブチド・・・18.0%	包装	(50g×10) ×10
その他化管法該当成分	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩（アルキル基 C=10~14 及びその混合物）（化管法第1種）・・・1.8%		
性状	淡褐色細粒、水溶性パック入り1パック50g	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2006年3月8日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ヘラオモダカ(北海道、東北)	移植後3~15日 (ノビエ2葉期まで)	砂壤土 ~埴土	小包装 (パック) 10個 (500g)/10a	1回	水田に小包装 (パック)のまま 投げ入れる。	北海道
		移植後3~12日 (ノビエ2葉期まで)					東北、北陸
		移植後3~10日 (ノビエ2葉期まで)					関東以西の普通期 及び早期栽培地帯

カフェンストロールを含む 農薬の総使用回数	ピラズレートをを含む 農薬の総使用回数	プロモブチドを含む 農薬の総使用回数
1回	2回以内	2回以内

### 使用上の注意事項

- 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使いきること。
- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイは2葉期まで、ウリカワ、ヘラオモダカは発生始期までが本剤の散布適期である。
- 苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- 処理に当たっては、水の出入りを止めて水深5~6cmの湛水状態にし、散布後少なくとも3~4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- 本剤は小包装（パック）のまま10アール当り10個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- 藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、効果の劣る可能性があるので使用を避けること。

- (7) 散布後に多量の雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避けること。
- (8) パックに使用しているフィルムは水溶性なので、ぬれた手で作業したり、降雨で破袋することのないように注意すること。
- (9) 下記のような条件では薬害が発生する恐れがあるので使用を避けること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (10) 活着遅延を生ずるような異常低温が予測されるときは、初期生育の抑制などが生ずる恐れがあるので、このような条件での使用に際しては、県の防除基準に基づき関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (11) 北海道の泥炭質土壌の水田で使用する場合、ウリカワには効果が劣ることがあるので、泥炭質土壌のウリカワ多発田では使用しないこと。
- (12) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (13) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、落水、かけ流しはしないこと。
- (14) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は水溶性フィルムで小包装化されているため、通常的使用方法ではその該当がない。ただし、濡れた手で触らないこと。
- (2) 水溶性フィルム包装が破袋した場合は以下の点に注意すること。
  - 1) 眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すると。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
  - 2) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常的使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を堅く閉じて保管すること。また、強く加圧されると包装材フィルムが劣化するおそれがあるので下積みにならないようにすること。

## バイスコープ® 1 キロ粒剤

- 新規有効成分サイラ®配合、移植後14日から使用できる水稲用中・後期除草剤です。  
 ●強力な白化作用で、ノビエを除く高葉齢の各種雑草に優れた効果が期待できます。  
 特長： ●ALS阻害剤抵抗性雑草（オモダカ、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を発揮します。  
 ●イボクサ、クサネム等の特殊雑草にも有効です。  
 ●湛水散布、ごく浅水散布のどちらも可能です。

サイラ、バイスコープは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	サイラ（シクロピリモレート）・・・2.0% テフリルトリオン（化管法第1種）・・・3.0%	包装	1kg×12
性状	類白色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物 <sup>※</sup>	危険物	—

\*普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2020年10月14日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 (ノビエを除く) オモダカ ホタルイ クログワイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ シズイ	移植後14～60日 ただし、収穫45日前まで	1kg/10a	1回	湛水散布、ごく浅く湛水して散布又は無人航空機による散布
直播水稲	一年生雑草 (ノビエを除く) ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ	稲3葉期～出芽後50日 ただし、収穫45日前まで			湛水散布又は無人航空機による散布

シクロピリモレートを含む農薬の総使用回数	テフリルトリオンを含む農薬の総使用回数
2回以内	2回以内

### 使用上の注意事項

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 一年生雑草のうちノビエには効果が劣るため、ノビエに有効な移植または播種前後の除草剤との体系で使用すること。
- 生育期に入った雑草に効果があるが、特に多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。オモダカは矢じり葉5葉期まで、ホタルイ、クログワイは草丈15cmまで、ウリカワ（移植水稲）は7葉期まで、ウリカワ（直播水稲）は5葉期まで、ミズガヤツリ（移植水稲）は草丈30cmまで、ミズガヤツリ（直播水稲）、シズイは草丈20cmまで、ヘラオモダカはヘラ葉2葉期まで、また、一年生雑草のイボクサ（移植水稲）、クサネム（移植水稲）は草丈20cmまでが本剤の散布適期である。

- (4) 散布に当たっては、水の出入りを止めてごく浅い湛水または通常の湛水状態のまま田面に均一に散布すること。散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。本剤を浅水で散布した場合、その後の自然落水により田面が露出する期間が長引くと効果にフレが出るおそれがあるため、散布後7日以内に再入水すること。
- (5) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 散布は使用機種の使用基準に従って実施すること。
  - 2) 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 3) 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整すること。
  - 4) 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう注意すること。
  - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないよう十分注意すること。
- (6) 前処理剤との体系で使用し、雑草の発生状況をよく確認し、時期を失しないように散布すること。
- (7) 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (8) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- (9) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (10) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (11) 処理後著しい高温が続く場合には、稲にクロロシスを生じる場合があるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (12) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (13) 空袋等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。
- (14) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (15) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正におこなうこと。
- (16) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。  
また、吸湿しやすいので開封後は口を固く閉じ、長期間の保存はさけること。

登録番号 第 22371 号

## フォローアップ<sup>®</sup>1 キロ粒剤 (JA)

特長：

- 移植後 15 日から使用できる水稲用中・後期除草剤です。
- 初期または一発除草剤との組み合わせで使用します。
- 葉齢の進んだノビエ (5 葉期まで) から、オモダカ、クログワイ等の多年生難防除雑草まで幅広く効果を発揮します。

フォローアップは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ダイムロン・・・10.0% ペノキスラム・・・0.60%	包装	1kg×12 10kg×1
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物 <sup>※</sup>	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2016年9月7日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ダイムロンを含む農薬の総使用回数	ペノキスラムを含む農薬の総使用回数
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ ウリカワ クログワイ オモダカ コウキヤガラ ヒルムシロ セリ シズイ	移植後 15 日～ ノビエ 5 葉期 (稲 4 葉期以降) ただし、 収穫 60 日前まで	1kg/10a	1 回	湛水散布 又は 無人ヘリコプターによる散布	3 回以内 (育苗箱散布は 1 回以内、本田では 2 回以内)	2 回以内
直播水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ	稲 3 葉期～ ノビエ 5 葉期 ただし、 収穫 60 日前まで	1kg/10a	1 回	湛水散布 又は 無人ヘリコプターによる散布	2 回以内	2 回以内

### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイは、移植水稲で 5 葉期まで、直播水稲で 4 葉期まで。ミズガヤツリは、移植水稲で 5 葉期まで、直播水稲で 3 葉期まで。ウリカワは、移植水稲で 6 葉期まで、直播水稲で 3 葉期まで。ヘラオモダカは 4 葉期まで。クログワイは草丈 30cm まで。オモダカは草丈 30cm (発生盛期～矢じり葉抽出期) まで。コウキヤガラは草丈 15cm まで。ヒルムシロは、移植水稲で生育期まで、直播水稲で発生期まで。セリは、移植水稲で生育期まで、直播水稲で再生前～再生始期まで。シズイは、草丈 10cm まで。

- (3) クログワイ、オモダカ、コウキヤガラ、シズイは必要に応じて有効な前処理剤と組み合わせて使用すること。また、クログワイ、オモダカに有効な前処理剤と組み合わせて連年施用することにより、さらに効果が向上する。
- (4) 苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (5) 散布に当たっては、水深3~5cmの湛水状態で田面に均一に散布すること。水の出入りを止めて、少なくとも3~5日間はそのままの湛水状態を保ち、田面を露出させないよう注意すること。散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (6) 本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 散布は散布機種の散布基準に従って実施すること。
  - 2) 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 3) 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整すること。
  - 4) 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m離れた位置から圃場内に散布すること。
  - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
- (7) 散布後に多量の降雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
- (8) 前処理剤との体系で使用し、雑草の発生状況をよく確認し、時期を失しないように散布すること。
- (9) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
  - 4) 稲の根が露出している水田
- (10) 本剤の使用後に低温が続くと予想される場合には、稲に生育抑制などの薬害が発生するおそれがあるので、使用をさけること。
- (11) 処理後数日間著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (12) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (13) 空袋等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。
- (14) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (15) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (16) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。



登録番号 第 22866 号

## ベアス®1 キロ粒剤

- 特長：
- 移植前または移植直後から使用できる初期除草剤です。
  - ノビエをはじめとする一年生雑草に高い効果を示します。
  - 低コスト稲作に貢献する経済的な1成分剤です。
  - 田植同時処理も可能です。

ベアスは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ペントキサゾン（化管法第1種）・・・1.5%	包装	1kg×12
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2012年8月8日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	水田一年生雑草 マツバイ	移植時	砂壤土 ～ 埴土	1kg/10a	2回以内	田植同時散布機で施用	全域の普通期及び早期栽培地帯	2回以内
		植代後～移植前7日 または 移植直後～ノビエ発生始期 ただし、移植後30日まで				湛水散布		
いぐさ	水田一年生雑草	植付後～生育期 (雑草発生前)	砂壤土 ～ 埴土	1kg/10a	2回以内	湛水散布	九州	2回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から発生始期に有効なので時期を失しないように散布すること。特に、移植後5日以降に使用する場合は適用雑草の葉齢等をよく確認すること。
- (3) 苗の植え付けが均一になるように、整地、代かきは丁寧に行い、ワラくずなどの浮遊物はできるだけ取り除くこと。また、未熟有機物を施用した場合は特に丁寧に行うこと。
- (4) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水状態のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm程度）を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないよう注意し、また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。
- (5) 苗が水没するような深水状態では、葉鞘部に軽い褐変症状が出るおそれがあるので、水管理に注意すること。
- (6) 以下の条件下では初期生育の抑制を生ずるおそれがあるので使用を避けること。
  - 1) 砂質土壌の水田および漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田および浮き苗の多い水田
- (7) れんこん、くわい、せりなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意すること。

- (8) いぐさに使用する場合は既発生の雑草に対して効果が劣るので、雑草の発生前に時期を失しないように散布すること。  
また、本剤の1回散布のみでは十分な効果を得られない場合があるので、いぐさに適用のある薬剤との体系で使用するこ  
と。
- (9) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時  
は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。  
(2) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。  
(2) 散布後は水管理に注意すること。  
(3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に  
処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 22865 号

## ベアス®フロアブル

- 特長：
- 移植前または移植直後から使用できる初期除草剤です。
  - ノビエをはじめとする一年生雑草に高い効果を示します。
  - 低コスト稲作に貢献する経済的な1成分剤です。
  - 田植同時処理も可能です。

ベアスは三井化学クロップ&amp;ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ペントキサゾン（化管法第1種）・・・2.9%	包装	500ml×20
性状	類白色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2012年8月8日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	水田一年生雑草 マツバイ	移植時	砂壤土 ～埴土	500 mL/10a	2回以内	田植同時散布機で施用	全域の普通 期及び早期 栽培地帯	2回以内
		植代後～移植前 7日または 移植直後～ ルビエ発生始期 ただし、 移植後30日まで				原液湛水散布又は水口 施用		
ひえ(水田移植栽培)	水田一年生雑草 マツバイ	植代後～移植前 7日または 移植直後～ ルビエ発生始期 ただし、 移植後30日まで	砂壤土 ～埴土	500 mL/10a	2回以内	原液湛水散布	全域	2回以内
いぐさ	水田一年生雑草	植付後～生育期 (雑草発生前)	砂壤土 ～埴土	500 mL/10a	2回以内	原液湛水散布	近畿・中国・ 四国、九州	2回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきることを。
- (2) 使用直前に容器をよく振ること。
- (3) 本剤は雑草の発生前から発生始期に有効なので時期を失しないように散布すること。特に、移植後5日以降に使用する場合は適用雑草の葉齢等をよく確認すること。
- (4) 苗の植え付けが均一になるように、整地、代かきは丁寧に、ワラくずなどの浮遊物はできるだけ取り除くこと。また、未熟有機物を施用した場合は特に丁寧にすること。
- (5) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を水田全面にゆきわたるように散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm程度）を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないよう注意し、また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。

- (6) 水口施用の場合は入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させること。処理後田面水が通常の湛水状態（湛水深3～5cm）に達した時に必ず水を止め、田面水があふれ出ないように注意すること。
- (7) 苗が水没するような深水状態では、葉鞘部に軽い褐変症状が出るおそれがあるので、水管理に注意すること。
- (8) 以下の条件下では初期生育の抑制を生ずるおそれがあるので使用を避けること。
  - 1) 砂質土壌の水田および漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田および浮き苗の多い水田
- (9) れんこん、くわい、せりなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意すること。
- (10) いぐさに使用する場合は既発生の雑草に対して効果が劣るので、雑草の発生前に時期を失しないように散布すること。また、本剤の1回散布のみでは十分な効果を得られない場合があるので、いぐさに適用のある薬剤との体系で使用する。ただし、原液がいぐさ茎に付着すると褐変症状を生じることがあるので収穫後発生後は散布しないこと。
- (11) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (2) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (3) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 19847 号

## ベクサー®1 キロ粒剤 (JA)

- 特長：
- 移植前または移植直後から使用できる初期除草剤です。
  - ノビエをはじめとする一年生雑草に高い効果を示します。
  - 低コスト稲作に貢献する経済的な1成分剤です。
  - 田植同時処理も可能です。

ベクサーは科研製薬(株)の登録商標です。

有効成分	ペントキサゾン (化管法第1種)・・・1.5%	包装	1kg×12
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	—

\*普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2012年8月8日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	水田一年生雑草 マツバイ	移植時	砂壤土 ～ 埴土	1kg/10a	2回以内	田植同時散布機で施用	全域の普通期及び早期栽培地帯	2回以内
		植代後～移植前7日 または移植直後～ ノビエ発生始期 ただし、 移植後30日まで				湛水散布		
いぐさ	水田一年生雑草	植付後～生育期 (雑草発生前)	砂壤土 ～ 埴土	1kg/10a	2回以内	湛水散布	九州	2回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきることを。
- (2) 本剤は雑草の発生前から発生始期に有効なので時期を失しないように散布すること。特に、移植後5日以降に使用する場合は適用雑草の葉齢等をよく確認すること。
- (3) 苗の植え付けが均一になるように、整地、代かきは丁寧に、ワラくずなどの浮遊物はできるだけ取り除くこと。また、未熟有機物を施用した場合は特に丁寧にすること。
- (4) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水状態のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm程度)を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないよう注意し、また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。
- (5) 苗が水没するような深水状態では、葉鞘部に軽い褐変症状が出るおそれがあるので、水管理に注意すること。
- (6) 以下の条件下では初期生育の抑制を生ずるおそれがあるので使用を避けること。
  - 1) 砂質土壌の水田および漏水田(減水深2cm/日以上)
  - 2) 軟弱苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田および浮き苗の多い水田
- (7) れんこん、くわい、せりなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意すること。

- (8) いぐさに使用する場合は既発生の雑草に対して効果が劣るので、雑草の発生前に時期を失しないように散布すること。また、本剤の1回散布のみでは十分な効果を得られない場合があるので、いぐさに適用のある薬剤との体系で使用する
- (9) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

**人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法**-----

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨**-----

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨**-----

通常の使用方法ではその該当がない。

**貯蔵上の注意事項**-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 19845 号

## ベクサー®フロアブル (JA)

- 特長：
- 移植前または移植直後から使用できる初期除草剤です。
  - ノビエをはじめとする一年生雑草に高い効果を示します。
  - 低コスト稲作に貢献する経済的な1成分剤です。
  - 田植同時処理も可能です。

ベクサーは科研製薬(株)の登録商標です。

有効成分	ペントキサゾン（化管法第1種）・・・2.9%	包装	500ml×20 5L×4
性状	類白色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2012年8月8日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	水田一年生雑草 マツバイ	移植時	砂壤土 ～埴土	500 mL/10a	2回以内	田植同時散布 機で施用	全域の 普通期 及び早期栽培 地帯	2回以内
		植代後～移植前7日 または移植直後～ ノビエ発生始期 ただし、 移植後30日まで				原液湛水散布 又は水口施用		
ひえ (水田移植 栽培)	水田一年生雑草 マツバイ	植代後～移植前7日 または移植直後～ ノビエ発生始期 ただし、 移植後30日まで	砂壤土 ～埴土	500 mL/10a	2回以内	原液湛水散布	全域	2回以内
いぐさ	水田一年生雑草	植付後～生育期 (雑草発生前)	砂壤土 ～埴土	500 mL/10a	2回以内	原液湛水散布	近畿・中 国・四 国、九州	2回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきることを。
- (2) 使用直前に容器をよく振ること。
- (3) 本剤は雑草の発生前から発生始期に有効なので時期を失しないように散布すること。特に、移植後5日以降に使用する場合は適用雑草の葉齢等をよく確認すること。
- (4) 苗の植え付けが均一になるように、整地、代かきは丁寧に、ワラくずなどの浮遊物はできるだけ取り除くこと。また、未熟有機物を施用した場合は特に丁寧にすること。
- (5) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を水田全面にゆきわたるように散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm程度）を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないよう注意し、また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。

- (6) 水口施用の場合は入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させること。処理後田面水が通常の湛水状態（湛水深3～5cm）に達した時に必ず水を止め、田面水があふれ出ないように注意すること。
- (7) 苗が水没するような深水状態では、葉鞘部に軽い褐変症状が出るおそれがあるので、水管理に注意すること。
- (8) 以下の条件下では初期生育の抑制を生ずるおそれがあるので使用を避けること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (9) れんこん、くわい、せりなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意すること。
- (10) いぐさに使用する場合は既発生の雑草に対して効果が劣るので、雑草の発生前に時期を失しないように散布すること。また、本剤の1回散布のみでは十分な効果を得られない場合があるので、いぐさに適用のある薬剤との体系で使用する。ただし、原液がいぐさ茎に付着すると褐変症状を生じることがあるので収穫茎発生後は散布しないこと。
- (11) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (2) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (3) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。



## ルナクロス® 1 キロ粒剤

- 新規有効成分サイラ®配合、移植後14日から使用できる水稲用中・後期除草剤です。  
 ●強力な白化作用で、ノビエを除く高葉齢の各種雑草に優れた効果が期待できます。  
 特長： ●ALS阻害剤抵抗性雑草（オモダカ、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を発揮します。  
 ●イボクサ、クサネム等の特殊雑草にも有効です。  
 ●湛水散布、ごく浅水散布のどちらも可能です。

サイラ、ルナクロスは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	サイラ（シクロピリモレート）・・・2.0% テフリルトリオン（化管法第1種）・・・3.0%	包装	1kg×12
性状	類白色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	—

\*普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2020年10月14日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 (ノビエを除く) オモダカ ホタルイ クログワイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ シズイ	移植後14～60日 ただし、収穫45日前まで	1kg/10a	1回	湛水散布、ごく浅く湛水して散布又は無人航空機による散布
直播水稲	一年生雑草 (ノビエを除く) ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ	稲3葉期～出芽後50日 ただし、収穫45日前まで			湛水散布又は無人航空機による散布

シクロピリモレートを含む農薬の総使用回数	テフリルトリオンを含む農薬の総使用回数
2回以内	2回以内

## 使用上の注意事項

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 一年生雑草のうちノビエには効果が劣るため、ノビエに有効な移植または播種前後の除草剤との体系で使用すること。
- 生育期に入った雑草に効果があるが、特に多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。オモダカは矢じり葉5葉期まで、ホタルイ、クログワイは草丈15cmまで、ウリカワ（移植水稲）は7葉期まで、ウリカワ（直播水稲）は5葉期まで、ミズガヤツリ（移植水稲）は草丈30cmまで、ミズガヤツリ（直播水稲）、シズイは草丈20cmまで、ヘラオモダカはヘラ葉2葉期まで、また、一年生雑草のイボクサ（移植水稲）、クサネム（移植水稲）は草丈20cmまでが本剤の散布適期である。

- (4) 散布に当たっては、水の出入りを止めてごく浅い湛水または通常の湛水状態のまま田面に均一に散布すること。散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。本剤を浅水で散布した場合、その後の自然落水により田面が露出する期間が長引くと効果にフレが出るおそれがあるため、散布後7日以内に再入水すること。
- (5) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - 1) 散布は使用機種の使用基準に従って実施すること。
  - 2) 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - 3) 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整すること。
  - 4) 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう注意すること。
  - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないよう十分注意すること。
- (6) 前処理剤との体系で使用し、雑草の発生状況をよく確認し、時期を失しないように散布すること。
- (7) 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (8) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- (9) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (10) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- (11) 処理後著しい高温が続く場合には、稲にクロロシスを生じる場合があるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (12) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (13) 空袋等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。
- (14) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (15) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正におこなうこと。
- (16) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。  
また、吸湿しやすいので開封後は口を固く閉じ、長期間の保存はさけること。

登録番号 第 22086 号

## ワイドアタック™SC (JA)

- 移植後 20 日（稲 5 葉期以降）から使用できる水稲用中・後期除草剤です。
- 特長： ●有効成分ペノキスラム配合で、ノビエや広葉雑草、多年生難防除雑草にまで優れた効果を示します。
- 初期剤や一発剤で取りこぼした雑草を防除する、茎葉処理除草剤です。

ワイドアタックは米国ダウ社、またはその関連会社の商標、または登録商標です。

有効成分	ペノキスラム・・・3.6%	包装	100ml×10×2 500ml×20
性状	淡褐色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2020年5月27日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量/ (薬量)	使用量 (希釈水量)	本剤の 使用回数	使用方法	ペノキスラムを含む農薬の総使用回数
移植水稲	一年生雑草 多年生広葉雑草	移植後 20 日 (稲 5 葉期以降)～ ルビエ 6 葉期 但し、 収穫 30 日前まで	100ml/10a	100L/10a	2 回以内	落水散布又は ごく浅く湛水 して散布	2 回以内
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミズガヤツリ ハラオモダカ セリ ヒルムシロ	稲 3 葉期～ ルビエ 5 葉期 但し、 収穫 30 日前まで	100ml/10a	100L/10a	2 回以内	落水散布又は ごく浅く湛水 して散布  雑草茎葉散布 又は全面散布	

### 使用上の注意事項

- 本剤は懸濁性液体なので、使用の際は容器をよく振って均一な状態にしてから所定量を取り出すこと。なお希釈は正確に行うこと。
- 散布液は使用当日に調製すること。
- 稲の出穂時の散布は葉害のおそれがあるので使用は控えること。
- 前処理剤との体系で使用し、雑草の発生状況をよく確認し、時期を失ないように適期に散布すること。
- 葉害のおそれがあるので展着剤は添加しないこと。
- 散布する前にできるだけ落水すること。落水ができない場合は薬液が雑草に十分かかるようなごく浅水状態にして、水の出入りをとめ、まきむらのないように均一に散布すること。
- 落水が不十分だと効果が劣るので注意すること。
- 散布は噴霧状に行い、薬液が雑草全体によくかかるようにすること。
- 散布後少なくとも 2 日間（浅水処理は 3 日間）はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流しはしないこと。また散布後 7 日間は降雨の有無にかかわらず落水、かけ流しはしないこと。
- 処理後 1 日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、晴天の持続する時を選んで使用すること。

- (11) 本剤は生育期に入った雑草に効果があるが、雑草、特に多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので必ず適期に散布すること。ホタルイは花茎抽出始まで、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカは4～6葉期まで、ヒルムシロ、セリは生育期まで、クログワイは草丈20～30cm、オモダカは草丈30cm、シズイは草丈10cm、コウキヤガラは草丈20cmまでに散布すること。また、一年生雑草のミズアオイは3～4葉期まで、クサネムは草丈20cmまでに散布すること。
- (12) クログワイ、オモダカ、シズイ、コウキヤガラ防除は、それぞれの雑草に有効な前処理剤と組み合わせて使用すること。また、クログワイ、オモダカに有効な前処理剤と組み合わせて連年施用することにより、さらに効果が向上する。
- (13) 葉害のおそれがあるので重複散布をさけること。
- (14) 軟弱稲では葉害のおそれがあるので使用はさけること。
- (15) 本剤の使用後に低温が続くと予想される場合には、稲に生育抑制などの葉害が発生するおそれがあるので、使用をさけること。
- (16) 葉害を生じるおそれがあるので、周辺作物にかからないよう十分注意すること。
- (17) 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意すること。
- (18) 散布機、ホース、ノズル、タンク等の器具は、使用後速やかに十分に水洗し、洗浄液は水田内で処理すること。また、使用した器具などは水稻以外に使用しないこと。
- (19) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (2) 散布の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいすること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきることを。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 17424 号

## カヤクカルパー<sup>®</sup>粉粒剤 16

特長：  
 ● 湛水直播水稻の種もみに粉衣させて使う、植物成長調節剤です。  
 ● 土壌水分と反応して種もみに酸素を供給することで、直播水稻の出芽苗立ちが安定します。

カルパーは保土谷化学工業(株)の登録商標です。

有効成分	過酸化カルシウム・・・16.0%	包装	3kg×8
性状	類白色微粒及び粗粉 45～150 $\mu$ m	有効年限	5年
毒性	普通物 <sup>*</sup>	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用作物と使用方法】

2015年10月1日付内容

作物名	使用目的	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	過酸化カルシウムを含む農薬の総使用回数
直播水稻	発芽率の向上、 苗立歩合の 安定	は種前 浸種後	乾燥種籾重量 の等倍～2倍 量	1回	湿粉衣 (地上は種用、 空中散播及び 無人ヘリコプターによる 散播用)	全域	1回

### 使用上の注意事項

- (1) 本剤は水分を吸収すると固化して使用できなくなるので、開封後は使い残しのないようにすること。
- (2) 粉衣に際しては下記の事項に注意すること。
  - 1) 粉衣には浸漬した種籾を用い、十分水切りした後に粉衣すること。
  - 2) 種籾の浸漬では、ゆっくり吸水催芽させ鳩胸程度に止めること。芽を切った種籾は粉衣の際に芽を欠損するおそれがあるので使用しないこと。
  - 3) 種籾を消毒する場合は、本剤の粉衣前に種子消毒剤の所定濃度液に浸漬すること。
  - 4) 粉衣処理は専用の回転式粉衣機又は自動式粉衣機を使用すると効率的である。
  - 5) 回転式粉衣処理は攪拌が容易で、薬剤および水の投与が簡単な容器で行う。種籾を入れ攪拌しながら本剤の所定量の一部を少量投入する。本剤が種籾に付着し、余分な本剤がとびはじめたら噴霧器等で水の噴霧を開始する。水は連続で噴霧しながら、本剤を少量ずつ投入する。粉衣状態を見ながら投入をくりかえす。本剤所定量の少量を残した時点で水の噴霧を止める。水の噴霧を止めた後、この少量残した本剤を投入し3分間攪拌を続けること。
  - 6) 粉衣処理の際浸漬した種籾の水切りが不十分であったり、一時に水を多量に噴霧すると本剤を投入した時に薬剤や種籾が団子状になり、均一な粉衣ができなくなるので注意すること。
  - 7) 本剤を粉衣した種籾を30分程度ゴザ等にひろげ、陰干しをして薬剤が固まってから網袋にいれる。当日播種できない場合は、風通しがよく雨水がかからない場所にスノコ等の上にむれないように保存すること。また、乾燥しすぎると粉衣の破損が大きくなるので早めに播種すること。
  - 8) 使用後の容器などはそのまま放置すると、均一な粉衣ができなくなるので充分清掃しておくこと。
- (3) 本剤を粉衣した種籾を湛水直播水稻栽培で使用する場合は下記の事項に注意すること。
  - 1) 播種する時は、植代かき後の水の濁っている時、または植代かき後土壌表面が柔らかいうちに、粉衣した種籾が土中に埋没するように播種すること。
  - 2) 本剤を乾燥種籾重量の等倍から2倍量未満で使用する場合には落水出芽法を併用し、発芽苗立を促進するために播種直後から出芽始めまでの間落水し、田を乾かすこと。北海道を除く全域において本剤を乾燥種籾重量の2倍量で使用する場合には必ずしも落水出芽法と併用する必要はない。

- 3) 本剤を2倍量より少ない量で粉衣処理した場合、特に播種機を利用の播種では想定した播種量より繰出し量が多くなるので播種開始前に播種量を調整すること。
- 4) 空中散播および無人ヘリコプターによる散播で使用する場合、各散播機種 of 基準に従うこと。
- (4) 本剤を北海道において乾田直播早期湛水栽培で使用する場合には、北海道の水稻乾田播種早期湛水栽培暫定基準に従うこと。
- (5) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

**人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法**-----

- (1) 本剤は眼に対して強い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けること。
- (2) 使用の際は保護眼鏡、不浸透性手袋などを着用すること。使用後は洗眼すること。

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨**-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨**-----

通常の使用方法では、該当がない。

**貯蔵上の注意事項**-----

直射日光を避け、酸類と隔離し乾燥した場所に密封して保管すること。吸湿すると固結するので、特に湿気に注意すること。

登録番号 第 24694 号

## MIC ジベレリン液剤

●植物ホルモンである1種であるジベレリンを含有した植物成長調整剤です。  
 特長： ●液剤です。  
 ●ぶどうには使用できません。

有効成分	ジベレリン・・・0.63%	包装	200mg (40ml) × 10 × 10、 500mg (100ml) × 100
性状	淡褐色澄明水溶性液体	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	第四類アルコール類

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
かんきつ(苗木、ただし、温州みかんを除く)	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 25～50ppm	50～250 L/10a	12～3月	1回	立木全面散布又は枝別散布	1回
かんきつ(不知火、ぼんかん、かぼす、清見、はるみ、ワシントンブルー、日向夏、すだち、平兵衛酢、長門ユズキ(無核)、温州みかん、きんかん、紅まどんなを除く)	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 2.5ppm	200～700 L/10a	収穫後～3月	1回	立木全面散布又は枝別散布(マシン油乳剤60～80倍液に加用)	1回
		ジベレリン 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～収穫約1ヵ月後		立木全面散布又は枝別散布(プロトロジヤモン2000倍液に加用)	
		ジベレリン 25～50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ジベレリン 25～50ppm	50～100 L/10a	開花始め～満開10日後		散布	
ジベレリン 10ppm	散布(プロトロジヤモン2000倍液に加用)						

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
不知火	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 2.5ppm	200~700 L/10a	収穫後~3月	1回	立木全面散布又は枝別散布(マシン油乳剤60~80倍液に加用)	3回以内
		ジベレリン 10ppm	50~250 L/10a	収穫直後~収穫約1ヵ月後		立木全面散布又は枝別散布(プロトロジヤモン2000倍液に加用)	
		ジベレリン 25~50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ジベレリン 25~50ppm	50~100 L/10a	開花始め~満開10日後		散布	
		ジベレリン 10ppm				散布(プロトロジヤモン2000倍液に加用)	
	水腐れ軽減	ジベレリン 0.5~1ppm	50~500 L/10a	着色終期 但し、収穫7日前まで		果実散布	
はるみ	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 2.5ppm	200~700 L/10a	収穫後~3月	1回	立木全面散布又は枝別散布(マシン油乳剤60~80倍液に加用)	3回以内
		ジベレリン 10ppm	50~250 L/10a	収穫直後~収穫約1ヵ月後	1回	立木全面散布又は枝別散布(プロトロジヤモン2000倍液に加用)	
		ジベレリン 25~50ppm			1回	立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ジベレリン 25~50ppm	50~100 L/10a	開花始め~満開10日後	1回	散布	
		ジベレリン 10ppm			1回	散布(プロトロジヤモン2000倍液に加用)	
	水腐れ軽減	ジベレリン 0.5~1ppm	50~500 L/10a	着色終期 但し、収穫7日前まで	1回	果実散布	
紅まどんな	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 2.5ppm	200~700 L/10a	収穫後~3月	1回	立木全面散布又は枝別散布(マシン油乳剤60~80倍液に加用)	3回以内
		ジベレリン 10ppm	50~250 L/10a	収穫直後~収穫約1ヵ月後	1回	立木全面散布又は枝別散布(プロトロジヤモン2000倍液に加用)	
		ジベレリン 25~50ppm			1回	立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ジベレリン 25~50ppm	50~100 L/10a	開花始め~満開10日後	1回	散布	
		ジベレリン 10ppm			1回	散布(プロトロジヤモン2000倍液に加用)	
	水腐れ軽減	ジベレリン 0.5~1ppm	50~500 L/10a	着色終期 但し、収穫7日前まで	1回	果実散布	



作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
ぼんかん	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 2.5ppm	200~700 L/10a	収穫後~3月	1回	立木全面散布又は枝別散布(マン油乳剤60~80倍液に加用)	1回
		ジベレリン 10ppm	50~250 L/10a	収穫直後~収穫約1ヵ月後		立木全面散布又は枝別散布(プロトロンジャモン2000倍液に加用)	
		ジベレリン 25~50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ジベレリン 25~50ppm	50~100 L/10a	開花始め~満開10日後		散布	
		ジベレリン 10ppm				散布(プロトロンジャモン2000倍液に加用)	
	水腐れ軽減	ジベレリン 0.5ppm	50~500 L/10a	着色始期~4分着色期 但し、収穫21日前まで		果実散布	
長門ユズ柑(無核)	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 10ppm	50~250 L/10a	収穫直後~収穫約1ヵ月後	1回	立木全面散布又は枝別散布(プロトロンジャモン2000倍液に加用)	1回
		ジベレリン 25~50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ジベレリン 25~50ppm	50~100 L/10a	開花始め~満開10日後		散布	
		ジベレリン 10ppm				散布(プロトロンジャモン2000倍液に加用)	
	着果安定	ジベレリン 50ppm	50~100 L/10a	開花期~開花終期		花又は果実散布	
	果皮の緑色維持	ジベレリン 10~25ppm	50~400 L/10a	収穫予定14~30日前		果実散布	
すだち	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 10ppm	50~250 L/10a	収穫直後~収穫約1ヵ月後	1回	立木全面散布又は枝別散布(プロトロンジャモン2000倍液に加用)	1回
		ジベレリン 25~50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ジベレリン 25~50ppm	50~100 L/10a	開花始め~満開10日後		散布	
		ジベレリン 10ppm				散布(プロトロンジャモン2000倍液に加用)	
	果皮の緑色維持	ジベレリン 5~25ppm	50~400 L/10a	収穫予定7~30日前		果実散布	

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
平兵衛酢	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～収穫 約1ヵ月後	1回	立木全面散布又は枝別散布(プロトロンジャモン 2000 倍液に加用)	1回
		ジベレリン 25～50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ジベレリン 25～50ppm	50～100 L/10a	開花始め～満開 10 日後		散布	
		ジベレリン 10ppm				散布(プロトロンジャモン 2000 倍液に加用)	
	果皮の緑色維持	ジベレリン 10～25ppm	50～400 L/10a	収穫予定 14～30 日前		果実散布	
かぼす	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～収穫 約1ヵ月後	1回	立木全面散布又は枝別散布(プロトロンジャモン 2000 倍液に加用)	1回
		ジベレリン 25～50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ジベレリン 25～50ppm	50～100 L/10a	開花始め～満開 10 日後		散布	
		ジベレリン 10ppm				散布(プロトロンジャモン 2000 倍液に加用)	
	果皮の緑色維持	ジベレリン 10～25ppm	50～400 L/10a	収穫予定 14～30 日前		果実散布	
ワシントンネーブル	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 2.5ppm	200～700 L/10a	収穫後～3 月	1回	立木全面散布又は枝別散布(マシン油乳剤 60～80 倍液に加用)	1回
		ジベレリン 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～収穫 約1ヵ月後		立木全面散布又は枝別散布(プロトロンジャモン 2000 倍液に加用)	
		ジベレリン 25～50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ジベレリン 500ppm	30～40 L/10a	満開 10～20 日後の幼果期		幼果に散布	
日向夏	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 2.5ppm	200～700 L/10a	収穫後～3 月	1回	立木全面散布又は枝別散布(マシン油乳剤 60～80 倍液に加用)	1回
		ジベレリン 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～収穫 約1ヵ月後		立木全面散布又は枝別散布(プロトロンジャモン 2000 倍液に加用)	
		ジベレリン 25～50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	無種子化、落果防止	ジベレリン 300～500ppm	30～40 L/10a	満開 7～10 日後		果実散布	

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
清見	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 2.5ppm	200～700 L/10a	収穫後～3月	1回	立木全面散布又は枝別散布(マシン油乳剤60～80倍液に加用)	1回
		ジベレリン 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～収穫約1ヵ月後		立木全面散布又は枝別散布(プロトロンジャモン2000倍液に加用)	
		ジベレリン 25～50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ジベレリン 25～50ppm	50～100 L/10a	開花始め～満開10日後		散布	
		ジベレリン 10ppm				散布(プロトロンジャモン1000～2000倍液に加用)	
きんかん	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 2.5ppm	200～700 L/10a	収穫後～3月	1回	立木全面散布又は枝別散布(マシン油乳剤60～80倍液に加用)	1回
		ジベレリン 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～収穫約1ヵ月後		立木全面散布又は枝別散布(プロトロンジャモン2000倍液に加用)	
		ジベレリン 25～50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ジベレリン 25～50ppm	50～250 L/10a	開花始め～満開10日後		散布	
		ジベレリン 10ppm				散布(プロトロンジャモン2000倍液に加用)	
	着果安定	ジベレリン 300ppm	30～60 L/10a	一番花開花期		花に散布	
温州みかん(苗木)	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 25～50ppm	50～250 L/10a	11～1月	1回	立木全面散布又は枝別散布	1回
		ジベレリン 10ppm				立木全面散布又は枝別散布(プロトロンジャモン1000～2000倍液に加用)	
		ジベレリン 2.5ppm	200～700 L/10a			立木全面散布又は枝別散布(マシン油乳剤60～80倍液又は展着剤に加用)	

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
温州みかん	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 25～50ppm	50～250 L/10a	収穫直後～収穫 約1ヵ月後	1回	立木全面散布又は枝別散布	3回以内
		ジベレリン 10ppm				立木全面散布又は枝別散布(プロトロンジヤモン 1000～2000 倍液に加用)	
		ジベレリン 2.5ppm	200～700 L/10a			11～1月 但し、 収穫後	
	落果防止	ジベレリン 10ppm	50～100 L/10a	開花始め～満開 10日後		散布(プロトロンジヤモン 1000～2000 倍液に加用)	
		ジベレリン 25～50ppm				散布	
	浮皮軽減	ジベレリン 1～5ppm	100～400 L/10a	収穫予定日の3ヵ月前 但し、収穫 45日前まで		果実散布(プロトロンジヤモン 1000～2000 倍液に加用)	
かき	落果防止	ジベレリン 12.5～ 200ppm	30～100 L/10a	満開10日後	1回	幼果及びへたに散布	1回
すもも(貴陽)	着果安定	ジベレリン 100～ 200ppm	20～50 L/10a	満開20～30日後 (第1回目) 満開 50～60日後(第2 回目)	2回	果実散布	2回
アセラ	着粒安定	ジベレリン 25ppm	100～400 L/10a	開花期	1花当り 1回	花に散布	1花そう当り3回 以内
野菜類	発芽促進	ジベレリン 50～200ppm	-	は種前	1回	種子浸漬	1回
みつば(軟化栽培を除く)	生育促進	ジベレリン 10ppm	50～100 L/10a	本葉2～3枚時 (第1回目)とその 2週間後(第2 回目)但し、収穫 14日前まで	2回	葉面散布	3回以内(種子への 処理は1回以内、 は種後は2回以 内)
みつば(軟化栽培)	生育促進	ジベレリン 20～50ppm	50～100 L/10a	根株伏込時	1回	根株上面に散布	2回以内(種子への 処理は1回以内、 根株伏込時は1回 以内)
ふき	生育促進	ジベレリン 25ppm	50～300 L/10a	葉数3～4枚時 (草丈10～30cm 頃)	1回	全面散布	1回
セリ	生育促進、 肥大促進	ジベレリン 50～100ppm	20～200 L/10a	収穫予定7～20 日前	1回	葉面散布	2回以内(種子への 処理は1回以内、 は種後は1回以 内)

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
畑わさび	花茎の抽出時期促進及び発生量増加	第1回目 ジベレリン 100ppm 第2回目 ジベレリン 100ppm	1株当たり 2ml	花芽分化後の10月下旬(第1回目)及び第1回目処理後約10日後の11月上旬(第2回目)但し、収穫60日前まで	2回	株の中心部に散布	3回以内(種子への処理は1回以内、は種後は2回以内)
たらのき(促成栽培)	萌芽促進	ジベレリン 50ppm	100~200 ml/m <sup>2</sup>	伏込時	1回	駒木散布	1回
うど(春うど)	休眠打破による生育促進	ジベレリン 50ppm	1株当たり 20~25ml	伏込時	1回	根株散布	1回
		ジベレリン 50~100ppm	-			根株浸漬	
トマト	空どう果防止	ジベレリン 10ppm	1花房当り 5ml	開花時	1花房当り 1回	花房散布(トマト落果防止剤と併用)	種子への処理は1回、1花房当り1回
なす	着果数増加	ジベレリン 10~50ppm	100~150 L/10a	開花時	1回	葉面散布	2回以内(種子への処理は1回以内、は種後は1回以内)
さやいんげん(矮性(促成又は半促成栽培))	節間伸長促進	ジベレリン 5ppm	1株当たり 2ml	本葉0.5~1.5枚展開時	2回以内	茎頂部散布	3回以内(種子への処理は1回以内、は種後は2回以内)
しそ(花穂)	穂の伸長促進 花径の伸長促進	ジベレリン 5ppm	50L/10a	出穂期 但し、収穫5日前まで	2回以内	茎葉散布	3回以内(種子への処理は1回以内、は種後は2回以内)
いちご(促成栽培)	着果数増加、熟期促進	ジベレリン 10ppm	1株当たり 5ml	休眠に入る直前(冬場の低温期)	1株当たり 6回以内	茎葉全面散布	1株当たり10回以内
いちご	果柄の伸長促進	ジベレリン 10ppm	1株当たり 5ml	頂花の出蕾直後~開花直前	1花房当り 1回	株の中心部に散布	1株当たり10回以内
いちご(親株床)	ランナー発生促進	ジベレリン 50ppm	1株当たり 10ml	採苗時ランナー発生直前~発生初期	1株当たり 1回	茎葉散布	1株当たり1回
ごぼう(促成栽培)	休眠打破による生育促進	ジベレリン 10~15ppm	50~100 L/10a	休眠に入る直前(残葉2枚程度の頃)及びその約1ヵ月後 但し、収穫30日前まで	2回以内	茎葉散布	3回以内(種子への処理は1回以内、は種後は2回以内)
メロン	着果促進	ジベレリン 200ppm	1花当り 2~5ml	開花前日~翌日	1花当り 1回	散布(4-CPA剤50倍液に加用)	種子への処理は1回、1花当り1回

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
ばれいしょ	休眠打破による萌芽促進及び小粒いもまたは全粒種いもの増収	ジベレリン 5～10ppm	-	植付前	1回	30秒間種いも浸漬	1回
			250～300ml/種いも10kg			種いも散布	
シクラメン	開花促進	ジベレリン 1～5ppm	1株当たり 2～5ml	9月中・下旬	1回	花蕾を含む芽の中心部に散布	1回
プリムラ(マラコイダス)	開花促進	ジベレリン 10～20ppm	1株当たり 2～5ml	11月上旬頃の花蕾出現直後	1回	株の中心部に散布	1回
みやこわすれ	開花促進、草丈伸長促進	ジベレリン 50～100ppm	1株当たり 10～15ml	1月中旬の保温開始時から7～10日間隔	3回	葉面散布	3回以内
きく	開花促進、草丈伸長促進	ジベレリン 25～100ppm	50～100L/10a	生育期	2回以内	茎葉散布	2回以内
しらん	開花促進、草丈伸長促進	ジベレリン 50ppm	-	植付時	1回	30分間株浸漬	1回
チュリップ(促成栽培)	開花促進	ジベレリン 400ppm	1球当たり 1ml	草丈7～20cmの時に7日間隔	2回以内	筒状の葉の中心部に滴下	2回以内
	花丈伸長促進及び茎の肥大促進	ジベレリン 100ppm		草丈7～10cm時	1回	ホルクロフェニロン0.05～0.1ppm液に加用 葉筒内に滴下	
りんどう	発芽促進	ジベレリン 50～200ppm	-	は種前	1回	種子浸漬	2回以内(種子への処理は1回以内、は種後は1回以内)
	生育促進	ジベレリン 100ppm	50～150L/10a	定植直前または定植1～5週間後		茎葉散布	
			1株当たり 5～10ml	収穫後		切株散布	
カー	生育促進	ジベレリン 50ppm	-	植付時	1回	球根浸漬	2回以内
			50～150L/10a	花茎伸長期		茎葉散布	
スパティフィラム	開花促進	ジベレリン 250～500ppm	30～40L/10a	出荷予定期の2～3カ月前	1回	茎葉散布	1回
トルコギキョウ	生育促進	ジベレリン 50～100ppm	30～40L/10a	生育期間中にゼット化した時	1回	茎葉散布	1回
リダゴ	生育促進	ジベレリン 25ppm	1株当たり 1ml	活着直後又は萌芽期	1回	茎葉散布	1回

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
アザレア	開花促進	ジベレリン 250～ 500ppm	30～40 L/10a	開花予定日約1か 月前	1回	茎葉散布	1回
アリス	生育促進	ジベレリン 50～100ppm	-	植付時	1回	球根浸漬	1回
花き類(りんどうを除く)	発芽促進	ジベレリン 50～200ppm	-	は種前	1回	種子浸漬	1回
さつき(施設栽培苗)	茎の伸長促進、花芽分化の抑制	ジベレリン 100～ 200ppm	50～100 L/10a	茎の伸長初期～ 伸長終期(開花盛 期以降)1～2週 間間隔	3回	頂芽に十分散布	3回以内
さくら(切り枝促成栽培)	休眠打破による生育促進	ジベレリン 25～50ppm	50～200 L/10a	休眠期	1回	切り枝全面散布	1回
			-			切り枝浸漬	

#### 使用上の注意事項

##### [1] 薬液の調製法及び取扱い上の注意

(1) 本剤は次表に従って所定量の水に希釈すれば希望濃度の水溶液を作ることが出来る。

1ビン40ml(ジベレリン200mg含有)当り水量

ジベレリン濃度(ppm)	1	3.3	5	10	25	50	100	200	500
[薬液+水]の総量(L)	200	60	40	20	8	4	2	1	0.4

1ビン100ml(ジベレリン500mg含有)当り水量

ジベレリン濃度(ppm)	1	3.3	5	10	25	50	100	200	500
[薬液+水]の総量(L)	500	150	100	50	20	10	5	2.5	1

(2) 使用に当ってはその都度溶解調製することが望ましい。溶解後放置すると効力が低下する場合がありますので、なるべく調製当日に使い切ること。

(3) ボルドー液等アルカリの強い薬剤との混用はさけること。

(4) 本剤の使用に当っては使用濃度、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

##### [2] 使用上の注意

(1) ぶどう

ぶどうには場合によってはサビ果の発生等、果実に障害が起こることがあるので、使用しないこと。

(2) かんきつ

<落果防止>

1) 本剤処理により生理落果が軽減され着果が安定するが、品種等により本剤に対する感受性が異なるので、初めての品種等に使用する場合は最寄りの指導機関の指導を仰ぐか自ら事前に薬効薬害を確認した上で使用すること。

2) 果面の粗滑や果皮の厚さ等果実品質への影響が懸念される場合がありますので、使用時期、濃度は守ること。

<花芽抑制による樹勢の維持>

1) 衰弱した樹勢のものに使用しても期待した効果が得られない場合があるので、衰弱した樹には使用しないこと。

2) 低温が続いた年(極端な低温の年)または花芽の減少が予測される裏年の場合は、遅い時期の低濃度処理を心がけること。

3) 散布の際は薬液が葉先からしずくとなり落下する程度に散布すること。

4) ジベレリンの使用濃度を2.5ppmで使用するときは、マシン油乳剤60～80倍液に加用する。

5) マシン油乳剤はジベレリンに加用の登録のある剤を使用し、マシン油乳剤の注意書きを確認のうえ、使用すること。

(3) 温州みかん

<花芽抑制による樹勢の維持>

- 1) ジベレリンの使用濃度を2.5ppmで使用するときは、マシン油乳剤60~80倍液または展着剤に加用する。
- 2) マシン油乳剤または展着剤はジベレリンに加用の登録のある剤を使用し、マシン油乳剤または展着剤の注意書きを確認のうえ、使用すること。

<浮皮軽減>

- 1) 本剤処理により、着色が遅延することがあるため、貯蔵期間によって使用濃度を調整すること。

使用濃度の目安

- ・貯蔵用または樹上完熟の温州みかんでは、概ね3.3~5ppm
- ・貯蔵しないあるいは貯蔵期間が短い温州みかんでは、概ね1~3.3ppm

- 2) 本剤処理により薬斑が残ることがあるため、使用に当たっては病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

(4) ワシントンネーブルの落果防止の目的で使用する場合は次の点に注意すること。

- 1) 異常に結果歩合の低いものは処理しても効果の上がないことがある。
- 2) 通常幼果1果当り小型噴霧器で0.1~0.2mL程度を噴霧する。

(5) 長門ユズキチ（無核）

長門ユズキチの落果防止および着果安定の目的で使用する場合は、薬液が花または幼果から滴り落ちる程度に散布すること。

(6) 日向夏

日向夏の無種子化および落果防止の目的で使用する場合は、薬液が花または幼果から滴り落ちる程度に散布すること。

(7) かき

(ア) 散布時期が早すぎると結実しても果実が小さくなるおそれがあるので、使用時期を誤らないこと。

(イ) 本剤の散布により結実が過多となった場合は果実が小さくなる傾向があるので仕上げ摘果を行い着果量を調節すること。

(ウ) 散布は幼果及びへたを対象にして十分かかるよう入念に行うこと。

(エ) 品種により本剤に対する感受性が異なるので、下記に記載する品種以外に対して本剤を初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるか、自ら事前に薬効及び薬害を確認した上で使用すること。

「富有、早秋、太秋、新秋、甘秋」

- 5) 「中谷早生」では着色遅延のおそれがあるため、25ppm以下の濃度で使用すること。

(8) すもも（貴陽）

- 1) 授粉を行ってから、散布すること。
- 2) 薬液が付きすぎないように、処理後、枝や棚の針金を軽く振って余分な薬液を落とすこと。
- 3) 第1回目の処理が早すぎると棘状の枝の発生が見られ、遅すぎると着果安定効果が劣る傾向があるので、所定の使用時期に使用すること。
- 4) 本剤の散布により結実が過多となった場合は、果実が小さくなる傾向があるので、予備摘果と仕上げ摘果を行い着果量を調節すること。

(9) みつば（軟化栽培を除く）

- 1) 散布する場合、葉の表裏に十分付着させること。
- 2) 高温長日条件下の散布は抽苔しやすくなるので、秋作を中心に処理した方がよい。

(10) みつば（軟化栽培）

- 1) 灌水は処理の当日はさけ、翌日に行うこと。
- 2) 散布により発生茎数が多くなるので根株の伏込みは心持ち加減すること。

(11) ふき

収穫間近に散布すると効果が減少することがあるので、使用時期を誤らないこと。

(12) セルリー

定植後約1ヶ月以内に散布すると「す」が入りやすくなるので使用をさけること。

なお、スポット散布で使用する場合は1株当たりの使用液量が5~10mLが適量である。

(13) 畑わさび

- 1) 花芽分化前に処理しても効果が出にくいので、花芽分化開始を確認してから処理すること。
- 2) 全面散布は効果が劣るので株の中心部に散布し、効果を高めるため必ず2回処理すること。気温が5℃以下では効果が劣るので11月上旬からビニール等で被覆し、保温管理すること。また、15℃以上になると花芽分化が抑制されるので、15℃以上にならないよう温度管理には十分注意すること。



- (14) たらき  
 1) 散布は散布むらがないよう噴口の小さい散布器を用いて入念に行うこと。  
 2) 薬液が芽に均一にかかるよう、駒木の高さと芽の向きを揃えておくこと。
- (15) 春うど  
 芽及び根株が十分したたる程度に散布又は瞬間浸漬すること。灌水は処理の当日はさけ、翌日に行うこと。伏込み後の目土の上からの散布は根株に吸収され難いのでさけること。
- (16) トマト  
 トマトの落果防止剤を使用した後散布すると効果が若干劣るので、本剤を先に散布するか、混用して使用すること。
- (17) いちご  
 <着果数増加・熟期促進>  
 1) 処理したいちごの果柄がのび、花、果実が葉の上に出た頃寒波がくると特に寒害を受け易いので防寒に留意すること。  
 2) 本剤の散布適期は休眠に突入して矮化が始まる直前であり、休眠に入ってからでは効果が期待できないので、時期を失わないよう、いちごの生育状況に応じて散布時期を決めること。  
 又、第1回目処理後、生育状況をみながら必要に応じて追加処理をすること。  
 3) 過剰散布は根の発育抑制やくず果を増加させるので、使用濃度、散布液量を厳守すること。  
 <果柄の伸長促進>  
 処理したいちごの果柄がのび、花、果実が葉の上に出た頃寒波がくると特に寒害を受け易いので防寒に留意すること。
- (18) ごぼう  
 1) 厳寒期は被覆資材等を利用して防寒に留意すること。  
 2) 第1回目処理後、生育状況をみながら必要に応じて追加処理をすること。
- (19) ばれいしょ  
 1) 種いも切断後の処理は薬害を生じるおそれがあるのでさけ、必ず種いもを切断せずに処理する。  
 2) 浸漬時間が長くなったり、高濃度液に浸漬すると薬害を生じるおそれがあるので所定の浸漬時間及び使用濃度を厳守する。  
 3) 薬剤処理した種いもは長時間ぬれたままにしておくと発芽遅延等の薬害を生じるので、風通しのよい場所ですみやかに乾燥させる。  
 4) 種いもを切断する場合は処理した薬液が十分乾いてから行う。  
 5) 薬剤処理した種いもは食料又は飼料には使用しない。  
 6) 品種により本剤に対する感受性が異なるので、本剤を初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受け、自ら事前に薬効及び薬害を確認した上で使用すること。
- (20) 花き  
 1) 処理濃度、量、回数は必要最小限にとどめ、徒長や軟弱化を防ぐため栽培管理に十分注意すること。  
 2) 処理の際には花蕾のある中心部めがけて噴霧すること。  
 3) チューリップ  
 <開花促進>  
 イ. 本剤のチューリップへの利用は促成栽培（促成栽培、半促成栽培）に使用する。  
 ロ. 処理時期は草丈が7～20 cm（適期：10～15 cm）の頃である。  
 ハ. ジベレリン溶液は筒状の葉の中心部に1回又は2回（7日おき）滴下する。滴下量が多くなると薬液があふれ通常は溜まる量が過剰分に引きずられて流出し、効果が不安定になるので注意する。1.0mLの滴下であふれる場合は、保持される最大量に止めること。  
 ニ. 滴下前に灌水をすませ、筒状の葉の中の水はあらかじめ取り除いておく。滴下後は2～3日灌水をひかえる。  
 ホ. 品種により、感受性の差異が見られるので感受性の強い品種（ウィリアムピット、ゴールデンハーベスト等）を選んで使用するのが有利である。  
 <花丈伸長促進及び茎の肥大促進>  
 イ. 本適用は促成栽培を対象とし、花丈伸長及び茎の肥大を促し「切花」の品質向上を目的とする。  
 ロ. 微量で鋭敏に作用し、過量の場合、花卉の奇形や肥厚の生育異常、葉や花の着色不良若しくは色抜けの生理障害等の薬害が発生しやすいので、使用時期、使用濃度及び使用方法を厳守し、滴下処理に際しては、液が葉筒内より漏れ出さないよう注意すること。薬害回避には草丈7～8cmとやや早い時期の低濃度処理をこころがけること。  
 ハ. 本適用の効果には品種間差異があるので、促成栽培品種であっても事前に最寄りの指導機関の指導を受け、効果及び薬害の有無を確認した上で使用すること。
- 4) りんどう  
 イ. 処理は葉が十分濡れる程度に散布すること。  
 ロ. 使用時期の定植直前は苗姿3～4対葉期を目安にすること。  
 ハ. 切株散布する場合は、翌年の萌芽に影響を与えないよう散布後は生育期間を十分に確保すること。

5) ソリダゴ

イ. 高温期の処理では効果を示さないので、低温期（11～3月頃）に処理すること。

ロ. 処理により草丈および切り花重がやや低下することがある。

6) さつき

さつきの未開花苗に使用する場合は、茎の伸長状況を見ながら対象品種の成木の開花時期を参考にして、使用時期を決めること。

7) さくら（切り枝促成栽培）

休眠が深い時期の処理は効果が出にくいので、自発休眠の浅い時期に処理すること。

〔3〕使用上の注意

適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬効薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

**人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法**-----

(1) 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

農薬使用者に係る注意事項

①本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。

眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。

使用後は洗眼すること。

②使用の際は農薬用マスクなどを着用すること。作業後はうがいをすること。

③浸漬処理に使用する際は不浸透性手袋などを着用すること。

(2) 使用に際して講ずべき被害防止方法

該当なし

**水産動植物に有毒な農薬については、その旨**-----

浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

**引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨**-----

危険物第四類アルコール類に属するので火気に十分注意すること。

**貯蔵上の注意事項**-----

火気をさけ、直射日光が当たらない低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 24693 号

## MIC ジベレリン粉末

特長： ●植物ホルモン的一种であるジベレリンを含有した植物成長調整剤です。  
●水溶性の粉末です。

有効成分	ジベレリン・・・3.1%	包装	(1.6g×4)×10×10 6.4g×10×10
性状	白色の顆粒状末で水に投入すると容易に溶け無色透明な溶液となる。	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
ぶどう(ヒムッ ドシートレスを除く 2倍体米国系品種) [無核栽培]	無種子化 果粒肥大促進	第1回目 ジベレリン 100ppm 第2回目 ジベレリン 75~100ppm	果房散布 の場合は 30~100 L/10a	満開予定日約 14日前(第1回 目)及び満開約 10日後(第2回 目)	2回、但し降雨 等により再処理 を行う場合は合 計4回以内	第1回目:花房浸漬 第2回目:果房浸漬 又は果房散布	2回、但し降雨 等により再 処理を行う場 合は合計4回 以内
ぶどう(ヒムッ ドシートレス)	果粒肥 大促進	ジベレリン 100ppm	-	着粒後	1回、但し降雨 等により再処理 を行う場合は合 計2回以内	果房浸漬	1回、但し降雨 等により再 処理を行う場 合は合計2回 以内
ぶどう(テラフェ ア)[無核栽培]	無種子化 果粒肥大促進	第1回目 ジベレリン 100ppm 第2回目 ジベレリン 75~100ppm	果房散布 の場合は 30~100 L/10a	満開予定日約 14日前(第1回 目)及び満開約 10日後(第2回 目)	2回、但し降雨 等により再処理 を行う場合は合 計4回以内	第1回目:花房浸漬 第2回目:果房浸漬 又は果房散布  第1回目:花房浸漬 (ホクコロフェニロン1~ 5ppm液に加用)第2 回目:果房浸漬又は 果房散布	2回、但し降雨 等により再 処理を行う場 合は合計4回 以内
ぶどう(キャンベ ルアーを除く2 倍体米国系品 種)[有核栽培]	果粒肥 大促進	ジベレリン 50ppm	-	満開10~15日 後	1回、但し降雨 等により再処理 を行う場合は合 計2回以内	果房浸漬	1回、但し降雨 等により再 処理を行う場 合は合計2回 以内

作物名	使用目的	使用濃度	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ジベレリンを 含む農薬の総 使用回数
ぶどう(キャンベルアーリー)[有核栽培]	果粒肥大促進	ジベレリン 50ppm	-	満開 10～15 日後	1 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 2 回以内	果房浸漬	2 回以内、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 3 回以内
	果房伸長促進	ジベレリン 3～5ppm	30～100 L/10a	満開予定日約 20～30 日前(展葉 3～5 枚時)	1 回	花房散布	
ぶどう(2 倍体 欧州系品種)[無核栽培]	無種子化 果粒肥大促進	第 1 回目 ジベレリン 25ppm 第 2 回目 ジベレリン 25ppm	-	満開時～満開 3 日後(第 1 回目) 及び満開 10～15 日後(第 2 回目)	2 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 4 回以内	第 1 回目:花房浸漬 第 2 回目:果房浸漬	3 回以内、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 5 回以内
		ジベレリン 25ppm	-	満開 3～5 日後 (落花期)	1 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 2 回以内	花房浸漬(ホルクロルフェニロン 10ppm 液に追加)	
	果房伸長促進	ジベレリン 3～5ppm	30～100 L/10a	展葉 3～5 枚時	1 回	花房散布	
ぶどう(ヒロンブルグを除く 2 倍体欧州系品種)[有核栽培]	果粒肥大促進	ジベレリン 25ppm	-	満開 10～20 日後	1 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 2 回以内	果房浸漬	1 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 2 回以内
ぶどう(ヒロンブルグ)[有核栽培]	果粒肥大促進	ジベレリン 50～100ppm	果房散布 の場合は 70～80 L/10a	満開 10～15 日後	1 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 2 回以内	果房浸漬又は果房散布	1 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 2 回以内
ぶどう(キングデラ、ハーフシードレス、BK シードレスを除く 3 倍体品種)	着粒安定 果粒肥大促進	第 1 回目 ジベレリン 25～50ppm 第 2 回目 ジベレリン 25～50ppm	-	満開時～満開 3 日後(第 1 回目) 及び満開 10～15 日後(第 2 回目)	2 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 4 回以内	第 1 回目:花房浸漬 第 2 回目:果房浸漬	3 回以内、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 5 回以内
	果房伸長促進	ジベレリン 3～5ppm	30～100 L/10a	展葉 3～5 枚時	1 回	花房散布	
ぶどう(BK シードレス)	着粒安定 果粒肥大促進	第 1 回目 ジベレリン 25～50ppm 第 2 回目 ジベレリン 25～50ppm	-	満開時～満開 3 日後(第 1 回目) 及び満開 10～15 日後(第 2 回目)	2 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 4 回以内	第 1 回目:花房浸漬 第 2 回目:果房浸漬	2 回以内、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 4 回以内
		ジベレリン 100ppm	-	満開 3～6 日後	1 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 2 回以内	花房又は果房浸漬	

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
ぶどう(キングデラ)	着粒安定 果粒肥大促進	第1回目 ジベレリン 50ppm 第2回目 ジベレリン 50~100ppm	果房散布の場合は 50~100 L/10a	満開時~満開3 日後(第1回目) 及び満開10~ 15日後(第2回 目)	2回	第1回目:花房浸漬 第2回目:果房浸漬 又は果房散布	2回
ぶどう(ハートドレス)	着粒安定 果粒肥大促進	ジベレリン 100ppm	-	満開3~6日後	1回、但し降雨 等により再処理 を行う場合は合 計2回以内	花房又は果房浸漬	1回、但し降 雨等により再 処理を行う場 合は合計2回 以内
ぶどう(サールジュを除く巨峰系4倍体品種)[無核栽培]	無種子化 果粒肥大促進	第1回目 ジベレリン 12.5~25ppm 第2回目 ジベレリン 25ppm	-	満開時~満開3 日後(第1回目) 及び満開10~ 15日後(第2回 目)	2回、但し降雨 等により再処理 を行う場合は合 計4回以内	第1回目:花房浸漬 第2回目:果房浸漬	3回以内、但 し降雨等によ り再処理を行 う場合は合計 5回以内
		ジベレリン 25ppm		満開3~5日後 (落花期)	1回、但し降雨 等により再処理 を行う場合は合 計2回以内		
	無種子化	ジベレリン 12.5~25ppm	満開時~満開3 日後	花房浸漬(満開10~ 15日後にホルクロフェニ ロンによる果粒肥大促 進処理を行うこと。)			
	果房伸 長促進	ジベレリン 3~5ppm	30~100 L/10a	展葉3~5枚時	1回	花房散布	
ぶどう(サールジュ)[無核栽培]	無種子化 果粒肥大促進	第1回目 ジベレリン 12.5~25ppm 第2回目 ジベレリン 25ppm	-	満開時~満開3 日後(第1回目) 及び満開10~ 15日後(第2回 目)	2回、但し降雨 等により再処理 を行う場合は合 計4回以内	第1回目:花房浸漬 第2回目:果房浸漬	3回以内、但 し降雨等によ り再処理を行 う場合は合計 5回以内
		ジベレリン 25ppm		満開3~5日後 (落花期)	1回、但し降雨 等により再処理 を行う場合は合 計2回以内		
	無種子化	ジベレリン 12.5~25ppm	満開時~満開3 日後	花房浸漬(満開10~ 15日後にホルクロフェニ ロンによる果粒肥大促 進処理を行うこと。)			
	果房伸 長促進	ジベレリン 3~5ppm	30~100 L/10a	展葉3~5枚時	1回	花房散布	
	着粒密 度低減 果粒肥 大促進	第1回目 ジベレリン 25ppm 第2回目 ジベレリン 25ppm	-	満開予定日14 ~20日前(第1 回目)及び満開 10~15日後(第 2回目)	2回、但し降雨 等により再処理 を行う場合は合 計4回以内	第1回目:花房浸漬 (ホルクロフェニロン 3ppm 液)に(加用)、第2回 目:果房浸漬	

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
ぶどう(巨峰)[有核栽培]	果粒肥大促進	ジベレリン 25ppm	-	満開 10~20 日後	1 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 2 回以内	果房浸漬	1 回 但し降雨等により再処理を行う場合は合計 2 回以内
ぶどう(ルビーロマン)[有核栽培]	果粒肥大促進	ジベレリン 25ppm	-	満開 10~20 日後	1 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 2 回以内	果房浸漬	1 回 但し降雨等により再処理を行う場合は合計 2 回以内
ぶどう(高尾)	果粒肥大促進	ジベレリン 50~100ppm	-	満開時~満開 7 日後	1 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 2 回以内	花房又は果房浸漬	1 回 但し降雨等により再処理を行う場合は合計 2 回以内
ぶどう(ふくしずく)	果粒肥大促進	ジベレリン 50~100ppm	-	満開時~満開 7 日後	1 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 2 回以内	花房又は果房浸漬	1 回 但し降雨等により再処理を行う場合は合計 2 回以内
ぶどう(あづましずく)	果粒肥大促進	第 1 回目 ジベレリン 25~50ppm 第 2 回目 ジベレリン 50ppm	-	満開時(第 1 回目) 満開 4~13 日後(第 2 回目)	2 回以内、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 4 回以内	果房浸漬	2 回以内、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 4 回以内
かんきつ(苗木、ただし、温州みかんを除く)	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 25~50ppm	50~250 L/10a	12~3 月	1 回	立木全面散布又は枝別散布	1 回
かんきつ(不知火、ぼんかん、かぼす、清見、はるみ、リントンネブル、日向夏、すだち、平兵衛酢、長門ユズ、無核)、温州みかん、きんかん、紅まどんなを除く)	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 2.5ppm	200~700 L/10a	収穫後~3 月	1 回	立木全面散布又は枝別散布(マシン油乳剤 60~80 倍液に加用)	1 回
		ジベレリン 10ppm	50~250 L/10a	収穫直後~収穫 約 1 ヶ月後	1 回	立木全面散布又は枝別散布(プロトロンジヤモン 2000 倍液に加用)	
		ジベレリン 25~50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ジベレリン 25~50ppm	50~100 L/10a	開花始め~満開 10 日後	1 回	散布	
ジベレリン 10ppm	散布(プロトロンジヤモン 2000 倍液に加用)						

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
不知火	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 2.5ppm	200~700 L/10a	収穫後~3月	1回	立木全面散布又は枝別散布(マシン油乳剤60~80倍液に追加)	3回以内
		ジベレリン 10ppm	50~250 L/10a	収穫直後~収穫約1ヶ月後		立木全面散布又は枝別散布(プロトローヂャセン2000倍液に追加)	
		ジベレリン 25~50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ジベレリン 25~50ppm	50~100 L/10a	開花始め~満開10日後		散布	
		ジベレリン 10ppm				散布(プロトローヂャセン2000倍液に追加)	
	水腐れ軽減	ジベレリン 0.5~1ppm	50~500 L/10a	着色終期 但し、収穫7日前まで		果実散布	
はるみ	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 2.5ppm	200~700 L/10a	収穫後~3月	1回	立木全面散布又は枝別散布(マシン油乳剤60~80倍液に追加)	3回以内
		ジベレリン 10ppm	50~250 L/10a	収穫直後~収穫約1ヶ月後		立木全面散布又は枝別散布(プロトローヂャセン2000倍液に追加)	
		ジベレリン 25~50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ジベレリン 25~50ppm	50~100 L/10a	開花始め~満開10日後		散布	
		ジベレリン 10ppm				散布(プロトローヂャセン2000倍液に追加)	
	水腐れ軽減	ジベレリン 0.5~1ppm	50~500 L/10a	着色終期 但し、収穫7日前まで		果実散布	
紅まどんな	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 2.5ppm	200~700 L/10a	収穫後~3月	1回	立木全面散布又は枝別散布(マシン油乳剤60~80倍液に追加)	3回以内
		ジベレリン 10ppm	50~250 L/10a	収穫直後~収穫約1ヶ月後		立木全面散布又は枝別散布(プロトローヂャセン2000倍液に追加)	
		ジベレリン 25~50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ジベレリン 25~50ppm	50~100 L/10a	開花始め~満開10日後		散布	
		ジベレリン 10ppm				散布(プロトローヂャセン2000倍液に追加)	
	水腐れ軽減	ジベレリン 0.5~1ppm	50~500 L/10a	着色終期 但し、収穫7日前まで		果実散布	



作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
ぼんかん	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 2.5ppm	200~700 L/10a	収穫後~3月	1回	立木全面散布又は枝別散布(マシン油乳剤60~80倍液に加用)	1回
		ジベレリン 10ppm	50~250 L/10a	収穫直後~収穫約1ヶ月後		立木全面散布又は枝別散布(プロトロンジャスモン2000倍液に加用)	
		ジベレリン 25~50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ジベレリン 25~50ppm	50~100 L/10a	開花始め~満開10日後		散布	
		ジベレリン 10ppm				散布(プロトロンジャスモン2000倍液に加用)	
	水腐れ軽減	ジベレリン 0.5ppm	50~500 L/10a	着色始期~4分着色期 但し、収穫21日前まで		果実散布	
長門スズキ(無核)	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 10ppm	50~250 L/10a	収穫直後~収穫約1ヶ月後	1回	立木全面散布又は枝別散布(プロトロンジャスモン2000倍液に加用)	1回
		ジベレリン 25~50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ジベレリン 25~50ppm	50~100 L/10a	開花始め~満開10日後		散布	
		ジベレリン 10ppm				散布(プロトロンジャスモン2000倍液に加用)	
	着果安定	ジベレリン 50ppm	50~100 L/10a	開花期~開花終期		花又は果実散布	
	果皮の緑色維持	ジベレリン 10~25ppm	50~400 L/10a	収穫予定14~30日前		果実散布	
すだち	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 10ppm	50~250 L/10a	収穫直後~収穫約1ヶ月後	1回	立木全面散布又は枝別散布(プロトロンジャスモン2000倍液に加用)	1回
		ジベレリン 25~50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ジベレリン 25~50ppm	50~100 L/10a	開花始め~満開10日後		散布	
		ジベレリン 10ppm				散布(プロトロンジャスモン2000倍液に加用)	
	果皮の緑色維持	ジベレリン 5~25ppm	50~400 L/10a	収穫予定7~30日前		果実散布	



作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
平兵衛酢	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～収穫 約1ヶ月後	1回	立木全面散布又は枝別散布(プロトロジヤモン 2000 倍液に加用)	1回
		ジベレリン 25～50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ジベレリン 25～50ppm	50～100 L/10a	開花始め～満開 10日後		散布	
		ジベレリン 10ppm				散布(プロトロジヤモン 2000 倍液に加用)	
	果皮の緑色維持	ジベレリン 10～25ppm	50～400 L/10a	収穫予定 14～ 30 日前		果実散布	
かぼす	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～収穫 約1ヶ月後	1回	立木全面散布又は枝別散布(プロトロジヤモン 2000 倍液に加用)	1回
		ジベレリン 25～50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ジベレリン 25～50ppm	50～100 L/10a	開花始め～満開 10日後		散布	
		ジベレリン 10ppm				散布(プロトロジヤモン 2000 倍液に加用)	
	果皮の緑色維持	ジベレリン 10～25ppm	50～400 L/10a	収穫予定 14～ 30 日前		果実散布	
ワシントンネーブル	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 2.5ppm	200～700 L/10a	収穫後～3月	1回	立木全面散布又は枝別散布(マシン油乳剤 60～80 倍液に加用)	1回
		ジベレリン 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～収穫 約1ヶ月後		立木全面散布又は枝別散布(プロトロジヤモン 2000 倍液に加用)	
		ジベレリン 25～50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ジベレリン 500ppm	30～40 L/10a	満開 10～20 日後の幼果期		幼果に散布	

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
日向夏	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 2.5ppm	200～700 L/10a	収穫後～3月	1回	立木全面散布又は枝別散布(マシン油乳剤60～80倍液に加用)	1回
		ジベレリン 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～収穫約1ヶ月後		立木全面散布又は枝別散布(プロトローヂャモン2000倍液に加用)	
		ジベレリン 25～50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	無種子化落果防止	ジベレリン 300～500ppm	30～40 L/10a	満開7～10日後		果実散布	
清見	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 2.5ppm	200～700 L/10a	収穫後～3月	1回	立木全面散布又は枝別散布(マシン油乳剤60～80倍液に加用)	1回
		ジベレリン 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～収穫約1ヶ月後		立木全面散布又は枝別散布(プロトローヂャモン2000倍液に加用)	
		ジベレリン 25～50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ジベレリン 25～50ppm	50～100 L/10a			散布	
		ジベレリン 10ppm				散布(プロトローヂャモン1000～2000倍液に加用)	
きんかん	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 2.5ppm	200～700 L/10a	収穫後～3月	1回	立木全面散布又は枝別散布(マシン油乳剤60～80倍液に加用)	1回
		ジベレリン 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～収穫約1ヶ月後		立木全面散布又は枝別散布(プロトローヂャモン2000倍液に加用)	
		ジベレリン 25～50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
	落果防止	ジベレリン 25～50ppm	50～250 L/10a			散布	
		ジベレリン 10ppm				散布(プロトローヂャモン2000倍液に加用)	
	着果安定	ジベレリン 300ppm	30～60 L/10a	一番花開花期		花に散布	

作物名	使用的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
温州みかん (苗木)	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 25～50ppm	50～250 L/10a	11～1月	1回	立木全面散布又は枝別散布	1回
		ジベレリン 10ppm				立木全面散布又は枝別散布(プロピトロジヤモン 1000～2000 倍液に 加用)	
		ジベレリン 2.5ppm	200～700 L/10a			立木全面散布又は枝別散布(マシン油乳剤 60～80 倍液又は展着剤に 加用)	
温州みかん	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 25～50ppm	50～250 L/10a	収穫直後～収穫 約1ヶ月後	1回	立木全面散布又は枝別散布	3回以内
		ジベレリン 10ppm				立木全面散布又は枝別散布(プロピトロジヤモン 1000～2000 倍液 に加用)	
		ジベレリン 2.5ppm	200～700 L/10a	11～1月 但し、 収穫後		立木全面散布又は枝別散布(マシン油乳剤 60～80 倍液又は展着剤に 加用)	
	落果防止	ジベレリン 25～50ppm	50～100 L/10a	開花始め～満開 10日後		散布	
		ジベレリン 10ppm				散布(プロピトロジヤモン 1000～2000 倍液に 加用)	
		ジベレリン 1～5ppm	100～400 L/10a	収穫予定日の3 ヶ月前 但し、収 穫 45 日前まで		果実散布(プロピトロジヤモン 1000～2000 倍 液に加用)	
びわ(3倍体)	着果安定 果実肥大促進	第1回目 ジベレリン 200ppm 第2回目 ジベレリン 200ppm	-	満開予定日約7 日前～満開時 (第1回目)及び 第1回目処理後 35～60日(第2 回目)	2回	ホルクローフェニユロン 20ppm 液に加用、第1回目: 花房浸漬 第2回 目:果房浸漬	2回
すもも(貴陽)	着果安定	ジベレリン 100～200ppm	20～50 L/10a	満開 20～30 日 後(第1回目) 満開 50～60 日 後(第2回目)	2回	果実散布	2回
かき	落果防止	ジベレリン 12.5～200ppm	30～100 L/10a	満開 10 日後	1回	幼果及びへたに散布	1回
アセロラ	着粒安定	ジベレリン 25ppm	100～400 L/10a	開花期	1花当たり1回	花に散布	1花そう当り 3回以内

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
野菜類	発芽促進	ジベレリン 50～200ppm	-	は種前	1回	種子浸漬	1回
みつば(軟化栽培を除く)	生育促進	ジベレリン 10ppm	50～100 L/10a	本葉2～3枚時(第1回目)とその2週間後(第2回目)但し、収穫14日前まで	2回	葉面散布	3回以内(種子への処理は1回以内、は種後は2回以内)
みつば(軟化栽培)	生育促進	ジベレリン 20～50ppm	50～100 L/10a	根株伏込時	1回	根株上面に散布	2回以内(種子への処理は1回以内、根株伏込時は1回以内)
トマト	空どう果防止	ジベレリン 10ppm	1花房当り 5ml	開花時	1花房当り1回	花房散布(トマト落果防止剤と併用)	種子への処理は1回、1花房当り1回
なす	着果数増加	ジベレリン 10～50ppm	100～150 L/10a	開花時	1回	葉面散布	2回以内(種子への処理は1回以内、は種後は1回以内)
さやいんげん(矮性(促成又は半促成栽培))	節間伸長促進	ジベレリン 5ppm	1株当り 2ml	本葉0.5～1.5枚展開時	2回以内	茎頂部散布	3回以内(種子への処理は1回以内、は種後は2回以内)
しそ(花穂)	穂の伸長促進 花径の伸長促進	ジベレリン 5ppm	50 L/10a	出穂期 但し、収穫5日前まで	2回以内	茎葉散布	3回以内(種子への処理は1回以内、は種後は2回以内)
いちご(促成栽培)	着果数増加 熟期促進	ジベレリン 10ppm	1株当り 5ml	休眠に入る直前(冬場の低温期)	1株当り6回以内	茎葉全面散布	1株当り10回以内
いちご	果柄の伸長促進	ジベレリン 10ppm	1株当り 5ml	頂花の出蕾直後～開花直前	1花房当り1回	株の中心部に散布	1株当り10回以内
いちご(親株床)	ランナー発生促進	ジベレリン 50ppm	1株当り 10ml	採苗時ランナー発生直前～発生初期	1株当り1回	茎葉散布	1株当り1回
メロン	着果促進	ジベレリン 200ppm	1花当り 2～5ml	開花前日～翌日	1花当り1回	散布(4-CPA剤50倍液に加用)	種子への処理は1回、1花当り1回

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
うど(春うど)	休眠打破による生育促進	ジベレリン 50ppm	1株当たり 20~25ml	伏込時	1回	根株散布	1回
		ジベレリン 50~100ppm	-	伏込時	1回	根株浸漬	
たらのき(促成栽培)	萌芽促進	ジベレリン 50ppm	100~200 ml/m <sup>2</sup>	伏込時	1回	駒木散布	1回
ふき	生育促進	ジベレリン 25ppm	50~300 L/10a	葉数3~4枚時 (草丈10~30cm 頃)	1回	全面散布	1回
セルー	生育促進 肥大促進	ジベレリン 50~100ppm	20~200 L/10a	収穫予定7~20 日前	1回	葉面散布	2回以内(種子への処理は1回以内、は種後は1回以内)
畑わさび	花茎の抽出時期促進及び発生量増加	第1回目 ジベレリン 100ppm 第2回目 ジベレリン 100ppm	1株当たり 2ml	花芽分化後の10月下旬(第1回目)及び第1回目処理後約10日後の11月上旬(第2回目)但し、収穫60日前まで	2回	株の中心部に散布	3回以内(種子への処理は1回以内、は種後は2回以内)
ばれいしょ	休眠打破による萌芽促進及び小粒いもまたは全粒種いもの増収	ジベレリン 5~10ppm	-	植付前	1回	30秒間種いも浸漬	1回
		ジベレリン 5~10ppm	250~300 ml/種いも 10kg	植付前	1回	種いも散布	
花き類(りんどうを除く)	発芽促進	ジベレリン 50~200ppm	-	は種前	1回	種子浸漬	1回
りんどう	発芽促進	ジベレリン 50~200ppm	-	は種前	1回	種子浸漬	2回以内(種子への処理は1回以内、は種後は1回以内)
		ジベレリン 100ppm	50~150 L/10a	定植直前または定植1~5週間後	1回	茎葉散布	
		ジベレリン 100ppm	1株当たり 5~10ml	収穫後	1回	切株散布	

作物名	使用目的	使用濃度	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ジベレリンを 含む農薬の総 使用回数
カー	生育促進	ジベレリン 50ppm	-	植付時	1回	球根浸漬	2回以内
		ジベレリン 50ppm	50~150 L/10a	花茎伸長期	1回	茎葉散布	
トルコギキョウ	生育促進	ジベレリン 50~100ppm	30~40 L/10a	生育期間中にロ ゼット化した時	1回	茎葉散布	1回
ツリダゴ	生育促進	ジベレリン 25ppm	1株当り 1ml	活着直後又は萌 芽期	1回	茎葉散布	1回
アイリス	生育促進	ジベレリン 50~100ppm	-	植付時	1回	球根浸漬	1回
シクラメン	開花促進	ジベレリン 1~5ppm	1株当り 2~5ml	9月中・下旬	1回	花蕾を含む芽の中心 部に散布	1回
プリムラ(マラコイデ ス)	開花促進	ジベレリン 10~20ppm	1株当り 2~5ml	11月上旬頃の 花蕾出現直後	1回	株の中心部に散布	1回
チューリップ(促成 栽培)	開花促進	ジベレリン 400ppm	1球当り 1ml	草丈7~20cmの 時に7日間隔	2回以内	筒状の葉の中心部に 滴下	2回以内
スパティフィラム	開花促進	ジベレリン 250~500ppm	30~40 L/10a	出荷予定期の2 ~3ヶ月前	1回	茎葉散布	1回
みやこわすれ	開花促進 草丈 伸長促進	ジベレリン 50~100ppm	1株当り 10~15ml	1月中旬の保温 開始時から7~ 10日間隔	3回	葉面散布	3回以内
きく	開花促進 草丈 伸長促進	ジベレリン 25~100ppm	50~100 L/10a	生育期	2回以内	茎葉散布	2回以内
しらん	開花促進 草丈 伸長促進	ジベレリン 50ppm	-	植付時	1回	30分間株浸漬	1回
アザレア	開花促進	ジベレリン 250~500ppm	30~40 L/10a	開花予定日約1 ヶ月前	1回	茎葉散布	1回
さつき(施設 栽培苗)	茎の伸 長促進 花芽分 化の抑 制	ジベレリン 100~200ppm	50~100 L/10a	茎の伸長初期~ 伸長終期(開花 盛期以降)1~2 週間間隔	3回	頂芽に十分散布	3回以内
さくら(切り 枝促成栽培)	休眠打 破によ る生育 促進	ジベレリン 25~50ppm	50~200 L/10a	休眠期	1回	切り枝全面散布	1回
		ジベレリン 25~50ppm	-	休眠期	1回	切り枝浸漬	

## 使用上の注意事項

### [1] 薬液の調製法及び取扱い上の注意

(1) 本剤は次表に従って所定量の水に希釈すれば希望濃度の水溶液を作ることが出来る。

#### 1. 6g 包 1 本 (ジベレリン 50mg 含有) 当り水量

ジベレリン濃度 (ppm)	1	3.3	5	10	12.5	25	50	75	100
水量 (L)	50	15	10	5	4	2	1	0.67	0.5

#### 6. 4g 包 1 本 (ジベレリン 200mg 含有) 当り水量

ジベレリン濃度 (ppm)	1	3.3	5	10	12.5	25	50	75	100
水量 (L)	200	60	40	20	16	8	4	2.67	2

#### 10. 6g 包 1 本 (ジベレリン 330mg 含有) 当り水量

ジベレリン濃度 (ppm)	1	3.3	5	10	12.5	25	50	75	100
水量 (L)	330	100	66	33	26.4	13.2	6.6	4.4	3.3

(2) 薬液は使用の都度調製し、なるべく調製当日に使用すること。また調製液はなるべく日陰に置くこと。

(3) ボルドー液等アルカリ性薬剤との混用はさけること。

(4) 本剤の使用に当たっては使用濃度、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

### [2] 使用上の注意

#### (1) ぶどう

1) ぶどうに関する作物名中の品種による区分は、ジベレリンに対するぶどうの反応性の違いを考慮した区分なので、ぶどうの品種がどの区分 (品種群) に該当するか、病害虫防除所等関係機関に確認してから使用すること。

2) 下記③の「ぶどうの品種による区分」に記載のない品種に対して本剤を初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるか、自ら事前に薬効及び薬害を確認した上で使用すること。

3) ぶどうの品種による区分

イ. 2倍体米国系品種

「マスカット・ベリーA」「アーリースチューベン (バッファロー)」「旅路 (紅塩谷)」

ロ. 2倍体欧州系品種

「ロザリオ ビアッコ」「ロザキ」「瀬戸ジャイアンツ」「マリオ」「アリサ」「イタリア」「紫苑」「ルーベルマスカット」「ロザリオ ロッソ」「シャインマスカット」

ハ. 3倍体品種

「サマーブラック」「美嶺」「ナガノパープル」「キングデラ」「ハニーシードレス」「BK シードレス」

ニ. 巨峰系 4倍体品種

「巨峰」「ピオーネ」「安芸クイーン」「翠峰」「サニールージュ」「藤稔」「高妻」「白峰」「ゴルビー」「多摩ゆたか」「紫玉」「黒王」「紅義」「シナノスマイル」「ハイベリー」「オーロラブラック」(「あづましずく」「ふくしずく」等の巨峰系 4倍体シードレス品種は該当しない)

4) 降雨や、異常乾燥 (フェーン現象等による異常乾燥) の心配の無い日を選んで処理すること。

5) 処理後の天候急変 (降雨、異常乾燥) で本剤の吸収が不十分になるおそれがある場合には、ジベレリンを含む農薬の総使用回数の範囲内で再処理を行うことができる。なお、再処理に当たっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けること。

6) 本剤は樹勢の弱い樹や登熟の悪い枝等に対しては、効果が不十分なので使用をさけること。樹勢がやや強めの方が安定した効果が得られるが、極端に樹勢が強い場合はかえって効果が出にくいので樹勢の管理には十分気をつけること。栽培管理については、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

7) 本剤の使用により、着粒が安定するとともに果粒の肥大が促進されるので、着粒過多 (過密着) による裂果発生のおそれがある。また、果梗が硬化し脱粒しやすくなるので、裂果や脱粒を未然に防ぐため、開花前の整房や着粒後の摘粒等の栽培管理を適切に行うこと。栽培管理については、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

8) 使用時期や使用濃度を誤ると、花振り、着粒過多 (過密着)、有核果混入等のおそれがあるので、使用時期、使用濃度は厳守すること。

9) 無種子化を目的とした着粒前の処理の際は、特に丁寧に処理することを心がけ、薬液が花蕾全体に十分いきわたるよう注意すること。

- 10) 果粒肥大促進を目的とした着粒後の処理の際は、薬液が付きすぎないように、処理後ぶどうの枝やぶどう棚の針金を軽く振って余分な薬液を落とすこと。
  - 11) 本剤をぶどう（2倍体米国系品種）に無種子化・果粒肥大促進の目的で使用する場合は、第2回目処理を浸漬で行うときは100ppmで処理すること。また、第2回目処理を散布で行うときは75～100ppm（80～100L/10a）で処理する。散布で行う場合、散布処理は浸漬処理に比べ果粒肥大がやや劣ることがあるので、健全な樹に対して行い、薬液が果房に十分かかるように注意すること。
  - 12) 本剤とストレプトマイシン剤を併用することで無核果率の向上を図ることができる。使用に当たっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。また、ストレプトマイシン剤の使用上の注意事項を厳守すること。
  - 13) 本剤をぶどう（デラウェア）〔無核栽培〕で使用する場合は、満開予定日約14日前よりも早く処理するときは、花振りすることがあるのでホルクロルフェニユロン剤を加用すること。また、ホルクロルフェニユロン剤を加用して処理する際は、ホルクロルフェニユロン剤の使用上の注意事項を厳守すること。
  - 14) 本剤をぶどうの果房伸長促進の目的で使用する場合は、必ず花房だけを目がけて花房全体が十分濡れる程度に部分散布する。この時期に誤って大量の薬液が枝や葉にかかると、その翌年に発芽不良などの新梢の生育障害が起こるおそれがあるので、動力噴霧機やスピードスプレーヤなどによる全面散布は行わないこと。
  - 15) ぶどう（あづましずく）に使用する場合は、満開4～13日後の1回処理で十分な効果が得られるが、栽培方法や樹勢等によっては満開時と満開4～13日後の2回処理する必要があるため、使用に当たっては病害虫防除所等関係機関の指導を受けること。
  - 16) ぶどう（巨峰、ルビーロマン、ハニービーナス）〔有核栽培〕に果粒肥大促進の目的で使用する場合は、早めの処理により無核化率が増加する傾向があるので、有核粒の結実を確認してから処理すること。
- (2) かんきつ
- ＜落果防止＞
- 1) 剤処理により生理落果が軽減され着果が安定するが、品種等により本剤に対する感受性が異なるので、初めての品種等に使用する場合は最寄りの指導機関の指導を仰ぐか自ら事前に薬効薬害を確認した上で使用すること。
  - 2) 果面の粗滑や果皮の厚さ等果実品質への影響が懸念される場合があるので、使用時期、濃度は守ること。
- ＜花芽抑制による樹勢の維持＞
- 1) 衰弱した樹勢のものに使用しても期待した効果が得られない場合があるので、衰弱した樹には使用しないこと。
  - 2) 低温が続いた年（極端な低温の年）または花芽の減少が予測される裏年の場合は、遅い時期の低濃度処理を心がけること。
  - 3) 散布の際は薬液が葉先からしずくとなり落下する程度に散布すること。
  - 4) ジベレリンの使用濃度を2.5ppmで使用するときは、マシン油乳剤60～80倍液に加用する。
  - 5) マシン油乳剤はジベレリンに加用の登録のある剤を使用し、マシン油乳剤の注意書きを確認のうえ、使用すること。
- (3) 温州みかん
- ＜花芽抑制による樹勢の維持＞
- 1) ジベレリンの濃度を2.5ppmで使用するときは、マシン油乳剤60～80倍液または展着剤に加用する。
  - 2) マシン油乳剤または展着剤はジベレリンに加用の登録のある剤を使用し、マシン油乳剤または展着剤の注意書きを確認のうえ、使用すること。
- ＜浮皮軽減＞
- 1) 本剤処理により、着色が遅延することがあるため、貯蔵期間によって使用濃度を調整すること。  
使用濃度の目安
    - ・貯蔵用または樹上完熟の温州みかんでは、概ね3.3～5ppm
    - ・貯蔵しないあるいは貯蔵期間が短い温州みかんでは、概ね1～3.3ppm
  - 2) 本剤処理により薬斑が残ることがあるため、使用に当たっては病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (4) ワシントンネーブルの落果防止の目的で使用する場合は次の点に注意すること。
- 1) 異常に結果歩合の低いものは処理しても効果の上がないことがある。
  - 2) 通常幼果1果当り小型噴霧器で0.1～0.2mL程度を噴霧する。
- (5) 長門ユズキチ（無核）  
長門ユズキチの落果防止および着果安定の目的で使用する場合は、薬液が花または幼果から滴り落ちる程度に散布すること。
- (6) 日向夏  
日向夏の無種子化および落果防止の目的で使用する場合は、薬液が花または幼果から滴り落ちる程度に散布すること。



- (7) びわ（3倍体）
- 1) 本剤処理しないとすべて落果するので必ず処理すること。
  - 2) 樹勢が弱いと果実肥大等の効果が出にくい場合があるので、樹勢は強めに維持すること。2回目処理時に1果そうに数果残しておき、果形の良否が判断できる時期に品質の良い果実を残して摘果し、適正着果量をこころがけること。
  - 3) 第1回目の使用時期が早すぎると果梗部のネックが発生しやすく、第2回目の使用時期が遅すぎたり、使用濃度が高い場合は果面の緑斑が残りやすい傾向があるので、使用時期、使用濃度を守ること。
- (8) かき
- 1) 散布時期が早すぎると結実しても果実が小さくなるおそれがあるので、使用時期を誤らないこと。
  - 2) 本剤の散布により結実が過多となった場合は果実が小さくなる傾向があるので仕上げ摘果を行い着果量を調節すること。
  - 3) 散布は幼果及びへたを対象にして十分かかるよう入念に行うこと。
  - 4) 品種により本剤に対する感受性が異なるので、下記に記載する品種以外に対して本剤を初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるか、自ら事前に薬効及び薬害を確認した上で使用すること。「富有、早秋、太秋、新秋、甘秋」
  - 5) 「中谷早生」では着色遅延のおそれがあるため、25ppm以下の濃度で使用すること。
- (9) すもも（貴陽）
- 1) 授粉を行ってから、散布すること
  - 2) 付きすぎないように、処理後、枝や棚の針金を軽く振って余分な薬液を落とすこと。
  - 3) 第1回目の処理が早すぎると棘状の枝の発生が見られ、遅すぎると着果安定効果が劣る傾向があるので、所定の使用時期に使用すること。
  - 4) 本剤の散布により結実が過多となった場合は、果実が小さくなる傾向があるので、予備摘果と仕上げ摘果を行い着果量を調節すること。
- (10) みつば（軟化栽培を除く）
- 葉の表裏に十分散布すること。高温長日条件下の散布は抽苔しやすくなるので、秋作を中心に処理した方がよい。
- (11) みつば（軟化栽培）
- 灌水は処理の当日はさけ、翌日に行うこと。散布により発生茎数が多くなるので根株の伏込みは心持ち加減すること。
- (12) トマト
- 落果防止剤を使用した後の本剤の散布は効果が若干劣るので、本剤を先に散布するか、又は混用して使用すること。
- (13) いちご
- <着果数増加・熟期促進>
- 1) 処理したいちごの果柄がのび、花、果実が葉の上に出た頃寒波がくると特に寒害を受け易いので防寒に留意すること。
  - 2) 本剤の散布適期は休眠に突入して矮化が始まる直前であり、休眠に入ってからでは効果が期待できないので、時期を失わないよう、いちごの生育状況に応じて散布時期を決めること。  
又、第1回目処理後、生育状況をみながら必要に応じて追加処理をすること。
  - 3) 過剰散布は根の発育抑制やくず果を増加させるので、使用濃度、散布液量を厳守すること。
- <果柄の伸長促進>
- 処理したいちごの果柄がのび、花、果実が葉の上に出た頃寒波がくると特に寒害を受け易いので防寒に留意すること。
- (14) セルリー
- 定植後約1ヶ月以内に散布すると「す」が入りやすくなるので使用をさけること。  
なお、スポット散布で使用する場合は1株当たりの使用液量が5～10mLが適量である。
- (15) 春うど
- 芽及び根株が十分したたる程度に散布又は瞬間浸漬すること。灌水は処理の当日はさけ、翌日に行うこと。伏込み後の目土の上からの散布は根株に吸収され難いのでさけること。
- (16) ふき
- 収穫間近に散布すると効果が減少することがあるので、使用時期を誤らないこと。
- (17) 畑わさび
- 1) 花芽分化前に処理しても効果が出にくいので、花芽分化開始を確認してから処理すること。
  - 2) 全面散布は効果が劣るので株の中心部に散布し、効果を高めるため必ず2回処理すること。気温が5℃以下では効果が劣るので11月上旬からビニール等で被覆し、保温管理すること。また、15℃以上になると花芽分化が抑制されるので、15℃以上にならないよう温度管理には十分注意すること。

- (18) たらき
- 1) 散布は散布むらがないよう噴口の小さい散布器を用いて入念に行うこと。
  - 2) 薬液が芽に均一にかかるよう、駒木の高さと芽の向きを揃えておくこと。
- (19) ばれいしょ
- 1) 種いも切断後の処理は薬害を生じるおそれがあるのでさけ、必ず種いもを切断せずに処理する。
  - 2) 浸漬時間が長くなったり、高濃度液に浸漬すると薬害を生じるおそれがあるので所定の浸漬時間及び使用濃度を厳守する。
  - 3) 薬剤処理した種いもは長時間ぬれたままにしておくとう芽遅延等の薬害を生じるので、風通しのよい場所ですみやかに乾燥させる。
  - 4) 種いもを切断する場合は処理した薬液が十分乾いてから行う。
  - 5) 薬剤処理した種いもは食料又は飼料には使用しない。
  - 6) 品種により本剤に対する感受性が異なるので、本剤を初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるか、自ら事前に薬効及び薬害を確認した上で使用すること。
- (20) 花き
- 1) 処理濃度、量、回数は必要最小限にとどめ、徒長や軟弱化を防ぐため栽培管理に十分注意すること。
  - 2) 処理の際には花蕾のある中心部めがけて噴霧すること。
  - 3) チューリップ
    - イ. 本剤のチューリップへの利用は促成栽培（促成栽培、半促成栽培）に使用する。
    - ロ. 処理時期は草丈が7～20 cm（適期：10～15 cm）の頃である。
    - ハ. ジベレリン溶液は筒状の葉の中心部に1回、又は2回（7日おき）滴下する。滴下量が多くなると薬液があふれ、通常溜まる量が過剰分に引きずられて流出し、効果が不安定になるので注意する。1.0 mlの滴下であふれる場合は、保持される最大の量に止める。
    - ニ. 滴下前に灌水をすませ、筒状の葉の中の水はあらかじめ取り除いておく。滴下後は2～3日灌水をひかえる。
    - ホ. 品種により、感受性の差異がみられるので、感受性の強い品種（ウィリアムピット、ゴールデンハーバスト等）を選んで使用するのが有利である。
  - 4) さつき
 

さつきの未開花苗に使用する場合は、茎の伸長状況を見ながら対象品種の成木の開花時期を参考にして、使用時期を決めること。
  - 5) りんどう
    - イ. 処理は葉が十分濡れる程度に散布すること。
    - ロ. 使用時期の定植直前は苗姿3～4対葉期を目安にすること。
    - ハ. 切株散布する場合は、翌年の萌芽に影響を与えないよう散布後は生育期間を十分に確保すること。
  - 6) ソリダゴ
    - イ. 高温期の処理では効果を示さないので、低温期（11～3月頃）に処理すること。
    - ロ. 処理により草丈および切り花重がやや低下することがある。
  - 7) さくら(切り枝促成栽培)
 

休眠が深い時期の処理は効果が出にくいので、自発休眠の浅い時期に処理すること。

### [3] 使用上の注意

適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬効薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。  
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。使用後は洗眼すること。
- (2) 使用の際は農薬用マスクなどを着用すること。作業後はうがいをする。
- (3) 浸漬処理に使用する際は不浸透性手袋などを着用すること。

### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----  
通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----  
直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

登録番号 第 21051 号

## ジャスモメート®液剤

●エチレンによる成熟促進とは別の経路でアントシアニン（リンゴの紅色色素）の生合成を活性化し、着色を促進します。

特長： ●散布樹の果実品質は自然収穫果実と比較しても糖度、酸度、味、果肉硬度、日持ち性はほとんど変わりません。

●トマト、ミニトマトのアザミウマ類忌避にも効果があります。

ジャスモメートは日本ゼオン(株)の登録商標です。

有効成分	プロヒドロジャスモン・・・5.0%	包装	500ml×20
性状	淡黄色澄明液体	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	第四類第二石油類

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	使用目的	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	プロヒドロジャスモンを含む農薬の総使用回数
りんご	着色促進	500倍	200～700 L/10a	収穫開始予定日の 30～25日前 但し、 収穫14日前まで	1回	立木全面散布	1回
ぶどう(巨峰)	着色促進	500倍	200～700 L/10a	満開後35～40日 但し、収穫30日前 まで	1回	果房散布	1回
かんきつ (温州みかん、清見、日向夏、ワシントンネブルを除く)	花芽抑制による樹勢の維持	2000倍	50～250 L/10a	収穫直後～収穫約 1ヶ月後	1回	立木全面散布又は 枝別散布(ジベレリン 10ppm液に加用)	1回
	落果防止		50～100 L/10a	開花始め～満開10 日後		散布(ジベレリン 10ppm液に加用)	
清見	花芽抑制による樹勢の維持	2000倍	50～250 L/10a	収穫直後～収穫約 1ヶ月後	1回	立木全面散布又は 枝別散布(ジベレリン 10ppm液に加用)	1回
	落果防止	1000～ 2000倍	50～100 L/10a	開花始め～満開10 日後		散布(ジベレリン 10ppm液に加用)	
ワシントンネブル	花芽抑制による樹勢の維持	2000倍	50～250 L/10a	収穫直後～収穫約 1ヶ月後	1回	立木全面散布又は 枝別散布(ジベレリン 10ppm液に加用)	1回
日向夏	花芽抑制による樹勢の維持	2000倍	50～250 L/10a	収穫直後～収穫約 1ヶ月後	1回	立木全面散布又は 枝別散布(ジベレリン 10ppm液に加用)	1回

作物名	使用目的	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	プロヒドロジヤスモンを含む農薬の総使用回数
温州みかん (苗木)	花芽抑制による樹勢の維持	1000～2000倍	50～250 L/10a	11～1月	1回	立木全面散布又は枝別散布(ジベレリン10ppm液に加用)	3回以内
温州みかん	花芽抑制による樹勢の維持	1000～2000倍	50～250 L/10a	収穫直後～収穫約1ヶ月後	1回	立木全面散布又は枝別散布(ジベレリン10ppm液に加用)	3回以内
	落果防止		50～100 L/10a	開花始め～満開10日後		散布(ジベレリン10ppm液に加用)	
	浮皮軽減		100～400 L/10a	収穫予定日の3ヶ月前 但し、収穫45日前まで		果実散布(ジベレリン1～5ppm液に加用)	

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	プロヒドロジヤスモンを含む農薬の総使用回数
トマト	アザミヤカ類	500倍	100～300L/10a	収穫前日まで	5回以内	散布	5回以内
ミニトマト	アザミヤカ類	500倍	100～300L/10a	収穫前日まで	5回以内	散布	5回以内

#### 使用上の注意事項

- (1) 調製した希釈液は、長時間放置せずに使い切ること。
- (2) 希釈液を調製した容器及び使用器具は使用后十分に洗っておくこと。
- (3) 容器等は圃場等に放置せず、適正な方法で処理をすること。
- (4) ぶどうの着色促進の目的で使用するときの注意
  - 1) 果粉の溶脱を生じるおそれがあるので、薬液が着きすぎないように、散布後、棚の針金または枝を軽く振って余分の薬液を落とすこと。
- (5) りんごの着色促進の目的で使用するときの注意
  - 1) 着色不良となりやすい地域で使用する。
  - 2) 効果の確認されている品種は、紅玉、シナノスイート、ジョナゴールド、つがる、ふじ、である。
  - 3) 上記品種以外の品種に対して本剤を初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるか、自ら事前に薬効及び薬害を確認した上で使用すること。
- (6) かんきつの花芽抑制による樹勢の維持目的で、ジベレリンと混用して使用する時の注意
  - 1) 衰弱した樹勢のものに使用しても期待した効果が得られない場合があるので、衰弱した樹には使用しないこと。
  - 2) 低温が続いた年(極端な低温の年)または花芽の減少が予測される裏年の場合は、遅い時期の低濃度処理を心がけること。
  - 3) 使用時に、必ずジベレリン10ppm液に加用すること。
  - 4) 散布の際は薬液が葉先からしずくとなり落下する程度に散布すること。
  - 5) ジベレリン剤の使用上の注意事項を厳守すること。
- (7) かんきつの落果防止目的で、ジベレリンと混用して使用する時の注意
  - 1) 本剤処理により生理落果が軽減され着果が安定するが、品種等により本剤に対する感受性が異なるので、初めての品種等に使用する場合は最寄りの指導機関の指導を仰ぐか自ら事前に薬効薬害を確認した上で使用する。
  - 2) 果面の粗滑や果皮の厚さ等果実品質への影響が懸念される場合があるので、使用時期、濃度は守る。
  - 3) ジベレリン剤の使用上の注意事項を厳守すること。

- (8) 温州みかんの浮皮軽減目的で、ジベレリンと混用して使用する時の注意
- 1) 着色が遅延することがあるため、貯蔵用の温州みかんで使用すること。
  - 2) 使用時に、必ずジベレリン1~5ppm液に加用すること。
  - 3) 果実表面に充分付着するようにしっかりと散布すること。
  - 4) 登録範囲内の高濃度の処理により薬斑が残ることがあるため、貯蔵用・樹上完熟用の果実で使用すること。
  - 5) ジベレリン剤の使用上の注意事項を厳守すること。
- (9) トマト・ミニトマトのアザミウマ類防除の目的で使用する時の注意
- 1) 本剤は、アザミウマ類に対する忌避作用により防除効果を示す。アザミウマ類に対する直接的な殺虫作用がないので、本剤を発生初期より散布することが望ましい。
  - 2) 十分な効果を得るため、複数回散布することが望ましい。
- (10) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。  
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 散布の際は農薬用マスクなどを着用すること。  
作業後はうがいをするとともに洗眼すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

危険物第4類第二石油類に属するので火気に十分注意すること。

#### 貯蔵上の注意事項-----

火気をさけ、直射日光があたらない低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 13662 号

## グラミン®

特長：

- 濡れ性を改善する展着剤（スプレッダー）です。
- 散布液の表面張力を下げて湿展性を改善することで作物の濡れ性や病害虫への付着性を改善し、農薬の作用を最大限引き出します。
- 水に展着剤→乳剤→フロアブルや水和剤の順番で溶かしてゆくのが一般的です。

グラミンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル(化管法第1種)・・・10.0% ポリナフチルメタンスルホン酸ナトリウム・・・6.0%	包装	500ml×20
性状	淡褐色粘稠液体	有効年限	5年
毒性	普通物※	危険物	指定可燃物 (可燃性液体類 2m <sup>3</sup> )

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

### 【適用作物と使用方法】

2013年10月9日付内容

適用農薬名	作物名	使用量	使用方法
有機リン剤、カーバメート剤等の殺虫剤、殺ダニ剤、銅剤、硫黄剤、抗生物質剤等の殺菌剤	稲、麦、キャベツ等の薬液のつきにくい作物	1～3mL/散布液 10 <sup>リットル</sup>	添加
	はくさい、きゅうり、ばれいしよ、果樹等の薬液のつきやすい作物	0.5～1mL/散布液 10 <sup>リットル</sup>	

### 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 所定量の本剤を直接散布液に加え、十分かき混ぜてから使用すること。あるいは本剤を加えた水で散布液を調製してもさしつかえない。
- (3) 本剤は自動車、壁などの塗装面に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないように注意すること。

### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

誤飲などのないよう注意すること。

### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用法ではその該当がない。

### 貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

登録番号 第 10972 号

# グラミン®S

●濡れ性を改善する展着剤（スプレッダー）です。

●グラミンより更に泡立ちを抑えました。

特長： ●散布液の表面張力を下げて湿展性を改善することで作物の濡れ性や病害虫への付着性を改善し、農薬の作用を最大限引き出します。

●水に展着剤→乳剤→フロアブルや水和剤の順番で溶かしてゆくのが一般的です。

グラミンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル(化管法第1種)・・・ 15.0% ポリナフチルメタンスルホン酸ナトリウム・・・4.0% ポリオキシエチレン脂肪酸エステル・・・5.0%	包装	500ml×20
その他化管法該当成分	ブチルセロソルブ(化管法第1種)・・・19%		
性状	淡黄褐色透明液体	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用作物と使用方法】

2013年10月9日付内容

適用農薬名	作物名	使用量	使用方法
有機リン剤、カーバメート剤などの殺虫剤、殺ダニ剤、銅剤、硫黄剤、抗生物質剤などの殺菌剤	稲、麦、キャベツ等の薬液のつきにくい作物	1～3mL/散布液 10 <sup>㍓</sup> ㍓	添加
	はくさい、きゅうり、ばれいしょ、果樹等の薬液のつきやすい作物	0.5～1mL/散布液 10 <sup>㍓</sup> ㍓	

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 所定量の本剤を直接散布液に加え、十分かきまぜてから散布すること。あるいは本剤を加えた水で散布液を調製してもさしつかえない。
- (3) 泡の消えにくい薬剤（ポリオキシシン剤など）には多目に加えること。
- (4) 本剤は自動車、壁などの塗装面に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないように注意すること。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

誤飲などのないよう注意すること。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。



貯蔵上の注意事項

---

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

# 農薬の使用にあたって

人間社会には、社会生活を営んでいくためのルール・マナーがあります。農薬の場合も、適正に、そして安全に使用するためのマナーがあります。農薬工業会では、下記の標語「農薬適正使用運動」を掲げ、農薬の正しい使用・取扱・保管を呼びかけています。

## 農薬適正使用運動

1. 使用前にラベルや説明書をよく読んでください。
2. 住宅地等周辺では近隣に使用計画を事前連絡してください。
3. 農薬用マスク・手袋など保護具を着用してください。
4. 圃場の外に飛散・流出しないように使用してください。
5. 使用履歴を記帳してください。
6. 食品と区別し、カギをかけて保管してください。
7. 空容器などの廃棄物は正しく処分してください。

## 農 薬 工 業 会

農薬は農産物の安定供給、労働力の節減のために必要な資材です。農薬を安全に、そして正しく適正に使用していただくためには、4つの安全事項

- |                  |                   |
|------------------|-------------------|
| ①使用者に対する安全       | ②農作物に対する安全（薬害の防止） |
| ③農産物に対する安全（残留農薬） | ④環境に対する安全         |

を常に心掛けておかねばなりません。

これら4つの安全を守るために、「農薬は正しく使いましょうー10のチェックポイント」を守るように注意しましょう。



# 農薬は正しく使いましょう

## －10のチェックポイント－

1. 農薬はラベルや説明書をよく読み、正しく使いましょう。  
(記載以外には使用しない)
2. 体調がすぐれないときや、妊娠中の方は散布作業を避けましょう。
3. 防除機具は故障や不備のないよう事前に点検・整備しましょう。
4. 農薬を使うときは、マスク・手袋など防護具を着用しましょう。
5. 散布は風の少ない、朝夕の涼しいときに行ないましょう。
6. 風向きや作物の高さなどを考えて、農薬が体にかからないよう散布しましょう。
7. 環境保全のため、農薬が圃場の外に飛散・流出しないよう注意を払いましょう。
8. 農薬の空容器は圃場などに放置せず、正しく処分しましょう。
9. 農薬は食品と区別し、カギをかけて保管しましょう。  
(小児の手の届く所には置かない)
10. 作業後は、うがい・入浴をして、衣服を着替えましょう。

## 農薬のラベルにおける注意喚起マーク（絵表示）

注意・警告マーク		【例】  効果・薬害等の注意		【例】  安全使用上の注意	
注意事項のタイトルの前に表示					
行為の強制マーク〔例〕			行為の禁止マーク〔例〕		
マークの種類	マークと注意事項		マークの種類	マークと注意事項	
マスク着用		散布時は、農薬用マスク（保護マスク）を着用する。	河川流出禁止 （魚介類注意）		魚毒性等…水産動植物（魚類）に強い影響あり。河川、湖沼、海域等に飛散・流入しないよう注意。養殖池周辺での使用はさける。
保護メガネ着用		散布液調製時は、保護メガネを着用し、薬液が眼に入らないように注意する。	桑園付近使用禁止 （カイコ注意）		蚕に長期間毒性があるので、付近に桑園がある所では使用しない。
不浸透性手袋着用		散布時は、不浸透性手袋を着用する。	かぶれる人使用禁止 （カブレ注意）		かぶれやすい人は作業しない。施用した作物などに触れない。
不浸透性防除衣着用		散布時は、不浸透性防除衣を着用する。	ハチ巣箱への散布禁止 （ミツバチ注意）		ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しない。
厳重保管		必ず農薬保管庫（箱）に入れ、カギをかけて保管する。	施設内使用禁止		ハウス内や噴霧のこもりやすい場所では使わない。
その他		その他、行為の強制を喚起する事項の場合	飲用禁止		飲めませんまたは飲用禁止。 *飲料用包装と酷似しているもののみ記載する。

# 農薬の安全使用について

農薬の保管は食品類と区別するとともに、農薬に対する知識のない子供や第三者が、直接触れたり持ち出すことのないよう、事故防止のために十分な配慮が必要です。

## (1) 保管庫には必ずカギをかける

倉庫や納屋などに専用の保管場所を定め、必ずカギをかけて保管します。少量の場合は手製の保管庫でもよいが、必ずカギをかけるようにします。

## (2) 保管場所は冷涼・乾燥した所

農薬は直射日光に当たったり、湿気の多い所などに置いておくと、分解して効果が低下するだけでなく、分解物が薬害をおこす原因になることがあります。保管場所は、日光の当たらない、涼しい、乾燥した所を選びましょう。

火気注意とか、火気厳禁と表示されている農薬は火気をさけて保管します。なお、粉・粒剤や水和剤などは、地面や床に直接置くと湿気で品質が損なわれる恐れがあるので、棚などに分類、整理して保管します。また、地震のことも考え、割れやすいものは高いところに置かないなどの配慮も必要です。

## (3) 容器の移し換えは絶対にしない

農薬を牛乳ビンやその他の容器へ移し換えたりすると、誤用、誤飲などの事故につながるので、絶対にやめましょう。

## (4) 除草剤は他の農薬と離して保管

除草剤は他の農薬と混ざったり、過って散布すると作物に対して思わぬ薬害を引き起こすことがあります。除草剤は他の農薬と区分して保管しましょう。

## (5) 有効期限に注意する

農薬のラベルや外装には、その農薬の最終有効年月が表示されています。有効期限が切れても、その日から直ちに効果がなくなるわけではないが、有効年月に注意し、有効期限内に古いものから使用するようにしましょう。

## (6) その他の注意

保管に当たって、特別に注意を要する農薬は、ラベルに保管方法が示されていますので、表示に従って保管しましょう。

## 2. 漏出時の措置

粉剤・粒剤・水和剤等固体、紛体の場合、保護具を着用し、掃き取り他の容器に回収する。

乳剤・液剤等液体の場合、保護具を着用し、砂・ウエス等に吸収させ他の容器に回収する。

## 3. 廃棄上の注意

粉剤・粒剤等固体・原液散布剤の場合、使用量に合わせ秤量し、使い切る。空袋(空容器)は圃場などに放置せず適切に処理する。

乳剤・液剤・水和剤等の希釈する薬剤の場合、使用量に合わせ薬液を調整し、使い切る。空容器(空ビン)は圃場などに放置せず、3回以上水洗し適切に処理する。洗浄水はタンクに入れる。

## 4. 輸送上の注意

移送取扱いは、ていねいに行い、転倒・破損する事のないようにする。

## 5. 火災時の措置

火災時は適切な保護具を着用し、水・消火剤等で消火に努める。(但し、乳剤は水を使用してはならない。)

## 【農薬全般に関する相談室のご案内】

農薬総合相談室（略称「農薬でんわ相談」）

電話番号 03-5209-2512

開業時間 午前9時から午後5時まで

（土、日、祝祭日及び年末年始は休み）

開業時間以外は留守番電話で伺います。

住 所 〒101-0047 東京都千代田区内神田3-3-4 全農薬ビル5 階

W E B <http://www.midori-kyokai.com>

農薬について知りたいこと、困っていることなど、  
何でもご相談ください。正確な、新しい情報をもとに、  
わかりやすく親切をモットーにお答えします。

## 【中毒の緊急問い合わせ】

公益財団法人 日本中毒情報センター

散布作業中や散布後に異常を感じた場合は、直ちに医師の手当てを受けてください。  
処置法などで不明なことは、医師から下記に電話してお尋ねください。

中毒110 番	一般市民専用 （無料電話）	医療機関専用有料電話 （1件につき2,000 円）
大 阪 （365日、24時間対応）	072-727-2499	072-726-9923
つ く ば （365日、9時～21時のみ対応）	029-852-9999	029-851-9999